仙台市文化財調査報告書第421集

長町駅東遺跡第5・6・7・9次調査

―仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅸ―

［第1分冊］

2014年3月

仙台市教育委員会

独立行政法人　都市再生機構

長町駅東遺跡第 5・6・7・9 次調査区位置関係（2008 年撮影・東から）

第 5 次調査区古墳時代～古代遺構面全景（東から）

第９次調査区古墳時代～古代遺構面全景（南西から）

SA6 材木列跡中央～北部（北西から）

SI316A 竪穴住居跡全景（南から）

SI271 竪穴住居跡カマド全景（南西から）

SI286 出土土師器

SI275 出土須恵器

序　　文

仙台市の文化財保護行政につきまして、日頃から多大なご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

市内には、旧石器時代から近世に至るまで数多くの埋蔵文化財が残されております。当教育委員会といたしましても、先人たちが残してきた貴重な文化遺産を保護し、活用を図りながら市民の宝として、次の世代に引き継いでいくことは、これからの「まちづくり」に欠かせない大切なことであると考えております。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国の史跡指定を受けた「仙台郡山官衙遺跡群　郡山官衙遺跡　郡山廃寺」の西側で都市整備が進められている「仙台市あすと長町土地区画整理事業」地内で実施された長町駅東遺跡第５・６・７・９次発掘調査の成果をまとめたものです。区画整理事業の施行に伴う報告書としては９冊目となります。発掘調査は平成 10 年から開始され、古墳時代後期から奈良時代としては、東北地方でも最大級の集落が事業地内にあったことが明らかになり、郡山遺跡に営まれた官衙との関係が考えられております。

特に今回の調査では、集落の南辺が河川跡により形成された２～３ｍの比高差をもつ低地形と、河川跡に沿うように造られた材木列により区画された可能性が考えられました。集落北辺での第３・４次調査では、大溝と材木列による区画施設の変遷と集落の入口と考えられる部分を確認しており、今回確認した材木列は、その方向が北辺の区画施設の方向とほぼ同じ方向であることから、おおよその集落の規模と構造が判明してきました。

ここに報告する調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、平成 23 年３月 11 日の東日本大震災から、早くも３年の月日が過ぎました。仙台市では震災からの復興に向け、「ともに、前へ　～３・11 からの再生～」を掲げて、復興計画を進めているところです。そうした中、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成 26 年３月

仙台市教育委員会
教育長　上田 昌孝

例　　言

1．本書は、「仙台市あすと長町土地区画整理事業」に伴い仙台市教育委員会が実施した長町駅東遺跡における発掘調査のうち、平成 17 ～ 20（2005 ～ 2008）年度に実施した第 5・6・7・9 次調査の成果を収録したものである。
2．本書の作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社シン技術コンサルが行った。
3．本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 荒井 格、工藤 信一郎、水野 一夫、庄子 裕美、結城 慎一の監理の下、遺構図トレース、出土遺物の登録・実測およびトレース・写真撮影、執筆、編集に至るまでの作業を、株式会社シン技術コンサルが担当した。
4．本書の執筆・図版作成は、第 1・3 章を工藤 信一郎、第 2・4 ～ 5 章第 3 節（1）と第 4 節、第 7 章第 2・3 節を吉澤 学（株式会社シン技術コンサル、以下同じ）が担当した。また、第 5 章第 3 節（2）については相澤 正信、第 7 章第 1 節については原 真がそれぞれ担当した。なお、遺構事実記載については糸川 淳子、遺物事実記載のうち土師器・須恵器については中井 勝治、弥生土器については小川 長導の協力を得た。また、遺物写真撮影は小池 雄利亜、編集は吉澤 学が担当した。
5．自然科学分析については、株式会社古環境研究所に分析・執筆を依頼した。
6．石材鑑定は、打製石器・磨製石器・石製品について相澤 正信が荒井 格の指導を受けながら行った。礫石器については、柴田 徹（有限会社考古石材研究所）が行った。
7．発掘調査および整理作業に際し、以下の方々から多くの御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（五十音順、敬称略）

（故）今泉 隆雄　岡田 茂弘　（故）工藤 雅樹　桑原 滋郎　進藤 秋輝　須藤 隆　松本 秀明　宮本 長次郎　渡部 育子

8．本書の調査成果については、これまでに現地説明会資料や古代城柵官衙遺跡検討会などにおいてその内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
9．調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

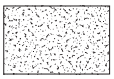
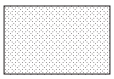
凡　　例

1．第 1 図・第 2 図の地形図は、それぞれ国土地理院発行「長町」1：10,000、「仙台」1：25,000 を使用した。
2．遺構図中の座標値は、日本測地系「平面直角座標第 X 系」を基準としている。図中および本文記載の方位北は全て座標北を基準としている。
3．グリッド番号は、調査時のものをそのまま使用した。このため一部で番号の重複が生じているほか、一桁番号も 1 ～ 9（第 5 次）、01 ～ 09（第 6・9 次）と異なる。遺物観察表の「グリッド」の文字は「G」と略した。
4．本書中の土色の記載には『新版 標準土色帖』2000 年版・2005 年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
5．断面図中の数値は、海抜高度（T・P）を示す。
6．調査において検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに番号を付した。

SA：材木列跡　SB：掘立柱建物跡　SD：溝跡　SE：井戸跡　SI：竪穴住居跡・竪穴遺構　SK：土坑
SM：小溝状遺構　SX：性格不明遺構　Pit：ピット

7．竪穴住居跡における主軸方位の算出および壁面呼称の基準については、『西台畑遺跡第 1・2 次調査』（仙台市教委 2010）に準じた。

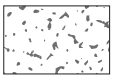
8．遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。これ以外については、個別に凡例を図中に示した。

柱痕跡　 焼土範囲　  炭化物範囲　  柱穴底面の変色範囲

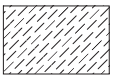
9．出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別ごとにアラビア数字を付した。ただし、石器については分類にあたりKのあとに小文字アルファベットを付し、その分類種別を使用している。

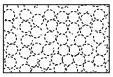
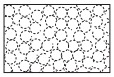
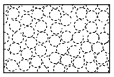
A：縄文土器　B：弥生土器　C：土師器（非ロクロ）　D：土師器（ロクロ）　E：須恵器　G：平瓦　I：陶器
J：磁器　Ka：打製石器　Kb：磨製石器　Kc：礫石器　Kd：石製品　L：木製品　N：金属製品　P：土製品

10. 出土遺物の登録は石器・石製品以外は調査年度ごとに行った。これにより登録番号の重複が生じたため、遺物観察表と写真図版には調査年次を併記した。石器・石製品は、調査年次を問わず全て通し番号で登録した。
11. 遺物実測図の縮尺は1/3を基本としているが、これと異なる場合もあり、全ての図中にスケールを付した。
12. 石器･石製品の実測図には､展開した面に小文字アルファベットを付した。文章中と遺物観察表における「a面、b面、c面…」の記載は、該当する遺物実測図の付された各面に該当する。
13. 土器および土製品の実測図に使用したスクリーントーンは､以下の通りである。これ以外のトーンについては、個別に凡例を図中に付した。

黒色範囲　 釉薬範囲　  溶解物付着範囲

14. 土器類の器種・部位呼称、計測位置については、『西台畑遺跡第1・2次調査』（前掲）に準じた。
15. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。これ以外のトーンについては、個別に凡例を図中に付した。

 節理　 磨面　 火ハネ　 二重パティナ

 敲打痕(強)　  敲打痕(中)　  敲打痕(弱)

16. 石器・石製品の実測図における計測位置は、『西台畑遺跡第1・2次調査』（前掲）に準じた。
17. 土器・石器・石製品を除く遺物実測図に使用したスクリーントーンについては、そのつど図中に示した。
18. 遺構・遺物観察表内の（ ）付計測値は、土器類の各径については推定、その他については残存値を示す。
19. 掲載した遺物写真の縮尺は、遺物実測図に準じた。これと異なるものについては、個別に縮尺を示した。
20. 本文中の「灰白色火山灰」（山田･庄子1980）は､これまでの仙台市域の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田a火山灰(To-a)」と考えられている。降下年代は現在､西暦915年と推定されており､本書もこれに従う。

山田一郎・庄子貞雄1980「宮城県に分布する灰白色火山灰」『宮城県多賀城跡調査研究所年報1979』
仙台市教育委員会2000『沼向遺跡第1～3次調査』仙台市文化財調査報告書第241集
小口雅史2003「古代東北の広域テフラをめぐる問題－十和田aと白頭山（長白山）を中心に－」
『日本律令の展開』吉川弘文館

21. 本書では、これまでのあすと長町地区の報告書等にもとづいて遺構の時期を6期に区分した。その詳細については下記の通りである。

1期：5世紀後半（引田式期）　2a期：6世紀初頭～前葉
2b期：6世紀中葉～末葉（住社式期）　3期：7世紀初頭～前葉（栗囲式期古段階）
4期：7世紀中葉～後葉（郡山Ⅰ期官衙期）　5期：7世紀末葉～8世紀初頭（郡山Ⅱ期官衙期）
6a期：8世紀前葉　6b期：8世紀中葉～末葉

第 1 分冊　目 次

巻頭カラー写真
序文
例言
凡例

第 1 章　調査に至る経過 …… 1
第 1 節　調査事由 …… 1
第 2 節　調査要項 …… 2
（1）調査体制 …… 2
（2）調査報告書作成体制 …… 2
第 2 章　遺跡の立地と環境 …… 4
第 1 節　長町駅東遺跡の立地と地形 …… 4
第 2 節　周辺の遺跡と歴史的環境 …… 4
第 3 章　調査の方法と概要 …… 6
第 1 節　調査の方法 …… 6
（1）調査区の設定 …… 6
第 2 節　調査概要 …… 6
（1）調査経過 …… 6
（2）測量基準・図面の作成 …… 6
（3）遺物の取り上げ・調査記録の作成 …… 6
（4）遺構登録番号 …… 6
（5）調査報告書作成作業 …… 6
第 4 章　基本層序 …… 8
第 5 章　検出遺構と出土遺物 …… 17
第 1 節　中世～近世の遺構と遺物 …… 17
（1）掘立柱建物跡 …… 17
（2）小溝状遺構群 …… 18
（3）溝跡 …… 36
（4）井戸跡 …… 46
（5）土坑 …… 52
（6）ピット …… 60
（7）性格不明遺構 …… 76
第 2 節　古墳時代～古代の遺構と遺物 …… 81
（1）竪穴住居跡・竪穴遺構 …… 81
（2）掘立柱建物跡 …… 251
（3）材木列跡 …… 257

（4）溝跡 …… 257
（5）土坑 …… 274
（6）ピット …… 276
（7）性格不明遺構 …… 280
（8）河川跡・低位面トレンチ …… 283
（9）遺構外出土遺物 …… 286

第２分冊　目次

第５章　検出遺構と出土遺物
第３節　弥生時代の遺構と遺物
（1）弥生土器
（2）石器
第４節　縄文時代の遺構と遺物
（1）縄文土器
第６章　自然科学分析
第７章　総括
第１節　古墳時代～古代の出土土器について
第２節　古墳時代～古代の集落について
（1）竪穴住居跡
（2）特殊建物跡
（3）掘立柱建物跡
（4）材木列跡
（5）集落の変遷
第３節　まとめ
（1）縄文～弥生時代
（2）古墳時代～古代
（3）中世～近世

引用・参考文献
写真図版
報告書抄録

第 1 分冊 挿図目次

第 1 図　遺跡位置図…… 3
第 2 図　長町駅東遺跡と周辺の遺跡…… 5
第 3 図　調査区配置図・グリッド配置図 …… 7
第 4 図　基本層序観察位置図…… 9
第 5 図　基本層序(1) ……11・12
第 6 図　基本層序(2) ……13・14
第 7 図　基本層序(3) ……15・16
第 8 図　SB29掘立柱建物跡 …… 17
第 9 図　Ⅳ層上面遺構配置図(中世～近世)…19・20
第 10 図　小溝状遺構群各群配置図…… 21
第 11 図　小溝状遺構群A・B群平面図 ……23・24
第 12 図　小溝状遺構群A・B群断面図 ……25・26
第 13 図　小溝状遺構群C群 …… 29
第 14 図　小溝状遺構群A・C群出土遺物 …… 30
第 15 図　小溝状遺構群D～F群 …… 31
第 16 図　小溝状遺構群G～I群　H・I群断面図 … 33
第 17 図　小溝状遺構群G群断面図 …… 34
第 18 図　小溝状遺構群J・K群 …… 35
第 19 図　SD179溝跡出土遺物…… 36
第 20 図　溝跡(中世～近世)(1) …… 38
第 21 図　溝跡(中世～近世)(2) ……39・40
第 22 図　溝跡(中世～近世)(3) …… 41
第 23 図　溝跡(中世～近世)(4) ……43・44
第 24 図　溝跡(中世～近世)(5) …… 45
第 25 図　溝跡(中世～近世)(6) ……47・48
第 26 図　溝跡(中世～近世)(7) ……49・50
第 27 図　井戸跡・SE7出土遺物 …… 51
第 28 図　土坑(中世～近世)出土遺物…… 55
第 29 図　土坑(中世～近世)(1) …… 56
第 30 図　土坑(中世～近世)(2) …… 57
第 31 図　土坑(中世～近世)(3) …… 58
第 32 図　土坑(中世～近世)(4) …… 59
第 33 図　土坑(中世～近世)(5) …… 60
第 34 図　ピット(中世～近世)出土遺物…… 60
第 35 図　ピット(中世～近世)第5・6次調査 …61・62
第 36 図　ピット(中世～近世)第7次調査(1) … 67
第 37 図　ピット(中世～近世)第7次調査(2) … 68
第 38 図　ピット(中世～近世)第9次調査(1)
……71・72
第 39 図　ピット(中世～近世)第9次調査(2) … 74
第 40 図　ピット(中世～近世)第9次調査(3) … 75
第 41 図　SX24性格不明遺構・出土遺物…… 76
第 42 図　SX25性格不明遺構・出土遺物…… 77
第 43 図　SX26性格不明遺構 …… 78
第 44 図　SX27性格不明遺構出土遺物 …… 78
第 45 図　SX27・SX30～32・SD194・SK232
性格不明遺構…… 80
第 46 図　SI4竪穴住居跡 …… 82
第 47 図　Ⅳ層上面遺構配置図(古墳時代～古代)
……83・84
第 48 図　SI7竪穴住居跡 …… 85
第 49 図　SI8竪穴住居跡 …… 86
第 50 図　SI8竪穴住居跡出土遺物(1)…… 87
第 51 図　SI8竪穴住居跡出土遺物(2)…… 88
第 52 図　SI262竪穴住居跡・出土遺物 …… 89
第 53 図　SI263竪穴遺構・出土遺物 …… 90
第 54 図　SI264竪穴住居跡・出土遺物 …… 92
第 55 図　SI265竪穴住居跡 …… 93
第 56 図　SI265竪穴住居跡出土遺物(1) …… 94
第 57 図　SI265竪穴住居跡出土遺物(2) …… 95
第 58 図　SI266竪穴住居跡 …… 97
第 59 図　SI267竪穴住居跡 …… 98
第 60 図　SI267竪穴住居跡出土遺物 …… 99
第 61 図　SI268竪穴住居跡 ……101
第 62 図　SI268竪穴住居跡出土遺物(1) ……102
第 63 図　SI268竪穴住居跡出土遺物(2) ……103
第 64 図　SI269竪穴住居跡 ……104
第 65 図　SI270竪穴住居跡 ……105
第 66 図　SI271竪穴住居跡 ……107
第 67 図　SI271竪穴住居跡出土遺物 ……108
第 68 図　SI272竪穴住居跡・出土遺物 ……109
第 69 図　SI273竪穴住居跡・出土遺物 …… 111
第 70 図　SI274竪穴住居跡 ……112
第 71 図　SI275竪穴住居跡(1) ……113

第 72 図　SI275竪穴住居跡(2)・出土遺物(1) … 114
第 73 図　SI275竪穴住居跡出土遺物(2) …… 115
第 74 図　SI276竪穴住居跡出土遺物 …… 116
第 75 図　SI276竪穴住居跡 …… 117
第 76 図　SI277竪穴住居跡 …… 118
第 77 図　SI277竪穴住居跡出土遺物(1) …… 119
第 78 図　SI277竪穴住居跡出土遺物(2) …… 120
第 79 図　SI278竪穴遺構 …… 121
第 80 図　SI279竪穴遺構 …… 122
第 81 図　SI280竪穴住居跡 …… 123
第 82 図　SI281竪穴住居跡(1) …… 124
第 83 図　SI281竪穴住居跡(2)・出土遺物 …… 125
第 84 図　SI283竪穴住居跡(1) …… 127
第 85 図　SI283竪穴住居跡(2) …… 128
第 86 図　SI283竪穴住居跡(3)・出土遺物(1) … 130
第 87 図　SI283竪穴住居跡出土遺物(2) …… 131
第 88 図　SI283竪穴住居跡出土遺物(3) …… 132
第 89 図　SI283竪穴住居跡出土遺物(4) …… 133
第 90 図　SI284竪穴住居跡 …… 134
第 91 図　SI284竪穴住居跡出土遺物 …… 135
第 92 図　SI285竪穴住居跡・出土遺物 …… 136
第 93 図　SI286竪穴住居跡 …… 137
第 94 図　SI286竪穴住居跡出土遺物 …… 138
第 95 図　SI287竪穴住居跡・出土遺物 …… 140
第 96 図　SI288竪穴住居跡(1) …… 141
第 97 図　SI288竪穴住居跡(2) …… 142
第 98 図　SI288竪穴住居跡出土遺物(1) …… 144
第 99 図　SI288竪穴住居跡出土遺物(2) …… 145
第100図　SI288竪穴住居跡出土遺物(3) …… 146
第101図　SI289竪穴住居跡・出土遺物 …… 147
第102図　SI290竪穴住居跡 …… 148
第103図　SI310竪穴住居跡 …… 150
第104図　SI310竪穴住居跡出土遺物(1) …… 151
第105図　SI310竪穴住居跡出土遺物(2) …… 152
第106図　SI311竪穴住居跡 …… 153
第107図　SI311竪穴住居跡出土遺物 …… 154
第108図　SI312竪穴住居跡(1) …… 155
第109図　SI312竪穴住居跡(2) …… 156
第110図　SI312竪穴住居跡(3)・出土遺物(1) … 157
第111図　SI312竪穴住居跡出土遺物(2) …… 158
第112図　SI313竪穴住居跡 …… 159
第113図　SI313竪穴住居跡出土遺物 …… 160
第114図　SI314竪穴住居跡(1) …… 161
第115図　SI314竪穴住居跡(2) …… 162
第116図　SI314竪穴住居跡出土遺物(1) …… 163
第117図　SI314竪穴住居跡出土遺物(2) …… 164
第118図　SI315竪穴住居跡 …… 166
第119図　SI315竪穴住居跡出土遺物(1) …… 167
第120図　SI315竪穴住居跡出土遺物(2) …… 168
第121図　SI316A竪穴住居跡(1)・
　　SI316B竪穴住居跡(1) …… 169
第122図　SI316A竪穴住居跡(2) …… 170
第123図　SI316A竪穴住居跡出土遺物(1) …… 172
第124図　SI316A竪穴住居跡出土遺物(2) …… 173
第125図　SI316B竪穴住居跡(2) …… 174
第126図　SI316B竪穴住居跡(3) …… 175
第127図　SI316B竪穴住居跡出土遺物 …… 176
第128図　SI317竪穴住居跡・出土遺物 …… 178
第129図　SI318竪穴住居跡 …… 180
第130図　SI318竪穴住居跡出土遺物(1) …… 181
第131図　SI318竪穴住居跡出土遺物(2) …… 182
第132図　SI319竪穴住居跡 …… 183
第133図　SI319竪穴住居跡出土遺物(1) …… 185
第134図　SI319竪穴住居跡出土遺物(2) …… 186
第135図　SI320竪穴住居跡 …… 187
第136図　SI320竪穴住居跡出土遺物 …… 189
第137図　SI321竪穴住居跡 …… 191
第138図　SI321竪穴住居跡出土遺物(1) …… 192
第139図　SI321竪穴住居跡出土遺物(2) …… 193
第140図　SI321竪穴住居跡出土遺物(3) …… 194
第141図　SI322竪穴住居跡 …… 195
第142図　SI322竪穴住居跡出土遺物(1) …… 196
第143図　SI322竪穴住居跡出土遺物(2) …… 197
第144図　SI323竪穴住居跡・出土遺物 …… 198
第145図　SI324竪穴住居跡(1) …… 200
第146図　SI324竪穴住居跡(2)・出土遺物(1) … 201
第147図　SI324竪穴住居跡出土遺物(2) …… 202
第148図　SI325竪穴住居跡(1) …… 204

第149図　SI325竪穴住居跡(2) …… 205
第150図　SI325竪穴住居跡出土遺物 …… 206
第151図　SI326竪穴住居跡 …… 207
第152図　SI326竪穴住居跡出土遺物 …… 208
第153図　SI327竪穴住居跡(1) …… 209
第154図　SI327竪穴住居跡(2) …… 210
第155図　SI327竪穴住居跡出土遺物 …… 211
第156図　SI328竪穴住居跡(1) …… 212
第157図　SI328竪穴住居跡(2)・出土遺物 …… 213
第158図　SI329竪穴住居跡 …… 214
第159図　SI329竪穴住居跡出土遺物 …… 215
第160図　SI330竪穴住居跡 …… 217
第161図　SI330竪穴住居跡出土遺物 …… 218
第162図　SI331竪穴住居跡・出土遺物 …… 219
第163図　SI332竪穴住居跡 …… 220
第164図　SI332竪穴住居跡出土遺物 …… 221
第165図　SI333竪穴住居跡 …… 223
第166図　SI333竪穴住居跡出土遺物(1) …… 224
第167図　SI333竪穴住居跡出土遺物(2) …… 225
第168図　SI334竪穴住居跡 …… 226
第169図　SI335竪穴住居跡出土遺物 …… 227
第170図　SI335竪穴住居跡 …… 228
第171図　SI336竪穴住居跡 …… 229
第172図　SI337竪穴住居跡 …… 231
第173図　SI338竪穴住居跡・出土遺物 …… 232
第174図　SI339竪穴住居跡 …… 233
第175図　SI339竪穴住居跡出土遺物(1) …… 234
第176図　SI339竪穴住居跡出土遺物(2) …… 235
第177図　SI340竪穴住居跡 …… 236
第178図　SI340竪穴住居跡出土遺物 …… 238
第179図　SI341竪穴住居跡 …… 238
第180図　SI342竪穴住居跡 …… 239
第181図　SI343竪穴住居跡 …… 240
第182図　SI344竪穴住居跡・出土遺物 …… 241
第183図　SI345竪穴住居跡 …… 241
第184図　SI346竪穴住居跡 …… 242
第185図　SI347竪穴住居跡 …… 243
第186図　SI348竪穴住居跡・出土遺物 …… 244
第187図　SI349竪穴住居跡・出土遺物 …… 246
第188図　SI350竪穴住居跡 …… 247
第189図　SI351竪穴住居跡 …… 247
第190図　SI352竪穴住居跡・出土遺物 …… 248
第191図　SI353竪穴住居跡・出土遺物 …… 250
第192図　SB37掘立柱建物跡出土遺物 …… 252
第193図　SB37掘立柱建物跡 …… 253
第194図　SB38掘立柱建物跡 …… 255
第195図　SB39掘立柱建物跡 …… 256
第196図　SA6材木列跡 …… 259・260
第197図　溝跡(古墳時代～古代)(1) …… 261・262
第198図　溝跡(古墳時代～古代)(2) …… 263
第199図　溝跡(古墳時代～古代)(3) …… 265
第200図　SD6・7溝跡出土遺物・
SD180溝跡出土遺物(1) …… 266
第201図　SD180溝跡出土遺物(2) …… 267
第202図　SD182溝跡出土遺物・
SD205溝跡出土遺物(1) …… 269
第203図　SD205溝跡出土遺物(2) …… 270
第204図　SD224・266溝跡出土遺物 …… 271
第205図　土坑(古墳時代～古代)(1) …… 275
第206図　土坑(古墳時代～古代)(2) …… 276
第207図　ピット(古墳時代～古代)・出土遺物
…… 277・278
第208図　性格不明遺構(古墳時代～古代)・
SX28出土遺物 …… 281
第209図　河川跡・低位面トレンチ配置図 …… 284
第210図　河川跡・低位面トレンチ
層序柱状模式図…… 285
第211図　河川跡・低位面トレンチ出土遺物 …… 286
第212図　遺構外出土遺物(第5次調査) …… 286
第213図　遺構外出土遺物(第6次調査) …… 287
第214図　遺構外出土遺物(第9次調査)(1) …… 288
第215図　遺構外出土遺物(第9次調査)(2) …… 289
第216図　遺構外出土遺物(第9次調査)(3) …… 290

第 1 章　調査に至る経過

第 1 節　調査事由（第 1 図）

1. 調査事由

長町駅東遺跡は、仙台市南部の太白区長町地区に計画された「仙台市あすと長町土地区画整理事業」の施行に伴い実施された確認調査により所在が明らかになった遺跡である。

区画整理事業の施行に伴う発掘調査は、長町駅東遺跡・西台畑遺跡及び郡山遺跡の一部を対象として、平成 10 年から継続して発掘調査が行われ、7 世紀中頃から 8 世紀始めの時期を中心とする竪穴住居跡が総数 500 軒近く発見されている。

また、郡山遺跡では、昭和 54 年以来継続して発掘調査が行われ、陸奥国府である多賀城に先行する 2 時期の官衙（Ⅰ期官衙→Ⅱ期官衙）があったことが明らかになっている。

長町駅東遺跡の調査は、平成 13 年から事業計画地内の道路計画地を対象に調査を開始したが、第 8 次・12 次調査は、区画整理事業に伴う調査ではなく、事業地内に計画された建築計画に伴い調査を実施している。長町駅東遺跡の調査では、これまでに 300 軒近い竪穴住居が発見されているが、特に第 3・4 次調査（平成 15・16 年）では、集落の北部を区画している施設と考えられる材木列 1 列、一本柱列 4 列、通路状遺構を伴う大溝跡が確認され、区画施設の変遷が明らかになっている。

今回報告する 40 街区での調査は、想定集落域の南部で行われたものである。4 次に亘る調査のうち、第 5・6・7 次調査は、40 街区の事業計画が事業地内での移転用地として戸建住宅用地に用途変更されたことに伴い、新たに計画された街区内道路部分を対象とした調査である。

第 9 次調査は、40 街区の宅地造成工事にあたり工法上切土施工となる部分の取扱いについて、都市再生機構と協議を行い、発掘調査を実施することになった。区画整理事業に伴う基本協定は、事業地内の公共用地（道路）を対象としたものであったことから、新たに 40 街区での民有換地を対象とした協定を締結し、野外調査及び発掘調査報告書の作成を行うこととなった。

長町駅東遺跡年度別調査成果一覧

調査年度	調査次数	調査区	調査成果	発掘調査報告書
平成13年	1次調査	1区・2A区・2B区	住居跡24軒・掘立柱建物跡2棟・溝跡・土坑	仙台市文化財調査報告書第324集 2008年3月
平成14年	2次調査	2B区下層調査・3A区	住居跡53軒・掘立柱建物跡3棟・溝跡・土坑 / 土器埋設遺構・包含層（弥生）	仙台市文化財調査報告書第324集 2008年3月
平成15年	3次調査	3A区下層調査・3B区	住居跡68軒・掘立柱建物跡5棟・区画施設 / 住居跡・性格不明遺構・土器埋設遺構・包含層（弥生）	仙台市文化財調査報告書第340集 2009年3月
平成16年	4次調査	4区	住居跡78軒・掘立柱建物跡18棟・区画施設 / 土壙墓・土器棺墓・土器埋設遺構・包含層・水田跡（弥生）	仙台市文化財調査報告書第315集 2007年3月
平成17年	5次調査	5A区（40街区・道路）	住居跡11軒・溝跡・土坑・河川跡 / 包含層（弥生）	本書所収
平成18年	6次調査	5B区（40街区・道路）	住居跡21軒・溝跡・土坑・河川跡 / 包含層（弥生）	本書所収
平成19年	7次調査	5C区（40街区・道路）	掘立柱建物跡1棟・溝跡・土坑・井戸跡・河川跡	本書所収
	8次調査	41街区・マンション建設	溝跡・河川跡	仙台市文化財調査報告書第331集 2008年3月
平成20年	9次調査	40街区民有換地（宅地造成）	住居跡48軒・掘立柱建物跡3棟・材木列跡1条・溝跡 / 包含層（弥生）	本書所収
	10次調査	37街区（保留地）	住居跡17軒・掘立柱建物跡7棟・区画施設・溝跡 / 竪穴遺構・土坑・包含層（弥生）	仙台市文化財調査報告書第422集 2014年3月
	11次調査	環状線	住居跡1軒・溝跡・土坑	仙台市文化財調査報告書第422集 2014年3月
平成23年	12次調査	28街区（店舗建築）	溝跡	仙台市文化財調査報告書第399 集 2012 年3月
平成25年	13次調査	28街区（店舗付駐車場建築）	住居跡29軒・掘立柱建物跡3棟・区画施設・溝跡・土坑・井戸跡	仙台市文化財調査報告書第423集 2014年3月

第 2 節　調査要項

遺跡名称：長町駅東遺跡（宮城県遺跡地名番号 01449、仙台市遺跡登録番号 C-317）

所 在 地：宮城県仙台市太白区長町六丁目地内ほか

調査原因：仙台市あすと長町土地区画整理事業

（1）調査体制

平成 17 年度（第 5 次調査）

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係　　工藤 信一郎　文化財教諭 今野 秀治　文化財教諭 佐々 信行

調査組織：有限会社山武考古学研究所　　主任調査員 長谷川 一郎　調査員 松田 政樹

調査期間：2005 年（平成 17 年）9 月 13 日～ 2005 年（平成 17 年）11 月 30 日

調査面積：990㎡

平成 18 年度（第 6 次調査）

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係　　工藤 信一郎　文化財教諭 佐々 信行

調査組織：株式会社シン技術コンサル　　主任調査員 吉澤 学　調査員 松本 欣士

調査期間：2006 年（平成 18 年）7 月 10 日～ 2006 年（平成 18 年）11 月 19 日

調査面積：1,680㎡

平成 19 年度（第 7 次調査）

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係　　工藤 信一郎　主浜 光朗

調査組織：株式会社シン技術コンサル　　主任調査員 吉澤 学　調査員 長谷川 徹

調査期間：2007 年（平成 19 年）5 月 28 日～ 2007 年（平成 19 年）8 月 27 日

調査面積：3,340㎡

平成 20 年度（第 9 次調査）

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係　　工藤 信一郎　文化財教諭 早川 潤一　文化財教諭 藤田 雄介

調査組織：株式会社シン技術コンサル　　主任調査員 吉澤 学　調査員 小林 朋恵

調査期間：2008 年（平成 20 年）4 月 16 日～ 2008 年（平成 20 年）12 月 25 日

調査面積：2,600㎡

（2）調査報告書作成体制

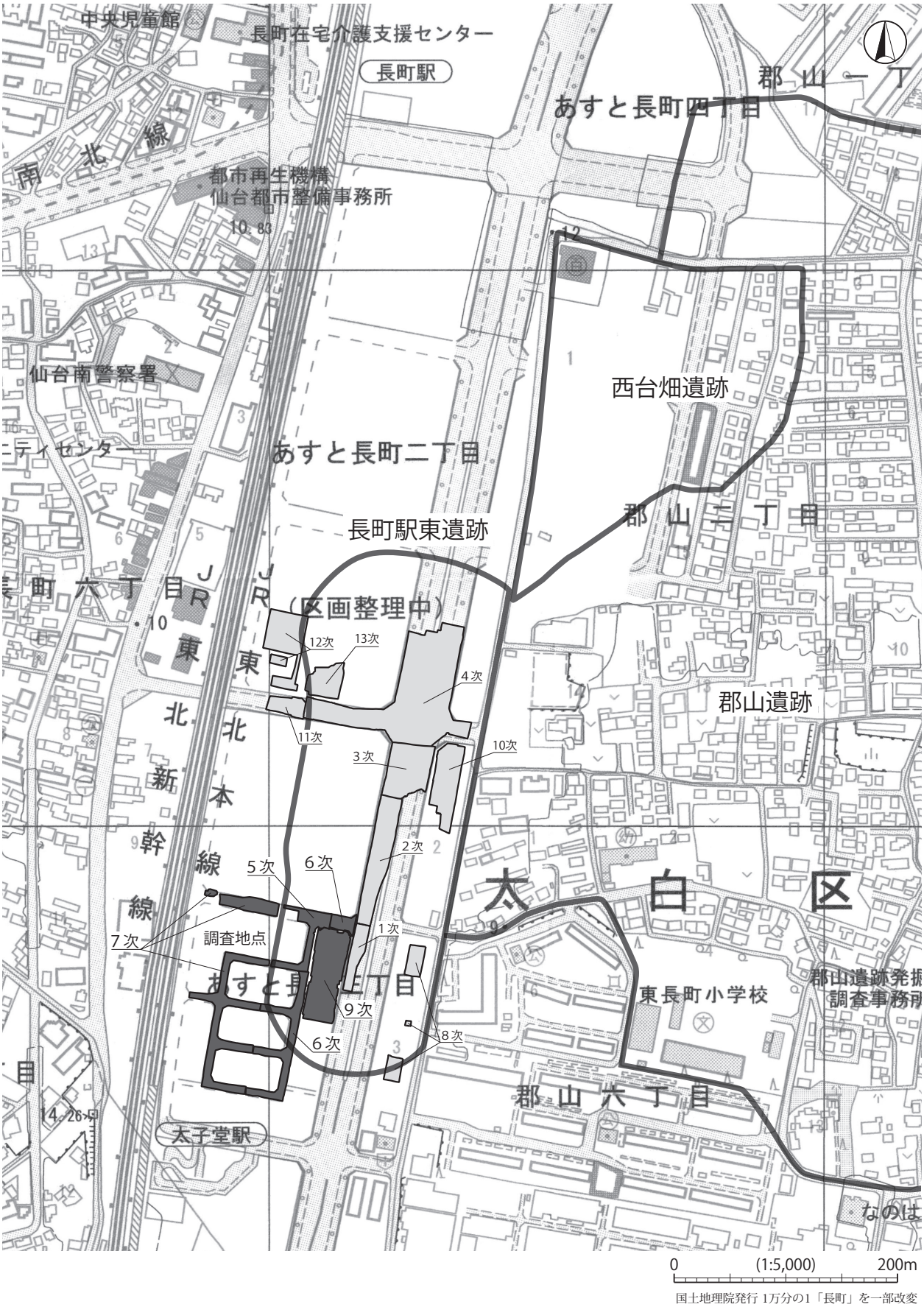
平成 25 年度

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係　荒井 格　工藤 信一郎　水野 一夫　庄子 裕美　結城 慎一

整理組織：株式会社シン技術コンサル　　主任調査員 吉澤 学　相澤 正信　　調査員 原 真

調査補助員 糸川 淳子　中井 勝治

整理期間：2013 年（平成 25 年）5 月 7 日～ 2014 年（平成 26 年）3 月 14 日



国土地理院発行 1万分の1「長町」を一部改変

第 1 図　遺跡位置図

第 2 章　遺跡の立地と環境（第 2 図）

第 1 節　長町駅東遺跡の立地と地形

長町駅東遺跡は仙台市の南東部に位置し、太白区長町六丁目付近に広がる遺跡である。その範囲は東西 200 m、南北 480 mを測り、総面積は 90,000㎡以上にも及ぶ。遺跡地西側には JR 東北本線が接し、東側 900 m程には国道 4 号線バイパスが南北に走る。地形的には広瀬川と名取川によって形成された、標高 10 m前後の後背湿地と自然堤防とが複雑に入り組む場所であり、背後に青葉山丘陵をひかえた「郡山低地」の一角に該当する。広瀬川・名取川の現河道までの距離は、広瀬川が北に約 1.5km、名取川が南に約 1.5km である。両河川は南東約 2.5km の位置で合流し、最終的に太平洋へと注ぐ。遺跡地の東側には多賀城創建以前の官衙として機能した郡山遺跡が接し、その一部は平成 18 年に「仙台市郡山官衙遺跡群　郡山官衙遺跡　郡山廃寺跡」として国の史跡指定を受けている。長町駅東遺跡はこの郡山遺跡の官衙に関連する集落遺跡と考えられており、北東に接する西台畑遺跡と併せ、竪穴住居跡の総数 480 軒を超える一連の大集落を構成するものである。

第 2 節　周辺の遺跡と歴史的環境

長町駅東遺跡の位置する広瀬川および名取川下流域の歴史的環境について、簡単に触れておく。詳細については『富沢遺跡　第 30 次調査報告書Ⅰ（縄文～近世編）』（仙台市教委 1991 年）や、『郡山遺跡発掘調査報告書　総括編』（同 2005 年）などを参照されたい。

旧石器時代では、富沢遺跡から約 2 万年前（後期旧石器時代）の焚火跡や石器ブロックのほか、埋没林など多量の植物遺体が発見されている。氷河期の自然環境を今に伝える、世界的にも例の少ない遺跡である。

縄文時代では、下ノ内浦遺跡で早期末葉の竪穴住居跡や落とし穴などが検出されている。前期には人々の生活圏が上流域の丘陵地に移り、三神峯遺跡で検出された前期前葉の竪穴住居跡などの例から、丘陵上の広範囲を占める大規模な集落の存在も想定される。中期以降は郡山低地の土地利用が本格化し、特に後期には多くの集落が営まれる。具体例では下ノ内遺跡の中期中葉～末葉の竪穴住居跡、後期前葉の配石墓・土器埋設遺構、大野田遺跡の後期前半の環状集石群などが知られ、郡山遺跡や西台畑遺跡でも後期中葉～後葉および晩期後葉の遺物が出土している。

弥生時代では、中期から湿地を利用した水稲耕作が開始され、富沢遺跡のほか西台畑遺跡などで水田跡が検出されている。また、本遺跡では中期の竪穴住居跡・水田跡・土器埋設遺構が検出され、当時の生活様相を知る上での良好な一括資料となっている。富沢遺跡や山口遺跡では、後期の水田跡も検出されている。

古墳時代では、前期末の前方後円墳、遠見塚古墳（全長 110 m）が当地域の首長墳としては最古である。また、大野田古墳群では中期後半～後期に及ぶ造墓活動が行われ、最大規模の春日社古墳には革盾が副葬されていた。集落は、南小泉遺跡など広瀬川左岸にて前期～後期の集落が展開するが、終末期には右岸にも本遺跡および西台畑遺跡といった、区画施設を伴う大規模な集落が出現する。郡山Ⅰ期官衙の造営という、新たな政策に呼応しての事と思われる。これらの官衙・集落との関連性が指摘される墳墓として、青葉山丘陵の各所に横穴墓が構築され、向山横穴墓群と総称されている。

奈良・平安時代時代では、7 世紀末葉～ 8 世紀初頭に多賀城創建以前の陸奥国府と考えられる郡山Ⅱ期官衙が成立する。Ⅱ期官衙は、その構造や設計基準の類似性から、設計段階での藤原京との関連性が考えられている。周辺の集落もⅡ期官衙の盛衰に連動し、多賀城成立以降は閑散とした状況となる。

中世以降では、交通の要衝に屋敷が造営され、王ノ壇遺跡や富沢遺跡などの例から窺うことができる。また、伊達政宗が仙台城完成まで居住したと伝えられる北目城跡や、政宗が晩年を過ごしたとされる若林城跡などがある。

国土地理院発行 数値地図 1/25,000「仙台」を一部改変

No.	遺跡名	種　別	立　地	時　代	No.	遺跡名	種　別	立　地	時　代
1	長町駅東遺跡	官衙関連・集落跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	22	矢来遺跡	散布地	自然堤防	古墳・古代
2	郡山遺跡	官衙跡・寺院跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	23	河原越遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
3	西台畑遺跡	官衙関連・集落跡	自然堤防	縄文～中世	24	砂押Ⅱ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
4	北目城跡	城館・集落跡	自然堤防	縄文～近世	25	中柵西遺跡	包含地	自然堤防	弥生～平安
5	富沢遺跡	集落跡・水田跡	後背湿地	旧石器～近世	26	神柵遺跡	包含地	自然堤防	縄文～平安
6	泉崎浦遺跡	包含地	自然堤防	縄文・奈良・平安	27	砂押Ⅰ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
7	山口遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良・平安	28	遠見塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
8	下ノ内浦遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	29	南小泉遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	弥生～中世
9	元袋遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	30	若林城跡	城館	自然堤防	中世・近世
10	大野田遺跡	墓域	自然堤防	縄文・弥生	31	茂ヶ崎城跡	城館	丘陵	中世
11	袋前遺跡	集落跡・官衙	自然堤防	縄文～平安	32	兜塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
12	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	33	一塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
13	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	34	二塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
14	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	35	砂押古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
15	鳥居塚古墳	古墳	自然堤防	古墳	36	土手内横穴墓群	横穴古墳・窯跡	丘陵斜面	古墳
16	王ノ壇遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	37	愛宕山横穴墓群B・C地点	横穴古墳	丘陵斜面	古墳・古代
17	的場遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	38	大年寺山横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
18	篭ノ瀬遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	39	宗禅寺横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
19	欠ノ上Ⅰ遺跡	水田跡	自然堤防	平安・中世	40	茂ヶ崎横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳・古代
20	欠ノ上Ⅱ遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	41	二ツ沢横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
21	欠ノ上Ⅲ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安	42	大野田官衙遺跡	官衙関連	自然堤防	古墳～奈良

第２図　長町駅東遺跡と周辺の遺跡

第３章　調査の方法と概要

第１節　調査の方法

（1）調査区の設定（第３図）

第５次調査は、あすと長町 40 街区北側に計画された大通り線との接続道路と街区内区画道路の一部を対象とした。第６・７次調査は、街区内区画道路の東側を６次調査、西側を７次調査とした。第９次調査は、宅地造成工事に伴い切土施工となる範囲を対象とした。９次調査時には、あすと長町大通り線の供用が開始されており、街区内道路も供用開始はされていないものの完成しており、これらに影響しないように若干の緩衝地帯を設け調査区を設定した。

第２節　調査概要

（1）調査経過

第５次調査において、調査区西側に河川跡を確認したことから東西方向のトレンチを設定し、河川堆積の断面確認を行った。また、遺構確認面が河川跡に向かい南西方向に緩やかに傾斜していく状況が確認された。

第６次調査では、大通り線との接続道路部分の調査を行い、竪穴住居等を確認している。しかし、南側の区画道路部分の調査では、北西方向から南東方向に延びる河川跡を境として 2m 前後の比高差をもって調査面が確認された。この低位面からは古代の遺構は確認されなかった。翌年の第７次調査北側調査区でも、複数の河川跡が重複する状況を確認し、南側の調査区は第６次調査同様に低位面での調査であり、古代の遺構は確認されなかった。

９次調査区では５次調査区から延びる河川跡を確認し、遺構確認面が南西方向に緩やかに傾斜していく状況が確認された。竪穴住居跡など古代の遺構が重複して検出されているが、河川跡に並行して延びる材木列を確認したことから、この部分が長町駅東遺跡集落の南辺となる可能性が考えられる。

（2）測量基準・図面の作成

測量は、「平面直角座標系第Ⅹ系」を基準としている。５× 10 ｍを単位とする平面区配図を作成した。各次調査毎に、調査区北西端を始まりとし、南東端までの番号を付して遺構図面の作成を行った。なお７・９次調査区が重複する区画については、先行調査の番号に新たに番号を付し、（）で表示している。また、第７次調査では調査区が南北に長いことから、先行調査と混同しないように北西端を 201 とし、南東端の 295 までの番号を付して遺構図面の作成を行った。本文中で遺構の所在位置を示す場合は、この番号をグリッド番号として使用している。

（3）遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺物の取り上げにあたっては、測量基準とした平面区配図の番号をグリッド名として利用した。特に必要と認められた遺物については、出土状態図を作成し、位置とレベルを記録している。

整理作業の段階で、各遺構について遺構観察カードを作成し、事実記載及び調査時の所見を記録している。

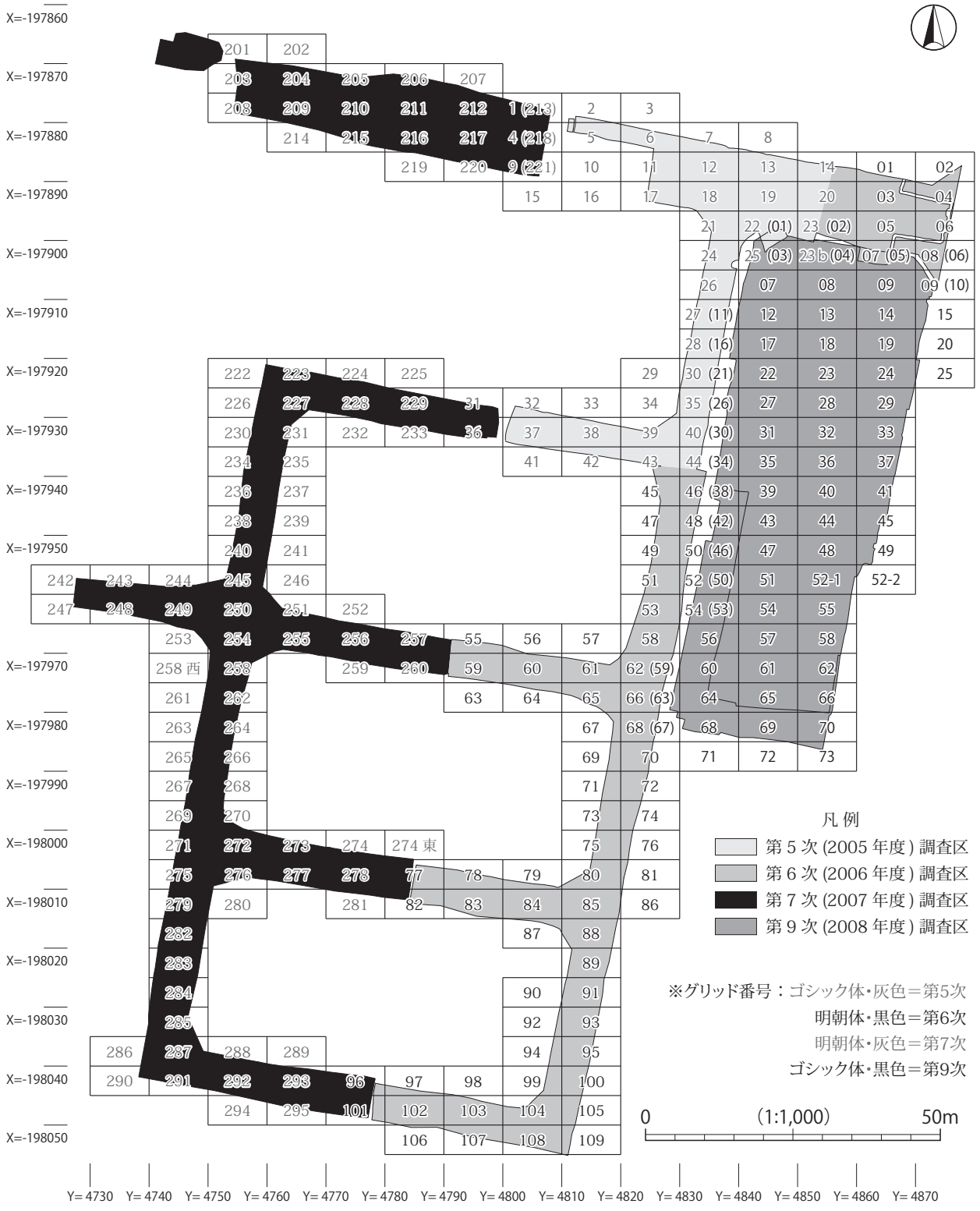
（4）遺構登録番号

遺構登録番号については、長町駅東遺跡調査開始時からの通し番号とし、小ピットのみ調査区毎に１番から番号を付した。隣接する調査区で検出されていた遺構と同一遺構と判断した場合は、先行調査の遺構番号とした。

（5）調査報告書作成作業

野外調査終了後の調査報告書作成に伴う整理作業のうち、出土遺物の基礎整理（水洗・注記・接合・修復）と遺物実測の一部（弥生土器の拓本、断面実測）を仙台市が行い、その後報告書作成に向けた整理作業を業務委託し、仙台市太白区中田に所在する株式会社シン技術コンサル東北支店で行った。出土遺物の登録・実測図作成、遺物図版・遺構図版・写真図版の作成及び編集・原稿執筆等を行い、その間必要に応じて整理作業内容の確認・協議を

行っている。特に、剥片石器・弥生土器・土師器・須恵器の実測図及びデジタルトレース及び各種図版については、仙台市あすと長町関係遺跡発掘調査事務所において点検を行った。



第 3 図　調査区配置図・グリッド配置図

第 4 章　基本層序（第 4 ～ 7 図）

基本層序の観察は、各次調査区においてそれぞれの調査区壁面で行った。長町駅東遺跡は、かつて旧国鉄時代の貨物ヤードが存在していた場所にあり、その経緯から削平や盛土といったヤード造成時の地形の改変が著しい。このため調査区内においても遺構検出面に撹乱が点在する状況ではあったが、幸い大掛かりな削平は免れており、基本層序の観察は比較的容易であった。その観察結果であるが、本書では 4 年次にわたる記録をまとめて報告するため、比較的参考となる記録を抜粋して掲載する。また、掲載にあたって層の照合作業など再整理を行ったため、一部の層名を変更していることを断っておきたい。掲載対象とした観察面は A・B・D ～ G の調査区壁面、C・H のトレンチ壁面の合計 8 面である。A セクションは第 9 次調査、B・D セクションは第 6 次調査、C セクションは第 5 次調査、E ～ H は第 7 次調査の記録をそれぞれ掲載した。

調査区内の旧地形を概観すると、東半部が高位面、西半部が低位面となっており、1.5 m前後の比高差が認められる。高位面の標高値は遺構検出面としたⅣ層上面で 8.4 ～ 9.8 mを測り、北東から南西に向かって緩やかに傾斜している。高位面と底位面の境界付近には河川跡が検出されており、北西から南東方向へその流下の痕跡を辿ることができる。第 5 図の C セクションは、その断面を示したものである。この河川跡からは、図化できなかったが近世以降の陶磁器が少量出土しており、比較的新しい時期の河川跡と考えられる。また、第 7 図の H セクションは低位面の下層部分を断ち割ったものであり、E ～ G セクションの遺構検出面下層でも同様の状況を確認している。ただし、H セクション部分では後世の土取りのため遺構面は残存していない。なお、E ～ G セクション部分を含む遺構検出面残存部分の下層の状況については、第 5 章第 2 節の「（8）河川跡・低位面トレンチ」で報告することとしたい。

今回の調査部分における基本層序の概要は、次に示す通りである。なお、高位面の「A・B セクション」、河川跡内の「C セクション」、低位面の「D ～ G セクション」および「H セクション」は、それぞれ層相や堆積状況が異なるが、H セクションを除く 8 つのセクションについては、便宜上ローマ数字を用いて「Ⅰ～」と土層番号を付している。

A・B セクション（高位面）

基本層序は、大別してⅠ～Ⅴの 5 層に分層される。これは、従来の長町駅東遺跡の基本層序に対応する。なお、これ以下の層については下層調査で観察しており、第 2 分冊の第 5 章第 4 節にて報告したい。

Ⅰ層：近・現代の盛土と思われる層である。炭ガラや煉瓦、凝灰岩塊など様々な混入物が含まれ、B セクションでは厚さが 1 m近くにも達している。旧国鉄時代の造成に伴う層であると考えられ、点在する撹乱も同様の土で埋没している。

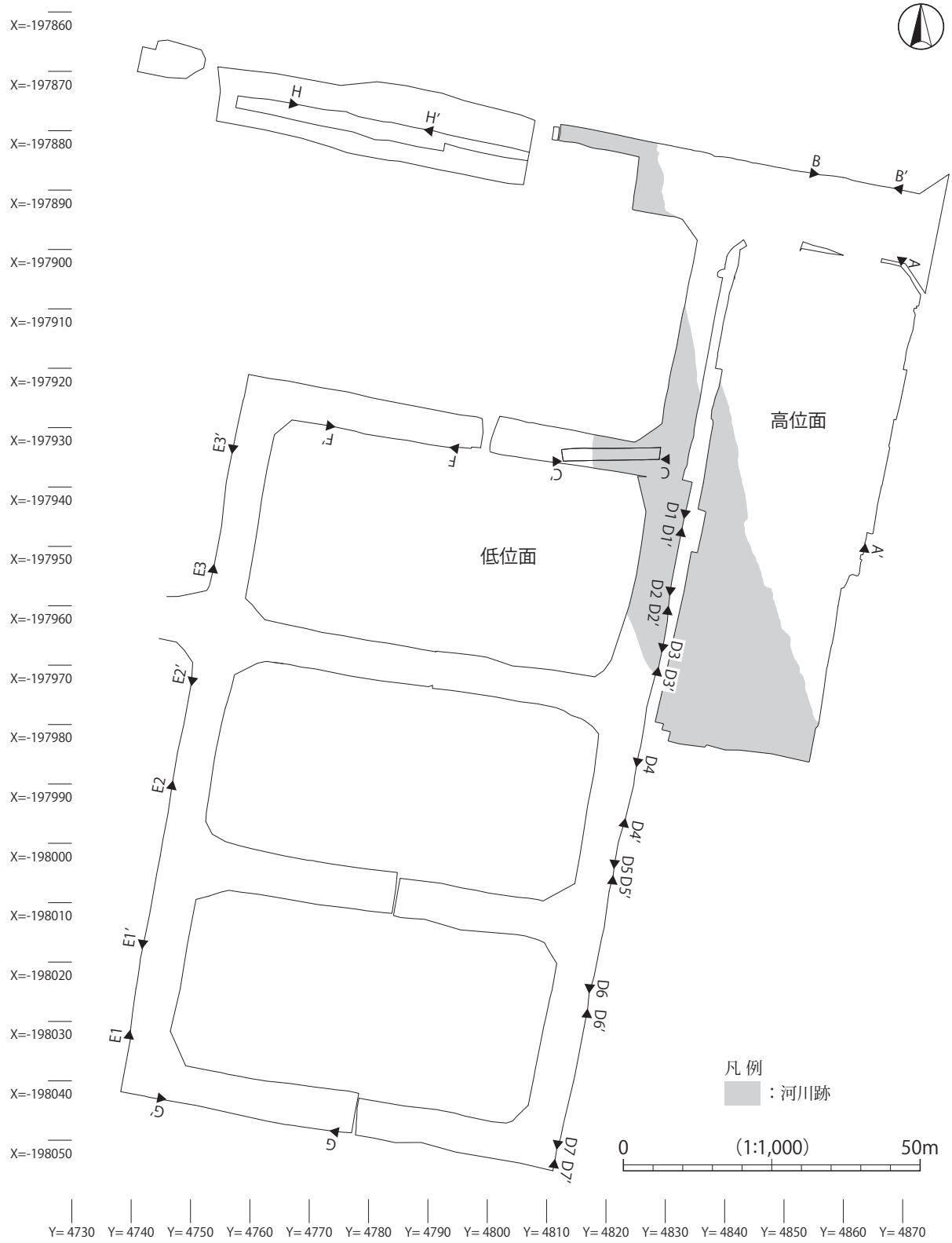
Ⅱ層：中世～近世の耕作土とみられる層で、a ～ c の 3 層に細分される。くすんだ色調を呈し、中世～近世の遺構は大半が本層に近似した堆積土で埋没している。A セクションの南半部分では残存が悪く、部分的に観察された。

Ⅲ層：古墳時代～古代の遺物包含層である。暗い色調を呈し、a・b の 2 層に細別される。古墳時代～古代の遺構はⅢa 層、Ⅲb 層それぞれの上面から掘り込まれたものが混在することが確認されている。また、下位のⅢb 層は基本層Ⅳ層との混土状を呈し、整地層である可能性が考えられる。ただし同層は部分的に堆積するのみであり、残状況は悪い。

Ⅳ層：今回、遺構検出面とした層である。黄色系の色調を呈し、a ～ c の 3 層に細別される。弥生時代の遺物包含

層であり、弥生土器や石器など多量の遺物が含まれる。特にⅣa層・Ⅳb層からの出土が多い。本層から出土した弥生土器は、いずれも中期中葉の桝形囲式に比定される。

Ⅴ層：黄色系の色調を呈す、細砂層である。a～cの3層に細分される。ただし第5図に示したのはⅤb層までであり、これより下層のⅤc層については第2分冊の第5章第4節「縄文時代の遺構と遺物」に掲載した。



第4図　基本層序観察位置図

C セクション（河川跡）

基本層序は、大別してⅠ～Ⅵの６層に分層したが、本セクションは河川跡の範囲内で観察しており、層相が他のセクションとは大きく異なる。

１～４層：河川跡の堆積土で、シルト層である。小礫や細砂、炭化物を多量に含む。

Ⅰ層：褐色を呈す砂質シルト層である。小礫や細砂を多量に含む。

Ⅱ層：シルト層で、a～ｃの３層に細分される。高位面寄りのⅡa 層は A･B セクションのⅣ層に色調が近似するが、河川跡直下のⅡb・Ⅱc 層は黒色系の色調を呈する。小礫や灰色系統のシルトブロックなどを含む。

Ⅲ層：暗色～黒色のオリーブ色を呈するシルト層で、a・ｂの２層に細分される。黒褐色シルトを含み、一部ではラミナ状に堆積する。

Ⅳ層：オリーブ黒色を呈するシルト層で、a～ｃの３層に細分される。Ⅳa 層は灰色シルトブロックを多量に含む。Ⅳb 層は、灰色シルトとの互層状を呈する。

Ⅴ層：褐灰色～灰色を呈するシルト層で、a～ｃの３層に細分される。中層のⅤb 層は「十和田ａテフラ」の二次堆積層である。下層のⅤc 層は、全体がグライ化する。

Ⅵ層：a・ｂの２層に細分され、Ⅵa 層は褐色シルト、Ⅵb 層は暗オリーブ灰色細砂である。ともに微砂を多量に含む。層の酸化や、グライ化が認められる。

D～G セクション（低位面）

河川跡より西側の、低位面に堆積する。大別してⅠ～Ⅵの４層に分層した。それぞれ A・B セクションのⅠ～Ⅳ層に近似する層もあるが、色調や土性が異なる層も認められる。

Ⅰ層：近・現代の盛土と思われる層である。a・ｂの２層に細分される。西側のＥ～Ｇセクションでは凝灰岩とみられる大振りの角礫が主体である。

Ⅱ層：くすんだ色調を呈する層で、a～ｅの５層に細分される。北西部のＦセクションでは色調が暗いシルトおよび細砂であるが、他のセクションでは黄色がかる色調を呈する。西側のＦセクションから南西側のＧセクションにかけては粘性が強い。

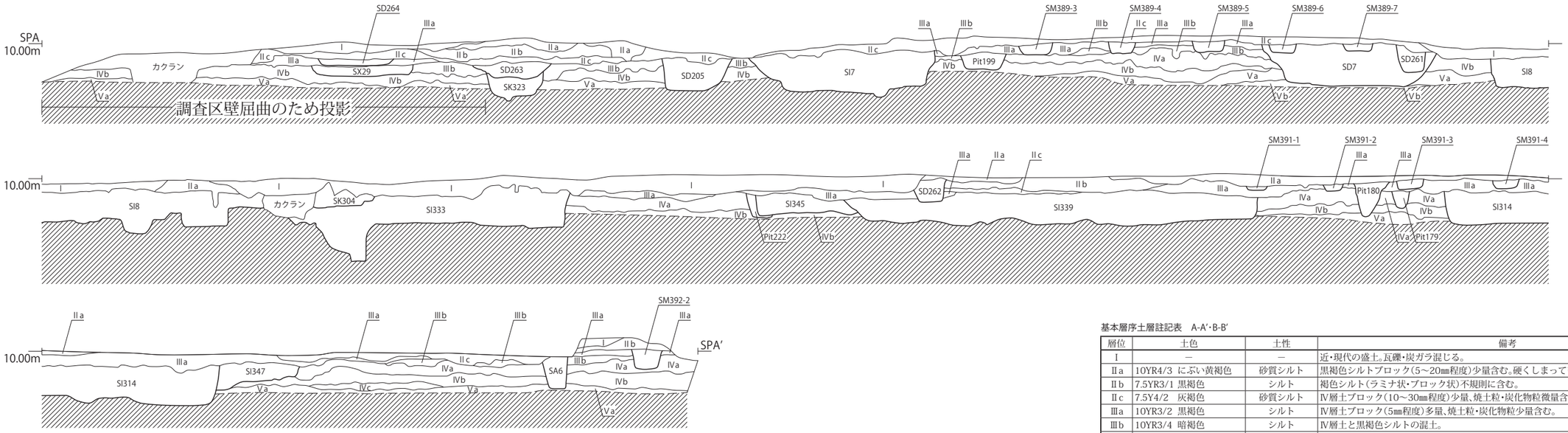
Ⅲ層：暗褐色～黒褐色など、暗い色調のシルトが主体である。a・ｂの２層に細分される。西側のＦセクションでは灰黄褐色シルトとなっており、色調が明るい。

Ⅳ層：黄色系のシルト層が主体で、全体的に砂質が強い。a・ｂの２層に細分される。南西側のＧセクションでは褐色細砂となっている。

H セクション

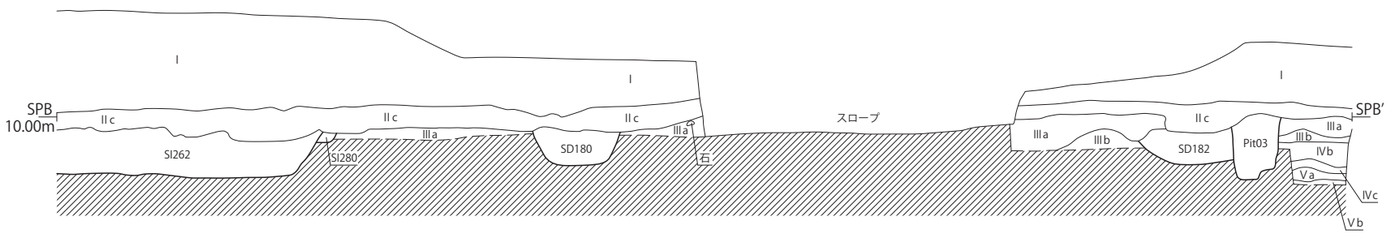
低位面の下層部分を形成する層で、大別で 10 層、細別で 26 層に分層される。いずれも河川堆積層で、東側部分では粘土質シルトの水平堆積となっているが（5・6 層）、ほかは砂・礫などが複雑に堆積している。1・2 層および 4 層はレンズ状の堆積状況を呈し、この堆積段階で一つの流路が形成されていたと考えられる。また 5・6 層の堆積部分は、変流後に湿地化した部分と思われる。

本セクションの各層の詳細については、第７図を参照されたい。



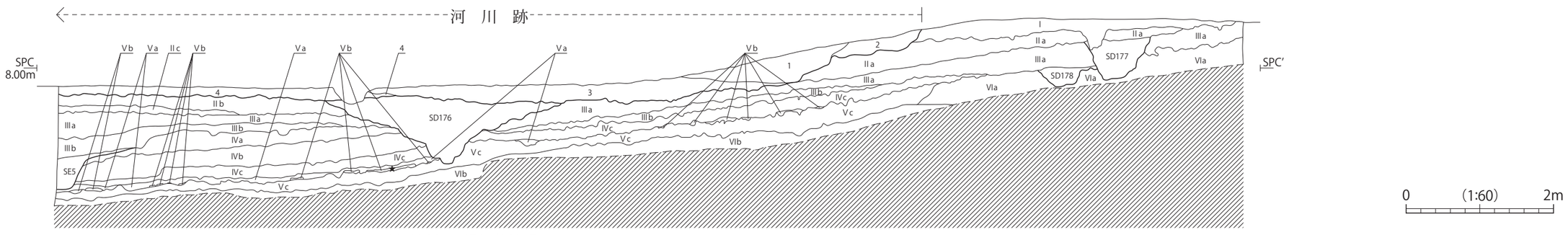
基本層序土層註記表　A-A′・B-B′

層位	土色	土性	備考
Ⅰ	—	—	近・現代の盛土。瓦礫・炭ガラ混じる。
Ⅱa	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～20㎜程度)少量含む。硬くしまっている。
Ⅱb	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルト(ラミナ状・ブロック状)不規則に含む。
Ⅱc	7.5Y4/2　灰褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
Ⅲa	10YR3/2　黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
Ⅲb	10YR3/4　暗褐色	シルト	Ⅳ層土と黒褐色シルトの混土。
Ⅳa	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～20㎜程度)多量含む。※弥生時代遺物包含層
Ⅳb	10YR6/6 明黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。下位は砂質が強い。※弥生時代遺物包含層
Ⅳc	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳb層土ブロック(5～20㎜程度)密に含む。
Ⅴa	10YR5/6 黄褐色	細砂	灰白色・灰色・褐色シルト(ラミナ状・ブロック状)少量含む。
Ⅴb	10YR5/4 にぶい黄褐色	細砂	黄褐色シルト(斑状)多量含む。



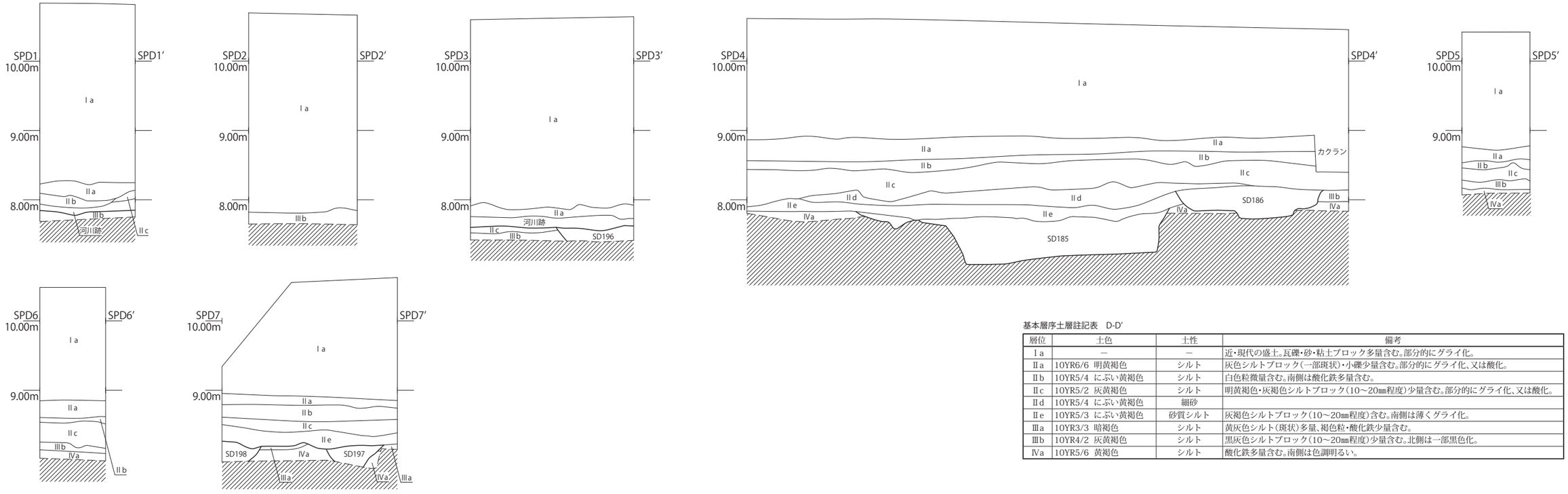
基本層序土層註記表　C-C′

層位	土色	土性	備考
1	10YR3/1　オリーブ黒色	シルト	炭化物粒(1～2㎜程度)多量含む。※河川跡堆積土
2	7.5Y3/1　オリーブ黒色	シルト	炭化物粒(1～2㎜程度)多量含む。※河川跡堆積土
3	2.5GY3/1 暗オリーブ灰色	シルト	礫(10～50㎜程度)多量含む。※河川跡堆積土
4	10YR4/4　褐色	シルト	細砂多量、礫(5～30㎜程度)少量含む。※河川跡堆積土
Ⅰ	10YR4/4　褐色	砂質シルト	礫(5～30㎜程度)・細砂多量含む。
Ⅱa	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰白色シルト(斑状)・小礫少量含む。
Ⅱb	7.5Y3/1　オリーブ黒色	シルト	礫(5～30㎜程度)多量含む。
Ⅱc	5YR3/1　黒褐色	シルト	灰オリーブ色シルトブロック(5～10㎜程度)含む。
Ⅲa	7.5Y3/2　オリーブ黒色	シルト	黒褐色粒多量含み、特に下位に集中。
Ⅲb	5GY4/1　暗オリーブ灰色	シルト	オリーブ黒色シルト粒(一部ラミナ状)多量含む。
Ⅳa	7.5Y3/1　オリーブ黒色	シルト	灰色シルトブロック(5～30㎜程度)多量含む。
Ⅳb	7.5Y3/1　オリーブ黒色	シルト	灰色シルトと黒色シルトの互層。
Ⅳc	5Y3/1　オリーブ黒色	シルト	
Ⅴa	7.5Y4/1　灰色	シルト	褐灰色シルトブロック(3～10㎜程度)含む。
Ⅴb	10YR6/1　褐灰色	シルト	灰白色火山灰(十和田aテフラ)二次堆積層。
Ⅴc	10YR4/1　褐灰色	シルト	微砂多量含む。グライ化。
Ⅵa	10YR4/4　褐色	シルト	マンガン粒・微砂・鉄(斑状)多量含む。
Ⅵb	5GY4/1　暗オリーブ灰色	細砂	微砂との混土。グライ化。



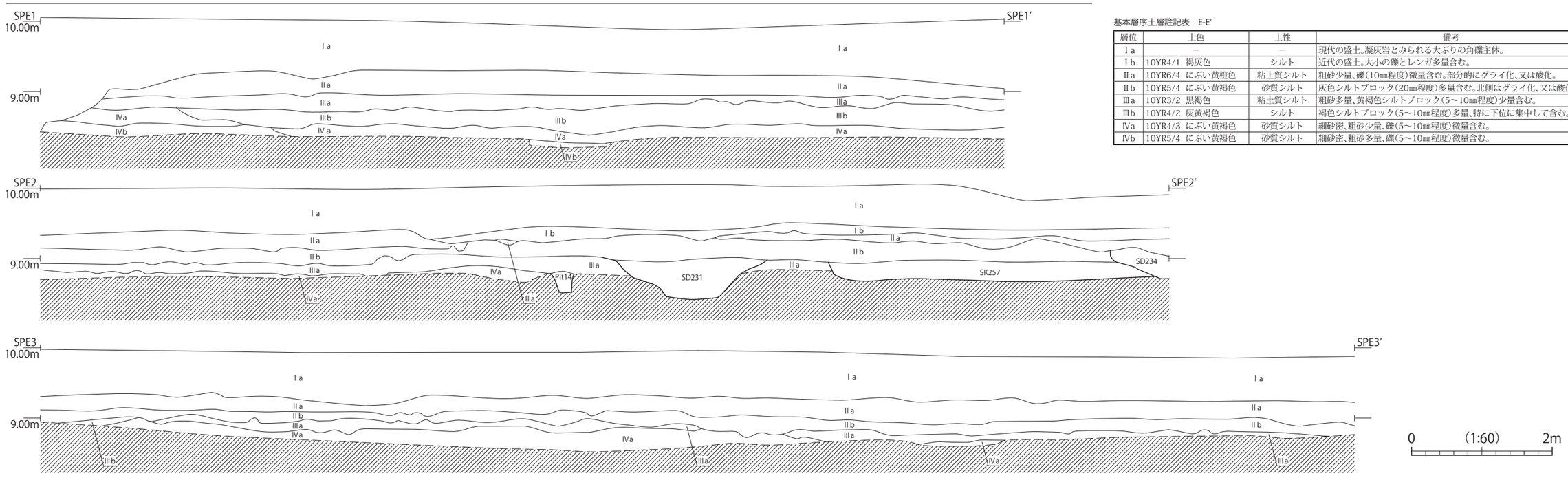
注)　★印はテフラ分析用サンプル採取位置

第 5 図　基本層序（1）



基本層序土層註記表　D-D′

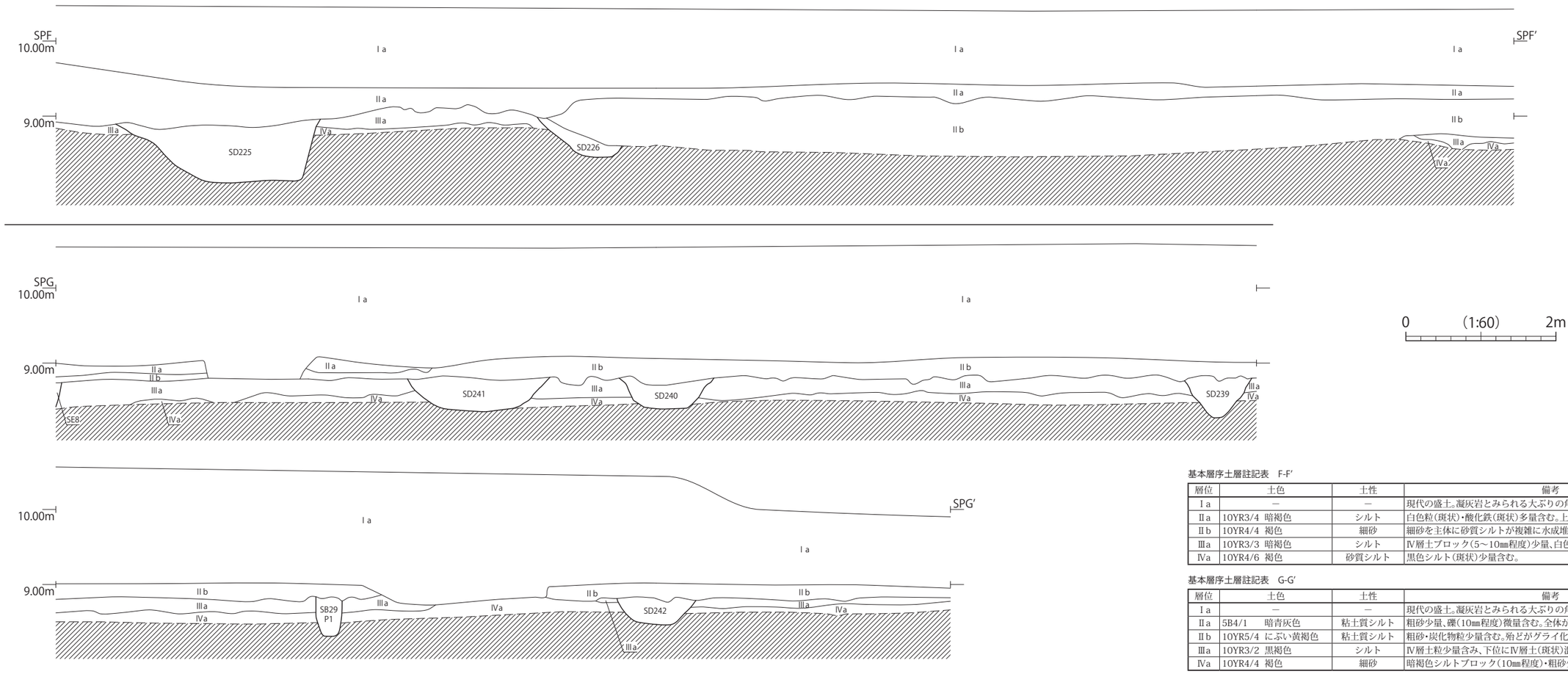
層位	土色	土性	備考
Ⅰa	—	—	近・現代の盛土。瓦礫・砂・粘土ブロック多量含む。部分的にグライ化。
Ⅱa	10YR6/6 明黄褐色	シルト	灰色シルトブロック（一部斑状）・小礫少量含む。部分的にグライ化、又は酸化。
Ⅱb	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	白色粒微量含む。南側は酸化鉄多量含む。
Ⅱc	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	明黄褐色・灰褐色シルトブロック（10～20㎜程度）少量含む。部分的にグライ化、又は酸化。
Ⅱd	10YR5/4 にぶい黄褐色	細砂	
Ⅱe	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰褐色シルトブロック（10～20㎜程度）含む。南側は薄くグライ化。
Ⅲa	10YR3/3 暗褐色	シルト	黄灰色シルト（斑状）多量、褐色粒・酸化鉄少量含む。
Ⅲb	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルトブロック（10～20㎜程度）少量含む。北側は一部黒色化。
Ⅳa	10YR5/6 黄褐色	シルト	酸化鉄多量含む。南側は色調明るい。



基本層序土層註記表　E-E′

層位	土色	土性	備考
Ⅰa	—	—	現代の盛土。凝灰岩とみられる大ぶりの角礫主体。
Ⅰb	10YR4/1 褐灰色	シルト	近代の盛土。大小の礫とレンガ多量含む。
Ⅱa	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	粗砂少量、礫（10㎜程度）微量含む。部分的にグライ化、又は酸化。
Ⅱb	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰色シルトブロック（20㎜程度）多量含む。北側はグライ化、又は酸化。
Ⅲa	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	粗砂多量、黄褐色シルトブロック（5～10㎜程度）少量含む。
Ⅲb	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐色シルトブロック（5～10㎜程度）多量、特に下位に集中して含む。
Ⅳa	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂密、粗砂少量、礫（5～10㎜程度）微量含む。
Ⅳb	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂密、粗砂多量、礫（5～10㎜程度）微量含む。

第６図　基本層序（2）

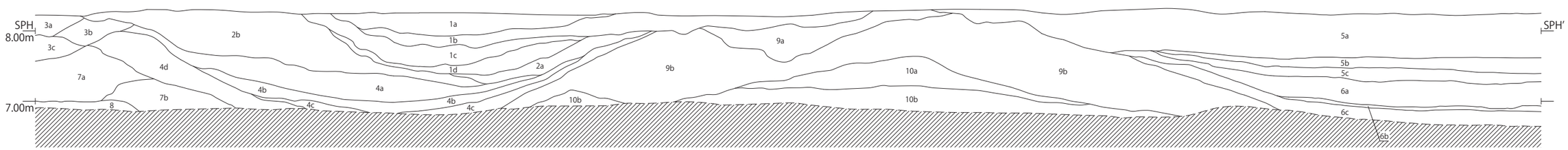


基本層序土層註記表　F-F′

層位	土色	土性	備考
Ⅰa	—	—	現代の盛土。凝灰岩とみられる大ぶりの角礫主体。
Ⅱa	10YR3/4　暗褐色	シルト	白色粒(斑状)・酸化鉄(斑状)多量含む。上位グライ化。
Ⅱb	10YR4/4　褐色	細砂	細砂を主体に砂質シルトが複雑に水成堆積。最上位に砂礫が厚く堆積。
Ⅲa	10YR3/3　暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、白色粒微量含む。
Ⅳa	10YR4/6　褐色	砂質シルト	黒色シルト(斑状)少量含む。

基本層序土層註記表　G-G′

層位	土色	土性	備考
Ⅰa	—	—	現代の盛土。凝灰岩とみられる大ぶりの角礫主体。
Ⅱa	5B4/1　暗青灰色	粘土質シルト	粗砂少量、礫(10㎜程度)微量含む。全体がグライ化。
Ⅱb	10YR5/4　にぶい黄褐色	粘土質シルト	粗砂・炭化物粒少量含む。殆どがグライ化し、著しく硬化する。
Ⅲa	10YR3/2　黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含み、下位にⅣ層土(斑状)混じる。
Ⅳa	10YR4/4　褐色	細砂	暗褐色シルトブロック(10㎜程度)・粗砂少量含む。西側シルト化。



基本層序土層註記表　H-H′

層位	土色	土性	備考
1a	2.5Y4/1　黄灰色	粘土質シルト	細砂少量含む。大半がグライ化。
1b	2.5GY6/1 オリーブ灰色	細砂	同色のシルトを上下に挟み、酸化鉄(斑状)少量含む。大半がグライ化。
1c	7.5Y4/1　灰色	粘土質シルト	オリーブ灰色シルトブロック多量、礫(5㎝内)・酸化鉄(斑状)少量含む。
1d	5Y5/2　灰オリーブ色	微砂	礫(3㎝内)・酸化鉄(斑状)少量含む。下位に細砂が堆積。大半がグライ化。
2a	10YR6/1　灰色	微砂	酸化鉄(斑状)多量含む。
2b	2.5Y4/1　黄灰色	粘土質シルト	オリーブ灰色シルトブロック密、礫(10㎝内)・酸化鉄(斑状)少量含む。
3a	5Y5/3　灰オリーブ色	粘土質シルト	白色粒少量、炭化物粒微量含む。大半がグライ化。
3b	2.5Y6/1　黄灰色	砂質シルト	礫(2㎝内)・黒色シルトブロック微量含む。
3c	5Y6/1　灰色	細砂	酸化鉄(ラミナ状)多量含む。下位に砂礫(10㎝内)部分的に集中。

層位	土色	土性	備考
4a	7.5Y7/1　灰白色	細砂	オリーブ灰色シルト(ラミナ状)多量含む。下位に酸化鉄が集中。
4b	2.5Y4/1　黄灰色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック・酸化鉄(斑状)少量含む。
4c	10Y7/1　灰白色	細砂	黄灰色シルト(ラミナ状)多量含む。
4d	10YR3/1　黒褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック・酸化鉄(斑状)多量、礫(5㎝内)・細砂ブロック少量含む。
5a	7.5Y4/1　灰色	粘土質シルト	酸化鉄(斑状)多量、細砂少量含み、中位に黒色粘土(厚5㎝程度)を挟む。
5b	2.5Y4/1　黄灰色	粘土質シルト	酸化鉄(斑状)密、細砂・粗砂少量含む。全体がグライ化。
5c	N3/0　暗灰色	粘土質シルト	酸化鉄(斑状)多量含む。全体がグライ化。
6a	5GY6/1　オリーブ灰色	シルト	細砂との互層。酸化鉄(斑状)少量含む。殆どがグライ化。
6b	7.5GY6/1 緑灰色	細砂	酸化鉄(斑状)微量含む。殆どがグライ化。

層位	土色	土性	備考
6c	N5/0　灰色	粘土質シルト	細砂との互層。酸化鉄(斑状)少量、一部に暗褐色シルト(ラミナ状)含む。殆どがグライ化。
7a	2.5Y5/1　黄灰色	細砂	粗砂との互層。下位に礫(10㎝内)・酸化鉄が集中。
7b	5Y5/1　灰色	細砂	黒色粘土ブロック・灰色シルトブロック少量含む。上位に酸化鉄が集中。
8	7.5Y4/1　灰色	粘土	暗灰色粘土ブロック多量含む。上位に酸化鉄が薄く凝固。
9a	5Y4/1　灰色	粘土質シルト	粗砂・細砂との混土。礫(15㎝内)が部分的に集中。
9b	5Y4/1　灰色	砂礫	15㎝内の礫と粗砂が主体。上位に酸化鉄が薄く凝固。
10a	10YR3/3　暗褐色	細砂	礫(5㎝内)・酸化鉄(ラミナ状)少量含む。
10b	5Y6/3　オリーブ黄色	細砂	酸化鉄(ラミナ状)密、暗褐色シルト(ラミナ状)少量、礫(2㎝内)微量含む。

第７図　基本層序（3）

第 5 章　検出遺構と出土遺物

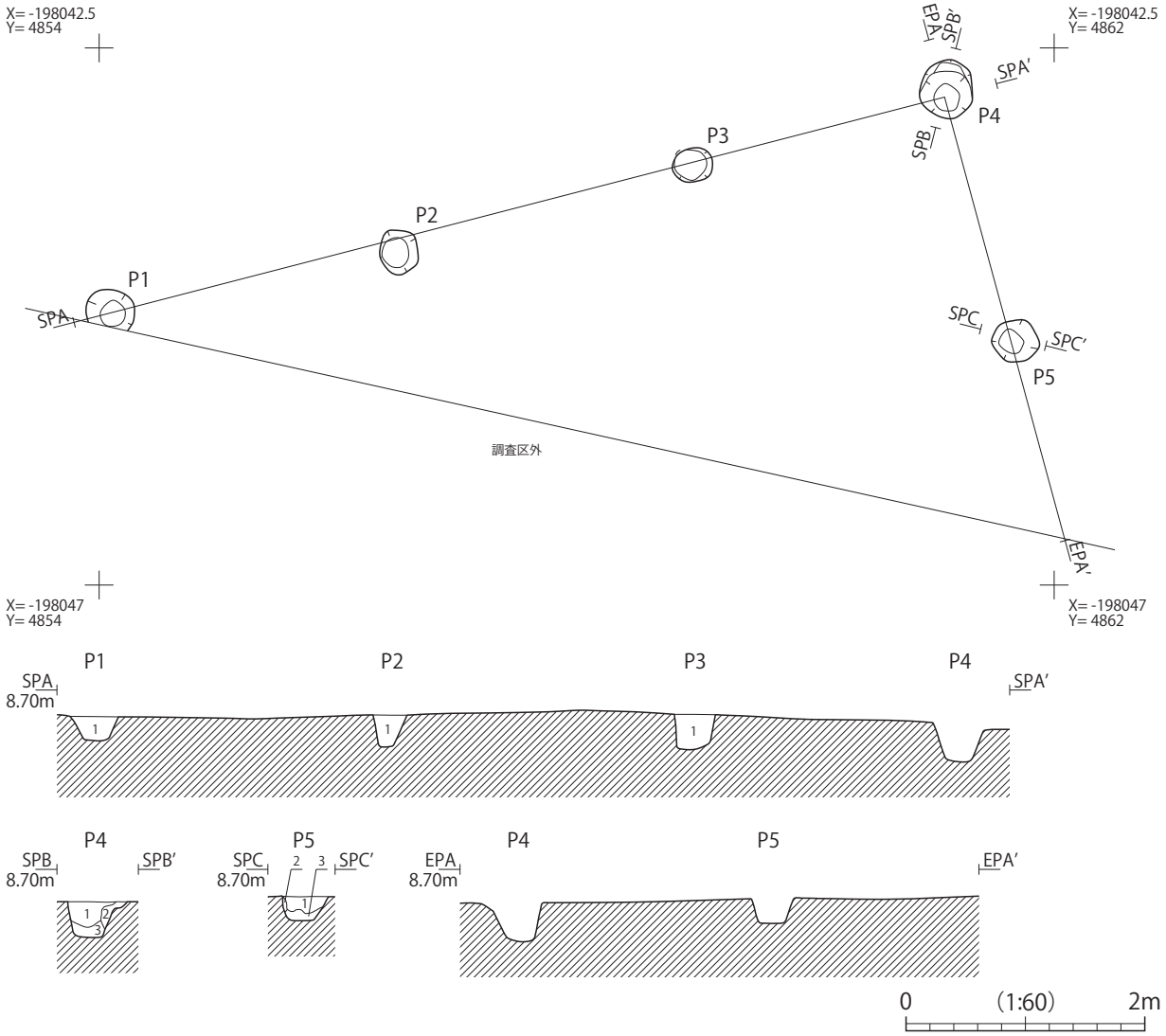
第 1 節　中世～近世の遺構と遺物

Ⅳ層上面から検出された遺構のうち、当該期に比定されるものについて報告する。遺構は、掘立柱建物跡 1 棟、小溝状遺構 258 条、溝跡 61 条、井戸跡 4 基、土坑 68 基、ピット 344 基、性格不明遺構 9 基が検出された。特に小溝状遺構は高位面のほぼ全域を占めるようにして検出されており、耕作地などの生産域として土地利用が行われていたことを窺わせる。また、溝跡の中にも灌漑水路のような大型のものが認められ、これらの遺構がほぼ同時に機能していた可能性が考えられる。

(1) 掘立柱建物跡

SB29 掘立柱建物跡（第 8 図）

第 7 次調査区の南端部、292 ～ 295 グリッドに位置する。5 基の柱穴を検出した。南側は調査区外へと延びており、検出されたのは東西 3 間×南北 1 間の範囲である。当該期の遺構との重複は、SD241 より新しい。また、範囲内には SD239、Pit26・35 が重複しているが、本建物跡との新旧関係は不明である。



第 8 図　SB29 掘立柱建物跡

棟方向はN－76°－Eで、平面形状は不明である。規模は東西総長750cm以上、南北総長385cm以上を測り、東西柱列における柱間は東から180cm－220cm－210cmを測る。

柱穴はいずれも直径34～49cm、深さ22～35cm前後の小型のもので、平面形状は全て円形基調である。柱痕跡はいずれの柱穴にも認められなかった。

遺物は出土しなかった。

SB29観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
		長軸×短軸	深さ					
P1	円形	42×(38)	22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量、粗砂少量含む。	
P2	不整楕円形	37×32	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、礫(30㎜程度)微量含む。	
P3	楕円形	34×28	30	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、粗砂微量含む。	
P4	円形	49×45	35	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、粗砂微量含む。	SD241より新しい。
				2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)密に含む。	
				3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。	
P5	不整円形	38×36	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、粗砂微量含む。	
				2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	壁から崩落したⅣ層土ブロック。	
				3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	細砂多量含む。	

(2) 小溝状遺構群

小溝状遺構は、第5～7・9次全ての調査において合計258条が検出された。これらは方向や形状などからA～K群の11群に分類される。高位面のほぼ全域を占めるようにして分布するほか、低位面の南西寄りにも検出されている。

小溝状遺構の番号は、第5次調査では全て個別に付したが、第6次調査以降は方向や形状から単位ごとに付し、それを枝番で細分するという方法にて付番した。

小溝状遺構群A群（第11・12・14図）

第5･6･9次調査で検出された。SM346～376･378･388･391～394･397～400の125条が該当する。また、SD220も本群に含まれると思われる。本群は高位面の大半を占め、西側の河川跡範囲にも一部重複して分布する。その範囲は東西32m、南北65.5m程を測り、概ね12以上の単位で構成されると考えられる。

各溝はN－63～85°－Eを指向し、平均幅は29cm、深さは1～25cmと比較的浅い。堆積土は多くが基本層Ⅱ層に近似し、砂質が強い。

遺物は、SM356・378－2・393－1・393－5・393－12・398－8・400－6の土師器坏2点、甕1点、金属製品3点、石製品1点を掲載した。4の金属製品は鉄製の鏃（かすがい）と思われる。6の金属製品は、銅製の煙管雁首の破片である。

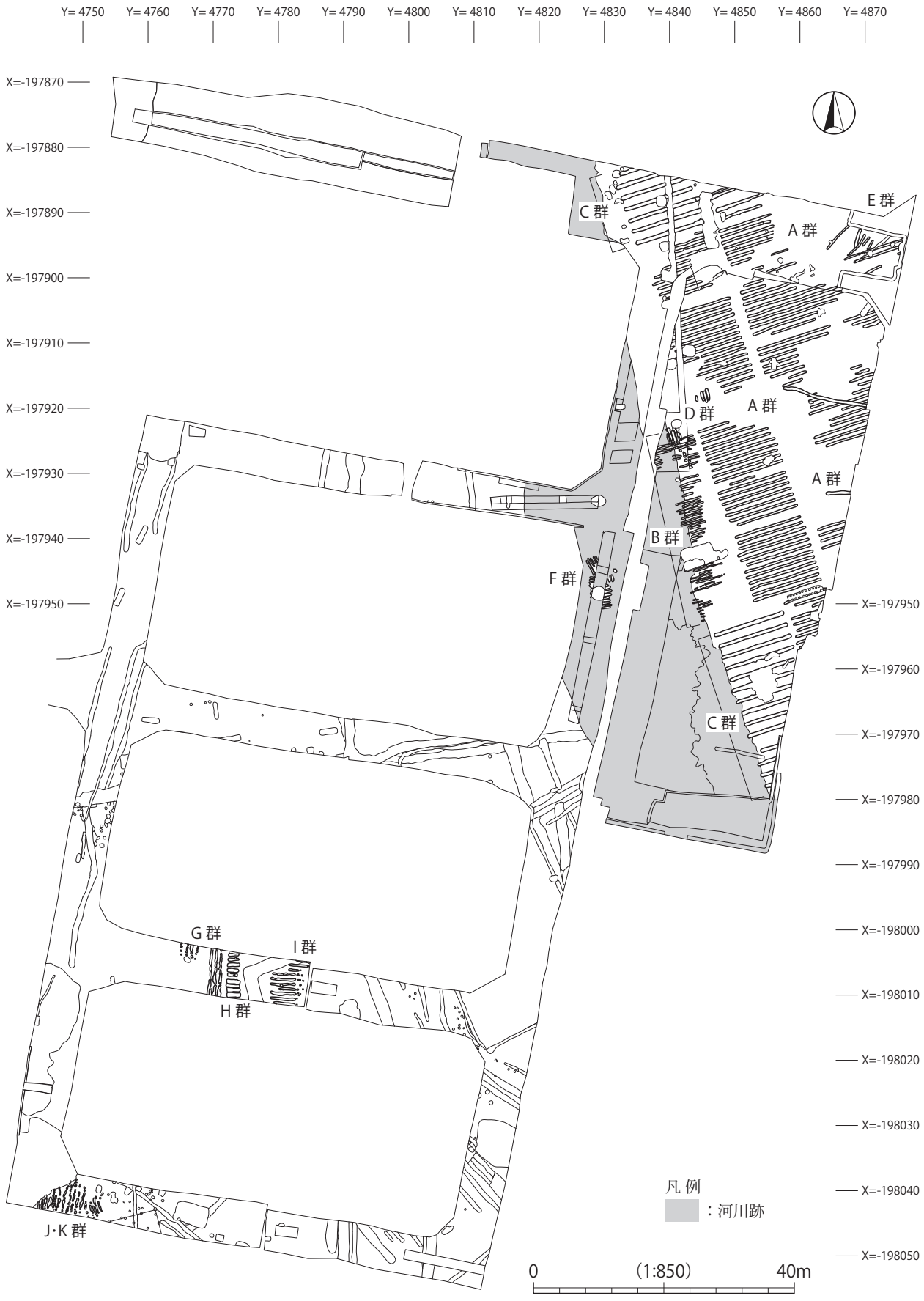
小溝状遺構群B群（第11・12図）

第5次調査区の西寄りにかけて検出された。SM395・396・401の45条が該当する。河川跡よりも新しく、一部が河川跡の範囲にかかる。

各溝はN－70～85°－Eを指向するが、概ね75°前後のものが大半を占める。方向性としてはA群に近いが、間隔は本群の方が密接する傾向にある。平均幅は26cmを測るが平面形状は著しく歪み、深さも1～11cmと、かなり浅い。削平や自然流出などの影響が考えられる。堆積土は基本層Ⅱ層に近似する。

遺物は、土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

第９図　Ⅳ層上面遺構配置図（中世～近世）



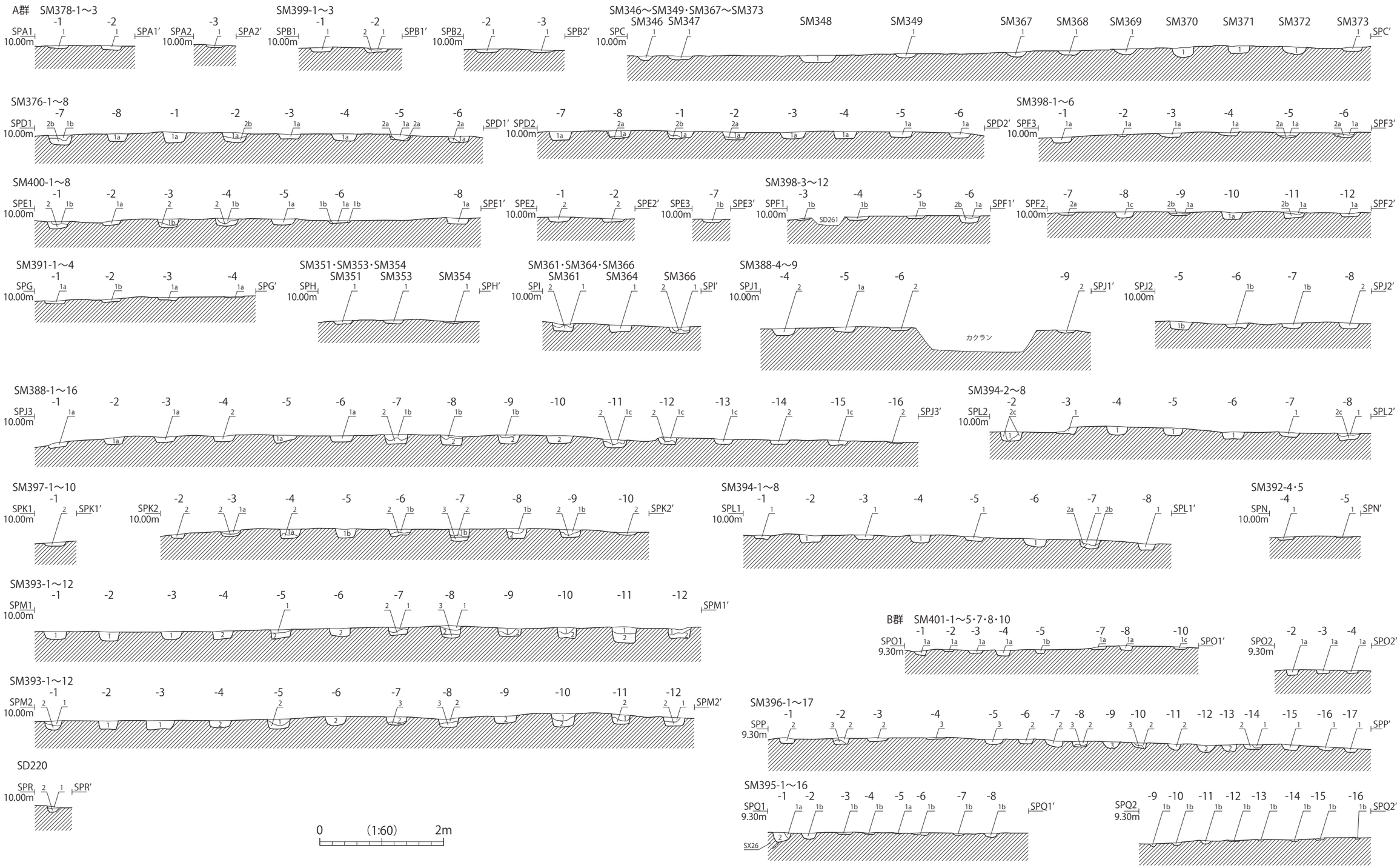
第 10 図　小溝状遺構群各群配置図

小溝状遺構群 A 群 観察表（1）

遺構名	グリッド	方向	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長さ×幅	深さ					
346	13	N-69°-E	(290)×22～30	8	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
347	13	N-70°-E	(420)×34～58	6	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
348	13・14	N-70°-E	(780)×30～60	12	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
349	14・19	N-71°-E	615×30～60	8	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
350	19	N-72°-E	(450)×16～26	―	―	―	―	註記なし。	
351	19・22	N-71°-E	(475)×32～38	7	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
352	22	N-74°-E	(150)×30～38	―	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
353	19・22	N-71°-E	(330)×28～36	8	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
354	22	N-72°-E	(362)×32～40	3	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
355	22	N-72°-E	(145)×28～34	―	―	―	―	註記なし。	
356	21・22	N-69°-E	(146)×30～40	―	―				
357	22	N-72°-E	(224)×30～34	―	―				
358	21・24	N-70°-E	(114)×24～36	―	―				
359	22	N-72°-E	(240)×32～44	―	―				
360	22・24	N-70°-E	(450)×24～36	―	―				
361	3・24	N-71°-E	(596)×28～40	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)・Ⅳ層土粒多量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
362	24・25	N-71°-E	(204)×(24)～44	―	―	註記なし。			
363	24・25	N-74°-E	(60)×16～24	―	―				
364	25・03	N-74°-E	(280)×30～42	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)・Ⅳ層土粒多量含む。	
365	22・24	N-63°-E	(170)×(32)～(48)	―	―	―	―	註記なし。	
366	25・03	N-72°-E	(450)×26～46	10	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)・Ⅳ層土粒多量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
367	19・20	N-71°-E	850×26～40	8	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
368	19・20	N-71°-E	800×30～40	8	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
369	19・20	N-71°-E	850×30～40	10	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
370	20・22	N-72°-E	(800)×32～44	16	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
371	20・23	N-72°-E	(750)×30～40	12	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
372	22・23	N-71°-E	430×32～42	14	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
373	22・23	N-71°-E	330×30～36	8	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
374	23	N-70°-E	(190)×40～46	―	―	―	―	註記なし。	
375	23	N-71°-E	(492)×19～36	12	―	―	―	註記なし。	
376-1	04・07	N-72°-E	1290×24～46	17	※SM376-1～10共通				
376-2	04・07	N-71°-E	(1460)×14～44	16					
376-3	07・08	N-71°-E	(1460)×32～42	12	1a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒色土ブロック(10～30㎜程度)少量、Ⅳ層土微量含む。	
376-4	07・08	N-73°-E	1408×24～42	11					
376-5	08・09	N-70°-E	(1048)×40	9	1b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	細砂多量、黒色土ブロック(10㎜程度)微量含む。	
376-6	08・09	N-71°-E	(719)×36	9					
376-7	04	N-71°-E	(753)×42	16	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密に含む。	
376-8	04	N-72°-E	(857)×43	12					
376-9	04	N-72°-E	320×37	8	2b	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
376-10	04	N-73°-E	403×49	10					
378-1	04～06	N-72°-E	(961)×19～36	7	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。	
378-2	05・06	N-71°-E	(733)×23～37	8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。	
378-3	06	N-81°-E	(45)×28	4	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。	
388-1	03・07	N-73°-E	(793)×37	7	※SM388-1～16共通				
388-2	03・07	N-73°-E	(803)×38	11					
388-3	03・07	N-72°-E	(819)×38	8					
388-4	07	N-72°-E	(984)×45	9					
388-5	07	N-72°-E	(1025)×39	13	1a	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
388-6	07	N-72°-E	(1093)×41	10					Pit2・4より新しい。
388-7	07・12	N-72°-E	(730)×40	15					Pit5より新しい。
388-8	07・12	N-72°-E	(1072)×38	16	1b	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
388-9	12・13	N-72°-E	967×42	14					
388-10	12・13	N-73°-E	(630)×45	13					
388-11	12・13	N-72°-E	768×41	14	1c	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色シルト粒・焼土粒微量含む。	
388-12	12・13	N-72°-E	800×37	11					
388-13	12・13	N-72°-E	740×36	8					
388-14	13・17	N-71°-E	568×36	6	2	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
388-15	17・18	N-72°-E	538×34	8					
388-16	17・18	N-71°-E	279×34	2					
391-1	37	N-72°-E	(452)×34	5	※SM391-1～4共通				
391-2	37	N-72°-E	(403)×34	4					
391-3	37・41	N-72°-E	(357)×36	5	1a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土粒少量含む。	
391-4	41	N-73°-E	(306)×36	2	1b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(50㎜程度)少量含む。	
392-1	44・45	N-70°-E	689×38	4	※SM392-1～9共通				SX25より新しい。
392-2	45・48	N-73°-E	(481)×39	10					
392-3	45・49	N-70°-E	(129)×37	15	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、黒色土粒微量含む。	
392-4	48・49	N-73°-E	(431)×43	14					
392-5	48・49	N-72°-E	(266)×40	11					
392-6	48・49	N-72°-E	(349)×40	15					
392-7	48・49	N-73°-E	(352)×44	14					
392-8	52	N-70°-E	(139)×35	9					
392-9	52	N-78°-E	(33)×16	12					

※SM395・396・401 は B 群　他は A 群

第 11 図　小溝状遺構群 A・B 群平面図



第 12 図　小溝状遺構群 A・B 群断面図

小溝状遺構群 A 群 観察表（2）

遺構名	グリッド	方向	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長さ×幅	深さ					
393-1	36・37	N-73°-E	1056×42	12	※SM393-1～12共通				
393-2	36・40	N-72°-E	1042×35	14					
393-3	36・40	N-72°-E	1079×37	13	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒少量含む。	
393-4	36・40	N-72°-E	1106×39	13					
393-5	40・41	N-72°-E	1101×39	15					
393-6	40・41	N-73°-E	1034×43	13	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
393-7	40・41	N-73°-E	1095×38	13					
393-8	40・44	N-73°-E	1093×38	20					
393-9	41・44	N-72°-E	1077×45	13	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密に含む。	
393-10	41・44	N-72°-E	1088×38	17					
393-11	44・45	N-72°-E	1067×42	25					
393-12	44・45	N-72°-E	1083×41	17					
394-1	31・32	N-72°-E	41×30	6	※SM394-1～8共通				
394-2	31・32	N-72°-E	1078×39	13					
394-3	31・32	N-72°-E	1093×38	7	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
394-4	31・32	N-72°-E	1081×37	12					
394-5	32・35	N-72°-E	1054×36	7	2a	10YR3/1 黒褐色	細砂	Ⅳ層土粒微量含む。	
394-6	32・36	N-72°-E	1083×41	12					
394-7	32・36	N-72°-E	1052×37	14	2b	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒微量含む。	
394-8	32・36	N-72°-E	97×38	10					
397-1	22	N-72°-E	502×40	6	※SM397-1～10共通				
397-2	22・23	N-72°-E	566×39	7					
397-3	22・23	N-72°-E	852×37	9	1a	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土粒微量含む。	
397-4	23・27	N-72°-E	1044×36	15					
397-5	23・27	N-72°-E	1048×37	13	1b	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量、黒色土粒微量含む。	
397-6	27・28	N-72°-E	1093×42	11					
397-7	27・28	N-73°-E	1073×41	20	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・黒色土粒微量含む。	
397-8	27・28	N-72°-E	1034×42	16					
397-9	28・31	N-72°-E	1097×39	12	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
397-10	28・31	N-72°-E	1095×42	4					
398-1	14	N-73°-E	183×34	9	※SM398-1～12共通				
398-2	14・15	N-72°-E	223×43	3	1a	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）・Ⅳ層土粒微量含む。	
398-3	15・19	N-72°-E	(1071)×41	6					SD270より古い。
398-4	19・20	N-72°-E	(947)×35	6	1b	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量、Ⅳ層土粒少量含む。	SD270より古い。
398-5	19・20	N-72°-E	(948)×38	8					SD270より古い。
398-6	19・24	N-72°-E	(955)×37	8	1c	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒色土粒との互層。	SD270より古い。
398-7	19・24	N-72°-E	(412)×32	5					SD270より古い。
398-8	19・24	N-72°-E	(598)×35	10	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土粒少量含む。	SD270より古い。
398-9	24・25	N-73°-E	(614)×39	5					
398-10	24・25	N-72°-E	(873)×38	11					
398-11	24・29	N-73°-E	(822)×35	10	2b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・黒色土粒微量含む。	
398-12	24・29	N-73°-E	(623)×36	6					
399-1	09・10	N-73°-E	(499)×43	7	※SM399-1～3共通				
399-2	09・10	N-70°-E	(406)×45	7	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
399-3	09・10	N-68°-E	(272)×55	4	2	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄（斑状）少量、炭化物粒微量含む。	
400-1	09・13	N-72°-E	1172×37	8	※SM400-1～8共通				
400-2	09・13	N-72°-E	1107×37	3	1a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック（10㎜程度）微量含む。	
400-3	13	N-72°-E	586×35	5					
400-4	13	N-72°-E	572×38	9					
400-5	13	N-72°-E	551×43	6	1b	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	黒色土ブロック（20～30㎜程度）多量、Ⅳ層土粒少量含む。	
400-6	13・14	N-71°-E	547×36	5					
400-7	14・18	N-70°-E	289×38	7	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
400-8	18・19	N-70°-E	324×37	4					
SD220	23	N-72°-E	276×22	12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック（5㎜程度）少量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	明黄褐色・黒褐色シルト（斑状）多量含む。	

小溝状遺構群 B 群 観察表（1）

遺構名	グリッド	方向	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長さ×幅	深さ					
395-1	39・43	N-72°-E	441×(25)	9	※SM395-1～16共通				SX26より新しい。
395-2	39・43	N-74°-E	453×23	3					河川跡より新しい。
395-3	39・43	N-72°-E	189×27	2					
395-4	43	N-74°-E	343×21	1					河川跡より新しい。
395-5	43	N-75°-E	345×22	4	1a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密に含む。	河川跡より新しい。
395-6	43	N-74°-E	462×30	3					
395-7	43	N-70°-E	328×21	7					
395-8	43	N-72°-E	505×22	5					河川跡より新しい。
395-9	43	N-84°-E	84×15	5	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック（10～20㎜程度）少量含む。	河川跡より新しい。
395-10	43	N-79°-E	155×18	4					河川跡より新しい。
395-11	43・47	N-72°-E	188×24	6					
395-12	43・47	N-72°-E	246×19	2					河川跡より新しい。
395-13	47	N-70°-E	83×16	2	2	10YR2/2 黒褐色	細砂	黒色土ブロック（10㎜程度）を少量、Ⅳ層土粒を微量含む。	河川跡より新しい。
395-14	47	N-78°-E	64×14	2					河川跡より新しい。
395-15	47	N-82°-E	65×15	2					河川跡より新しい。
395-16	47	N-72°-E	43×16	2					河川跡より新しい。
396-1	31	N-74°-E	293×27	9	※SM396-1～7共通				河川跡より新しい。
396-2	31	N-73°-E	326×35	10					河川跡より新しい。
396-3	31	N-74°-E	199×34	6					河川跡より新しい。
396-4	31	N-71°-E	176×35	2					河川跡より新しい。
396-5	31	N-72°-E	407×37	7	1	10YR3/3 暗褐色	細砂	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	河川跡より新しい。
396-6	31・35	N-71°-E	294×26	7	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	河川跡より新しい。
396-7	31・35	N-70°-E	43×31	9	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）密、黒色土粒微量含む。	河川跡より新しい。

小溝状遺構群 B 群 観察表（2）

遺構名	グリッド	方向	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長さ×幅	深さ					
396-8	31・35	N-72°-E	368×36	9	※SM396-8～18共通				河川跡より新しい。
396-9	35	N-72°-E	288×30	11					河川跡より新しい。
396-10	35	N-74°-E	337×29	9	1	10YR3/3 暗褐色	細砂	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	河川跡より新しい。
396-11	35	N-73°-E	336×23	9					河川跡より新しい。
396-12	35	N-75°-E	344×30	9					河川跡より新しい。
396-13	35	N-74°-E	27×31	11	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
396-14	35	N-74°-E	171×31	11					
396-15	35	N-74°-E	297×29	7					河川跡より新しい。
396-16	35	N-71°-E	211×29	9	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)密、黒色土粒微量含む。	
396-17	35・39	N-76°-E	17×30	6					
396-18	39	N-70°-E	81×16	6					
401-1	22	N-74°-E	(183)×20	8	※SM401-1～11共通				
401-2	26・27	N-76°-E	(581)×22	3					SM402より新しい。
401-3	26・27	N-75°-E	(622)×34	5	1a	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。	SM402より新しい。
401-4	26・27	N-75°-E	(635)×31	9					SM402より新しい。
401-5	26・27	N-76°-E	(576)×35	6					
401-6	26・27	N-78°-E	(416)×26	5	1b	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
401-7	26・27	N-75°-E	(660)×33	5					SM402より新しい。
401-8	26・27	N-74°-E	(680)×22	7					
401-9	27	N-85°-E	(30)×26	3	1c	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)少量含む。	
401-10	27	N-74°-E	(288)×26	3					
401-11	27	N-72°-E	(42)×34	7					

小溝状遺構群 C 群（第 13・14 図）

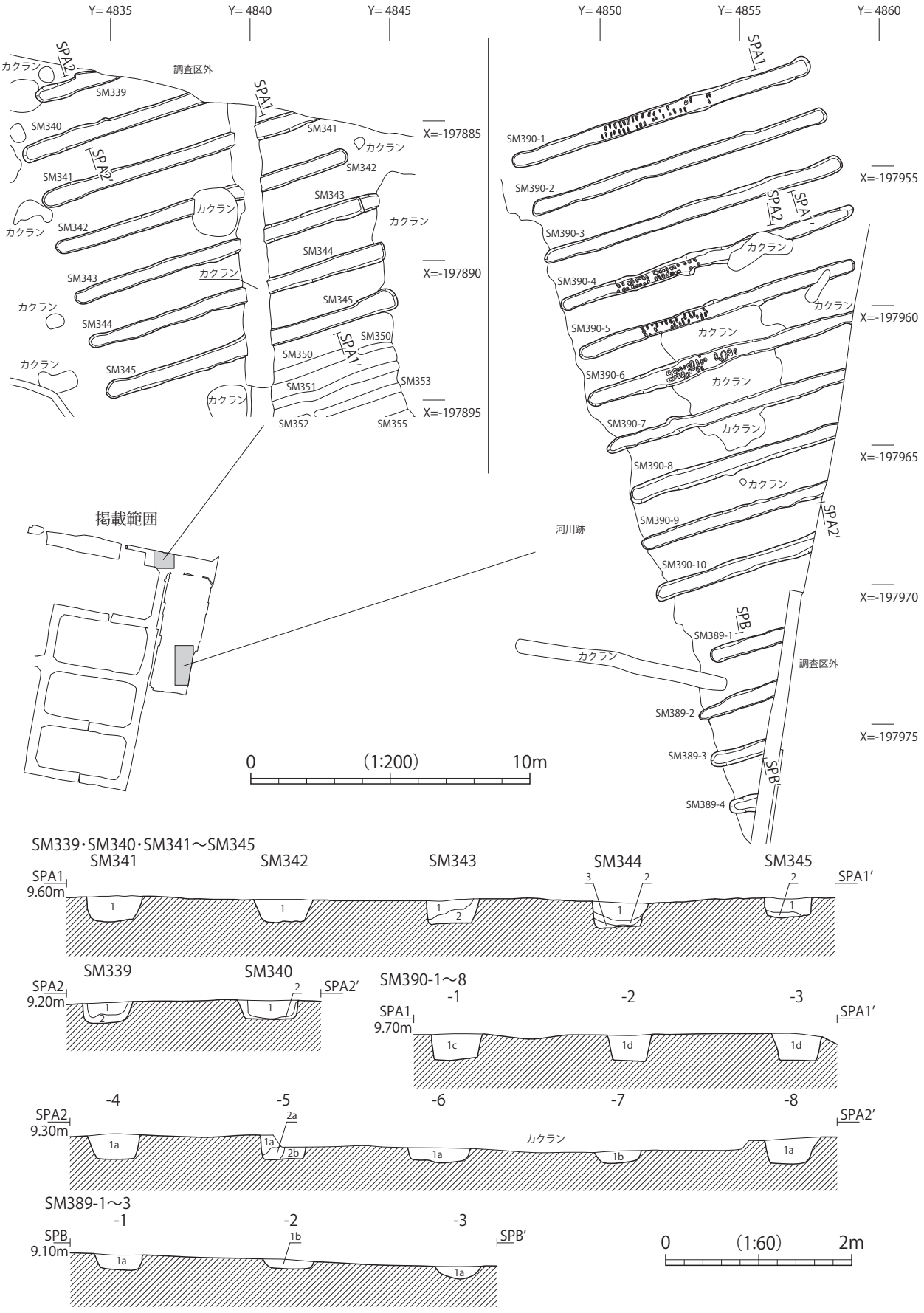
第 9 次調査区の南東端部にて検出された。SM339 ～ 345・389・390 の 21 条が該当する。A 群の南北両側に掘り込まれ、A 群を挟み込むかのように位置している。

各溝は N － 70 ～ 82° － E を指向する。平均幅は 59cm と A 群よりも一回り以上大型であり、深さも 10 ～ 31cm としっかりとした掘り込みをもつ。また溝どうしの間隔も、平均で 125cm と広めである。SM390 － 1・4 ～ 6 の底面からは、工具痕が並んで検出された。堆積土は基本層Ⅱ層に近似する。本群は規模や形状などから、「天地返し」の痕跡である可能性が考えられる。

遺物は、土師器・須恵器破片が少量出土し、SM390 － 10 の須恵器円面硯 1 点を掲載した（第 14 図－ 8）。圏足円面硯の脚部破片で、直径 15cm 前後の小型硯と思われる。長方形の透孔が 1 箇所確認できる。

小溝状遺構群 C 群 観察表

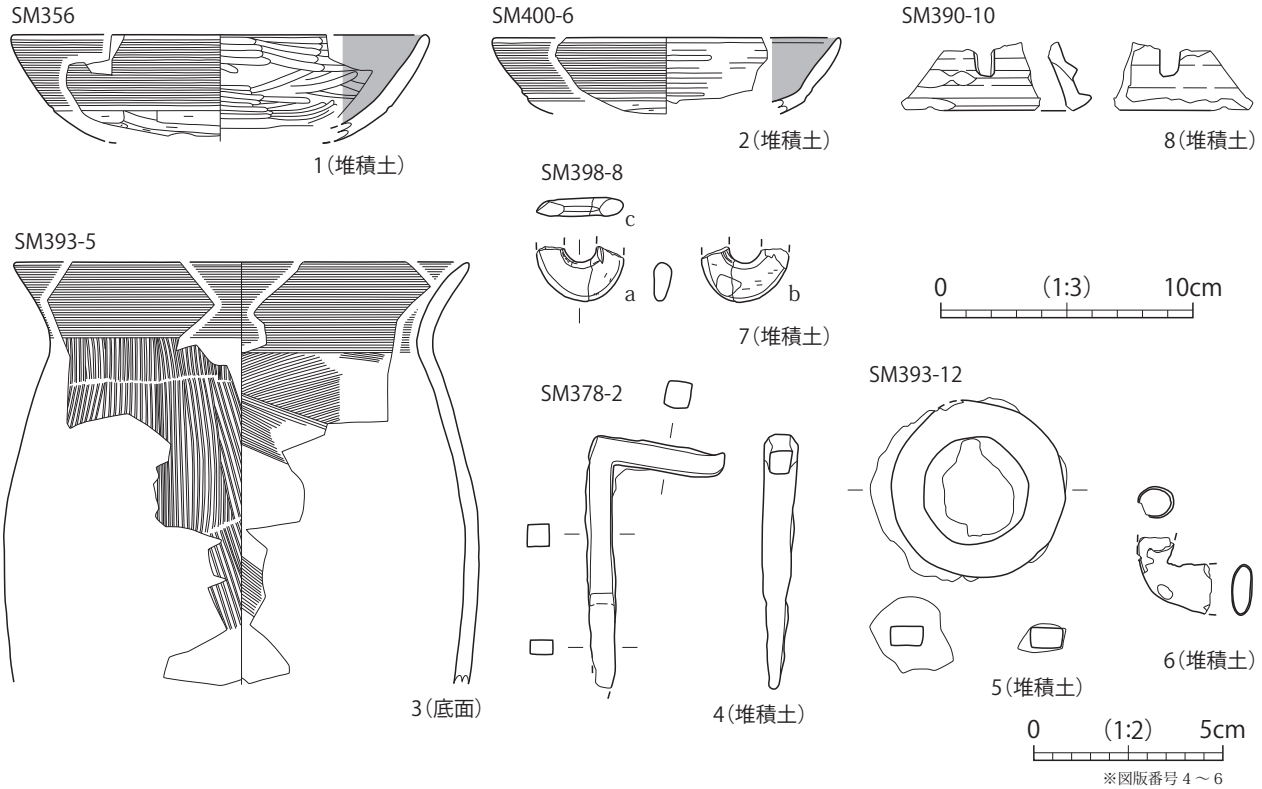
遺構名	グリッド	方向	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長さ×幅	深さ					
339	7	N-71°-E	(318)×50～62	22	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト		
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
340	7・12	N-72°-E	(700)×50～68	22	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト		
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
341	12・13	N-72°-E	(1050)×52～66	28	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
342	12・13	N-72°-E	1100×50～62	26	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
343	13・18	N-71°-E	(1080)×48～68	25	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト		
344	18・19	N-72°-E	(1100)×42～68	31	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト		
					3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト		
345	18・19	N-72°-E	(1100)×54～78	22	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト		
389-1	62	N-74°-E	(274)×55	16	※SM389-1～4共通				
389-2	62	N-70°-E	(293)×60	10					
389-3	66	N-76°-E	(176)×51	13	1a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒少量含む。	
389-4	66	N-82°-E	(98)×61	17	1b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(50㎜程度)少量含む。	
390-1	47・48	N-72°-E	1121×57	28	※SM390-1～10共通				
390-2	48・51	N-72°-E	1107×57	29					
390-3	51・52	N-72°-E	1116×58	29					
390-4	51・52	N-72°-E	1101×57	28					
390-5	52・55	N-72°-E	1040×55	26	1a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒少量含む。	
390-6	54・55	N-73°-E	(987)×80	16	1b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(50㎜程度)少量含む。	
390-7	55・58	N-73°-E	(889)×62	13	1c	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒少量含む。	
390-8	55・58	N-73°-E	(775)×71	27	1d	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
390-9	58	N-73°-E	(686)×55	20	2a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密に含む。	
390-10	58・62	N-72°-E	(598)×61	22	2b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、黒色土粒微量含む。	SK281より新しい。



第 13 図　小溝状遺構群 C 群

小溝状遺構群 D 群 観察表

遺構名	グリッド	方向	規模(cm) 長さ×幅	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
402-1	21・26	N-10°-W	(259)×39	2	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・白色土粒・炭化物粒微量含む。	SM401より古い。
402-2	21・22	N-17°-W	251×27	3	1	10YR4/2 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・白色土粒・炭化物粒微量含む。	
402-3	22・27	N-13°-W	(278)×44	4	1	10YR4/3 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・白色土粒・炭化物粒微量含む。	SM401より古い。
402-4	22・27	N-16°-W	(377)×42	2	1	10YR4/4 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・白色土粒・炭化物粒微量含む。	SM401より古い。
402-5	22	N-14°-W	(532)×50	5	1	10YR4/5 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・白色土粒・炭化物粒微量含む。	SM401より古い。
403-1	17	N-12°-W	95×36	8					
403-2	17	N-15°-W	146×37	6	※SM403-1～4共通				
403-3	17	N-13°-W	181×38	10	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色土粒多量含む。	
403-4	17	N-12°-W	186×39	10	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。	



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-052	第5次	SM356	堆積土	土師器	坏	(16.4)	—	(4.2)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		91
2	C-291	第9次	SM400	堆積土	土師器	坏	(13.6)	—	(3.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		91
3	C-289	第9次	SM393	底面	土師器	甕	(18.0)	—	(16.7)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	内面摩滅	91
8	E-073	第9次	SM390	堆積土	須恵器	円面硯	—	—	(2.7)	ロクロ調整	ロクロ調整		91

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	法量(cm) 幅	法量(cm) 厚さ	重量(g)	備考	写真図版
4	N-042	第6次	SM378	堆積土	金属製品	鏃	(6.2)	0.7	0.7	18.2		91
5	N-013	第9次	SM393	堆積土	金属製品	環状鉄製品	0.6	径4.5	0.9	30.7		91
6	N-014	第9次	SM393	堆積土	金属製品	銅製煙管雁首	(2.0)	—	—	2.3	火皿径9㎜、小口径5～12㎜	91

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	法量(cm) 幅	法量(cm) 厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
7	Kd-010	第9次	SM398	堆積土	石製品	環状石製品	2.2	3.3	0.6	3.4	凝灰岩	a・b面線状痕、孔部磨	91

第 14 図　小溝状遺構群 A・C 群出土遺物

小溝状遺構群 D 群（第 15 図）

第９次調査区の西部にて検出された。SM402・403 の９条が該当する。南側の SM402 は A 群の SM401 と重複し、これよりも古い。

溝の方向は A ～ C 群より 90°傾き、N － 10 ～ 17° － W を指向する。平均幅は 39cm で、深さは 2 ～ 10cm であるが、平面形状が歪むことから削平等の影響が考えられる。堆積土は基本層Ⅱ層に近似する。

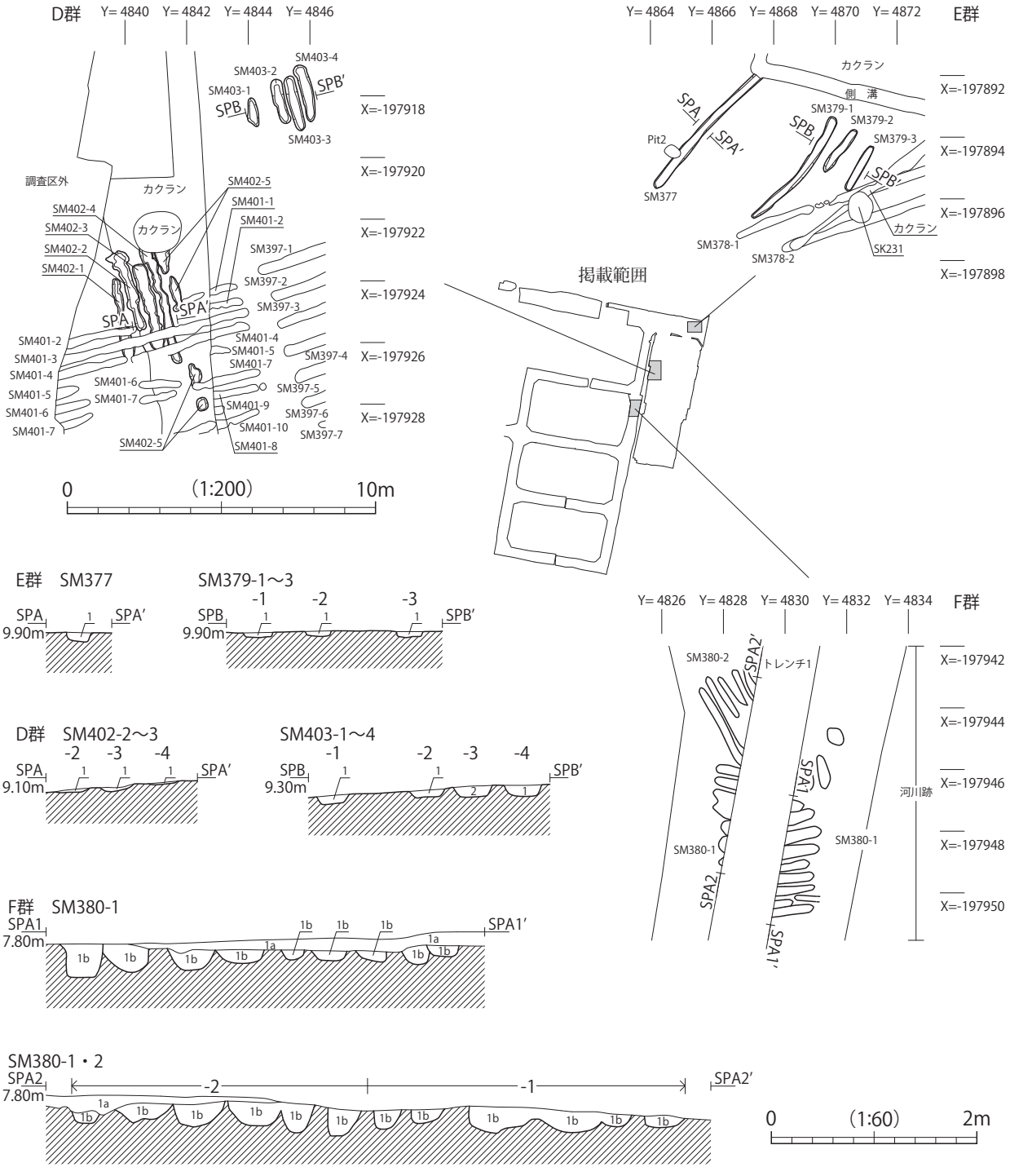
遺物は出土しなかった。

小溝状遺構群 E 群（第 15 図）

第 6 次調査区の北東部にて検出された。SM377・379 の 4 条が該当する。東側の SM379 は、A 群の SM378 の北側に接するようにして位置している。

方向は N － 30 ～ 42° － W を指向し、A 群と C 群の中間的な傾きをもつ。平均幅は 28cm で、深さは 4 ～ 14cm と浅い。SM377 と SM379 の間は 3 m程の空白地となっている。堆積土は基本層Ⅱ層に近似する。

遺物は土師器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。



第 15 図　小溝状遺構群 D ～ F 群

小溝状遺構群 F 群（第 15 図）

第 6 次調査区の中央部にて検出された。SM380 の 21 条が該当する。河川跡の範囲内に位置し、これよりも新しい。平面検出と、トレンチによる断ち割り調査のみ実施した。

方向は N － 78 ～ 102° － E を指向する南側の 23 条と、N － 11 ～ 52° － W を指向する北側の 7 条が存在する。平均幅は 27cm、深さは 26 ～ 33cm を測り、規格に目立った斉一性は認められない。堆積土は砂礫が充填されており、本群の直上にも同様の砂礫層が広がっていることから、「天地返し」の痕跡である可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

小溝状遺構群 E 群 観察表

遺構名	グリッド	方向	規模(cm) 長さ×幅	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
377	03･05	N-42°-E	(502)×24～34	14	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄橙色シルトブロック(5～15㎜程度)少量含む。	Pit2より古い。
379-1	03･05	N-39°-E	425×24～32	5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄橙色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。	
379-2	03～05	N-36°-E	169×26～30	4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄橙色シルトブロック(5～20㎜程度)多量含む。	
379-3	04･06	N-30°-E	164×25～30	5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄橙色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。	

小溝状遺構群 F 群 観察表

遺構名	グリッド	方向	規模(cm) 長さ×幅	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
380-1	45～48	N-11～52°-W	(95)～(283)×17～30	26	※SM380-1･2共通				河川跡より新しい。
380-2	47～50	N-78～102°-E	(67)～334×16～43	33	1a	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	酸化鉄多量、大小礫少量、白色粒微量含む。	
					1b	2.5GY4/2 暗オリーブ灰色	粘土質シルト	大小礫･粗砂･細砂多量含む。	

小溝状遺構群 G 群（第 16・17 図）

第 7 次調査区の東部にて検出された。SM383・384 の 14 条が該当する。位置関係によれば東側の SM382 も本群に含められる可能性があるが、方向性の違いから便宜上別群とした。

方向は N － 1 ～ 14° － E を測り、ほぼ南北を指向する。平均幅は 32cm、深さは 3 ～ 10cm を測るが、西側の SM384 は削平の影響であろうか、断続的なものとなっている。SM382 － 6・9・10 の底面には浅いピット状の掘り込みが伴う。堆積土は基本層Ⅱ層に近似する。

遺物は出土しなかった。

小溝状遺構群 H 群（第 16 図）

第 7 次調査区の東部にて検出された。SM382 の 9 条が該当し、G 群の東側に接するようにして位置する。

方向は N － 87 ～ 95° － E を測り、G 群とは対照的にほぼ東西を指向する。平均幅は 52cm と幅広で、土坑状の平面形状を呈する。深さは 8 ～ 15cm を測る。SM382 － 4・5 の底面には浅いピット状の掘り込みが伴う。堆積土は基本層Ⅱ層に近似する。

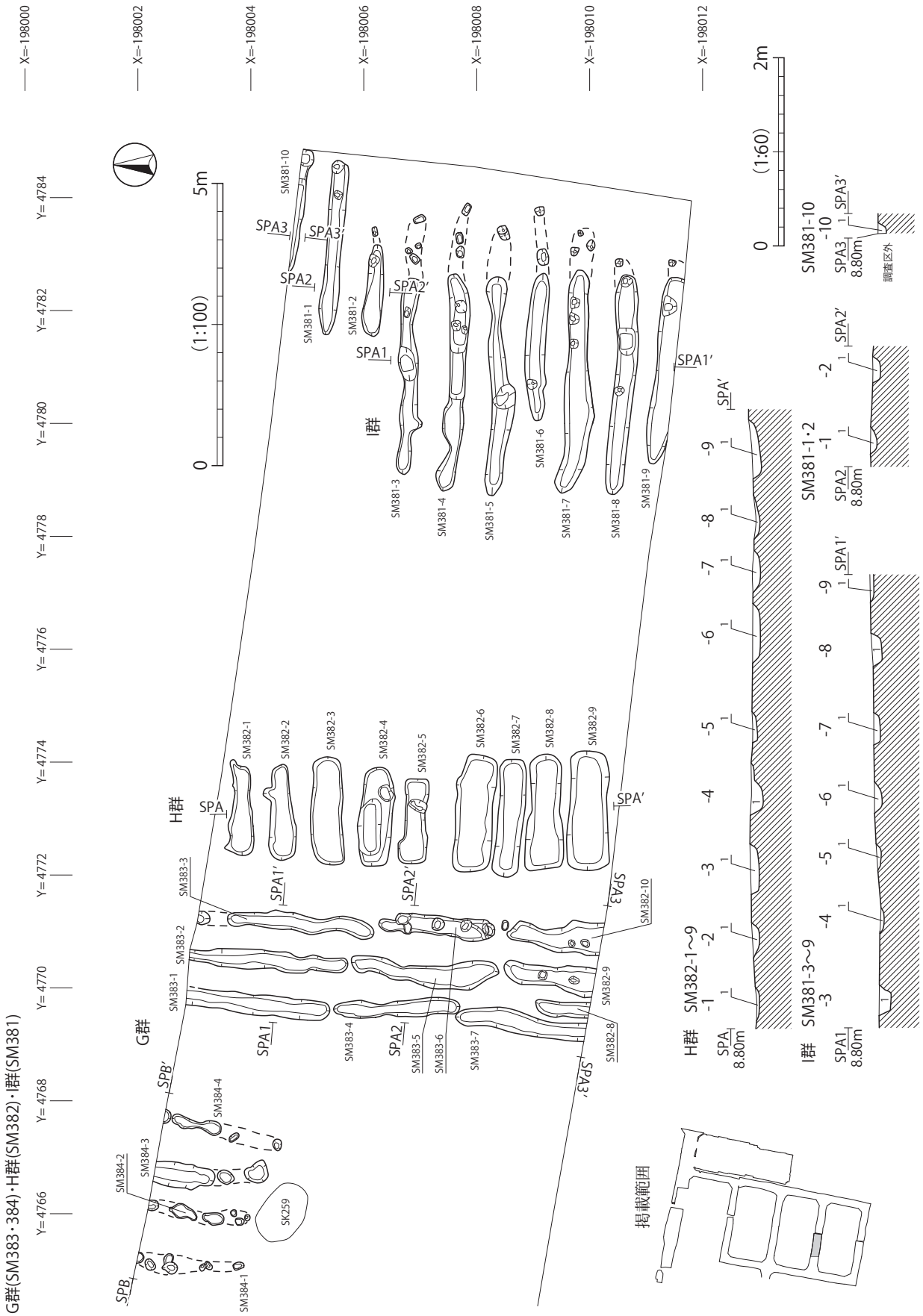
遺物は出土しなかった。

小溝状遺構群 I 群（第 16 図）

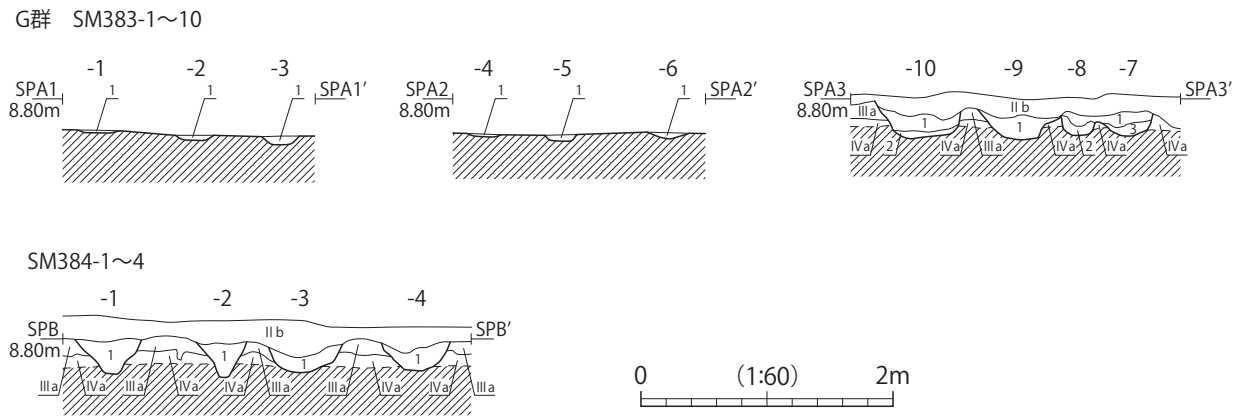
第 7 次調査区の東部にて検出された。SM381 の 10 条が該当し、G・H 群の東側 5 m程に位置している。SD236 と重複し、これよりも新しい。

方向は N － 90 ～ 98° － E を測り、H 群と同様にほぼ東西を指向する。平均幅は 31cm、深さは 5 ～ 16cm を測るが、削平の影響であろうか、平面形状の歪みや断続性が認められる。いずれの底面にも、浅いピット状の掘り込みが伴う。堆積土は基本層Ⅱ層に近似する。

遺物は出土しなかった。



第 16 図　小溝状遺構群 G ～ I 群　H・I 群断面図



第 17 図　小溝状遺構群 G 群断面図

小溝状遺構群 G 群 観察表

遺構名	グリッド	方向	規模(cm) 長さ×幅	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
383-1	273	N-7°-E	(257)×30〜41	5	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(10㎜程度)少量、粗砂微量含む。	
383-2	274	N-4°-E	(284)×21〜39	4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(5〜10㎜程度)少量含む。	
383-3	274	N-6°-E	262×26〜32	5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック(10〜20㎜程度)多量、粗砂微量含む。	
383-4	277	N-1°-E	224×24〜34	4	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(10㎜程度)少量、粗砂微量含む。	
383-5	277	N-9°-W	263×24〜51	8	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック(5〜10㎜程度)少量、粗砂微量含む。	
383-6	278	N-7°-E	201×22〜44	9	1	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック(5〜20㎜程度)多量、粗砂少量含む。	
383-7	277	N-6°-E	(234)×32〜42	7	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	黒色シルト粒少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20〜30㎜程度)多量含む。	
383-8	277	N-5°-E	(97)×28〜32	5	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	黒色シルト粒少量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック(10〜20㎜程度)多量含む。	
383-9	277・278	N-8°-E	(163)×32〜38	9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10〜20㎜程度)多量含む。	
383-10	278	N-9°-E	166×22〜60	10	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。	
					2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	粘土質シルト	黒色シルト粒・炭化物粒を微量含む。	
384-1	273	N-2°-E	(192)×18〜37	3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。上位がグライ化。	
384-2	273	N-10°-E	(183)×19〜26	5	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5〜10㎜程度)多量含む。上位がグライ化。	
384-3	273	N-12°-E	198×29〜47	6	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)を多量含む。東側がグライ化。	
384-4	273	N-14°-E	(105)×13〜26	5	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)を多量含む。殆どがグライ化。	

小溝状遺構群 H 群 観察表

遺構名	グリッド	方向	規模(cm) 長さ×幅	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
382-1	274	N-89°-E	17×26〜46	8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。	
382-2	274	N-87°-E	171×30〜47	10	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10〜20㎜程度)多量含む。	
382-3	278	N-87°-E	194×49〜58	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10〜15㎜程度)多量含む。	
382-4	278	N-93°-E	177×55〜60	15	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10〜30㎜程度)多量含む。	
382-5	278	N-93°-E	151×36〜51	11	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルトブロック(10〜30㎜程度)少量含む。	
382-6	278	N-95°-E	207×64〜70	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルトブロック(10〜20㎜程度)少量、粗砂微量含む。	
382-7	278	N-94°-E	21×44〜47	15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5〜30㎜程度)多量含む。	
382-8	278	N-90°-E	201×49〜67	10	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(10〜15㎜程度)少量、粗砂微量含む。	
382-9	281	N-90°-E	212×63〜72	13	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(10〜20㎜程度)少量、粗砂微量含む。	

小溝状遺構群 I 群 観察表

遺構名	グリッド	方向	規模(cm) 長さ×幅	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
381-1	77	N-95°-E	312×24〜35	12	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック(10〜20㎜程度)多量含む。	SD236より新しい。
381-2	77	N-95°-E	164×31〜35	13	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルトブロック(10〜20㎜程度)少量、粗砂微量含む。	
381-3	77	N-93°-E	350×17〜36	12	1	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック(5〜15㎜程度)・粗砂少量含む。	
381-4	77	N-93°-E	380×19〜37	16	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック(10〜20㎜程度)多量、粗砂少量含む。	
381-5	77	N-91°-E	386×16〜43	9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	粗砂多量、炭化物粒微量含む。	
381-6	77	N-91°-E	262×26〜37	9	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物粒・酸化鉄(斑状)微量含む。	
381-7	77・82	N-90°-E	397×31〜52	15	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(20〜30㎜程度)多量含む。	
381-8	82	N-93°-E	391×32〜41	12	1	10YR4/6 褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(15〜30㎜程度)多量含む。	
381-9	82	N-98°-E	336×(36)	5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10〜30㎜程度)多量含む。	
381-10	274東	N-97°-E	(155)×(16)	9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10〜30㎜程度)多量含む。	SD236より新しい。

小溝状遺構群 J 群（第 18 図）

第 7 次調査区の南西部にて検出された。SM386・387 の 13 条が該当する。北西部は撹乱により大きく壊されている。SD243、Pit47・49 と重複し、これらよりも新しい。

方向はＮ－６～ 17°－Ｅを指向し、真北から若干東に傾く。やや蛇行気味に走行するが、削平による影響も考慮する必要がある。平均幅は 25cm であるが平面形状は著しく歪み、断続的である。特に東側は断続が激しい。深さは４～ 74cm を測り、底面にはピット状の掘り込みが伴う。この掘り込みは、しっかりとしたものが多く、全体的に「柱列」のような状況を呈している。また周辺にもピットが分布し、本群との関連性が考えられる。このため、これらの単独ピットについても第 18 図に位置を図示した。堆積土は基本層Ⅱ層に近似する。

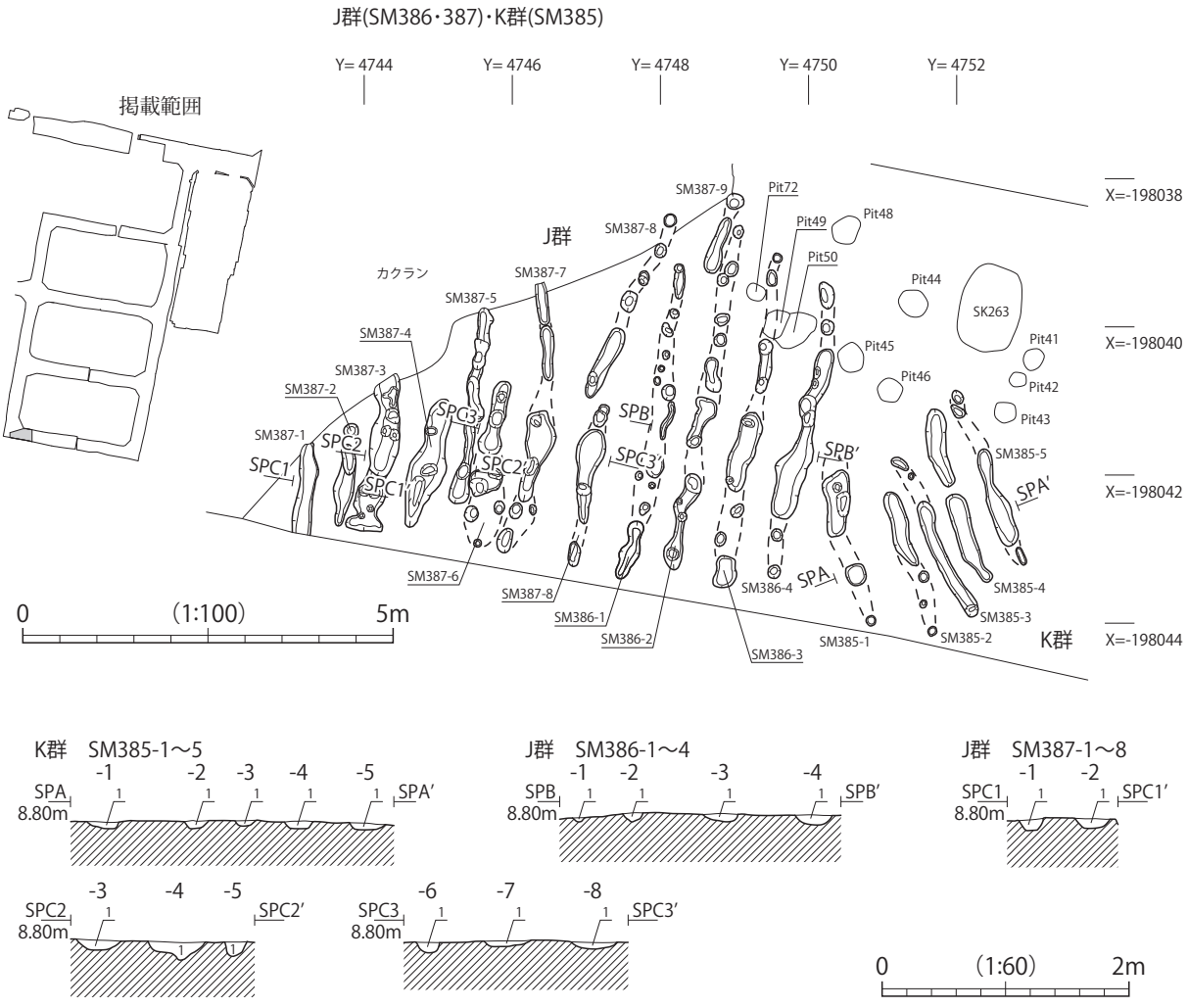
遺物は出土しなかった。

小溝状遺構群 K 群（第 18 図）

第７次調査区の南西部にて検出された。SM385 の５条が該当する。J 群の東側に接して位置する。SD242 と重複し、これよりも新しい。

方向はＮ－ 16 ～ 30°－Ｗを指向し、Ｊ群とは逆に西への傾きが大きい。平均幅は 25cm であるが、Ｊ群と同様に平面形状は著しく歪み、断続的である。深さは６～８cm を測り、底面には浅いピット状の掘り込みが伴う。ただしＪ群とは対照的に、浅い窪み状のものが多い。堆積土は基本層Ⅱ層に近似する。

遺物は出土しなかった。



第 18 図　小溝状遺構群 J・K 群

小溝状遺構群 J 群 観察表

遺構名	グリッド	方向	規模(cm) 長さ×幅	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
386-1	291	N-16°-E	434×16～24	7	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～30㎜程度)多量含む。	
386-2	291	N-13°-E	517×11～33	74	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。	Pit47より新しい。
386-3	291	N-14°-E	449×14～32	9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(20～30㎜程度)多量含む。	Pit49より新しい。
386-4	292	N-17°-E	417×16～43	7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(20～30㎜程度)多量、粗砂微量含む。	
387-1	291	N-8°-E	(122)×20～26	11	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(20～50㎜程度)多量、粗砂微量含む。	
387-2	291	N-9°-E	141×19～27	7	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(30～50㎜程度)多量、粗砂少量含む。	
387-3	291	N-11°-E	(206)×25～40	12	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)多量、粗砂少量含む。	
387-4	291	N-16°-E	181×27～50	15	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～30㎜程度)密に含む。	
387-5	291	N-9°-E	(268)×10～26	13	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)多量、粗砂少量含む。	
387-6	291	N-15°-E	197×17～32	9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(20㎜程度)多量、粗砂少量含む。	
387-7	291	N-6°-E	(372)×12～41	5	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)・粗砂少量含む。	
387-8	287	N-10°-E	(525)×16～38	4	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(30㎜程度)少量含む。	
387-9	287	N-10°-E	113×16～23	13	—	—	—	註記なし。	SD243より新しい。

小溝状遺構群 K 群 観察表

遺構名	グリッド	方向	規模(cm) 長さ×幅	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
385-1	292	N-16°-W	(246)×26～37	6	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)多量、粗砂微量含む。	SD242より新しい。
385-2	292	N-19°-W	(212)×21～27	7	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5㎜程度)多量、粗砂少量含む。	SD242より新しい。
385-3	292	N-30°-W	243×18	6	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5㎜程度)・粗砂少量含む。	SD242より新しい。
385-4	292	N-20°-W	247×21～27	8	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5㎜程度)・粗砂少量含む。	SD242より新しい。
385-5	292	N-23°-W	256×21～31	7	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)・粗砂少量含む。	SD242より新しい。

(3) 溝跡（第 19 ～ 26 図）

当該期の溝跡は、61 条が検出された。低位面に位置するものが圧倒的に多く、高位面で検出されたのは SD179・261・262 の 3 条だけである。

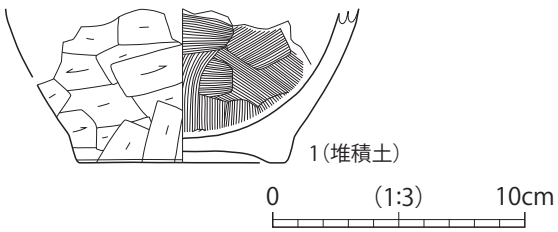
全体が検出された溝跡は SD179・SD209 のみで、ほかは調査区外に延びるか、重複遺構によって一部が失われている。特に第 5 次調査の SD175 ～ 178 は、河川跡トレンチの範囲内しか調査を実施していない。

溝跡の規模・形状は様々であり、上幅の最小は SD237 の 23 ～ 34cm、最大は SD184 の 215 ～ 254cm である。平均幅では 40 ～ 60cm 前後の溝跡が主体である。低位面の溝跡は多くが傾斜に平行、あるいは直交するような方向性を示しており、土地区画などの溝であると思われる。このうち SD184・187・216・225・231・236 は上幅 200cm、深さ 50cm を超える大型の溝跡であり、断面形状が V 字形もしくは薬研状に近いことから灌漑水路の機能も併せ持つと考えられる。また、SD186 は構造的に他の溝跡とは異質であり、以降に個別報告する。

これらの溝跡は基本層Ⅱ層中、あるいはⅡ層直下に位置し、堆積土も基本層Ⅱ層に近似する溝跡が中心である。SD175・183・184・190・201・225・226・228・262 では砂や礫の堆積が部分的に認められ、流水の影響を受けていたことが窺える。第 6 次調査区南部の SD211・212・214・217・218 では堆積土のグライ化が著しく、粘土状に変質している層が多い。

遺物は、SD179 の土師器甕 1 点を掲載した（第 19 図－ 1）。別時期の混入遺物であり、出土遺構とは時期的な隔たりがあるが、当該期の溝跡は出土遺物自体がきわめて少なく、図化できたのはこれのみである。

各溝跡の詳細については、それぞれの観察表を参照されたい。



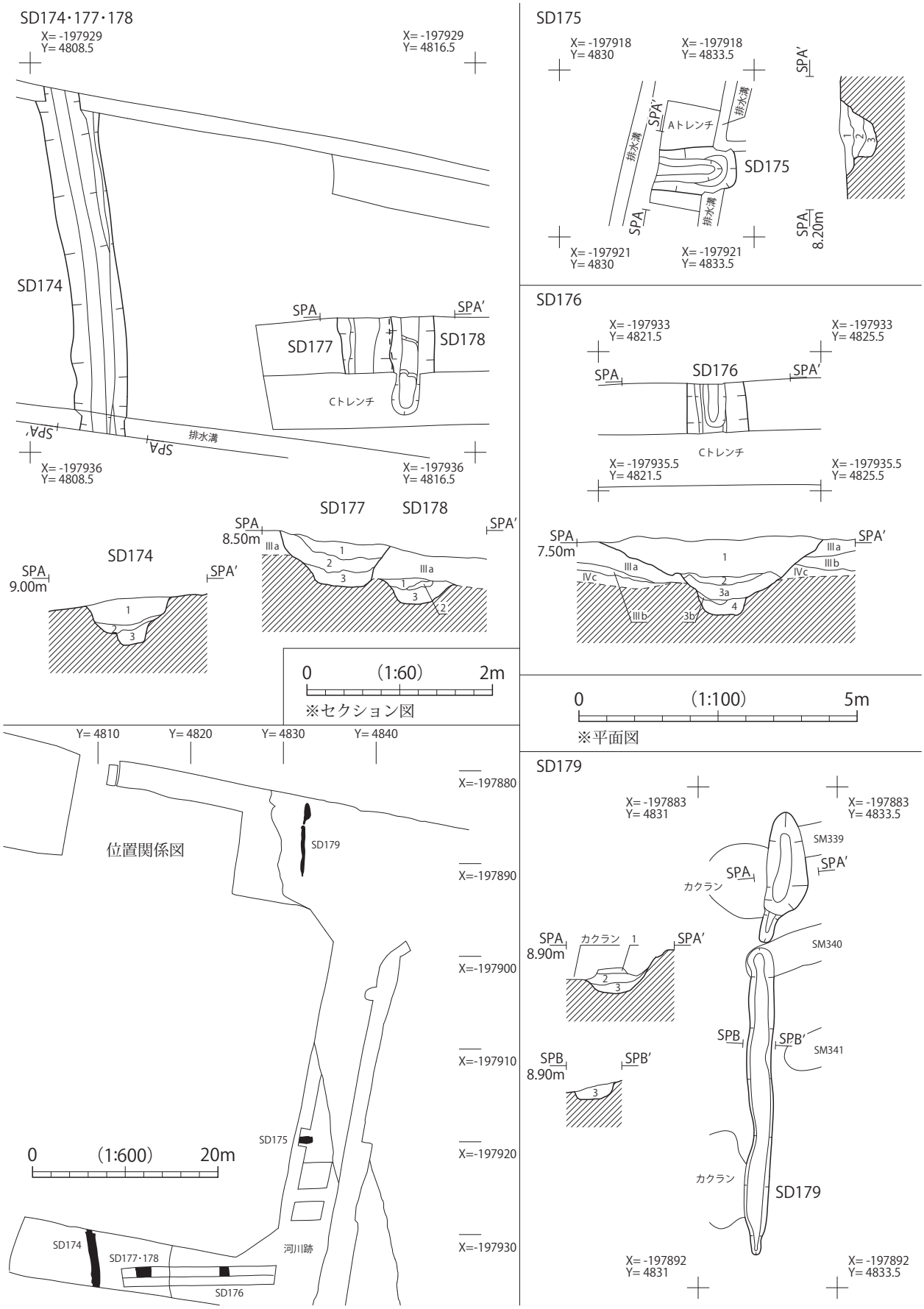
図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高
1	C-055	第5次	SD179	堆積土	土師器	甕	—	8.2	(6.1)

外面調整	内面調整	備考	写真図版
ヘラケズリ	ヘラナデ		91

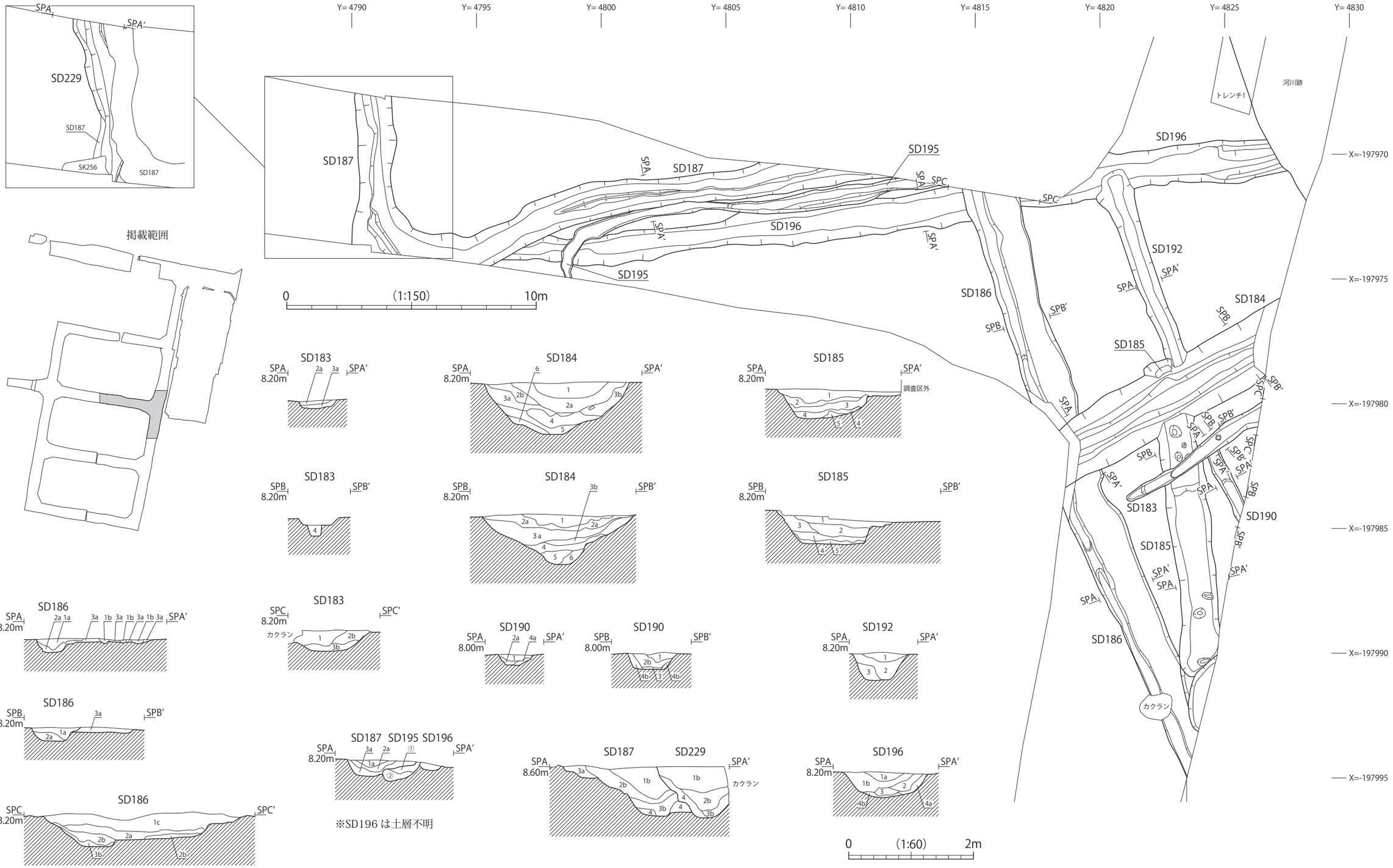
第 19 図　SD179 溝跡出土遺物

溝跡（中世～近世）観察表（1）　※第 20･21 図に対応

遺構名	グリッド	方向	規模(cm)				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD174	32･37 38･41 42	N-7°-W	(570)	76～ 102	20～24	48	1	10YR4/4 褐色	シルト	
							2	10YR3/4 暗褐色	シルト	
							3	10YR4/6 褐色	シルト	
SD175	28･30	N-87°-E	(148)	72～88	12～28	36	1	5Y4/1 灰色	シルト	酸化鉄多量含む。部分的にグライ化。
							2	10GY7/1 明緑灰色	シルト	灰色シルト粒含む。
							3	7.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	
SD176	39	N-85°-W	(88)	102～ 110	12～18	80	1	7.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	礫(10～100㎜程度)多量含む。最下位に細砂が堆積。
							2	5GY3/1 暗オリーブ灰色	シルト	微砂少量含む。
							3a	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	礫(10～50㎜程度)少量含む。
							3b	5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	炭化物粒多量含む。
							4	7.5Y3/1 オリーブ黒色	シルト	礫(10～20㎜程度)少量含む。
SD177	38	N-1°-W	(100)	84～98	24～44	54	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	微砂多量含む。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐色シルト粒多量含む。
							3	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	褐色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。
SD178	38･42	N-6°-E	(174)	42～80	28～32	28	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐色シルト粒多量含む。
							2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
							3	10YR3/3 暗褐色	シルト	にぶい黄褐色土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
SD179	7･12･18	N-1°-W	798	44～64	22～34	28	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	微砂粒多量含む。
							2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	微砂粒･Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
							3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	微砂粒多量含む。
SD183	68	N-57°-E	665	38～77	31～44	3～16	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	細砂	小礫多量、褐灰色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。
							2a	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～10㎜程度)含む。
							2b	10YR5/4 にぶい黄褐色	細砂	褐灰色シルトブロック(10㎜程度)含み、小礫多量含む。
							3a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。
							3b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(10～20㎜程度)含む。
							4	2.5Y5/3 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
SD184	66～68	N-61°-E	1119	215～ 254	28～61	73～89	1	7.5Y4/2 灰褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土(斑状)･小礫少量含む。
							2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色シルト(斑状)含み、礫少量含む。
							2b	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土(斑状)含み、酸化鉄少量含む。
							3a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量･酸化鉄少量含む。
							3b	7.5YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)･細砂･酸化鉄含む。
							4	5Y5/1 灰色	粘土質シルト	酸化鉄･細砂多量、小礫少量含む。
							5	2.5Y6/2 灰黄色	細砂	酸化鉄(ラミナ状)多量、礫少量含む。
							6	10YR6/1 褐灰色	細砂	酸化鉄(ラミナ状)含み、灰白色シルト(斑状)少量含む。
SD185	66･68 70･72	N-8°-W	1267	145～ 171	92～ 118	21～58	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(10～20㎜程度)含む。
							2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
							3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
							4	10YR7/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
							5	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)微量含む。
SD186	61･65 67～ 70･72	N-16～ 24°-W	2515	153～ 204	23～51	8～39	1a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄含み、Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
							1b	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)微量含む。
							1c	10YR3/4 暗褐色	シルト	褐色シルト(斑状)少量、炭化物粒微量含む。
							2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)含む。下位にⅣ層土が薄く堆積。
							2b	10YR3/2 黒褐色	シルト	暗褐色シルト(斑状)含み、酸化鉄少量含む。
							3a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～20㎜程度)少量、酸化鉄含む。
							3b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色シルト(斑状)多量、炭化物粒微量含む。
SD187	55･58 ～62	N-63～ 81°-E･ N-9°-W N-3°-W	東辺 1550 北辺 634	101～ 285	19～ 136	32～55	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)含み、白色粒微量含む。
							2a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含み、炭化物粒微量含む。
							3a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)含み、炭化物粒微量含む。
							1b	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	酸化鉄(斑状)密、粗砂多量、礫(径2cm内)少量含む。一部グライ化。
							2b	7.5YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	酸化鉄(斑状)多量、細砂少量、礫(最大5cm内)微量含む。
							3b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗灰色シルトブロック(10～30㎜程度)･酸化鉄(斑状)密に含む。
							4	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黄白色シルトブロック(10～30㎜程度)･酸化鉄(斑状)密に含む。
SD190	68	N-26°-W	298	49～65	30～44	14～27	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
							2a	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。
							2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
							3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	灰白色シルトブロック(10～30㎜程度)多量含む。
							4a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐灰色･Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
							4b	10YR6/3 にぶい黄橙色	細砂	酸化鉄･Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
SD192	62･66	N-19°-W	821	156～ 77	31～56	36～54	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、白色粒微量含む。
							2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
							3	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
SD195	59～61	N-83°-E	東辺 1320 南辺 1500	26～80	20～44	10～19	①	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含み、小礫微量含む。
							②	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)微量、親指大の礫混じる。
SD196	58～62	N-81～ 85°-E	3423	95～ 172	106～ 20	26～55	1a	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック(10～20㎜程度)含み、白色粒微量含む。
							1b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	粗砂多量、Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)含む。
							3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。
							4a	10YR6/6 明黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(20㎜程度)含む。
							4b	2.5Y7/4 浅黄色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)微量含む。
SD229	55･59 257･260	N-12°-W	300	不明	35	60	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	酸化鉄(斑状)密、細砂多量含む。
							2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土(斑状)密、細砂少量含む。
							3a	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
							3b	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	第3a層よりやや砂質。酸化鉄(斑状)多量、Ⅳ層土粒少量含む。
							4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。



第 20 図　溝跡（中世〜近世）（1）



第 21 図　溝跡（中世～近世）（2）

SD186 溝跡（第 21 図）

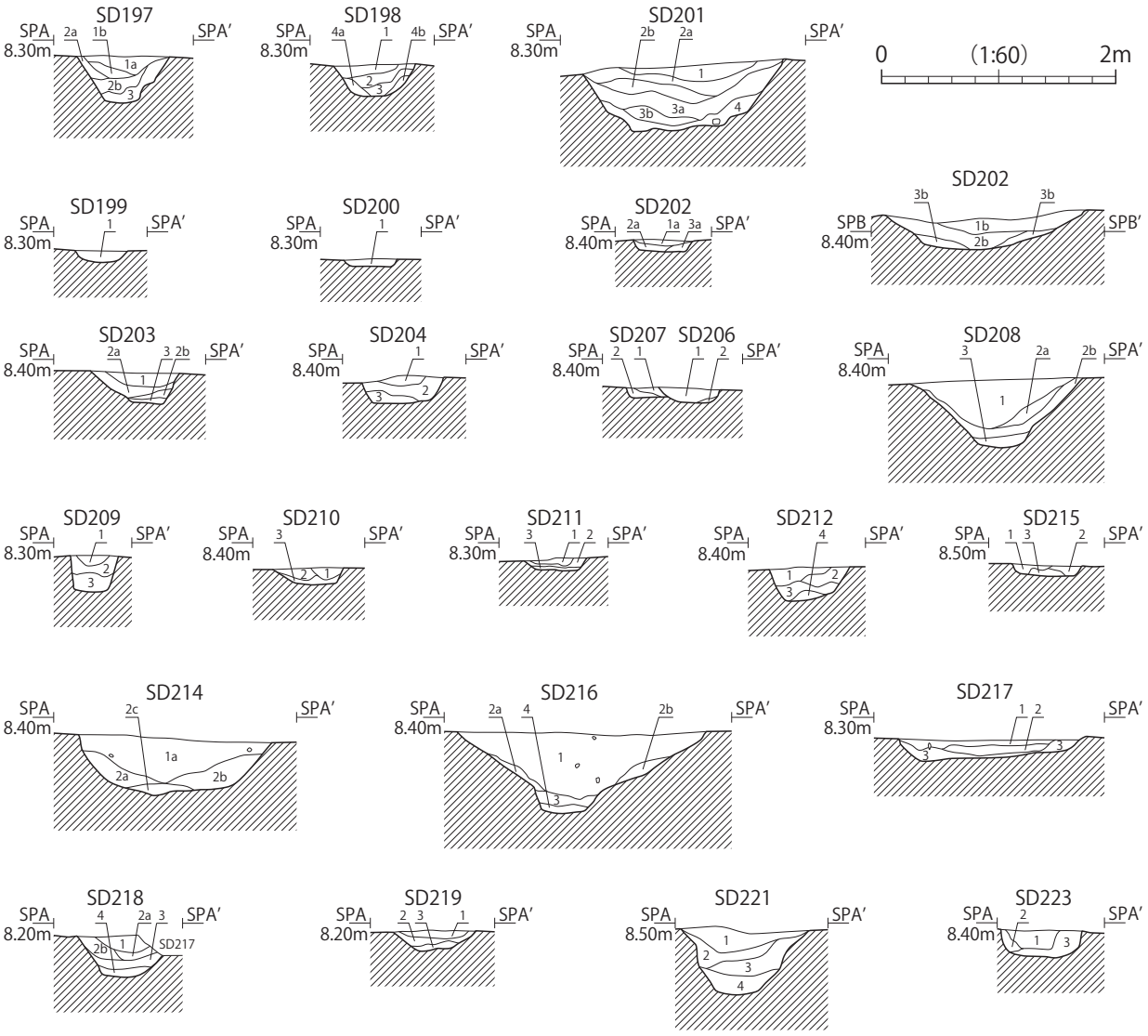
第 6 次調査区の低位面に位置し、61・65・67 ～ 70・72 グリッドにて検出された。南北方向の溝跡で、両端部は調査区外へと延びる。SD196 より新しく、SD184・185 より古い。

方向は N － 16 ～ 24° － W を指向し、真北からやや西に傾く。他の溝跡とは異なり、幅 96 ～ 152cm のテラス面を伴う溝跡である。このテラス面の西縁に幅34～92cm、深さ40cm前後の溝が掘削されている。テラス面は浅く、検出面からの深さは 2 ～ 9cm である。上面はほぼ平坦であり、僅かではあるが南側方向へと傾斜している。また、人足跡様の窪みが多数形成されており、特に南半部で顕著に認められた。

堆積土は大別で３層、細別で７層に分層された。大別３層は基本層Ⅳ層に近似する層で、面上に薄く堆積している。人足跡様の窪みは全てこれを切り込むかたちで検出され、付属する溝もこの層を掘り込んでいることから、同層は整地層と考えられる。

遺物は出土しなかった。

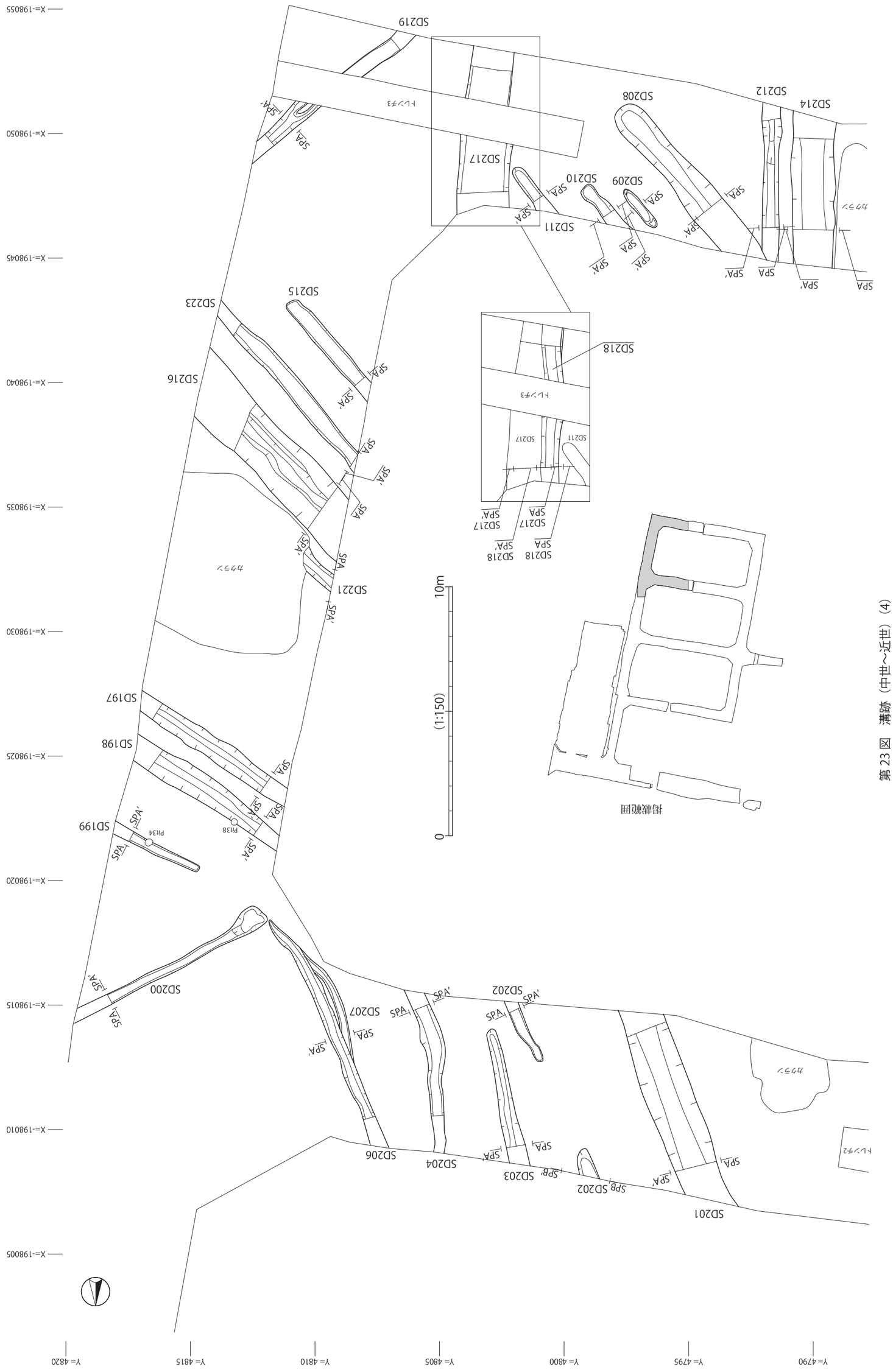
本溝跡の東側には SD190・192 がほぼ均一な距離を保って平行し、本溝跡と何らかの関連性が考えられる。



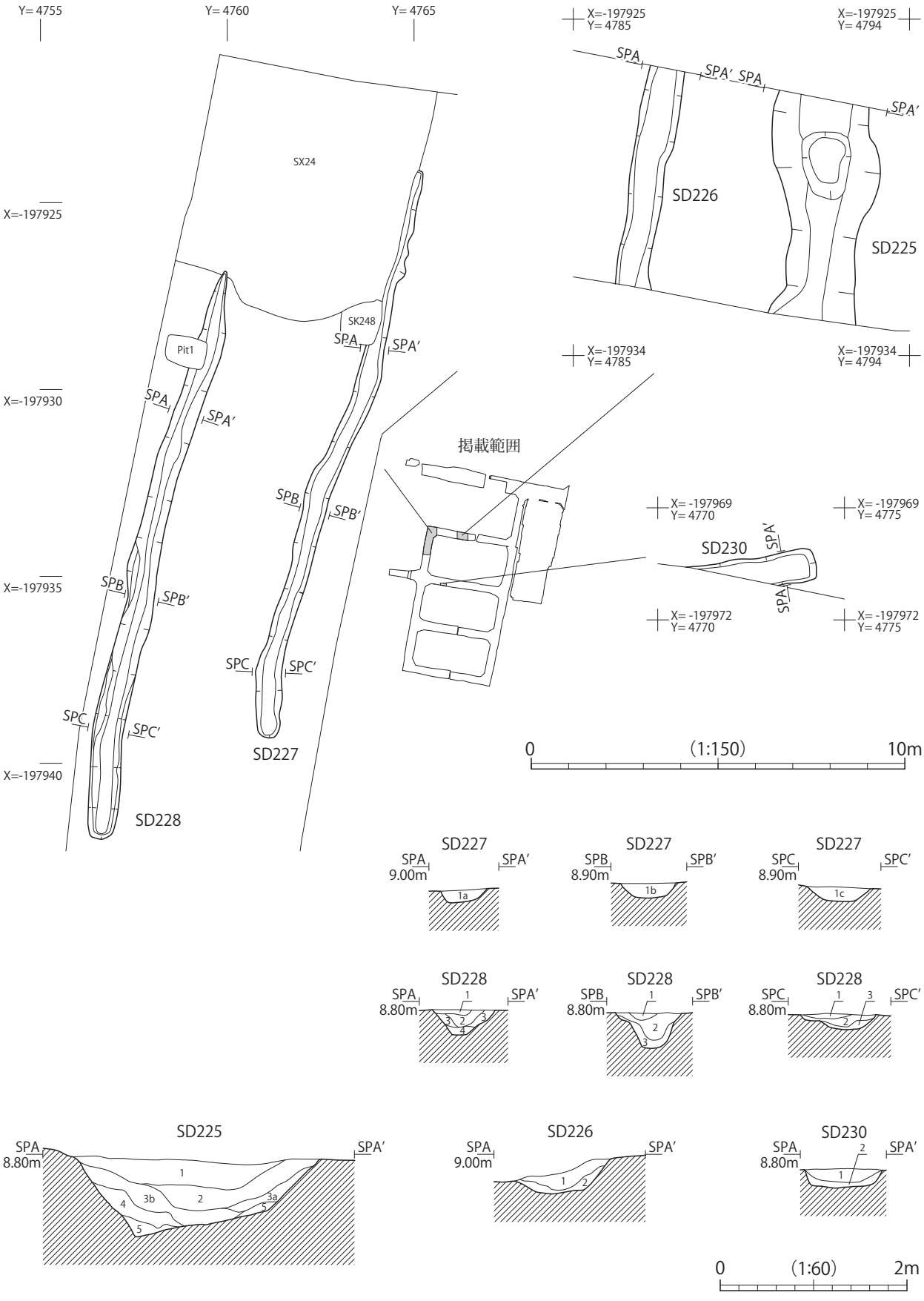
第 22 図　溝跡（中世～近世）（3）

溝跡（中世～近世）観察表（2）　※第 22・23 図に対応

遺構名	グリッド	方向	規模(cm)				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD197	89・91	N-55°-W	743	79～96	21～28	40～45	1a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック多量、白色粒微量含む。
							1b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルト（斑状）少量含む。
							2a	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロック（10～20㎜程度）含む。
							2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）含み、白色粒微量含む。
							3	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロック（10～20㎜程度）多量含む。
SD198	89・91	N-55°-W	733	58～122	21～33	27～42	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。薄くグライ化。
							2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）少量含む。
							3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30㎜程度）少量含む。
							4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）含む。
							4b	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～30㎜程度）多量含む。
SD199	89	N-65°-W	387	33～49	23～29	7～10	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロック（10～20㎜程度）少量含む。
SD200	85・88	N-62°-E	892	42～91	33～62	7～21	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色シルトブロック（10㎜程度）・灰白色火山灰?微量含む。
SD201	78・83	N-20°-W	875	153～192	70～92	57～69	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック（10㎜程度）含み、酸化鉄少量含む。
							2a	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	黒褐色・褐灰色シルトブロック（10～20㎜程度）少量含む。
							2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック（10～20㎜程度）含む。
							3a	10YR6/4 にぶい黄橙色	細砂	黒褐色シルトブロック（20㎜程度）微量含む。
							3b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック（10～20㎜程度）、酸化鉄微量含む。
							4	10YR5/4 にぶい黄褐色	細砂	褐灰色シルトブロック（10～20㎜程度）微量含む。
SD202	78・84	N-24°-W	807	29～68	19～36	0～8	1a	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄含む。
							2a	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	黄褐色シルトブロック（10㎜程度）少量、酸化鉄微量含む。
							3a	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロック（20㎜程度）少量、酸化鉄微量含む。
							1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック（10～20㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。
							2b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。
							3b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック（10～20㎜程度）少量含む。
SD203	79・84	N-13°-W	569	44～78	20～23	27～31	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック（10～20㎜程度）少量含む。一部グライ化。
							2a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック（5～20㎜程度）含む。一部グライ化。
							2b	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	明オリーブ灰色粘土ブロック（10㎜程度）・炭化物粒微量含む。
							3	5GY5/1 オリーブ灰色	砂質シルト	酸化鉄少量含む。
SD204	79・84 87	N-3～21°-W	684	41～90	30～48	14～21	1	5B5/1 青灰色	シルト	明オリーブ灰色粘土ブロック（5～20㎜程度）微量含む。グライ化。
							2	10BG4/1 暗青灰色	シルト	白色粒・炭化物粒微量含む。グライ化。
							3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）含み、酸化鉄微量含む。
SD206	79・84 87・88	N-22°-W	1038	42～56	19～30	11～16	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。
							2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。
SD207	84・87 88	N-10°-W	520	27～31	13～22	7～11	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）含む。
							2	10YR6/6 明黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。
SD208	103・107	N-41°-W	844	108～151	33～71	39～54	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック（5～10㎜程度）・白色粒少量含む。
							2a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック（5～20㎜程度）含む。
							2b	10YR6/6 明黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック（10～20㎜程度）多量含む。
							3	10YR4/4 褐色	シルト	褐灰色シルトブロック（5～20㎜程度）少量含む。
SD209	103	N-41°-W	196	38～43	28～30	28～41	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、白色粒微量含む。
							2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）含み、炭化物粒微量含む。
							3	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック（10～20㎜程度）微量含む。
SD210	103	N-42°-W	260	44～60	29～43	8～13	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	黒褐色シルト（斑状）多量含む。
							2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（20㎜程度）少量含む。
							3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック（10㎜程度）微量含む。
SD211	104	N-39°-W	254	51～62	43～45	9～12	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）含む。
							2	5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	黒褐色シルトブロック（5～10㎜程度）少量含む。
							3	10G5/1 緑灰色	シルト	黒褐色シルトブロック（10～20㎜程度）微量含む。
SD212	98・103 107	N-1°-E	641	59～78	19～31	21～49	1	10Y5/1 灰色	粘土質シルト	灰オリーブ色シルトブロック（10～20㎜程度）・炭化物粒少量含む。
							2	7.5GY4/1 暗緑灰色	粘土質シルト	灰オリーブ色シルトブロック（10㎜程度）少量含む。
							3	7.5GY5/1 緑灰色	粘土	灰オリーブ色シルトブロック（5～20㎜程度）少量含む。
							4	7.5GY6/1 緑灰色	シルト	黒褐色シルトブロック（20㎜程度）少量含む。
SD214	97・98 102・103 106・107	N-1°-E	632	162～176	87～101	52～55	1a	7.5GY5/1 緑灰色	粘土	酸化鉄少量、白色粒・炭化物粒・小礫微量含む。
							2a	5GY5/1 オリーブ灰色	粘土	黒褐色粘土ブロック（5～10㎜程度）少量、酸化鉄微量含む。
							2b	7.5GY4/1 暗緑灰色	粘土	炭化物粒・小礫微量含む。
							2c	10GY5/1 緑灰色	砂質シルト	白色粒・小礫少量含む。
SD215	94・99 100	N-41°-W	507	59～71	46～56	6～10	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。
							2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量、白色粒微量含む。
							3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック（10～20㎜程度）含む。
SD216	92～95 100	N-45°-W	951	169～227	19～45	64～72	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック（5㎜程度）・白色粒少量、炭化物粒微量含む。
							2a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	褐灰色シルトブロック（5～20㎜程度）・炭化物粒微量含む。
							2b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	小礫・白色粒微量含む。
							3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック（5～20㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。
							4	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐灰色シルトブロック（10㎜程度）含む。
SD217	104・108	N-6°-E	681	148～174	133～154	9～17	1	10G5/1 緑灰色	粘土質シルト	白色粒少量、炭化物粒微量含む。
							2	7.5GY5/1 緑灰色	シルト	白色粒・炭化物粒微量含む。
							3	10G4/1 暗緑灰色	シルト	細砂・白色粒少量含む。
SD218	104・108	N-2°-E	636	(71)～(77)	31～39	25～45	1	7.5GY5/1 緑灰色	粘土質シルト	白色粒・炭化物粒微量含む。
							2a	5G4/1 暗緑灰色	粘土質シルト	白色粒微量含む。
							2b	5GY5/1 オリーブ灰色	シルト	白色粒少量、炭化物粒微量含む。
							3	5G3/1 暗緑灰色	シルト	細砂粒少量、白色粒微量含む。
							4	5G4/1 暗緑灰色	シルト	細砂粒少量含む。
SD219	105・108 109	N-52°-E	834	57～86	30～56	6～15	1	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	酸化鉄少量、白色粒微量含む。
							2	7.5GY5/1 緑灰色	シルト	明オリーブ灰色シルトブロック（10～20㎜程度）微量含む。
							3	10Y5/1 灰色	シルト	青灰色シルトブロック（5～10㎜程度）・酸化鉄微量含む。
SD221	92・93	N-48°-W	185	58～61	24～31	26～31	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～30㎜程度）少量含む。
							2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30㎜程度）微量含む。
							3	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）含む。
							4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）少量含む。
SD223	94・95 100	N-42°-W	870	52～76	34～61	18～25	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～30㎜程度）少量含む。
							2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量含む。
							3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。



第 23 図　溝跡（中世～近世）(4)



第 24 図　溝跡（中世～近世）（5）

溝跡（中世～近世）観察表（3）　※第 24 図に対応

遺構名	グリッド	方向	規模(cm)				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD225	31・36	N-5°-E	617	183～285	59～136	64～69	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄(斑状)密、Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・粗砂少量含む。
							2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	灰色シルト・酸化鉄(斑状)密、粗砂多量、礫(径5cm内)微量含む。
							3a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰色シルト・酸化鉄(斑状)密、礫(径5cm内)微量含む。
							3b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土斑・灰色シルト(斑状)多量、下位に礫(径15cm内)少量含む。
							4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトとの互層。礫(径3cm内)少量含む。
							5	10YR2/3 黒褐色	砂礫	径15cm内の礫と粗砂主体。
SD226	229・233	N-10°-E	592	83～105	43～75	25～29	1	10YR3/1 黒褐色	砂礫	径5cm内の礫と粗砂主体。礫が大半占める。
							2	2.5Y4/1 黄灰色	細砂	黄褐色シルトブロック(10㎜程度)微量含む。
SD227	223・227 231・235	N-14～21°-E	1805	53～71	28～41	11～16	1a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。
							1b	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)微量含む。
							1c	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
SD228	226・230 234・236	N-12～16°-E	1570	67～84	17～37	20～39	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	黒褐色土(斑状)多量含む。
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
							3	2.5Y4/6 オリーブ褐色	砂質シルト	黒褐色土ブロック(10㎜程度)多量含む。
							4	2.5Y5/3 黄褐色	細砂	※底面砂層の浮き上がり。
SD230	259	N-82°-E	260	88	66	19	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、礫(径1cm内)微量含む。
							2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)密に含む。

溝跡（中世～近世）観察表（4）　※第 25 図に対応

遺構名	グリッド	方向	規模(cm)				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD231	262～264	N-79°-E	670	199～234	20～73	35～51	1a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒微量含む。部分的にグライ化。
							1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。
							1c	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
							1d	10YR2/2 黒褐色	シルト	粗砂・炭化物粒微量含む。
							2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。
SD232	245・250 254・258 262	N-15～20°-E	2025	39～88	15～50	4～15	1a	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	褐色・黒色シルトブロック(10～20㎜程度)密に含む。
							1b	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
							2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック主体。粗砂多量含む。
SD233	245・250 254・258 262・264	N-16°-E	2980	37～84	16～46	3～18	1a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒微量含む。
							1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
SD234	245・250 254・258	N-15°-E	1520	46～76	24～59	2～12	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	粗砂多量含む。部分的にグライ化。
SD235	264・266 268～271・275	N-8°-W～N-13°-E	2590	66～115	36～79	10～29	1a	7.5Y4/1 灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・粗砂少量含む。全体がグライ化。
							1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)少量、細砂微量含む。
							2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)少量、粗砂微量含む。全体がグライ化。
							3	5Y4/4 暗オリーブ色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
SD236	278・281	N-67°-E～N-12°-W	西辺540 北辺580	187～208	34～56	62～70	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	粗砂密、礫(径10cm内)多量、炭化物粒少量含む。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)含み、部分的に礫(径3cm内)が集中。
							3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・粗砂少量含む。
							4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	細砂密、礫(径3cm内)多量含む。
							5	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、礫(径5cm内)少量含む。
SD237	275・279	N-24°-E	580	23～34	11～17	3～15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
SD244	265・266	N-4°-E	415	27～52	20～36	3～10	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、粗砂微量含む。

(4) 井戸跡（第 27 図）

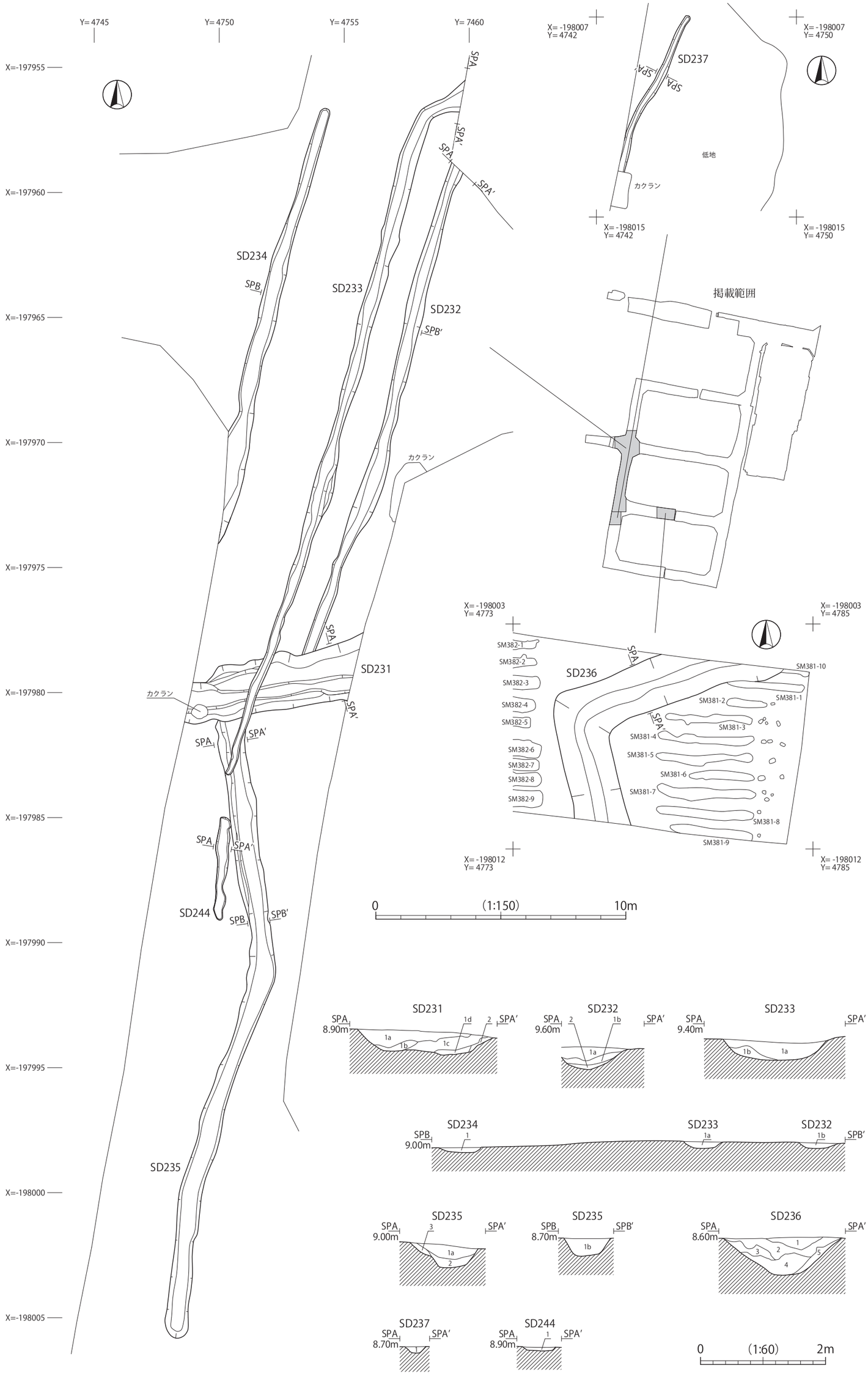
井戸跡は 4 基あり、いずれも低位面から検出された。このうち SE5 ～ 7 の 3 基が河川跡の範囲内に位置し、河川跡形成以前に位置付けられる。層位的にみると SE7 が河川跡直下に位置するのに対し、SE5・6 はさらにこれよりも下層から検出されている。また、SE8 は第 7 次調査区の南東端部付近に位置し、他の 3 基とは立地をやや異にしている。

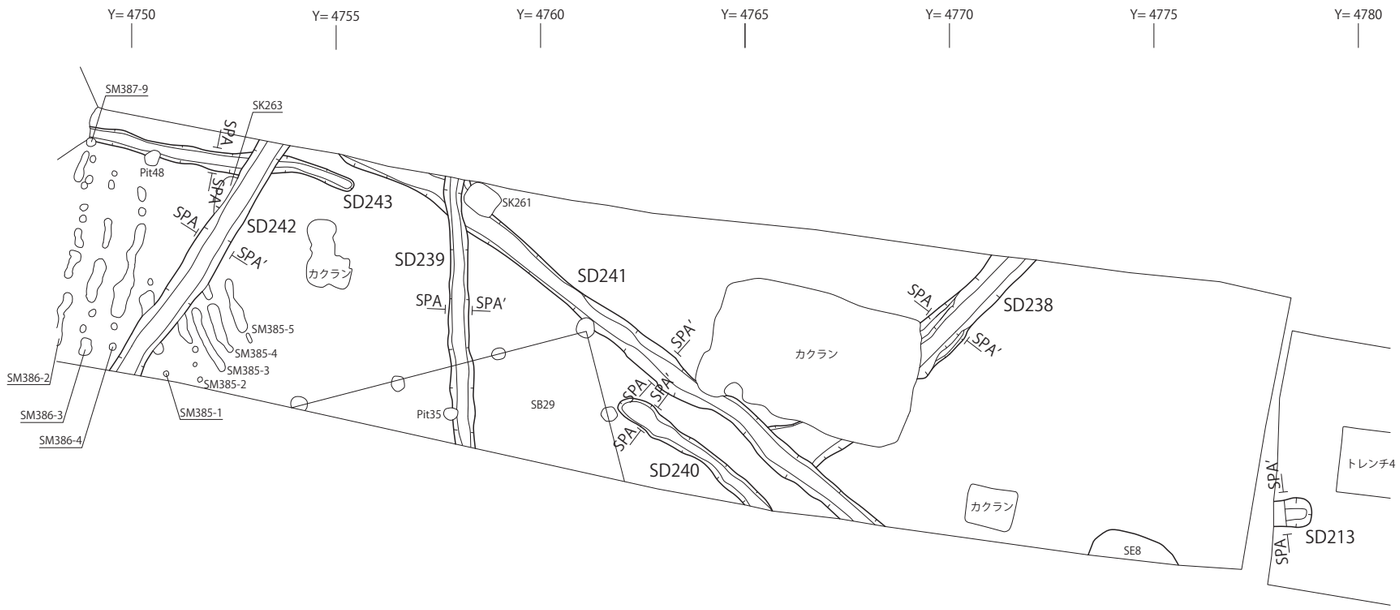
形状や規模を把握できたのは SE5・7 の 2 基だけで、SE6 は掘り込みの南東端部の僅かな部分、SE8 は北 1/3 程が検出されたにすぎない。SE5・7 の平面形状はともに円形基調で、深さは SE5 で 108cm、SE7 で 178cm（トレンチ壁面の断面部分を含む）を測る。立面形状は SE5 が円錐形、SE7 が漏斗形を呈す。ともに井戸枠は検出されていない。

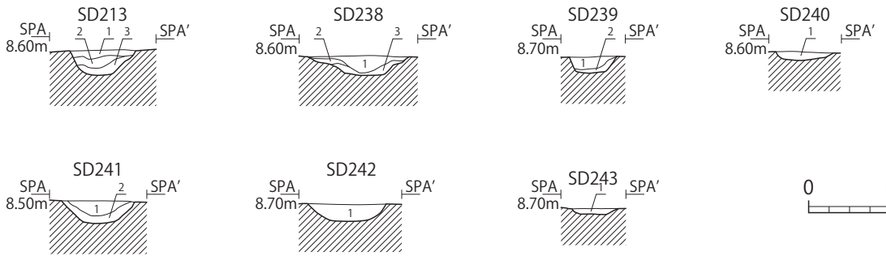
堆積土は、確認できた限りでは SE5 ～ 7 が自然堆積と思われる。SE8 は上層部分に粗砂や大小礫を含み、人為的な埋戻しが行われたと考えられる。

遺物は、SE7 の木製品 1 点を掲載した（第 27 図－ 1）。横槌で、柄部は折れている。SE7 からはこのほか建築部材と思われる大振りの板や、棒状の木製品が出土している。また、SE5 からも棒状の木製品が 2 点出土したが、いずれも図化できなかった。

各井戸跡の詳細については、それぞれの観察表を参照されたい。

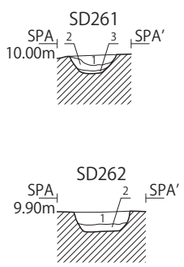

Y= 4745
Y= 4750
Y= 4755
Y= 7460
X=-197955
X=-197960
X=-197965
X=-197970
X=-197975
X=-197980
X=-197985
X=-197990
X=-197995
X=-198000
X=-198005
SD234
SD233
SD232
SD231
SD244
SD235
SPA
SPA′
SPB
SPB′
カクラン
X= -198007
Y= 4742
X= -198007
Y= 4750
SD237
低地
X= -198015
Y= 4742
X= -198015
Y= 4750
掲載範囲
X= -198003
Y= 4773
X= -198003
Y= 4785
SD236
SM382-1
SM382-2
SM382-3
SM382-4
SM382-5
SM382-6
SM382-7
SM382-8
SM382-9
SM381-10
SM381-1
SM381-2
SM381-3
SM381-4
SM381-5
SM381-6
SM381-7
SM381-8
SM381-9
X= -198012
Y= 4773
X= -198012
Y= 4785
0
(1:150)
10m
SD231
SPA
8.90m
SPA′
1d
2
1a
1b
1c
SD232
9.60m
1b
SD233
9.40m
SD234
SPB
9.00m
1
SD235
3
SD235
8.70m
SD236
8.60m
SD237
8.70m
SD244
1
0
(1:60)
2m

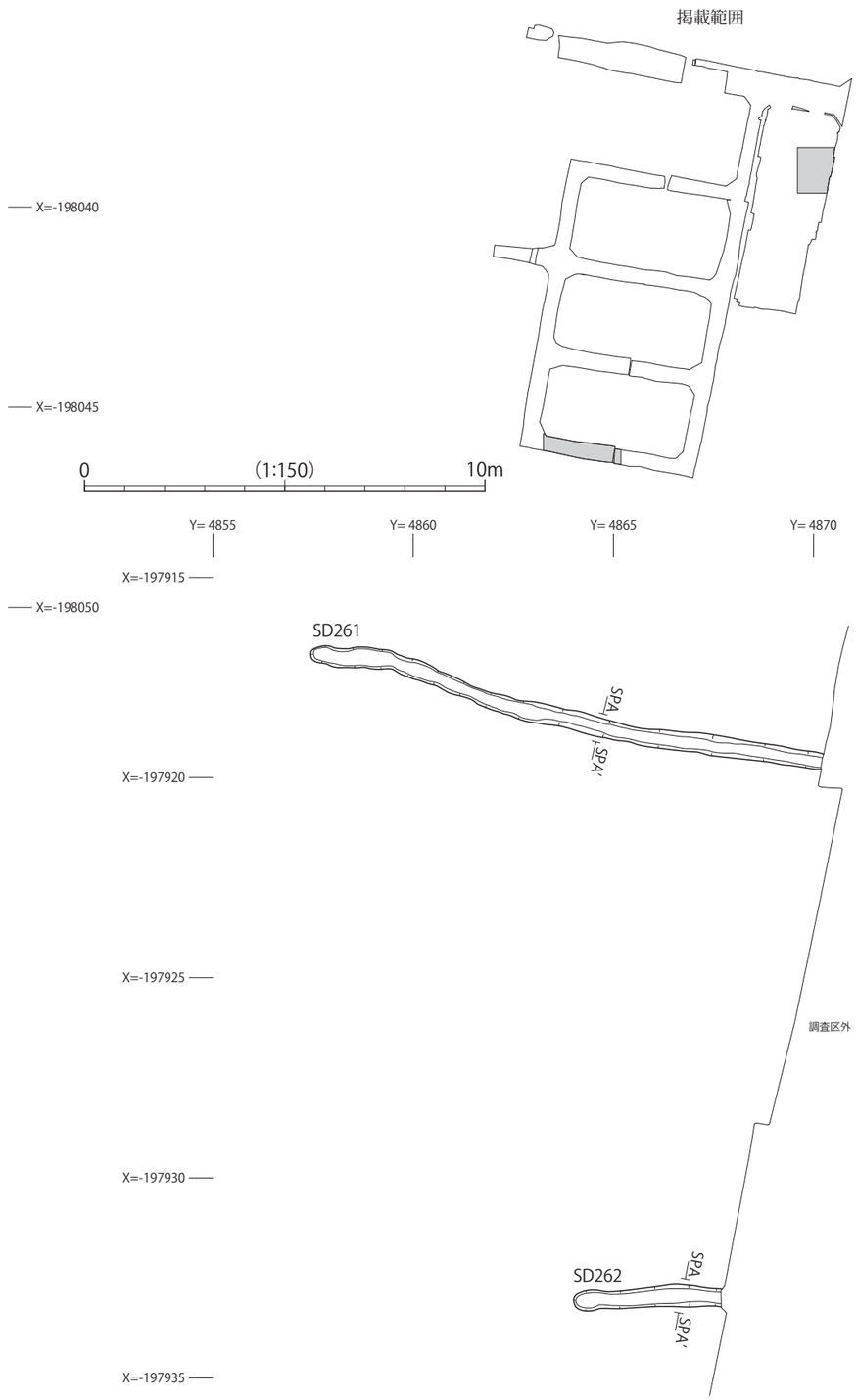




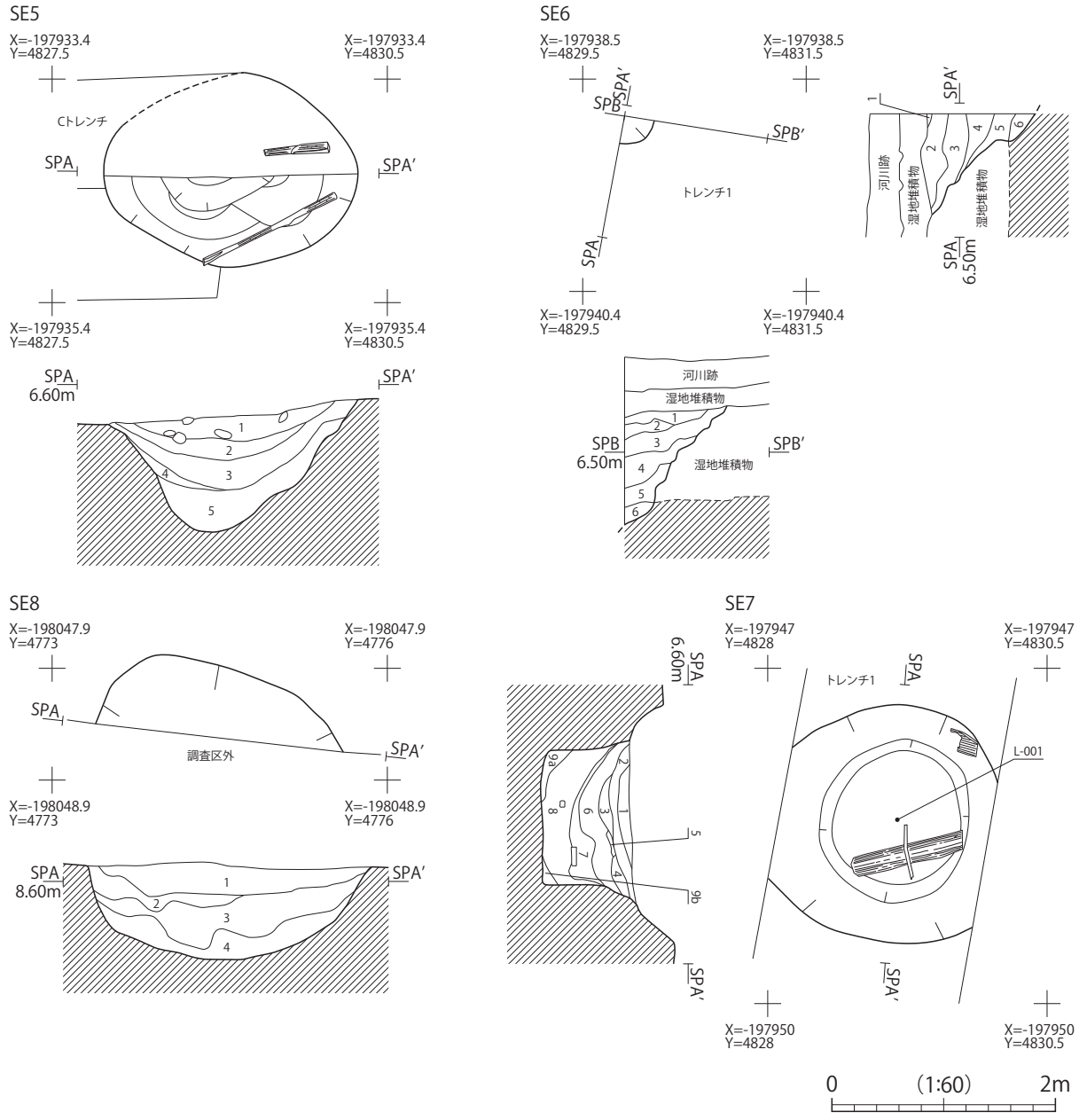
溝跡（中世〜近世）観察表（5）

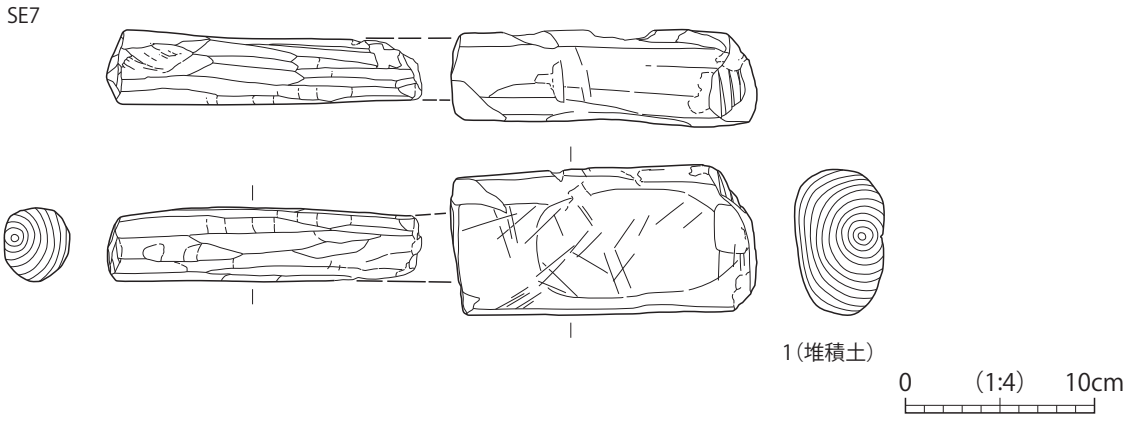
遺構名	グリッド	方向	規模(cm) 全長	上端幅	下端幅	深さ	層位	土色	土性	備考
SD213	101	N-87°-E	93	61〜72	26〜29	23	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10〜20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
							2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10〜20㎜程度)含む。
							3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5〜20㎜程度)少量含む。
SD238	96・293 295	N-49°-E	725	83〜140	32〜105	16〜23	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒・粗砂微量含む。
							2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(ラミナ状)多量含む。
							3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5〜10㎜程度)多量含む。
SD239	288・292 294	N-3°-W	655	42〜56	15〜33	17〜32	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。
SD240	293・295	N-53°-W	425	35〜63	14〜47	2〜13	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロックと黒褐色シルトブロックの混土。粗砂微量含む。
SD241	288・292 293・295	N-52°-W	1450	47〜76	17〜48	5〜17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒・粗砂微量含む。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5〜10㎜程度)多量含む。
SD242	288・291 292	N-35°-E	670	66〜85	37〜41	12〜14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5〜20㎜程度)少量、粗砂微量含む。
SD243	287・288	N-106°-E	620	40〜48	13〜26	3〜14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5〜10㎜程度)多量含む。
SD261	18〜20	N-70〜86°-W	1310	39〜51	20〜41	5〜27	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
							2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
							3	10YR3/3 暗褐色	シルト	黄褐色微砂との互層。
SD262	33	N-87°-E	370	41〜54	28〜37	17〜19	1	10YR3/4 暗褐色	微砂	灰白色火山灰少量含む。
							2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。





第 26 図　溝跡（中世〜近世）（7）





図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	法量(cm) 全長	幅	厚さ	備考	写真図版
1	L-001	第6次	SE7	堆積土	横槌	15.9	7.6	4.7	柄部全長(16.7)cm、径3.9cm	91

第 27 図　井戸跡・SE7 出土遺物

井戸跡 観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SE5	39・40	楕円形	228×176	108	1	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	灰色シルト粒多量含む。	河川跡より古い。
					2	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	黒色・灰色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
					3	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	灰色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
					4	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	粘土質シルト	オリーブ黒色シルト(ラミナ状)多量含む。	
					5	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	灰色シルト粒(5～10㎜程度)多量含む。	
SE6	43・44	円形?	(27)×(26)	(110)	1	7.5GY5/1 緑灰色	粘土	青灰色粘土ブロック(5～10㎜程度)含み、灰白色火山灰少量含む。	河川跡より古い。
					2	5GY5/1 オリーブ灰色	粘土	明オリーブ灰色粘土ブロック(5～10㎜程度)含む。	
					3	5GY4/1 暗オリーブ灰色	粘土	青白色粘土ブロック(5～10㎜程度)含み、炭化物微量含む。	
					4	10GY4/1 暗緑灰色	粘土	明オリーブ灰色粘土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物微量含む。	
					5	5GY5/1 オリーブ灰色	粘土	青灰色粘土ブロック(5～20㎜程度)含み、炭化物微量含む。	
					6	5G4/1 暗緑灰色	粘土質シルト	青灰色シルト(ラミナ状)含む。	
SE7	47	円形	213×(187)	178	1	7.5GY3/1 暗緑灰色	粘土	青灰色シルトブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物微量含む。	河川跡より古い。
					2	10G3/1 暗緑灰色	粘土	明オリーブ灰色粘土ブロック(10～20㎜程度)・灰白色火山灰含む。	
					3	10Y4/1 灰色	粘土	青灰色粘土ブロック(10～20㎜程度)・灰白色火山灰微量含む。	
					4	7.5Y5/2 灰オリーブ色	粘土質シルト	青灰色粘土ブロック(10～20㎜程度)・灰白色火山灰含む。	
					5	5BG3/1 暗青灰色	粘土	炭化物・灰白色火山灰微量含む。	
					6	5G1.7/1 緑黒色	粘土	緑灰色粘土ブロック(10㎜程度)含み、灰白色火山灰微量含む。	
					7	10GY5/1 緑灰色	細砂	黒色シルト(ラミナ状)含む。	
					8	N3/0 暗灰色	粘土質シルト	緑灰色微砂(ラミナ状)含み、灰白色火山灰少量含む。	
					9a	10GY6/1 緑灰色	砂質シルト	黒色シルト(ラミナ状)多量含む。	
					9b	10GY7/1 明緑灰色	細砂	黒色シルト(斑状)含む。	
SE8	101	円形?	(223)×(69)	(82)	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック(10～20㎜程度)・粗砂少量、礫(10～20㎜程度)微量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	粗砂・炭化物粒少量、礫(10㎜程度)を微量、長50㎜大の木片1点含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	粗砂	礫(10～50㎜程度)多量、黒褐色シルトブロック(10～30㎜程度)・炭化物粒少量含む。	
					4	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	粗砂多量、特に一部ブロック状に含み、Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)・礫(30㎜程度)少量含む。	

(5) 土坑（第 28 ～ 33 図）

68 基が検出された。高位面ではほぼ全域に、低位面ではや比較的高所の西半部を中心に点在する。形状や規模に統一性はさほど認められないが、傾向としては平面形状が円形基調で断面形状が椀（皿）形もしくは逆台形を呈すか、平面形状が方形基調で断面形状が箱形もしくは逆台形を呈す土坑が多く見受けられる。第 7 次調査区北西部の SK247・249・253 ～ 254 は狭長な長方形の平面を呈し、規模の上でも共通した規格をもつ一群であると思われる。また、一部の検出ではあるが、付近に位置する SK248・251・256 も同様の規格をもつ可能性が高い。

そのほか特徴的な土坑として、底面に炭化物を敷き詰めた SK262・267、直径 35cm 程の白色粘土塊が検出された SK313 が挙げられる。しかしこれらの性格については明らかにできなかった。

遺物は SK223・224・229・230・244・246・287・289・303 の土師器坏 2 点、甕 2 点、ミニチュア土器 1 点のほか、金属製品 2 点、礫石器 3 点を掲載した（第 28 図）。6・7 の金属製品はいずれも鉄鏃で、長三角形鏃の鏃身部破片である。

土坑（中世～近世）観察表（1）

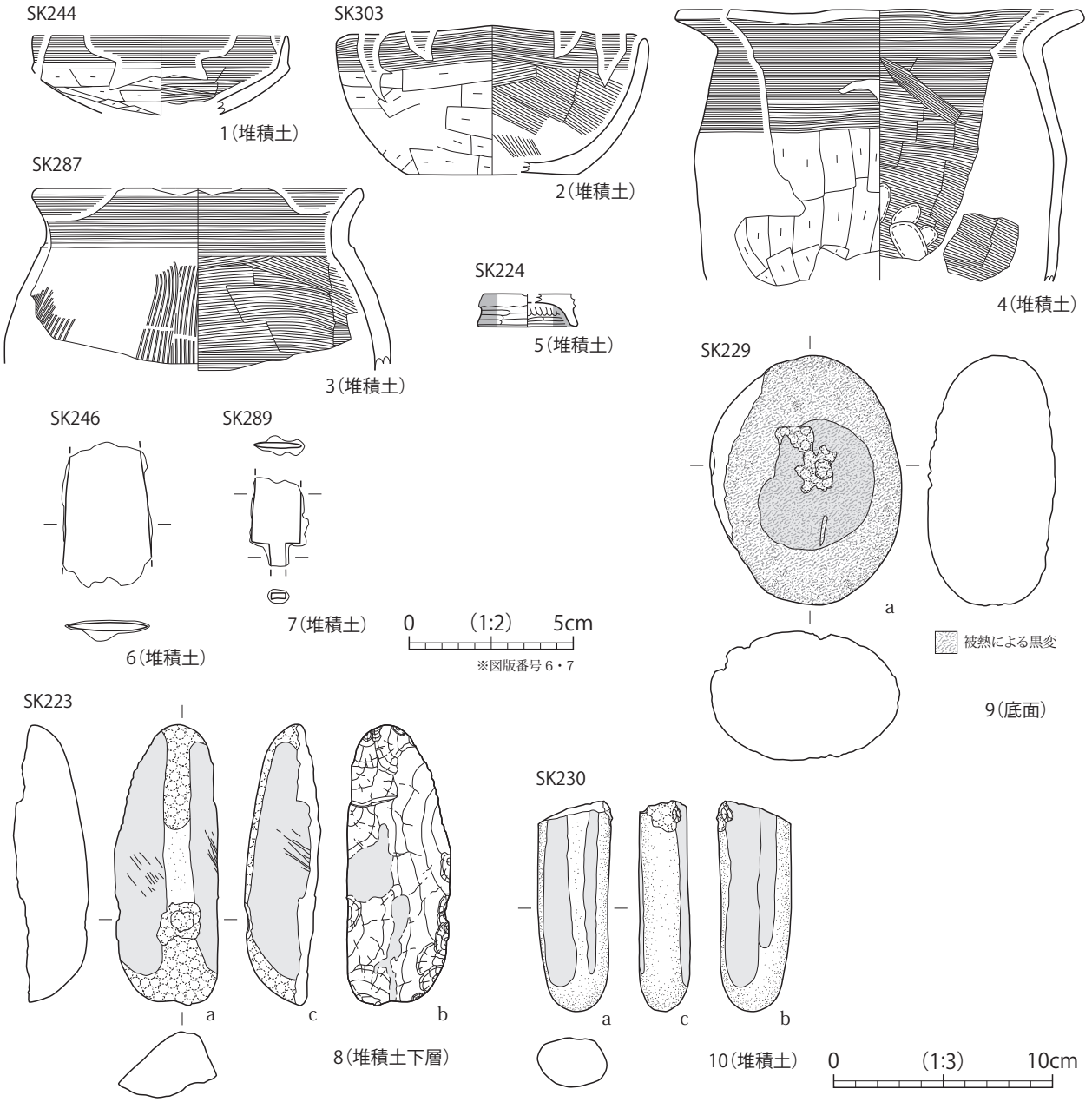
遺構名	グリッド	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK222	13	円形	150×(60)	42	1	5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	炭化物粒少量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト		
					3	7.5YR3/2 黒褐色	シルト		
SK223	13	不整円形	75×60	10	—	—	—	断面図なし。	
SK224	19	不整方形	92×54	18	1	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	灰色シルト粒多量含む。	
					2	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルト粒多量含む。	
SK225	20	不整円形	110×(85)	34	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルト粒多量含む。	
SK226	18	楕円形	102×75	55	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	細砂。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					5	10YR4/6 褐色	砂質シルト	暗褐色シルト粒多量含む。	
					6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	微砂多量含む。底面は酸化鉄。	
SK227	20	隅丸方形	88×80	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	微砂多量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	微砂多量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	微砂多量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒褐色ブロック(5～10㎜程度)、微砂多量含む。	
SK229	20	不明	(90)×(84)	5	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト		
SK230	13	楕円形	118×105	15	1	7.5YR4/3 褐色	シルト	炭化物粒混じる。弥生遺物・流紋岩チップ等含む。	

土坑（中世～近世）観察表（2）

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK231	06	楕円形	100×81	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。	SK244より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)を下位に集中して含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。	
SK233	65	楕円形?	(75)×(64)	70	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	白色粒・炭化物粒微量含む。	
					4	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	酸化鉄少量、炭化物粒・灰白色火山灰?微量含む。	
SK235	89	楕円形?	88×(34)	39	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。	
					2a	10YR4/4 褐色	シルト	暗褐色シルトブロック(20㎜程度)少量含む。	
					2b	10YR6/1 褐灰色	シルト	暗褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
SK236	91	円形	60×60	28	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黄褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(10㎜程度)含む。	
					4	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。	
SK237	89・91	円形	66×60	18	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。	
SK238	104	不整円形	203×96	37	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	2.5Y6/4 にぶい黄色	粘土質シルト	青灰色シルトブロック(5～20㎜程度)少量、白色粒微量含む。	
SK239	101・102	楕円形?	(101)×(52)	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック(10～20㎜程度)含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)含む。	
SK241	23	円形	101×100	21	1	10R4/2 灰赤色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	細砂多量、暗褐色シルト(斑状)・炭化物粒少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)含み、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。	
					5	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂多量、暗褐色シルト(斑状)少量、炭化物粒微量含む。	
SK243	05	円形?	96×(88)	17	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色・Ⅳ層土(斑状)含み、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色・Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。	
SK244	06	円形?	104×(83)	16	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。	SK231より古い。
					2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含み、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)含む。	
SK245	06	円形	81×75	20	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒(ラミナ状)含む。	Pit12より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)含み、炭化物粒少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)含む。	
					5	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)・炭化物粒少量含む。	
SK246	92・93	不整円形	88×71	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。	SD216より古い。
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック(5～30㎜程度)多量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック(30㎜程度)少量含む。	
SK247	234・236	長方形	301×88	21	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	青灰色シルト斑少量、炭化物粒微量含む。	
SK248	227	隅丸長方形	(112)×109	19	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック少量含む。一部グライ化。	SD227より新しく、SX24より古い。
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック多量含む。	
SK249	238・240	長方形	288×83	20	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	粗砂多量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルト粒・粗砂少量含む。	
SK250	260	不明	71×(53)	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、白色粒微量含む。	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルト(ラミナ状)少量含む。	
SK251	260	不整方形	(100)×108	57	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、粗砂少量含む。	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック(10㎜程度)多量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)・粗砂多量、礫(3cm)少量含む。	
SK252	260	楕円形	(65)×69	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・白色粒少量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。	
SK253	256	不整方形	261×64	28	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、白色粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック多量含む。	
SK254	254・255	長方形	269×89	48	1	10YR2/1 黒色	シルト	礫(径3cm内)・粗砂多量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	粗砂多量、礫(径2cm内)少量含む。	
					3	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂礫	径3cm内の礫と粗砂主体。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	粗砂多量、礫(径5cm内)少量含む。	
SK255	257・260	長方形	275×98	39	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
SK256	59	楕円形	175×(60)	52	1	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。全体がグライ化。	
					2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)・細砂多量含む。	
SK257	258・261 262	不明	(500)×(30)	15	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。	
SK258	258・262	方形	215×(110)	15	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	礫(径10cm内)多量、粗砂部分的に含む。	SD232より古い。
SK259	273	楕円形	110×75	10	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・同ブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
SK260	276	不整形	(125)×63	10	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					2	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。	
SK261	288・292	隅丸方形	83×68	24	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)が部分的に集中する。	SD241、Pit67・68より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	50㎜大のⅣ層土ブロックが層の1/2程を占める。	
SK262	289・293	不整形	(85)×98	45	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック主体。黒褐色シルト・炭化物粒少量含む。	
					2	N1.5/0 黒色	粘土質シルト	風化炭化物層。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黄白色・灰白色シルトブロック(10㎜程度)多量含む。	

土坑（中世～近世）観察表（3）

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK263	288・292	隅丸方形	117×83	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～15㎜程度)多量、細砂少量含む。	SD242、Pit74・77より新しい。
					2	N1.5/0 黒色	粘土質シルト	風化炭化物層。	
SK264	288・292	不整円形	137×91	46	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。下位に細砂集中。	SD241より古い。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
					3	2.5Y5/4 黄褐色	細砂	壁からの流出層。	
SK265	264	不明	(120)×(55)	39	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、粗砂微量含む。全体がグライ化。	SK269より新しく、SD235より古い。
					2	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。全体がグライ化。	
					3a	5Y5/2 灰オリーブ色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。全体がグライ化。	
					3b	10BG5/1 青灰色	砂質シルト	細砂、灰色シルトブロック(10㎜程度)多量含む。	
SK266	264	長方形?	(110)×(50)	26	1	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	粗砂多量、Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。	SD231・233より古い。
					2	5Y4/3 暗オリーブ色	粘土質シルト	黒褐色シルト(1層土)多量含む。	
					3	5BG5/1 青灰色	砂質シルト	暗青灰色シルトブロック・粗砂多量含む。全体がグライ化。	
SK267	265	長楕円形	139×61	15	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	酸化鉄(斑状)多量、黒灰色シルトブロック(5㎜程度)多量含む。	
					2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	酸化鉄(斑状)多量含む。	
SK268	263・264	不明	93×(50)	11	1	5Y4/1 灰色	砂質シルト	灰オリーブ色シルトブロック(10～20㎜程度)多量、粗砂少量含む。	SD235、Pit54より古い。
SK269	264・266	不整形	(218)×(83)	24	1	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	オリーブ灰色ブロック(5～10㎜程度)多量、粗砂少量含む。	SD235、SK265、Pit19・20より古い。
					2	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	オリーブ灰色ブロック(10～20㎜程度)多量、粗砂少量含む。	
					3	2.5Y5/3 黄褐色	粘土質シルト	オリーブ灰色ブロック(10～30㎜程度)多量含む。	
					4	10GY5/1 緑灰色	砂質シルト	暗青灰色シルトブロック(5～10㎜程度)・粗砂多量含む。	
SK281	58	隅丸方形	112×65	13	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～50㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	
SK283	43・44 47・48	楕円形	174×136	24	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。	
SK284	14	円形	86×75	27	1a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					1b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
SK285	14	楕円形	177×151	48	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルト粒多量含む。	
					2	10YR6/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					3a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。	
					3b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
SK286	14・19	長方形	154×60	18	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色シルト粒微量含む。	
SK287	08・09	円形	128×117	12	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK289	24	楕円形	71×48	53	1	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR5/6 黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒多量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色シルトブロック(5～20㎜程度)少量含む。	
					4a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土斑状に、黒色シルトブロック(5㎜程度)微量含む。	
					4b	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	褐灰色シルト(斑状)・黒色シルトブロック(5㎜程度)微量含む。	
					4c	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色シルト粒微量含む。	
SK291	08	不整形	140×68	42	1a	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit24より古い。
					1b	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。	
					1c	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色シルト粒微量含む。	
SK293	13	楕円形	88×70	27	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・黒色シルト粒少量含む。	
SK294	33	楕円形	62×(55)	20	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒少量含む。	SD262より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・炭化物粒少量含む。	
SK295	33	楕円形	60×52	23	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、焼土粒微量含む。	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK296	33	隅丸方形	102×53	51	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、焼土粒微量含む。	
					1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土粒少量含む。	
SK297	37	楕円形	110×93	31	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、マンガン粒微量含む。	Pit51より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰色粘土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	
					3a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、酸化鉄少量含む。	
					3b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黄白色粘土ブロック(10～20㎜程度)少量、焼土粒微量含む。	
SK298	49	不整形	115×(38)	22	1	10YR6/6 明黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒多量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	細砂	Ⅳ層土主体。	
SK300	14	不整円形	74×68	39	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。	
SK301	29・33	楕円形	95×86	17	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。	SK322より新しい。
SK303	36・37	隅丸方形	132×69	26	1a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、黒色シルトブロック(5㎜程度)・焼土粒微量含む。	
					1b	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・Ⅳ層土粒・焼土粒多量含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土粒多量含む。	
SK305	04	楕円形	95×75	39	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック主体。	Pit45より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック主体。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。	
					5	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。	
SK308	31	楕円形	81×75	14	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
SK309	18・23	不整円形	111×88	19	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	Pit74より新しい。
SK310	32	楕円形	87×59	40	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒少量含む。	
					3	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒微量含む。	
SK313	04	楕円形	75×62	30	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
SK314	14	不整円形	69×67	46	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、黒褐色シルト粒少量含む。	Pit228より新しい。
SK316	24	楕円形	131×81	28	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色シルトブロック(5㎜程度)少量含む。	
SK322	29・33	円形	(70)×61	15	1	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。	SK301より古い。
					2	10YR7/2 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。	

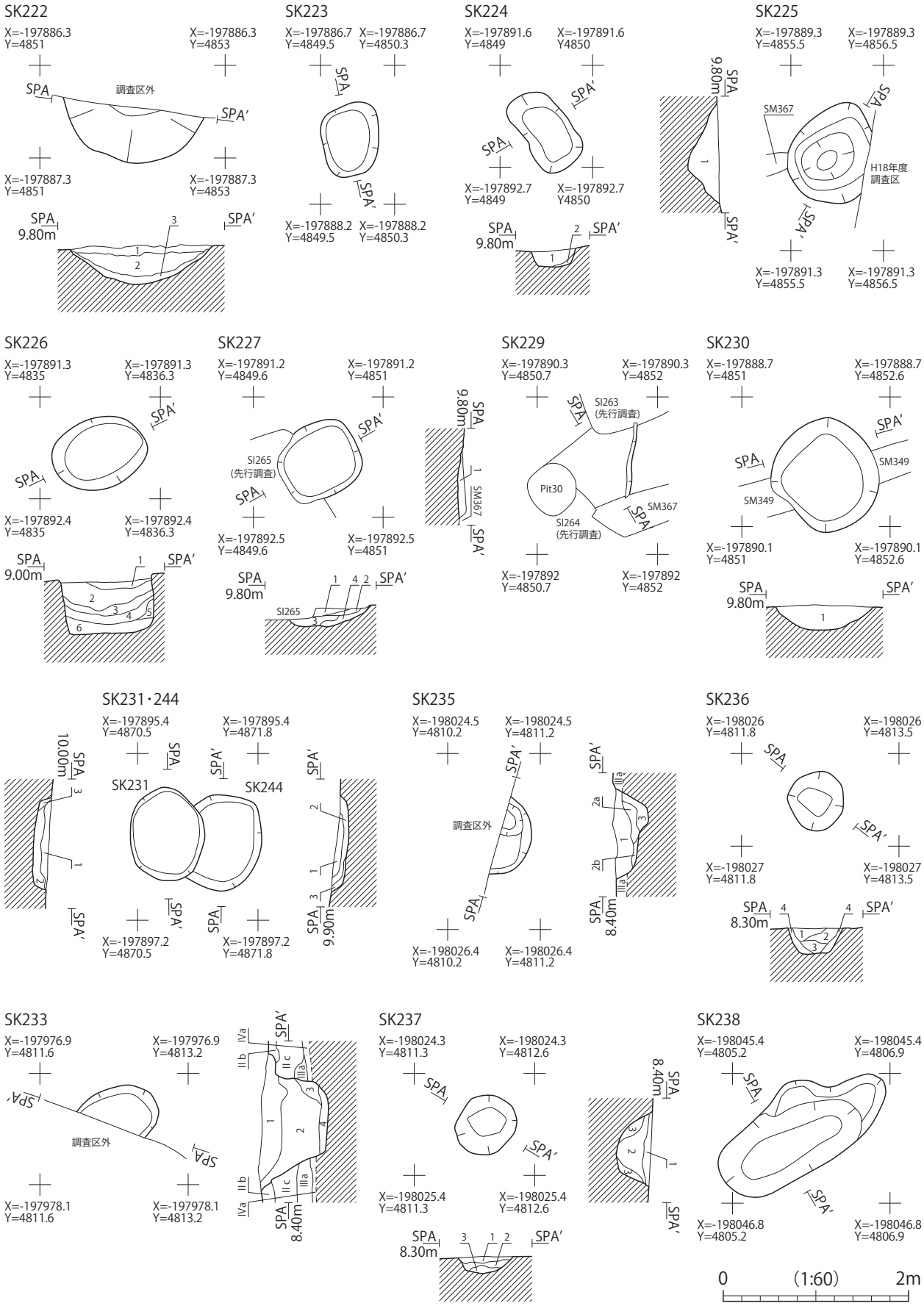


図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-156	第6次	SK244	堆積土	土師器	坏	(11.6)	—	(3.6)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		91
2	C-316	第9次	SK303	堆積土	土師器	坏	(14.0)	(7.6)	6.8	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		91
3	C-313	第9次	SK287	堆積土	土師器	甕	(14.8)	—	(8.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		91
4	C-315	第9次	SK303	堆積土	土師器	甕	(18.0)	—	(12.4)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、指オサエ		91
5	C-057	第5次	SK224	堆積土	土師器	ミニチュア土器	—	(4.4)	(1.5)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ、黒色処理		91

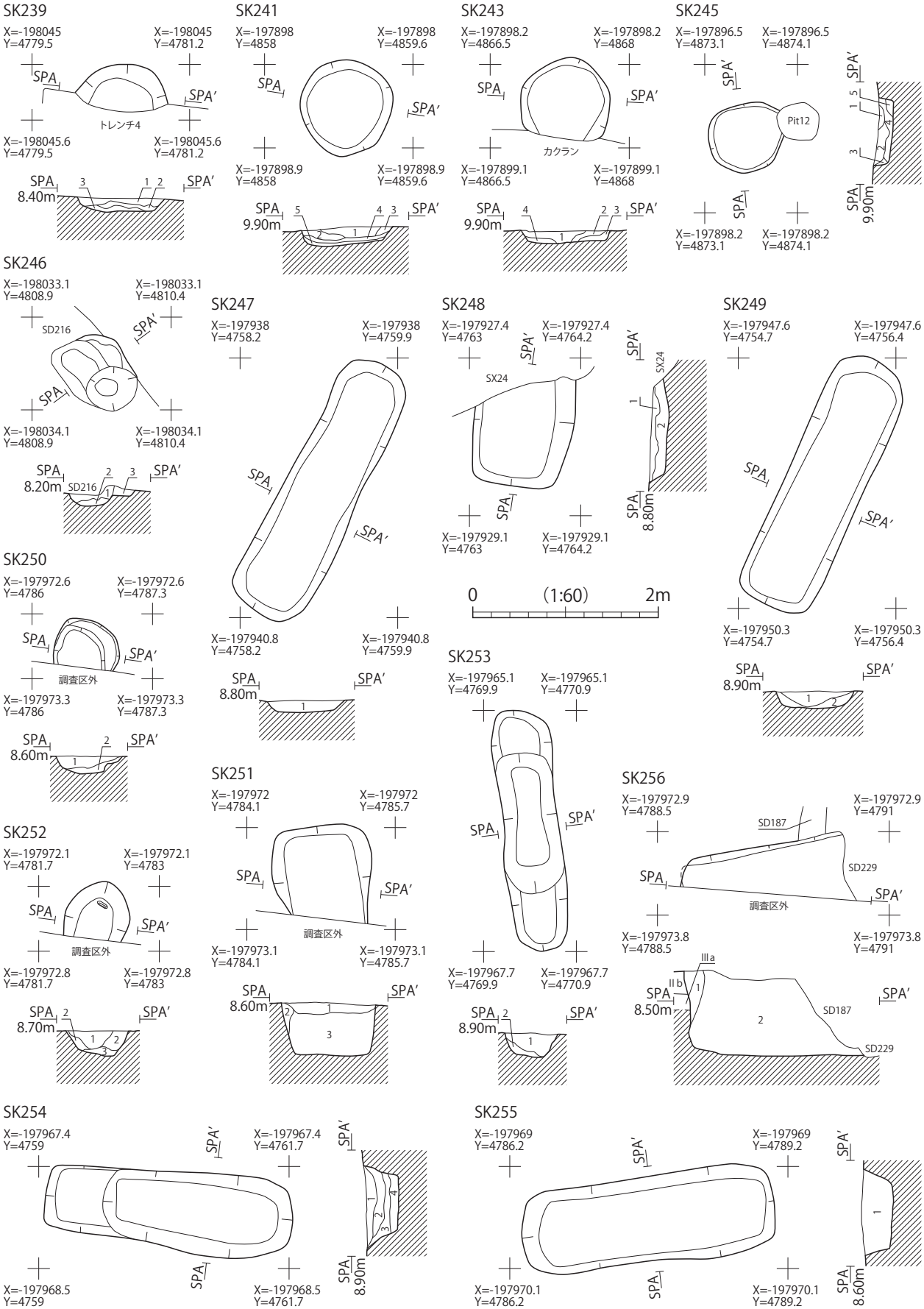
図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
6	N-045	第6次	SK246	堆積土	金属製品	鉄鎌	(4.5)	2.7	0.3	12.2	長三角形鏃の刃部	91
7	N-018	第9次	SK289	堆積土	金属製品	鉄鏃	(2.7)	1.5	0.2	2.7	長三角形鏃の刃部	91

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
8	Kc-010	第5次	SK223	堆積土下層	礫石器	磨+凹石	12.8	4.7	3.2	250.0	ドレライト	a面敲(弱)+線状痕→磨(強)→凹1箇所、b面全体剥離→磨(弱)、c面磨(強)+線状痕	91
9	Kc-012	第5次	SK229	底面	礫石器	磨+凹石	11.4	8.8	5.8	674.5	流紋岩	a面磨(弱)→凹1箇所、全体被熱	91
10	Kc-013	第5次	SK230	堆積土	礫石器	磨石	9.6	3.4	2.3	70.9	凝灰岩	a+b面磨(弱)、b面上部敲(中)、上部欠損	91

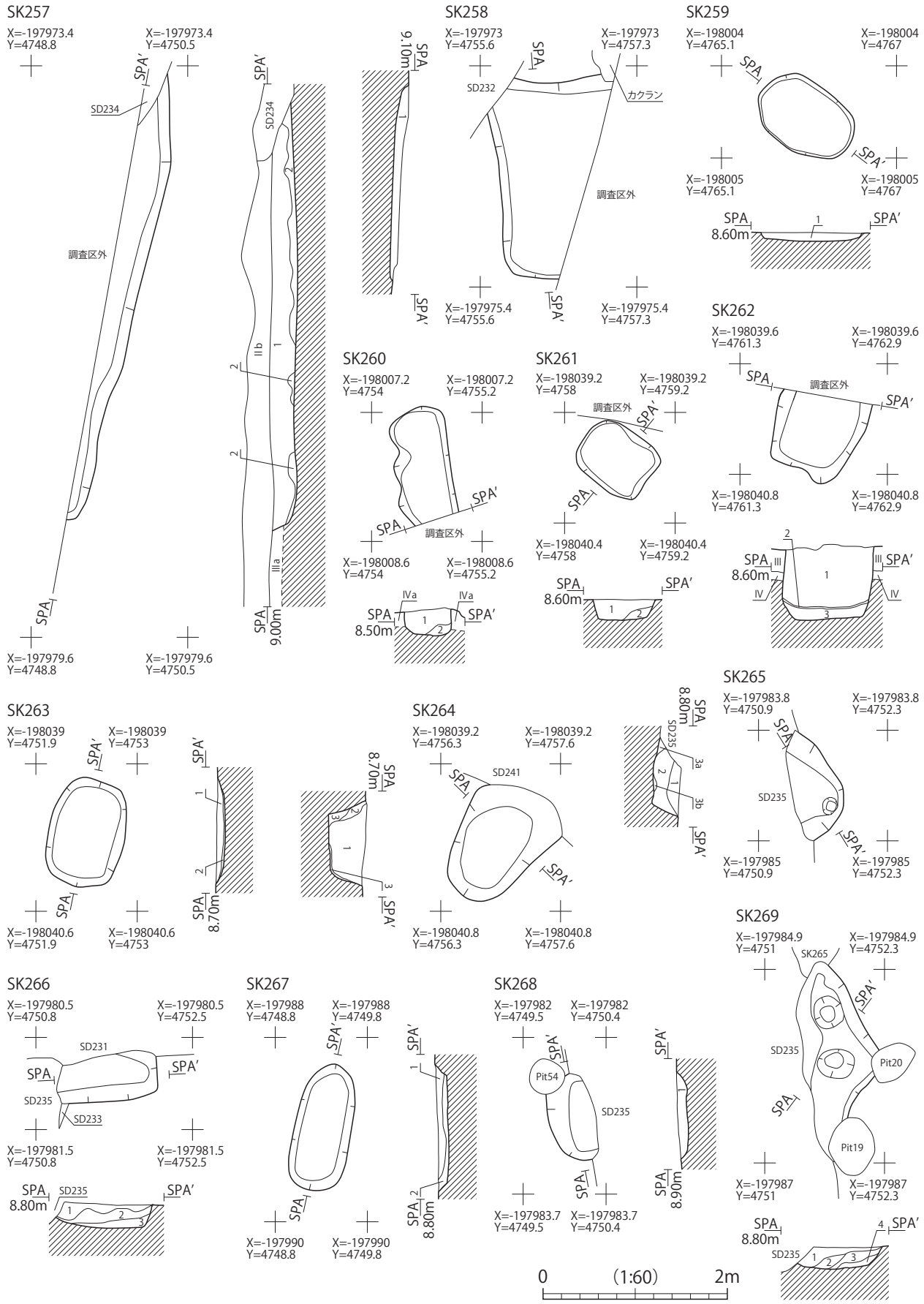
第 28 図　土坑（中世～近世）出土遺物



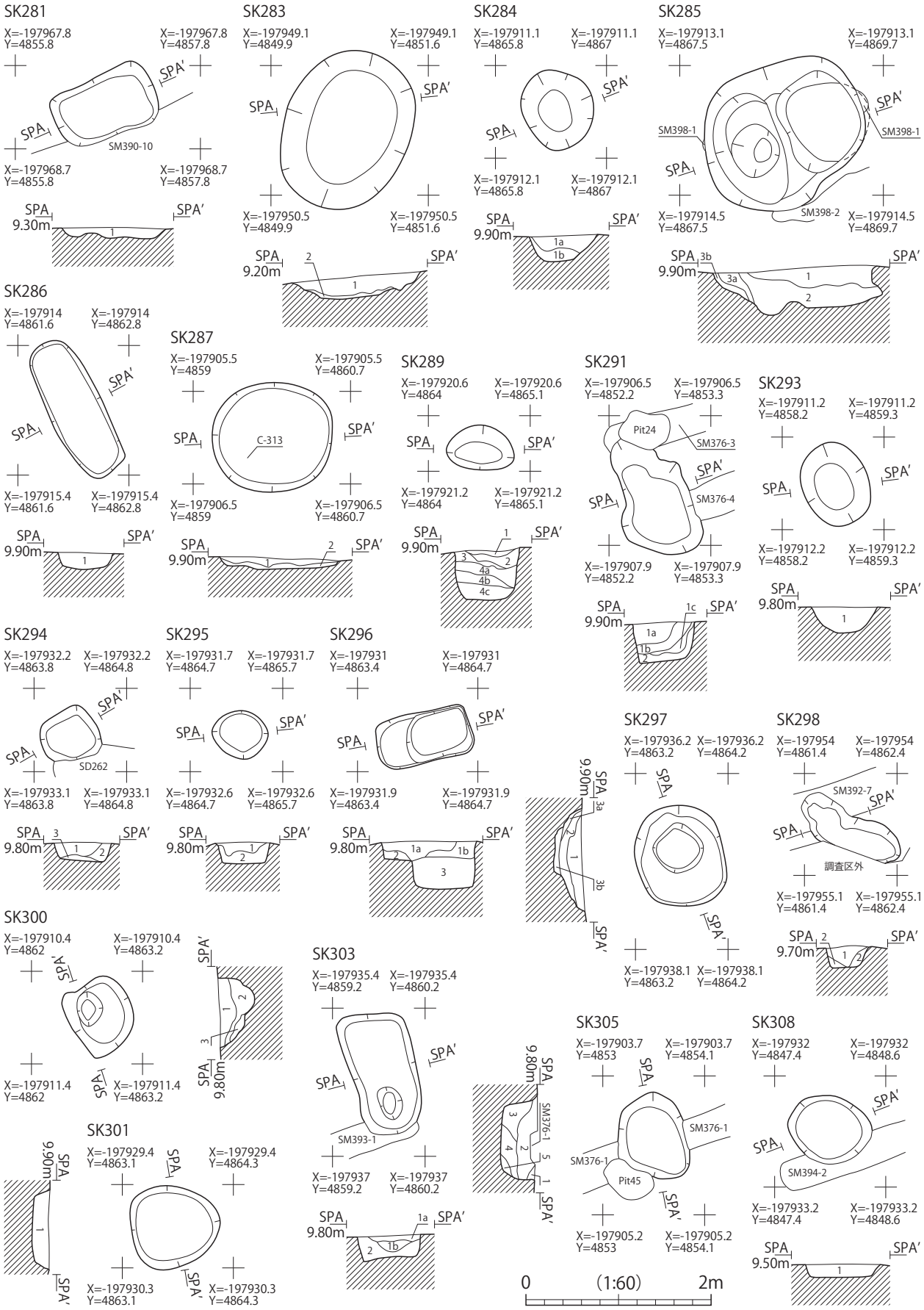
第 29 図　土坑（中世〜近世）（1）



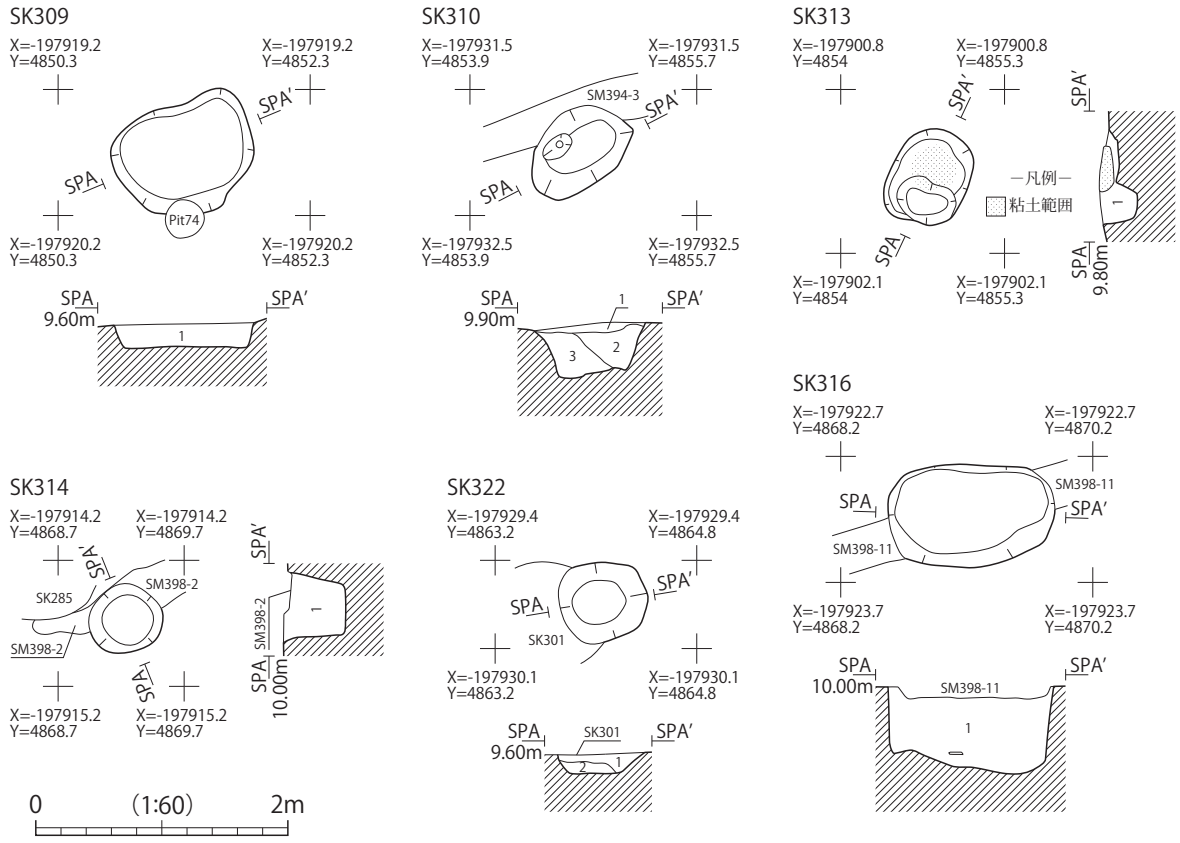
第 30 図　土坑（中世～近世）（2）



第 31 図　土坑（中世〜近世）（3）



第 32 図　土坑（中世～近世）（4）



第 33 図　土坑（中世〜近世）（5）

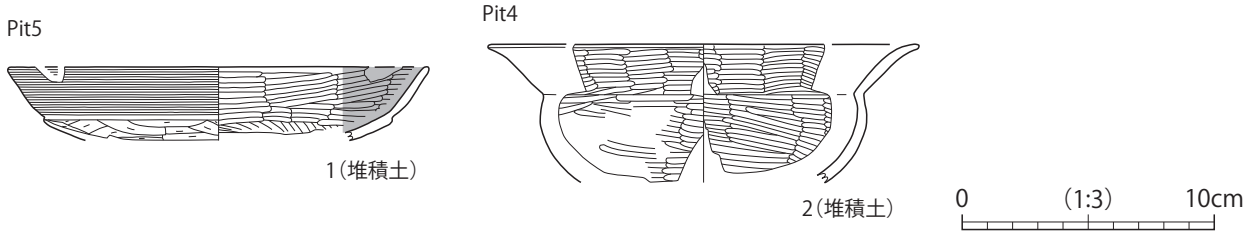
(6) ピット（第 34 〜 40 図）

ピットは、344 基が検出された。土坑と同様に、高位面の全域と低位面の西半部を中心に分布する。特に第 7 次調査区の 263 〜 266 グリッド内と北西部、さらに第 9 次調査区の北部から集中して検出されている。

平面形状は円形基調がほとんどで、規模は直径 30 〜 40cm 前後のものが主体である。柱痕跡を伴うピットも多数存在するが、建物や柱列等の規則的な配置は認められなかった。

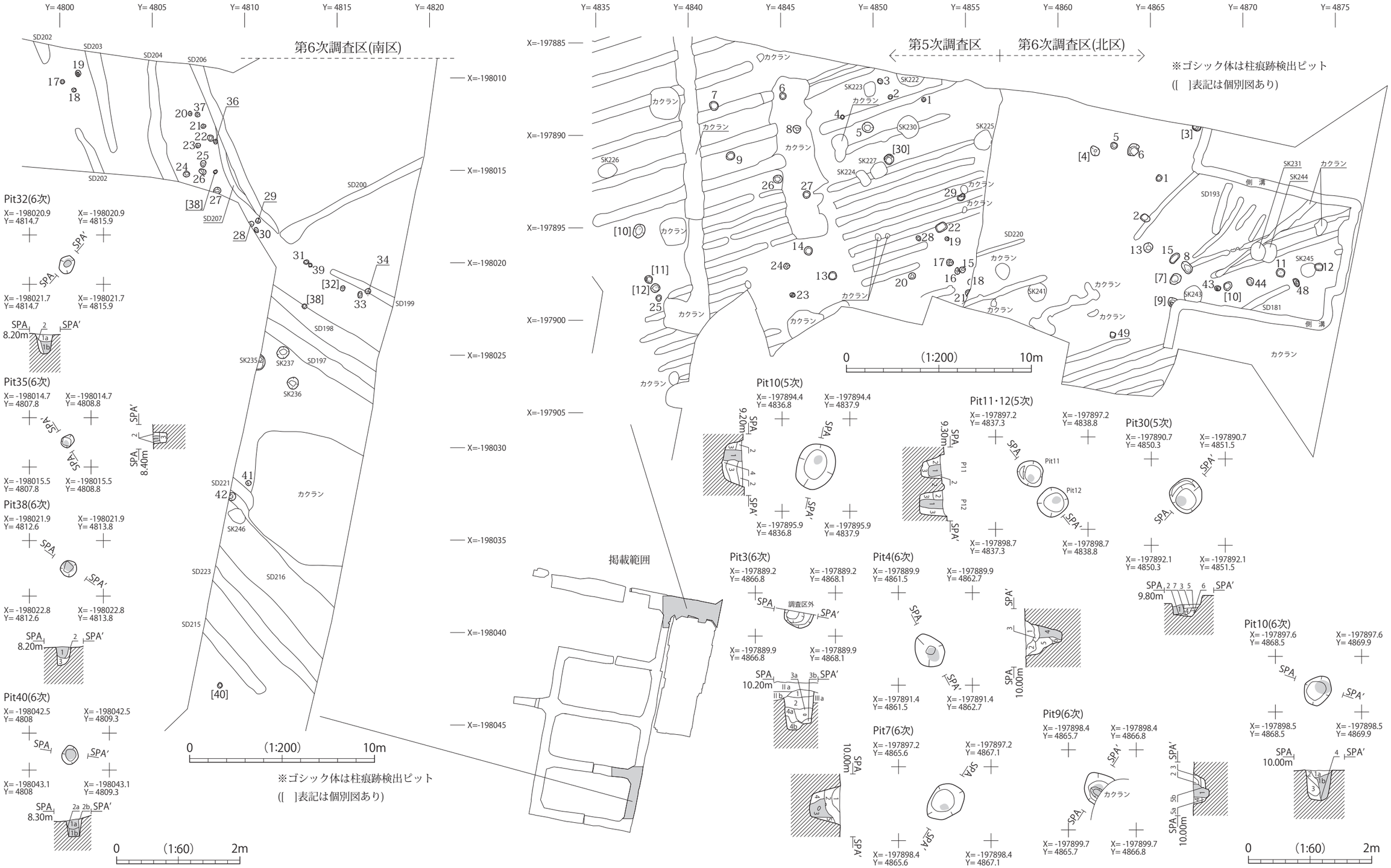
なお、これらのピットの番号は、各次調査とも Pit1 から付して記録を行っている。検出数も多く、番号の整理も困難なことから、本書では調査当時の番号をそのまま用いた。このため、観察表も調査年次ごとに分かれている。

遺物は、Pit5（第 5 次）・Pit4（第 9 次）の土師器坏 1 点、鉢 1 点を掲載した（第 34 図）。2 の鉢は小型の丸底鉢で、シャープな作りである。内外面ともに赤彩されている。古墳時代中期後葉、引田式期に比定される。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-063	第5次	Pit5	堆積土	土師器	坏	16.6	—	(2.9)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		91
2	C-318	第9次	Pit4	堆積土	土師器	鉢	(16.8)	—	(5.5)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外面赤彩	91

第 34 図　ピット（中世〜近世）出土遺物



第 35 図　ピット（中世〜近世）第 5・6 次調査

第 5 次調査 ピット（中世〜近世）観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit1	14	楕円形	24×24	14	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト		
Pit2	14	楕円形	36×22	22	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト		
Pit3	14	楕円形	32×28	20	1	5Y6/3 オリーブ黄色	砂質シルト		
Pit4	13	楕円形	24×22	10	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト		
Pit5	13	楕円形	60×54	30	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト		
Pit6	13	楕円形	40×36	20	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト		
Pit7	13	楕円形	50×46	25	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰白色ブロック（5〜10㎜程度）少量含む。	
Pit8	13	楕円形	42×40	37	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト		
Pit9	19	楕円形	50×46	30	1	10YR4/1 褐灰色	シルト		
Pit10	19	楕円形	74×60	33	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	シルト多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	微砂多量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	微砂多量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	微砂多量含む。	
Pit11	21	楕円形	50×42	36	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	シルト多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	シルト多量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	シルト多量含む。	
Pit12	21	楕円形	50×42	45	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	シルト多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	シルト多量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	シルト多量含む。	
Pit13	22	楕円形	46×42	7	1	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	灰白色ブロック（5〜10㎜程度）少量含む。	
Pit14	22	楕円形	46×44	7	1	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	灰白色ブロック（5〜10㎜程度）少量含む。	
Pit15	23	楕円形	34×30	24	1	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト		
Pit16	23	楕円形	28×26	16	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト		
Pit17	23	楕円形	38×36	41	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト		
Pit18	23	楕円形	26×−	36	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト		
Pit19	23	楕円形	24×22	30	1	7.5YR2/2 黒褐色	シルト		
Pit20	23	楕円形	40×36	25	1	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	細砂少量含む。	
Pit21	23	楕円形	30×（10）	8	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト		
Pit22	20	隅丸方形	60×46	22	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト		
Pit23	22	楕円形	30×24	20	1	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	ややグライ化。	
Pit24	22	楕円形	34×32	12	1	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	炭化物粒少量含む。	
Pit25	21	楕円形	34×30	43	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト		
Pit26	19	楕円形	50×42	18	1	7.5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	ややグライ化。	
Pit27	19	楕円形	40×40	31	1	7.5Y6/2 灰オリーブ色	シルト	灰白色ブロック（5〜10㎜程度）少量、酸化鉄多量含む。	
Pit28	22	楕円形	30×24	10	1	2.5Y5/4 黄褐色	シルト		
Pit29	20	楕円形	48×30	24	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト		
Pit30	20	隅丸方形	52×52	33	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	微砂少量含む。下位に黒色シルト薄く堆積。※柱痕跡	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	微砂多量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	微砂少量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	微砂多量含む。	
					5a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	微砂多量含む。	
					5b	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト		
Pit31	13	楕円形	38×−	34	1	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト		
Pit32	37	楕円形	34×30	36	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト		
Pit33	37	楕円形	34×36	32	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト		

第 6 次調査 ピット（中世〜近世）観察表（1）

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit1	03	円形	36×31	21	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10㎜程度）少量含む。	
Pit2	03	隅丸長方形	51×38	29	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック（10〜20㎜程度）少量含む。	SM377より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。	
Pit3	01	円形?	47×（25）	44	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）含み、炭化物粒少量含む。	
					3a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜20㎜程度）含む。※柱痕跡①	
					3b	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜20㎜程度）含む。※柱痕跡①	
					4a	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10㎜程度）少量含む。※柱痕跡②	
					4b	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）微量含む。※柱痕跡②	
Pit4	03	円形	37×36	35	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10㎜程度）含み、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）多量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）含み、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量含む。※柱痕跡	
					5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	黒褐色シルト（斑状）少量含む。	
					6	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	細砂多量含む。	
Pit5	03	楕円形	58×47	60	1a	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。※柱痕跡	
					1b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂多量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルト（斑状）少量含む。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量、細砂多量含む。	
Pit6	03	円形?	75×（56）	35	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）多量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。	
Pit7	05	楕円形	64×53	50	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）多量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	暗褐色シルト（斑状）少量含む。※柱痕跡	
					4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐色シルト（斑状）少量含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）含む。	

第６次調査 ピット（中世～近世） 観察表 （2）

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit8	05	隅丸長方形	71×46	45	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	細砂多量、Ⅳ層土（斑状）少量含む。	
					5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルト（斑状）含む。	
Pit9	05	円形?	51×（39）	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量、下位に細砂含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	灰褐色シルト（斑状）少量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）・炭化物粒少量含む。	
					4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック（5～20㎜程度）少量含む。	
					5a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	細砂多量、暗褐色シルト（斑状）少量含む。	
					5b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	細砂多量、暗褐色シルト（斑状）少量含む。	
Pit10	05	円形	49×44	51	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～50㎜程度）多量含む。※柱痕跡	
					1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック（5㎜程度）微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルトブロック（5～20㎜程度）少量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	細砂多量、暗褐色シルト（斑状）少量含む。	
Pit11	06	円形	46×44	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルト（斑状）多量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。	
					4a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルト（斑状）含む。	
					4b	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）含む。	
					5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）含む。	
Pit12	60	円形	44×40	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）含む。	
					2a	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	にぶいⅣ層土（斑状）多量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。※柱痕跡	
					3a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂多量、暗褐色シルト（斑状）微量含む。	
					3b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	細砂多量、暗褐色シルト（斑状）少量含む。	
Pit13	05	円形	52×47	38	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	細砂多量、にぶいⅣ層土ブロック（10～30㎜程度）少量含む。	
Pit14	61	円形	48×46	37	1a	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黄橙色シルトブロック（5～10㎜程度）少量含む。※柱痕跡	
					1b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	黄橙色シルトブロック（5～10㎜程度）微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土	炭化物粒微量含む。	
					4	10YR6/6 明黄褐色	粘土		
Pit15	05	楕円形	67×37	12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	明黄褐色・黒色シルト（ラミナ状）多量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	暗褐色シルト（斑状）含み、炭化物粒・白色粒微量含む。	
					5	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルト（斑状）含み、焼土粒微量含む。	
					6	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。	
Pit16	—	—	—	—	—	—	—	欠番	
Pit17	84	円形	24×24	26	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰褐色シルトブロック（5㎜程度）微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰褐色シルトブロック（5㎜程度）少量含む。	
Pit18	84	円形	23×23	26	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	酸化鉄微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック（5～10㎜程度）少量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック（5～10㎜程度）少量含む。	
Pit19	79	楕円形	35×28	40	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック（5～10㎜程度）含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	褐灰色・Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐灰色シルトブロック（5～20㎜程度）少量含む。	
Pit20	84	楕円形	25×20	23	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）微量含む。	
Pit21	84	円形	27×24	31	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック（10～20㎜程度）含む。	
Pit22	84	円形	33×32	36	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、白色粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト		
Pit23	84	円形	26×26	36	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	微砂粒	にぶい黄橙色シルトブロック（10～20㎜程度）多量含む。	
Pit24	87	円形	35×30	38	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）微量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック（10㎜程度）微量含む。	
					3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）微量含む。	
Pit25	84	円形	37×29	26	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト		
Pit26	84・87	楕円形	39×26	32	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト		
Pit27	87	円形	41×（38）	32	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック（10㎜程度）少量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）含む。	
Pit28	88	楕円形?	28×（27）	33	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック（10㎜程度）含む。	
					2	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）微量含む。	
					3	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	灰Ⅳ層土（斑状）多量含む。	
Pit29	88	円形	28×28	31	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）少量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト		
Pit30	88	楕円形	29×20	14	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	にぶいⅣ層土ブロック（5～20㎜程度）少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	灰Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	
Pit31	88・89	円形	28×25	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック（5～10㎜程度）・白色粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック（5～10㎜程度）少量含む。	
Pit32	89	楕円形	29×23	31	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。※柱痕跡	
					1b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック（5～10㎜程度）微量含む。	
Pit33	89	楕円形	34×24	25	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）含む。	

第6次調査 ピット（中世～近世）観察表（3）

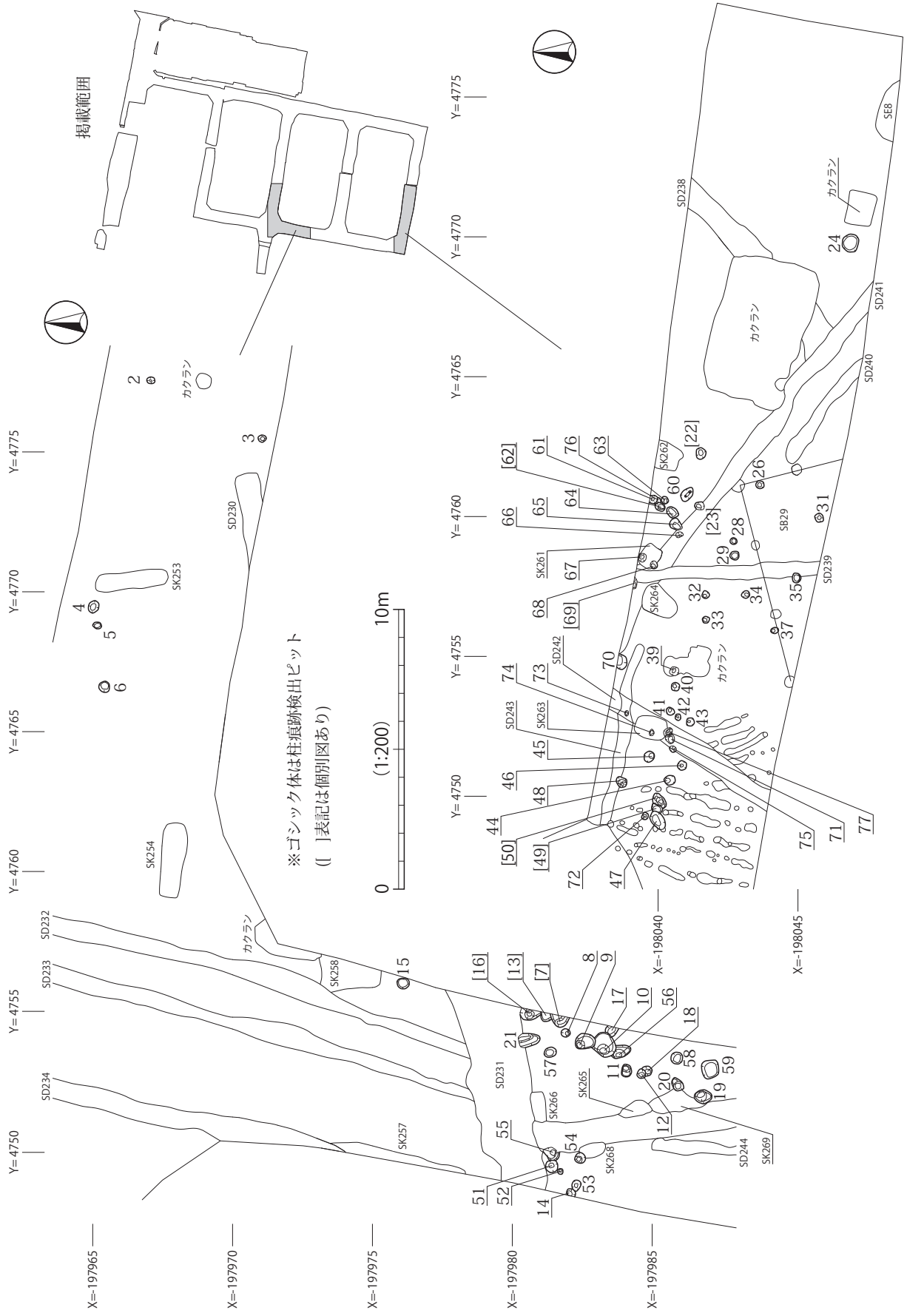
遺構名	グリッド	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit34	89	円形	31×28	43	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量含む。	SD199より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト		
Pit35	84・87	円形	22×18	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック（5～10㎜程度）微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）含む。	
					3	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	暗褐色シルトブロック（5～10㎜程度）少量含む。	
Pit36	84	円形	27×23	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック（5～10㎜程度）含む。	
Pit37	84	円形	26×26	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）含む。	
Pit38	89	円形	27×26	30	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック（5～10㎜程度）含む。※柱痕跡	SD198より新しい。
					2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック（10㎜程度）微量含む。	
Pit39	89	円形	22×18	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）微量含む。	
Pit40	99	円形	28×26	27	1a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。※柱痕跡	
					1b	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）少量含む。※柱痕跡	
					2a	7.5GY5/1 緑灰色	シルト	黒褐色シルトブロック（10㎜程度）・炭化物粒微量含む。	
					2b	7.5GY5/1 緑灰色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック（5～10㎜程度）・白色粒少量含む。	
Pit41	93	円形	29×27	27	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック（10～20㎜程度）少量含む。	
Pit42	92	円形	42×（30）	65	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土（10～30㎜程度）含む。	SD221より新しい。
Pit43	05	楕円形	33×28	16	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）含み、炭化物粒微量含む。	
Pit44	06	円形	43×38	21	1a	10YR6/6 明黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック（5～20㎜程度）多量含む。※柱痕跡	
					1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック（5～10㎜程度）含む。※柱痕跡	
					1c	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）含み、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	明黄褐色・黒褐色シルト（斑状）多量含む。	
Pit49	07	方形	33×28	23	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、炭化物粒少量含む。	
					2	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。	

第7次調査 ピット（中世～近世）観察表（1）

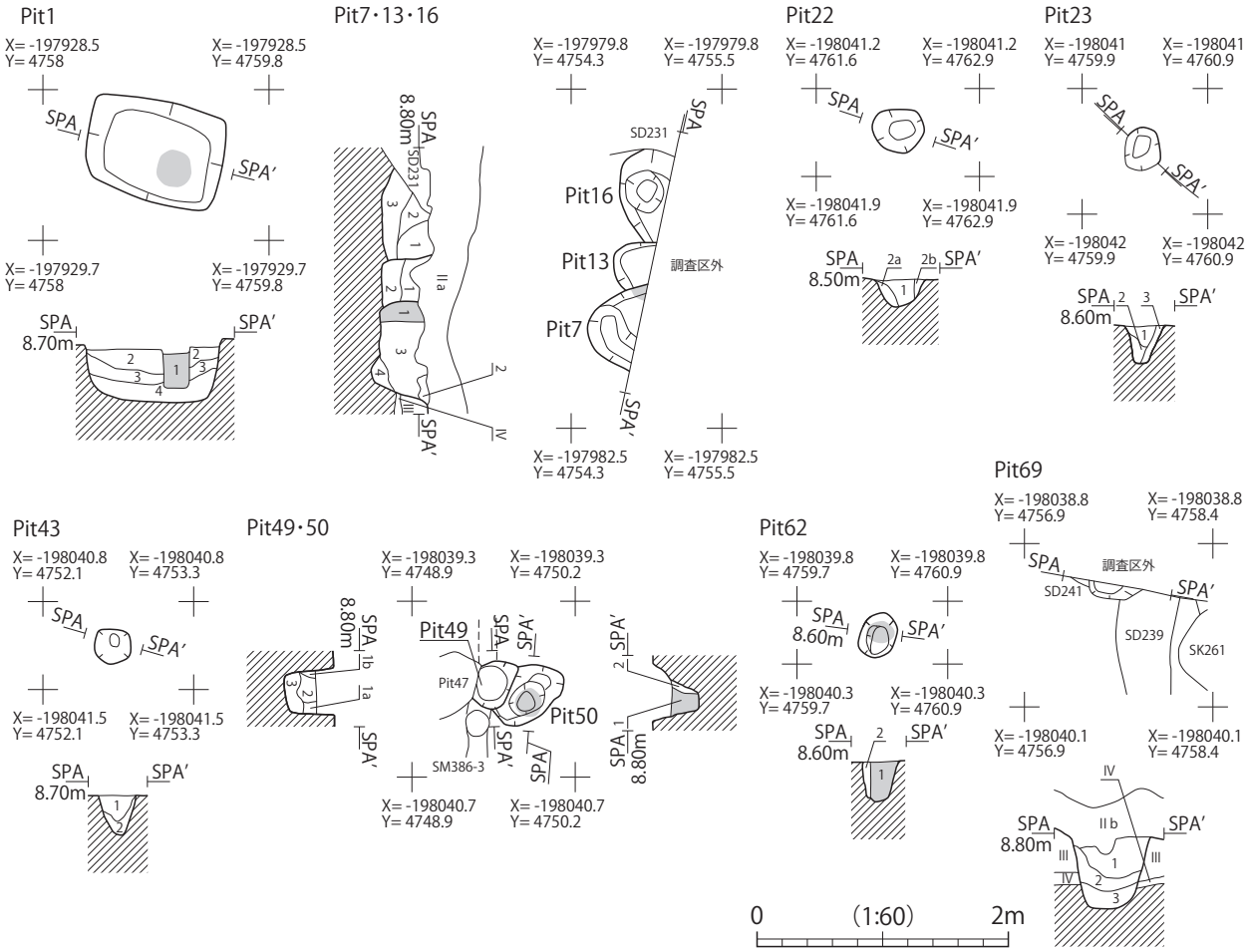
遺構名	グリッド	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit1	226	長方形	110×80	49	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・粗砂少量含む。一部グライ化。※柱痕跡	SD228より新しい。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～30㎜程度）多量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	暗褐色シルト（ラミナ状）多量、粗砂少量含む。	
Pit2	256	楕円形	29×24	31	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）密に含む。	
Pit3	259	円形	29×26	28	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック（10㎜程度）多量、粗砂少量含む。	
Pit4	251・255	楕円形	45×37	28	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	粗砂多量、Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）・白色粒微量含む。	
Pit5	255	楕円形	32×24	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	粗砂・Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	
Pit6	255	円形	40×38	36	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	粗砂多量、Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）・礫（30㎜程度）少量含む。	
Pit7	264	楕円形	（40）×65	26	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/6 褐色	シルト	黒色ブロック（10㎜程度）少量含む。一部グライ化。	
					3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・同ブロック（5㎜程度）多量含む。	
					4	10YR4/6 褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック（10㎜程度）多量含む。	
Pit8	264	円形	33×30	31	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。	
Pit9	264	楕円形	72×56	30	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。	Pit10より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒色シルト粒少量含む。	
Pit10	264	楕円形	88×74	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）少量含む。	Pit17・56より新しく、Pit9より古い。
Pit11	264	楕円形	44×36	44	1	7.5Y3/1 オリブ黒色	シルト	炭化物粒・白色粒微量含む。全体がグライ化。	
					2	7.5GY6/1 緑灰色	シルト	黒色シルトブロック（10㎜程度）少量含む。全体がグライ化。	
Pit12	264	円形	33×33	24	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）多量、炭化物粒微量含む。	Pit18より新しい。
Pit13	264	楕円形	（30）×45	14	1	10YR2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量含む。	Pit16より新しく、Pit7より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒色シルト（斑状）少量含む。	
Pit14	263	円形	32×32	31	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量含む。	Pit53より新しい。
Pit15	262	楕円形	43×38	16	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	粗砂多量含む。	
Pit16	264	楕円形	（50）×（60）	26	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SD231、Pit13より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量、白色粒少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～30㎜程度）多量含む。	
Pit17	264	楕円形	（30）×39	25	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・粗砂少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロックと黒褐色シルトの混土。	
Pit18	264	円形	（38）×35	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。	Pit12より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）多量含む。	
Pit19	266	楕円形	63×50	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量、白色粒微量含む。	SD235・SK269より新しい。
					2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）多量含む。	
					2b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	50㎜大のⅣ層土ブロック層。	
Pit20	266	楕円形	50×37	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	SK269より新しい。
Pit21	264	楕円形	（76）×46	32	1	7.5GY5/1 緑灰色	砂質シルト	粗砂少量含む。全体がグライ化。	SD231より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、白色粒微量含む。一部グライ化。	
Pit22	293	円形	40×37	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量、粗砂微量含む。	
					2a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	
					2b	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）多量含む。	
Pit23	293	楕円形	34×27	31	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	粗砂少量、Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）微量含む。	SD241より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量、粗砂微量含む。	
Pit24	295	円形	64×63	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）多量、粗砂微量含む。	
Pit25	—	—	—	—	—	—	—	欠番（SB29－P4に変更）	

第7次調査 ピット（中世～近世）観察表（2）

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit26	293	円形	29×28	10	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量、粗砂微量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量含む。	
Pit27	—	—	—	—	—	—	—	欠番（SB29－P5に変更）	
Pit28	292	円形	25×24	19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、同ブロック（10㎜程度）少量、粗砂微量含む。	
Pit29	292	円形	33×33	12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30㎜程度）下位に集中して含む。	
Pit30	—	—	—	—	—	—	—	欠番（SB29－P3に変更）	
Pit31	294・295	円形	32×29	28	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・同ブロック（5～10㎜程度）少量、粗砂微量含む。	
Pit32	292	円形	26×25	33	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量、粗砂微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。	
Pit33	292	円形	27×25	33	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・粗砂少量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	粗砂多量含む。	
Pit34	292	円形	28×26	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量、粗砂微量含む。	
Pit35	292・294	円形	33×31	30	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量含む。	SD239より新しい。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）・粗砂多量含む。	
Pit36	—	—	—	—	—	—	—	欠番（SB29－P2に変更）	
Pit37	292	楕円形	29×22	19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）少量、粗砂微量含む。	
Pit38	—	—	—	—	—	—	—	欠番（SB29－P1に変更）	
Pit39	292	円形	（32）×（30）	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	粗砂多量、Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。	
Pit40	292	円形	30×29	31	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）・粗砂少量含む。	
Pit41	292	楕円形	32×26	22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量、粗砂微量含む。	
Pit42	292	円形	23×21	28	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、粗砂微量含む。	
Pit43	292	円形	29×28	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量、炭化物粒少量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）・粗砂多量含む。	
Pit44	288	楕円形	40×36	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量、粗砂少量含む。	
Pit45	292	楕円形	38×34	30	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量、粗砂微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）・粗砂多量含む。	
Pit46	292	円形	32×32	24	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	壁の流出層（Ⅳ層土ブロック）。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量、粗砂少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	粗砂多量含む。	
Pit47	287・291	楕円形	72×44	43	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量、粗砂少量含む。	Pit49より新しく、SM386より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	粗砂多量、Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。	
Pit48	288	楕円形	42×36	17	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	粗砂多量、Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。	SD243より新しい。
Pit49	287・291	楕円形	38×28	39	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～30㎜程度）密、粗砂微量含む。	Pit50より新しく、Pit47より古い。
					1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土（ラミナ状）多量、粗砂少量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、粗砂微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	粗砂多量、Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。	
Pit50	287・288 291・292	楕円形	62×41	41	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜）多量含む。	
Pit51	263	円形	44×43	49	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・粗砂微量含む。	Pit55より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）多量、粗砂少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）・粗砂少量含む。	
Pit52	263	円形	21×19	19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）少量、粗砂微量含む。	
Pit53	263	楕円形	38×32	33	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、粗砂微量含む。	Pit14より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）多量、粗砂少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～15㎜程度）・粗砂少量含む。	
Pit54	263	円形	38×38	44	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、粗砂微量含む。	SK268より新しい。
Pit55	263・264	不整楕円形	（52）×48	38	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・粗砂少量含む。	SD235、Pit51より古い。
Pit56	264	楕円形	74×45	29	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量含む。	Pit10より古い。
					2	10YR2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。	
Pit57	264	楕円形	45×34	26	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・酸化鉄（斑状）少量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	粗砂少量含む。	
Pit58	266	円形	42×41	22	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、粗砂微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～15㎜程度）多量含む。	
Pit59	266	隅丸方形	62×60	20	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）・粗砂少量含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック主体。1層土が混じる。	
Pit60	293	楕円形	56×35	31	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～100㎜程度）少量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	粗砂少量含む。	
Pit61	289	楕円形?	（28）×28	15	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・粗砂少量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	粗砂多量含む。	
Pit62	289・293	楕円形	38×28	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量、粗砂微量含む。※柱痕跡	Pit76より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	
Pit63	293	円形	27×24	18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・粗砂少量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。	
Pit64	292・293	楕円形	46×33	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、粗砂微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量、粗砂少量含む。	
Pit65	292	楕円形	48×37	34	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・粗砂少量含む。	SD241より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量、粗砂微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	細砂多量、Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）少量含む。	
Pit66	292	楕円形	27×18	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、粗砂微量含む。	SD241より古い。
Pit67	288	円形	31×28	44	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量、粗砂少量含む。	SK261より古い。
Pit68	288	円形	28×25	22	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・粗砂少量含む。	SK261より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～30㎜程度）・粗砂多量含む。	
Pit69	288	不明	（43）×（13）	18	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・粗砂少量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、粗砂微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量含む。	
Pit70	288	楕円形	（35）×48	26	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量、粗砂微量含む。	SD241より古い。
Pit71	292	円形	34×33	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）・粗砂少量含む。	SD242より古い。
Pit72	287	楕円形	26×21	38	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量、粗砂少量含む。	
Pit73	288	楕円形	20×14	18	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	粗砂・Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量含む。	SD242・243より古い。



第 36 図　ピット（中世～近世）第 7 次調査（1）



第 37 図　ピット（中世〜近世）第 7 次調査（2）

第 7 次調査 ピット（中世〜近世）観察表（3）

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit74	288	楕円形	23×18	21	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・粗砂少量含む。	SD242・SK263より古い。
Pit75	292	不明	26×（21）	14	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・粗砂少量含む。	SD242より古い。
Pit76	289・293	不明	27×（20）	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10㎜程度）・粗砂少量含む。	Pit61・62より古い。
Pit77	292	楕円形	35×28	15	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10㎜程度）少量、下位に粗砂含む。	SD242より古い。

第 9 次調査 ピット（中世〜近世）観察表（1）

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit1	12	楕円形	35×30	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10〜50㎜程度）少量含む。※柱痕跡	Pit5より古い。
Pit2	12	円形	37×37	25	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	Pit5より古い。
					2	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit3	07	楕円形	49×44	9	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit4	12	楕円形	（51）×（32）	8	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit5	12	楕円形	（51）×（30）	8	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。	Pit1・2より新しい。
					2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit6	14	楕円形	58×45	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	Pit46より新しい。
					2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit7	14	楕円形	63×39	14	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、黒色シルト粒微量含む。	
Pit8	14・19	円形	41×40	47	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、黒色シルト粒微量含む。	
					3a	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10〜20㎜程度）多量含む。	
					3b	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit9	09	楕円形	45×39	21	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit10	09	円形	49×48	27	1	10YR4/1 褐灰色	微砂	焼土粒少量、Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit11	14・15 19・20	楕円形	49×41	37	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit12	04	円形	36×35	25	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。	

第９次調査 ピット（中世～近世）観察表（2）

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit13	04	楕円形	30×26	32	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色シルト粒多量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	細砂	黒色シルト粒微量含む。	
Pit15	08	楕円形	65×40	17	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit16	19	楕円形	63×39	61	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒多量含む。※柱痕跡	
					2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。	
					2b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土・黒色シルトブロック（10㎜程度）多量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土・黒色シルトブロック（5㎜程度）少量含む。	
					4	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土（斑状）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit18	03	不整円形	(40)×37	13	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
Pit19	04	円形	32×32	27	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・黒色シルトブロック（10㎜程度）微量含む。	
Pit20	04	隅丸方形	27×26	15	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色シルト粒微量含む。	
Pit21	19	不整円形	45×43	39	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
Pit22	08	楕円形	28×28	37	1	10YR3/1 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色シルトブロック（5㎜程度）微量含む。	
Pit23	08・09	楕円形	46×33	24	1	10YR3/1 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・黒色シルト粒多量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	細砂	暗褐色シルト粒微量含む。	
Pit24	08	楕円形	51×38	30	1a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	SK291、Pit50より新しい。
					1b	N7/0 灰白色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色シルト粒少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量、焼土粒微量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit25	45	不明	(57)×(17)	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）含む。	
Pit26	03	楕円形	35×27	18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量、上位に炭化物粒集中。	
Pit28	33	楕円形	35×27	11	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量、酸化鉄微量含む。	
Pit29	31	円形	47×47	23	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）少量含む。	
Pit30	27	楕円形	50×35	24	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	細砂少量含む。	
					2	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	細砂	シルト粒少量含む。	
Pit31	13	円形	37×35	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量、焼土粒微量含む。	
Pit32	13	楕円形	31×26	23	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含み、最下位に黒色シルトが薄く堆積。	
Pit33	13	楕円形	48×44	13	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					1b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）多量含む。	
Pit34	13	円形	37×32	21	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土（ラミナ状）少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）多量含む。	
Pit35	13	楕円形	31×27	8	1	N2/0 黒色	シルト	風化炭化物層。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit36	07	楕円形	56×50	27	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）多量含む。	
Pit37	08・13	隅丸方形	53×51	29	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量、焼土粒微量含む。	
Pit39	44・48	楕円形	44×(39)	14	1	7.5YR4/2 灰褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）・Ⅳ層土粒多量含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒色シルト粒微量含む。	
Pit40	36・40	円形	40×36	48	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒微量含む。	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit41	13	方形	54×53	47	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。	
Pit42	04・08	円形	38×38	25	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。	
Pit43	12	方形	33×29	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit44	08	円形	32×32	25	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit45	04・08	楕円形	52×38	35	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit46	14	楕円形	(36)×27	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。※柱痕跡	Pit6より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit47	04・08	楕円形	77×49	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土（ラミナ状）多量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）多量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（ラミナ状）多量含む。	
Pit48	08	円形	38×35	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。	
Pit49	08	楕円形	44×32	27	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。	
Pit50	08	楕円形	42×33	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。	Pit24より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit51	37	楕円形	64×49	16	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）少量含む。	SX27より古く、SK297より新しい。
					2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、灰Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）微量含む。	
Pit52	08	円形	43×37	33	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit54	37	円形	63×54	18	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、黒色シルト粒微量含む。	
Pit55	37	円形	40×36	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit57	18	円形	29×28	32	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit58	18	円形	24×23	36	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR6/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・酸化鉄微量含む。	

第９次調査 ピット（中世～近世）観察表（3）

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit59	41	円形	34×31	35	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit60	28	楕円形	28×26	21	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit63	28	楕円形	48×33	28	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit64	28	楕円形	32×31	23	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	Pit68より新しい。
Pit66	28	円形	30×30	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit68	28	不整円形	(39)×29	27	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量含む。	Pit64より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。	
Pit69	28	楕円形	36×30	17	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）・Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit70	23	円形	30×29	25	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit71	23	楕円形	17×15	9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit72	22	円形	26×23	13	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit73	22	円形	25×23	9	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit74	23	円形	30×30	27	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	SK309より古い。
Pit75	17・22	方形	29×29	16	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	
Pit76	28	円形	25×24	14	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）含む。	
Pit77	28	円形	42×40	20	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit78	28	楕円形	19×16	11	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit79	28	楕円形	37×24	15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	
Pit80	29	楕円形	22×20	13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit81	29・33	円形	21×20	7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit82	33	方形	25×23	12	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色シルト粒少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒褐色シルト粒微量含む。	
Pit83	33	円形	28×26	7	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒多量含む。	
Pit86	35	円形	22×22	8	1	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物粒含む。	
Pit87	35	楕円形	23×20	14	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒・焼土粒微量含む。	
Pit88	31	楕円形	37×34	16	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒多量含む。	
Pit90	31	楕円形	56×43	15	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit91	35	楕円形	37×27	24	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit92	35	円形	51×51	36	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒少量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量含む。	
Pit93	17	円形	38×37	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit94	22	円形	34×32	10	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。	
Pit95	28	楕円形	64×52	8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）含み、焼土粒微量含む。	
Pit96	32	円形	67×60	29	1a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒多量含む。	
					1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit97	28	円形	26×25	18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit98	27	円形	21×19	12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit99	22	楕円形	35×31	16	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit100	17	円形	43×42	15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit102	28	楕円形	21×21	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit103	28	方形	18×16	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit104	18	円形	30×29	21	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit105	18	円形	26×26	54	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit106	40	楕円形	27×25	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit107	40	楕円形	24×20	10	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit108	40	円形	30×27	32	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit109	32	楕円形	45×41	31	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit110	36	不整円形	38×37	37	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
Pit111	40	円形	46×44	28	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
Pit112	40	楕円形	41×36	29	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit113	40	楕円形	44×35	33	1	10YR6/6 明黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit115	40	楕円形	35×23	20	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit116	12	不整円形	45×42	16	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit117	08	円形	35×33	27	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit118	08	楕円形	47×44	21	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit119	08	不整円形	31×31	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit120	07・08	楕円形	36×32	19	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	Pit147より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit121	29	楕円形	35×33	35	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit122	29	円形	22×22	18	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit123	29	楕円形	24×19	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit124	33	楕円形	60×50	19	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit126	36	円形	38×36	27	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit127	36	楕円形	41×33	34	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit128	08	楕円形	48×36	34	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit129	07	楕円形	55×48	28	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit130	08	円形	39×36	18	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルト粒少量、Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	

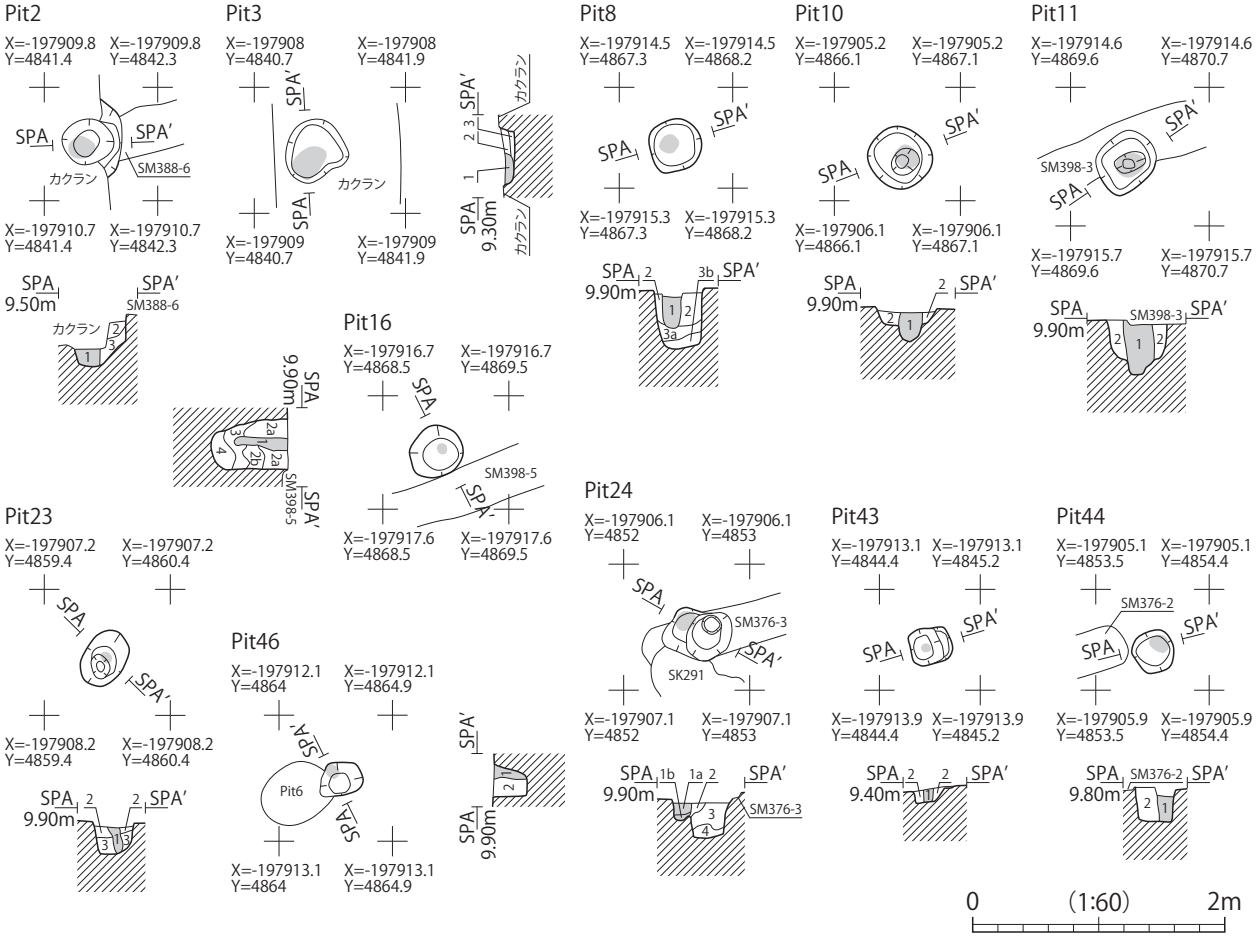
第 38 図　ピット（中世〜近世）第 9 次調査（1）

第９次調査 ピット（中世～近世）観察表 （4）

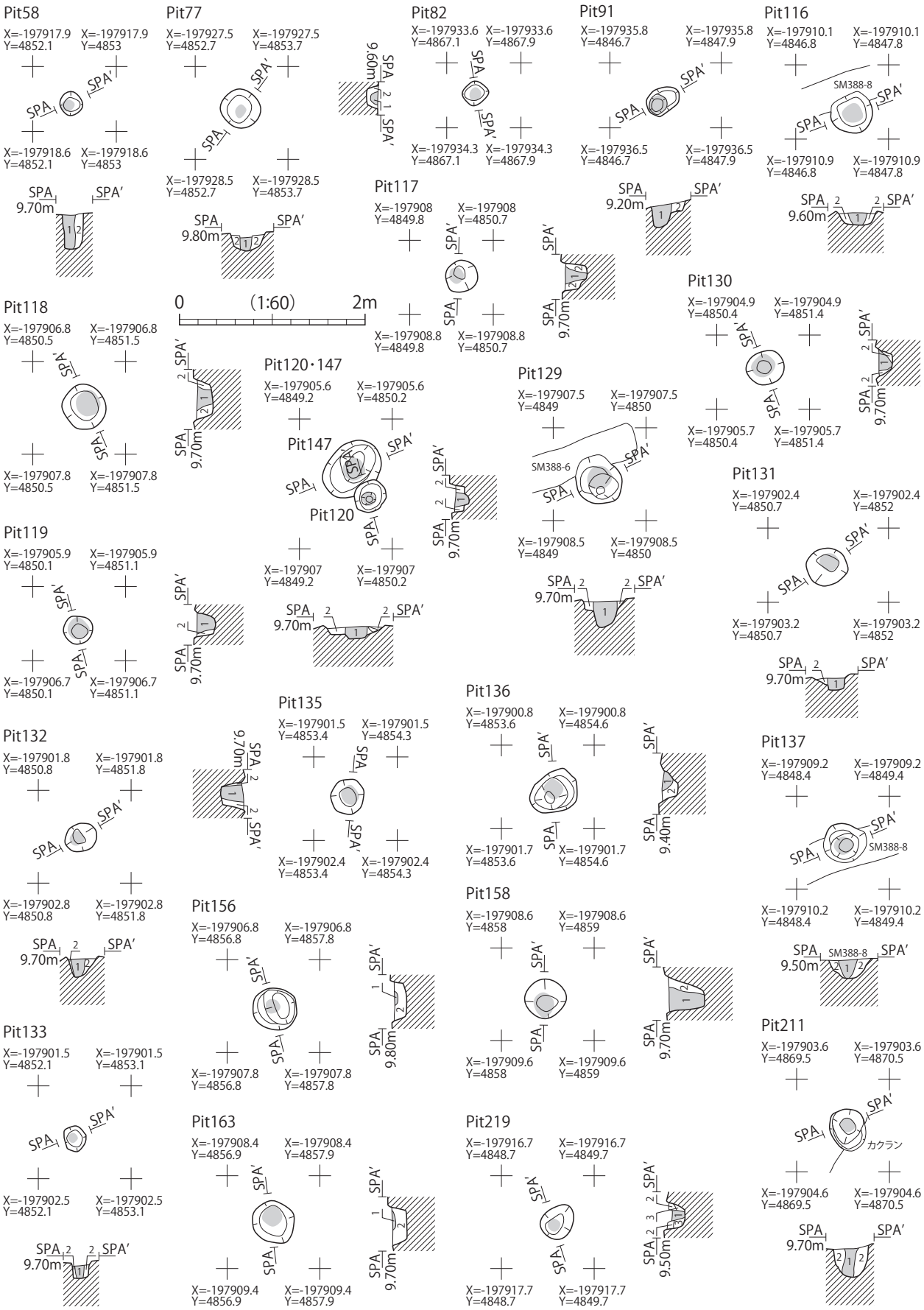
遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit131	04	円形	43×41	17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit132	04	楕円形	35×29	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒少量含む。※柱痕跡	Pit153より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit133	04	楕円形	27×22	17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒多量、Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit134	04	楕円形	47×45	37	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
Pit135	04	円形	38×34	27	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit136	04	楕円形	54×43	20	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit137	07	楕円形	47×44	20	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト粒多量、焼土粒微量含む。	
Pit138	03・04	円形	39×38	31	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit140	08	楕円形	36×30	21	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit141	03・07	楕円形	52×49	19	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit142	45	楕円形	29×22	14	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit143	45	円形	33×（32）	16	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量含む。	SX25より古く、Pit144より新しい。
Pit144	45	楕円形	（30）×27	16	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	SX25、Pit143より古い。
Pit145	45	円形	34×（28）	22	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	Pit144より古い。
Pit147	07・08	楕円形	68×（47）	15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡	Pit120より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit148	41	不明	26×（17）	6	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit149	44・45	楕円形	50×38	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量、炭化物粒少量含む。	
Pit150	45	円形	50×（39）	9	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit152	40	円形	19×18	15	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit153	04	円形	37×（28）	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	黒褐色シルト粒多量含む。	Pit132より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト粒微量含む。	
Pit154	08	楕円形	46×45	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit155	04		44×37	54	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit156	08	円形	47×45	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit157	08	楕円形	58×36	16	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit158	08	円形	42×40	41	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit159	45	楕円形	27×23	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit161	08	楕円形	42×37	17	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒多量含む。	
Pit162	08	楕円形	30×23	17	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒多量、焼土粒微量含む。	
Pit163	08	楕円形	47×45	15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit165	08	楕円形	42×34	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit166	04・08	円形	48×43	22	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒多量含む。	Pit236より古く、Pit183より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit167	04	楕円形	34×30	19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit168	04	円形	34×32	30	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit169	04	楕円形	28×22	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit170	04	円形	43×39	30	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	Pit232より新しい。
Pit174	40	楕円形	46×32	5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit177	04	楕円形	42×39	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	Pit178より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit178	04	楕円形	73×（39）	35	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	Pit177より古い。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト粒微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					4	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit179	37	楕円形	（20）×22	15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・黒色シルトブロック（5㎜程度）含む。	
Pit180	37	不明	（30）×（10）	26	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit181	37	楕円形	51×47	12	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit183	04	楕円形	30×（25）	19	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）・炭化物粒少量含む。	Pit166より古い。
					2	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・白色粘土ブロック（10㎜程度）多量含む。	
Pit184	04	円形	69×65	23	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒微量含む。	
Pit185	08	円形	41×38	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒微量含む。	
Pit186	05・09	楕円形	55×46	17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit187	04・08	円形	33×32	13	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit189	13	円形	56×54	15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。	
Pit190	08・13	楕円形	64×56	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
Pit192	15	楕円形	60×47	34	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit194	09	円形	29×26	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit195	05	楕円形	24×20	22	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit198	15	円形	41×38	26	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒多量含む。	
Pit199	15	不明	61×27	27	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト粒多量含む。	
Pit200	15	円形	24×20	20	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit207	15	円形	23×22	39	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit208	14	円形	27×25	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit209	19	円形	39×36	17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit210	05	不明	35×（14）	32	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	

第 9 次調査 ピット（中世～近世）観察表（5）

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit211	05・06	楕円形	45×38	30	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit212	06	楕円形	38×34	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit213	10	楕円形	35×32	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit216	10	円形	32×30	21	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒微量含む。	
Pit219	17	楕円形	40×33	21	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
Pit220	32	楕円形	53×45	20	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit221	12	楕円形	49×45	8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit225	19・20	円形	34×33	25	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック主体。炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。	
Pit226	14	楕円形	46×（40）	24	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・炭化物粒少量含む。	SK285より古い。
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit228	14・19	楕円形	69×66	41	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）・炭化物粒少量含む。	SK314より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	白色粘土（斑状）多量、炭化物粒少量含む。	
					3	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）多量、炭化物粒少量含む。	
Pit230	05	楕円形	31×27	16	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit231	05	円形	26×26	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量含む。	
Pit232	04	楕円形	29×（26）	32	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）多量含む。	Pit170より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	細砂	Ⅳ層土（斑状）少量含む。	
Pit233	04	楕円形	42×35	10	1	7.5YR6/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・炭化物粒少量含む。	
Pit234	04	楕円形	37×33	36	1	7.5YR6/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit235	04	楕円形	29×26	16	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit236	04・08	不明	44×（18）	19	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）・炭化物粒多量含む。	Pit166より新しい。
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）多量、炭化物粒少量含む。	



第 39 図　ピット（中世～近世）第 9 次調査（2）



第 40 図　ピット（中世〜近世）第 9 次調査（3）

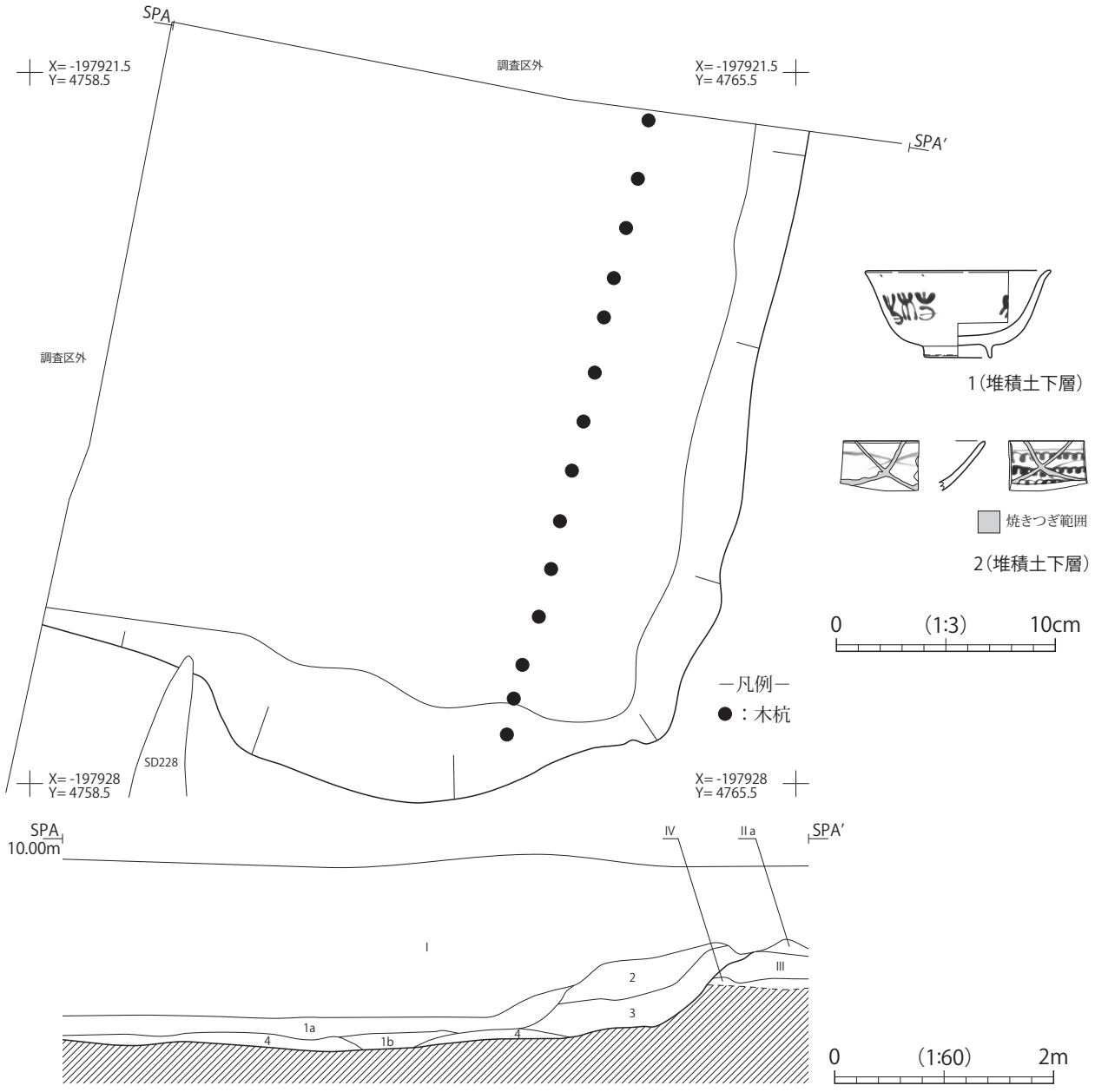
（7）性格不明遺構

SX24 性格不明遺構（第 41 図）

第 7 次調査区の北西端部、222・223・226・227 グリッドに位置する。当該期遺構との重複は、SD227・SK248 より新しく、SD228 より古い。

大型の竪穴状の遺構であり、平面形状は方形基調と思われるが、検出されたのは南東コーナーを中心とする範囲のみである。規模は検出範囲で東西 593cm ×南北 662cm、深さ 78cm を測る。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、底面は僅かに起伏する。東側からは、壁に沿うようにして木杭が並んで検出された。

遺物は、磁器 2 点を掲載した（第 41 図）。また、上記木杭が 14 点出土したが、図化できるものはなかった。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	J-001	第7次	SX24	堆積土下層	磁器	染付碗	8.4	3.0	4.0	ロクロ調整、文字文	ロクロ調整		92
2	J-002	第7次	SX24	堆積土下層	磁器	染付皿	—	—	(2.3)	ロクロ調整、草文	ロクロ調整、微塵唐草文	焼継ぎ痕	92

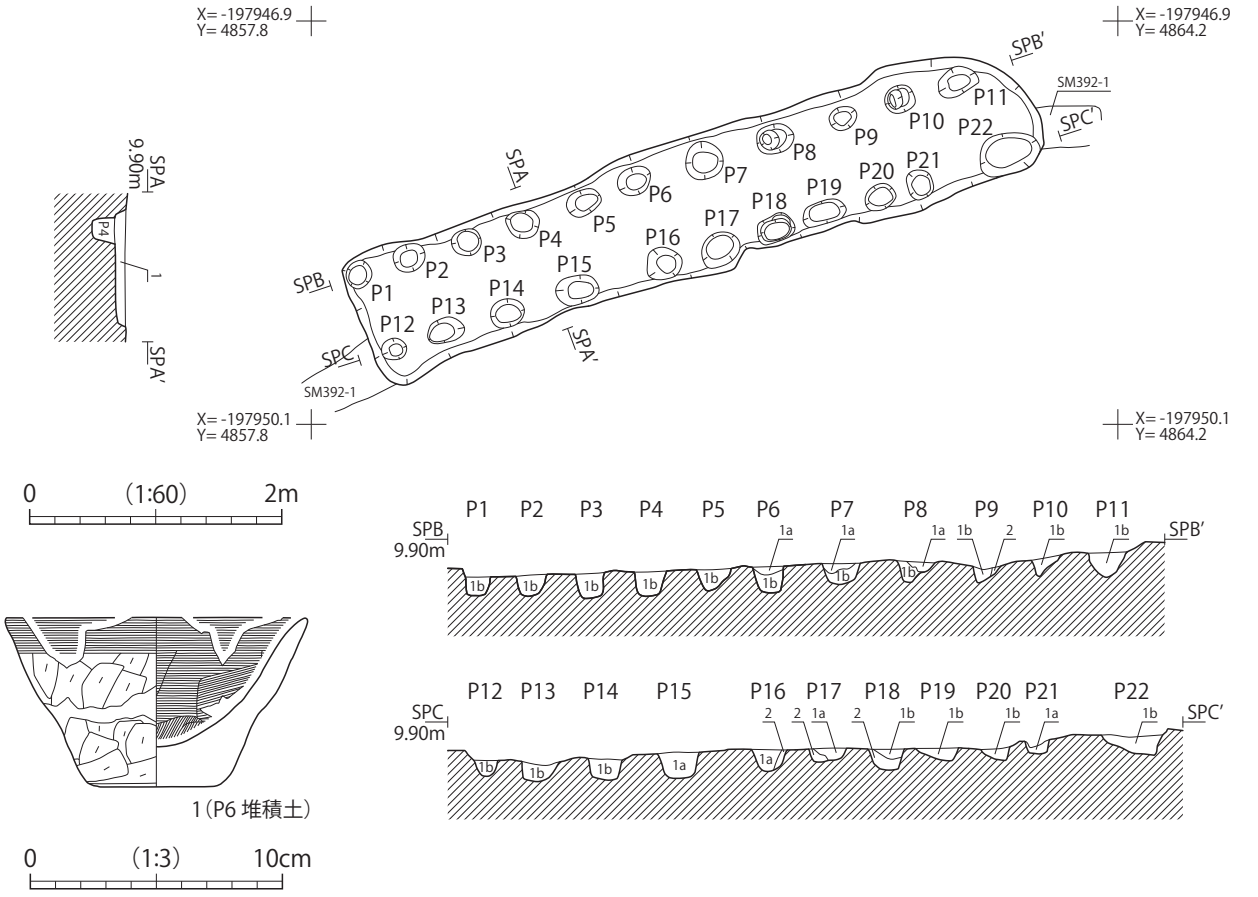
第 41 図　SX24 性格不明遺構・出土遺物

SX25 性格不明遺構（第 42 図）

第 9 次調査区の南東部、44・45 グリッドに位置する。当該期遺構との重複は、Pit143・144 より新しく、SM392 より古い。

浅い竪穴状の遺構であり、平面形状は狭長な長方形を呈するが、東壁のラインは丸みを帯びて張り出す。規模は東西 558cm ×南北 105cm、深さ 12cm を測る。底面の南壁および北壁沿いには、直径 20 ～ 30cm 前後のピットが 11 基ずつ配置されている。

遺物は、土師器鉢 1 点を掲載した。そのほかは土師器の破片が少量出土したのみで、本遺構の時期を直接示すような遺物は出土しなかった。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-323	第9次	SX25	P6 堆積土	土師器	鉢	(11.8)	4.8	6.7	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		92

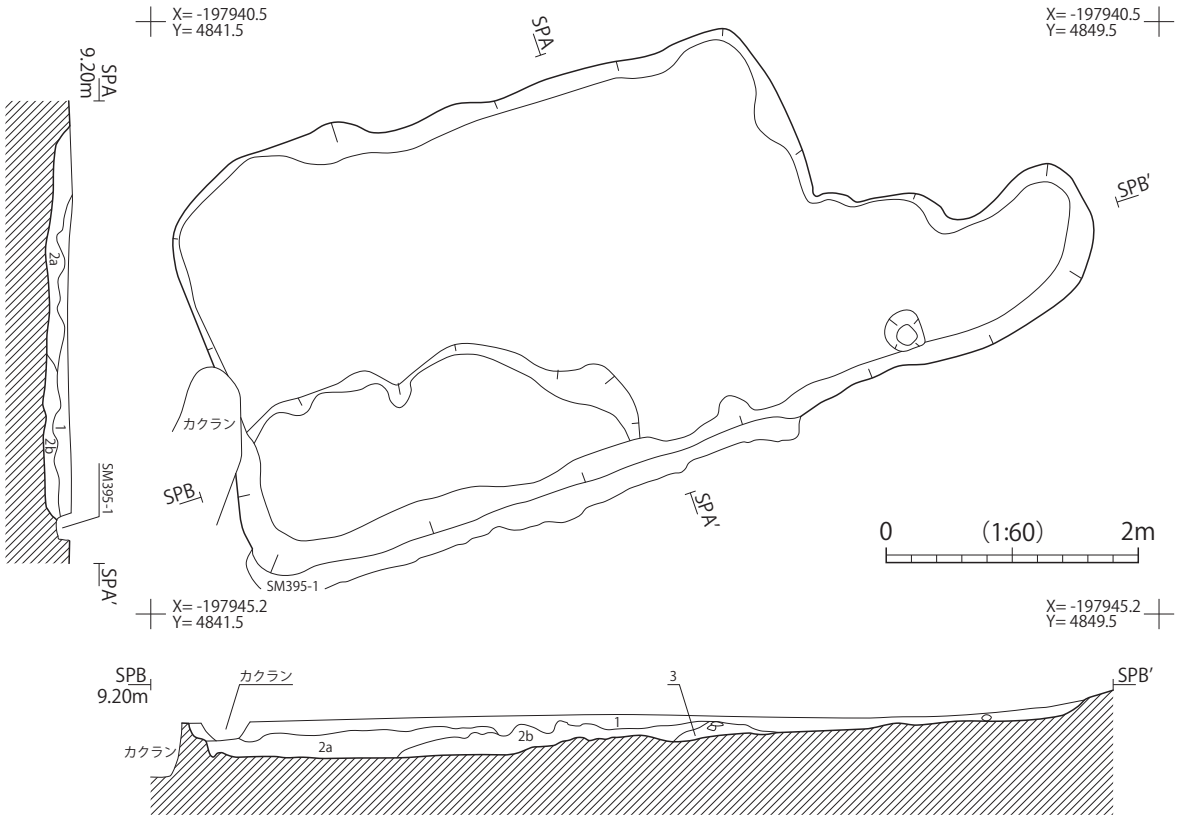
第 42 図　SX25 性格不明遺構・出土遺物

SX26 性格不明遺構（第 43 図）

第 9 次調査区の西部、39・43 グリッドに位置する。当該期遺構との重複は、SM395 より古い。また、西側 1/3 程が河川跡の範囲にかかり、これよりも新しい。

大型の竪穴状の遺構であり、平面形状はいびつな長方形を呈し、東壁の南側は 215cm 程張り出す。この張り出し部分を含む規模は東西 711cm ×南北 311cm を測り、深さ 31cm を測る。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、底面は不規則に起伏する。底面の南西部は土坑状に一段落ち込んでいる。

遺物は土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。



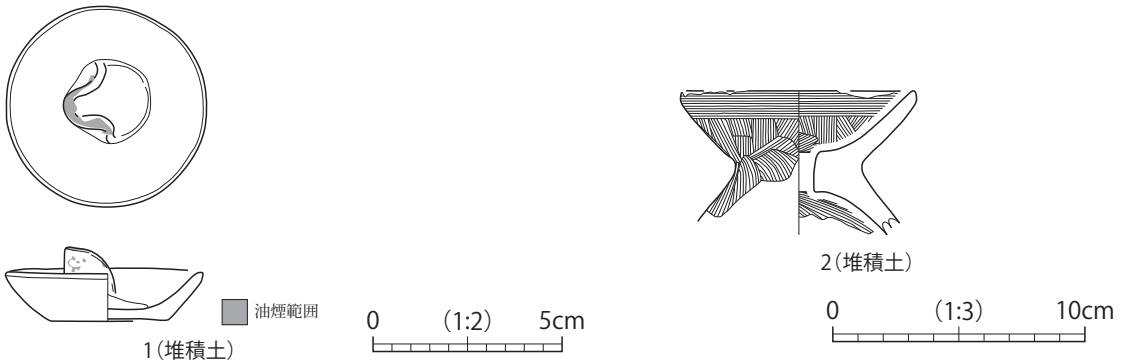
第 43 図　SX26 性格不明遺構

SX27 性格不明遺構（第 44・45 図）

第 9 次調査区の東部、37 グリッドに位置する。当該期遺構との重複は、Pit51 より新しい。

集石状の遺構であり、掘り方の平面形状はいびつな長楕円形を呈す。東側は階段状に掘り込まれており、この部分を中心に多量の礫が充填されている。掘り方の規模は、東西 325cm ×南北 114cm を測り、深さは最深部で 21cm を測るが、全体的には 5cm 前後とかなり浅い。

遺物は、陶器灯明具 1 点、土師器器台 1 点を掲載した（第 44 図）。1 の灯明具は土師質の秉燭（ひょうそく）で、口径 5.3cm の小型品である。内面の中央には灯芯受けが貼りつけられ、その先端には煤の付着が認められる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	I-001	第9次	SX27	堆積土	陶器	灯明具	5.3	3.1	1.9	ロクロ調整	ロクロ調整、施釉、芯受け貼付		92
2	C-326	第9次	SX27	堆積土	土師器	器台	(9.2)	—	(5.7)	口縁部ヨコナデ、体部から脚部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、体部から脚部ヘラナデ	内外面摩滅	92

第 44 図　SX27 性格不明遺構出土遺物

SX30 性格不明遺構（第 45 図）

第 9 次調査区の中央部、32 グリッドに位置する。当該期遺構との重複は、SM394 より古い。

土坑状の遺構だが、内部が被熱しており、地床炉と思われる。SM394 との重複により北半部を失うが、直径 30cm 前後の円形の平面形状が推測される。

遺物は出土しなかった。

SX31・32 性格不明遺構（第 45 図）

ともに第 9 次調査区の中央部、22 グリッドに位置する。当該期遺構との重複は、SM397 より古い。

いずれも炭化物の集中範囲として検出され、70cm 程の距離を置いて 2 基が並ぶ。その範囲は、双方 60cm 前後の不整方形を呈する。

ともに遺物は出土しなかった。

SD194・SK232 性格不明遺構（第 45 図）

ともに第 6 次調査区の中央部、49 グリッドに位置する。河川跡に掘削したトレンチ 1 の断面で検出された。調査が断面確認だけにとどまったため、性格不明遺構扱いとした。

いずれも層位的には河川跡の直下に位置する。両者は重複し、SK232 の方が古い。

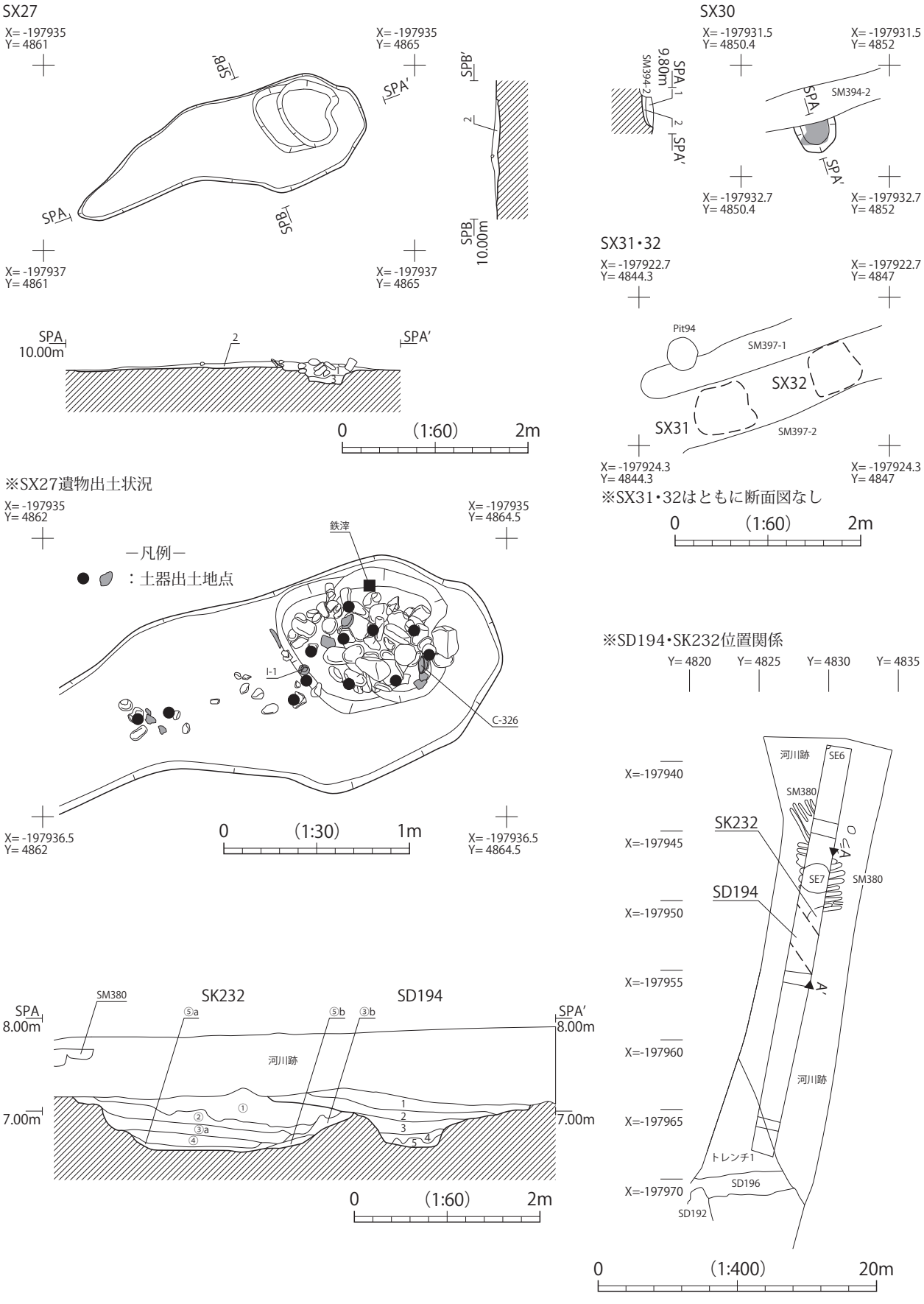
SD194 はトレンチの東・西両壁に検出された。断面形状は薬研状を呈する。トレンチ壁面での計測値は最大幅 284cm、深さ 52cm を測る。

SK232 は東壁のみに検出された。断面形状はいびつな椀状を呈する。残存幅 304cm、深さ 58cm を測る。

ともに遺物は出土しなかった。

性格不明遺構（中世～近世）観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SX24	222･223 226･227	方形?	(593)×(662)	78	1a	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	中位に酸化鉄が凝固し、上位がグライ化。	SD228より古く、SD227、SK248より新しい。
					1b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	粗砂･酸化鉄(斑状)多量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	酸化鉄(ラミナ状)多量、礫(径10cm内)微量含む。	
					3	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	礫(径5cm内)微量含み、酸化鉄(斑状)が壁付近に集中。	
					4	10YR3/3 暗褐色	細砂	礫(径5cm内)･粗砂少量含む。	
SX25	44･45	長方形	558×105	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒･黒色土粒微量含む。	SM392より古く、SI323、Pit143･144より新しい。
					1a	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒･砂粒少量含む。	
					1b	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒微量含む。	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密に含む。	
SX26	39･43	不整形	711×311	31	1	10YR3/3 暗褐色	細砂	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(10㎜程度)少量含む。	SM395より古い。
					2a	10YR2/2 黒褐色	細砂	黒色土ブロック(10～50㎜程度)多量、Ⅳ層土粒微量含む。	
					2b	10YR3/3 暗褐色	細砂	黒色土ブロック(10～50㎜程度)多量、Ⅳ層土粒少量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
SX27	37	不整形	325×114	21	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	拳大程度の礫多量、Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。	SI339、SD266、Pit51より新しい。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック･灰色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	白色粒少量、Ⅳ層土粒･炭化物微量含む。	
SX30	32	楕円形	(32)×42	12	1	2.5YR5/6 明赤褐色	シルト	焼土層。Ⅳ層土粒･黒褐色土粒多量含む。	SM394より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
SX31	22	不整形	66×64	－	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒･炭化物多量含む。	SM397より古い。
SX32	22	不整形	60×58	－	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒･炭化物多量含む。	SM397より古い。
SD194	49	不明 ※断面のみ確認	284×－	52	1	5GY5/1 オリーブ灰色	粘土質シルト	青灰色粘土ブロック(10㎜程度)含み、小礫少量含む。	
					2	7.5Y6/2 灰オリーブ色	粘土	青灰色粘土(斑状)少量、灰白色火山灰･炭化物粒微量含む。	
					3	5G4/1 暗緑灰色	粘土質シルト	青灰色粘土(斑状)少量含む。	
					4	7.5Y5/1 灰色	粘土	青灰色粘土(斑状)多量、灰白色火山灰少量含む。	
					5	10GY6/1 緑灰色	粘土	黒褐色粘土ブロック(5～10㎜程度)少量、灰白色火山灰微量含む。	
SK232	49	不明 ※断面のみ確認	(304)×－	58	①	10G6/1 緑灰色	シルト	黒褐色粘土(斑状)多量、灰黄色細砂含む。	
					②	10GY6/1 緑灰色	シルト	暗褐色シルト(斑状)多量含む。	
					③a	5GY6/1 オリーブ灰色	シルト	暗褐色粘土(斑状)･炭化物粒微量、植物遺存体含む。	
					③b	2.5GY2/1 黒色	粘土	青灰色粘土ブロック(5～10㎜程度)含む。	
					④	5GY6/1 オリーブ灰色	細砂	灰黄褐色シルト(ラミナ状)含み、炭化物粒微量含む。	
					⑤a	10YR6/2 灰黄褐色	粘土	炭化物粒微量含む。	SD194より古い。
					⑤b	10G6/1 緑灰色	粘土質シルト	黒褐色粘土ブロック(20㎜程度)･白色粒微量含む。	



第 45 図　SX27・SX30 ～ 32・SD194・SK232 性格不明遺構

第 2 節　古墳時代～古代の遺構と遺物

基本層Ⅳ層上面より、竪穴住居跡・竪穴遺構 76 軒、掘立柱建物跡 3 棟、材木列跡 1 条、溝跡 17 条、土坑 22 基、ピット 54 基、性格不明遺構 4 基を検出した。当該期の遺構は全て高位面に位置しており、低位面では検出されていない。これらが構成する「居住域」は第 1 ～ 4・10 次調査の状況を含み、郡山Ⅰ・Ⅱ期官衙との強い関連性が指摘されている。第 3・4・10 次調査ではこの集落の北側を画す「堀」状の大型の溝跡や材木列跡、一本柱列跡などが検出されており、今回報告する材木列跡や河川跡が、対する南側を画すと考えられる。

事実記載中の「重複関係」については、当該期の遺構だけを示した。また、報告書既刊の第 1・2 次調査（仙台市教委、2008 年）のものと同一である SI4・8・17、SD6・7 の各遺構図は、今回の調査部分のみを掲載した。

(1) 竪穴住居跡・竪穴遺構

既述の通り、竪穴住居跡・竪穴遺構は 76 軒が検出された。その分布は密集傾向にあり、これらの重複もかなり多い。最多の例では SI316 の 13 軒があり、このような状況のため、ごく一部しか残存しないものも多い。本書では、これらの一部を含む " 住居としての機能が明確にできない竪穴 " を、「竪穴遺構」とした。

時期的には 1 期（5 世紀後半）から 6b 期（8 世紀中葉～末葉）まで認められる。

SI4 竪穴住居跡（第 46 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区東端部の 04 グリッドに位置する。大半が第 1 次調査区に、北壁付近が第 2 次調査区にかかる。今回検出したのは北西コーナー付近のみである。

【重複】 SI281 より新しく、SD6 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 250cm、東西 98cm を測る。第 1・2 次調査部分を含めると、南北 548cm、東西 593cm の規模である。平面形状は、東西方向に若干長い方形を呈する。

【方向】 第 1・2 次調査の部分で、N － 26° － W を測る。

【堆積土】 6 層に分層された。1 ～ 3 層は住居堆積土、4 層は周溝堆積土、5・6 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 中位まで直立気味に立ち上がり、これより上は直線的に外傾する。壁高は最大で 52cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。第 1・2 次調査時の所見では、周辺部がやや窪むとされる。

【柱穴】 第 1 次調査部分で 3 基の主柱穴が確認されている。北西部に存在すべき 1 基については、今回の調査でも検出されなかった。

【周溝】 東壁で断続部が確認されているが、ほぼ全周していたと推測される。今回検出部分の規模は、幅 15 ～ 25cm、深さ 11 ～ 17cm を測る。

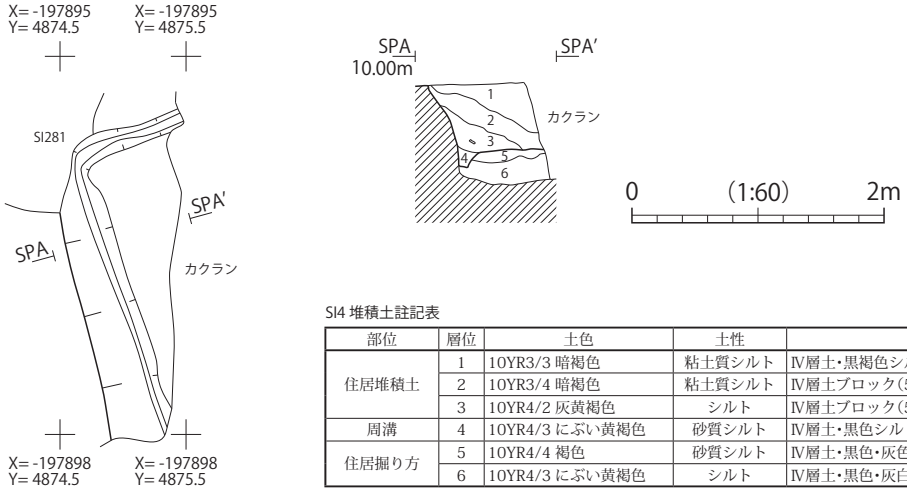
【カマド】 北壁の中央へ付設されるが撹乱により破壊され、第 2 次調査区壁の断面のみで確認された。

【その他の施設】 北東コーナーから貯蔵穴と思われるピット 2 基、中央部から埋土された土坑 1 基が検出されている。今回は何も検出されなかった。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は中央部が島状に高まり、周辺部は幅広の溝状を呈する。今回の調査でも同様の状況が認められた。

【出土遺物】 堆積土中から土師器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】『長町駅東遺跡第 1・2 次調査』（前掲）によれば、7 世紀後半に比定される。これは本書の時期区分の、4 期に相当する。



SI4 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土・黒褐色シルトブロック(5～20㎜程度)多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含み、下位に暗褐色シルト集中。
周溝	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・黒色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。
住居掘り方	5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・黒色・灰色シルトブロック(5～10㎜程度)密に含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土・黒色・灰白色シルトブロック(5～30㎜程度)多量含む。

第 46 図　SI4 竪穴住居跡

SI7 竪穴住居跡（第 48 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 15 グリッドに位置する。大半が第 1 次調査区にかかり、今回検出したのは北西コーナー部分のみである。

【重複】 今回の調査部分では重複する遺構は認められないが、第 1 次調査部分では SD7 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 219cm、東西 71cm を測る。第 1 次調査部分を含めると、南北 491cm、東西 387cm の規模である。平面形状は、南北方向に長い長方形を呈する。

【方向】 第 1 次調査部分の東壁で、N － 18° － W を測る。

【堆積土】 7 層に分層された。1 ～ 5 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。6 層は周溝堆積土、7 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 西壁は直線的に外傾するが、北壁は内湾気味に外傾し、開き気味である。壁高は最大で 37cm を測る。

【床面】 第 1 次調査時の所見では、残存部では概ね平坦とされる。

【柱穴】 第 1 次調査部分を含み、検出されなかった。

【周溝】 第 1 次調査部分では北半部の壁に沿って巡る。今回の調査部分では全体に検出されているが、その走行は不安定で必ずしも壁に沿わない。規模は、幅 19 ～ 26cm、深さ 10 ～ 14cm を測る。

【カマド・その他の施設】 第 1 次調査部分を含み、検出されなかった。

【掘り方】 第 1 次調査部分では全体が掘り込まれ、底面はほぼ平坦で特に目立った起伏はない。今回の調査部分では、壁際から 4 ～ 14cm 内側で 10cm 程一段下がって掘り込まれる。底面には深さ 4 ～ 10cm 程のピット状の窪みが認められる。

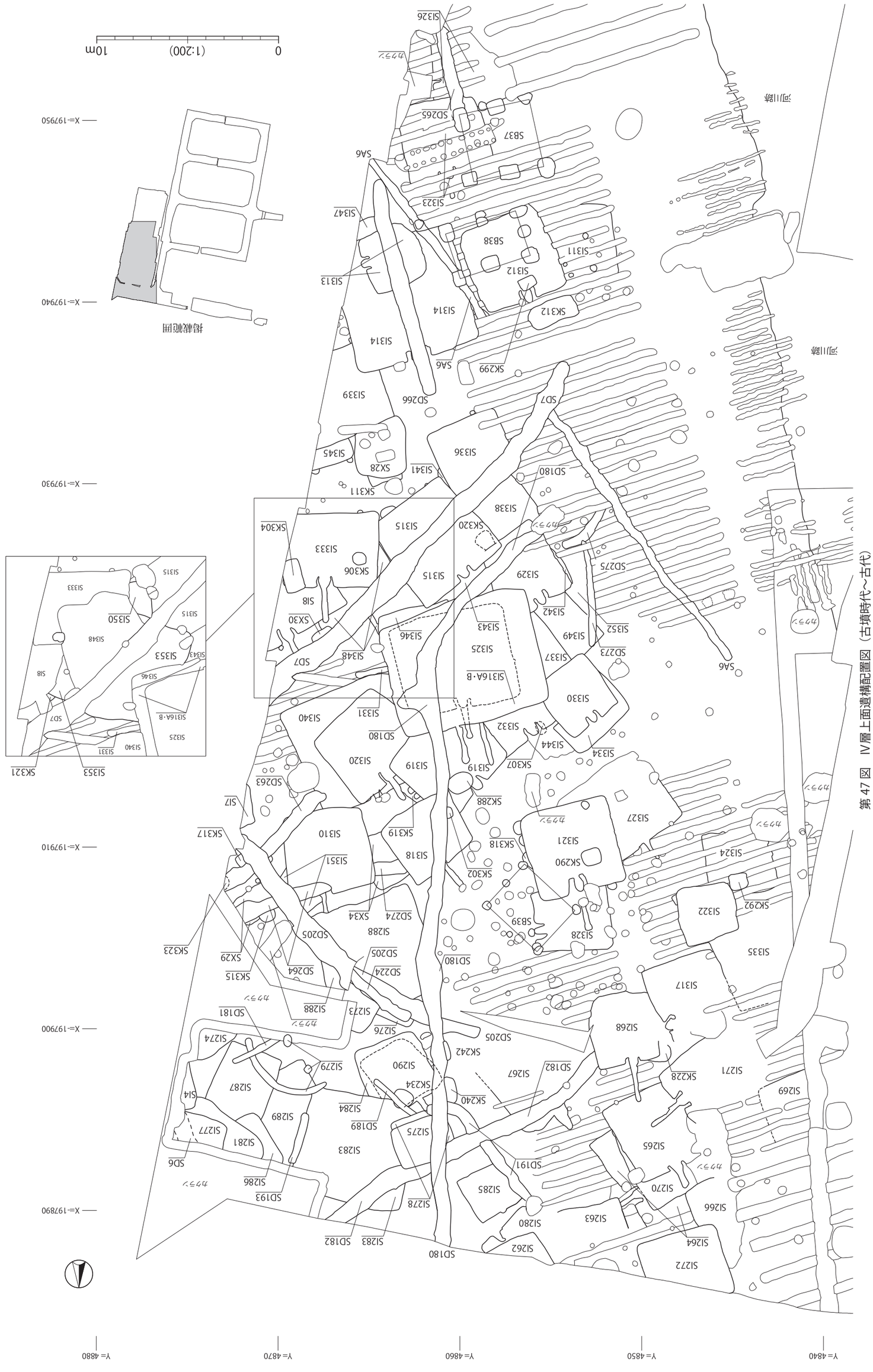
【出土遺物】 堆積土中から土師器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】『長町駅東遺跡第 1・2 次調査』（前掲）によれば、7 世紀後半に比定される。これは本書の時期区分の、4 期に相当する。

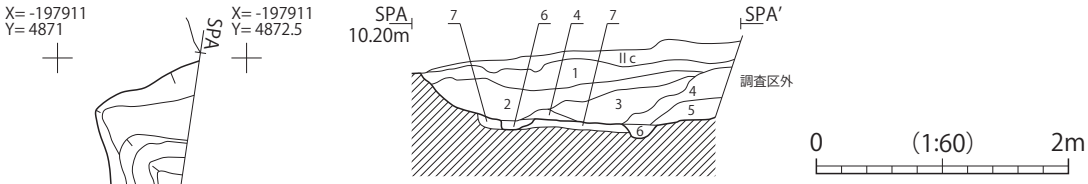
SI8 竪穴住居跡（第 49 ～ 51 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区東部の 24・25 グリッドに位置する。重複遺構による破壊部分が多く、北西コーナーからカマド前方にかけて検出した。第 1 次調査では、南東部分が検出されている。

【重複】 SI348・353、SK321、Pit223・224 より新しく、SI333、SD7、SK304・316 より古い。



第47図　Ⅳ層上面遺構配置図（古墳時代～古代）



SI7 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	微砂	黒色土ブロック(10㎜程度)少量、Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、黒色土ブロック(10㎜程度)少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	微砂	黒色土粒多量、Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。
	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)密、黒色土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土密、黒色土粒微量含む。
周溝	6	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・黒色土粒多量、焼土粒微量含む。
住居掘り方	7	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土密、黒色土粒微量含む。

第 48 図　SI7 竪穴住居跡

【規模・形態】 検出した規模は、南北 281cm、東西 511cm を測る。第 1 次調査部分を含めると、南北 583cm、東西 672cm の規模である。平面形状は、東西方向に長く、かつ東壁が開く台形状と推定される。

【方向】 カマド基準で N － 29° － W を測る。

【堆積土】 大別で 11 層、細別で 16 層に分層された。大別 1 層は住居堆積土、2 層は周溝堆積土である。3 ～ 5 層はカマド関連の堆積土で、天井材の崩落とみられる基本層Ⅳ層土を多量含む。6 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土が主体であると思われる。7 ～ 9 層はカマド掘り方の埋土で、煙道部の底面と壁面に厚く貼られている。10・11 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 ほぼ直立して立ち上がる。壁高は最大で 15cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P1・2・7・10）を検出した。規模や形状から P1 が主柱穴に相当すると思われるが、第 1 次調査区の状況と併せ、東寄りの配置といえる。P10 は P1 と重複し、両者は建て替えの関係にあると思われる。P2 は壁柱穴、P7 は補助柱穴か。柱痕跡は P7 で確認され、径 25cm を測る。

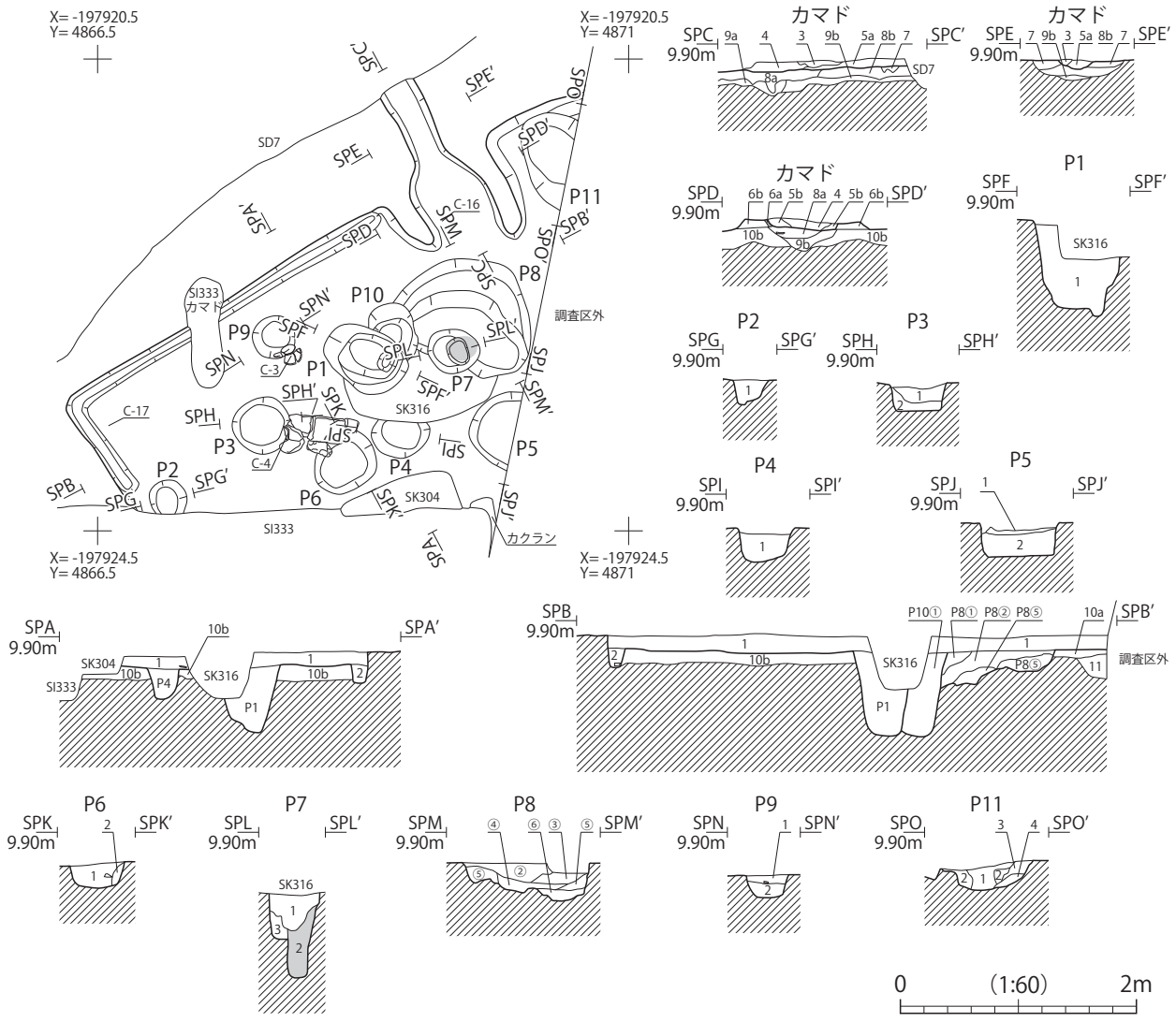
【周溝】 今回の検出部分では、カマド西側の壁面に沿って巡り、西壁はコーナー部分から 96cm の位置で途切れている。規模は、幅 11 ～ 17cm、深さ 12 ～ 13cm を測る。第 1 次調査部分では検出壁の全体に沿っている。

【カマド】 北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。煙道部の先端は、SD7 との重複で失われている。袖の規模は、西袖が長さ 57cm、幅 24 ～ 35cm、東袖が長さ 89cm、幅 24 ～ 38cm を測り、北壁に直交して延びる。南西部の床面上からは直方体の凝灰岩切石が出土しており、これを焚口の懸架材に用いていたと思われる。この切石には被熱痕が認められ、長さは 60cm 程である。また、この切石に折り重なるようにして自然礫が 2 点出土した。出土状況から、袖の芯材であった可能性が考えられる。燃焼部は奥行き 94cm、幅 53cm を測り、壁内に位置する。底面は 2cm 程皿状に窪み、煙道部へは平坦にそのまま繋がる。被熱は弱く、壁や底面の焼土化はあまり進んでいない。煙道部は長さ 69cm、幅 29 ～ 33cm、深さ 8cm を測り、底面は概ね平坦である。

【その他の施設】 土坑 P3 ～ 6・8・9・11 を検出した。これらは密集して掘り込まれているが、本竪穴住居跡が機能していた当時は P3 を除き埋め戻されていたと思われる。ただし、P11 はカマドの脇に配置されていることから貯蔵穴の可能性がある。P4 ～ 6・9 は堆積土中に焼土や炭化物を多量含み、カマドとの関連性が想定される。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は概ね平坦であるが、カマドの東側が 10cm 程窪む。ほかは深さ 12 ～ 14cm と一定である。第 1 次調査部分も同様の状況である。

【出土遺物】 土師器坏 5 点、鉢 1 点、甕 2 点を掲載した（第 50・51 図）。第 50 図－ 1 ～ 4 の土師器坏は、内湾



SI8 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
周溝	2	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド	3	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒・焼土粒・灰少量含む。
	4	5YR4/1 褐灰色	シルト	灰多量、焼土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒少量含む。
	5a	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒・焼土粒・灰少量含む。
	5b	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド袖	6a	5YR5/3 にぶい赤褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒・焼土粒微量含む。被熱により赤化。
	6b	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒・焼土粒微量含む。
カマド掘り方	7	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(5㎜程度)少量含む。
	8a	5YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒多量、灰少量含む。
	8b	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒色土粒微量含む。
	9a	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	シルト	焼土粒主体。Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	9b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒・焼土粒微量含む。被熱により赤化。
住居掘り方	10a	10YR4/4 褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。上位に暗褐色シルトが薄く堆積。
	10b	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒・焼土粒微量含む。
	11	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI8 施設観察表

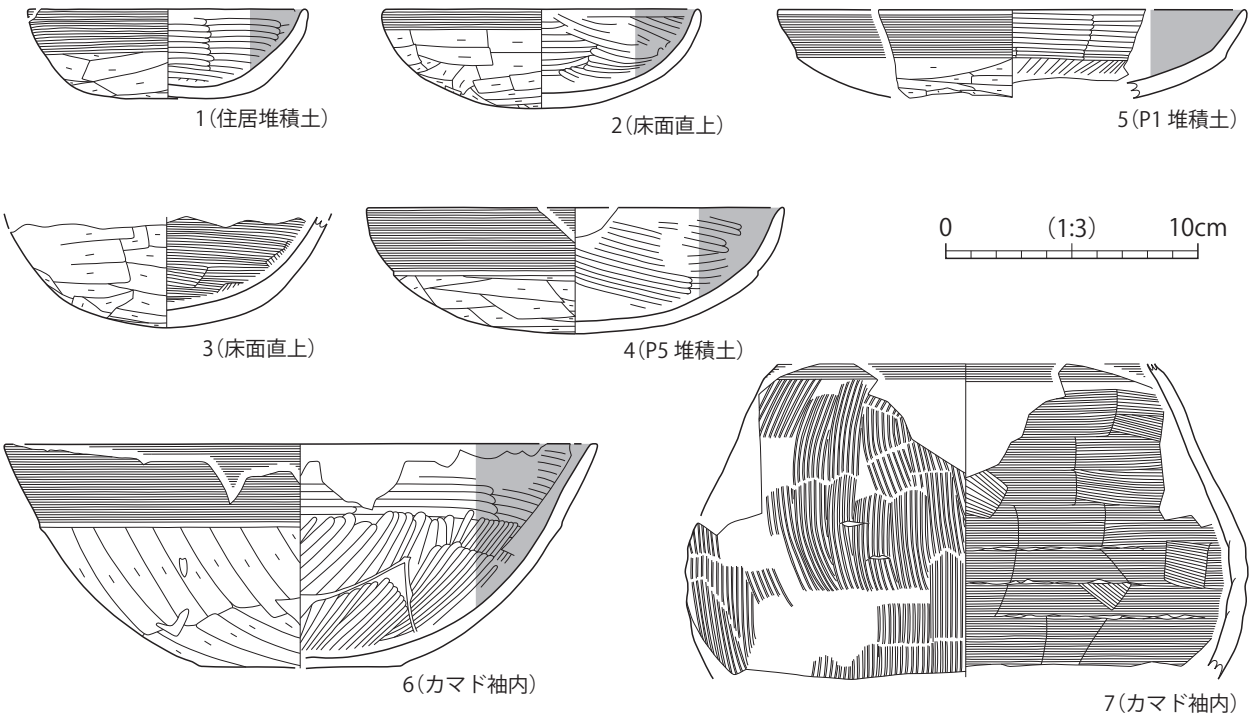
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	72×(49)	82	
P2	円形	32×(29)	21	
P3	円形	48×47	24	
P4	円形	45×(34)	30	焼土・炭化物多量(カマド関連か)
P5	楕円形	65×(37)	28	焼土・炭化物多量(カマド関連か)
P6	楕円形	57×47	27	焼土・炭化物多量(カマド関連か)

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	円形	(43)×(38)	74	柱痕跡あり。
P8	楕円形	113×(101)	31	
P9	円形	37×36	19	焼土・炭化物多量(カマド関連か)
P10	楕円形	51×(30)	70	
P11	楕円形	(55)×(39)	39	貯蔵穴か。

第 49 図　SI8 竪穴住居跡

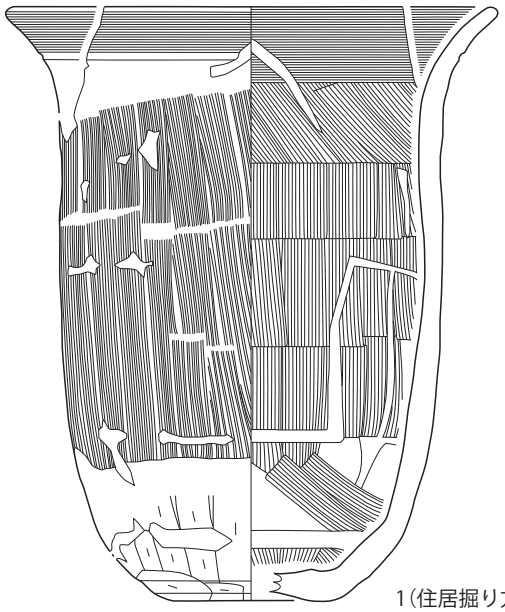
SI8 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物粒・焼土ブロック(5㎜程度)微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。
P4	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	黒色土ブロック・焼土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒多量、Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒密、焼土粒少量、焼土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
P6	1	5YR4/2 灰褐色	微砂	焼土ブロック(5㎜程度)・焼土粒多量、Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物粒・焼土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)少量、黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。※柱痕跡
	3	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒密、褐灰色土粒少量含む。
P8	①	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	②	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土粒少量、黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒・焼土粒微量含む。
	③	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	④	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
	⑤	5YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック(5㎜程度)・黒色土粒・焼土粒多量、炭化物粒微量含む。
	⑥	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	焼土粒少量、Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
P9	1	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック(5～20㎜程度)・焼土粒多量、Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物粒・焼土粒微量含む。
P10	—	—	—	註記なし。
P11	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土粒多量、Ⅳ層土粒少量、焼土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5㎜程度)少量、焼土粒微量含む。
	4	10YR7/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-001	第9次	SI8	堆積土	土師器	坏	(10.9)	—	3.5	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		92
2	C-003	第9次	SI8	床面直上	土師器	坏	12.4	—	3.9	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部ハケメ→ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		92
3	C-004	第9次	SI8	床面直上	土師器	坏	—	—	(4.4)	ヘラケズリ	ヘラナデ	内面に漆の痕跡	92
4	C-012	第9次	SI8	P5堆積土	土師器	坏	(16.4)	—	5.0	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		92
5	C-006	第9次	SI8	P1堆積土	土師器	坏	(18.4)	—	(3.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		92
6	C-015	第9次	SI8	カマド袖内	土師器	鉢	(23.5)	(8.0)	8.9	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		92
7	C-016	第9次	SI8	カマド袖内	土師器	甕	—	—	(12.5)	頸部ヨコナデ、胴部ハケメ、輪積み痕	頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		92

第 50 図　SI8 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)		
							口径	底径	器高
1	C-017	第9次	SI8	掘り方	土師器	甕	(19.0)	6.4	23.6

外面調整	内面調整	備考	写真図版
口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、胴部下位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		92

1(住居掘り方)　0　(1:3)　10cm

第 51 図　SI8 竪穴住居跡出土遺物（2）

気味に立ち上がる口縁部をもち、5 の坏の口縁部は直線的に外傾する。4・5 の口縁部と体部との境目には強い稜をもつ。6 の鉢は体部から内湾気味に外傾し、そのまま口縁部へと至る器形である。底部は平底である。これら坏・鉢の内面は、いずれも黒色処理が施される。7 の甕は胴部下位が強く張る、下膨れの器形を呈する。第 51 図－ 1 の甕は円筒状の器形を有する長胴甕で、ほぼ直立する胴部から口縁部で外反する。

【時期】 第 50 図－ 2・3 は床面上から、4・5 はそれぞれ P5・1 から、6・7 はカマド袖内から出土している。また第 51 図－ 1 は住居掘り方の底面上から、1 個体が潰れた状態で出土した。これらの特徴から、本竪穴住居跡の時期は 4 期（7 世紀中葉～後葉）と考えられる。

SI262 竪穴住居跡（第 52 図）

【位置・確認】 第 5 次調査区と第 6 次調査区の東西にまたがり、14 グリッドに位置する。大半が調査区外にかかり、南西部分のみ検出した。

【重複】 SI280 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 213cm、東西 285cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 西壁基準で N － 24° － W である。

【堆積土】 大別で 6 層、細別で 7 層に分層された。大別 1 ～ 3 層は住居堆積土で、1 層には灰白色火山灰が少量混入する。2・3 層は、基本層Ⅳ層土の混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。4 ～ 6 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 13cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

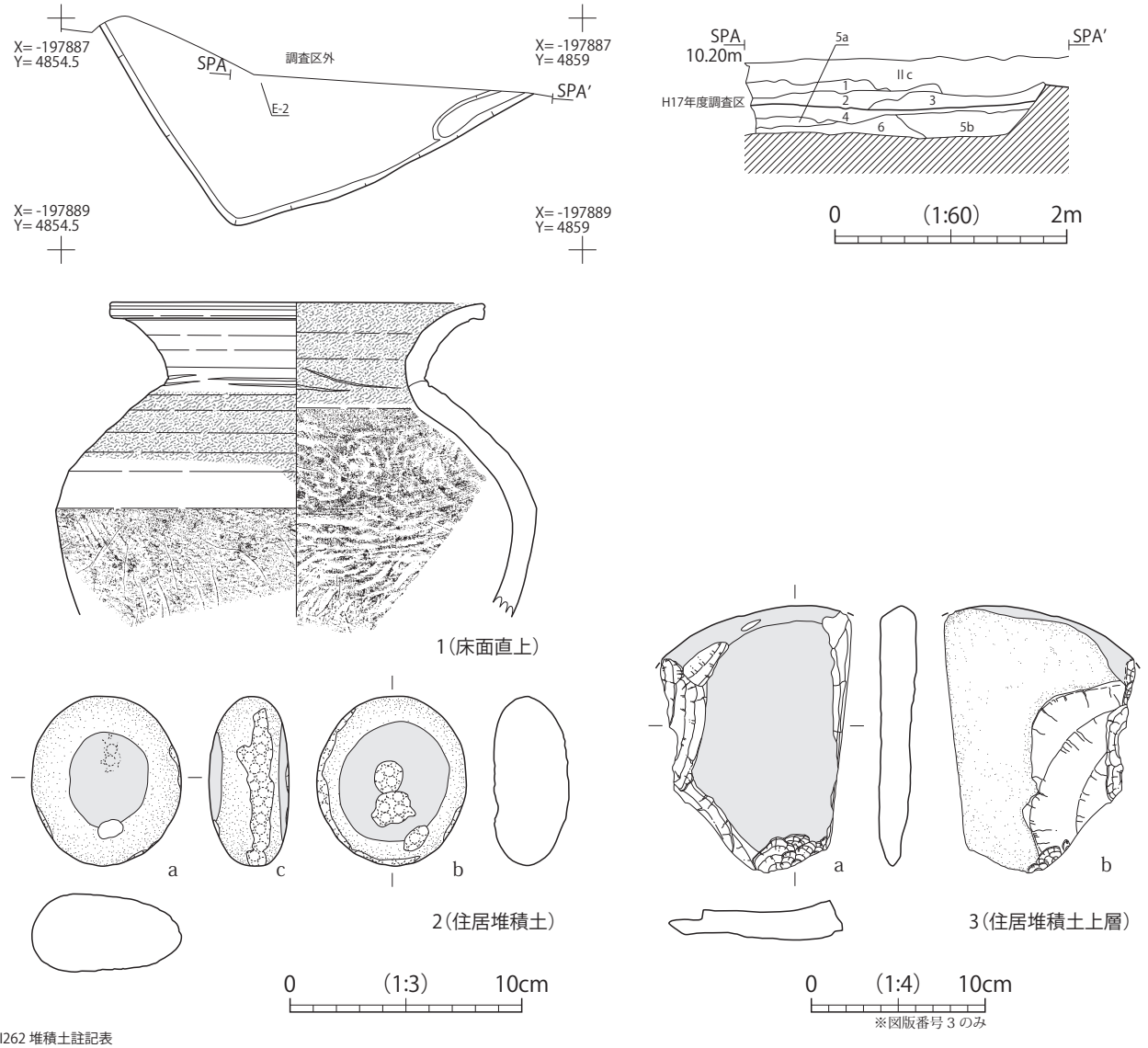
【周溝】 南壁の東側に沿って延びるが、南西コーナーの手前 1.8 m程で断続する。規模は、幅 17 ～ 22cm、深さ 6 ～ 7cm を測る。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は概ね平坦である。深さは 20 ～ 29cm を測り、厚く埋土されている。

【出土遺物】 須恵器壺 1 点、礫石器 2 点を掲載した（第 52 図）。第 52 図－ 1 の須恵器壺は口縁部から肩部にかけての破片で、比較的大型の個体である。外面は肩部に、内面は口縁部に自然釉が付着している。2 の礫石器は磨

＋敲＋凹石で、a・b 面に磨痕・敲打痕が認められるほか、c 面にも敲打痕が認められる。また、b 面には 1 箇所の凹部が形成されている。3 の礫石器は台石＋石皿と思われる。

【時期】 第 52 図－ 1 の須恵器壺は床面上から出土し、その特徴から本竪穴住居跡の時期は 6b 期（8 世紀中葉～末葉）と考えられる。



SI262 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	微砂	灰白色火山灰少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土・黒褐色シルトブロック（5～20㎜程度）多量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。
	5a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック（10～20㎜程度）多量含む。
	5b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック（10㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	黒褐色シルトブロック（10㎜程度）微量含む。

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-002	第5次	SI262	床面直上	須恵器	壺	(16.0)	－	(13.5)	口縁から胴部上半ロクロ調整、胴部下半格子目タタキ	口縁から頸部ロクロ調整、胴部青海波文		92

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
2	Kc-018	第6次	SI262	堆積土	礫石器	磨+敲+凹石	7.3	6.4	3.4	196.4	安山岩	a面敲(弱)→磨(弱)、b面磨(弱)→凹1箇所、c面敲打(弱)	92
3	Kc-001	第5次	SI262	堆積土上層	礫石器	台石+石皿	15.2	10.9	2.4	224.3	凝灰岩	a面磨(強)→縁辺+b面一部剥離	92

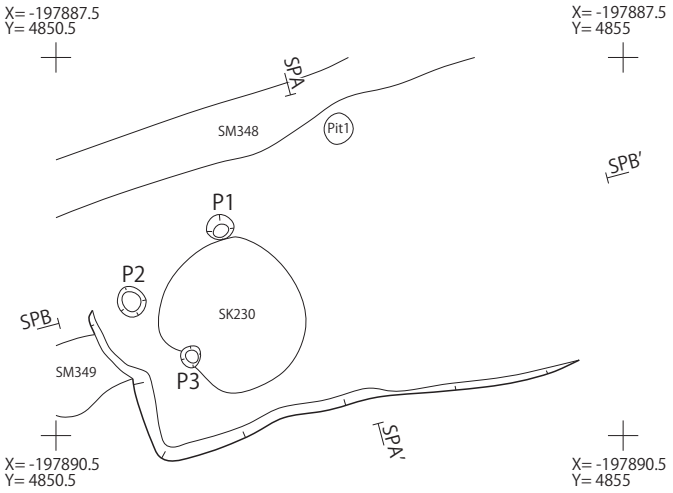
第 52 図　SI262 竪穴住居跡・出土遺物

SI263 竪穴遺構（第 53 図）

【位置・確認】 第 5 次調査区北東部の 14・20 グリッドに位置する。削平のため、南側の一部分しか残存していない。床面施設がほとんど認められないことから、「竪穴遺構」とした。

【重複】 SI264 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 125cm、東西 335cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。



SI263 堆積土註記表

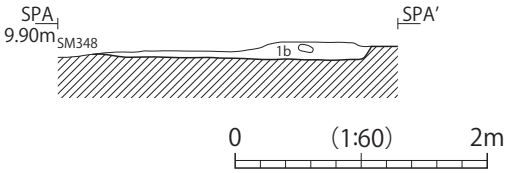
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	2.5YR6/3 にぶい橙色	砂質シルト	
	1b	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	

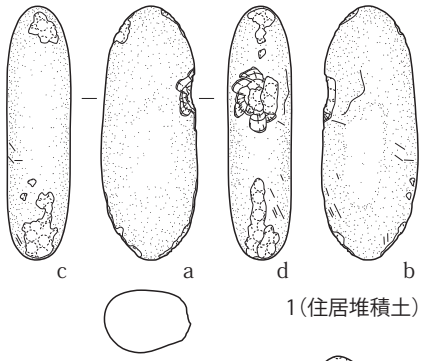
SI263 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	
P2	1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	
P3	1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	

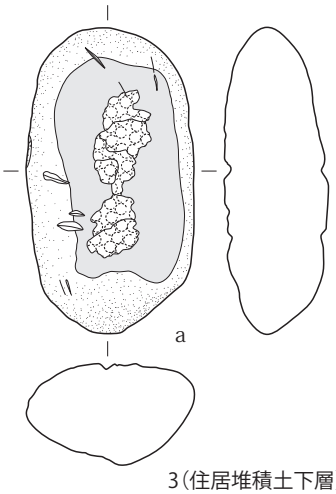
SI263 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	22×20	6	
P2	円形	26×22	10	
P3	円形	18×16	17	

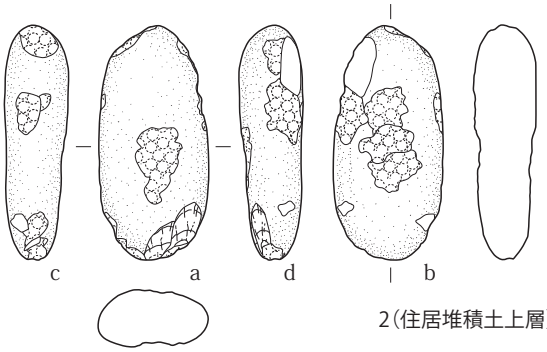




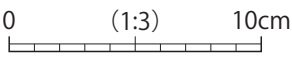
1（住居堆積土）



3（住居堆積土下層）



2（住居堆積土上層）



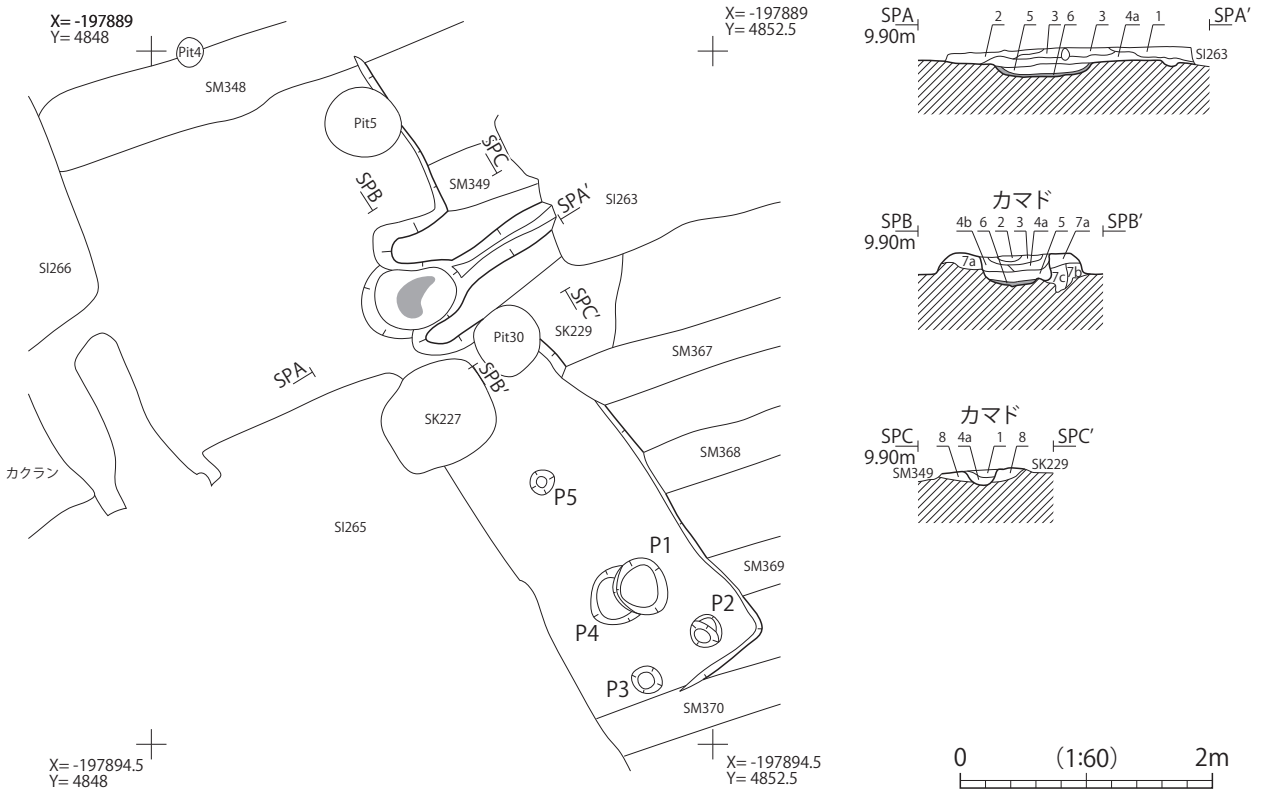
図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm） 全長	幅	厚さ	重量（g）	石材	備考	写真図版
1	Kc-002	第5次	SI263	堆積土	礫石器	敲石	10.1	3.8	2.5	141.8	安山岩	上下両端+d面敲（中・強）、一部敲打時に剥離	93
2	Kc-003	第5次	SI263	堆積土上層	礫石器	敲+凹石	9.3	4.4	2.5	86.2	凝灰岩	a+b面凹（a面1箇所・b面3箇所）、上下両端+c・d面敲（中・強）	93
3	Kc-004	第5次	SI263	堆積土下層	礫石器	磨+凹石	12.2	6.7	4.2	359.0	安山岩	a面磨（弱）→凹5箇所+線状・溝状痕	93

第 53 図　SI263 竪穴遺構・出土遺物

【方向】 南壁基準で N － 15° － W である。
【堆積土】 大別で 1 層、細別で 2 層に分層された。いずれも住居堆積土である。
【壁面】 概ね直線的に外傾する。壁高は最大で 24cm を測る。
【床面】 概ね平坦である。掘り方を伴わず、基本層Ⅳ層を直接床面としている。
【柱穴】 床面から 3 基（P1 ～ 3）を検出した。いずれも住居範囲の西側に位置し、不規則に配置されている。小型で浅い。
【出土遺物】 礫石器 3 点を掲載した（第 53 図）。第 53 図－ 1 は敲石で、一部の面には敲打時の剥離痕が認められる。3 は磨＋凹石である。a 面には 2 箇所の凹部が形成されている。そのほか、堆積土中から土師器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。
【時期】 本竪穴遺構の時期は、不明である。

SI264 竪穴住居跡（第 54 図）
【位置・確認】 第 5 次調査区東部の 13・14・19・20 グリッドに位置する。削平や重複遺構の影響を受け、東半部分のみが残存する。
【重複】 SI270 より新しく、SI263・265 より古い。
【規模・形態】 検出した規模は、南北 560cm、東西 134cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。
【方向】 カマド基準で N － 55° － E である。
【堆積土】 大別で 8 層、細別で 11 層に分層された。大別 1 ～ 6 層はカマド関連の堆積土で、7 層はカマド袖の構築土である。基本層Ⅳ層土が主体であると思われる。8 層はカマド掘り方の埋土で、煙道部の底面と壁面に厚く貼られている。
【壁面】 概ね直線的に外傾する。壁高は最大で 15cm を測る。
【床面】 概ね平坦である。
【柱穴】 床面から 5 基（P1 ～ 5）を検出した。P1 ～ 4 は南東コーナー付近に集中する。いずれも補助柱穴のたぐいと考えられる。
【カマド】 東壁に位置し、壁面に直交して付設される。煙道部の先端は、SI263 との重複で失われている。袖の規模は、北袖が長さ 61cm、幅 36 ～ 45cm、南袖が長さ 68cm、幅 25 ～ 33cm を測り、東壁に直交して延びる。両袖の先端には小規模なピットが伴い、掘り方から検出された。芯材の抜き取り痕であると考えられる。燃焼部は奥行き 82cm、幅 55cm を測り、壁内に位置する。底面は 5cm 程皿状に窪み、煙道部へはそのまま平坦に繋がる。被熱は弱く、壁や底面の焼土化はあまり進んでいない。煙道部は長さ 90cm、幅 22 ～ 27cm、深さ 13cm を測り、底面は概ね平坦である。
【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は概ね平坦である。深さは、5 ～ 19cm を測る。
【出土遺物】 土師器坏 1 点、甕 1 点を掲載した（第 54 図）。1 の坏は厚みがあり、底部は上げ底状である。
【時期】 SI265 より古いことから、3 期（7 世紀初頭～前葉）以前に位置付けられる。

SI265 竪穴住居跡（第 55 ～ 57 図）
【位置・確認】 第 5 次調査区南東部の 19・20・22・23 グリッドに位置する。撹乱や重複遺構により、西壁は失われている。
【重複】 SI264・270 より新しく、SI268・271 より古い。
【規模・形態】 検出した規模は、南北 452cm、東西 350cm を測る。平面形状は方形と推定される。



SI264 堆積土註記表

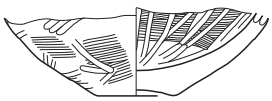
部位	層位	土色	土性	備考
カマド	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルトブロック(5～10㎜程度)・焼土粒少量含む。
	2	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂質シルト	
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	
	4a	5YR5/4 にぶい赤褐色	砂質シルト	
	4b	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	焼土粒少量含む。
	5	5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒少量含む。
	6	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	被熱により赤化。
カマド袖	7a	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	焼土粒少量含む。
	7b	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂質シルト	
	7c	5Y5/3 灰オリーブ色	砂質シルト	焼土粒少量含む。
カマド掘り方	8	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	焼土粒少量含む。

SI264 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	48×42	23	
P2	円形	26×24	19	
P3	円形	26×20	18	
P4	円形?	44×(44)	12	
P5	円形	20×20	13	

SI264 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	
P2	1	5YR5/4 にぶい赤褐色	砂質シルト	
P3	1	5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	
P4	1	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	
P5	1	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	



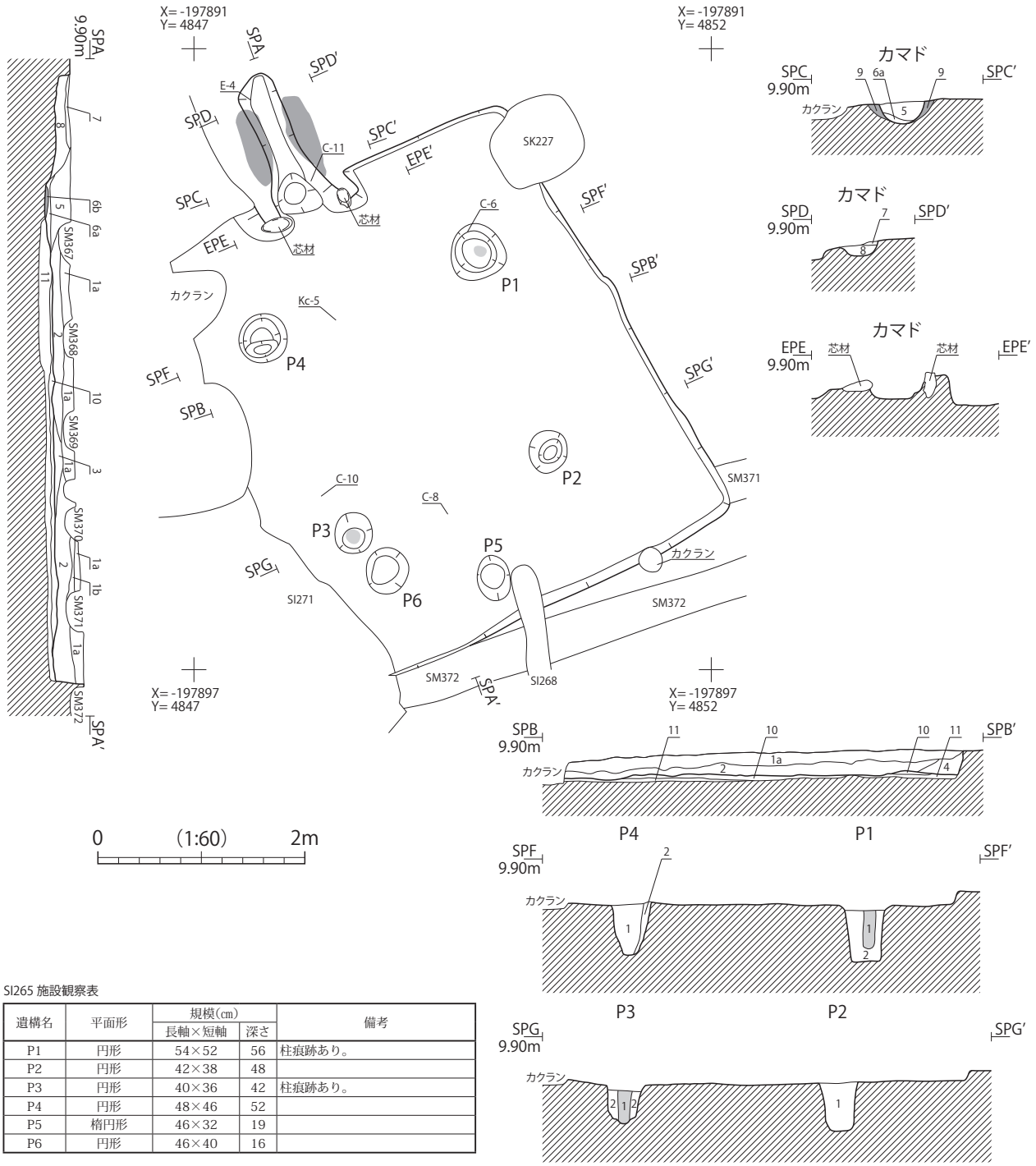
1(住居堆積土上層)

2(住居堆積土)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-002	第5次	SI264	堆積土上層	土師器	坏	—	3.0	(3.5)	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ→ヘラミガキ		93
2	C-003	第5次	SI264	堆積土	土師器	甕	—	—	(8.2)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		93

第 54 図　SI264 竪穴住居跡・出土遺物



SI265 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	円形	54×52	56		柱痕跡あり。
P2	円形	42×38	48		
P3	円形	40×36	42		柱痕跡あり。
P4	円形	48×46	52		
P5	楕円形	46×32	19		
P6	円形	46×40	16		

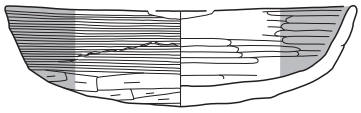
SI265 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂質シルト	褐色シルトブロック(5～10㎜程度)・焼土粒含む。
	1b	2.5Y6/2 灰黄色	砂質シルト	
	2	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	炭化物粒・焼土粒含む。
	3	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	
	4	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	
カマド	5	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	炭化物粒少量含む。
	6a	5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	
	6b	10R3/4 暗赤色	砂質シルト	
	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
	8	5YR4/4 にぶい赤褐色	砂質シルト	
カマド構築土	9	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	被熱により赤化。
住居掘り方	10	2.5Y7/6 明黄褐色	シルト	
	11	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂質シルト	褐色シルトブロック(5～10㎜程度)含む。

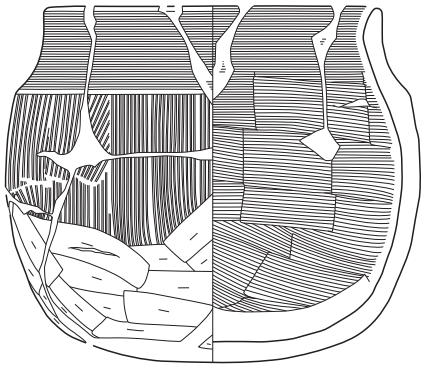
第 55 図　SI265 竪穴住居跡

SI265 施設堆積土註記表

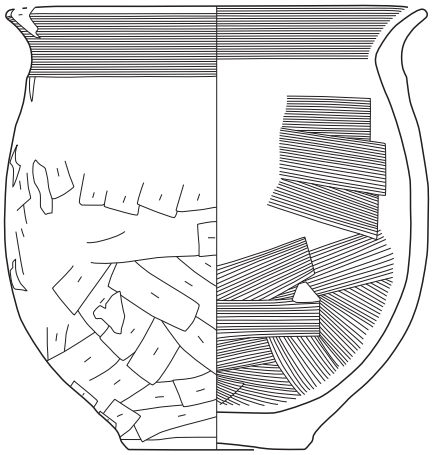
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。※柱痕跡
	2	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。
P2	1	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。
P3	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。※柱痕跡
	2	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。
P4	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。
	2	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	
P5	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	
P6	1	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	



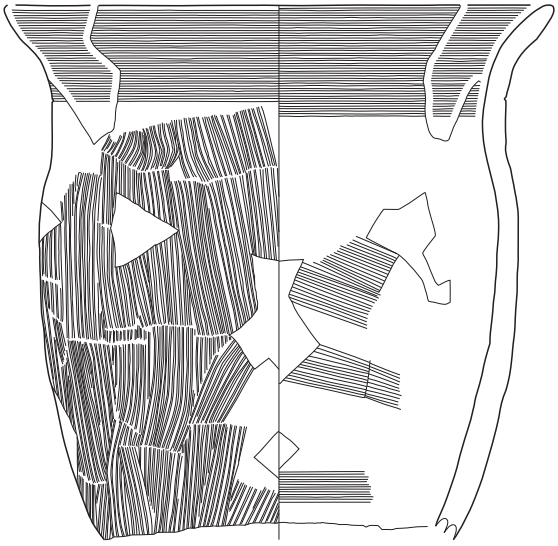
1(床面直上)



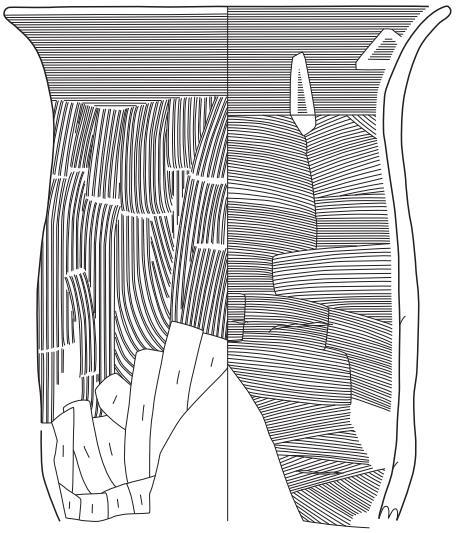
2(床面直上)



3(床面直上)



4(床面直上)

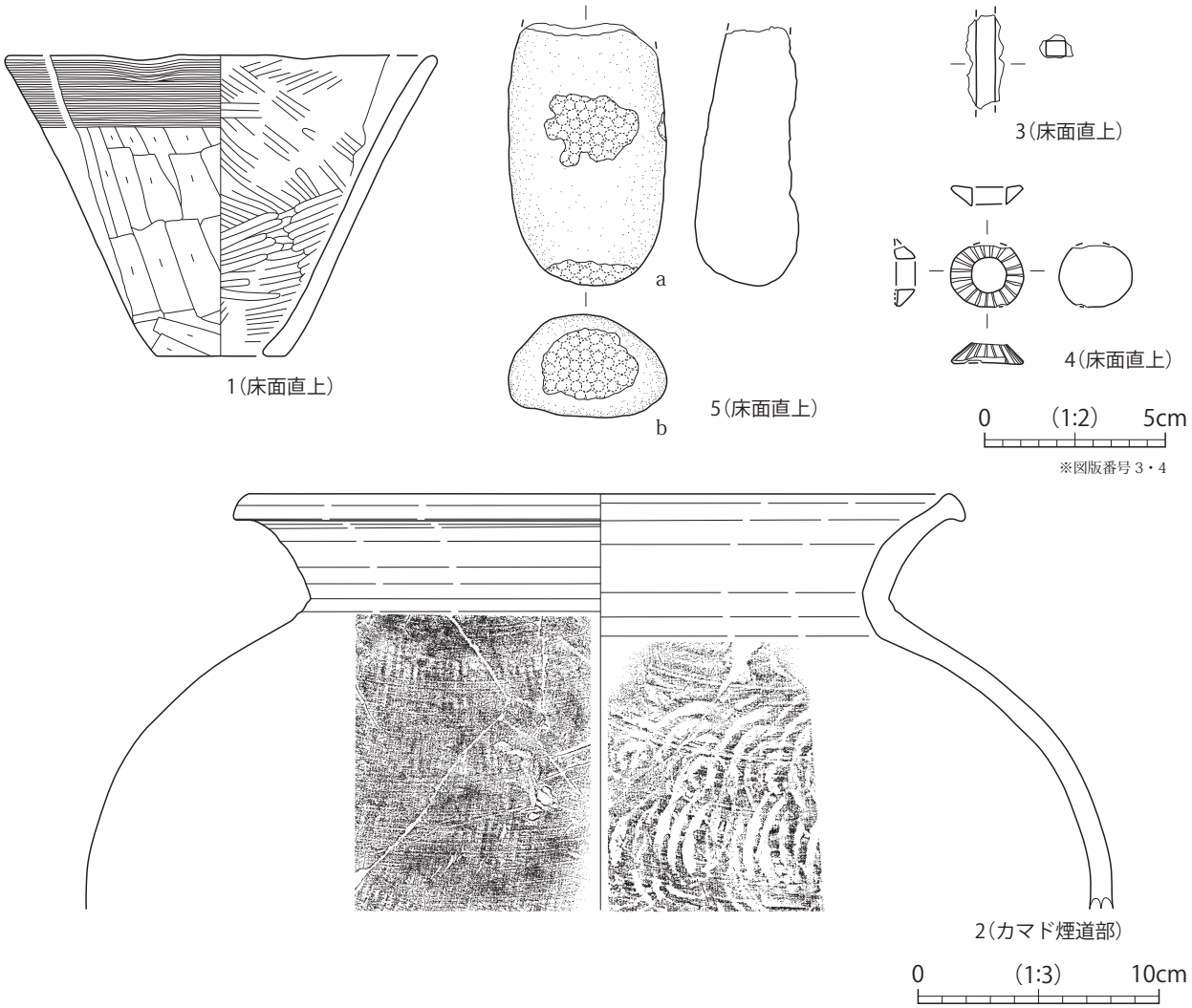


5(床面直上)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-010	第5次	SI265	床面直上	土師器	坏	(13.8)	—	4.0	口縁部ヨコナデ、輪積み痕、体～底部ヘラケズリ、黒色処理	ヘラミガキ、黒色処理		93
2	C-008	第5次	SI265	床面直上	土師器	甕	13.0	4.0	14.1	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→下半ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		93
3	C-011	第5次	SI265	床面直上	土師器	甕	(16.4)	7.0	17.6	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	外面摩滅	93
4	C-006	第5次	SI265	床面直上	土師器	甕	(21.6)	—	(21.2)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		93
5	C-012	第5次	SI265	床面直上	土師器	甕	17.4	—	(20.4)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		93

第 56 図　SI265 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-013	第5次	SI265	床面直上	土師器	甑	(17.6)	(5.4)	12.5	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	ヘラミガキ		93
2	E-004	第5次	SI265	カマド煙道部	須恵器	甕	(29.0)	—	(17.3)	口縁部ロクロ調整、胴部平行タタキ→カキメ	口縁部ロクロ調整、胴部青海波文→回転ヘラナデ	SI266・272出土破片と接合	94

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
3	N-001	第5次	SI265	床面直上	金属製品	棒状鉄製品	(2.6)	0.5	0.4	3.7		93
4	N-002	第5次	SI265	床面直上	金属製品	環状銅製品	0.6	径2.0	—	4.3	孔径10㎜、SD205に類似遺物、弓金具か	93

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
5	Kc-005	第5次	SI265	床面直上	礫石器	敲石	(10.8)	6.5	4.3	243.8	凝灰岩	a+b面敲(弱)、上部欠損	93

第 57 図　SI265 竪穴住居跡出土遺物（2）

【方向】 カマド基準で N － 21° － W である。

【堆積土】 大別で 11 層、細別で 13 層に分層された。大別 1 ～ 4 層は住居堆積土で、5 ～ 8 層はカマド関連の堆積土である。9 層はカマド掘り方の埋土で、煙道部の底面と壁面に厚く貼られている。10・11 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 18cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 6 基（P1 ～ 6）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われ、若干北

に寄って配置されている。P5・6 は補助柱穴の可能性がある。特に P5 は南壁際の中央付近に位置することから、入口柱穴の可能性も考えられる。P1・3 では柱痕跡が確認され、P1 で径 13cm、P3 で径 15cm を測る。P4 の土層断面には柱材の抜き取り痕とみられる層が認められ、底面には圧痕様の窪みがある。

【カマド】 北壁のほぼ中央に位置し、壁面に直交して付設される。袖の規模は、西袖が長さ 38cm、幅 42 ～ 46cm、東袖が長さ 36cm、幅 38 ～ 46cm を測り、東壁に対して「ハ」字状に開いて延びる。袖の先端には芯材が埋設されており、西袖には扁平な円礫が、東袖には凝灰岩切石が使用されている。燃焼部は奥行き 42cm、幅 60cm を測り、1/2 程が壁外に張り出している。底面は 3cm 程皿状に窪み、煙道部へそのまま平坦に繋がる。被熱は弱く、壁や底面の焼土化はあまり進んでいない。煙道部は長さ 112cm、幅 32cm、深さ 14cm を測り、底面は煙出し方向に 10cm 程立ち上がる。煙出しの底面からは第 57 図－ 2 の須恵器甕が貼り付くようにして出土した。雨受けなどに転用された可能性が考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は概ね平坦であるが、カマドの前方から北東部にかけてが土坑状に窪む。深さは、7 ～ 39cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、甕 4 点、甑 1 点、須恵器甕 1 点、金属製品 2 点、礫石器 1 点を掲載した（第 56･57 図）。第 56 図－ 2 ～ 5 の土師器甕は、小型で胴部に丸みをもつ 2・3、大型で長胴の 4・5 の 2 種類が認められる。第 57 図－ 1 の甑は鉢状を呈し、直線的に開く体部を有する。4 の金属製品は用途不明の環状銅製品である。飾金具の一部である可能性も考えられる。5 の礫石器は敲石で、a 面には深めの敲打痕が認められる。

【時期】 掲載した土師器は全て床面上から出土し、これらの特徴から本竪穴住居跡の時期は 3 期（7 世紀初頭～前葉）と考えられる。

SI266 竪穴住居跡（第 58 図）

【位置・確認】 第 5 次調査区北東部の 13・19 グリッドに位置する。削平や撹乱、重複遺構などの影響を受け、南東部分と主柱穴のみが残存する。

【重複】 SI272 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 320cm、東西 300cm を測る。平面形状は不明であるが、主柱穴の配置や残存する壁などから方形基調と推定される。

【方向】 東壁基準で N － 23° － W である。

【堆積土】 大別で 3 層、細別で 4 層に分層された。大別 1 層は住居堆積土で、2･3 層は住居掘り方の埋土である。この層はともにグライ化が著しい。

【壁面】 残存部分では、概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 15cm を測る。

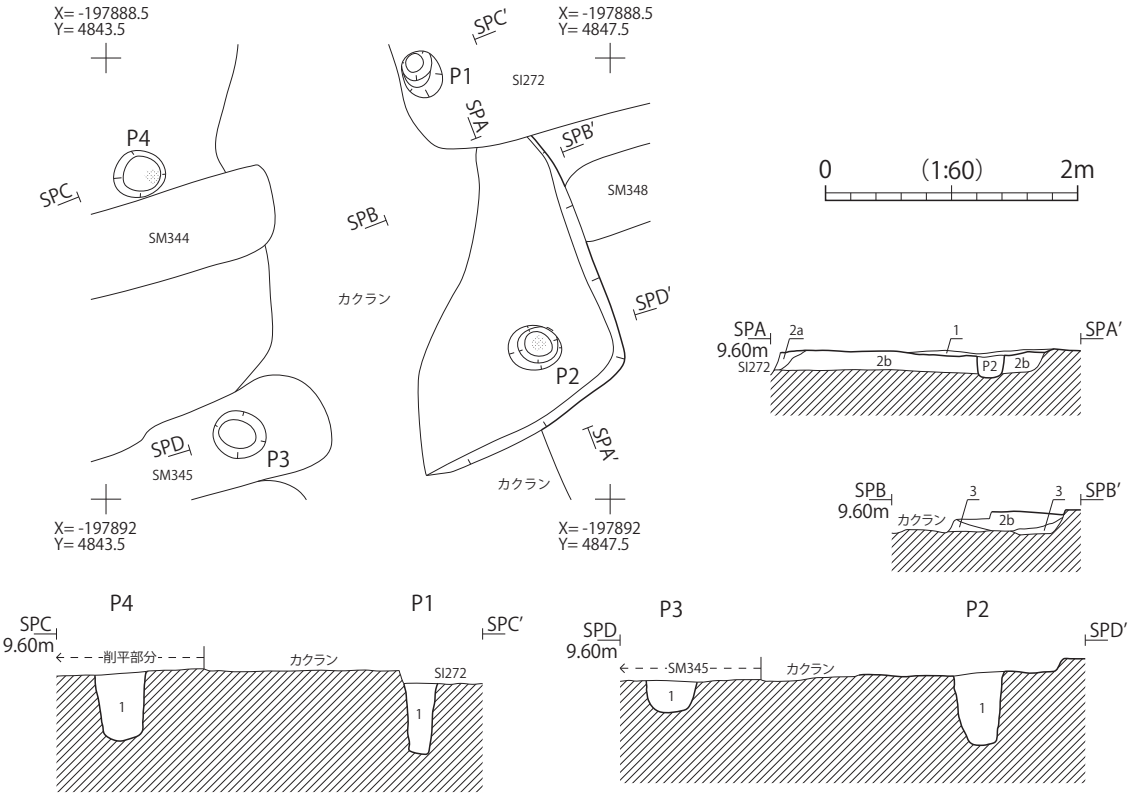
【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面とその残存範囲外から 4 基（P1 ～ 4）を検出した。いずれも規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われ、P2 の状況をみるとややコーナー寄りに配置されたとみられる。P2・4 の底面には円形の変色範囲が認められ、柱材の痕跡を示すものと考えられる。その径は P2 で 12cm、P4 で 13cm を測る。また、P1 の底面には柱材の圧痕とみられる窪みが認められる。

【掘り方】 残存部分では全体が掘り込まれているが、西側の消失部分まで掘り方が達していたかどうかは判然としない。底面は概ね平坦で、北東部分が皿状に窪む。深さは、2 ～ 21cm を測る。

【出土遺物】 堆積土中から土師器・須恵器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 本竪穴住居跡の時期は、不明である。



SI266 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)含む。
住居掘り方	2a	5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	
	2b	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)含む。北側グライ化。
	3	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	西側グライ化。

SI266 施設堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR2/1 黒色	砂質シルト	
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。
P3	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	
P4	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	

SI266 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	38×30	58	
P2	円形	42×36	58	底面に円形の変色範囲。

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	円形	42×38	17	
P4	円形	42×38	55	底面に円形の変色範囲。

第 58 図　SI266 竪穴住居跡

SI267 竪穴住居跡（第 59・60 図）

【位置・確認】 第 5 次調査区と第 6 次調査区の東西にまたがり、20・23 グリッドに位置する。削平や重複遺構の影響を受け、床面はカマドから南東コーナーにかけてのみが残存する。ほかは掘り方のみの残存である。

【重複】 SI268、SD182 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 460cm、東西 546cm を測る。平面形状は方形基調と推定されるが、ややいびつな形状である可能性が考えられる。

【方向】 東壁基準で N － 38° － W である。

【堆積土】 大別で 6 層、細別で 7 層に分層された。大別 1 層は住居堆積土で、2 層はカマド関連の堆積土、3 ～ 6 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 最大で 6cm の高さしか残存しておらず、詳細不明である。

【床面】 残存範囲が狭く、詳細不明である。

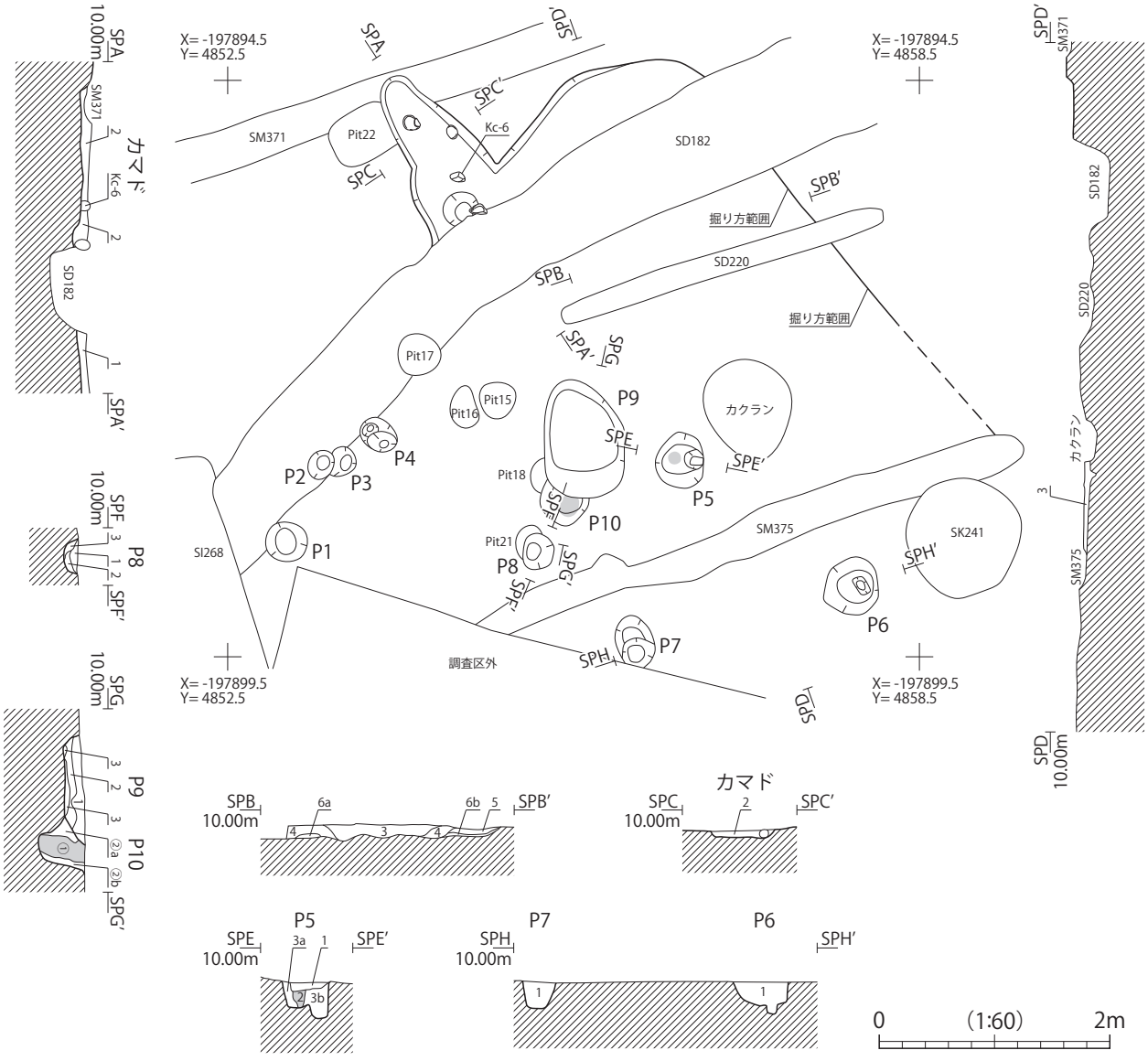
【柱穴】 床面から 9 基（P1 ～ 8・10）を検出した。全体的に不規則な配置であり、P6 が規模や位置関係から主柱穴に相当する可能性も考えられるが､ほかに対応するような柱穴が見当たらない。P5･10 では柱痕跡が確認され、P5 で径 13cm、P10 で径 15cm を測る。

【カマド】 北壁の東寄りに位置し、壁面から若干東に傾いて付設される。袖は失われ、燃焼部の壁外部分と煙道部が残存する。燃焼部は奥行き 55cm、幅 79cm を測り、全体の 1/2 程が残存すると考えられる。底面は概ね平坦で、煙道部へそのまま繋がる。壁のラインに相当する位置には、支脚の痕跡とみられるピット状の窪みがある。被熱は弱く、壁や底面の焼土化はあまり進んでいない。煙道部は長さ 71cm、幅 35 ～ 57cm、深さ 9cm を測り、底面は概ね平坦である。

【その他の施設】 土坑 P9 を検出した。推定される住居範囲の、中央付近に掘り込まれている。

【掘り方】 南側は 10cm 程一段下がり、北側には溝状や土坑状の窪みがある。深さは、6 ～ 15cm を測る。

【出土遺物】 土師器埦 1 点、甕 1 点、礫石器 1 点を掲載した（第 60 図）。第 60 図－ 1 の土師器埦は、甕のよう



第 59 図　SI267 竪穴住居跡

SI267 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	
カマド	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物粒含む。
住居掘り方	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状・一部ラミナ状)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルト(ラミナ状)多量、炭化物粒微量含む。
	6a	10YR5/4 にぶい黄褐色	細砂	黒褐色シルトブロック(5㎜程度)少量含む。
	6b	10YR4/4 褐色	砂質シルト	細砂密、黒褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。

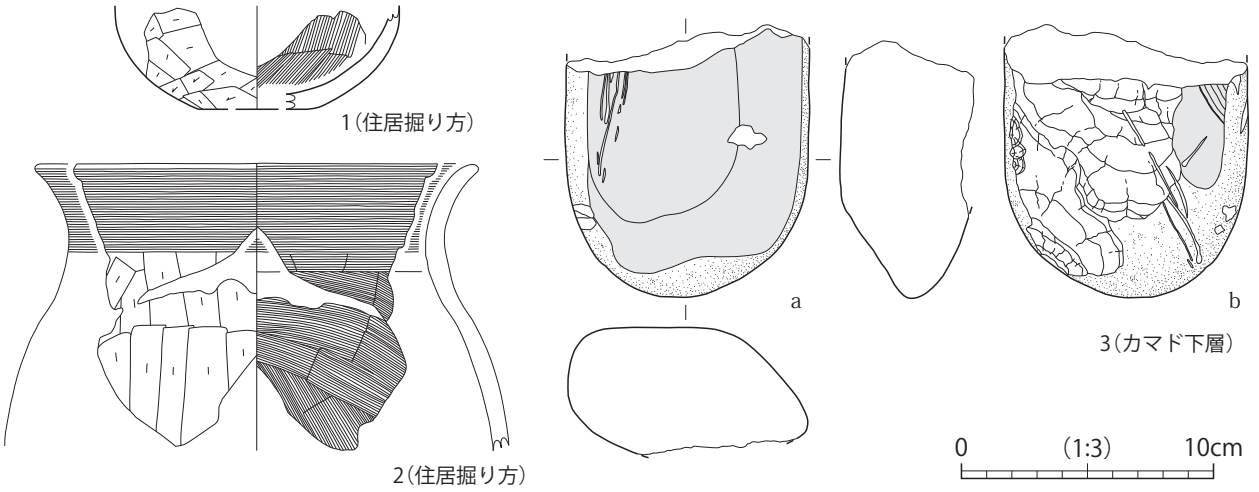
SI267 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	
P2	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	
P3	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	
P5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。※柱痕跡
	3a	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)・細砂多量含む。
	3b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P6	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P7	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルト(斑状)・細砂多量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルト(斑状)・細砂多量含む。
P9	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土(斑状)少量含む。
P10	①	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	②a	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土(斑状)微量、炭化物粒微量含む。
	②b	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色シルト(斑状)・細砂多量含む。

SI267 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P1	円形	38×36	23	
P2	円形	28×22	33	
P3	円形?	28×(24)	33	
P4	楕円形	34×28	29	
P5	円形	46×41	38	柱痕跡あり。

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P6	不整円形	52×47	29	
P7	楕円形	47×32	24	
P8	円形?	31×(19)	15	
P9	円形?	95×(58)	10	
P10	円形	45×(43)	24	柱痕跡あり。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-017	第5次	SI267	掘り方	土師器	埦	―	(4.7)	(4.1)	ヘラケズリ	ヘラナデ		94
2	C-018	第5次	SI267	掘り方	土師器	甕	(17.6)	―	11.4	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		94

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	法量(cm) 幅	法量(cm) 厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
3	Kc-006	第5次	SI267	カマド下層	礫石器	磨石	(10.8)	9.7	5.5	536.0	凝灰岩	a面磨(弱・強)→溝状痕、b面剥離→溝状痕、上部欠損	94

第 60 図　SI267 竪穴住居跡出土遺物

な厚手の作りである。3 の礫石器は磨石で、a 面には磨痕のほか、まばらに溝状痕が認められる。カマド内から出土しており、構築材に転用された可能性も考えられる。

【時期】 掲載した土器はいずれも掘り方からの出土であり、本竪穴住居跡の時期は 2b 期～ 4 期（6 世紀中葉～ 7 世紀後葉）と考えられる。

SI268 竪穴住居跡（第 61 ～ 63 図）

【位置･確認】 第 5 次調査区と第 9 次調査の南北にまたがり、22･25 グリッド（第 5 次）、01 ～ 04（第 9 次）グリッドに位置する。削平や重複遺構の影響を受け、南西コーナーから西壁の一部にかけてが失われている。

【重複】 SI265・267、SD182、SK228 より新しく、SI317 より古い。

【規模･形態】 検出した規模は、南北 394cm、東西 356cm を測る。平面形状は方形を呈するが、南壁側が若干広がっている。

【方向】 カマド基準で N － 8° － W である。

【堆積土】 大別で 8 層、細別で 10 層に分層された。大別 1 ～ 5 層は住居堆積土である。6・7 層はカマド関連の堆積土で、8 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がるが、北半部分では直立気味であるのに対し、南半部分では傾きが大きい。壁高は最大で 28cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）を検出した。いずれも規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われ、全体的に北西に寄って配置されている。P2・3 の底面には、柱材の圧痕と思われる窪みが認められるが、いずれの柱穴からも柱痕跡は確認されなかった。

【周溝】 東壁の北半部分の壁面に沿って延びる。規模は、幅 16 ～ 21cm、深さ 2 ～ 3cm を測る。

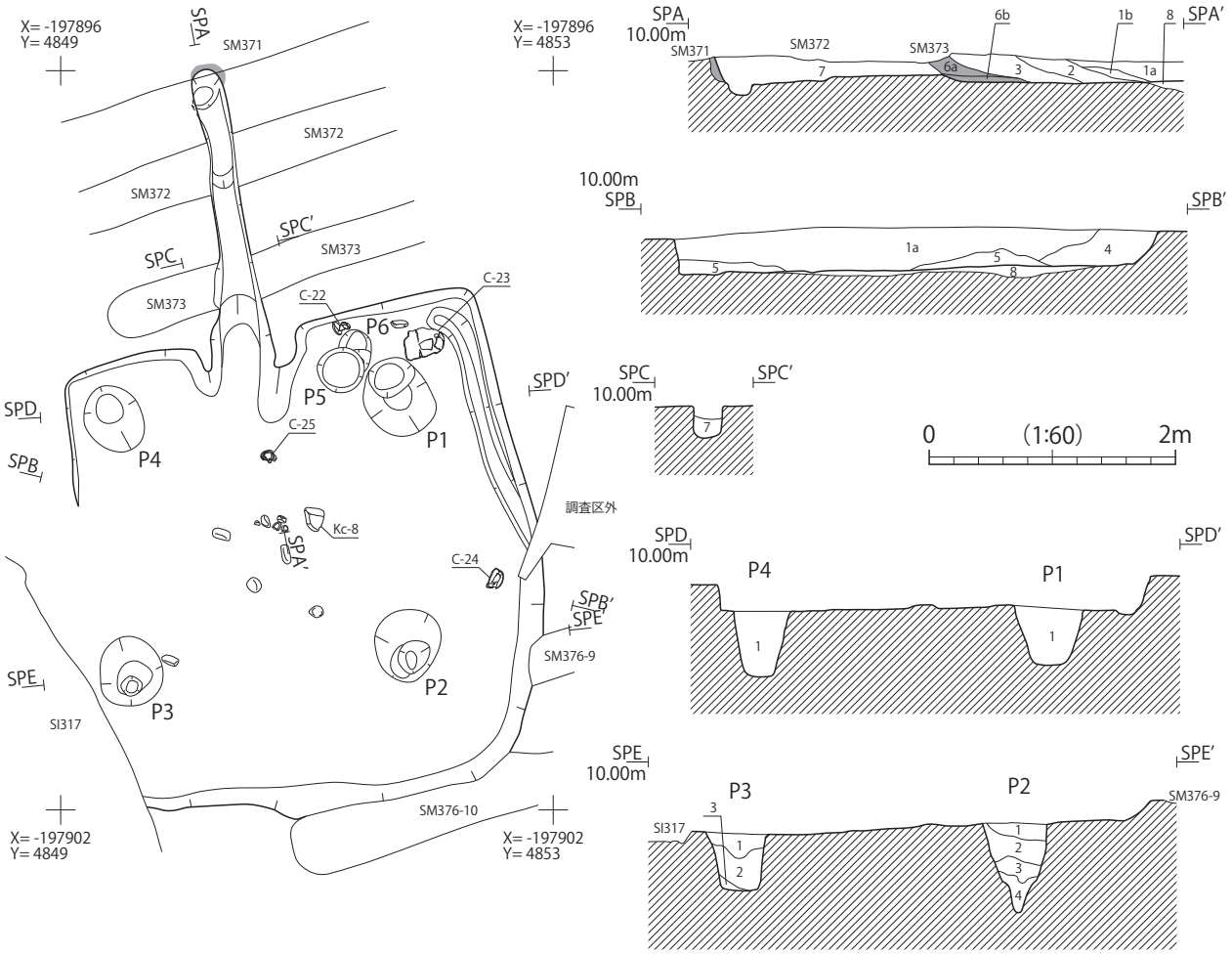
【カマド】 北壁のやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設される。袖の規模は、西袖が長さ 46cm、幅 22 ～ 34cm、東袖が長さ 82cm、幅 24 ～ 38cm を測り、北壁に対してやや内湾して延びる。燃焼部は奥行き 105cm、幅 52cm、奥壁高 5cm を測り、1/3 程が壁外に張り出して位置する。底面は概ね平坦で、煙道部へは既述の通り低い奥壁を介して繋がる。被熱は弱く、壁や底面の焼土化はあまり進んでいない。煙道部は長さ 185cm、幅 25 ～ 32cm、深さ 26cm を測り、底面は煙出し方向へ一段下がる。煙出し部分はピット状を呈する。

【その他の施設】 ピット P5・6 を検出した。両者は重複関係にあり、P5 の方が新しい。ともにカマドの東脇に位置することから、貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は北東コーナーが土坑状、南半部分が東に向かって下がる階段状に掘り込まれている。深さは、4 ～ 25cm を測る。南半部分の底面からは工具痕が検出された。中央部分では不規則であるが、壁際部分では概ね壁に沿うようにして並んでいる。

【出土遺物】 土師器坏 3 点、高坏 1 点、鉢 2 点、甕 1 点、壺 1 点、須恵器坏 1 点、金属製品 2 点、礫石器 4 点を掲載した（第 62・63 図）。第 62 図－ 1 の土師器坏は北武蔵型坏の特徴を有し、口縁部は短く外反する。4 の高坏は短脚で、脚部には長方形の透孔が 3 箇所開けられている。5 の鉢は口縁部が直線的に外傾し、口縁部と体部との境目に強い稜をもつ。内面は黒色処理されている。6 の鉢は坏に近い器形であるが、法量から鉢に分類した。口縁部と体部との境目には稜をもつ。8 の甕は、胴部下位が強く張る下膨れの器形を呈する。9 の須恵器坏は、底部の外面を手持ちヘラケズリし、さらにその外周を回転ヘラケズリしている。10 の金属製品は、鉄製刀子の刃部破片である。礫石器は第 62 図－ 12 が石皿、第 63 図－ 1 が台石である。後者の a 面には細かい溝状痕が多数認められる。第 63 図－ 2 が敲石、3 が磨＋凹石である。いずれも使用頻度が低く、敲打痕や磨面の形成は部分的である。

【時期】 第 62 図－ 1 ～ 4・6・8 は床面上から出土し、これらの特徴から本竪穴住居跡の時期は 4 期（7 世紀中葉～後葉）と考えられる。



SI268 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	
	1b	10YR5/4 赤褐色	砂質シルト	焼土粒・灰含む。
	2	2.5Y6/1 黄灰色	砂質シルト	焼土粒・灰含む。
	3	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	
	4	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	
	5	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。
カマド	6a	5YR5/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土粒・焼土ブロック含む。
	6b	N3/0 暗灰色	砂質シルト	炭化物粒・灰含む。
	7	7.5R3/1 暗赤灰色	シルト	焼土粒・焼土ブロック・炭化物粒・灰含む。
住居掘り方	8	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。

SI268 施設堆積土註記表

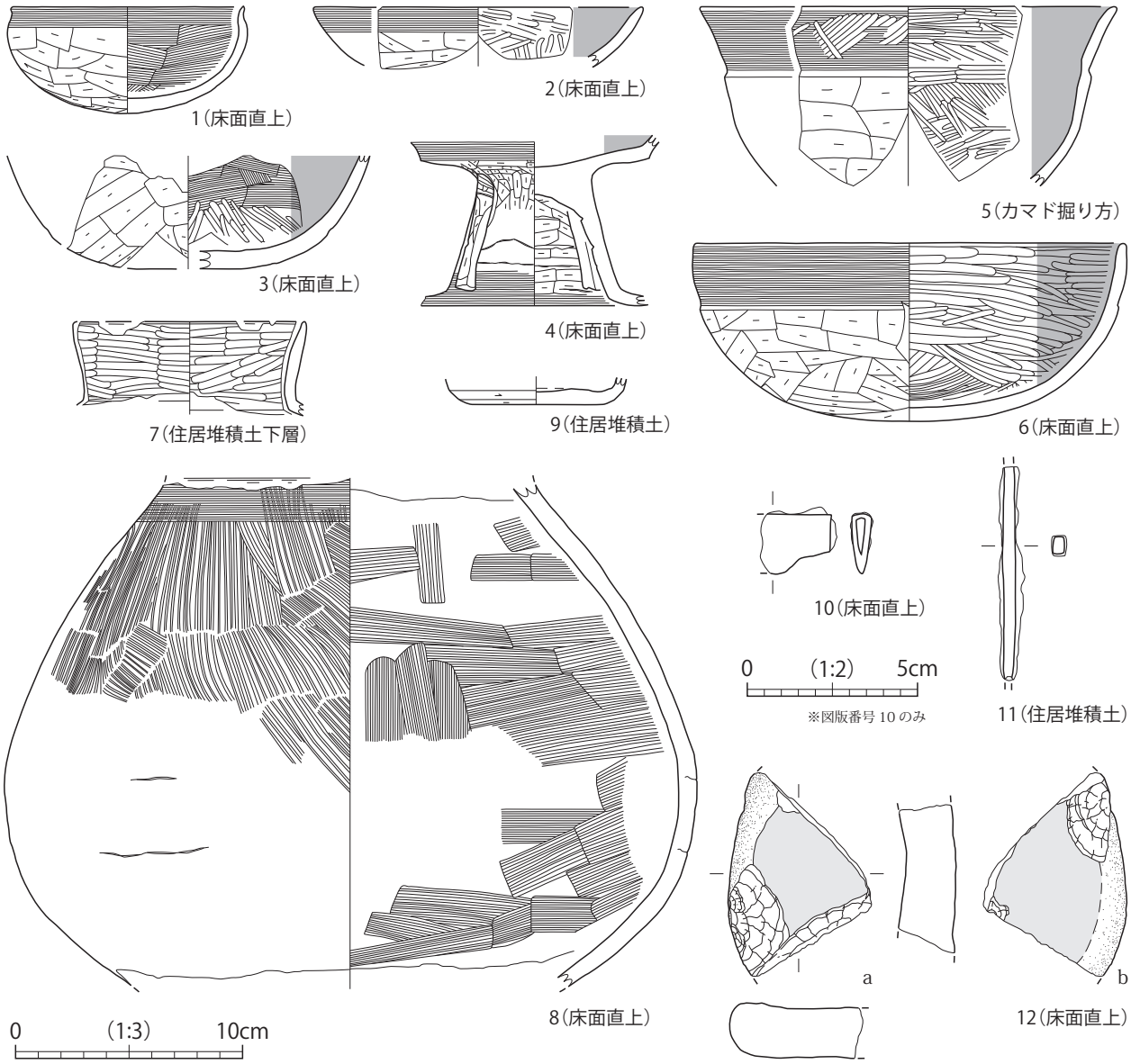
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	7.5YR5/3 にぶい褐色	砂質シルト	
P2	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)密、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
P4	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	
P6	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	

SI268 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	60×42	49	
P2	円形	60×52	81	
P3	円形	58×50	59	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	楕円形	56×46	55	
P5	円形	38×36	8	貯蔵穴か。
P6	楕円形	36×27	27	貯蔵穴か。

第 61 図　SI268 竪穴住居跡

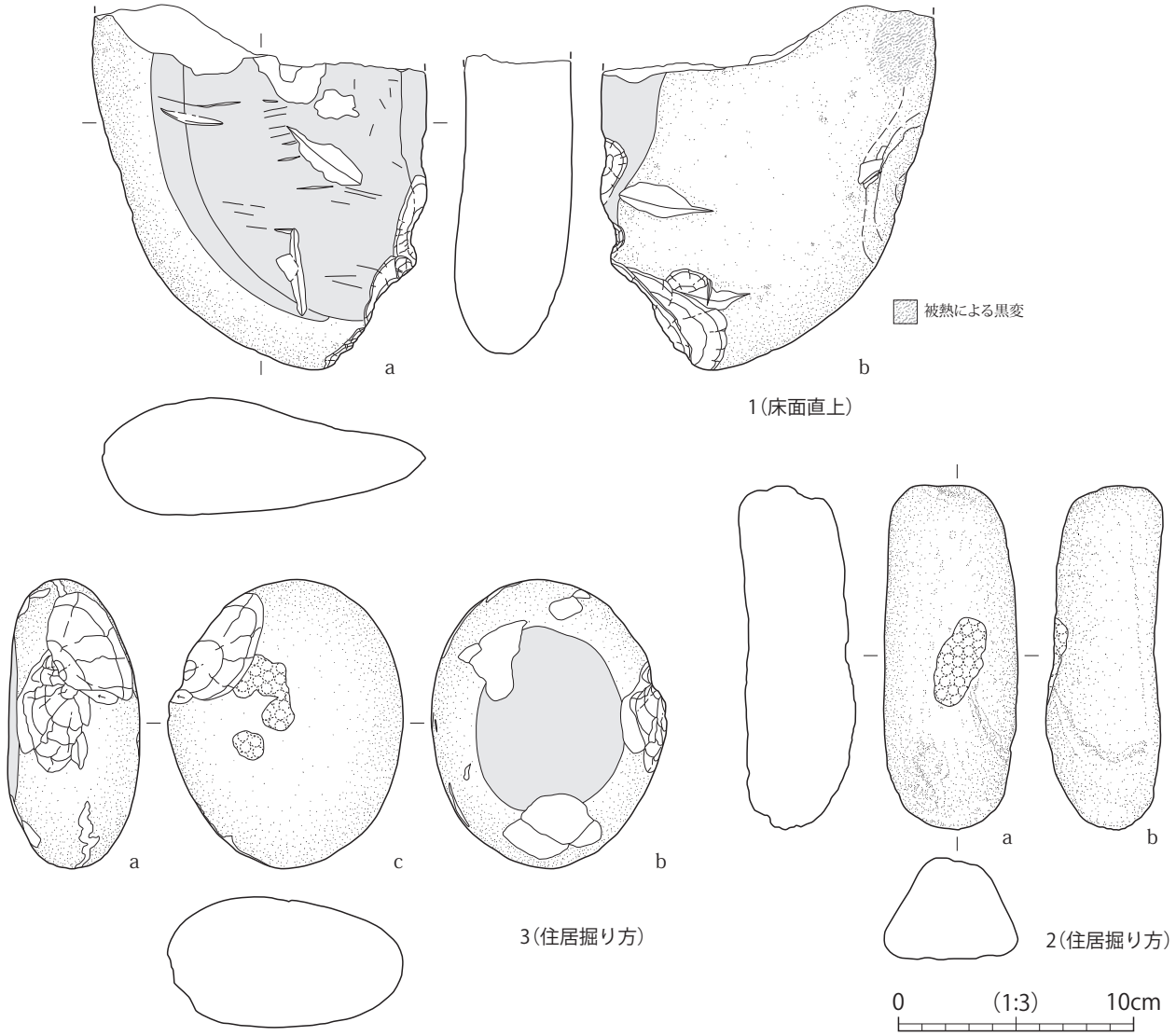


図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-022	第5次	SI268	床面直上	土師器	坏	10.2	—	4.7	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		95
2	C-028	第5次	SI268	床面直上	土師器	坏	(14.4)	—	(2.6)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		95
3	C-029	第5次	SI268	床面直上	土師器	坏	—	(5.0)	(5.0)	ヘラケズリ	口縁部ヘラナデ、体部ヘラミガキ、黒色処理	SI266出土破片と接合	95
4	C-025	第5次	SI268	床面直上	土師器	高坏	—	(10.0)	(7.5)	口縁部ヨコナデ、体～脚部ヘラケズリ、輪積み痕、脚端部ヨコナデ	坏部摩滅、黒色処理、脚部ヘラケズリ、輪積み痕、脚端部ヨコナデ	長方形の透孔3ヶ所	95
5	C-030	第5次	SI268	カマド掘り方	土師器	鉢	(18.2)	—	(7.9)	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		95
6	C-024	第5次	SI268	床面直上	土師器	鉢	(18.8)	—	7.9	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		95
7	C-020	第5次	SI268	堆積土下層	土師器	壺	(10.0)	—	(4.1)	ヘラミガキ	ヘラミガキ		95
8	C-023	第5次	SI268	床面直上	土師器	甕	—	—	(22.4)	ハケメ、一部ヨコナデ→ハケメ、輪積み痕	ヘラナデ	内外面摩滅	95
9	E-002	第9次	SI268	堆積土	須恵器	坏	—	(6.0)	(1.2)	ロクロ調整、体～底部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		95

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
10	N-003	第5次	SI268	床面直上	金属製品	刀子	(2.3)	1.9	0.6	3.8	刃部	95
11	N-001	第9次	SI268	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(9.4)	0.5	0.8	21.0		95

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
12	Kc-007	第5次	SI268	床面直上	礫石器	石皿	(9.0)	(6.3)	2.4	90.0	凝灰岩	a面磨(強)→下部剥離、b面磨(弱)→上部剥離、大半部欠損	95

第 62 図　SI268 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層　位	種　別	器　種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石　材	備　　考	写真図版
1	Kc-008	第5次	SI268	床面直上	礫石器	台石	(15.6)	14.2	5.0	784.2	凝灰岩	a面磨(弱・強)→線状・溝状痕+縁辺剥離、b面溝状痕+一部被熱	95
2	Kc-034	第9次	SI268	掘り方	礫石器	敲石	14.8	5.9	4.8	580.0	流紋岩	a面敲(弱)	95
3	Kc-035	第9次	SI268	掘り方	礫石器	磨+凹石	12.5	10.1	5.6	521.3	凝灰岩	a面敲(弱)、b面磨(弱)、c面剥離	95

第 63 図　SI268 竪穴住居跡出土遺物（2）

SI269 竪穴住居跡（第 64 図）

【位置・確認】 第 5 次調査区中央部の 18・19・21・22 グリッドに位置する。削平や撹乱の影響を受け、南壁を除く三方の壁が失われている。

【重複】 当該期の遺構との重複関係はない。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 315cm、東西 337cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 南壁基準で N － 67° － E である。

【堆積土】 2 層に分層された。1 層は周溝堆積土で、2 層はカマド関連の堆積土である。

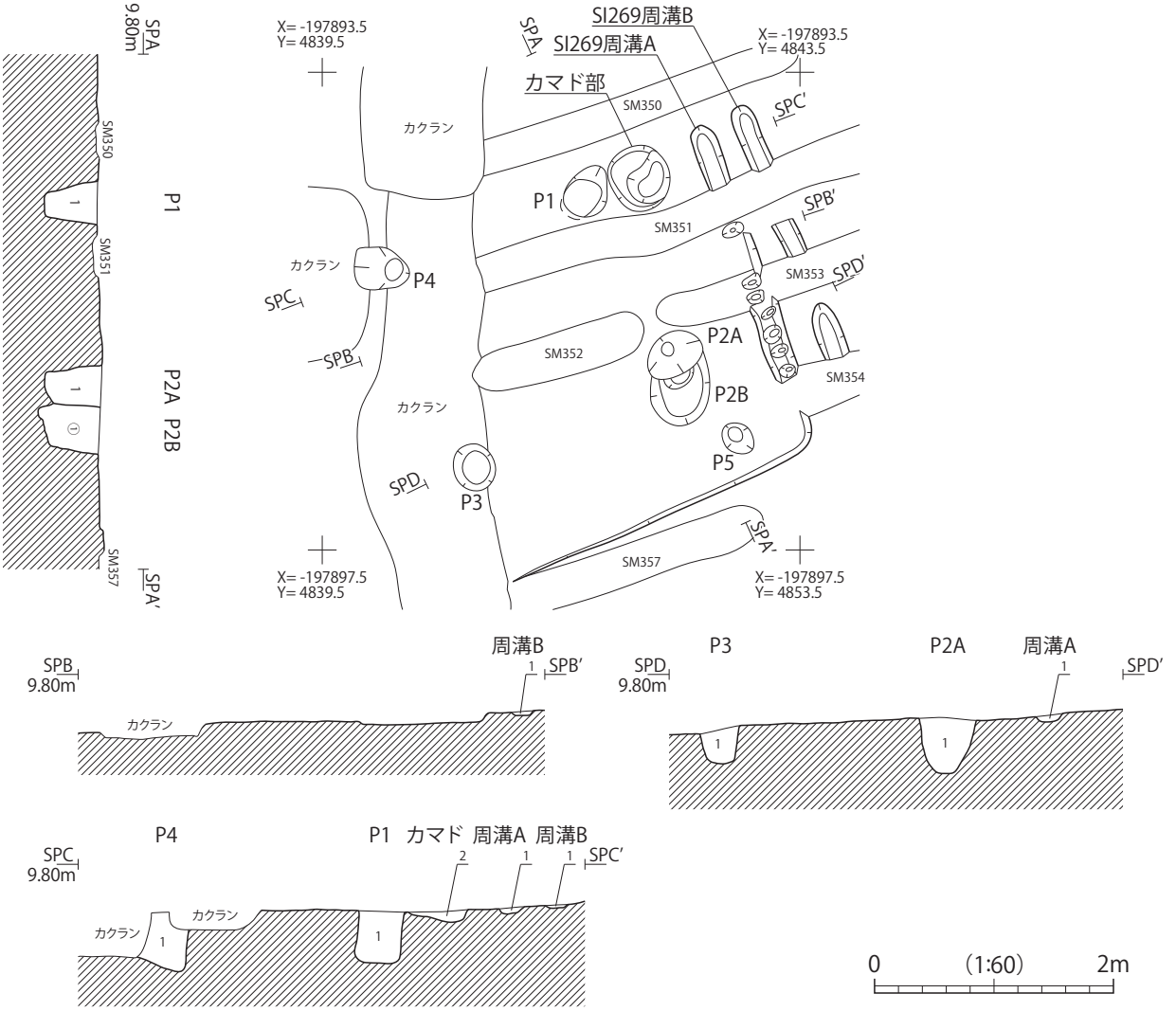
【壁面】 壁高は最大でも 7cm しか残存しておらず、詳細不明である。

【床面】 概ね平坦である。掘り方をもたず、基本層Ⅳ層を直接床面としている。

【柱穴】 床面から 5 基（P1 ～ 5）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。この

うち P2 には建て替えの痕跡が認められる（P2A・B）。

【周溝】 東壁の壁面に沿って延びる。A・B の 2 条が平行して検出され、拡張の痕跡を示すものと思われる。規模は、周溝 A が幅 19 ～ 23cm、深さ 2 ～ 7cm を測り、周溝 B が幅 18 ～ 22cm、深さ 3 ～ 7cm を測る。周溝 A の底面からは、小規模なピットが並んで検出された。



第 64 図　SI269 竪穴住居跡

SI269 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝A・B	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	
カマド	2	7.5YR6/4 にぶい橙色	砂質シルト	焼土粒多量含む。

SI269 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	
P2A	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土粒含む。
P2B	①	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	
P3	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	焼土粒・灰含む。
P4	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	
P5	—	—	—	註記なし。

SI269 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P1	楕円形	46×34	41	
P2A	楕円形	50×36	44	
P2B	楕円形?	(80)×50	50	

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P3	円形	40×36	32	
P4	楕円形	46×36	13	
P5	楕円形	32×24	10	

【カマド】 北壁の東寄りに位置していたと思われる。燃焼部の底面のみが土坑状に残存し、奥行き 54cm、幅 50cm、深さ 11cm を測る。主柱穴 P1 との位置関係から、燃焼部は壁内に位置していたと推定される。被熱は弱く、焼土化はあまり進んでいない。

【出土遺物】 堆積土中から土師器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 本竪穴住居跡の時期は、不明である。

SI270 竪穴住居跡（第 65 図）

【位置・確認】 第 5 次調査区東部の 19・20 グリッドに位置する。重複遺構による破壊部分が多く、北東部分を中心に残存する。床面施設は認められなかったが、掘り方を伴うことから「竪穴住居跡」とした。

【重複】 SI264・265 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 497cm、東西 194cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

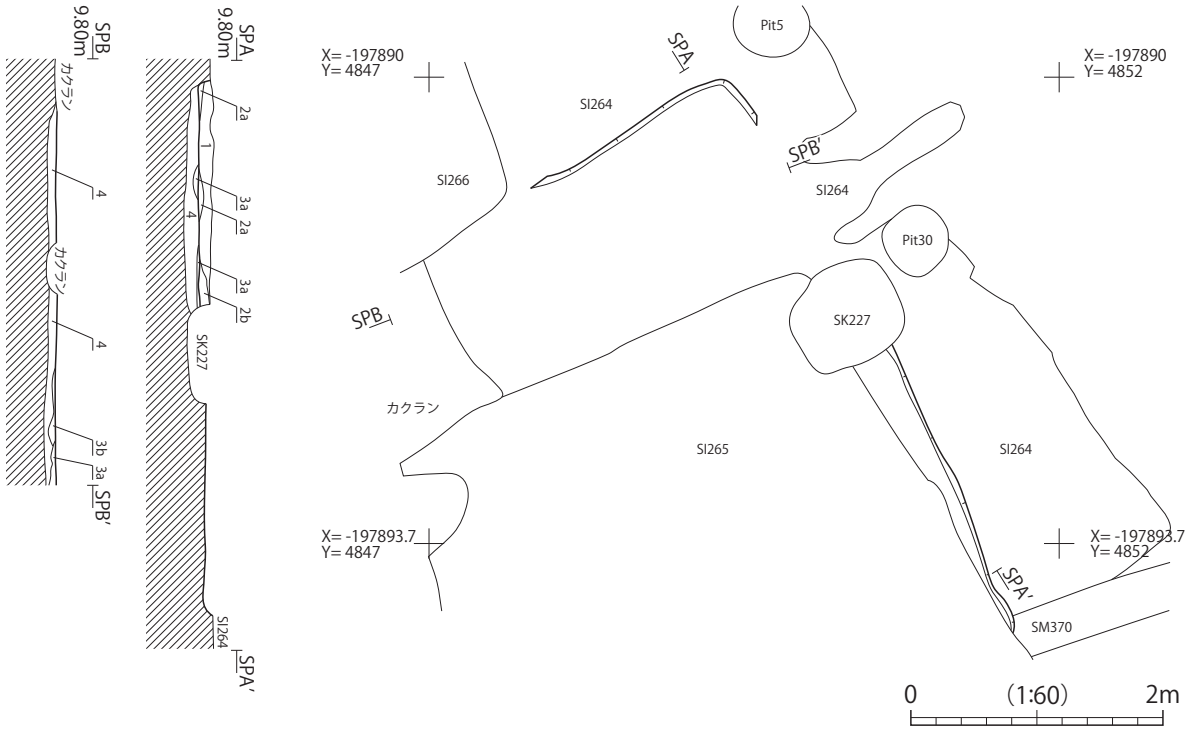
【方向】 東壁基準で N － 22° － W である。

【堆積土】 大別で 4 層、細別で 6 層に分層された。大別 1･2 層は住居堆積土で、3･4 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 壁高は最大でも 6cm しか残存しておらず、詳細不明である。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面には土坑状・ピット状の窪みが多数認められる。深さは、6 ～ 23cm を測る。



SI270 堆積土註記表

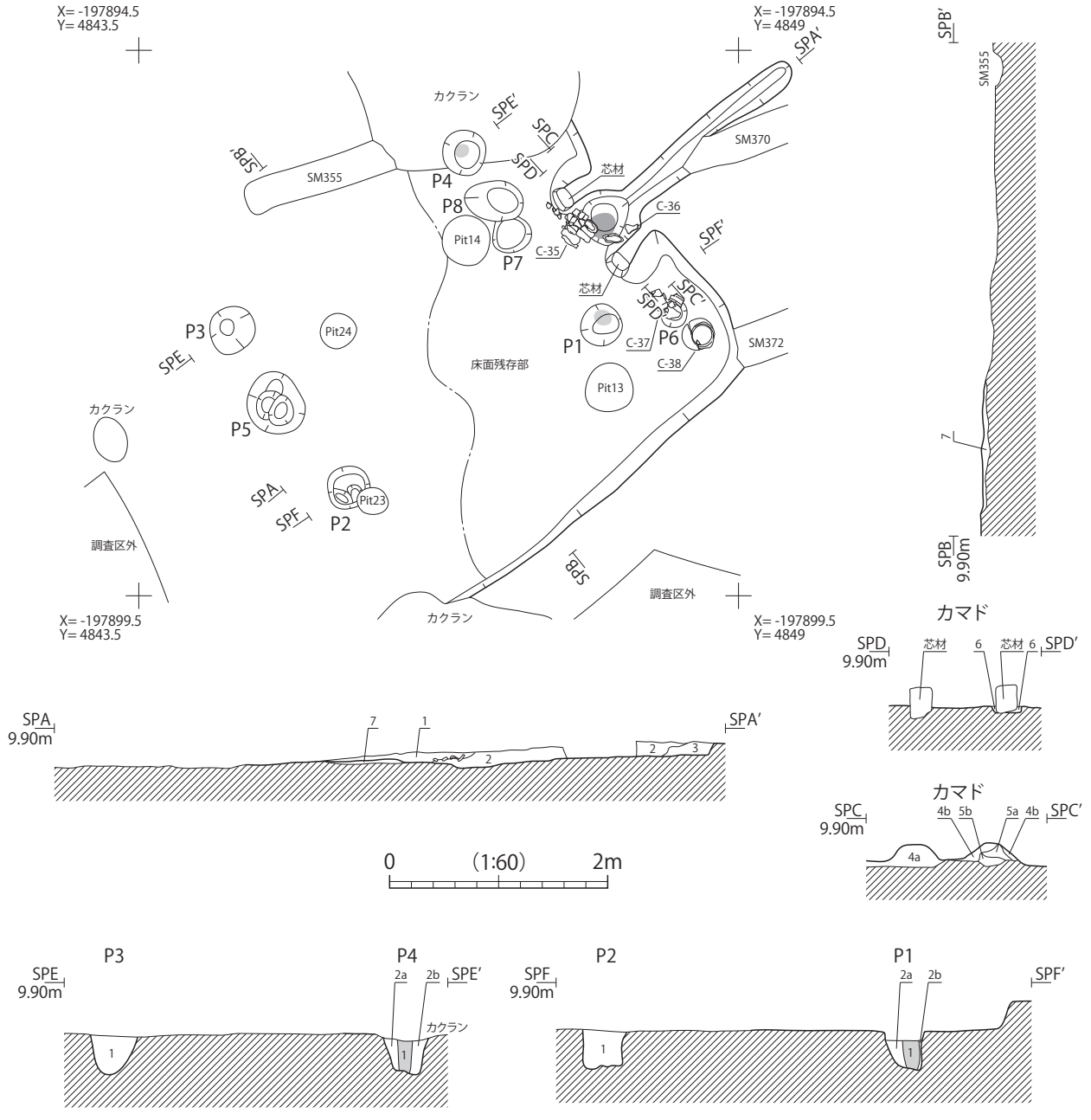
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	5Y4/4 暗オリーブ色	シルト	
	2a	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土主体。
	2b	5Y7/4 浅黄色	砂質シルト	
住居掘り方	3a	2.5Y8/6 黄色	シルト	Ⅳ層土主体。ブロック状に混じる。
	3b	5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	
	4	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	

第 65 図　SI270 竪穴住居跡

【出土遺物】 堆積土中や床面上、掘り方内から土師器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。
【時期】 本竪穴住居跡の時期は、不明である。

SI271 竪穴住居跡（第 66・67 図）
【位置・確認】 第 5 次調査区南部の 19・22 グリッドに位置する。削平や撹乱の影響を受け、カマドの前方から南東部分にかけてが残存する。
【重複】 SI265 より新しい。
【規模・形態】 検出した規模は、南北 352cm、東西 397cm を測る。平面形状は、東西方向にやや長い長方形と推定される。
【方向】 カマド基準で N － 50° － E である。
【堆積土】 大別で 7 層、細別で 9 層に分層された。大別 1 層は住居堆積土で、2・3 層はカマド関連の堆積土である。4 ～ 6 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土が主体であると思われるが、4 層はグライ化が著しい。7 層は住居掘り方の埋土である。南半部分のみに薄く堆積している。
【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 25cm を測る。
【床面】 概ね平坦である。中央部分からカマドにかけては、基本層Ⅳ層を直接床面としている。
【柱穴】 床面から 8 基（P1 ～ 8）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。また、P5 と P7・8 も一対の可能性があり、南北 2 間の主柱穴配置も考えられる。P1・4 では柱痕跡が確認され、P1 で径 17cm、P4 で径 14cm を測る。P2 の底面にも柱の圧痕とみられる窪みが認められる。
【カマド】 東壁に位置し、壁面に直交して付設される。煙道部の一部が重複遺構により失われてはいるが、残存は良好である。袖の規模は、北袖が長さ 56cm、幅 32 ～ 48cm、南袖が長さ 55cm、幅 44 ～ 48cm を測り、東壁に直交して延びる。焚口には、凝灰岩切石の芯材が埋設されている。燃焼部は奥行き 55cm、幅 56cm を測り、壁内に位置する。底面は 4cm 程皿状に窪み、煙道部へはそのまま平坦に繋がる。被熱は弱く、壁や底面の焼土化はあまり進んでいない。煙道部は長さ 194cm、幅 25 ～ 30cm、深さ 11 ～ 14cm を測り、底面は概ね平坦である。
【掘り方】 掘り込みはあまりなく、南側が部分的に 2 ～ 3cm 窪む程度である。
【出土遺物】 土師器甕 4 点を掲載した（第 67 図）。1・2 はカマド内部から、3・4 は南東コーナーに置かれた状態で出土した。1 ～ 3 は口縁部に最大径をもつ長胴甕で、4 は球胴甕である。
【時期】 掲載した土師器の特徴から、本竪穴住居跡の時期は 4 期（7 世紀中葉～後葉）と考えられる。

SI272 竪穴住居跡（第 68 図）
【位置・確認】 第 5 次調査区北部の 13・14 グリッドに位置する。北東部分は調査区外にかかる。
【重複】 SI266 より古い。
【規模・形態】 検出した規模は、南北 411cm、東西 446cm を測る。平面形状は方形を呈する。
【方向】 西壁基準で N － 18° － W である。
【堆積土】 大別で 7 層、細別で 10 層に分層された。大別 1 ～ 4 層は住居堆積土で、2 層は多量の炭化物を含み、人為的な投げ込みが考えられる。5 層は周溝堆積土で、6・7 層は住居掘り方の埋土である。
【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 29cm を測る。
【床面】 概ね平坦である。
【柱穴】 床面から 6 基（P1 ～ 6）を検出した。P1 ～ 3 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。P4 ～ 6 は補助柱穴とみられ、特に P4・6 は主柱穴の柱筋の外側に配置されている。



SI271 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物粒少量含む。
カマド	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物粒・焼土粒多量含む。
	3	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	
カマド袖	4a	10YR7/1 灰白色	砂質シルト	全体がグライ化。
	4b	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	焼土粒少量含む。袖の外側がグライ化。
	5a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	
	5b	2.5Y7/4 浅黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)含む。
	6	5Y5/3 灰オリーブ色	シルト	焼土粒少量含む。
住居掘り方	7	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。

SI271 施設観察表

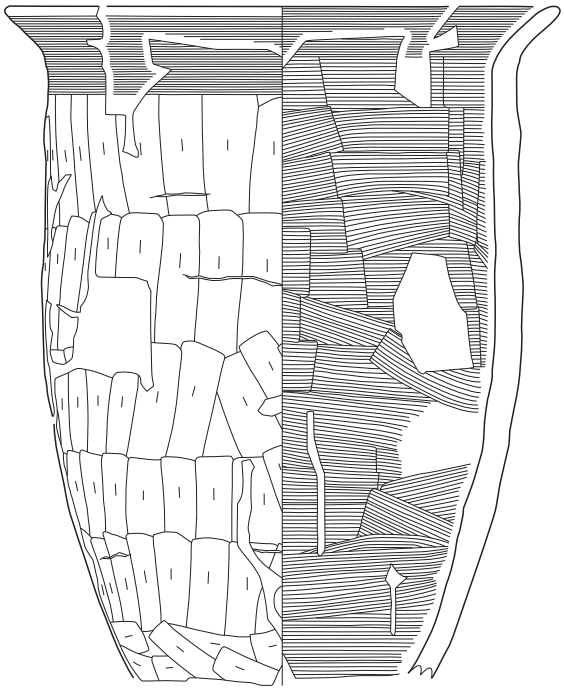
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	38×38	31	柱痕跡あり。
P2	円形	40×38	34	
P3	円形	46×42	39	
P4	円形	42×38	34	柱痕跡あり。

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	56×54	72	
P6	円形	26×24	34	
P7	円形?	(38)×36	21	
P8	楕円形	54×38	39	

第 66 図　SI271 竪穴住居跡

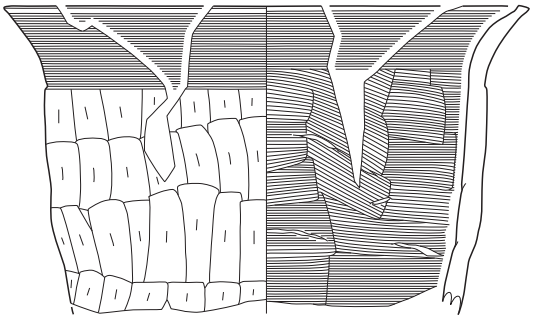
SI271 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR7/6 明黄褐色	シルト	※柱痕跡
	2a	7.5Y5/1 褐灰色	シルト	炭化物粒少量含む。
	2b	7.5YR6/2 灰褐色	シルト	
P2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	炭化物粒少量含む。
P3	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	
P4	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物粒少量含む。※柱痕跡
	2a	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	青灰色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	2b	7.5YR6/1 褐灰色	シルト	青灰色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P5	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒少量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	上位がグライ化。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	上位がグライ化。

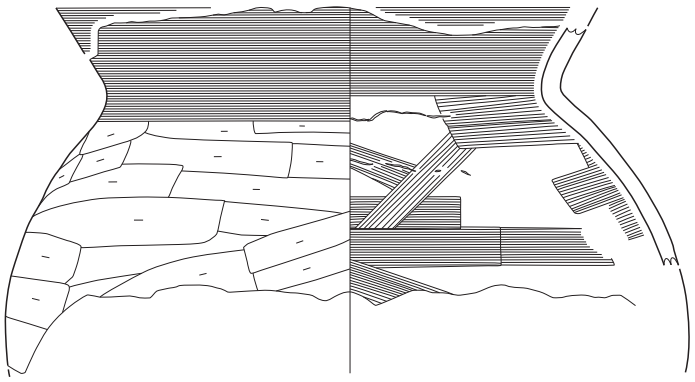


1(カマド堆積土)

2(カマド堆積土)



3(床面直上)

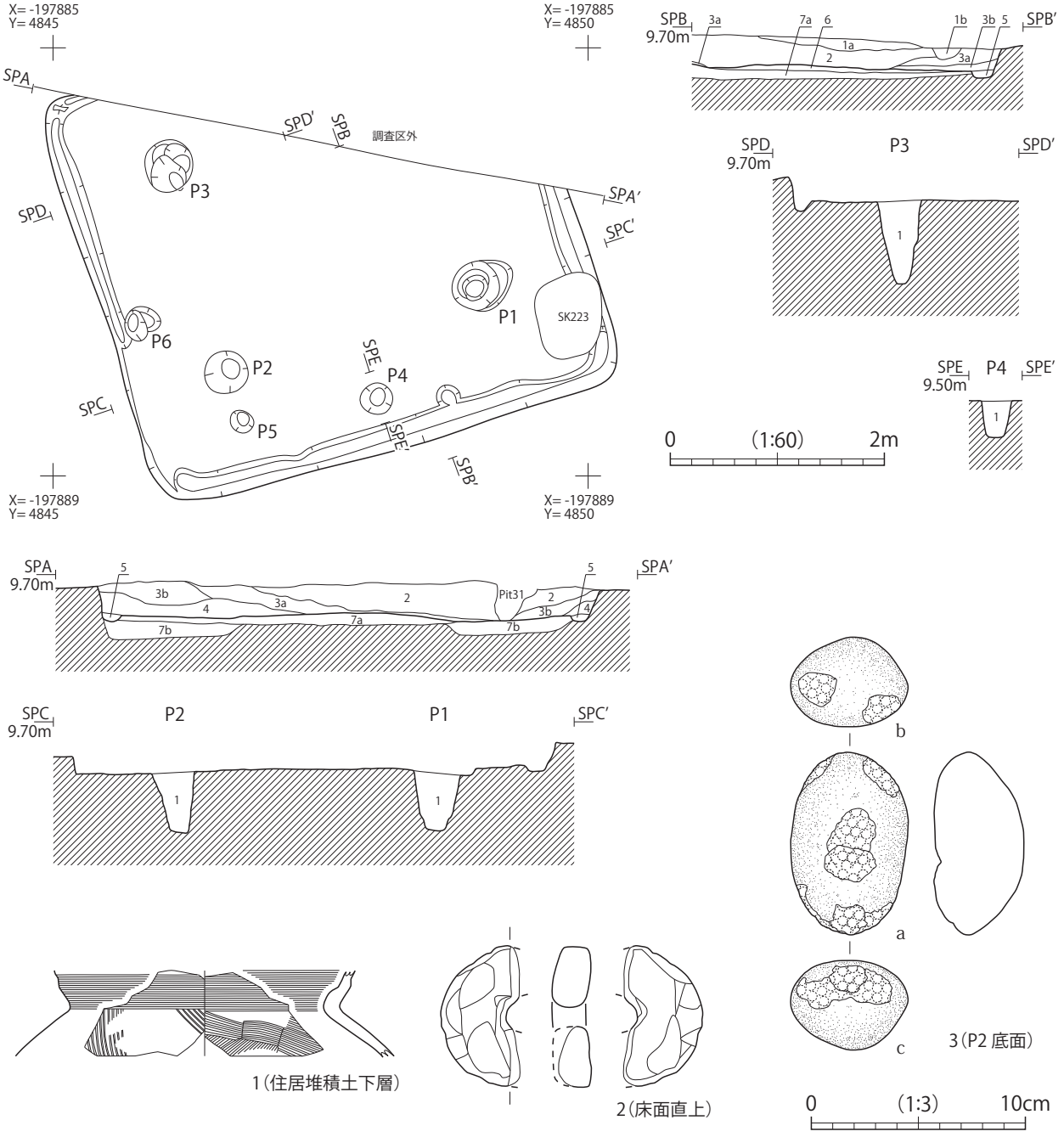


4(床面直上)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-035	第5次	SI271	カマド堆積土	土師器	甕	(21.6)	—	(27.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		96
2	C-036	第5次	SI271	カマド堆積土	土師器	甕	(17.7)	—	(12.7)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		96
3	C-037	第5次	SI271	床面直上	土師器	甕	20.0	—	(12.2)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		96
4	C-038	第5次	SI271	床面直上	土師器	甕	—	—	(14.5)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		96

第 67 図　SI271 竪穴住居跡出土遺物



SI272 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	深さ	備考
P1	楕円形	62×48	57	
P2	円形	42×40	54	
P3	円形	50×44	75	

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	深さ	備考
P4	円形	32×28	35	
P5	円形	24×20	24	
P6	不整円形	34×28	17	

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-048	第5次	SI272	堆積土下層	土師器	甕	—	—	(4.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	内外面摩滅	96

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
2	P-002	第5次	SI272	底面直上	土製品	紡錘車	(1.2)	径(4.4)	—	12.5	ヘラケズリ、孔径(12)㎜	96

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
3	Kc-009	第5次	SI272	P2底面	礫石器	敲+凹石	8.5	5.5	4.2	256.3	安山岩	a面敲(弱)、凹1箇所、b・c面敲(b面弱・強、c面弱)	96

第 68 図　SI272 竪穴住居跡・出土遺物

SI272 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	
	1b	5YR5/4 にぶい赤褐色	シルト	焼土粒含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒多量含む。
	3a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
	3b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	
周溝	5	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	
住居掘り方	6	2.5Y7/6 明黄褐色	シルト	
	7a	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	
	7b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	

SI272 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
P2	1	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
P3	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	
P4	1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P5	1	10YR2/1 黒色	砂質シルト	
P6	1	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。

【周溝】 概ね全体の壁面に沿って巡ると推定されるが、西壁の南側には幅120cm程の断続部が認められる。規模は、幅 12 ～ 21cm、深さ 2 ～ 12cm を測る。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は概ね平坦であるが、東壁際と北西コーナーが土坑状に窪む。深さは、4 ～ 21cm を測る。

【出土遺物】 土師器甕 1 点、土製品 1 点、礫石器 1 点を掲載した（第 68 図）。2 の土製品は紡錘車で、1/2 程が残存する。3 の礫石器は敲＋凹石で、a 面には深い凹部が 1 箇所形成されている。

【時期】 本竪穴住居跡の時期は、不明である。

SI273 竪穴住居跡（第 69 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区南端部の 05・07 グリッドに位置する。撹乱や重複遺構による破壊部分が多く、北西コーナー付近のみが残存する。

【重複】 SI276・288 より新しく、SD205・224 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 203cm、東西 219cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 西壁基準で N － 33° － E である。

【堆積土】 大別で 6 層、細別で 8 層に分層された。大別 1 ～ 3 層は住居堆積土で、1 層の基本層Ⅳ層土ブロックの混入状況から、人為的に埋め戻されている可能性がある。4 層は周溝堆積土である。5・6 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 北壁は概ね直線的に外傾するが、西壁は直立気味に立ち上がる。壁高は最大で 22cm を測る。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 1 基（P1）を検出した。

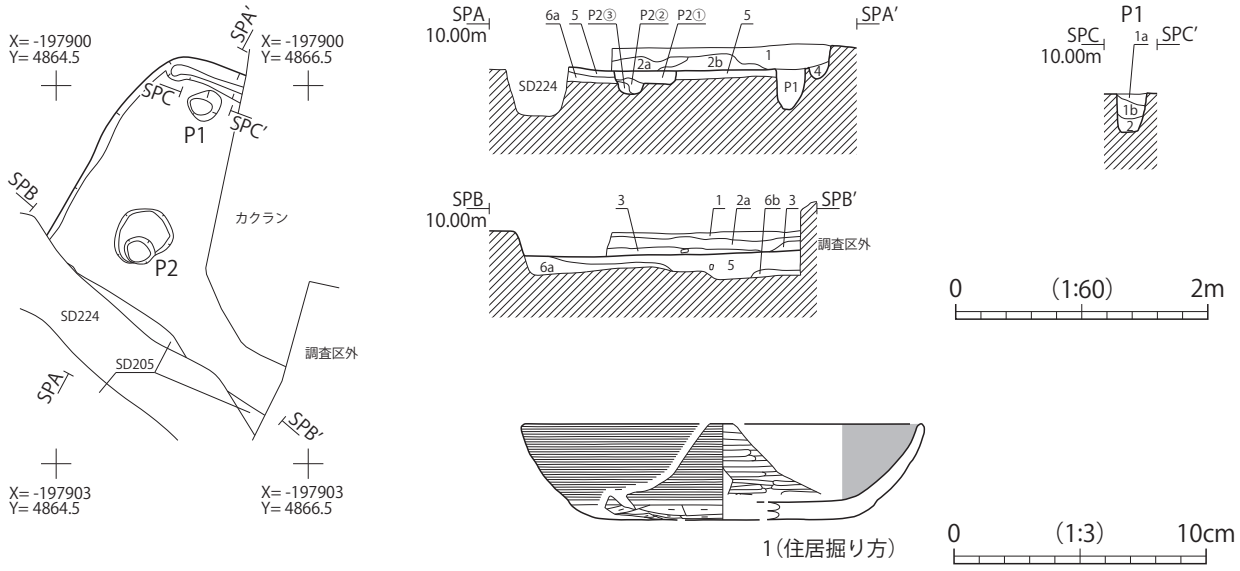
【周溝】 北壁の壁面に沿って延びる。規模は、幅 14cm、深さ 8 ～ 10cm を測る。

【その他の施設】 掘り方から土坑 P2 を検出した。人為的に埋め戻されている。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は概ね平坦である。深さは、7 ～ 13cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点を掲載した（第 69 図）。掘り方の出土遺物である。そのほか、堆積土中から土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 SI276 より新しいことから、5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）以降である。



SI273 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。
	2a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	明黄褐色・黒褐色シルトブロック(15～20㎜程度)少量含む。
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR2/1 黒色	シルト	褐色シルト(斑状)多量、黒褐色シルトブロック(5㎜程度)少量含む。
周溝	4	10YR5/2 灰黄褐色	微砂	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)微量含む。
住居掘り方	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	6a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒微量含む。
	6b	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物粒(ラミナ状)多量含む。

SI273 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)微量含む。
P2	①	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	②	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	③	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)微量含む。

SI273 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P1	円形	25×23	31	

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P2	円形	49×43	10	

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-002	第6次	SI273	掘り方	土師器	坏	(15.8)	(9.4)	3.8	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		96

第 69 図　SI273 竪穴住居跡・出土遺物

SI274 竪穴住居跡（第 70 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区南東端部の 06 グリッドに位置する。削平や撹乱の影響を受け、掘り方の北側部分のみが残存する。

【重複】 当該期遺構との重複関係はない。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 148cm、東西 259cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 カマド基準で N － 27° － W である。

【堆積土】 2 層に分層された。いずれも住居掘り方の埋土である。

【壁面】【床面】 ともに残存していない。

【柱穴】 床面から 3 基（P1 ～ 3）を検出した。P1 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。P1・2 では柱痕跡が確認され、P1 で径 17cm、P2 で径 18cm を測る。

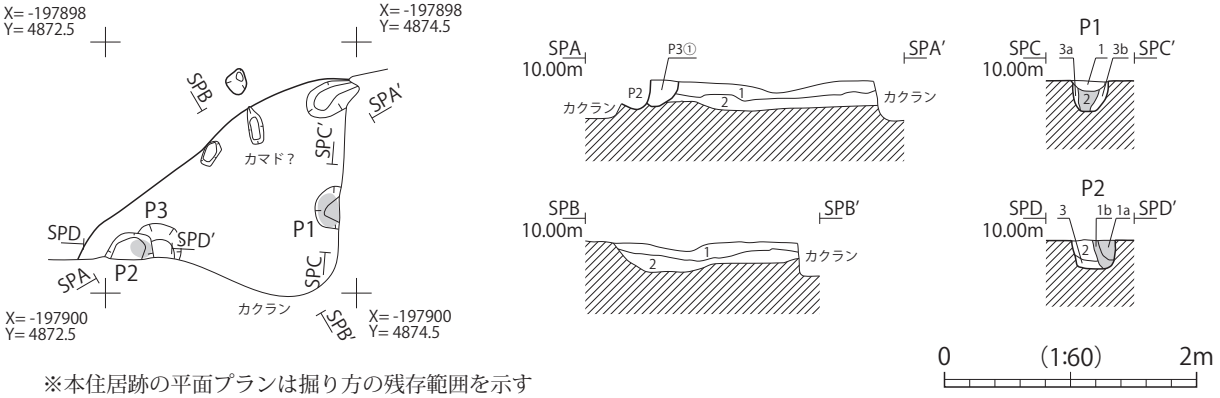
【周溝】 北東部に周溝の先端部分と思われる窪みが検出されているが、詳細は不明である。

【カマド】 不明だが、北壁ラインの内外に芯材抜き取り痕とみられるピットが検出されている。

【掘り方】 北壁際が土坑状に掘り込まれる。深さは、10 ～ 21cm を測る。

【出土遺物】 柱穴堆積土や掘り方内から土師器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 本竪穴住居跡の時期は、不明である。



※本住居跡の平面プランは掘り方の残存範囲を示す

SI274 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1	10YR6/8 明黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。

SI274 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黄白色シルトブロック(20㎜程度)少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	黄白色シルトブロック(10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3a	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～20㎜程度)多量含む。
	3b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P2	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黄白色シルトブロック(5～20㎜程度)少量含む。※柱痕跡
	1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	黄白色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。※柱痕跡
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	3	10YR6/6明黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。
P3	①	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。

SI274 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形?	(34)×(20)	25	柱痕跡あり。
P2	円形?	(39)×(22)	22	柱痕跡あり。

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	円形?	30×(23)	22	

第 70 図　SI274 竪穴住居跡

SI275 竪穴住居跡（第 71 ～ 73 図）

【位置･確認】 第６次調査区中央部西寄りの 03 グリッドに位置する。SD180 との重複により、西壁は失われている。

【重複】 SI278・283、SD182・189・191 より新しく、SD180 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 242cm、東西 252cm を測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】 東壁基準で N － 19° － W である。

【堆積土】 大別で６層、細別で 10 層に分層された。大別１～４層は住居堆積土で、5･6 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 15cm を測る。

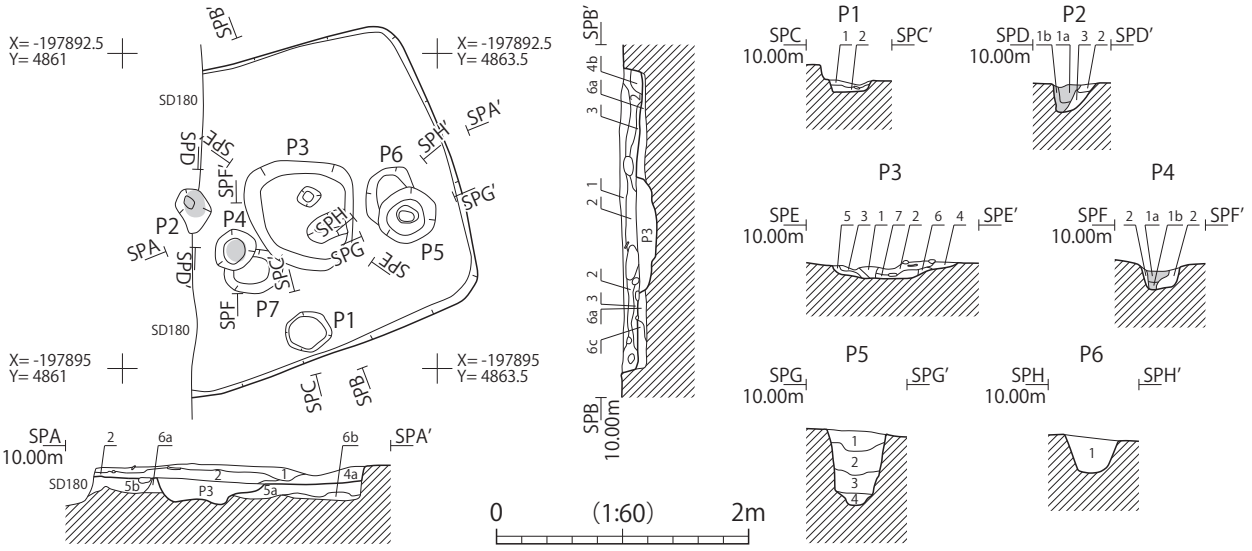
【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から２基（P2・4）、掘り方から３基（P5 ～ 7）を検出した。P4・6 は一対になると考えられ、規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。住居範囲の東西中軸上に配置されている。また、P4・7 と P5・6 は重複しており、それぞれが建て替えの関係にあるとみられる。P2・4 では柱痕跡が確認され、P2 で径 17cm、P4 で径 18cm を測る。

【その他の施設】 土坑 P3、ピット P1 を検出した。P3 は床面の中央に掘り込まれており、ここを中心に多量の土

器や礫、鉄滓などが出土した。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は概ね平坦であるが、一部に土坑状・溝状の掘り込みがみられる。深さは、4 ～ 19cm を測る。



SI275 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土・黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)・炭化物粒少量含む。一部に灰白色火山灰?が集中。
	4a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒少量含む。
	4b	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック(5～20㎜程度)少量含む。
住居掘り方	5a	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰白色・Ⅳ層土(ラミナ状)多量含む。
	5b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	6a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色シルトブロック(10～30㎜程度)多量含む。
	6b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量、酸化鉄微量含む。
	6c	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色とⅣ層土ブロックの混土。

SI275 施設堆積土註記表

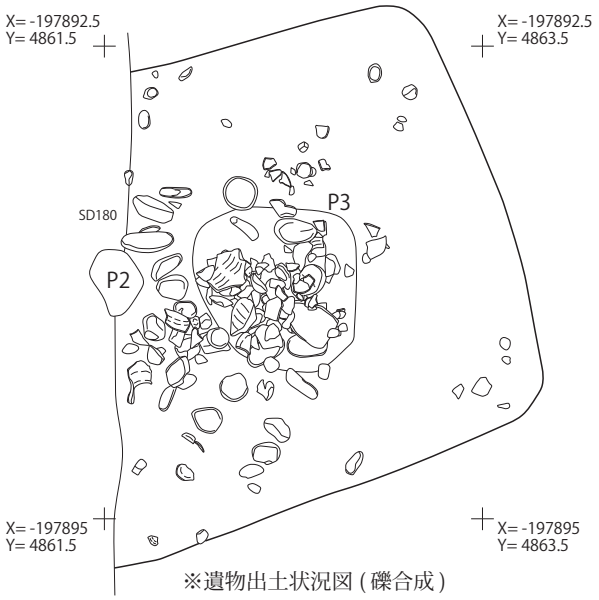
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
P2	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・灰白色火山灰?・炭化物粒少量含む。※柱痕跡
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・炭化物粒少量含む。※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	3	10YR6/4 にぶい黄橙色	細砂	黒褐色シルトブロック(5㎜程度)微量含む。
P3	1	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルト(斑状)・鉄滓多量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック(10㎜程度)少量、酸化鉄微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック(10～20㎜程度)多量含む。
	6	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	鉄滓微量含む。
	7	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)微量含む。
P4	1a	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)多量含む。※柱痕跡
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。※柱痕跡
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)微量含む。
P5	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)微量含む。
P6	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P7	—	—	—	崩落のため観察できず。

SI275 施設観察表

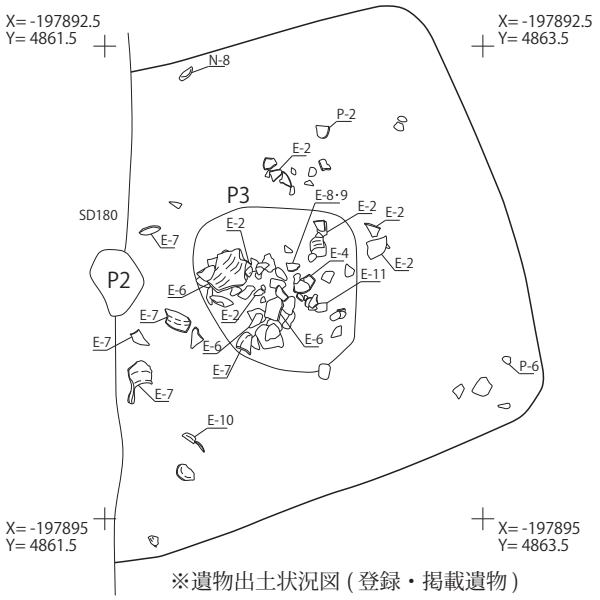
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	37×32	12	
P2	円形?	(35)×(23)	28	柱痕跡あり。
P3	不整円形	100×90	16	
P4	円形	32×30	18	柱痕跡あり。

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	48×41	60	
P6	円形?	(42)×(42)	26	
P7	楕円形	47×35	20	

第 71 図　SI275 竪穴住居跡（1）

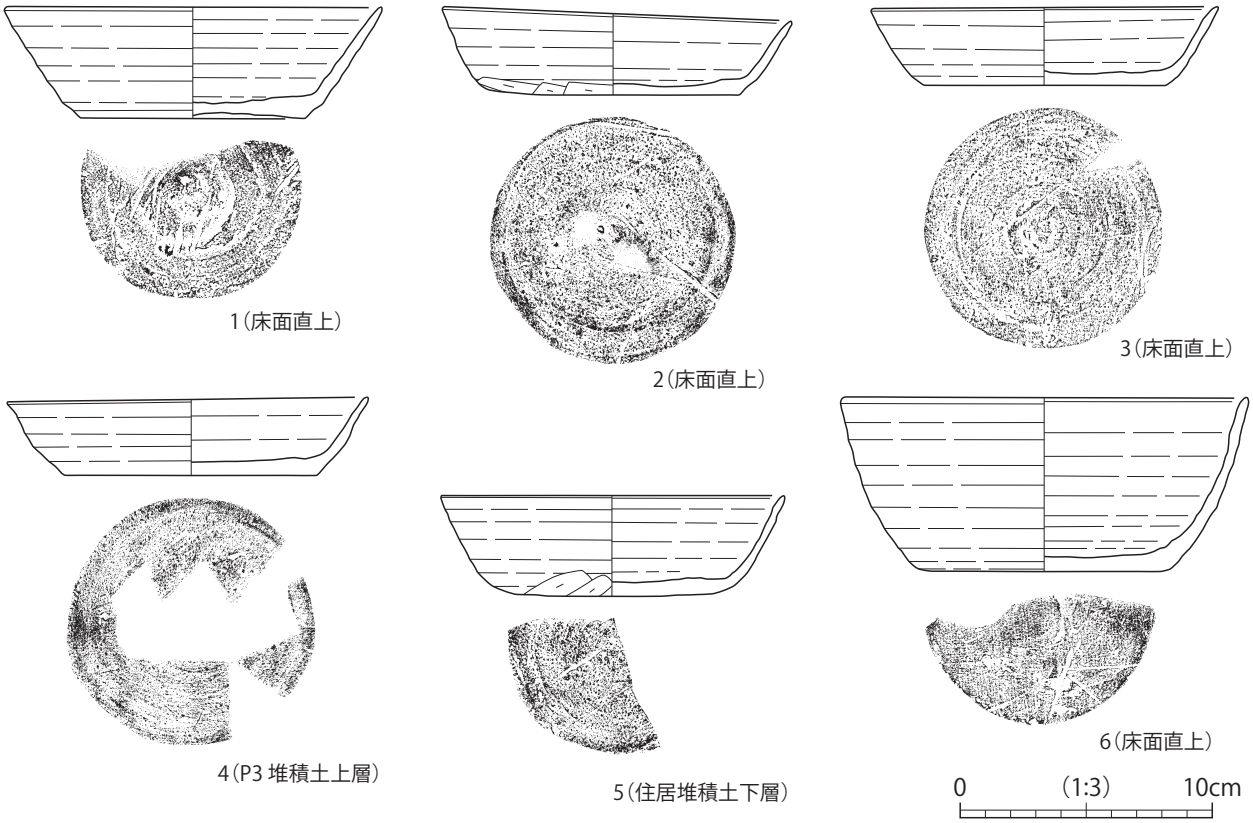


※遺物出土状況図 (礫合成)



※遺物出土状況図 (登録・掲載遺物)

0 (1:40) 1m



1(床面直上)

2(床面直上)

3(床面直上)

4(P3 堆積土上層)

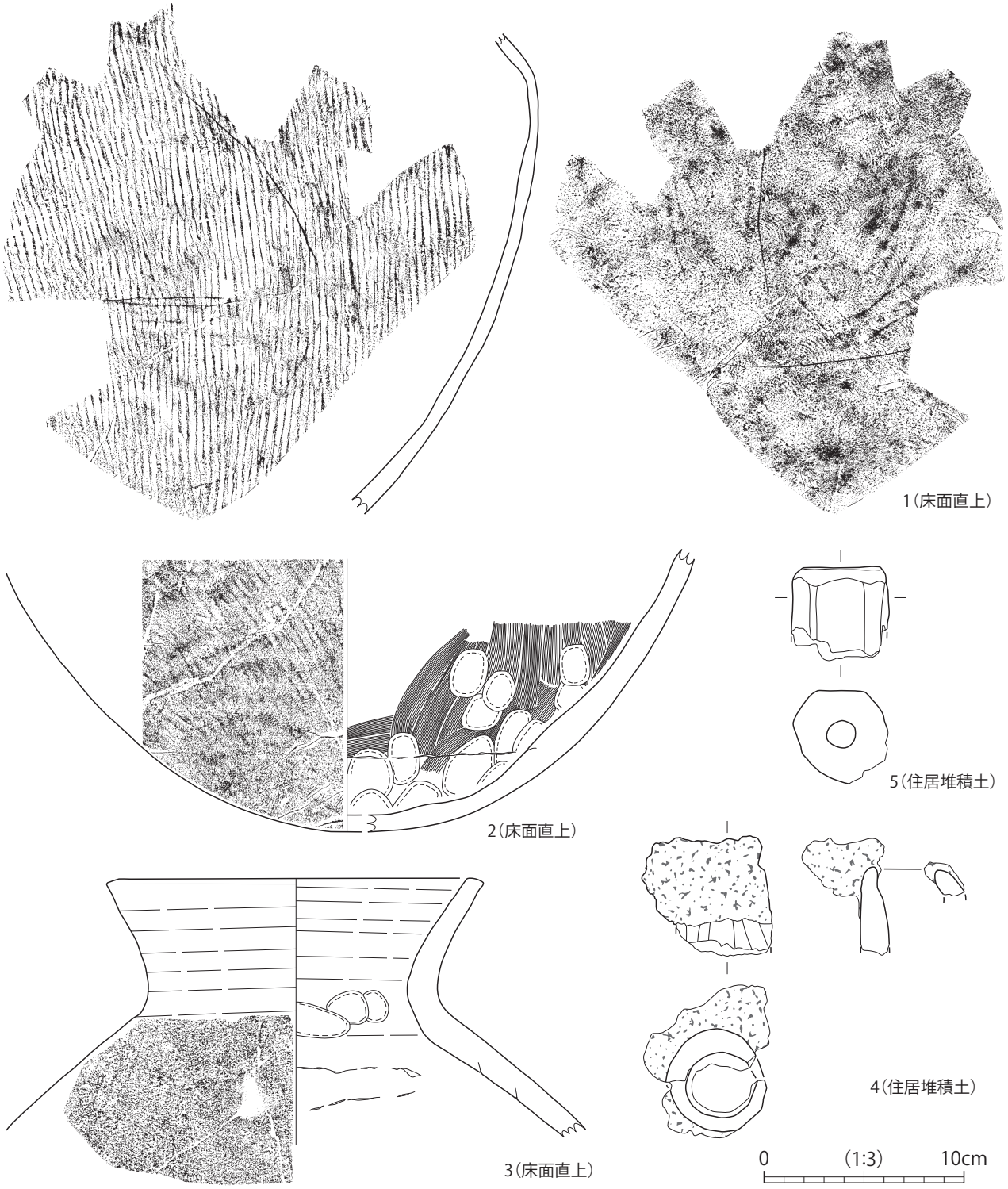
5(住居堆積土下層)

6(床面直上)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-004	第6次	SI275	床面直上	須恵器	坏	14.9	8.8	4.4	ロクロ調整、底面回転ヘラ切り→ナデ	ロクロ調整		97
2	E-008	第6次	SI275	床面直上	須恵器	坏	13.8	10.0	3.6	ロクロ調整、体部下端ヘラケズリ、底面回転ヘラ切り→ナデ	ロクロ調整		97
3	E-009	第6次	SI275	床面直上	須恵器	坏	13.7	9.6	3.1	ロクロ調整、底面回転ヘラ切り→ナデ	ロクロ調整		97
4	E-011	第6次	SI275	P3堆積土上層	須恵器	坏	14.3	10.0	3.1	ロクロ調整、底面ヘラ切り→ナデ	ロクロ調整		97
5	E-003	第6次	SI275	堆積土下層	須恵器	坏	(13.6)	(7.6)	4.0	ロクロ調整、体部下端ヘラケズリ、底面回転ヘラ切り→ナデ	ロクロ調整		97
6	E-010	第6次	SI275	床面直上	須恵器	坏	(16.0)	9.2	6.9	ロクロ調整、底面ヘラケズリ	ロクロ調整		97

第 72 図　SI275 竪穴住居跡（2）・出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-002	第6次	SI275	床面直上	須恵器	甕	—	—	(24.0)	平行タタキ	青海波文		98
2	E-006	第6次	SI275	床面直上	須恵器	甕	—	—	(13.5)	平行タタキ→ナデ	指によるナデ、指オサエ		97
3	E-007	第6次	SI275	床面直上	須恵器	壺	18.8	—	(9.3)	ロクロ調整、胴部自然釉	ロクロ調整、頸部指オサエ、胴部輪積み痕		96

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
4	P-002	第6次	SI275	堆積土	土製品	羽口	(4.4)	5.2	1.4	114.0	ナデ、融解物付着	97
5	P-006	第6次	SI275	堆積土	土製品	土錘	(4.7)	径4.9	—	97.2	ナデ、面取り、孔径14㎜	97

第 73 図　SI275 竪穴住居跡出土遺物（2）

【出土遺物】 須恵器坏 6 点、甕 2 点、壺 1 点、金属製品 1 点（写真図版のみ・図版番号 97 － 10）、土製品 2 点を掲載した（第 72・73 図）。本竪穴住居跡は、土師器に比べて須恵器の出土頻度が圧倒的に高い。第 72 図－ 1 ～ 6 の須恵器坏は、いずれも底部が回転ヘラ切り離しである。切り離し後の調整は 1 がナデ、2・4・6 が手持ちヘラケズリ後、外周を回転ヘラケズリしている。土製品は第 73 図－ 4 が鞴（ふいご）羽口、5 が土錘である。4 の端部には融解物が厚く付着している。

【時期】 掲載した遺物の特徴から、本竪穴住居跡の時期は 6a 期（8 世紀前葉）と考えられる。

SI276 竪穴住居跡（第 74・75 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区南端部の 07 グリッドに位置する。撹乱や重複遺構による破壊部分が多いが、第 9 次調査区側では検出されなかったことから、概ね全体の範囲を調査したと思われる。

【重複】 SI288 より新しく、SI273、SD180・205・224 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 352cm、東西 418cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

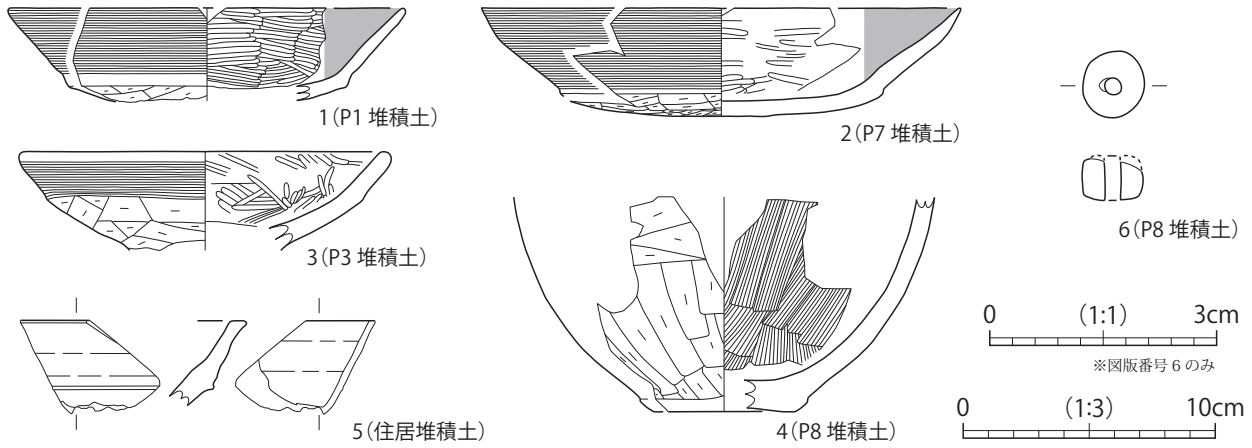
【方向】 北壁基準で N － 67° － W である。

【堆積土】 大別で 7 層、細別で 9 層に分層された。大別 1 ～ 5 層は住居堆積土で、6・7 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ちあがる。壁高は最大で 15cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

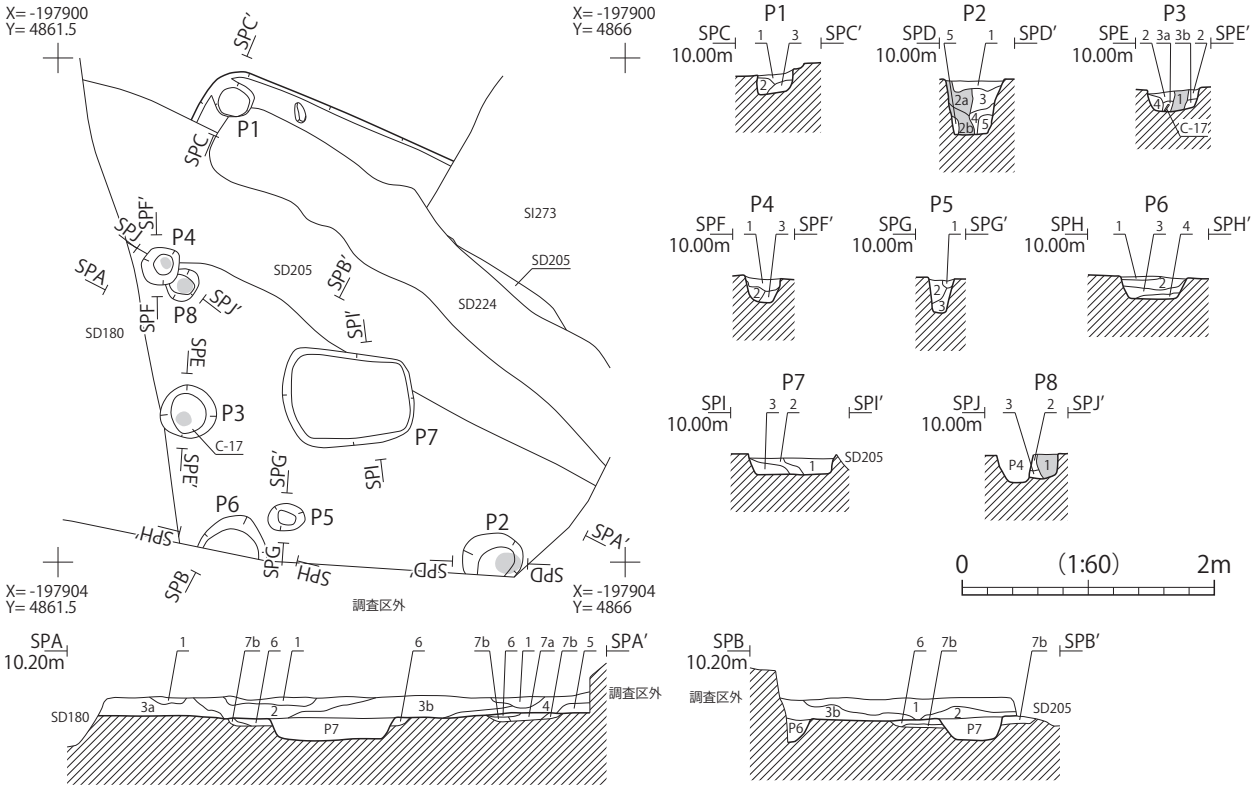
【柱穴】 床面から 6 基（P1 ～ 5・8）を検出した。P2・3 は規模や位置関係から、4 基配置された主柱穴の南側部分に相当すると思われる。P1・4 は壁柱穴、P5・8 は補助柱穴か。P2 ～ 4・8 では柱痕跡が確認され、P2 で径 19cm、P3 で径 12cm、P4 で径 10cm、P8 で径 13cm を測る。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-008	第6次	SI276	P1 堆積土	土師器	坏	(15.6)	－	(3.7)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		98
2	C-016	第6次	SI276	P7 堆積土	土師器	坏	(19.0)	－	4.3	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		98
3	C-017	第6次	SI276	P3 堆積土	土師器	高坏	14.2	－	(3.9)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ		98
4	C-012	第6次	SI276	P8 堆積土	土師器	甕	－	(5.6)	(8.5)	ヘラケズリ	ヘラナデ	内面剥落	98
5	E-012	第6次	SI276	堆積土	須恵器	盤	－	－	(3.7)	ロクロ調整、部分的に自然釉	ロクロ調整		98

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
6	P-010	第6次	SI276	P8堆積土	土製品	丸玉	(0.5)	径0.9	－	0.3	ナデ、孔径2㎜	98

第 74 図　SI276 竪穴住居跡出土遺物



SI276 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	白色粒多量、褐灰色シルトブロック(20㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒微量含む。
	3a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒・白色粒多量、焼土粒・酸化鉄微量含む。
	3b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒・白色粒少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)多量、炭化物粒・白色粒微量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
住居掘り方	6	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒少量、Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	7a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒多量含む。
	7b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒少量、Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒微量含む。

SI276 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色シルトブロック(20㎜程度)多量含む。
	3	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。※柱痕跡
	2b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～20㎜程度)少量含む。
P3	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物粒・白色粒微量含む。
	3a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)多量含む。
	3b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	白色粒少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
P4	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	微砂	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	微砂	酸化鉄少量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	酸化鉄少量、黒褐色シルトブロック(10㎜程度)微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒・白色粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)微量含む。
P6	1	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒・白色粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・焼土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、白色粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	白色粒少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
P8	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。

第 75 図　SI276 竪穴住居跡

SI276 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	36×29	12	
P2	円形?	48×(32)	43	柱痕跡あり。
P3	円形	44×42	24	柱痕跡あり。
P4	円形	32×30	23	柱痕跡あり。

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	楕円形	29×22	30	
P6	円形?	(52)×(24)	17	
P7	隅丸長方形	103×78	17	
P8	円形	28×23	23	柱痕跡あり。

【その他の施設】 土坑 P6・7 を検出した。P7 は床面の中央部分に掘り込まれており、底面からは全体に炭化物が敷き詰められたような状態で検出された。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は概ね平坦であるが、P7 の外周から東側が幅広の溝状に掘り込まれる。深さは、2 ～ 8cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 2 点、高坏 1 点、甕 1 点、須恵器盤 1 点、土製品 1 点を掲載した（第 74 図）。坏はともに底部が扁平で、口縁部が直線的に外傾する。口縁部と体部との境目には強めの稜をもつ。高坏は器壁が厚く、重量感がある。6 の土製品は、丸玉である。

【時期】 他の遺構との新旧関係から、2b 期～ 5 期（6 世紀中葉～ 8 世紀初頭）と考えられる。

SI277 竪穴住居跡（第 76 ～ 78 図）

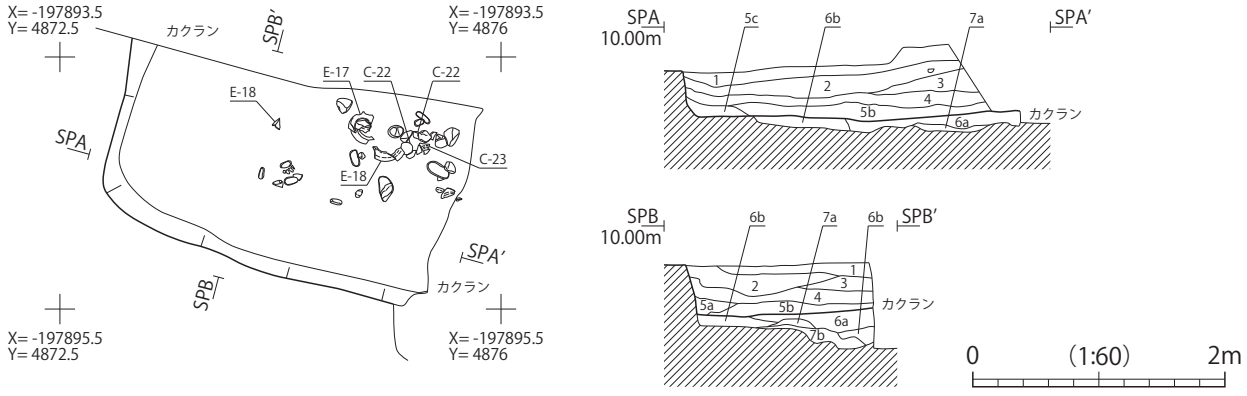
【位置・確認】 第 6 次調査区北東端部の 04・06 グリッドに位置する。撹乱による破壊部分が多く、南西部分のみが残存する。

【重複】 SI281、SD6 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 166cm、東西 284cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 南壁基準で N － 72° － W である。

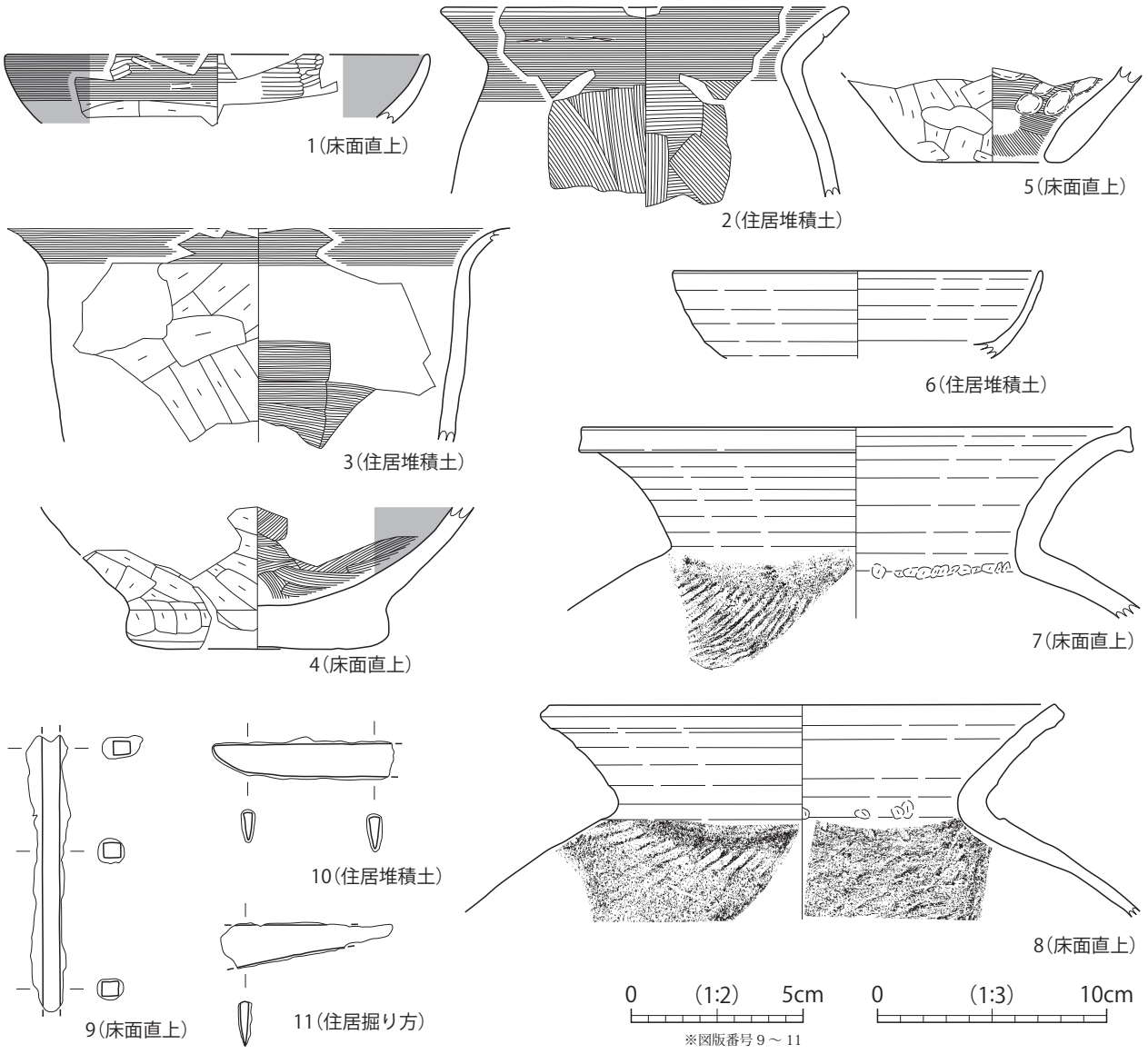
【堆積土】 大別で 7 層、細別で 11 層に分層された。大別 1 ～ 5 層は住居堆積土で、6・7 層は住居掘り方の埋土である。



SI277 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10R5/3 赤褐色	粘土質シルト	褐灰色シルトブロック(10㎜程度)少量、白色粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	白色粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、焼土粒微量含む。
	5b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5c	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、焼土粒少量含む。
住居掘り方	6a	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	褐灰色シルト(斑状)・細砂多量、炭化物粒微量含む。
	6b	2.5Y5/4 黄褐色	細砂	暗褐色シルト(ラミナ状)多量含む。
	7a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂密、褐色シルト(斑状)多量含む。
	7b	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルト(ラミナ状)・細砂多量含む。

第 76 図　SI277 竪穴住居跡



※図版番号 9 ～ 11

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-027	第6次	SI277	床面直上	土師器	坏	(18.4)	—	(3.1)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、黒色処理	ヘラミガキ、黒色処理		98
2	C-019	第6次	SI277	堆積土	土師器	甕	(17.3)	—	(8.7)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		98
3	C-018	第6次	SI277	堆積土	土師器	甕	(22.0)	—	(9.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	外面剥落 内面摩滅	98
4	C-022	第6次	SI277	床面直上	土師器	甕	—	8.0	(6.2)	ヘラケズリ	ヘラナデ、黒色処理		98
5	C-023	第6次	SI277	床面直上	土師器	甑	—	6.0	(4.1)	ヘラケズリ	ヘラナデ、指オサエ	外面剥落	98
6	E-015	第6次	SI277	堆積土	須恵器	坏	(16.0)	—	(3.8)	ロクロ調整	ロクロ調整		98
7	E-018	第6次	SI277	床面直上	須恵器	甕	(23.8)	—	(7.9)	口縁部ロクロ調整、胴部平行タタキ	口縁部ロクロ調整、頸部ヘラケズリ		98
8	E-017	第6次	SI277	床面直上	須恵器	甕	22.0	—	(9.0)	口縁部ロクロ調整、胴部平行タタキ	口縁部ロクロ調整、頸部ヘラケズリ、胴部青海波文		98

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
9	N-039	第6次	SI277	床面直上	金属製品	棒状鉄製品	(8.0)	0.5	0.5	11.3		98
10	N-038	第6次	SI277	堆積土	金属製品	刀子	(5.3)	0.9	0.3	7.0	刃部	98
11	N-040	第6次	SI277	掘り方	金属製品	刀子	(5.0)	(1.3)	0.3	4.0	刃部	98

第 77 図　SI277 竪穴住居跡出土遺物（1）

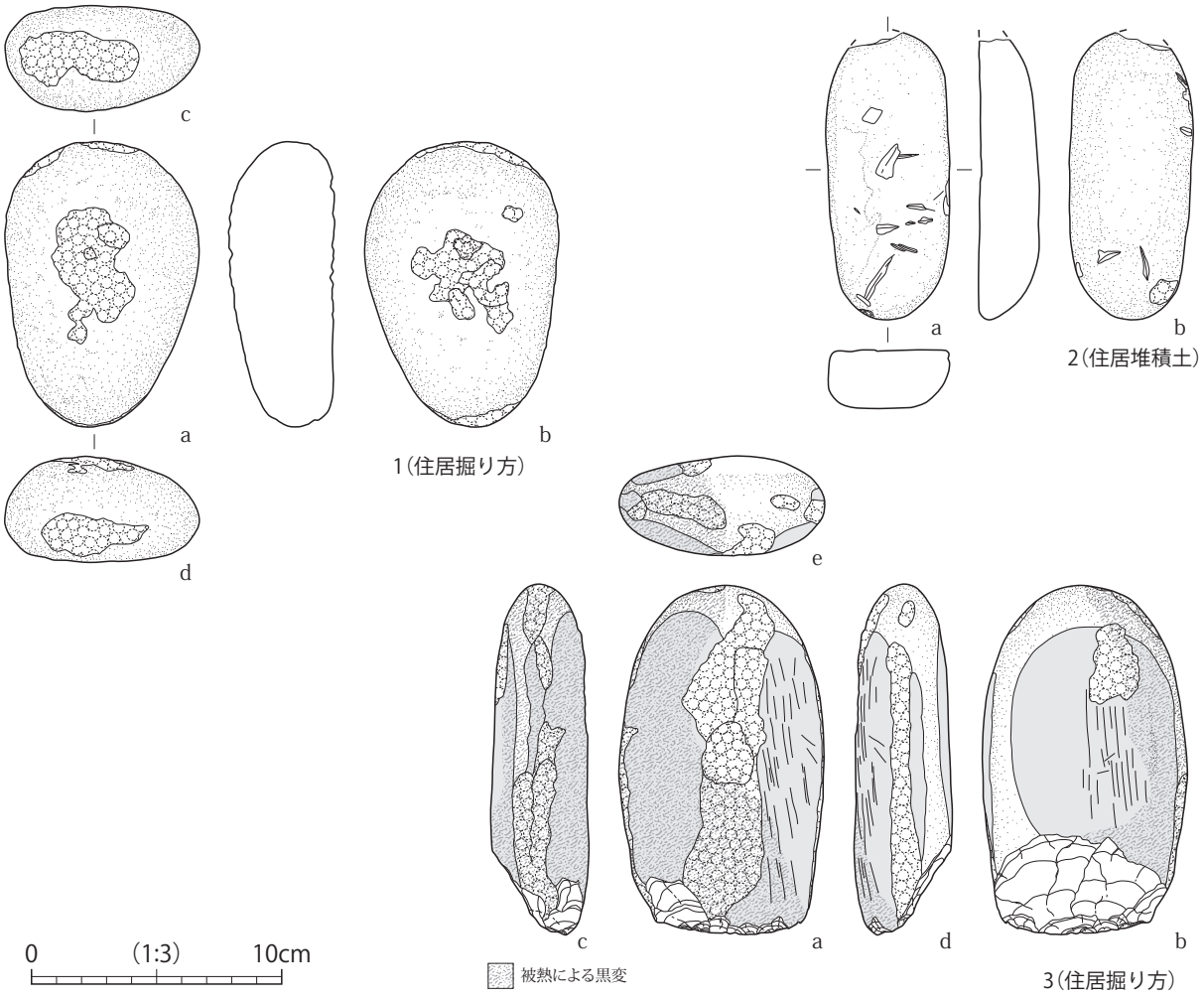
【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がるが、傾きはかなり急角度であり、むしろ直立に近い。壁高は最大で 44cm を測る。

【床面】 残存部では概ね平坦である。

【掘り方】 西壁際にテラス状の段差を残して掘り込まれ、底面は北側が不規則な階段状に落ち込む。深さは、2～19cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、甕 3 点、甑 1 点、須恵器坏 1 点、甕 2 点、金属製品 3 点、礫石器 3 点を掲載した。（第 77・78 図）。本竪穴住居跡もまた須恵器の出土が目立つが、図化できたのは 3 点のみである。第 77 図－ 7・8 の須恵器甕はともに胴部以下を欠損し、床面上に逆位で置かれた状態で出土している。このことから、器台などへの転用が考えられる。6 の坏は底部を欠損するが内湾気味に外傾する体部を有し、その傾きから底径と口径の比率は 1：1.4 程度になるものと思われる。9 の金属製品は器種不明の棒状鉄製品である。角柱状を呈する。10・11 の金属製品はともに鉄製刀子である。10 は刃部切先付近の破片で、11 は茎部から刃部にかけての破片である。第 78 図－ 1 ～ 3 の礫石器はいずれも磨石もしくは敲石・凹石である。1・3 には強めの敲打痕が認められ、2・3 には多数の線状痕や溝状痕が認められる。

【時期】 掲載した土器類のうち第 77 図－ 1・4・5・7・8 は床面上の出土遺物であり、これらの特徴から本竪穴住居跡の時期は 6a 期～ 6b 期（8 世紀前葉～末葉）と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
1	Kc-020	第6次	SI277	掘り方	礫石器	敲石	11.4	7.7	4.2	508.1	安山岩	a～d面敲打（弱・強）	99
2	Kc-021	第6次	SI277	堆積土	礫石器	磨+敲石	(11.5)	5.0	2.4	179.9	凝灰岩	a面磨（強）→溝状痕、b面側縁敲（弱）+溝状痕	99
3	Kc-019	第6次	SI277	掘り方	礫石器	磨+敲+凹石	14.0	8.2	3.9	520.0	流紋岩	a面磨（強）+線状痕→敲（弱・中）→凹1箇所、b面磨（強）+線状痕→敲（弱）+下端剥離、c・d面磨（弱）→敲（弱）、e面敲（弱）	99

第 78 図　SI277 竪穴住居跡出土遺物（2）

SI278 竪穴遺構（第 79 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区中央部西寄りの 03・05 グリッドに位置する。重複遺構による破壊部分が多く、南壁付近と西壁の一部が残存する。床面施設および掘り方も認められず、「竪穴遺構」とした。

【重複】 SI283・284、SD189・191 より新しく、SI275、SD180・182 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 205cm、東西 303cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 西壁基準で N － 20° － W である。

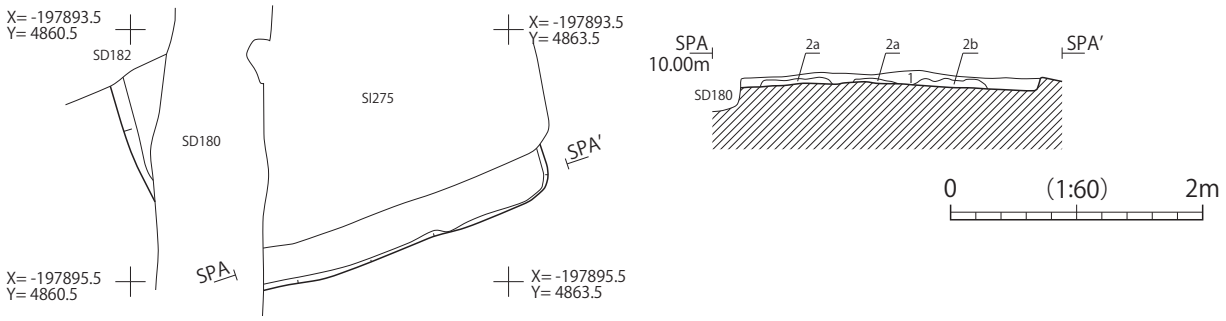
【堆積土】 大別で 2 層、細別で 3 層に分層された。いずれも住居堆積土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 17cm を測る。

【床面】 残存範囲が狭く、詳細不明である。掘り方を伴わず、基本層Ⅳ層を直接床面としている。

【出土遺物】 堆積土中から土師器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 後述する SI284 より新しく、SI275 より古いことから 4 期（7 世紀中葉～後葉）と 6a 期（8 世紀前葉）の中間に位置付けられる。



SI278 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（斑状）少量、炭化物粒微量含む。
	2b	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック（5㎜程度）・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。

第 79 図　SI278 竪穴遺構

SI279 竪穴遺構（第 80 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区南東部の 05・06 グリッドに位置する。円形周溝状の遺構で、「平地式建物」の可能性が考えられる遺構であり、周溝と主柱穴が検出された。

【重複】 SI283・287・289 より新しく、SD181 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 294cm、東西 506cm を測る。平面形状は円形基調と推定される。

【方向】 柱穴配置基準で N － 39° － W である。

【堆積土】 3 層に分層された。いずれも周溝堆積土である。

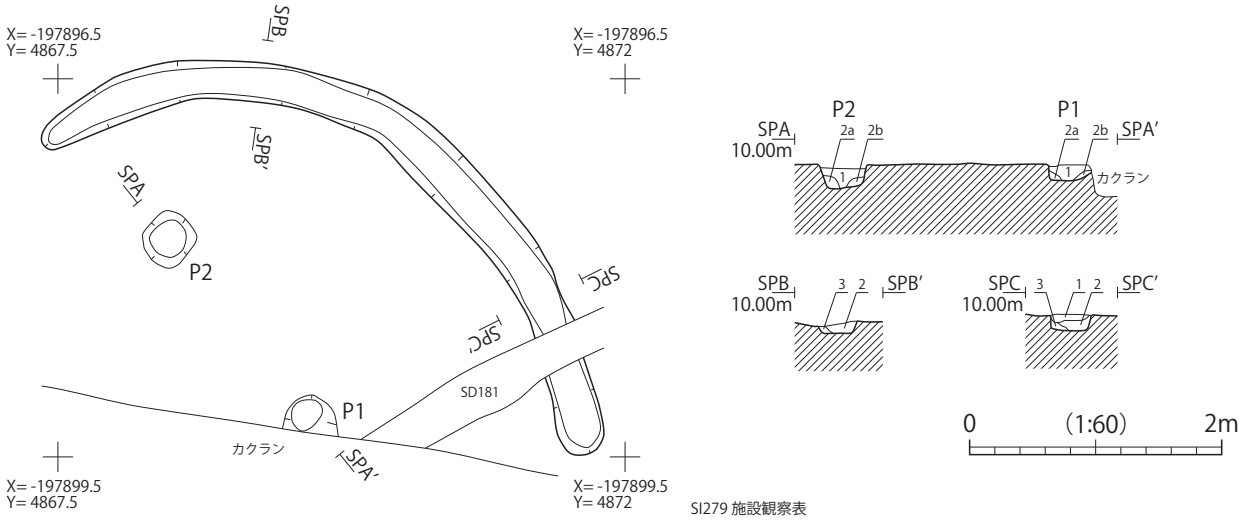
【壁面】【床面】 検出されなかった。

【柱穴】 床面から 2 基（P1・2）を検出した。ともに規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。

【周溝】 半円状に巡る。規模は、幅 31 ～ 42cm、深さ 6 ～ 20cm を測る。

【出土遺物】 周溝や主柱穴から土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 後述する SI283 より新しいことから、2b 期（6 世紀中葉～末葉）以降に位置付けられる。なお、本竪穴遺構と類似する遺構が第 1・2 次調査と第 3 次調査でも検出されている（第 1・2 次調査 SD26 および第 3 次調査 SI131・132）。



SI279 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形?	(44)×(30)	16	
P2	隅丸方形	42×38	20	

SI279 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	黄褐色シルトブロック(5㎜程度)多量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルト(斑状)多量含む。

SI279 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルト(斑状)少量含む。
	2b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック(5～20㎜程度)多量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	黄褐色シルト(斑状)多量含む。
	2a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色シルト(斑状)少量含む。
	2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルト(斑状)少量含む。

第 80 図　SI279 竪穴遺構

SI280 竪穴住居跡（第 81 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区北西端部の 14・20 グリッドに位置する。削平や重複遺構の影響を受け、カマドと南壁周辺部分の床面以下が残存する。

【重複】 SI262 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 334cm、東西 92cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 カマド基準で N － 45° － W である。

【堆積土】 大別で 4 層、細別で 5 層に分層された。大別 1・2 層はカマド掘り方の埋土で、3・4 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 削平のため、失われている。

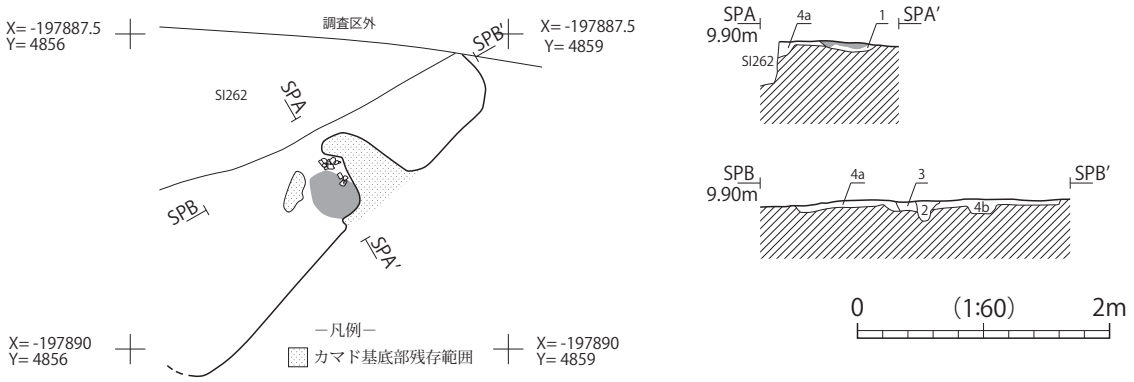
【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【カマド】 南壁の中央やや東寄りに位置し、壁面に直交して付設される。燃焼部底面の被熱痕と、東袖の基底部が残存する。東袖の規模は、長さ 65cm、幅 19 ～ 39cm を測る。燃焼部は奥行き 55cm を測り、幅は被熱痕の範囲から 40cm 前後と推定される。壁内に位置し、底面は概ね平坦である。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面には土坑状やピット状の窪みが多数認められる。深さは、8 ～ 11cm を測る。

【出土遺物】 床面上や掘り方内から土師器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 本竪穴住居跡の時期は、不明である。



※本住居跡の平面プランは掘り方の残存範囲を示す

SI280 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド掘り方	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂多量、黒褐色シルト(斑状)少量含む。上位が被熱。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒少量含む。
住居掘り方	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色・Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒微量含む。下位に15cm大のⅣ層土ブロックあり。
	4b	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒微量含む。

第 81 図　SI280 竪穴住居跡

SI281 竪穴住居跡（第 82・83 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区東部の 04・06 グリッドに位置する。撹乱による破壊部分が多く、南側部分の 1/3 程が残存する。

【重複】 SI4・286・287 より新しく、SI277 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 265cm、東西 510cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 南壁基準で N － 38° － E である。

【堆積土】 大別で 9 層、細別で 12 層に分層された。大別 1 ～ 5 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。6 層は周溝堆積土で、7 ～ 9 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がるが、上部の傾きが大きい。壁高は最大で 56cm を測る。

【床面】 残存部では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 6 基（P1 ～ 6）を検出した。P1・3 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。また、P1 は P2、と P3 は P4・6 と重複しており、それぞれ建て替えの関係にあると考えられる。P1・3・4 では柱痕跡が確認され、P1 で径 22cm、P3 で径 18cm、P4 で径 11cm を測る。P2･P6 の底面には円形の変色範囲が認められ、柱材の痕跡を示すものと考えられる。径は P2 で 19cm、P6 で 14cm を測る。

【周溝】 検出範囲内では全体の壁面に沿って巡る。規模は、幅 20 ～ 35cm、深さ 10 ～ 16cm を測る。

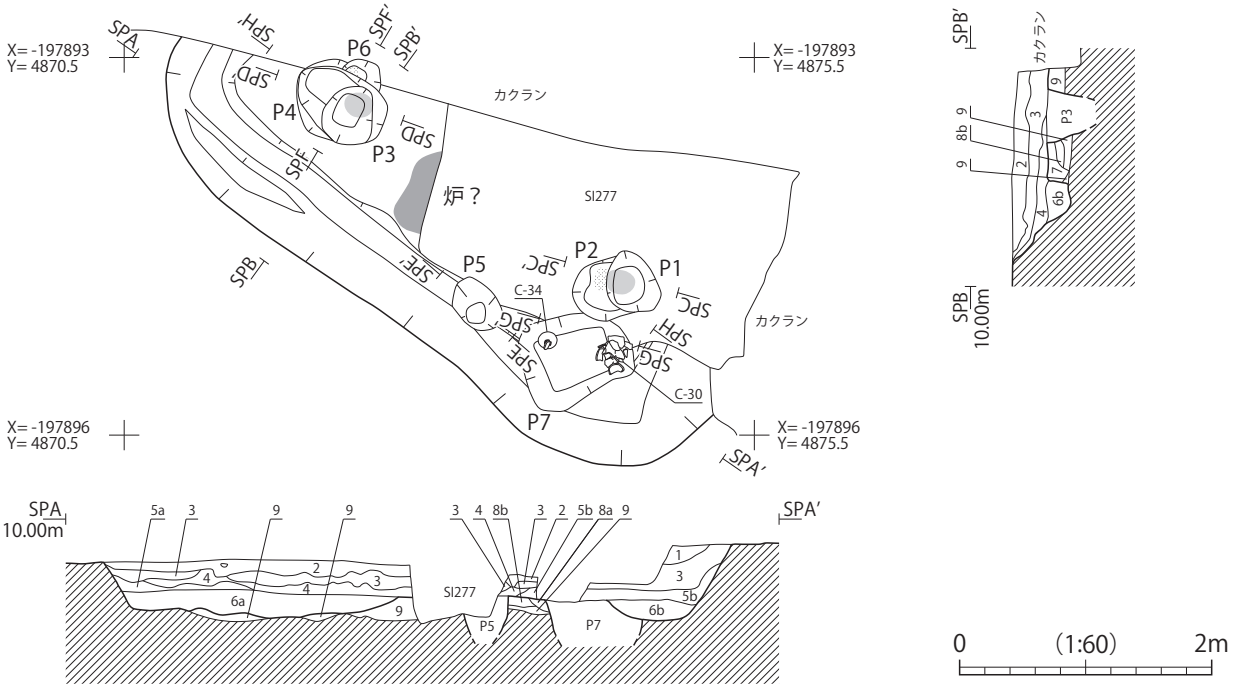
【その他の施設】 土坑 P7 を検出した。長軸方向が住居とは合わず、別遺構の可能性も考えられる。また、南壁手前に焼土・炭化物・灰の集中部分が認められたが、地床炉としての断定には至らなかった。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は南壁際から西壁際にかけてが一段下がる。深さは、5 ～ 18cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、甕 1 点、壺 1 点を掲載した（第 83 図）。2 の壺は算盤玉のような胴部をもち、その中央部を焼成後に穿孔している。

【時期】 本竪穴住居跡の時期は、不明である。

SI282 竪穴住居跡　※欠番（整理時に SI288 の一部であることが判明）



SI281 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒・白色粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	黒褐色シルト(斑状)少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)部分的に多量、焼土ブロック・炭化物粒微量含む。
	4	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	暗褐色シルト(斑状)・黄白色シルトブロック(5～20㎜程度)多量含む。南壁際にⅣ層土堆積。
	5a	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	明黄褐色・黒褐色シルト(ラミナ状)多量含む。
周溝	6a	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6b	10YR3/3 暗褐色	シルト	明黄褐色(斑状)少量含む。
住居掘り方	7	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック(5～30㎜程度)多量含む。
	8a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰褐色シルト(斑状)少量含む。
	8b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂密、暗褐色シルト(斑状)少量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	細砂密、灰白色シルト(斑状)少量含む。

SI281 施設堆積土註記表

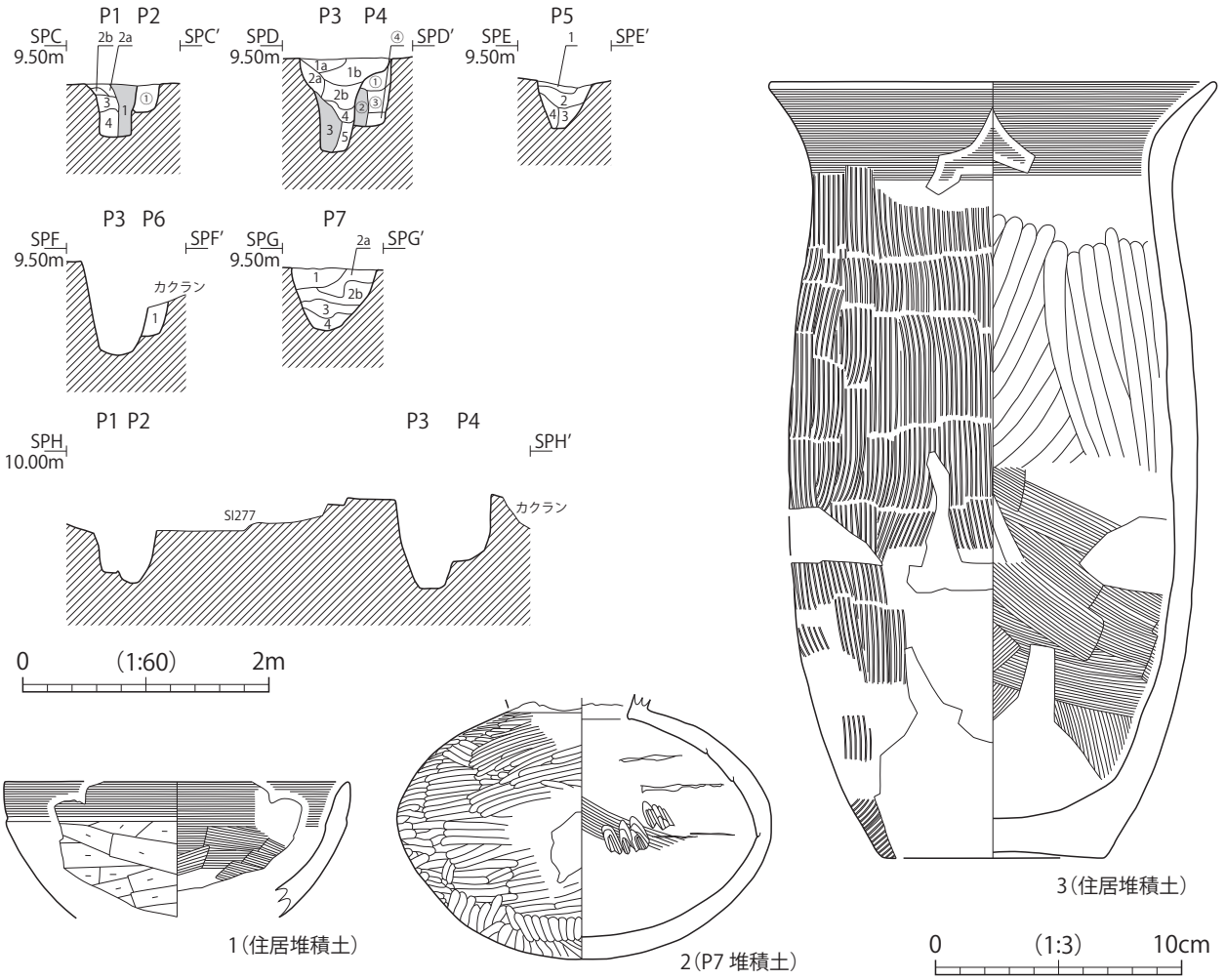
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。※柱痕跡
	2a	10YR3/4 暗褐色	シルト	灰白色・Ⅳ層土(斑状)密、炭化物粒微量含む。
	2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)・細砂多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	灰白色・橙色シルト(斑状)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	微砂	酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
P2	①	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、焼土粒微量含む。
P3	1a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒少量含む。
	1b	10YR4/4 褐色	砂質シルト	明黄白色シルトブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2a	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色・Ⅳ層土(斑状)少量含む。
	2b	10YR6/6 明黄褐色	シルト	明黄白色シルトブロック(5～20㎜程度)密、炭化物粒多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	細砂多量、黄白色シルトブロック(5～30㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	細砂多量、暗褐色・黒褐色シルト(斑状)少量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	浅Ⅳ層土(斑状)少量含む。
P4	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	明黄白色シルト(ラミナ状)多量、炭化物粒少量含む。
	②	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒色・褐色シルト(ラミナ状)・炭化物粒・細砂多量含む。※柱痕跡
	③	10YR3/3 暗褐色	シルト	明黄白色・褐色シルト(斑状)・炭化物粒多量含む。
	④	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルト(斑状)多量含む。
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黄白色シルトブロック(5～20㎜程度)多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルト(斑状)少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	細砂多量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	細砂多量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	明黄白色シルトブロック(5～30㎜程度)密に含む。
P7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色シルト(斑状)多量含む。
	2a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒褐色・浅Ⅳ層土(斑状)多量含む。
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	細砂多量、暗褐色シルト(斑状)少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)多量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	浅黄橙・灰色シルト(ラミナ状)多量含む。

第 82 図　SI281 竪穴住居跡（1）

SI281 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	不整楕円形	49×40	43	柱痕跡あり。
P2	楕円形?	47×(44)	45	
P3	楕円形	78×52	77	柱痕跡あり。
P4	円形?	63×(35)	60	柱痕跡あり。

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	楕円形	46×31	42	
P6	円形?	33×(26)	59	
P7	隅丸長方形	86×73	51	貯蔵穴か。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-029	第6次	SI281	堆積土	土師器	坏	(13.8)	—	(5.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	外面剥落	99
2	C-034	第6次	SI281	P7堆積土	土師器	壺	—	—	(10.6)	ヘラミガキ	ヘラナデ、輪積み痕、一部工具痕	胴部穿孔(焼成後)	99
3	C-030	第6次	SI281	堆積土	土師器	甕	(18.0)	9.0	31.6	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、底部木葉痕	口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラミガキ、下半ヘラナデ		99

第 83 図　SI281 竪穴住居跡（2）・出土遺物

SI283 竪穴住居跡（第 84 ～ 89 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区中央部の 03・05 グリッドに位置する。北西部は SD182 に分断され、北東コーナーは撹乱で失われているが、全体を検出した。

【重複】 SI289・290 より新しく、SI275・278・279、SD182・193、SK234 より古い。SI284 との新旧関係は、調査現場では SI283 の方が新しいと判断して調査を進めたが、整理作業で出土遺物を検討した結果、SI283 が SI284 より古いと判断した。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 612cm、東西 625cm を測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマド基準でＮ－75°－Ｗである。

【堆積土】 大別で 19 層、細別で 36 層に分層された。大別 1 ～ 6 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。また、3a・4a・4b・6b 層は炭化物もしくは風化した炭化物と思われる黒褐色シルトを多量に含み、遺物や礫もこの層位からの出土が多い。埋土時の投げ込みによるものと思われる。7 層は周溝堆積土である。8 ～ 10 層はカマド関連の堆積土で、8 層は崩落した天井材とみられる。11・12 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土が主体であると思われる。13 ～ 15 層はカマド掘り方の埋土で、16 ～ 19 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がるが、北壁の一部は直立気味に立ち上がる。また、西壁は他の壁と比べて傾きが強い。壁高は最大で 55cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 9 基（P1 ～ 9）、掘り方から 3 基（P16・17・19）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。ほかは補助柱穴や壁柱穴のたぐいであると考えられるが、その配置に規則性は認められない。P1 ～ 5・7 ～ 9 では柱痕跡が確認され、P1 で径 17cm、P2 で 18cm、P3 で 21cm、P4 で 13cm、P5 で 17cm、P7 で 16cm、P8 で 17cm、P9 で 16cm を測る。これらの柱穴には柱穴どうしの重複が認められず、建て替えなどの行為は行われなかったと推定される。

【周溝】 概ね全体の壁面に沿って巡るが、西壁は南半部のみに伴う。規模は、幅 14 ～ 30cm、深さ 5 ～ 28cm を測る。東壁では一部が壁面から 5 ～ 15cm 程内側に巡っている。

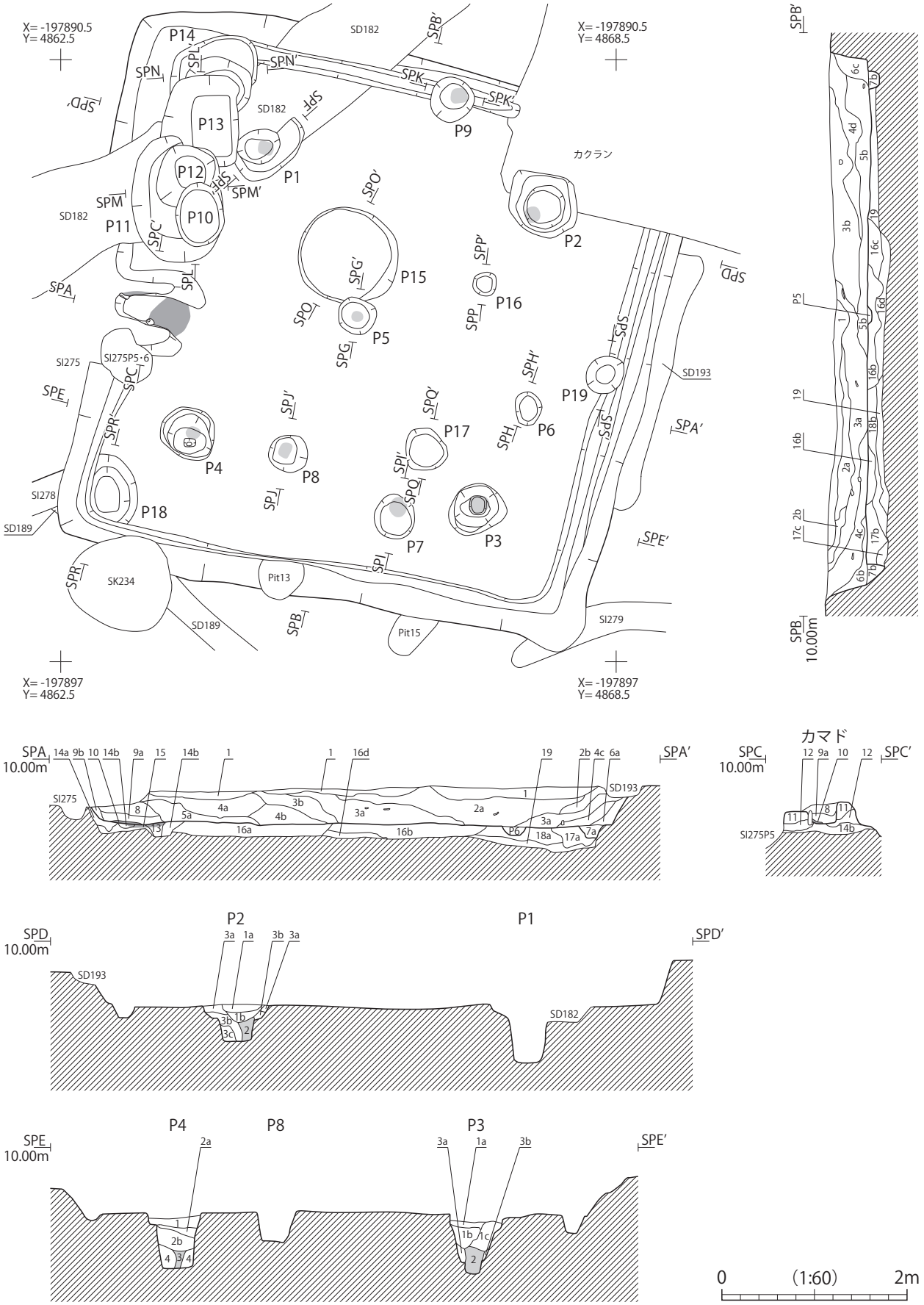
【カマド】 西壁のほぼ中央に位置し、壁面に直交して付設される。SI275 との重複により燃焼部の上部と南袖の一部、煙道部は失われている。袖の規模は、北袖が長さ 162cm、幅 26 ～ 32cm、南袖が長さ 104cm、残存部で幅 24 ～ 32cm を測り、西壁に直交して延びる。北袖の奥壁付近と、南袖の焚口付近には、それぞれ内壁に接して棒状礫の支柱が立てられている。燃焼部は奥行き 80cm、幅 36cm を測り、奥壁高は 12cm が残存する。壁内に位置し、底面は奥壁方向へ緩やかに立ち上がる。被熱は強く、底面と北袖の一部が焼土化している。

【その他の施設】 床面から土坑 P10 ～ 14 を、掘り方から土坑 P15・18 を検出した。P10 ～ 14 はカマドの脇から北西コーナーにかけて位置しており、南から北に向かって連続的に重複する。貯蔵穴と思われ、それぞれが造り替えの関係にあると考えられる。P12・14 の底面と壁面には粘性のシルトが厚く貼られている。南西コーナーの P18 も同様の性格が考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は南側に向かって階段状に下り、北西コーナーも土坑状に窪む。東壁際は一部溝状に掘り込まれている。深さは、3 ～ 43cm を測る。

【出土遺物】 第 86 図に示したように、本竪穴住居跡からは炭化物混入層や床面上から多量の遺物が出土している。土師器坏 11 点、高坏 5 点、鉢 4 点、甕 9 点、石製品 2 点、礫石器 4 点を掲載した（第 86 ～ 89 図）。第 86 図－ 1 ～ 6 は鬼高系の坏である。2・4 の内面にはヘラナデ後、放射状のミガキが施されている。高坏のうち、坏部が残存する第 87 図－ 4 ～ 6 はいずれも口縁部と体部の境に稜をもち、7・8 の脚部はともに短脚である。9 ～ 12 の鉢はいずれも内面をヘラミガキし、黒色処理が施されている。甕は、長胴で胴部中位に最大径をもつ第 88 図－ 3、短胴で短い口縁部をもつ 4・5 などが個体資料で認められる。6・7 の石製品は 6 が剣形模造品、7 が砥石である。8 と第 89 図－ 1 ～ 3 の礫石器は、第 89 図－ 3 が凹＋台石、ほかは敲石もしくは磨＋敲石である。3 の a・b 面には深い凹部のほか a 面には溝状痕が認められる。

【時期】 第 86 図－ 3・6 の坏、第 87 図－ 12 の鉢、第 88 図－ 3 ～ 5 の甕は床面上の遺物である。また、炭化物層中から出土した第 87 図－ 1 の坏、5･7 の高坏なども時期的な下限を示すと思われる。これらの遺物の特徴から、本竪穴住居跡の時期は 2b 期（6 世紀中葉～末葉）と考えられる。



第 84 図　SI283 竪穴住居跡（1）

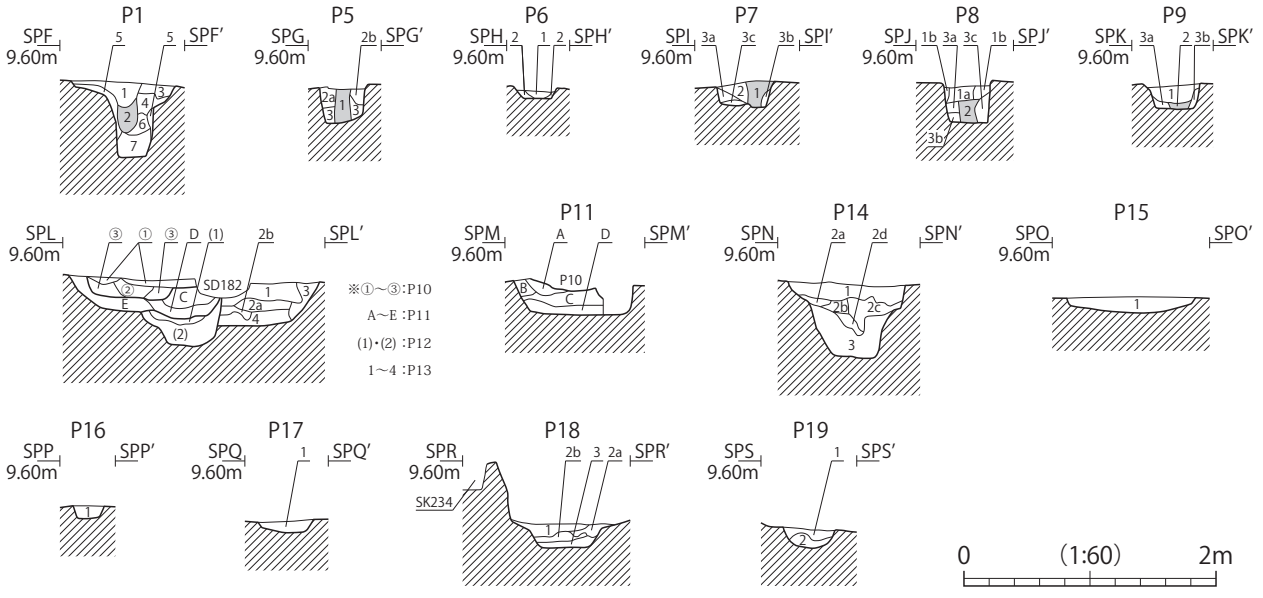
SI283 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒少量含む。
	2b	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	3a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～15㎜程度)少量含む。
	3b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土・黒褐色シルトブロック(5～40㎜程度)密、炭化物粒少量含む。
	4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土・黒褐色シルト(ラミナ状)多量、炭化物粒少量含む。
	4b	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・黒褐色シルトブロック(5～50㎜程度)多量、炭化物粒少量、下位に細砂3㎝程度の厚さで堆積。
	4c	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)・炭化物粒多量含む。下位はⅣ層土・炭化物粒少ない。
	4d	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)・炭化物粒少量、焼土粒微量、最下位にⅣ層土ブロック堆積 。
	5a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	5b	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・細砂多量、炭化物粒・焼土粒少量含む。下位に細砂が薄く堆積。
	6a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)多量、炭化物粒微量含む。下位は細砂混じりで、炭化物粒が薄く堆積。
	6b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒(斑状)多量、Ⅳ層土(斑状)微量含む。
	6c	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土(斑状)多量含む。上位はややシルト質。
周溝	7a	10YR5/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	7b	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。壁際にⅣ層土が流入。
カマド	8	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒(ラミナ状)少量含む。壁際に焼土粒が集中。
	9a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	焼土粒多量、炭化物粒少量含む。上位に焼土粒が薄く堆積。
	9b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒・焼土粒多量含む。
	10	10YR4/4 褐色	砂質シルト	※焼土層
カマド袖	11	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	浅黄色シルトブロック(20㎜程度)・炭化物粒多量、焼土粒微量含む。
	12	10YR5/3 にぶい黄褐色	微砂	浅黄色・黒褐色シルトブロック(5～20㎜程度)少量含む。
カマド掘り方	13	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒多量含む。
	14a	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	14b	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5㎜程度)微量含む。
	15	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、焼土粒微量含む。
住居掘り方	16a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色・Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。
	16b	10YR5/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土・灰白色粘土ブロック(20～50㎜程度)多量含む。
	16c	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)微量含む。下位にⅣ層土5㎝程度の厚さで堆積。
	16d	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	17a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。中位にⅣ層土3㎝程度の厚さで堆積。
	17b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒色シルトブロック・灰白色粘土ブロック(10～20㎜程度)微量含む。
	17c	10YR4/1 褐灰色	シルト	黒色シルトブロック(10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	18a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、酸化鉄微量含む。
	18b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。
	19	10YR7/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)少量含む。

SI283 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
カマド	―	―	―	
P1	楕円形	82×(52)	58	柱痕跡あり。
P2	楕円形	(85)×(71)	42	柱痕跡あり。
P3	円形	62×52	60	柱痕跡あり。
P4	円形	58×54	75	柱痕跡あり。
P5	円形	41×37	34	柱痕跡あり。
P6	楕円形	36×28	11	
P7	円形	49×44	20	柱痕跡あり。
P8	円形	42×40	32	柱痕跡あり。
P9	円形	47×47	25	柱痕跡あり。

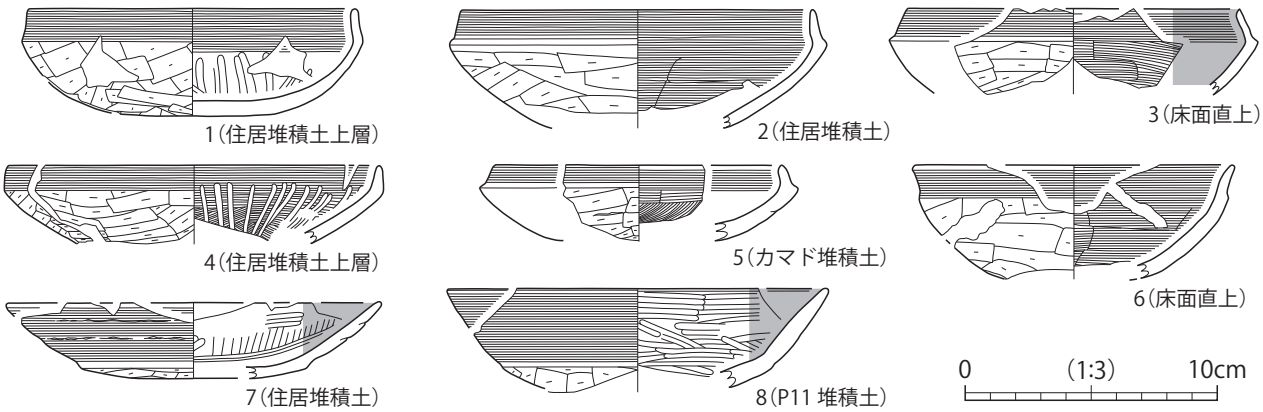
遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P10	楕円形	68×52	17	貯蔵穴か。
P11	楕円形	137×98	26	貯蔵穴か。
P12	隅丸方形	67×58	47	壁・底面に白色シルト貼付。貯蔵穴か。
P13	隅丸長方形	99×83	38	貯蔵穴か。
P14	楕円形	94×(85)	69	壁・底面に白色シルト貼付。貯蔵穴か。
P15	円形	110×103	12	
P16	円形	26×25	11	
P17	円形	45×43	11	
P18	楕円形	86×64	25	貯蔵穴か。
P19	円形	44×38	13	



第 85 図　SI283 竪穴住居跡（2）

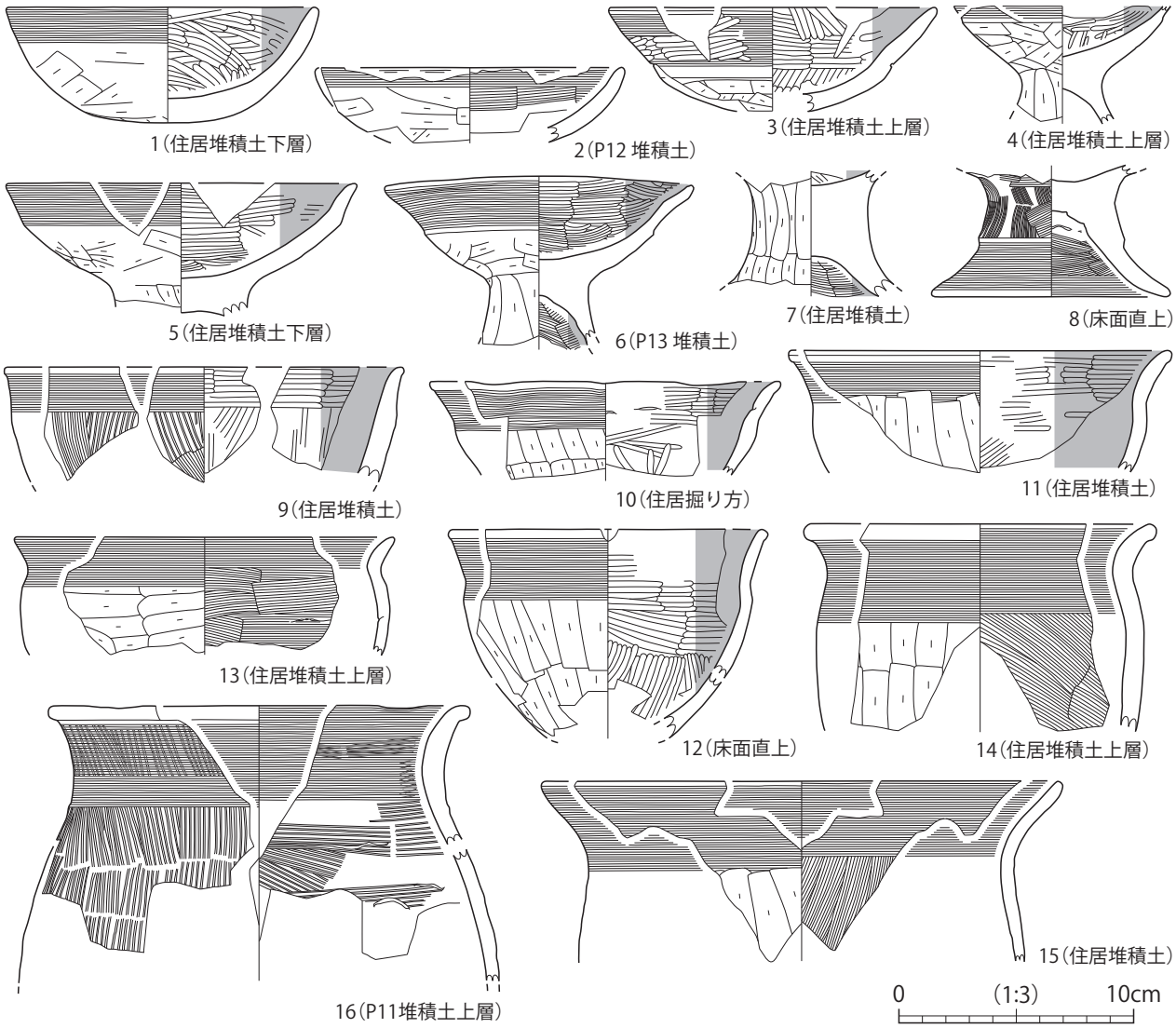
SI283 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)・白色粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。
	5	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	酸化鉄少量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)微量含む。
P2	1a	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)・灰白色火山灰?微量含む。
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物粒少量、Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3a	10YR5/6 黄褐色	細砂	酸化鉄少量含む。
	3b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)微量含む。
	3c	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
P3	1a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	1c	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・灰白色火山灰?少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。※柱痕跡
	3a	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	3b	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
P4	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	2a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	2b	10YR6/6 明黄褐色	シルト	酸化鉄少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。※柱痕跡
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)微量含む。
P5	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)・白色粒微量含む。
	2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	白色粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック(10～20㎜程度)微量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒・白色粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	3a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルト(斑状)多量含む。
	3b	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	3c	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)微量含む。
P8	1a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物粒・焼土粒・灰白色火山灰?微量含む。
	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)少量、白色粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	3b	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	黒色・Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	3c	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。壁際にⅣ層土ブロックが集中。
P9	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	白色粒多量、Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)・炭化物粒少量含む。※柱痕跡
	3a	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	3b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
P10	①	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黄橙色粘土ブロック(10～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	③	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
P11	A	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	B	10YR5/2 灰黄褐色	微砂	炭化物粒微量含む。
	C	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	D	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黄白色・Ⅳ層土ブロック(10～40㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。壁際に黒褐色シルトが流入。
	E	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	明黄褐色・黒褐色シルト(斑状)・酸化鉄密に含む。
P12	(1)	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒微量含む。
	(2)	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	灰白色シルト主体。
P13	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量、白色粒微量含む。中位に黒褐色シルト層を挟む。
	2a	10YR5/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)多量、酸化鉄少量含む。
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物粒・酸化鉄微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	微砂	黒褐色シルトブロック(5～20㎜程度)少量含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	酸化鉄多量,黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
P14	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土・黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	2a	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
	2b	10YR5/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(30㎜程度)微量含む。
	2c	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土	Ⅳ層土・黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	2d	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。
	3	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	灰白色シルト主体。
P15	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P16	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	微砂	灰褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
P17	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	浅Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量含む。
P18	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。
	2a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
	2b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック(10～20㎜程度)多量含む。
P19	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄少量含む。



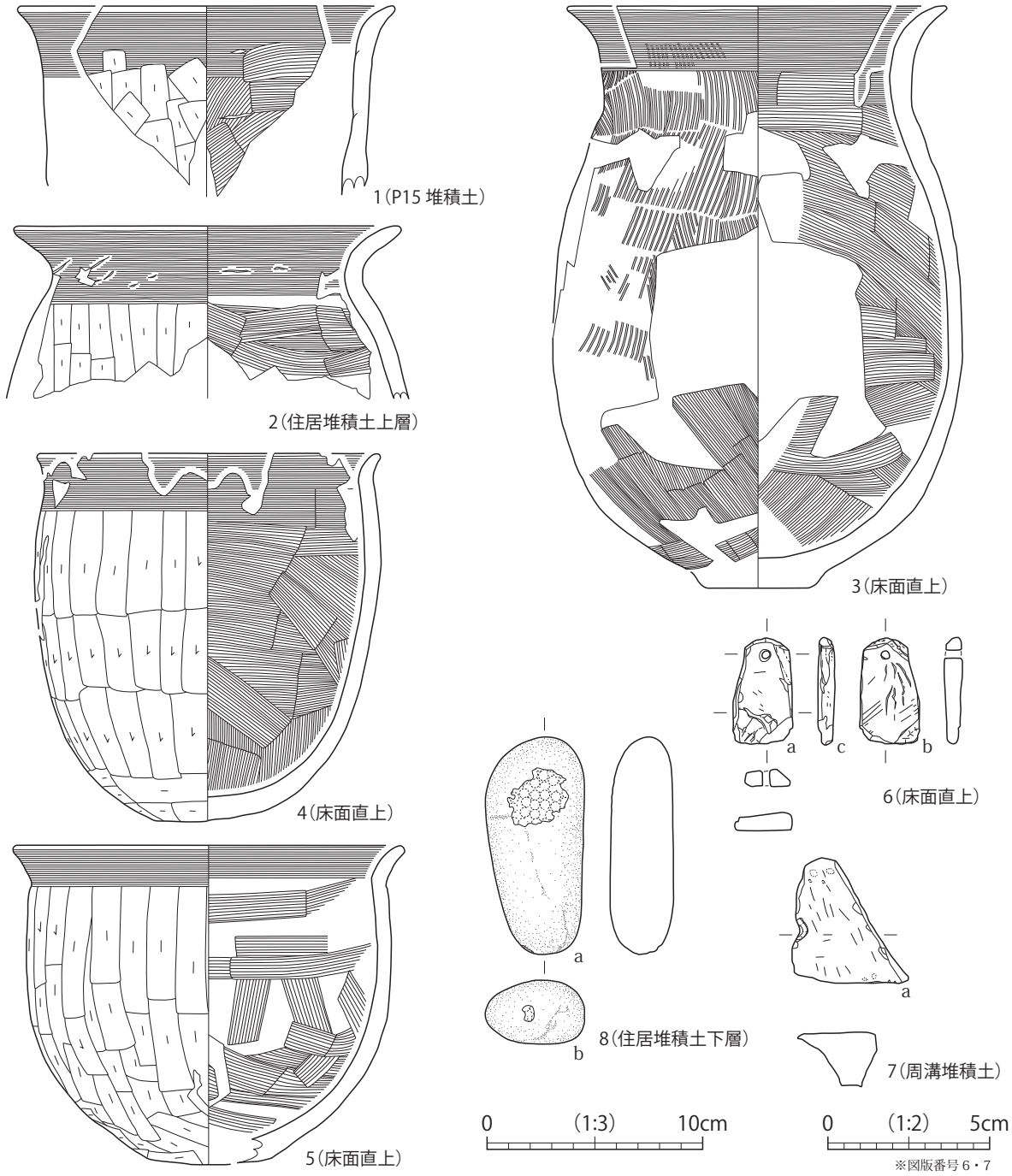
図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-060	第6次	SI283	堆積土上層	土師器	坏	(12.9)	(5.0)	4.2	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ		99
2	C-066	第6次	SI283	堆積土	土師器	坏	(13.9)	—	(4.7)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	内面に漆の痕跡	99
3	C-090	第6次	SI283	床面直上	土師器	坏	(13.2)	—	(3.4)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、黒色処理		99
4	C-059	第6次	SI283	堆積土上層	土師器	坏	(14.7)	—	(3.1)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→ヘラミガキ		99
5	C-100	第6次	SI283	カマド堆積土	土師器	坏	(11.4)	—	(3.0)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		99
6	C-076	第6次	SI283	床面直上	土師器	坏	(12.6)	—	(4.5)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		99
7	C-061	第6次	SI283	堆積土	土師器	坏	(14.8)	—	3.0	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、輪積み痕	ヘラミガキ、黒色処理		99
8	C-097	第6次	SI283	P11 堆積土	土師器	坏	(15.0)	—	(4.1)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		99

第 86 図　SI283 竪穴住居跡（3）・出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-082	第6次	SI283	堆積土下層	土師器	坏	13.1	—	4.9	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		100
2	C-099	第6次	SI283	P12堆積土	土師器	坏	(13.0)	—	(3.2)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		100
3	C-063	第6次	SI283	堆積土上層	土師器	坏	(13.8)	—	(4.4)	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		100
4	C-048	第6次	SI283	堆積土上層	土師器	高坏	—	—	(5.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	坏部ヘラミガキ、黒色処理		100
5	C-058	第6次	SI283	堆積土下層	土師器	高坏	(14.8)	—	(5.5)	口縁部ヨコナデ、体部から脚部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	外面赤彩	100
6	C-092	第6次	SI283	P13堆積土	土師器	高坏	13.0	—	(7.4)	口縁部ヨコナデ、体部から脚部ヘラケズリ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラナデ、黒色処理		100
7	C-083	第6次	SI283	堆積土	土師器	高坏	—	—	(5.3)	ヘラケズリ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラナデ、黒色処理		100
8	C-084	第6次	SI283	床面直上	土師器	高坏	—	10.0	(5.6)	上半ハケメ→ヘラナデ、下半ヨコナデ	脚部ヘラナデ、輪積み痕、脚端部ヨコナデ		100
9	C-053	第6次	SI283	堆積土	土師器	鉢	(16.8)	—	(4.9)	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ・ヘラナデ	ヘラミガキ、黒色処理		100
10	C-102	第6次	SI283	掘り方	土師器	鉢	(14.8)	—	(4.2)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		100
11	C-073	第6次	SI283	堆積土	土師器	鉢	(16.0)	—	(5.2)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		100
12	C-088	第6次	SI283	床面直上	土師器	鉢	(13.6)	—	(8.9)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		100
13	C-051	第6次	SI283	堆積土上層	土師器	甕	(16.0)	—	(5.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		100
14	C-056	第6次	SI283	堆積土上層	土師器	甕	(14.4)	—	(8.8)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		100
15	C-078	第6次	SI283	堆積土	土師器	甕	(22.0)	—	(7.7)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		100
16	C-093	第6次	SI283	P11堆積土上層	土師器	甕	(17.4)	—	(11.7)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ、輪積み痕		100

第 87 図　SI283 竪穴住居跡出土遺物（2）

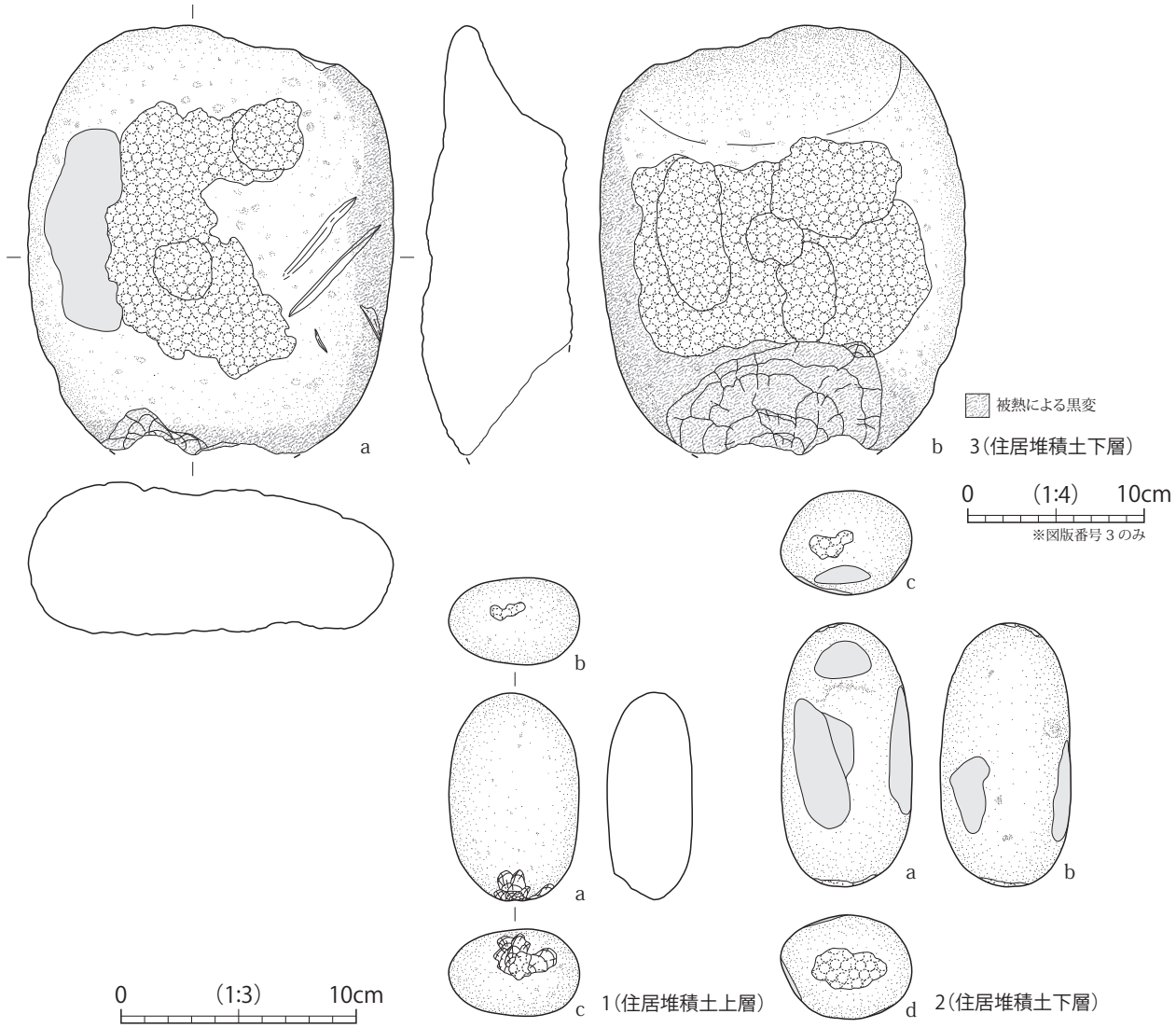


※図版番号6・7

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-101	第6次	SI283	P15 堆積土	土師器	甕	(17.2)	—	(8.8)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		100
2	C-050	第6次	SI283	堆積土上層	土師器	甕	(17.6)	—	(8.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		100
3	C-087	第6次	SI283	床面直上	土師器	甕	17.5	(4.7)	27.0	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部上半ハケメ、胴部下半ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		100
4	C-081	第6次	SI283	床面直上	土師器	甕	(15.6)	—	17.1	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		101
5	C-080	第6次	SI283	床面直上	土師器	甕	17.8	2.0	14.8	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		101

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
6	Kd-002	第6次	SI283	床面直上	石製品	石製模造品（剣形）	3.3	1.9	0.6	4.8	黒色片岩	a・b面線状痕、外周ケズリ整形、上部に貫通孔1箇所	101
7	Kd-003	第6次	SI283	周溝堆積土	石製品	砥石	(3.9)	(3.7)	(1.9)	12.8	凝灰岩	大半欠損、砥面1面(a面)残存、線状痕	101
8	Kc-024	第6次	SI283	堆積土下層	礫石器	敲石	10.1	4.6	2.9	211.9	安山岩	a・b面敲(弱)	101

第 88 図　SI283 竪穴住居跡出土遺物（3）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
1	Kc-023	第6次	SI283	堆積土上層	礫石器	敲石	8.8	5.5	3.7	264.4	流紋岩	b・c面敲(b面弱、c面強)、c面敲打時の剥離	101
2	Kc-025	第6次	SI283	堆積土下層	礫石器	磨+敲石	11.2	5.6	4.4	420.7	安山岩	a・b面磨(弱)、c・d面敲(弱)	101
3	Kc-022	第6次	SI283	堆積土下層	礫石器	凹+台石	24.3	20.8	8.6	3570.0	凝灰岩	a面敲(弱)→磨+凹2箇所+溝状痕、b面敲(弱)→凹4箇所+下端剥離、外周1/2被熱	101

第 89 図　SI283 竪穴住居跡出土遺物（4）

SI284 竪穴住居跡（第 90・91 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区中央部の 05 グリッドに位置する。重複遺構により北東コーナーと西壁の上部は失われているが、残存状況は比較的良い。

【重複】 SI290 より新しく、SI278、SD180・191、SK234 より古い。SI283 との新旧関係は、調査現場では SI284 の方が古いと判断して調査を進めたが、整理作業で出土遺物を検討した結果、SI284 が SI283 より新しいと判断した。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 380cm、東西 388cm を測る。平面形状は方形を呈するが、東壁側が若干広がっている。

【方向】 カマド基準で N － 20° － W である。

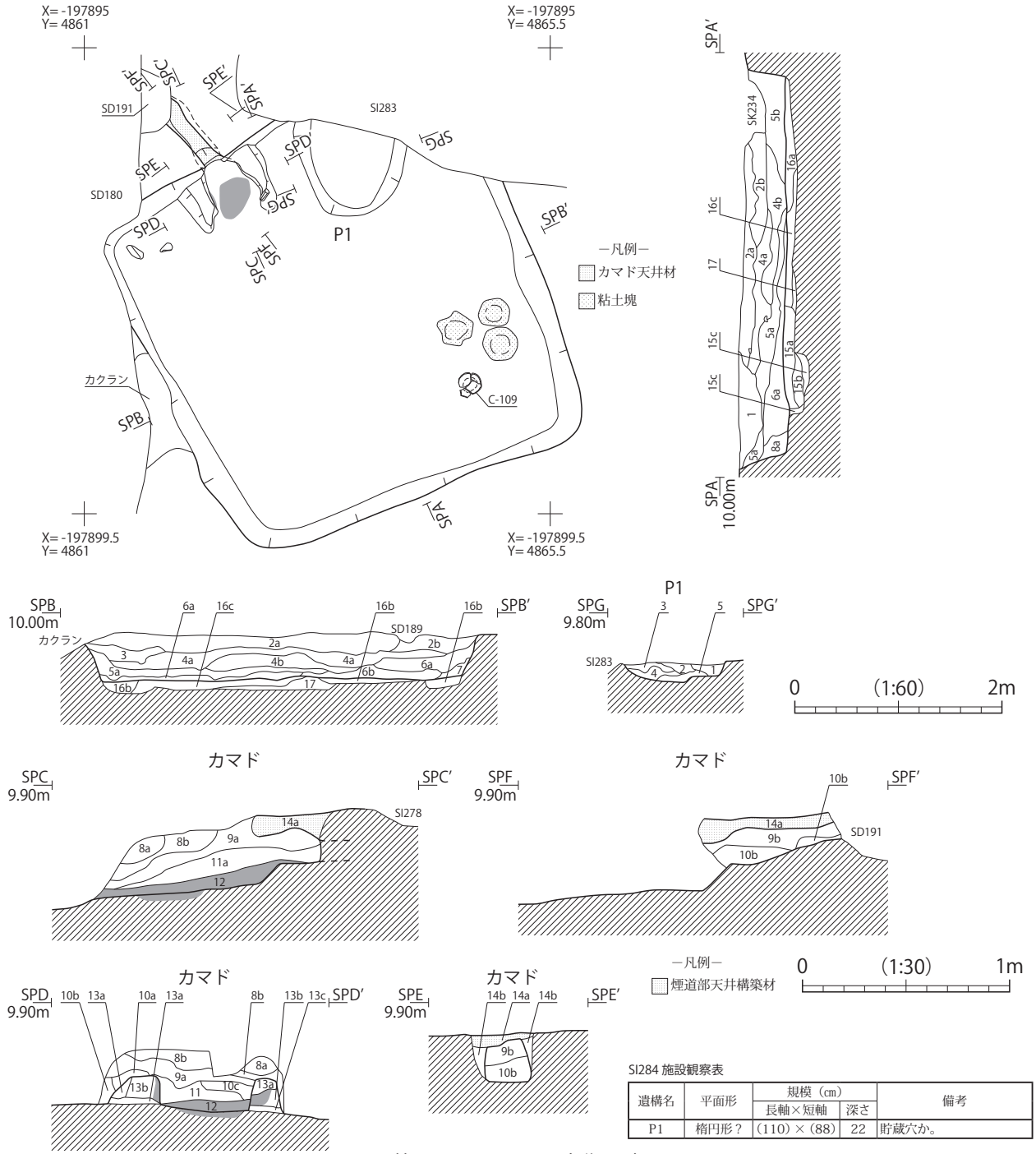
【堆積土】 大別で 17 層、細別で 32 層に分層された。大別 1 ～ 7 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から、本竪穴住居跡は人為的に埋め戻されたと考えられる。8 ～ 12 層はカマド関連の堆積土で、8 ～ 10 層は崩落した

天井材とみられる。13 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土が主体であると思われる。14 層はカマド掘り方の埋土で、煙道部の壁・天井部分の構築材である。15 ～ 17 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 46cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【カマド】 北壁のやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設される。煙道部の先端部は SD191 との重複により失われているが、煙道部の天井材も残存するなど状態は良い。袖の規模は、東袖が長さ 72cm、幅 16 ～ 26cm、西袖が長さ 60cm、幅 24 ～ 30cm を測り、北壁に直交して延びる。燃焼部は奥行き 57cm、幅 45cm、奥壁高 13cm を測り、壁内に位置する。底面は奥壁方向へ僅かに立ち上がる。被熱は強く、底面と西袖の一部が焼土化している。



SI284 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形？	(110) × (88)	22	貯蔵穴か。

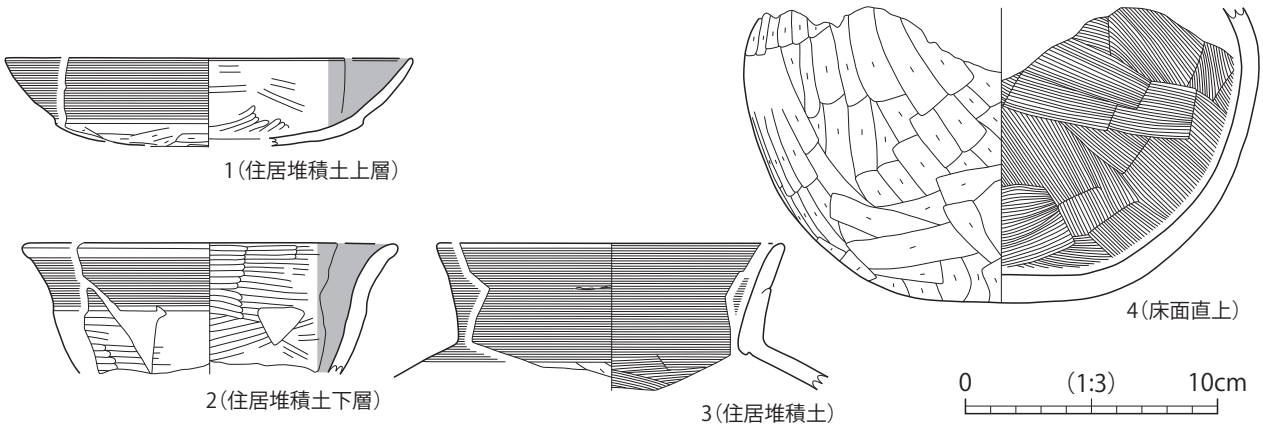
第 90 図　SI284 竪穴住居跡

SI284 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。下位にⅣ層土が集中。
	2a	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、灰色シルト(斑状)少量含む。
	2b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。部分的にⅣ層土がラミナ状に集中。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒少量含む。下位にⅣ層土がラミナ状に集中。
	4a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)密、炭化物粒・細砂多量含む。
	4b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒少量含む。
	5a	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)多量、炭化物粒少量含む。
	5b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	崩落したⅣ層土が多量混じる。
	6a	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰白色粘土ブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。下位にⅣ層土が集中。
	6b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(20㎜程度)・酸化鉄少量含む。
カマド	8a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	白色粒少量、Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	8b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土・黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	9a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土シルトブロック(5～20㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒微量含む。
	10a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	10b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒少量、Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	10c	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
	11	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒少量、Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)微量含む。
	12	5YR5/3 にぶい赤褐色	砂質シルト	焼土層。
カマド袖	13a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	13b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)炭化物粒微量含む。内壁被熱により赤化。
	13c	10YR5/3 にぶい黄褐色	微砂	
カマド掘り方	14a	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	14b	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～20㎜程度)多量含む。
住居掘り方	15a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。
	15b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。
	15c	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)微量含む。
	16a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	上位にⅣ層土ブロック(10～30㎜程度)が集中。
	16b	10YR5/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	16c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	17	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)微量含む。上位の一部にⅣ層土ブロックが集中。

SI284 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	浅黄橙色粘土ブロック(10～30㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～30㎜程度)少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～20㎜程度)・酸化鉄微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック(10～30㎜程度)少量含む。一部にⅣ層土ブロックが集中。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-105	第6次	SI284	堆積土上層	土師器	坏	(16.0)	—	(3.5)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	内外面摩滅	101
2	C-107	第6次	SI284	堆積土下層	土師器	鉢	(14.4)	—	(4.2)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		101
3	C-104	第6次	SI284	堆積土	土師器	甕	(13.4)	—	(5.8)	口縁部ヨコナデ、輪積み痕、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		101
4	C-109	第6次	SI284	床面直上	土師器	甕	—	—	(11.7)	ヘラケズリ	ヘラナデ		101

第 91 図　SI284 竪穴住居跡出土遺物

煙道部は長さ 71cm、幅 18cm、深さ 23cm を測り、底面は煙出し方向へ 13cm 程立ち上がる。

【その他の施設】 土坑 P1 を検出した。北東コーナー付近に位置し、貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 壁際に「コ」字状の高まりを残して掘り込まれ、底面は概ね平坦である。深さは、0 ～ 8cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、鉢 1 点、甕 2 点を掲載した（第 91 図）。また、南東部の床面上から径 30cm 前後の球状の粘土塊が 3 点出土している（写真図版 47）。袋状の容器に入れられていた粘土が、そのままの形状を保って出土したものと考えられる。

【時期】 出土遺物から、4 期～ 5 期（7 世紀中葉～ 8 世紀初頭）と考えられる。

SI285 竪穴住居跡（第 92 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区北西部の 14・20 グリッドに位置する。削平の影響を受け、カマドの底面と掘り方のみが残存する。

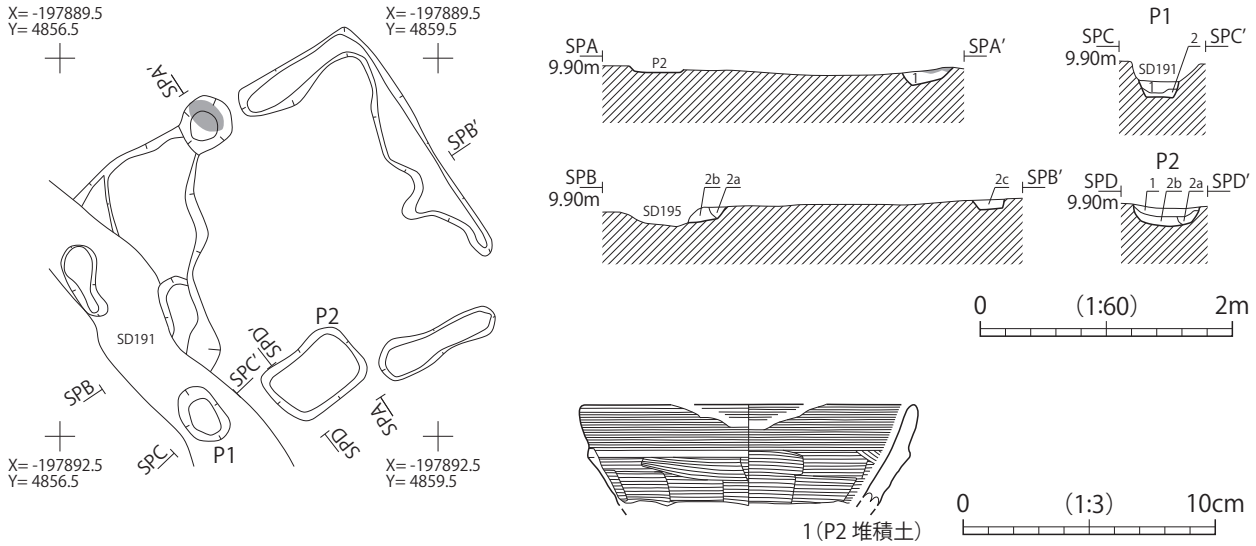
【重複】 SD191 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 276cm、東西 305cm を測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】 カマド基準で N － 33° － W である。

【堆積土】 大別で 2 層、細別で 4 層に分層された。大別 1 層はカマド掘り方の埋土で、上位が被熱している。2 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】【床面】 削平のため、失われている。



SI285 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド掘り方	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	細砂多量、明黄褐色・暗褐色シルト（斑状）少量含む。上位が被熱。
住居掘り方	2a	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）・細砂多量、炭化物粒微量含む。
	2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）・細砂多量、炭化物粒微量含む。下位に暗褐色シルトが集中。
	2c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	灰白色シルト（斑状）・白色粒・炭化物粒少量含む。薄くグライ化。

SI285 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	細砂多量、Ⅳ層土（斑状）少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	細砂密に含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量、炭化物粒微量含む。
	2a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色シルト（斑状）多量含む。
	2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）・細砂多量、炭化物粒（ラミナ状）少量含む。

SI285 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	48×32	23	

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P2	隅丸長方形	75×52	21	

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-111	第6次	SI285	P2 堆積土	土師器	鉢	（13.0）	－	（4.0）	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		101

第 92 図　SI285 竪穴住居跡・出土遺物

【カマド】 北壁のほぼ中央に位置し、燃焼部の底面以下が残存する。底面は概ね平坦で、被熱による焼土化が認められる。規模は掘り方で奥行き 36cm、幅 40cm、深さ 12cm を測り、若干壁外に張り出して位置する。

【その他の施設】 土坑 P1・2 を検出した。P2 は平面形状が長方形の、整然とした掘り込みをもつ。

【掘り方】 概ね壁の相当部分に沿うように、「回」字状に掘り込まれる。特に北西部は大きく掘り込まれている。深さは、2 ～ 11cm を測る。

【出土遺物】 土師器鉢 1 点を掲載した（第 92 図）。厚手で、口縁部と体部の境目には明瞭な稜をもつ。P2 の内部から出土した。

【時期】 本竪穴住居跡の時期は、不明である。

SI286 竪穴住居跡（第 93・94 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区北東部の 03・04・06 グリッドに位置する。撹乱や重複遺構による破壊部分が多く、南側部分のみが残存する。

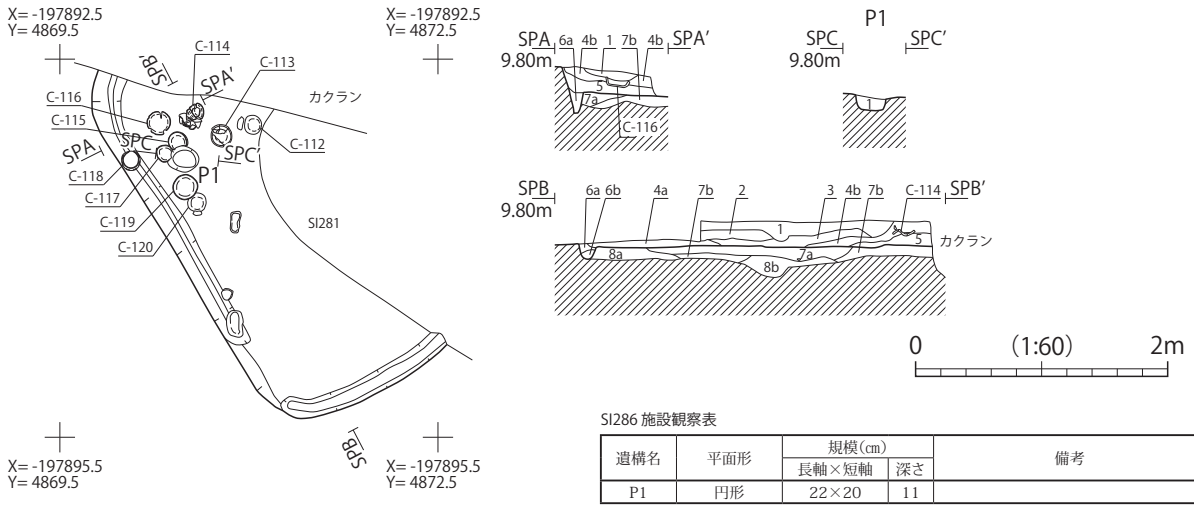
【重複】 SI287・289 より新しく、SI281 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 327cm、東西 145cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 西壁基準で N － 32° － W である。

【堆積土】 大別で 8 層、細別で 12 層に分層された。大別 1 ～ 5 層は住居堆積土で、1 層は黒褐色シルトの混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。6 層は周溝堆積土、7・8 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 23cm を測る。



SI286 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	22×20	11	

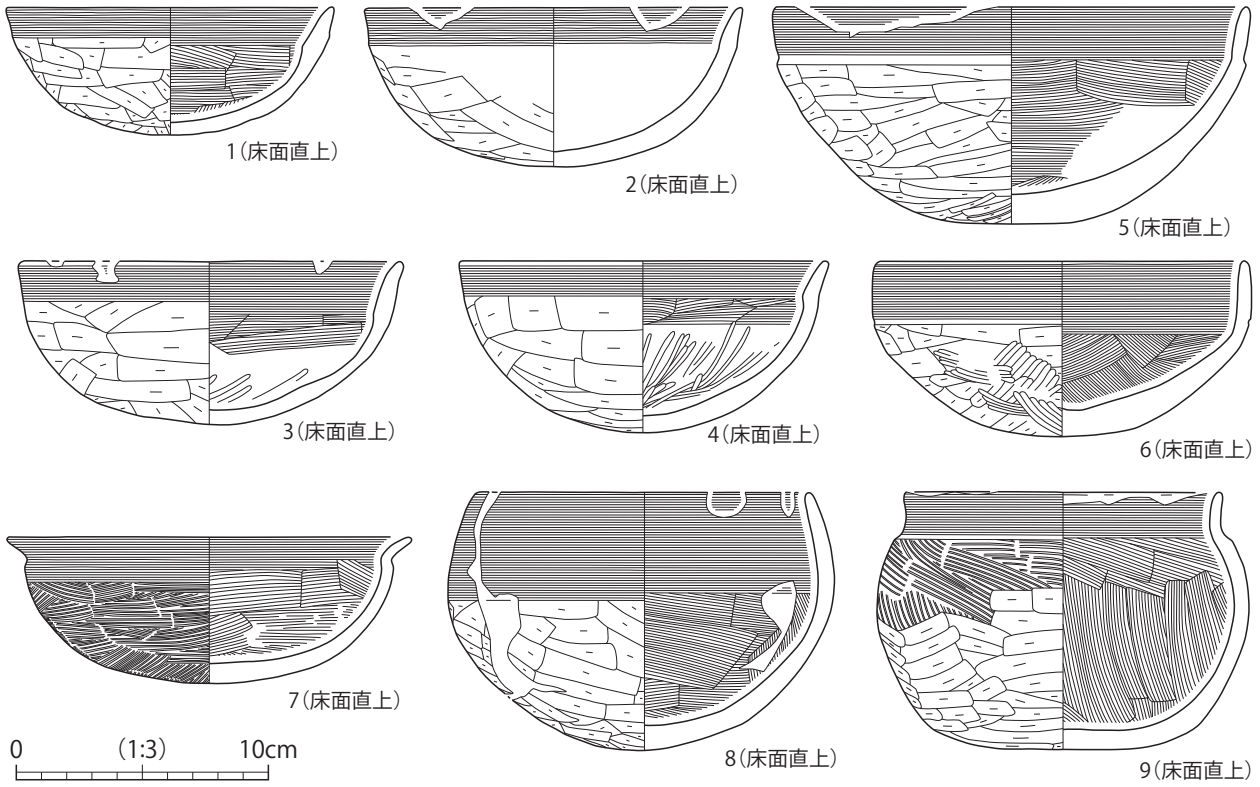
SI286 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色・黒褐色シルト（斑状）多量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒微量含む。
	4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黄褐色シルト（斑状）・炭化物粒微量含む。
	4b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒（ラミナ状）多量、灰黄褐色シルトブロック（部分的）、焼土粒微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	黄褐色シルト（斑状）多量、炭化物粒微量含む。
周溝	6a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黄褐色シルト（斑状）少量、炭化物粒微量含む。
	6b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂多量含む。
住居掘り方	7a	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（3～10㎜程度）多量、炭化物粒微量含む。
	7b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂多量、炭化物粒微量含む。
	8a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色シルト（斑状）・細砂多量、炭化物粒微量含む。
	8b	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	細砂密、Ⅳ層土（斑状）・炭化物粒少量含む。一部にⅣ層土ブロック・炭化物粒が集中。

SI286 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黄白色シルトブロック（5㎜程度）・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。

第 93 図　SI286 竪穴住居跡



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-117	第6次	SI286	床面直上	土師器	坏	12.8	—	5.0	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		101
2	C-112	第6次	SI286	床面直上	土師器	坏	14.8	—	6.3	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ	内外面摩滅	101
3	C-116	第6次	SI286	床面直上	土師器	坏	15.0	—	6.5	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部上半ヘラナデ、体部下半ヘラミガキ		101
4	C-120	第6次	SI286	床面直上	土師器	坏	14.6	5.0	6.8	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→ヘラミガキ		101
5	C-119	第6次	SI286	床面直上	土師器	坏	18.6	—	8.6	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		101
6	C-115	第6次	SI286	床面直上	土師器	坏	14.4	—	7.0	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		102
7	C-113	第6次	SI286	床面直上	土師器	坏	15.8	—	5.8	口縁部ヨコナデ、体～底部ハケメ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		102
8	C-114	第6次	SI286	床面直上	土師器	埦	13.3	—	10.2	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		102
9	C-118	第6次	SI286	床面直上	土師器	甕	12.4	5.0	10.2	口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケメ、胴部下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		102

第 94 図　SI286 竪穴住居跡出土遺物

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 1 基（P1）を検出した。

【周溝】 検出部分では概ね全体の壁面に沿うが、南西コーナーで 50cm 程断続する。規模は、幅 12 ～ 16cm、深さ 7 ～ 19cm を測る。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は概ね平坦であるが、土坑状やピット状の窪みが不規則に散在する。深さは、7 ～ 25cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 7 点、埦 1 点、甕 1 点を掲載した（第 94 図）。これらは第 93 図に示した通り、本竪穴住居跡の北西コーナーに寄せ集められた状態で出土している。坏は口縁部がやや外反する 1 ～ 4、直立する 5・6、強く外反する 7 がある。特に 7 は、体部の外面にハケメが施されるという独特な調整技法である。8 の埦は半球状の器形で、口縁部は体部からそのまま内湾して立ち上がる。9 の甕は短頸壺にも似た器形であり、短く外反する口縁部と、扁平な胴部が特徴的である。

【時期】 掲載した土師器の特徴から、本竪穴住居跡の時期は 2a 期（6 世紀初頭～前葉）と考えられる。

SI287 竪穴住居跡（第 95 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区東部の 05・06 グリッドに位置する。撹乱や重複遺構の影響を受け、北壁は失われている。

【重複】 SI289 より新しく、SI279・281・286、SD181、SK245 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 420cm、東西 326cm を測る。平面形状は長方形を呈する。

【方向】 西壁基準で N － 25° － E である。

【堆積土】 大別で 6 層、細別で 12 層に分層された。大別 1 ～ 4 層は住居堆積土で、1・2 層は基本層Ⅳ層土や黒褐色シルトブロックの混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。5・6 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 29cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 1 基（P3）を検出した。

【炉】 床面の北西部に掘り込まれた地床炉である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸 47cm、短軸 31cm、深さ 4cm を測る。浅い皿状に掘り込まれている。底面は弱く被熱し、薄く焼土化しているほか、炭化物や灰が少量堆積している。

【その他の施設】 土坑 P1・2・4 を検出した。P1・2 は住居範囲の南北軸上に並んで配置されているが、その機能については不明である。P4 は推定北東コーナー付近に配置され、貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 概ね北半部分が階段状に掘り込まれ、南西コーナー付近が土坑状に窪む。深さは、0 ～ 16cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点を掲載した（第 95 図）。完形に近く、見込みまでが深い椀状の器形を呈する。口縁部はほぼ直立し、口縁部と体部との境目には稜をもつ。P4 の上層に落ち込む状態で出土した。

【時期】 掲載した土師器の特徴と SI286 との新旧関係から、本竪穴住居跡の時期は 2a 期（6 世紀初頭～前葉）と考えられる。

SI288 竪穴住居跡（第 96 ～ 100 図）

【位置･確認】 第 6 次調査区と第 9 次調査区の南北にまたがり、07 グリッド（第 6 次）、05･09（第 9 次）グリッドに位置する。北側部分は重複遺構による破壊が激しい。

【重複】 Pit229（第 9 次）より新しく、SI273・276・310、SD180・205・224 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 616cm、東西 600cm を測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマド基準で N － 19° － W である。

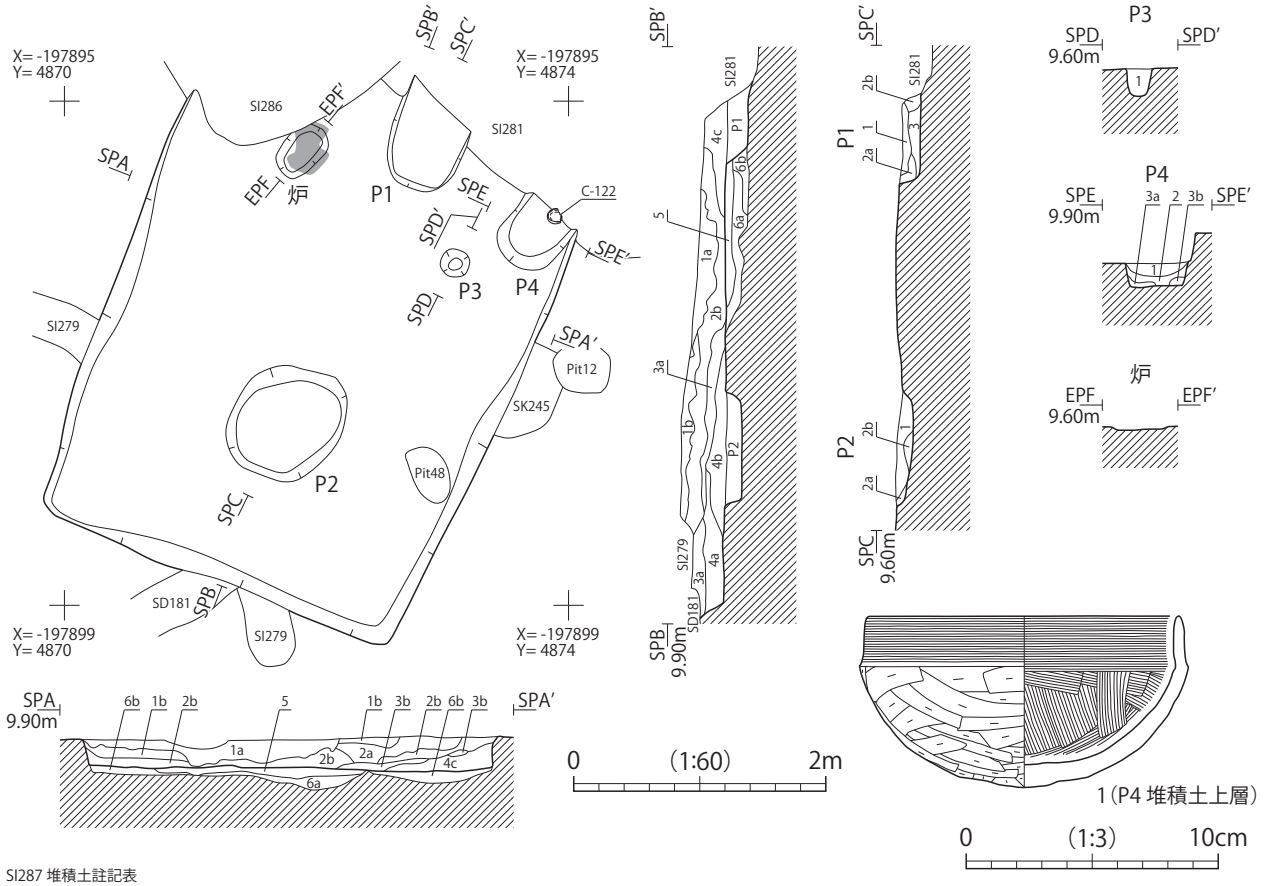
【堆積土】 大別で 14 層、細別で 22 層に分層された。大別 1 ～ 6 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。1 層と 3 層との境目には、炭化物粒が部分的に集中する。7 層は周溝堆積土、8・9 層はカマド関連の堆積土である。10 層はカマド掘り方の埋土で、壁外部分に厚く貼られている。基本層Ⅳ層土が主体であると思われる。11 ～ 14 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がるが、上部の傾きが大きい。壁高は最大で 37cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 8 基（P1 ～ 8）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。また P5 は P2 と、P6 は P3 とそれぞれ重複し、建て替えの関係にあるとみられる。P7・8 は入口施設関連の柱穴か。P1・4 では柱痕跡が確認され、特に P1 では 2 つ認められた。P1 で径 11・22cm、P4 で径 23cm を測る。P2・6 の底面からは柱材の痕跡を示すとみられる円形の変色範囲が検出され、P2 で径 23cm、P6 で径 20cm を測る。

【周溝】 北壁を除く、三方の壁面に沿って巡ると思われる。規模は、幅 15 ～ 32cm、深さ 4 ～ 14cm を測る。南



SI287 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	1b	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	白色粒多量、黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	2a	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)・白色粒多量含む。
	2b	10YR6/2 灰黄褐色	微砂	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	3a	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック(5㎜程度)少量、白色粒・炭化物粒微量含む。
	3b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	4a	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4b	10YR6/3 にぶい黄橙色	微砂	酸化鉄・炭化物粒微量含む。
	4c	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色・Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・炭化物粒少量含む。
住居掘り方	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・黒褐色シルトブロック(10～50㎜程度)多量含む。
	6a	10YR5/2 灰黄褐色	微砂	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)部分的に多量含む。
	6b	10YR5/3 にぶい黄褐色	微砂	灰黄褐色シルトブロック(5～30㎜程度)微量含む。

SI287 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒微量含む。
	2a	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	細砂多量、Ⅳ層土(斑状)少量含む。
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	細砂多量、Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	2.5YR7/3 淡赤橙色	細砂	暗褐色シルト(斑状)少量含む。
	2a	2.5YR5/3 にぶい赤褐色	細砂	酸化鉄多量含む。
	2b	2.5YR7/2 明赤灰色	細砂	酸化鉄少量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細砂多量、Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	細砂多量、灰白色シルトブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	3a	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)・細砂多量含む。
	3b	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	細砂密に含む。

SI287 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P1	隅丸長方形	(85)×62	19	
P2	円形	102×86	12	

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P3	円形	23×22	22	
P4	楕円形?	(54)×50	21	貯蔵穴か。

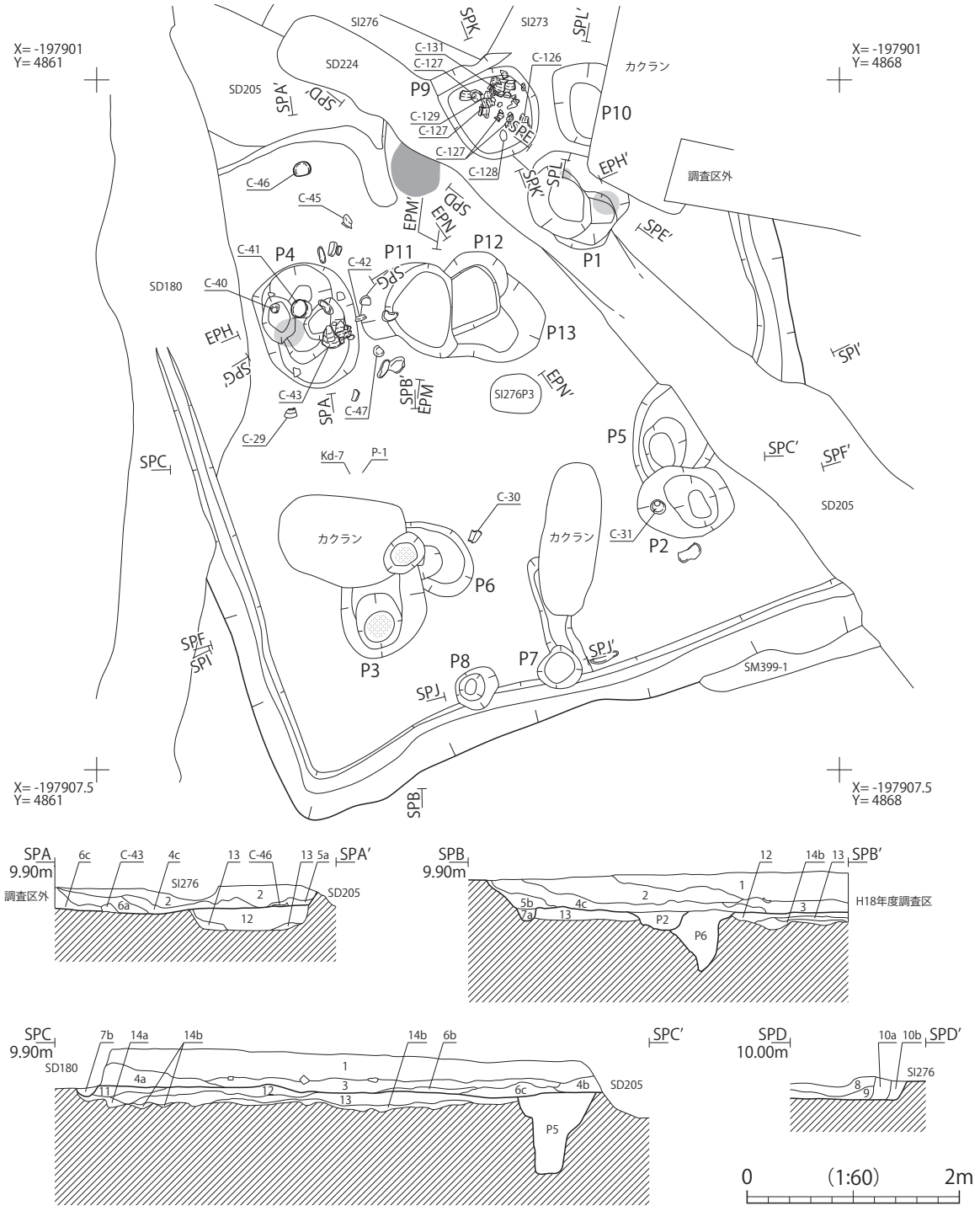
図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-122	第6次	SI287	P4堆積土上層	土師器	坏	12.4	—	6.8	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		102

第 95 図　SI287 竪穴住居跡・出土遺物

壁の中央付近には、壁に直交して延びる 1 条の溝があり、間仕切り溝であると考えられる。長さ 119cm、幅 27 ～ 30cm、深さ 13cm を測る。

【カマド】 北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。SD205・224 との重複のため燃焼部の東半部と煙道部が失われている。西袖の規模は、長さ 79cm、幅 24 ～ 39cm を測り、北壁に直交して延びる。燃焼部は奥行き 79cm、幅 50cm が残存し、壁内に位置する。底面は概ね平坦で、円形に焼土化している。

【その他の施設】 床面から土坑 P9･10、掘り方から P11 ～ 13 を検出した。P9･10 はカマドの脇に配置されており、



第 96 図　SI288 竪穴住居跡（1）

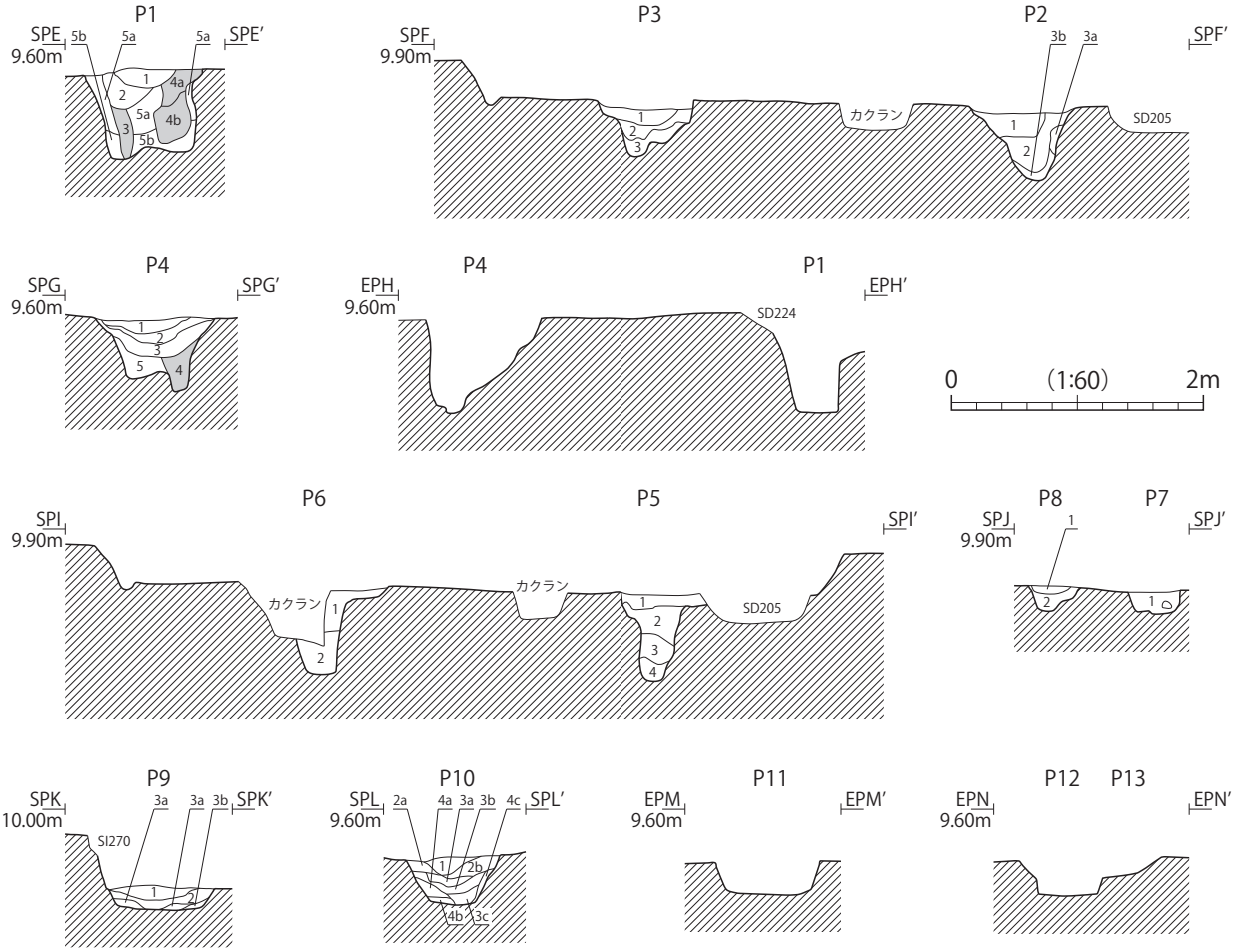
SI288 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。3層との境目に炭化物が部分的に集中。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)密、黒褐色シルトブロック(10～50㎜程度)多量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、焼土粒を微量含む。
	4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)密、黒褐色シルトブロック(5～20㎜程度)多量含む。
	4b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	4c	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5a	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	炭化物粒(ラミナ状)多量、酸化鉄少量含む。
	5b	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	6a	10YR3/2 黒褐色	シルト	明黄褐色シルトブロック(5㎜程度)・炭化物少量、焼土粒微量含む。
	6b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6c	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、灰白色シルト(斑状)微量含む。
周溝	7a	10YR4/6 褐色	砂質シルト	暗褐色シルト(斑状)少量含む。
	7b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルト(ラミナ状)多量含む。
カマド	8	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土・黒褐色シルトブロック(5～30㎜程度)多量、炭化物粒・焼土粒少量含む。
	9	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
カマド掘り方	10a	10YR7/6 明黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)微量含む。内壁被熱により赤化。
	10b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、焼土粒微量含む。
掘り方	11	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～50㎜程度)多量含む。
	12	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	13	10YR5/3 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土(ラミナ状)多量含む。
	14a	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒褐色シルト粒含む。
	14b	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)少量含む。

SI288 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	100×77	69	柱痕跡あり。
P2	楕円形	92×66	53	底面に円形の変色範囲。
P3	楕円形?	(93)×78	37	
P4	楕円形	129×89	58	柱痕跡あり。
P5	楕円形?	(97)×81	74	
P6	楕円形?	(74)×60	56	底面に円形の変色範囲。
P7	円形	43×36	18	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	円形	44×36	19	
P9	円形	100×82	19	貯蔵穴か。
P10	円形?	79×(35)	38	貯蔵穴か。
P11	円形?	98×86	37	
P12	楕円形?	63×(53)	29	
P13	楕円形?	97×53	16	



第 97 図　SI288 竪穴住居跡（2）

SI288 施設堆積土註記表

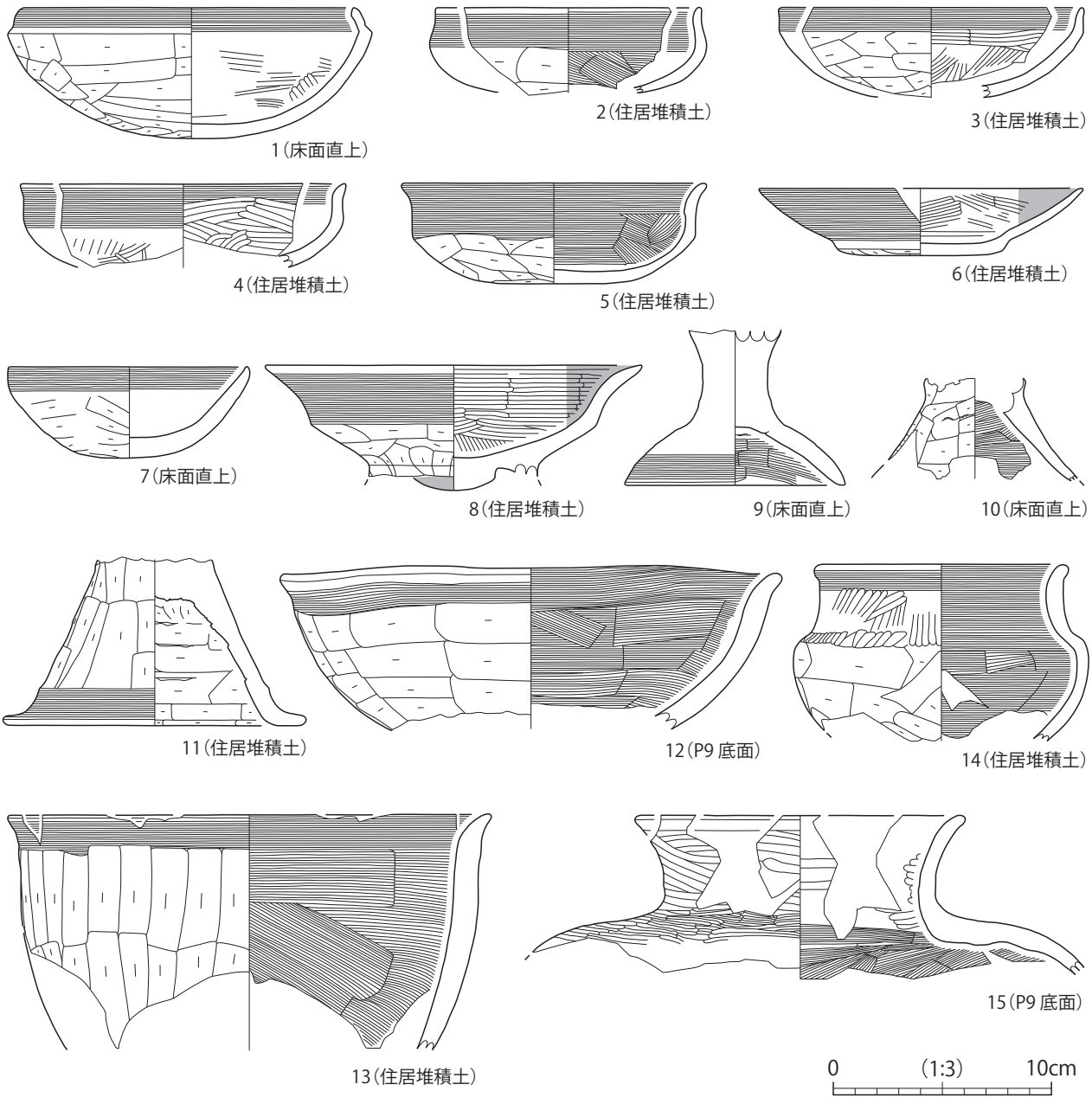
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、灰白色粘土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。※柱痕跡①
	4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰白色粘土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。※柱痕跡②
	4b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。下位にⅣ層土が集中。※柱痕跡②
	5a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。下位に酸化鉄が集中。
	5b	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	3a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック主体。
	3b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(20～40㎜程度)密、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	明黄褐色・黒褐色シルトブロック(10～30㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)・炭化物粒・焼土粒微量含む。
	3	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～20㎜程度)多量含む。※柱痕跡
	5	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～20㎜程度)少量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック主体。黒褐色シルト少量混じる。
	3	2.5YR4/2 灰赤色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	2層に準じるが、粘性・締りが強めである。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)密、炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
P7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
P9	1	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒・焼土粒多量含む。
	2	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)少量含む。
	3a	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(20～30㎜程度)多量含む。
	3b	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
P10	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土多量、炭化物粒・焼土粒少量含む。
	2a	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。
	2b	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	灰白色粘土・黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	3a	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰白色シルト(斑状)少量含む。
	3b	5Y5/1 灰色	粘土	黒褐色シルト(斑状)・酸化鉄少量含む。
	3c	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰白色粘土ブロック(20～30㎜程度)・酸化鉄少量含む。
	4a	2.5Y6/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰白色粘土ブロック(20～30㎜程度)多量含む。下位に細砂2㎝程度堆積。
	4b	7.5YR4/4 褐色	粘土質シルト	酸化鉄多量、Ⅳ層土・灰白色粘土ブロック(20㎜程度)少量含む。
	4c	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)少量含む。
P11	—	—	—	註記なし。
P12	—	—	—	註記なし。
P13	—	—	—	註記なし。

ともに貯蔵穴と考えられる。P11 ～ 13 はカマドの前方に配置されており、いずれも人為的に埋め戻されている。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面には土坑状・溝状の窪みが不規則に散在する。深さは、5 ～ 29cm を測る。

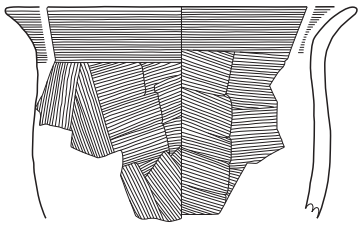
【出土遺物】 土師器坏 7 点、高坏 4 点、鉢 2 点、壺 2 点、甕 8 点、甑 1 点、石製品 1 点、土製品 2 点を掲載した（第 98 ～ 100 図）。これらは第 96 図に示した通り、P4 の周辺と P9 の内部に集中する傾向が認められる。第 98 図－ 1 ～ 7 の坏は口縁部の形態が様々で、1 が短く内傾、2 ～ 5 が短く外反する。特に 2 は、若干内傾してから外反する形状を呈する。6・7 は直線的に内傾し、このうち 7 は端部で短く直立する。なお、1 は鬼高系の坏である。高坏のうち 8 の坏部の下端には、半球状の「ほぞ」が残存する。9 の脚部は筒状に立ち上がり、裾部は内湾して端部に至る。10・11 の脚部はいずれも短脚である。12・13 の鉢は、ともに口縁部が短く外反する。第 99 図の甕は、短胴の中・小型品が主体である。第 100 図－ 1 は甑で、直線的に外傾する鉢状の器形である。底部は単孔である。2 は石製、3 は土製の紡錘車である。材質は異なるが、この 2 点は近接して出土している。4 は中空の土製品であるが、その器種については判然としない。

【時期】 本竪穴住居跡では、第 98 図－ 1・7・9・10、12・15、第 99 図－ 1 ～ 3・6 ～ 8、第 100 図－ 1・4 と、床面上や床面施設内からの出土遺物が多い。これらの特徴から、本竪穴住居跡の時期は 2b 期（6 世紀中葉～末葉）と考えられる。

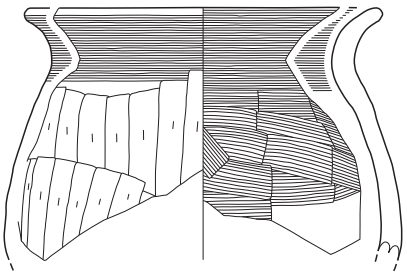


図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-046	第6次	SI288	床面直上	土師器	坏	15.2	—	6.0	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ		102
2	C-034	第9次	SI288	堆積土	土師器	坏	(12.0)	—	(3.9)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		102
3	C-025	第9次	SI288	堆積土	土師器	坏	(13.8)	—	(4.1)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ		102
4	C-024	第9次	SI288	堆積土	土師器	坏	(14.8)	—	(3.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ		102
5	C-033	第9次	SI288	堆積土	土師器	坏	13.8	—	4.6	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		102
6	C-133	第6次	SI288	堆積土	土師器	坏	(14.8)	(5.4)	3.1	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		102
7	C-047	第6次	SI288	床面直上	土師器	坏	10.9	—	4.2	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ	内外面摩滅	102
8	C-029	第9次	SI288	堆積土	土師器	高坏	17.2	—	(5.7)	口縁部ヨコナデ、坏部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		102
9	C-040	第6次	SI288	床面直上	土師器	高坏	—	(10.0)	(7.1)	脚端部ヨコナデ	ヘラナデ、輪積み痕	外面摩滅被熱	102
10	C-042	第6次	SI288	床面直上	土師器	高坏	—	—	(4.7)	ヘラケズリ、輪積み痕	ヘラナデ		102
11	C-031	第9次	SI288	堆積土	土師器	高坏	—	13.4	(7.6)	脚部ヘラケズリ、端部ヨコナデ	脚部ヘラケズリ、輪積み痕、端部ヨコナデ	焼成時のひび割れ	102
12	C-127	第6次	SI288	P9底面	土師器	鉢	(22.8)	—	(7.5)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		102
13	C-027	第9次	SI288	堆積土	土師器	鉢	(22.0)	—	(10.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		102
14	C-030	第9次	SI288	堆積土	土師器	壺	(11.1)	—	(8.1)	口縁部ヨコナデ、頸部ヘラミガキ、胴部ヘラケズリ	口縁部から頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		102
15	C-126	第6次	SI288	P9底面	土師器	壺	(14.8)	—	(7.5)	ヘラミガキ	口縁部ヘラミガキ、胴部ヘラナデ		102

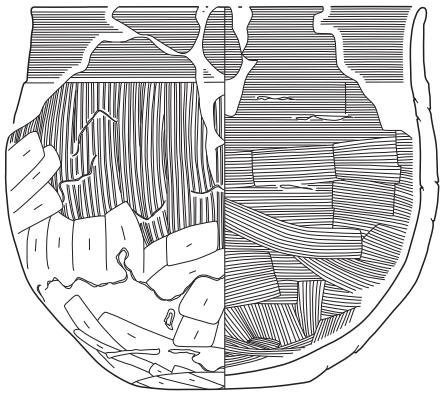
第 98 図　SI288 竪穴住居跡出土遺物（1）



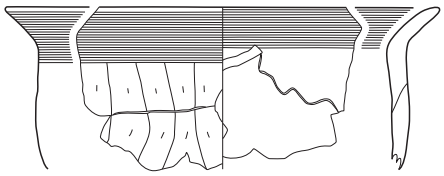
1（P9 底面）



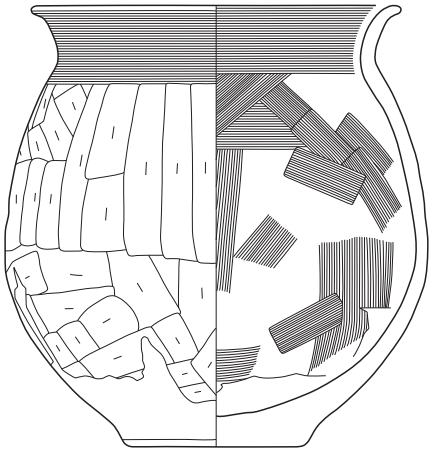
2（床面直上）



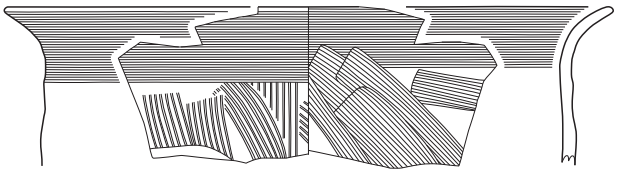
5（カマド堆積土）



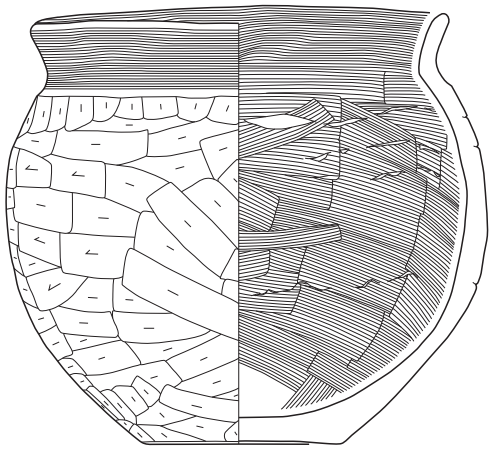
3（P9 底面）



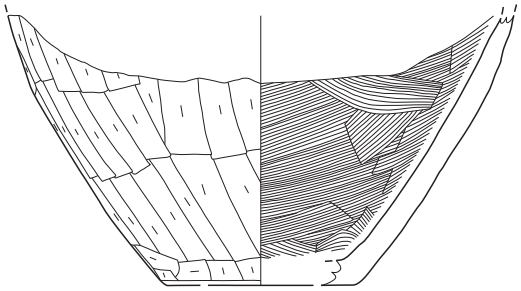
6（P9 底面）



4（住居堆積土）



7（床面直上）

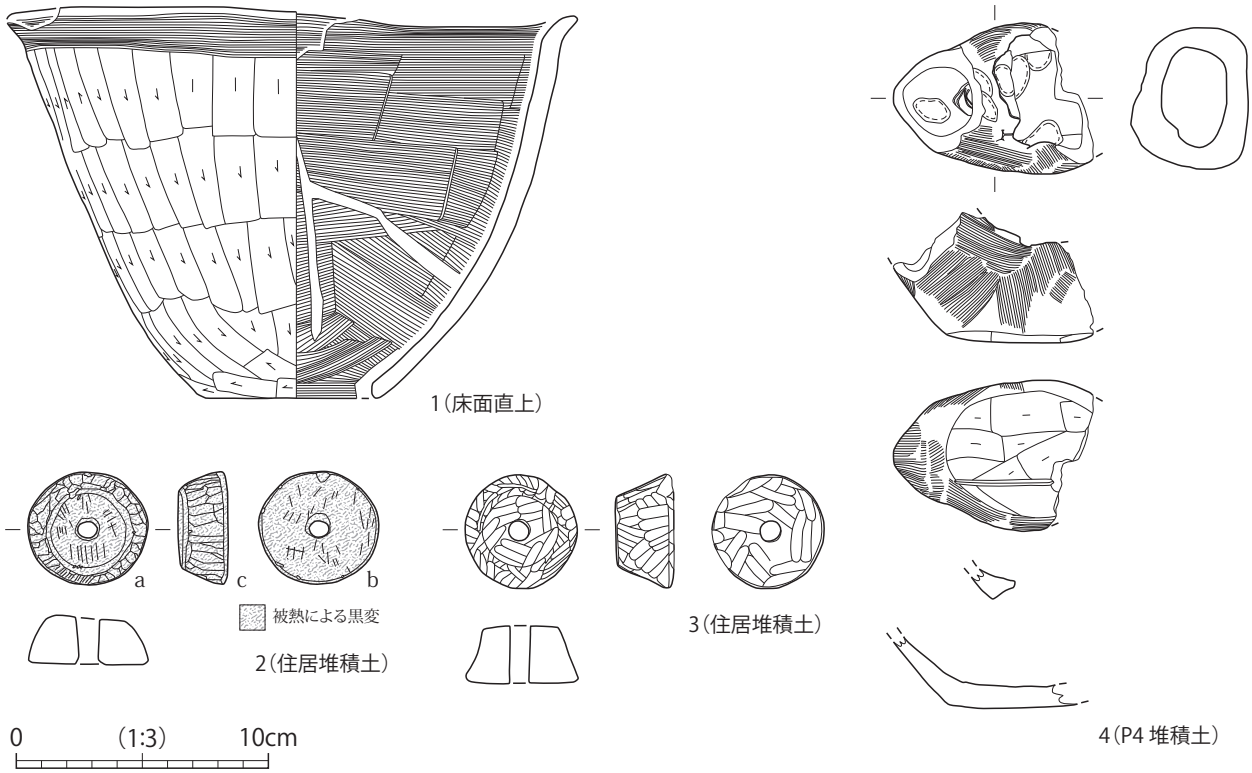


8（P4 堆積土）

0　（1:3）　10cm

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-129	第6次	SI288	P9底面	土師器	甕	(13.8)	—	(8.4)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		102
2	C-045	第6次	SI288	床面直上	土師器	甕	(13.8)	—	(10.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		103
3	C-131	第6次	SI288	P9底面	土師器	甕	(17.0)	—	(6.4)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、輪積み痕		103
4	C-023	第9次	SI288	堆積土	土師器	甕	(24.0)	—	(6.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		103
5	C-124	第6次	SI288	カマド堆積土	土師器	甕	(15.6)	7.5	15.0	口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケメ→ヘラケズリ、下半ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		103
6	C-128	第6次	SI288	P9底面	土師器	甕	14.3	6.7	17.5	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		103
7	C-041	第6次	SI288	床面直上	土師器	甕	16.3	7.8	17.3	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		103
8	C-125	第6次	SI288	P4堆積土	土師器	甕	—	(7.4)	(10.7)	ヘラケズリ	ヘラナデ		103

第 99 図　SI288 竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-043	第6次	SI288	床面直上	土師器	甑	22.3	6.7	15.3	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		103

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
2	Kd-007	第9次	SI288	堆積土	石製品	石製紡錘車	4.5	4.7	1.9	53.1	凝灰岩	孔外径1.0cm・内径0.8cm、a・b面線状痕、外周ケズリ整形、全体被熱	103

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
3	P-001	第9次	SI288	堆積土	土製品	紡錘車	2.3	上径3.0	下径4.5	44.0	ミガキ、孔径9㎜	103
4	P-011	第6次	SI288	P4堆積土	土製品	用途不明品	(7.9)	6.0	5.2	102.0	ナデ、指オサエ、底部ヘラケズリ	103

第 100 図　SI288 竪穴住居跡出土遺物（3）

SI289 竪穴住居跡（第 101 図）

【位置・確認】 第 6 次調査区中央部の 03 ～ 06 グリッドに位置する。撹乱や重複遺構による破壊部分が多く、中央部分から南西コーナー付近にかけてが残存する。

【重複】 SI279・283・286・287、SD193 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 362cm、東西 336cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 西壁基準で N － 25° － W である。

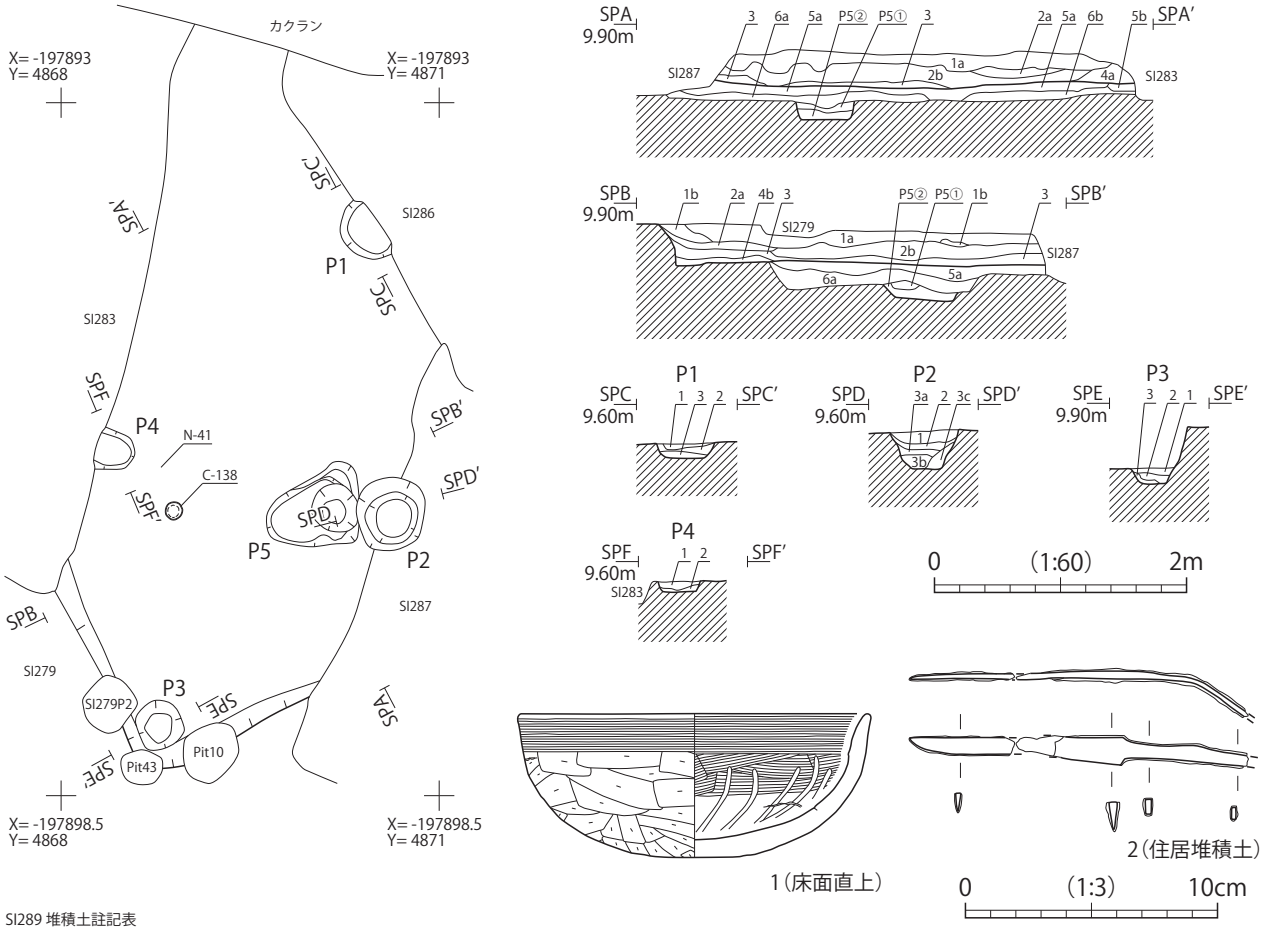
【堆積土】 大別で 6 層、細別で 11 層に分層された。大別 1 ～ 4 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から、本竪穴住居跡は人為的に埋め戻されたと考えられる。最上層の 1a 層には、多量の炭化物も含まれる。5・6 層は、住居掘り方の埋土である。

【壁面】 中位まで直立気味に立ち上がり、これより上は直線的に外傾する。壁高は最大で 37cm を測る。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）、掘り方から 1 基（P5）を検出した。いずれも浅く、配置も不規則である。P5 は深さが 60cm を超えるしっかりとした柱穴であるが、検出層位から別遺構の可能性もある。

【掘り方】 西壁側にテラス状の段差を残して掘り込まれる。底面は概ね平坦で、深さは、0 ～ 13cm を測る。



SI289 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルト(斑状)・炭化物粒多量含む。
	1b	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物粒少量含む。
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)多量、炭化物粒少量含む。
	2b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、灰白色シルトブロック(30㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	灰褐色シルト(ラミナ状)・細砂多量、炭化物粒微量含む。
	4a	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	灰色・褐色シルト(斑状)多量、炭化物粒微量含む。
	4b	2.5Y6/2 灰黄色	細砂	Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方	5a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	5b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	6a	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)微量含む。
	6b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。

SI289 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)多量含む。
	2	10YR6/2 灰黄褐色	細砂	
	3	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	3b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3c	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)微量含む。
P3	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
P4	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
P5	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量含む。
	②	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜)多量含む。

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-138	第6次	SI289	床面直上	土師器	坏	13.8	—	5.7	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→ヘラミガキ、輪積み痕		103

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
2	N-041	第6次	SI289	堆積土	金属製品	刀子	(13.4)	1.1	0.3	11.4	刃～茎部	103

第 101 図　SI289 竪穴住居跡・出土遺物

SI289 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形?	53×(31)	18	
P2	円形	59×54	33	
P3	隅丸方形	39×35	14	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形?	35×(31)	11	
P5	楕円形	76×53	62	別遺構の可能性。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、金属製品 1 点を掲載した（第 101 図）。1 の土師器坏、2 の鉄製刀子はともに完形に近く、1 は床面上から出土した。

【時期】 第 101 図－ 1 の土師器坏の特徴から、本竪穴住居跡の時期は 1 期～ 2a 期（5 世紀後半～ 6 世紀前葉）と考えられる。

SI290 竪穴住居跡（第 102 図）

【位置･確認】 第 6 次調査区中央部の 05 グリッドに位置する。大部分を重複遺構によって破壊され、南西コーナー付近の壁と掘り方のみが残存する。

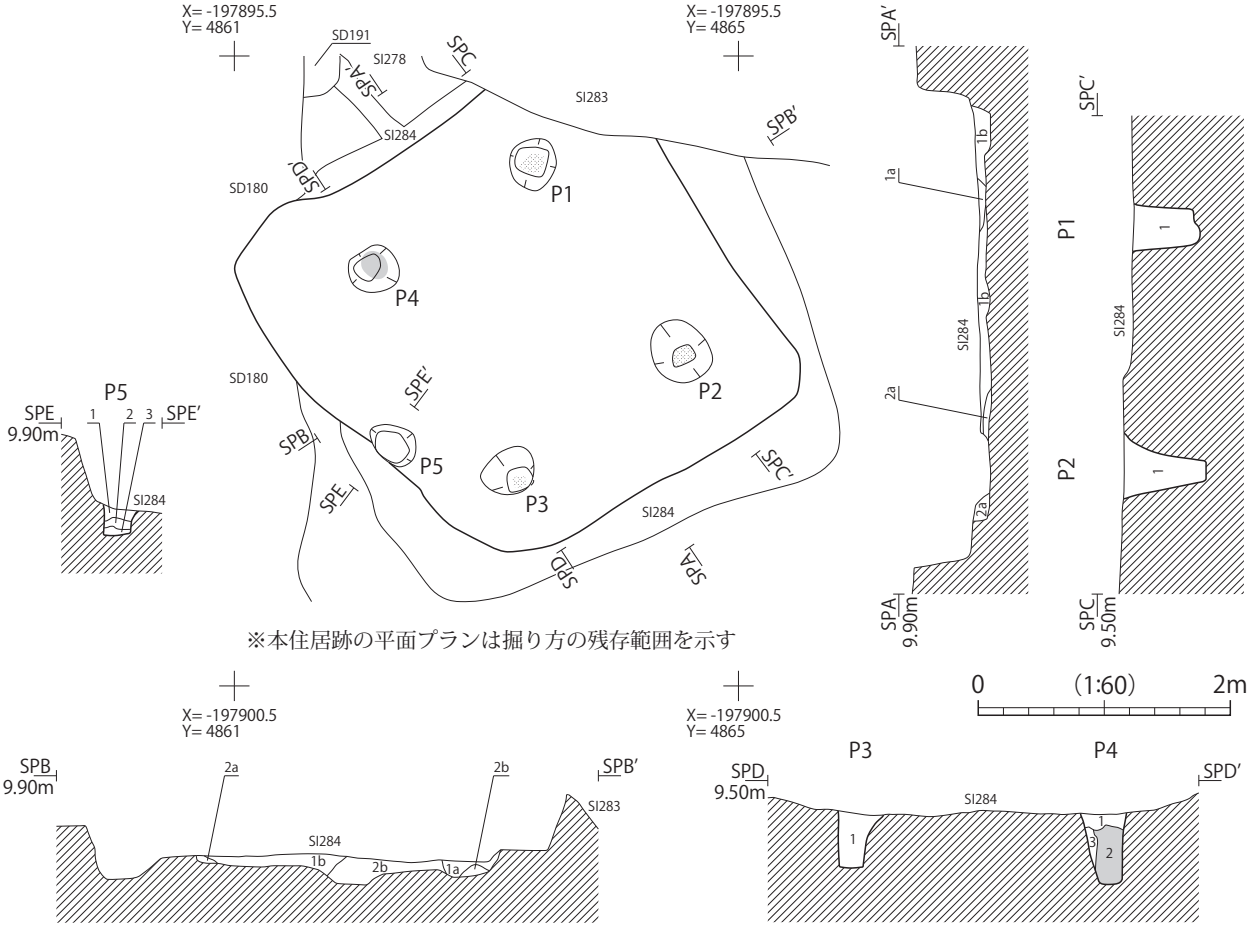
【重複】 SI283・284、SD180 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 340cm、東西 330cm を測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 西壁基準で N － 33° － W である。

【堆積土】 大別で 2 層、細別で 4 層に分層された。いずれも住居掘り方の埋土である。

【壁面】 残存部分では直線的に外傾して立ち上がり、上部の開きが大きい。壁高は最大で 35cm を測る。



※本住居跡の平面プランは掘り方の残存範囲を示す

第 102 図　SI290 竪穴住居跡

SI290 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1a	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。
	1b	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)部分的に多量含む。
	2a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)・酸化鉄少量含む。
	2b	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(10～30㎜程度)多量含む。

SI290 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。
P4	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土との互層状を成す。※柱痕跡
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	3	10YR6/2 灰黄褐色	微砂	酸化鉄少量含む。

SI290 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	40×38	47	底面に円形の変色範囲。
P2	楕円形	53×44	55	底面に円形の変色範囲。
P3	円形	43×36	39	底面に円形の変色範囲。

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	39×38	54	柱痕跡あり。
P5	楕円形	42×30	32	

【床面】 SI284 との重複により、失われている。

【柱穴】 床面から 5 基（P1 ～ 5）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。P4 では柱痕跡が確認され、P1 ～ 3 の底面からは円形の変色部分が検出された。それぞれの径は P4 の柱痕跡が 24cm、P1 ～ 3 の変色分が P1 で 21cm、P2 で 19cm、P3 で 11cm を測る。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は東壁際から北東コーナーにかけてが「L」字状、西壁際が連続する土坑状に窪む。深さは、7 ～ 24cm を測る。

【出土遺物】 掘り方から、弥生土器破片が少量出土したのみであった。

【時期】 SI283 より古いことから 2b 期（6 世紀中葉～末葉）以前に位置付けられる。

SI310 竪穴住居跡（第 103 ～ 105 図）

【位置・確認】 第 9 次調査東区南部の 09・14 グリッドに位置する。

【重複】 SI288・340・351、SD274、SX34、Pit227 より新しく、SD205・263 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 467cm、東西 472cm を測る。平面形状は、北東側にやや広がる不整方形を呈する。

【方向】 カマド基準で N － 12° － W である。

【堆積土】 大別で 19 層、細別で 24 層に分層された。大別 1 ～ 6 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。7・8 層は周溝堆積土、9 ～ 12 層はカマド関連の堆積土である。9・11 層は崩落した天井材と思われる。13・14 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土が主体と考えられる。15・16 層はカマド掘り方の埋土で、17 ～ 19 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 34cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。P2・3 では柱痕跡が確認され、P2 で径 12cm、P3 で径 10cm を測る。

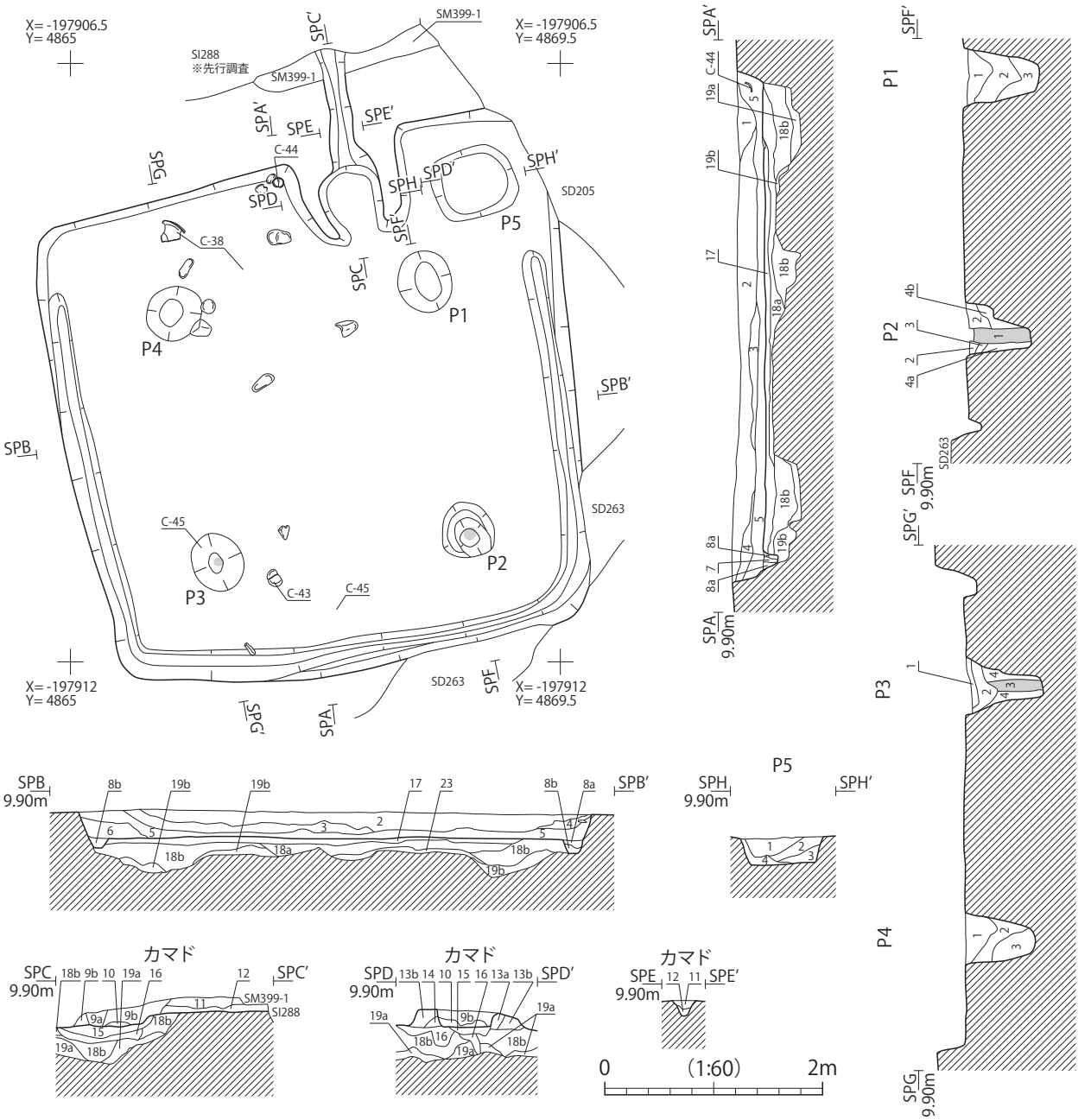
【周溝】 北壁を除く三方の壁面に沿って「コ」字状に巡る。規模は、幅 13 ～ 27cm、深さ 7 ～ 15cm を測る。

【カマド】 北壁の東寄りに位置し、壁面に直交して付設される。煙道部先端は SI288 の先行調査のため、失われてしまった。袖の規模は、東袖が長さ 86cm、幅 26 ～ 34cm、西袖が長さ 94cm、幅 20 ～ 36cm を測り、北壁に

対して若干逆「ハ」字状に内傾して延びる。燃焼部は奥行き 70cm、幅 56cm、奥壁高 13cm を測り、壁内に位置する。底面は概ね平坦である。被熱は弱く、壁や底面の焼土化はあまり進んでいない。煙道部は長さ 109cm、幅 20cm、深さ 14cm を測り、底面は平坦である。

【その他の施設】 床面から土坑 P5 を検出した。カマドの脇に位置し、平面形状は隅丸長方形を呈する。貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 各壁際にテラス状の段差を残し、「回」字状に掘り込まれる。深さは、9 ～ 40cm を測る。



SI310 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P1	楕円形	57×50	70	
P2	円形	52×50	61	柱痕跡あり。
P3	楕円形	55×46	70	柱痕跡あり。

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P4	円形	54×48	65	
P5	長方形	75×64	25	貯蔵穴か。

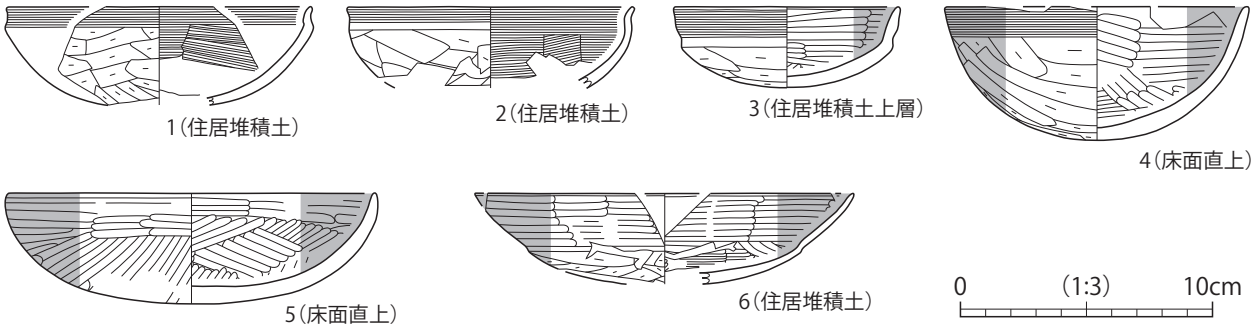
第 103 図　SI310 竪穴住居跡

SI310 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、黒色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
周溝	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
	8a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	8b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。
カマド	9a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	9b	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
	10	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒多量、炭化物粒少量含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。一部に炭化物粒が集中。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
カマド袖	13a	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	13b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒少量含む。
	14	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック(5～10㎜程度)密に含む。下位に炭化物粒が薄く堆積。
カマド掘り方	15	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック(5～10㎜程度)・灰多量含む。
	16	5YR5/3 にぶい赤褐色	粘土質シルト	焼土粒密、Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒少量含む。
住居掘り方	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)密、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	18a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	18b	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	19a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)密に含む。
	19b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土主体。

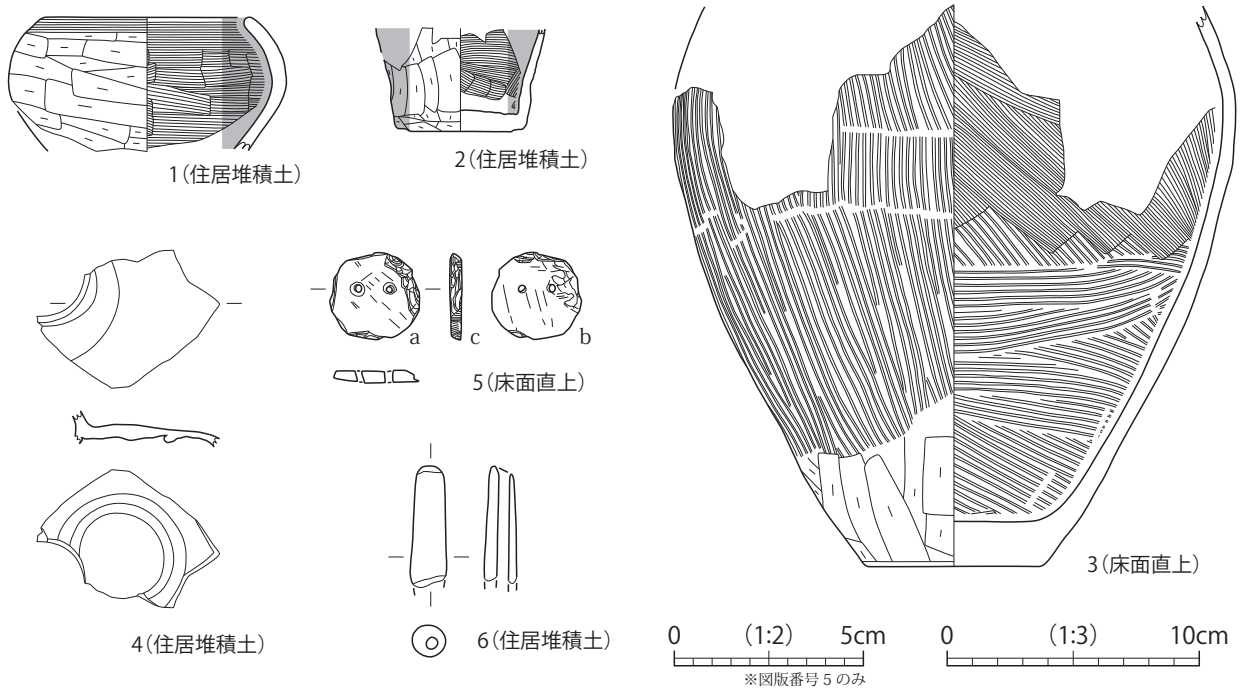
SI310 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)密、黒褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、黒褐色シルトブロック(10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒密、黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	3	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
	4a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。
	4b	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)密、黒褐色シルトブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)密、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)密、黒褐色シルトブロック・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・黒色シルトブロック(5㎜程度)多量含む。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-041	第9次	SI310	堆積土	土師器	坏	(12.0)	—	(3.9)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		103
2	C-042	第9次	SI310	堆積土	土師器	坏	(11.2)	—	(3.2)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	外面剥落	103
3	C-044	第9次	SI310	堆積土上層	土師器	坏	8.8	—	3.2	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		103
4	C-045	第9次	SI310	床面直上	土師器	坏	12.0	—	5.3	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、黒色処理	ヘラミガキ、黒色処理	SI334出土破片と接合	103
5	C-043	第9次	SI310	床面直上	土師器	坏	14.5	—	4.4	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ、黒色処理	外面剥落	103
6	C-040	第9次	SI310	堆積土	土師器	坏	(15.0)	—	(3.6)	口縁部ヘラミガキ、体～底部ヘラケズリ、黒色処理	ヘラミガキ、黒色処理		103

第 104 図　SI310 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-039	第9次	SI310	堆積土	土師器	埦	(8.2)	—	(5.3)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、黒色処理		104
2	C-036	第9次	SI310	堆積土	土師器	ミニチュア土器	—	(5.0)	(4.1)	ヘラケズリ、黒色処理	ヘラナデ、黒色処理		104
3	C-038	第9次	SI310	床面直上	土師器	甕	—	7.0	(22.3)	ハケメ、下部ヘラケズリ	胴部ハケメ、上半ハケメ→ヘラナデ		104
4	E-003	第9次	SI310	堆積土	須恵器	平瓶	—	—	(1.4)	ロクロ調整	ロクロ調整		104

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
5	Kd-004	第9次	SI310	床面直上	石製品	石製模造品（有孔円盤）	2.3	2.4	0.4	2.4	黒色片岩	a・b面線状痕、外周ケズリ整形、貫通孔2箇所、外周節理にて一部欠損	104

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
6	P-002	第9次	SI310	堆積土	土製品	土錘	(4.8)	径1.4	—	7.8	ナデ、孔径5㎜	104

第 105 図　SI310 竪穴住居跡出土遺物（2）

【出土遺物】 土師器坏 6 点、埦 1 点、甕 1 点、ミニチュア土器 1 点、須恵器平瓶 1 点、石製品 1 点、土製品 1 点を掲載した（第 104・105 図）。第 104 図－ 1 ～ 6 の土師器坏は口縁部の形態が様々であり、短く外反する 1・2、直立気味の 3、内湾しながら外傾する 4、内湾しながら直立する 5、直線的に外傾する 6 が認められる。このうち 1・2 は、北武蔵型系の坏である。第 105 図－ 1 の土師器埦は球状の器形であり、口縁部は大きく内湾する。2 のミニチュア土器は浅いコップ状の器形で、内面には黒色処理が施される。3 の甕は、胴部が無花果形の器形を呈する。5 の石製品は有孔円盤で、孔は 2 箇所認められる。6 の土製品は土錘破片である。

【時期】 掲載した土器のうち第 104 図－ 4・5、第 105 図－ 3 の特徴から、本竪穴住居跡の時期は 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えられる。

SI311 竪穴住居跡（第 106・107 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部の 40・44 グリッドに位置する。削平や重複遺構の影響を受け、東側 1/3 程が失われている。また、残存範囲も床面以下のみとなり、壁面は全て失われている。

【重複】 Pit101・171 ～ 173・175 より新しく、SI312 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 423cm、東西 325cm を測る。平面形状は、掘り方の残存ラインから方形

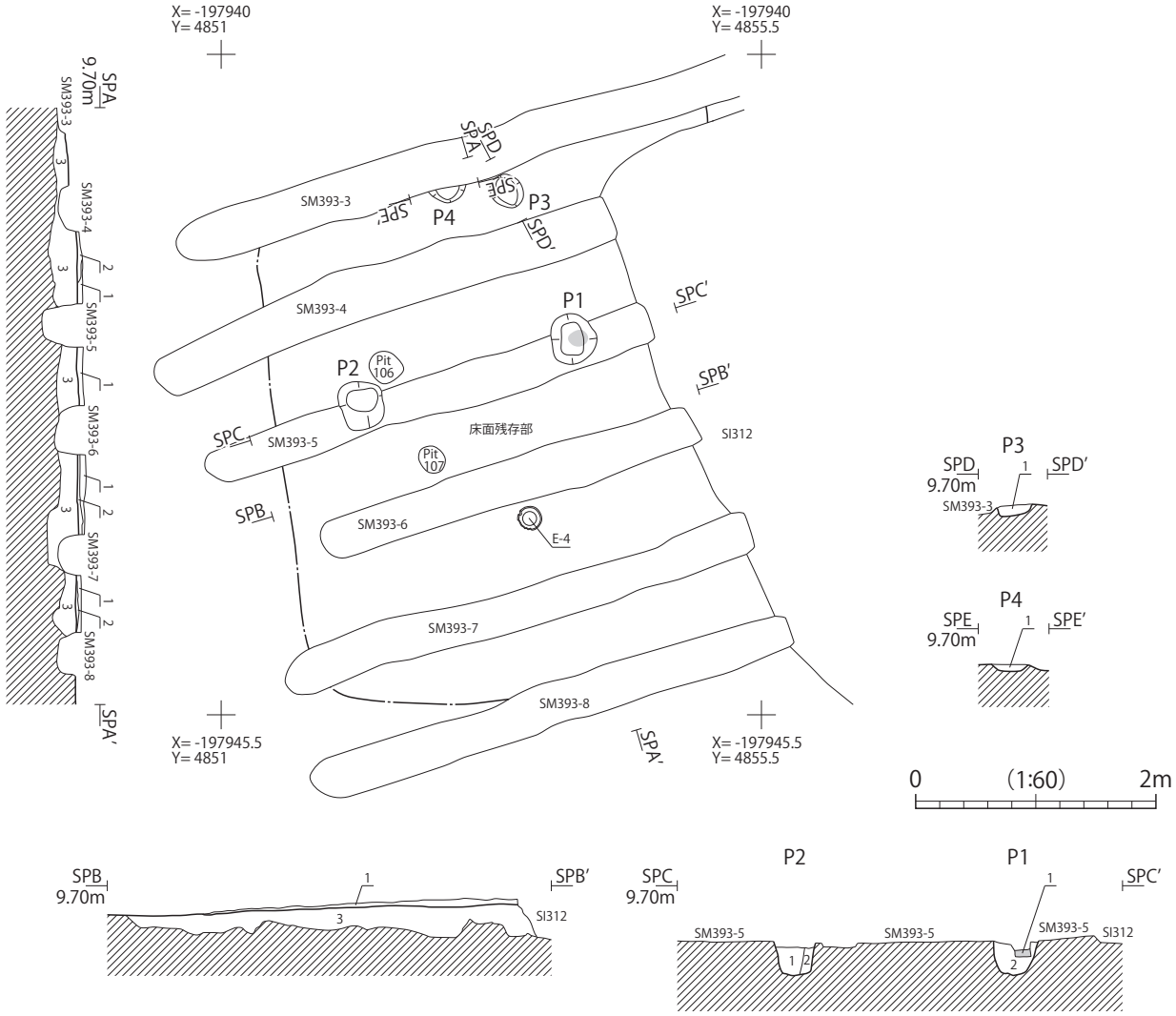
基調と推定される。

【方向】 西壁基準でＮ－6°－Ｗである。掘り方の壁を基準とした。

【堆積土】 3層に分層された。1・2層は住居堆積土で、3層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 削平により、失われている。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。



SI311 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。
住居掘り方	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。

SI311 施設堆積土註記表

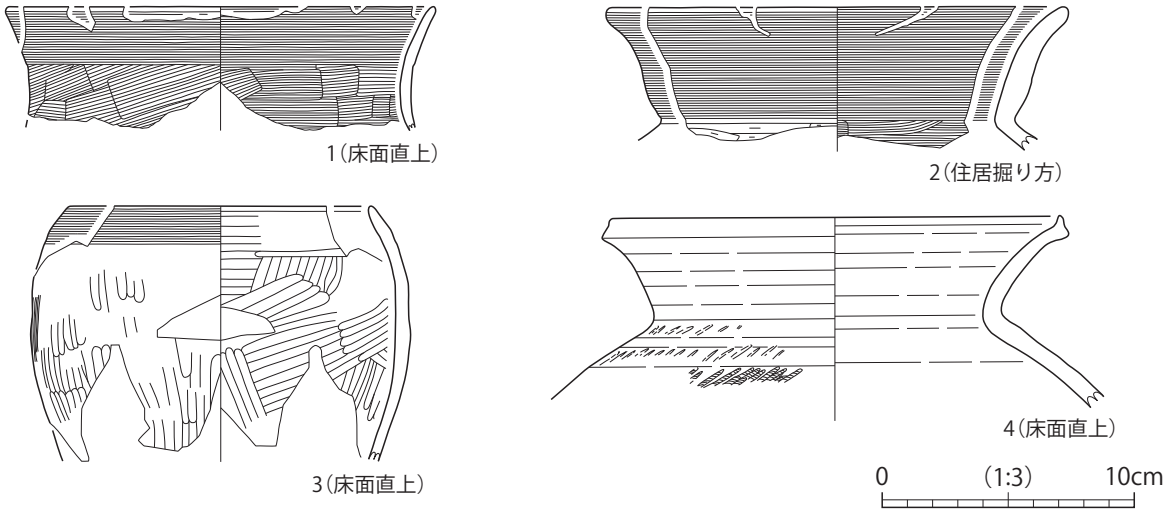
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。※柱痕跡
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・焼土ブロック(10㎜程度)多量含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・焼土ブロック(10㎜程度)多量含む。

SI311 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	(41)×(37)	28	柱痕跡あり。
P2	楕円形	(40)×(37)	28	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	楕円形	29×26	8	Ⅳ層土・焼土ブロック多量(カマド関連か)
P4	—	(32)×(13)	6	Ⅳ層土・焼土ブロック多量(カマド関連か)

第 106 図　SI311 竪穴住居跡



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-047	第9次	SI311	床面直上	土師器	甕	(16.8)	—	(4.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		104
2	C-050	第9次	SI311	掘り方	土師器	甕	(18.0)	—	(5.7)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		104
3	C-048	第9次	SI311	床面直上	土師器	鉢	(12.0)	—	(10.1)	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ→ヘラミガキ	ヘラミガキ		104
4	E-004	第9次	SI311	床面直上	須恵器	甕	17.4	—	(7.6)	ロクロ調整、胴部縄目タタキ→カキメ	ロクロ調整		104

第 107 図　SI311 竪穴住居跡出土遺物

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）を検出した。P1・2 は規模や位置関係から主柱穴に相当する可能性もあるが、ほかに対応するような柱穴が見当たらない。P1 では柱痕跡が確認され、径 17cm を測る。P3・4 は堆積土中に基本層Ⅳ層土ブロックや焼土ブロックが多量含まれることから、カマド関連の施設である可能性も残る。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は起伏が激しいが、土坑状・溝状の窪みは認められない。深さは、3 ～ 26cm を測る。

【出土遺物】 土師器鉢 1 点、甕 2 点、須恵器甕 1 点を掲載した（第 107 図）。3 の土師器鉢は、胴部から内湾しながら口縁部へと至る。4 の須恵器甕は、酸化焔に近い赤褐色の焼成である。胴部外面は縄目タタキ後、カキメを施している。床面上に正位で置かれた状態で出土しており、胴部以下の破片が出土しなかったことから、器台などへの転用が考えられる。

【時期】 第 107 図－ 1・3・4 は床面上から出土し、その特徴から本竪穴住居跡の時期は 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えられる。

SI312 竪穴住居跡（第 108 ～ 111 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部の 36・40・41・44 グリッドに位置する。

【重複】 SI311、SK312 より新しく、SB38・SK299 より古い。

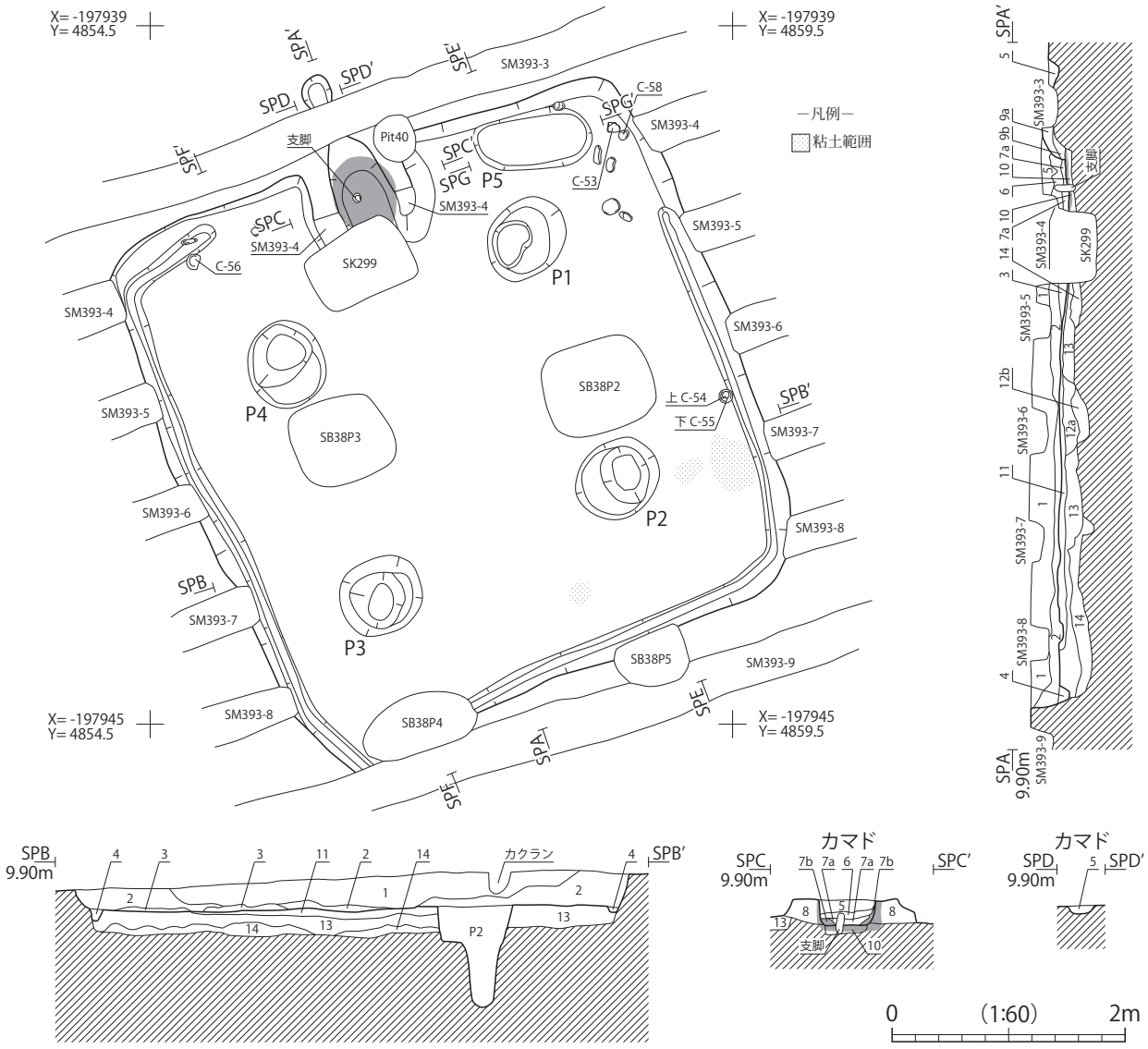
【規模・形態】 検出した規模は、南北 494cm、東西 488cm を測る。平面形状は隅丸方形を呈する。

【方向】 カマド基準で N － 23° － W である。

【堆積土】 大別で 14 層、細別で 17 層に分層された。大別 1 ～ 3 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。4 層は周溝堆積土、5 ～ 7 層はカマド関連の堆積土で、5 層は崩落した天井材とみられる。8 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層が主体であると思われる。9・10 層はカマド掘り方の埋土、11 ～ 14 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 32cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。北東部分には白色粘土の集中範囲が 3 箇所認められる。



SI312 堆積土註記表

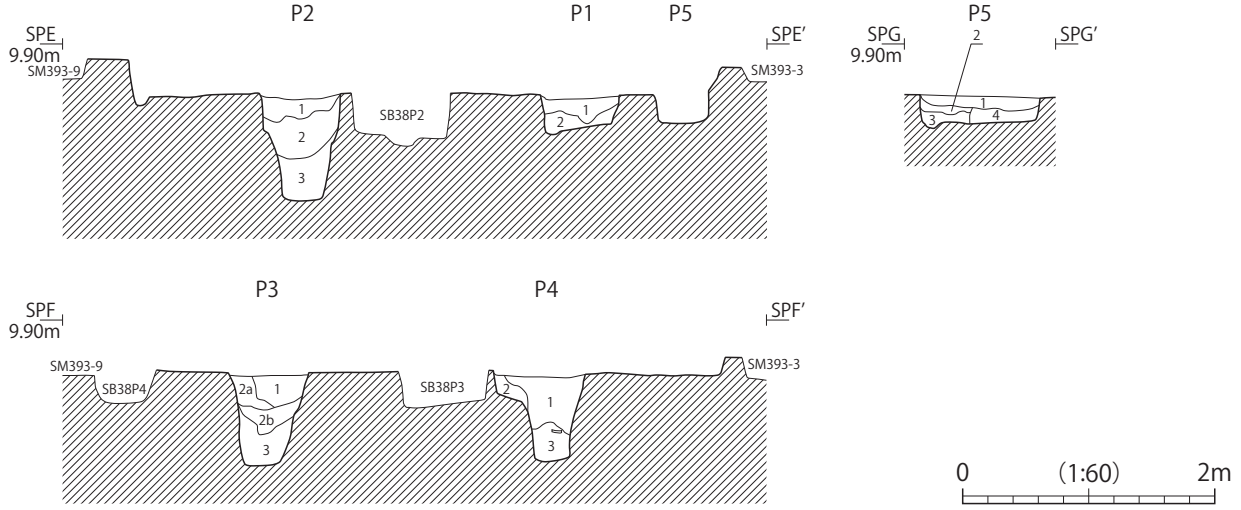
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
周溝	4	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、黒色土粒少量含む。
カマド	5	10YR6/6 明黄褐色	微砂	Ⅳ層土主体。黒色土ブロック(5～20㎜程度)少量、焼土ブロック(5㎜程度)・白色粒微量含む。
	6	5YR2/1 黒褐色	砂質シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒・灰多量含む。
	7a	5YR5/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)多量、焼土粒・灰少量含む。
	7b	5YR3/4 暗赤褐色	シルト	焼土層。炭化物粒微量含む。
カマド袖	8	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
カマド掘り方	9a	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。焼土ブロック(5～10㎜程度)・黒色土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	9b	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)多量、Ⅳ層土粒少量含む。
	10	5YR5/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土粒多量、焼土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方	11	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒色土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。
	12a	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	12b	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	焼土粒多量、Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	13	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、黒色土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。
	14	10YR5/3 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、黒色土粒・炭化物粒微量含む。

SI312 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	75×62	42	
P2	楕円形	74×65	86	
P3	楕円形	71×55	74	
P4	楕円形	75×64	72	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	楕円形	102×47	26	貯蔵穴か。
P6	不整形	27×20	13	
P7	円形	37×36	16	
P8	不整円形	(17)×25	32	

第 108 図　SI312 竪穴住居跡（1）



SI312 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、灰褐色土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土(斑状)、黒色土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、黒褐色土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック・黒褐色土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、黒褐色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・黒褐色土ブロック(5～60㎜程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
P5	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒褐色土粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒褐色土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	焼土粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰色土粒・炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5㎜程度)少量含む。
P7	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。

第 109 図　SI312 竪穴住居跡（2）

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）、掘り方から 3 基（P6 ～ 8）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。いずれもしっかりとした掘り込みをもつ柱穴であるが、柱痕跡や建て替えの痕跡は認められない。また、掘り方底面から検出された P6 ～ 8 については、P6・8 がそれぞれ主柱穴 P2・4 の位置を、P7 がカマドの位置を意識したような位置関係を示すため、本竪穴住居跡の付属施設として捉えた。本来は床面上から掘り込まれていた可能性がある。

【周溝】 概ね北壁の大半部分を除く、三方の壁面を中心に沿って巡る。北壁は 15cm 程内側に位置し、北西コーナーから 90cm 程延びて断続する。規模は、幅 10 ～ 20cm、深さ 1 ～ 12cm を測る。

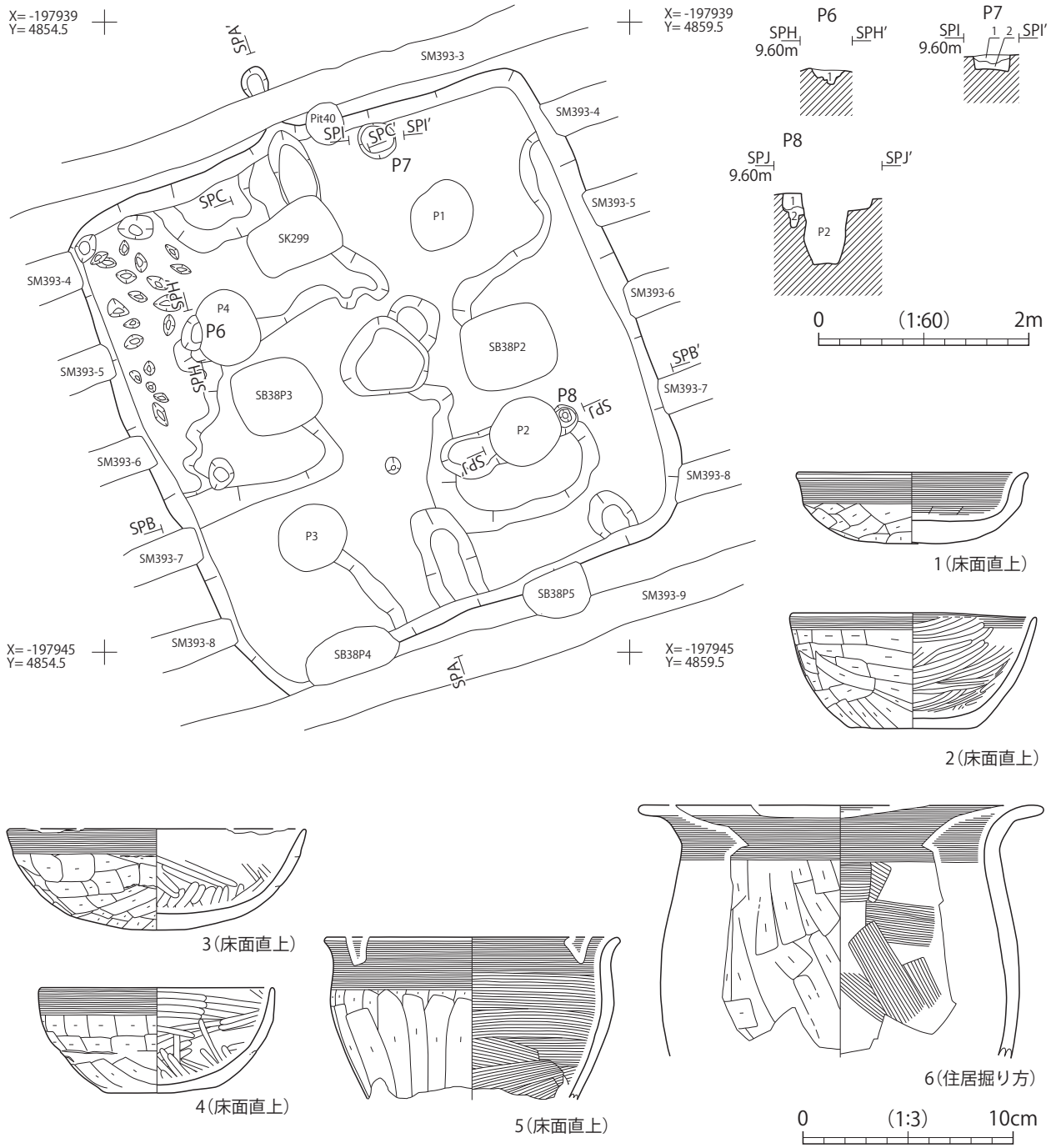
【カマド】 北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。燃焼部と煙道部の境界と西袖の先端部分は重複遺構により失われている。袖の規模は、東袖が長さ 92cm、幅 28 ～ 44cm、西袖は残存部で長さ 64cm、幅 34 ～ 36cm を測り、北壁に直交して延びる。燃焼部は奥行き 63cm、幅 37cm を測り、壁内に位置する。底面は概ね平坦で、中央には第 111 図－ 1 の支脚が埋設されていた。被熱は強く、底面のほぼ全体が焼土化している。煙道部は煙出し部分が残存するのみであるが、長さ 66cm が復元でき、幅 25cm、深さ 10cm を測る。底面はピット状に掘り込まれている。

【その他の施設】 床面から土坑 P5 が検出された。北東コーナーに配置されており、貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は不規則な段差をもつ。また、溝状・土坑状・ピット状の窪みも認められる。

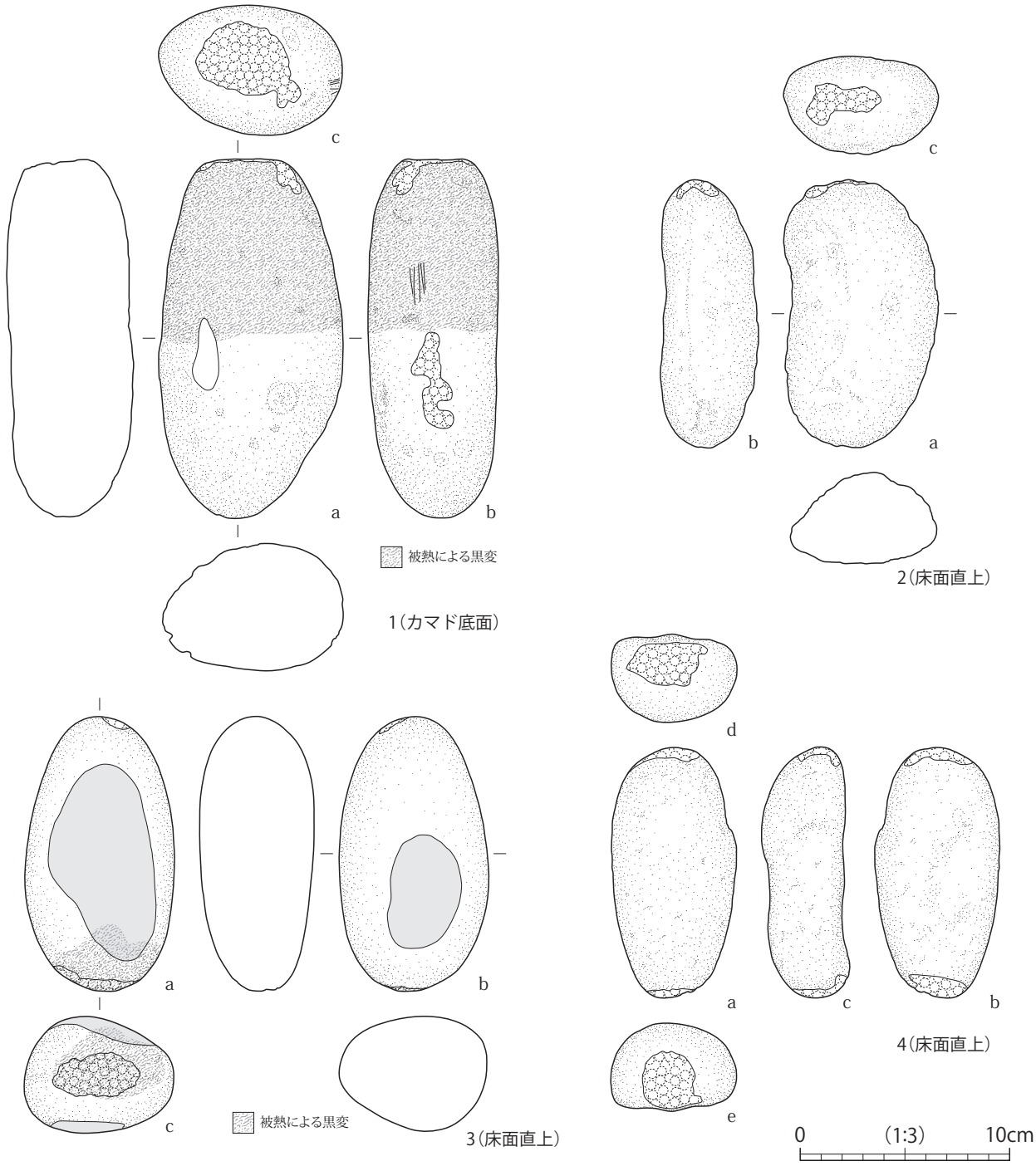
深さは、10 ～ 29cm を測る。北西部の底面からは工具痕が集中して検出された。その状況を第 110 図に示す。

【出土遺物】 土師器坏 4 点、鉢 1 点、甕 1 点、石製品 1 点、礫石器 3 点を掲載した（第 110・111 図）。第 110



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-058	第9次	SI312	床面直上	土師器	坏	(10.8)	—	3.4	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		104
2	C-055	第9次	SI312	床面直上	土師器	坏	11.5	6.0	5.5	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ		104
3	C-056	第9次	SI312	床面直上	土師器	坏	14.0	—	4.8	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、輪積み痕	ヘラミガキ	内面に漆の痕跡	104
4	C-054	第9次	SI312	床面直上	土師器	坏	11.0	5.8	5.0	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、輪積み痕	ヘラミガキ		104
5	C-053	第9次	SI312	床面直上	土師器	鉢	13.8	—	(7.7)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		104
6	C-059	第9次	SI312	掘り方	土師器	甕	(18.8)	—	(12.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	内外面摩滅	104

第 110 図　SI312 竪穴住居跡（3）・出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層　位	種　別	器　種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石　材	備　　考	写真図版
1	Kd-011	第9次	SI312	カマド火床面	石製品	カマド支脚	17.2	8.8	6.2	754.9	凝灰岩	c面敲(弱)で平坦に加工、上半煤付着	105
2	Kc-036	第9次	SI312	床面直上	礫石器	敲石	12.8	7.3	4.5	568.2	安山岩	c面敲(弱)	105
3	Kc-038	第9次	SI312	床面直上	礫石器	磨+敲石	13.2	7.2	5.6	784.0	安山岩	a･b面磨(弱)、c面敲(弱)+下端被熱	105
4	Kc-037	第9次	SI312	床面直上	礫石器	敲石	12.0	6.0	4.1	437.6	閃緑岩	d･e面敲(弱)	104

第 111 図　SI312 竪穴住居跡出土遺物（2）

図－1は短く外反する口縁部をもち、器壁は全体的に厚みがある。2～4の口縁部は内湾気味に直立もしくは外傾し、2・4は見込みまでが深い椀状の器形を呈する。5の鉢は口縁部が外反し、体部が直線的に窄まる器形である。第111図－1の石製品はカマド支脚で、土器と接するc面が平らに加工されている。2～4の礫石器は、2･4が敲石、

3 が磨＋敲石である。3 の c 面は被熱している。

【時期】 掲載した土師器のうち第 110 図－ 1 ～ 5 は床面上から出土し、これらの特徴と SI311 との新旧関係から本竪穴住居跡の時期は 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えられる。

SI313 竪穴住居跡（第 112・113 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部西側の 41 グリッドに位置する。SD266 との重複により、東西に分断された状態で検出された。

【重複】 SI314・347 より新しく、SD266 より古い。

【規模･形態】 検出した規模は､南北 325cm､東西 325cm を測る。平面形状は西側の両コーナー部分が丸みをもつ、不整方形を呈する。

【方向】 カマド基準で N － 77° － E である。

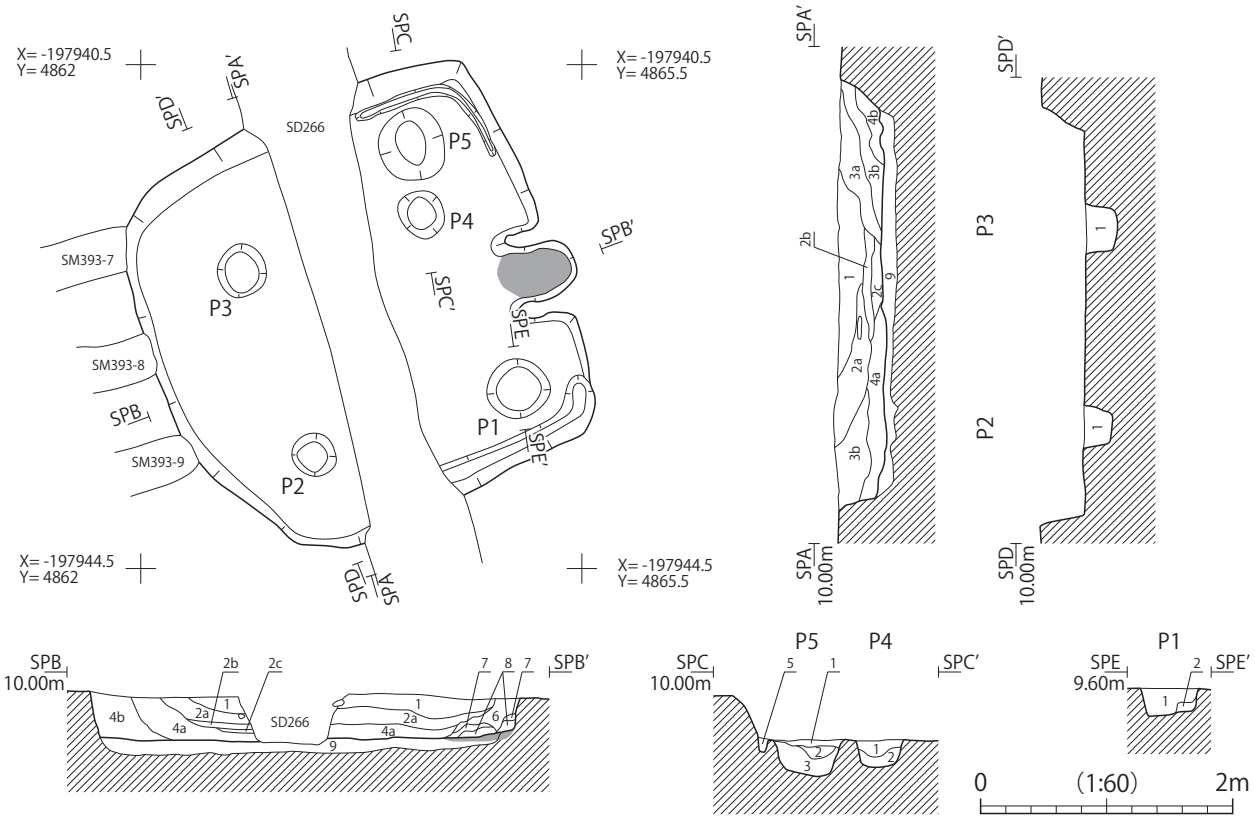
【堆積土】 大別で 9 層、細別で 13 層に分層された。大別 1 ～ 4 層は住居堆積土で、5 層は周溝堆積土である。6 ～ 8 層はカマド関連の堆積土で、基本層Ⅳ層土が主体の 6 層は崩落した天井材とみられる。9 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がるが、北壁は若干内湾気味である。壁高は最大で 41cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）を検出した。いずれも規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。柱筋は住居範囲の対角線上から、やや南側に寄っている。

【周溝】 南壁と北東コーナー付近の壁面に沿って巡る。規模は、幅 5 ～ 28cm、深さ 5 ～ 10cm を測る。



第 112 図　SI313 竪穴住居跡

SI313 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒・焼土粒微量含む。
	2a	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒・焼土粒微量含む。
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
	2c	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	3a	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒密、黒色土粒・炭化物粒微量含む。
	3b	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	4a	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・Ⅳ層土粒少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
	4b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
周溝	5	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒・焼土粒微量含む。※C－C'セクション内に記載
カマド	6	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
	7	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック(10㎜程度)・焼土粒密、Ⅳ層土粒微量含む。
	8	5YR5/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)・灰多量、炭化物粒少量含む。下位に炭化物粒が薄く堆積。
住居掘り方	9	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)密、黒色土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。カマド部分被熱により赤化。

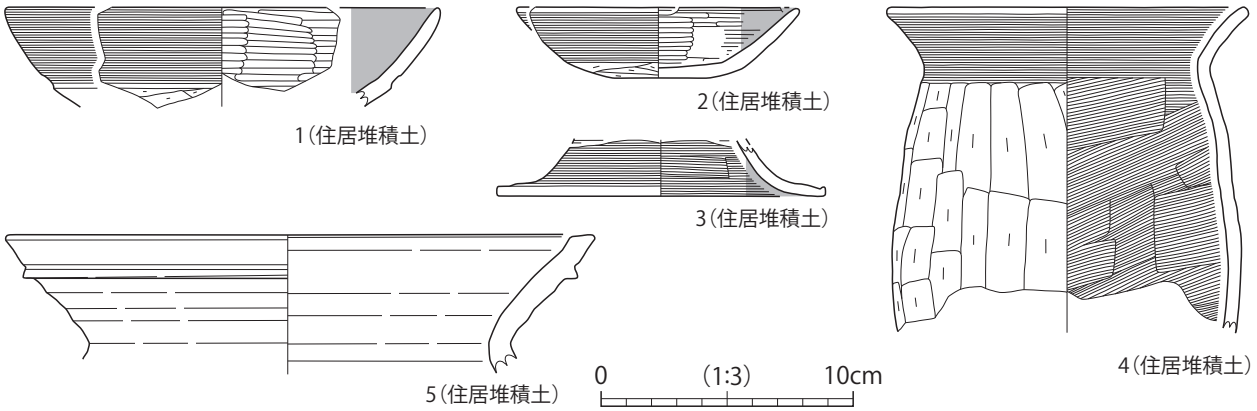
SI313 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	2	2.5Y5/2 暗灰黄色	細砂	黒色土粒少量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)密、黒色土粒少量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、黒色土粒少量含む。
P4	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	細砂	Ⅳ層土主体。黒色土粒微量含む。
P5	1	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒多量含む。下位に炭化物粒が集中。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、黒色土ブロック(10㎜程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。Ⅳ層土粒・黒色土粒微量含む。

SI313 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	50×47	22	
P2	円形	35×33	24	
P3	円形	43×39	25	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	39×35	22	
P5	円形	57×52	31	貯蔵穴か。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-065	第9次	SI313	堆積土	土師器	坏	(17.0)	—	(4.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		105
2	C-062	第9次	SI313	堆積土	土師器	坏	(11.0)	—	2.3	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		105
3	C-064	第9次	SI313	堆積土	土師器	高坏	—	(13.0)	(2.2)	ヨコナデ	ヘラナデ		105
4	C-060	第9次	SI313	堆積土	土師器	甕	(14.0)	—	(12.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		105
5	E-005	第9次	SI313	堆積土	須恵器	甕	(23.0)	—	(5.5)	ロクロ調整	ロクロ調整		105

第 113 図　SI313 竪穴住居跡出土遺物

【カマド】 東壁の中央やや南寄りに位置し、壁面に直交して付設される。削平の影響で煙道部は失われている。袖の規模は、北袖が長さ 44cm、幅 18 ～ 22cm、南袖が長さ 44cm、幅 22 ～ 26cm を測り、東壁に直交して延びる。燃焼部は奥行き 41cm、幅 35cm、奥壁高 25cm を測り、壁内に位置する。底面は奥壁方向へ僅かに立ち上がる。被熱は強く、底面が焼土化している。

【その他の施設】 土坑 P5 を検出した。北東コーナーに配置されており、貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は起伏が激しい。深さは、6 ～ 19cm を測る。

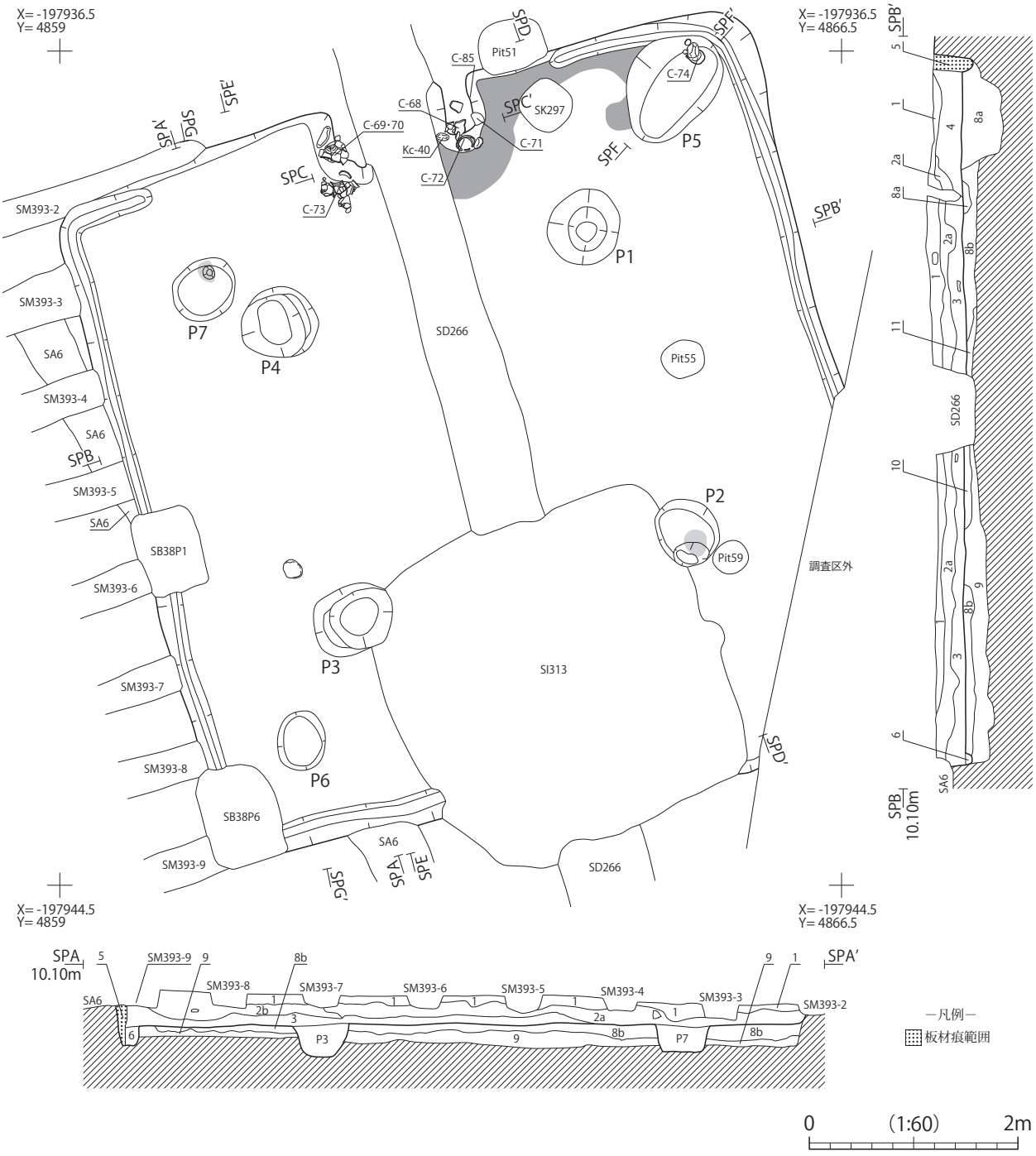
【出土遺物】 土師器坏 2 点、高坏 1 点、甕 1 点、須恵器甕 1 点を掲載した（第 113 図）。

【時期】 掲載遺物は全て堆積土中からの出土である。後述する SI314 より新しいことから、本竪穴住居跡の時期は 2b 期（6 世紀中葉～末葉）以降に位置付けられる。

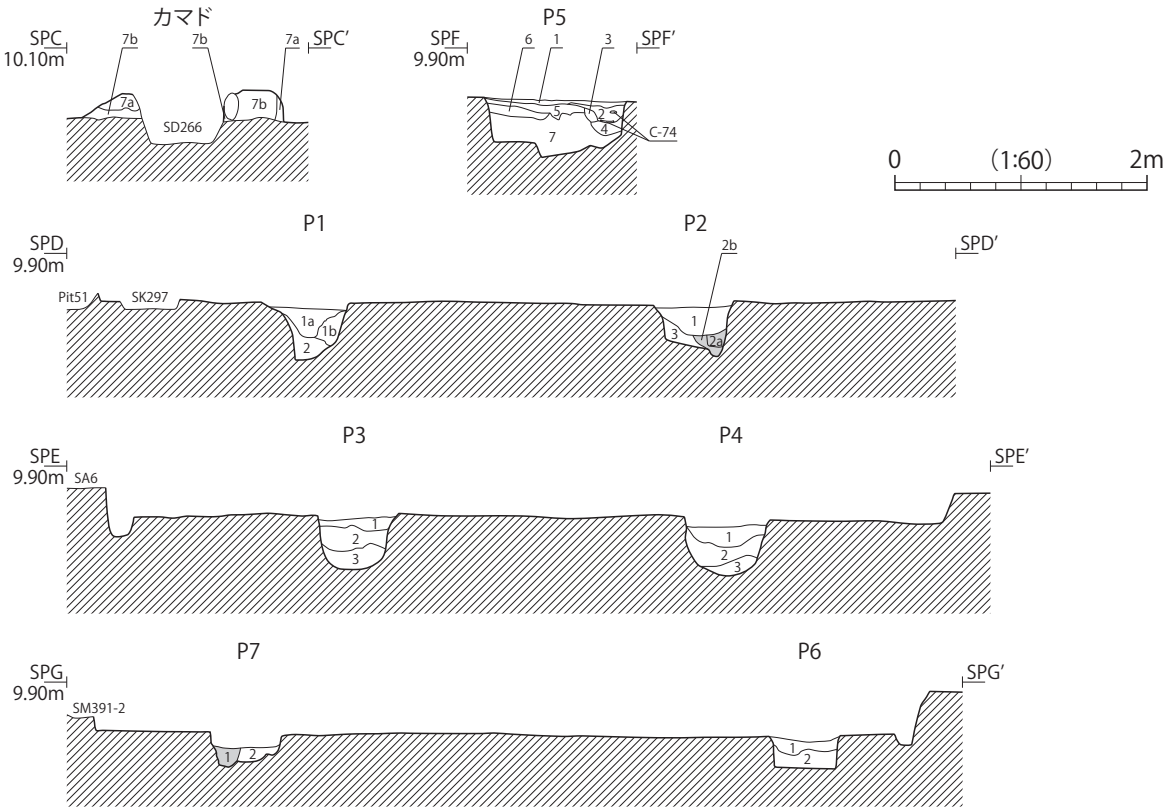
SI314 竪穴住居跡（第 114 ～ 117 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区西部の 36・37・40・41 グリッドに位置する。南東コーナーは調査区外にかかり、SI313 や SD266 との重複により東西に分断された状態で検出された。

【重複】 SI339・347、Pit84・151・175・182 より新しく、SI313、SB38、SD266、SA6 より古い。



第 114 図　SI314 竪穴住居跡（1）



SI314 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒・白色粒・炭化物粒微量含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土(斑状)少量、黒色土ブロック(10～30㎜程度)・炭化物粒・焼土粒微量含む。
	2b	10YR6/4 にぶい黄橙色	微砂	Ⅳ層土(斑状)多量、黒色土ブロック(10～30㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。
	4	10YR7/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、暗褐色土粒少量含む。
周溝	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量含む。※堰板痕
	6	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
カマド袖	7a	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。暗褐色土粒・炭化物粒微量含む。
	7b	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方	8a	10YR4/4 褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)と褐色土の混土。
	8b	10YR4/4 褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・黒褐色シルトブロック(5㎜程度)多量含む。
	9	10YR3/3 暗褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)少量含む。

SI314 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR5/6 黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・黒色土ブロック(5～30㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	1b	10YR5/6 黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・黒色土ブロック(10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)密、黒色土ブロック(5～50㎜程度)少量含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・黒色土粒少量含む。※柱痕跡
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。※柱痕跡
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)少量、黒色土粒微量含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・黒色土ブロック(5㎜程度)少量含む。
	3	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量、黒色土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土粒少量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	黒色土ブロック(5～30㎜程度)密、Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量、焼土粒微量含む。
	2	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	焼土粒密、Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、灰少量、炭化物粒微量含む。
	3	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、焼土粒少量含む。
	4	10YR6/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(10㎜程度)微量含む。
	5	10YR7/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	6	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	7	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
P7	1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、灰褐色土粒微量含む。

第 115 図　SI314 竪穴住居跡（2）

SI314 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	75×67	46	
P2	楕円形	66×(58)	43	柱痕跡あり。
P3	隅丸方形	(78)×64	44	
P4	楕円形	75×68	45	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	楕円形	112×83	46	貯蔵穴か。
P6	楕円形	57×46	28	
P7	楕円形	66×56	26	柱痕跡あり。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 688cm、東西 722cm を測る。平面形状は方形を呈する。

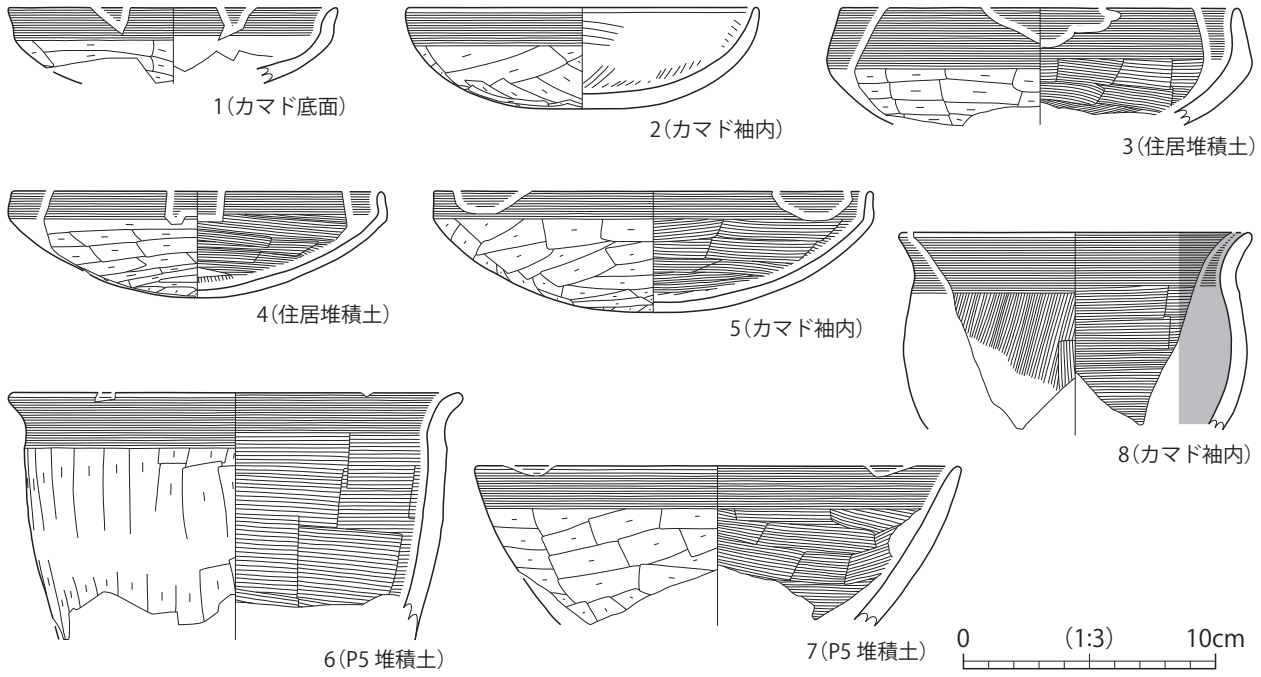
【方向】 カマド基準で N － 18° － W である。

【堆積土】 大別で 9 層、細別で 12 層に分層された。大別 1 ～ 4 層は住居堆積土で、5・6 層は周溝堆積土である。このうち 5 層は堰板痕で、本竪穴住居跡の検出時に各壁を巡るようにして認められた。7 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層が主体であるとみられる。8・9 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 ほぼ直立して立ち上がる。壁高は最大で 34cm を測る。

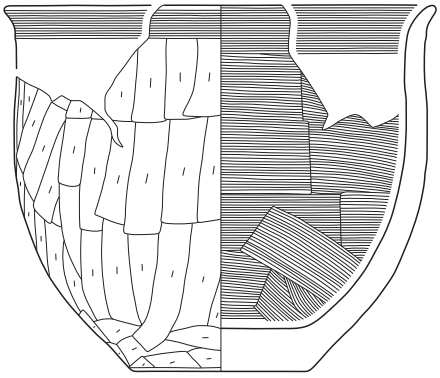
【床面】 概ね平坦である。カマドと P5 との間には焼土の広がりが認められたが、被熱面というよりは焼土が薄く被っているような状況であった。

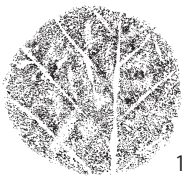
【柱穴】 床面から 6 基（P1 ～ 4・6・7）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。



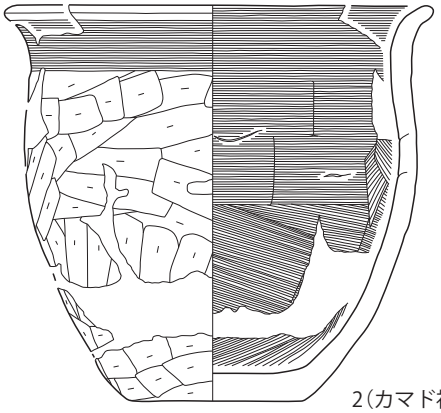
図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-072	第9次	SI314	カマド底面	土師器	坏	13.0	－	(3.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部不明瞭	内面摩滅	105
2	C-085	第9次	SI314	カマド袖内	土師器	坏	(13.8)	4.0	4.0	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ	内面摩滅	105
3	C-082	第9次	SI314	堆積土	土師器	坏	(15.6)	－	(4.6)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		105
4	C-076	第9次	SI314	堆積土	土師器	坏	(14.6)	－	4.2	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		105
5	C-071	第9次	SI314	カマド袖内	土師器	坏	(17.2)	－	4.8	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	内外面口縁に漆の痕跡	105
6	C-074	第9次	SI314	P5 堆積土	土師器	鉢	(17.6)	－	(9.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		105
7	C-075	第9次	SI314	P5 堆積土	土師器	鉢	(19.0)	－	(6.3)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		105
8	C-070	第9次	SI314	カマド袖内	土師器	鉢	(13.8)	6.8	(7.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		106

第 116 図　SI314 竪穴住居跡出土遺物（1）

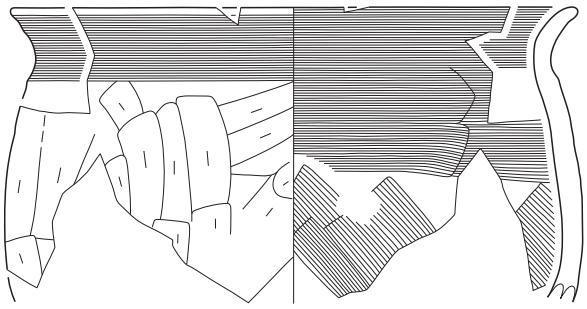




1（カマド袖内）

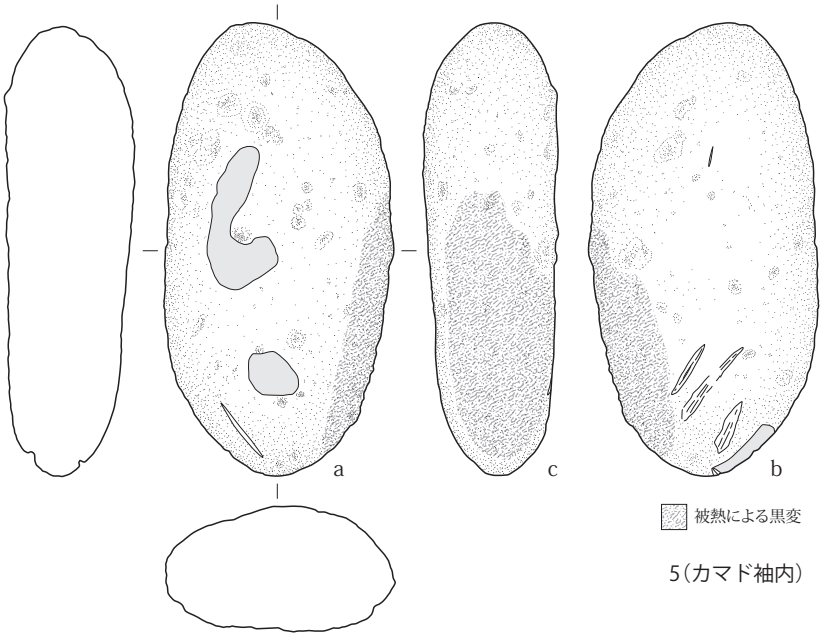


2（カマド袖内）



4（住居堆積土）

3（カマド前方床面）



被熱による黒変

5（カマド袖内）

0 （1:3） 10cm

0 （1:4） 10cm

※図版番号 5 のみ

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-068	第9次	SI314	カマド袖内	土師器	甕	(16.8)	7.0	14.5	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底面木葉痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		106
2	C-069	第9次	SI314	カマド袖内	土師器	甕	16.1	6.8	15.7	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		106
3	C-073	第9次	SI314	カマド前方床面	土師器	甕	11.6	5.2	21.0	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		106
4	C-078	第9次	SI314	堆積土	土師器	甕	(22.2)	—	(11.8)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	SK296出土破片と接合	106

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
5	Kc-040	第9次	SI314	カマド袖内	礫石器	カマド構築材	24.1	12.1	6.5	1670.0	凝灰岩	a面磨(弱)+溝状痕、b面溝状痕、c面下半被熱	106

第 117 図　SI314 竪穴住居跡出土遺物（2）

P6・7 は補助柱穴とみられる。P2・7 では柱痕跡が確認され、P2 で径 27cm、P7 で径 21cm を測る。

【周溝】 ほぼ全体の壁面に沿って巡るが、北壁は北西コーナーから 80cm 程の位置で断続する。規模は、幅 16 ～ 29cm、深さ 3 ～ 15cm を測る。

【カマド】 北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。SD266 との重複により、燃焼部の袖部分のみが残存する。袖の規模は、東袖が長さ 64cm、幅 36 ～ 52cm、西袖が長さ 74cm、幅 38 ～ 42cm を測り、北壁に直交して延びる。焚口部分からは第 117 図－ 1･3 の土師器甕が出土しており、芯材に埋設されていたものと考えられる。

【その他の施設】 土坑 P5 を検出した。北東コーナーに配置されており、貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は起伏が激しい。深さは、10 ～ 43cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 5 点、鉢 3 点、甕 4 点、礫石器 1 点を掲載した（第 116・117 図）。第 116 図－ 1 ～ 5 の土師器坏は形態が様々で、特に 4・5 は鬼高系の坏である。6 ～ 8 の鉢は体部が直線的で口縁部が短く外反する 6、体部からそのまま直線的に外傾する 7、球状の体部からが口縁部で外反する 8 がある。第 117 図－ 1 ～ 4 の甕は短胴で口縁部に最大径をもつ 1・2、長胴で胴部上位に最大径をもつ 3 が認められる。5 の礫石器はカマド袖の芯材と思われ、a 面に磨痕、a・b 面に溝状痕が認められる。

【時期】 掲載した土師器のうち、カマド内およびその前方から出土した第 116 図－ 1 および第 117 図－ 3、カマド袖部分から出土した第 116 図－ 2・5・8 および第 117 図－ 1・2、P5 内部から出土した第 116 図－ 6・7 の特徴から、本竪穴住居跡の時期は 2b 期（6 世紀中葉～末葉）と考えられる。

SI315 竪穴住居跡（第 118 ～ 120 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部西側の 23・24・28・29・33 グリッドに位置する。SD7 との重複により、南北に分断された状態で検出された。

【重複】 SI329・336・338・341・343・346・348・350・353、SK320、Pit114・191・238・239 より新しく、SI333、SD7 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 540cm、東西 535cm を測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマド基準で N － 39° － W である。

【堆積土】 大別で 8 層、細別で 10 層に分層された。大別 1・2 層は住居堆積土で、3 層は周溝堆積土である。4 層はカマド関連の堆積土で、5 層はカマド袖の構築土である。5 層は基本層Ⅳ層土を主体とする。6 層はカマド掘り方の埋土で、7・8 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 21cm を測る。

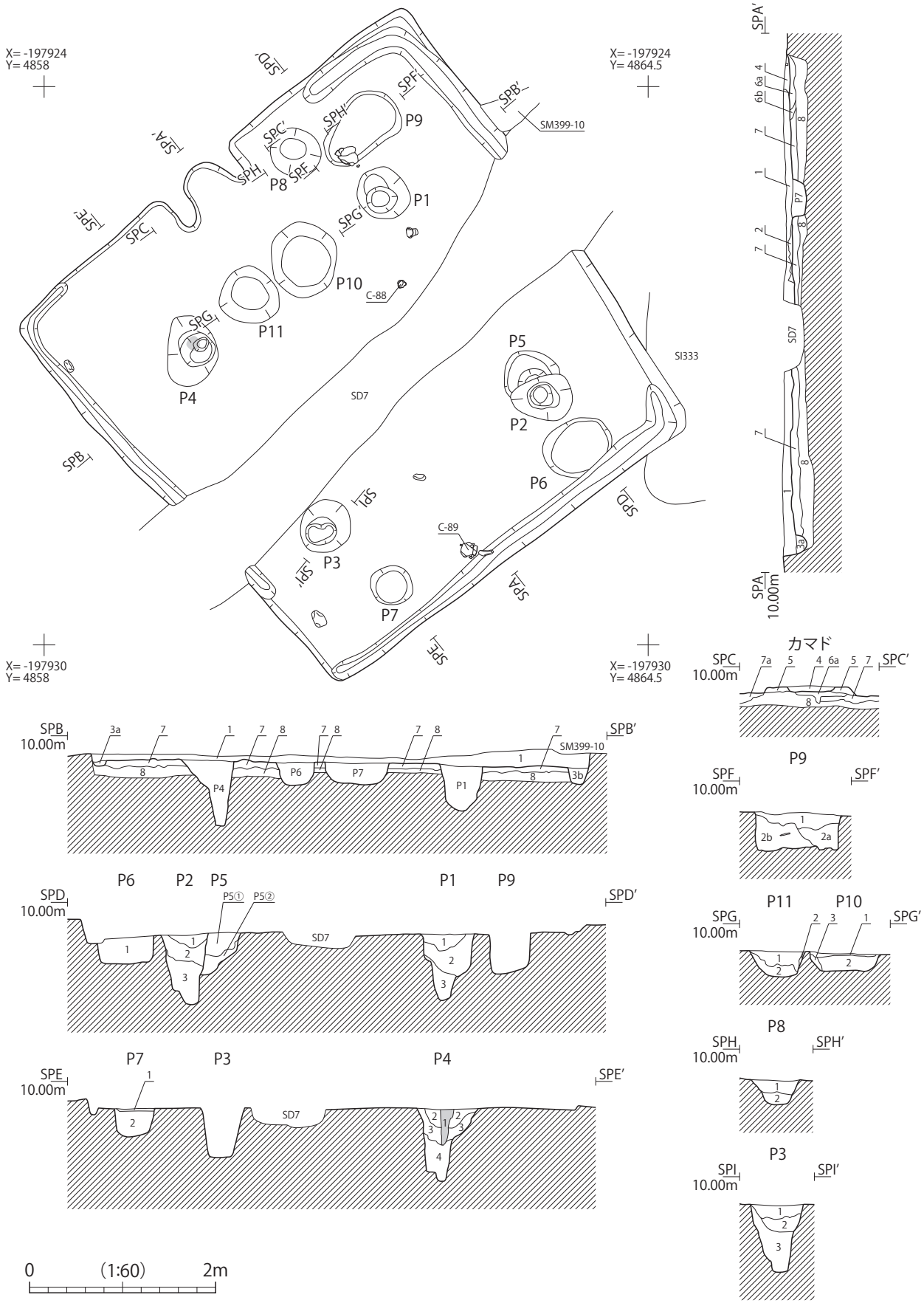
【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 5 基（P1 ～ 5）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。また、P2 と重複する P5 はそれぞれ建て替えの関係にあると考えられる。

【周溝】 西壁から北西コーナー付近にかけてと南壁、北東コーナー付近の壁面に沿って巡る。西壁から南西コーナーの間は 100cm 程断続する。規模は、幅 11 ～ 27cm、深さ 5 ～ 19cm を測る。

【カマド】 北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設されるが、削平の影響により燃焼部の上部と煙道部は失われている。袖の規模は、東袖が長さ 44cm、幅 28 ～ 36cm、西袖が長さ 52cm、幅 24 ～ 30cm を測り、北壁に直交して延びる。燃焼部は奥行き 37cm、幅 38cm を測り、奥壁高 3cm が残存する。壁内に位置し、底面は概ね平坦である。被熱は弱く、底面や壁面の焼土化はあまり進んでいない。

【その他の施設】 土坑 P6 ～ 11 を検出した。P9 は北東コーナー付近に配置されており、貯蔵穴と考えられる。P7･8･10・11 は堆積土中に多量の焼土を含み、カマドとの関連が考えられる。



0 (1:60) 2m

第 118 図　SI315 竪穴住居跡

SI315 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・白色粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土粒微量含む。※床面直上に褐灰色(10YR6/1)シルトが薄く堆積。
周溝	3a	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3b	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド	4	5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒多量、Ⅳ層土粒・炭化物粒・灰少量含む。
カマド袖	5	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。焼土粒少量含む。
カマド掘り方	6a	7.5YR3/2 黒褐色	微砂	焼土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒多量、灰・炭化物粒少量含む。
	6b	7.5YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量、黒色土ブロック(5～20㎜程度)少量、焼土粒微量含む。
住居掘り方	7	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量、黒色土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。

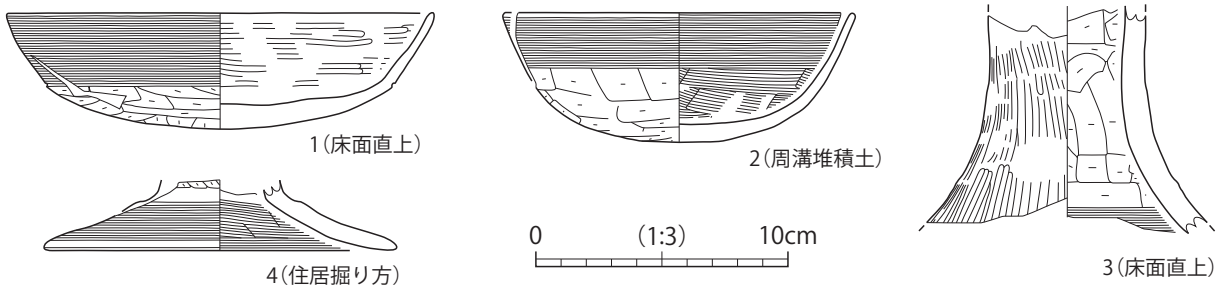
SI315 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、黒色土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、黒色土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・黒色土ブロック(5㎜程度)少量含む。
P4	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR5/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、焼土ブロック(10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒色土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P5	①	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)少量、黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	②	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・黒色土ブロック(5㎜程度)少量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒多量、Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、焼土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)少量含む。
P9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、焼土ブロック(5㎜程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。
P10	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土(斑状)・焼土ブロック(5～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
P11	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒・焼土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。

SI315 施設観察表

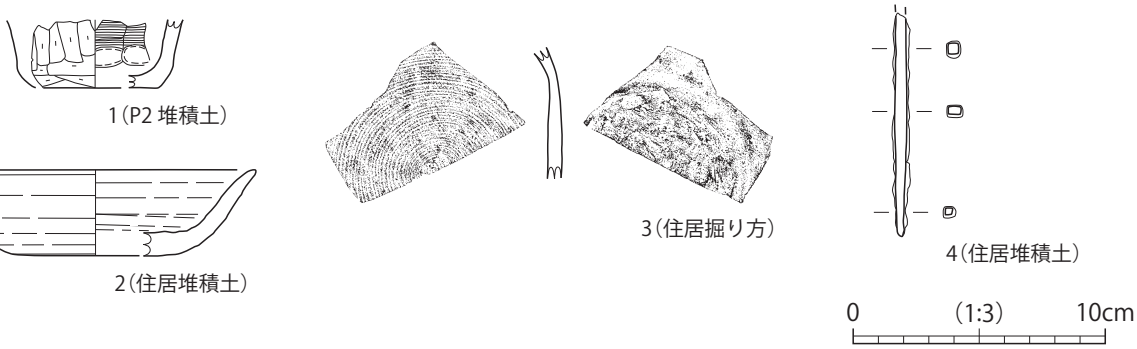
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	52×49	71	
P2	楕円形	67×48	77	
P3	円形	57×54	72	
P4	楕円形	77×54	78	
P5	楕円形	60×(32)	44	
P6	楕円形	75×64	30	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	円形	45×42	31	焼土多量(カマド関連か)
P8	円形	55×52	29	焼土多量(カマド関連か)
P9	楕円形	95×56	43	貯蔵穴か。
P10	楕円形	82×70	22	焼土多量(カマド関連か)
P11	楕円形	65×58	28	焼土多量(カマド関連か)



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-089	第9次	SI315	床面直上	土師器	坏	16.8	—	4.6	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ	内面に漆の痕跡	106
2	C-094	第9次	SI315	周溝堆積土	土師器	坏	(14.8)	—	5.1	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	SI320出土破片と接合	106
3	C-088	第9次	SI315	床面直上	土師器	高坏	—	(11.0)	(9.0)	ヘラミガキ	脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ		106
4	C-097	第9次	SI315	掘り方	土師器	高坏	—	7.0	(2.8)	脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	脚部ヘラナデ、脚端部ヨコナデ	SI314出土破片と接合	106

第 119 図　SI315 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-090	第9次	SI315	P2 堆積土	土師器	ミニチュア土器	—	(5.0)	(2.7)	ヘラケズリ	ヘラナデ、指オサエ		107
2	E-007	第9次	SI315	堆積土	須恵器	坏	(12.6)	(6.4)	3.4	ロクロ調整、体部下端ヘラナデ、底面回転ヘラ切り→ナデ	ロクロ調整		107
3	E-008	第9次	SI315	掘り方	須恵器	提瓶	—	—	(5.2)	ロクロ調整、回転カキメ	ロクロ調整、回転ヘラナデ、中心部ヘラケズリ→ナデ		107

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
4	N-002	第9次	SI315	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(8.9)	0.4	0.3	6.4	鉄鏃の茎部か	107

第 120 図　SI315 竪穴住居跡出土遺物（2）

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は概ね平坦であるが、南側は階段状に下がる。部分的に土坑状やピット状の窪みも認められる。深さは、9 ～ 30cm を測り、厚く埋土されている。

【出土遺物】 土師器坏 2 点、高坏 2 点、ミニチュア土器 1 点、須恵器坏 1 点、提瓶 1 点、金属製品 1 を掲載した（第 119・120 図）。第 119 図－ 1・2 の土師器坏は、ともに口縁部が直線的に外傾し、1 は口縁部と体部との境目に明瞭な稜をもつ。3 の高坏脚部は長脚で、かなり厚みがある。4 の高坏脚部は薄手で法量も小さく、短脚の裾部であると思われる。第 120 図－ 1 のミニチュア土器は、コップ形の器形を呈する可能性があるが、破片資料のため判然としない。2 の須恵器坏は、直線的な体部から口縁部で僅かに外反する器形である。3 の提瓶は胴部の破片で、胴部の膨らみは少なく、扁平気味である。外面は回転カキメ調整が施される。4 の金属製品は棒状鉄製品としたが、下端部に向かって角錐状に先細ることから、鉄鏃の茎部である可能性が残る。

【時期】 第 119 図－ 1・3 は床面上から、2 は周溝から出土しており、これらの特徴から本竪穴住居跡の時期は 4 期（7 世紀中葉～後葉）と考えられる。

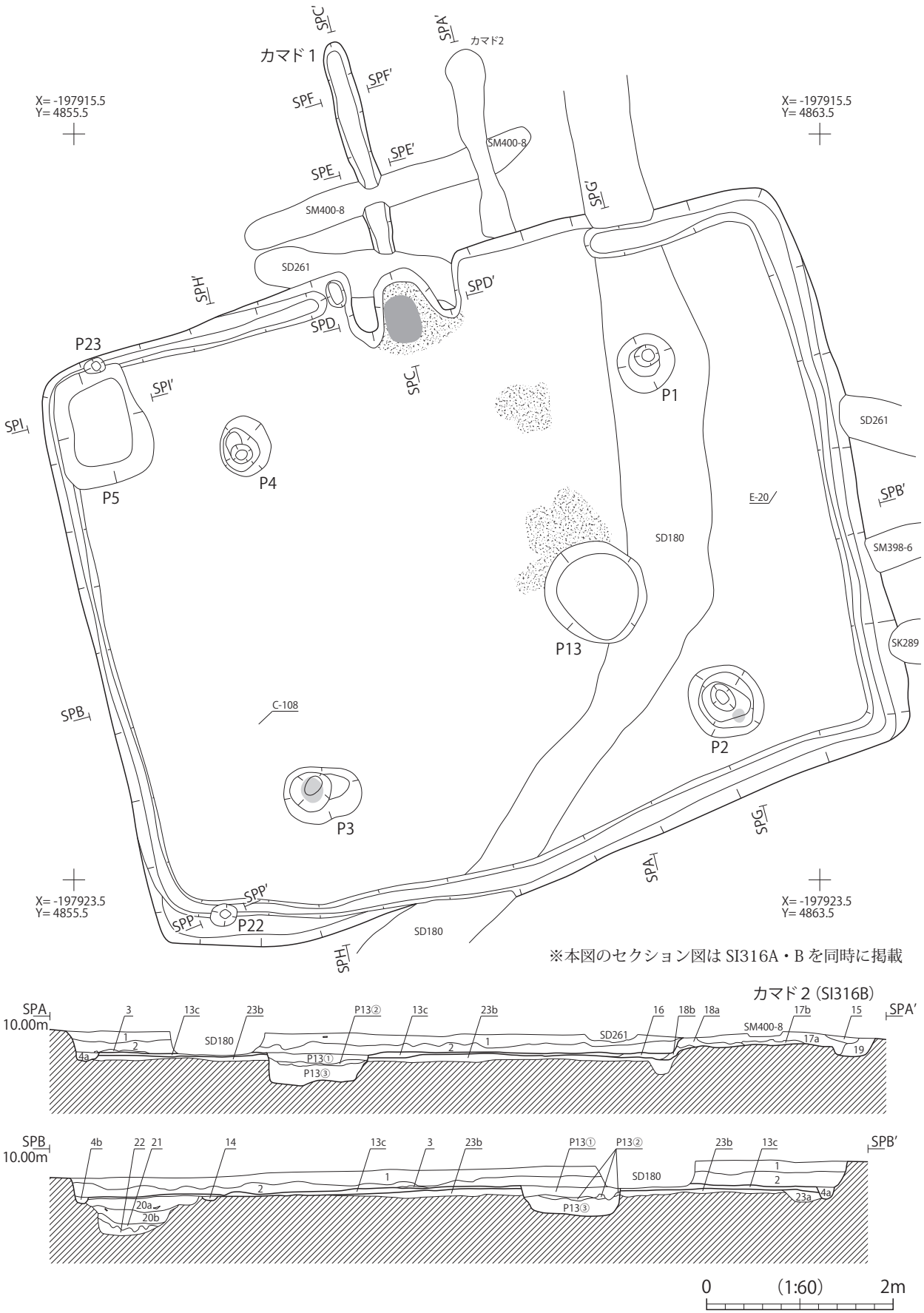
SI316A 竪穴住居跡（第 121 ～ 124 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 13・18・19・23・24 グリッドに位置する。SD180 との重複により、東西に分断された状態で検出された。本竪穴住居は柱穴やカマド、周溝などが 2 軒分存在することから、A・B 二つの細分名を付した。SI316B の西壁を拡張したものが、本竪穴住居跡であると考えられる。また、掘り方調査時にもう 1 軒の竪穴住居跡が入れ子状に重複して検出された（SI325）。これも SI316A・B と拡張の関係にあると思われるが、便宜上別の番号を付して調査を実施した。

【重複】 SI319・320・325・329・330・331・332・337・340・343・346・348・353、Pit196・201 ～ 206 より新しく、SK289、SD180・270 より古い。

【規模･形態】 検出した規模は、南北 663cm、東西 842cm を測る。平面形状は東西方向に長い長方形を呈するが、南壁は「く」字状に僅かに張り出している。

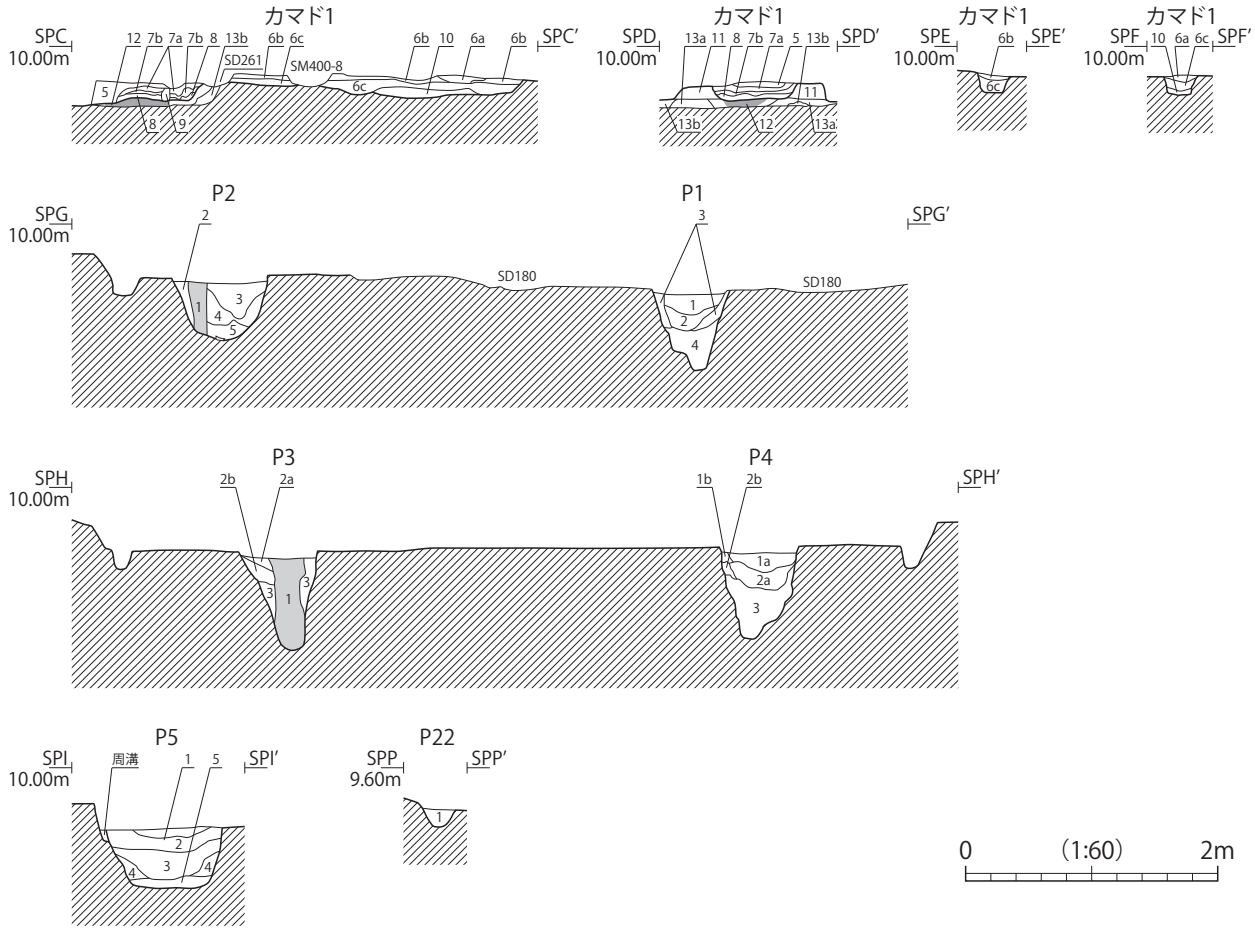
【方向】 カマド基準で N － 15° － W である。



第 121 図　SI316A 竪穴住居跡（1）・SI316B 竪穴住居跡（1）

SI316A・B 堆積土註記表

	部位	層位	土色	土性	備考
SI316A	堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、白色粒・炭化物粒・焼土粒微量含む。
		2	10YR3/2 黒褐色	微砂	褐灰色土(斑状)含む。
		3	N6/0 灰色	シルト	図示していない床面直上にも極薄で堆積。
	周溝	4a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、黒色土ブロック・焼土粒ブロック(10㎜程度)微量含む。
		4b	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土主体。黒色土粒少量含む。
	カマド1	5	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	白色粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
		6a	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土ブロック(5㎜程度)少量、焼土粒微量含む。
		6b	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
		6c	10YR4/4 褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック・焼土粒ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
		7a	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。炭化物粒微量含む。
		7b	5YR5/4 にぶい赤褐色	砂質シルト	被熱により赤化。
		8	5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒・灰の混土。
		9	5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒ブロック(10㎜程度)・焼土粒微量含む。※支脚痕
		10	10YR2/1 黒色	シルト	炭と焼土粒の混土。Ⅳ層土粒少量含む。
	カマド1袖	11	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
	カマド1掘り方	12	5YR4/6 赤褐色	砂質シルト	焼土粒・灰微量含む。大半が被熱により赤化。
	掘り方	20a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
		20b	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
		21	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒微量含む。
		22	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。灰色土粒少量含む。
SI316B	埋土	13a	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、灰黄褐色土粒多量含む。
		13b	10YR6/6 明黄褐色	シルト	Ⅳ層土主体。
		13c	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒・灰色土粒少量含む。
	周溝	14	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒微量含む。
	カマド2	15	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	白色土粒少量含む。
		16	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	灰色土粒多量、炭化物粒微量含む。粘性が非常に強い。
		17a	10YR7/6 明黄褐色	砂質シルト	灰色土粒多量、炭化物粒微量含む。粘性が非常に強い。下位に焼土粒が部分的に堆積。
		17b	5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。底面に煤面広がる。
		18a	10YR7/4 にぶい黄橙色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土粒ブロック(10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒多量、白色粒微量含む。
		18b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
		19	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・Ⅳ層土粒密、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	掘り方	23a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒・灰色土粒少量含む。
		23b	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、白色粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。



第 122 図　SI316A 竪穴住居跡（2）

SI316A 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。粘性が非常に強い。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色シルトブロック(5㎜程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。粘性が非常に強い。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄橙色	微砂	Ⅳ層土粒密、黒色シルト粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、黒色シルトブロック(10㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、焼土粒微量含む。一部壁面が被熱。
	3	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2a	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	2b	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。上位1cmはⅣ層土が集中。
	3	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密に含む。
P4	1a	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	1b	10YR6/6 明黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒密に含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2b	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)密に含む。粘性が強い。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、黒色シルトブロック(10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(20～40㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体、黒色シルト粒微量含む。
P13	①	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物粒(層状)含む。Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)・Ⅳ層土粒・焼土粒少量含む。
	②	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒色土ブロック(5㎜程度)少量含む。
	③	10YR3/4 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P22	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。砂質強い。
P23	—	—	—	註記なし。

SI316A 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	(64)×(60)	64	
P2	楕円形	87×78	65	柱痕跡あり。
P3	楕円形	84×60	78	柱痕跡あり。
P4	楕円形	65×55	74	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	長方形	125×96	58	貯蔵穴か。
P13	楕円形	(114)×107	33	
P22	楕円形	30×24	31	
P23	楕円形	22×16	16	

【堆積土】 SI316B と同時に調査を実施したため、土層の記録は 2 軒まとめて行った。両竪穴住居跡の堆積土は大別で 23 層、細別で 33 層に分層された。大別 1 ～ 3 層は SI316A の堆積土で、4 層は周溝堆積土である。5 ～ 10 層はカマド 1 関連の堆積土で、基本層Ⅳ層土が主体の 7a 層をはじめ、これより上層は崩落した天井材と思われる。11 層はカマド 1 の袖構築土である。基本層Ⅳ層土を主体とする。12 層はカマド 1 の掘り方埋土で、13 層は SI316B の埋土である。14 層は SI316B の周溝堆積土で、15 ～ 19 層はカマド 2 関連の堆積土である。20 ～ 22 層は SI316A の掘り方埋土で、西側部分にのみ堆積している。23 層は SI316B の掘り方埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 31cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。中央付近には炭化物範囲が 2 箇所認められる。

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）を検出した。いずれも規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。P2・3 では柱痕跡が確認され、P2 で径 15cm、P3 で径 28cm を測る。

【周溝】 ほぼ全体の壁面に沿って巡るが、北壁はカマドの東側で 140cm 程断続する。規模は、幅 15 ～ 41cm、深さ 9 ～ 27cm を測る。

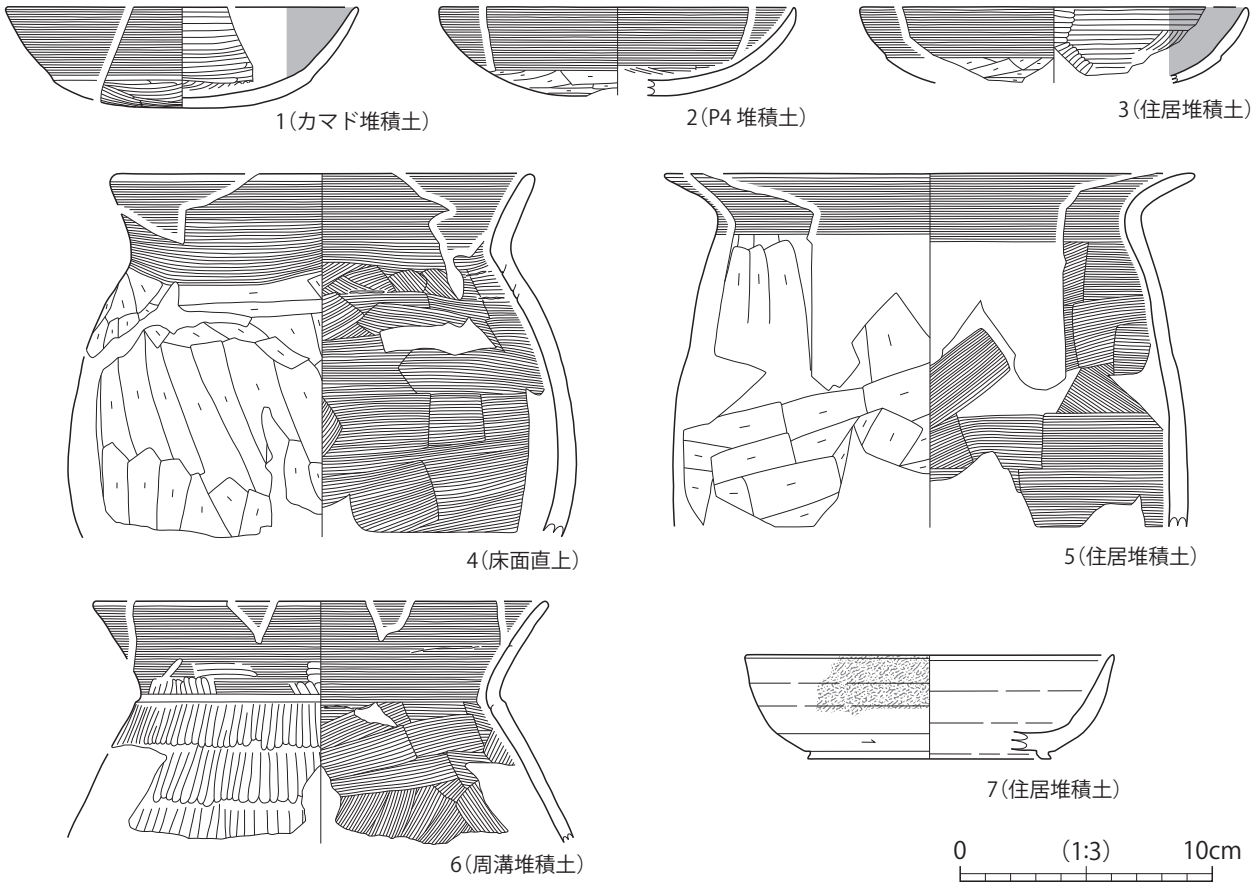
【カマド】 カマド 1 が相当する。北壁の中央から若干西寄りに位置し、壁面に直交して付設される。SD261 や小溝状遺構群との重複により、燃焼部と煙道部は部分的に失われている。袖の規模は、東袖が長さ 74cm、幅 28 ～ 46cm、西袖が長さ 86cm、幅 26 ～ 41cm を測り、北壁に直交して延びる。燃焼部は奥行き 49cm、幅 67cm、奥壁高 15cm を測り、壁内に位置する。底面は概ね平坦である。被熱は強く、底面が焼土化している。煙道部は長さ 265cm、幅 30cm、深さ 19cm を測り、底面は煙出し方向に緩やかに下がる。

【その他の施設】 土坑 P5・P13 を検出した。P5 は北西コーナーに配置されており、貯蔵穴と考えられる。P13 はカマドの前方に配置され、人為的に埋め戻されている。

【掘り方】 SI316B を薄く埋土し、西側拡張部分に新規で掘り方を掘り込んでいる。深さは、10 ～ 73cm を測り、南側が長方形の土坑状を呈する。

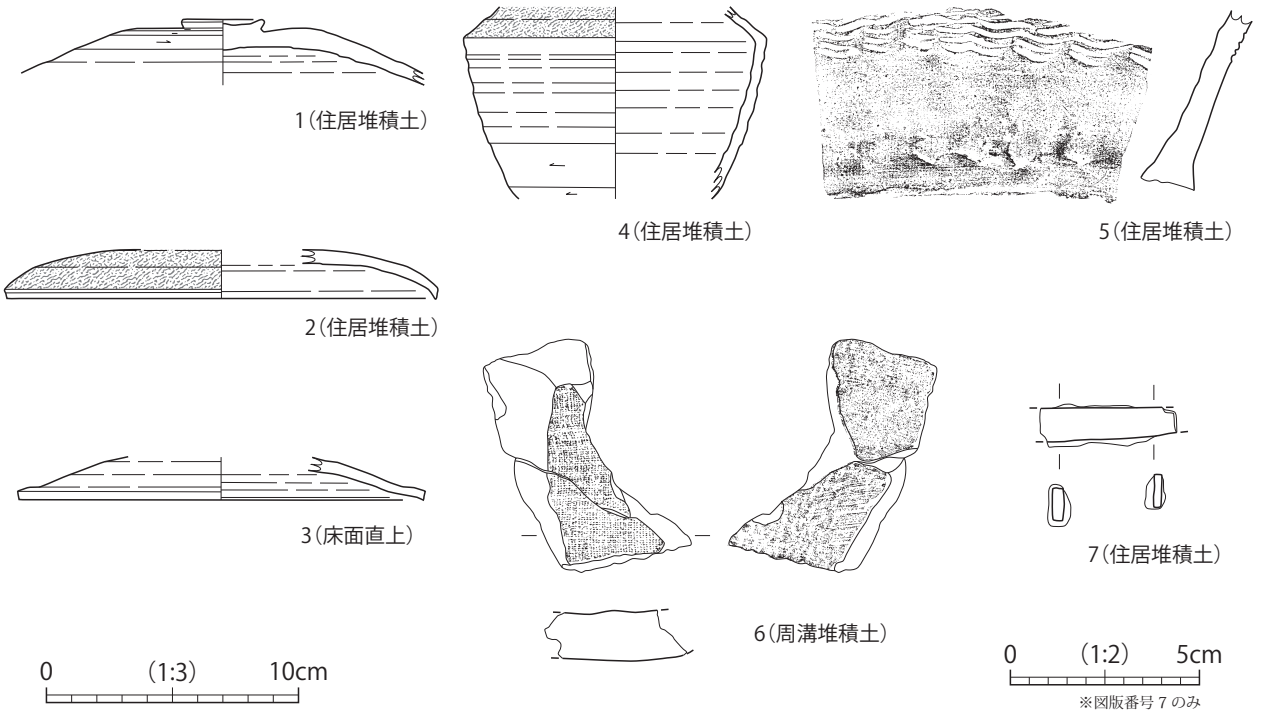
【出土遺物】 土師器坏 3 点、甕 3 点、須恵器高台付坏 1 点、蓋 3 点、壺 1 点、甕 1 点、平瓦 1 点、金属製品 1 点を掲載した（第 123・124 図）。第 123 図－ 1 ～ 3 の土師器坏は、いずれも口縁部が外傾する。4 ～ 6 の甕はいずれも口縁部が「く」字状に外反するが、特に 5 は水平気味に強く外反する。また 6 は胴部外面にミガキを施している。7 の高台付坏は直立気味の口縁部をもち、高台部は短く「ハ」字状に開く。外面には自然釉の付着が認められる。第 124 図－ 1 ～ 3 の須恵器蓋は、1 にボタン状のツマミが確認できるほか、2・3 のカエリはともに外周につく。7 の金属製品は、鉄製刀子の茎部破片である。

【時期】 第 123 図－ 4 は床面上から、第 123 図－ 6 は周溝から出土した。また、SI316B とは建て替え（拡張）の関係にあり、これと大きな時期差は考え難い。後述する SI316B の年代観と併せ、本竪穴住居跡の時期は 6a 期～ 6b 期（8 世紀前葉～末葉）と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-098	第9次	SI316A	カマド堆積土	土師器	坏	(13.8)	—	(4.0)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		107
2	C-120	第9次	SI316A	P4 堆積土	土師器	坏	(14.0)	—	(3.5)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		107
3	C-106	第9次	SI316A	堆積土	土師器	坏	(15.2)	—	(3.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		107
4	C-108	第9次	SI316A	床面直上	土師器	甕	(16.4)	—	(14.4)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		107
5	C-101	第9次	SI316A	堆積土	土師器	甕	(20.8)	—	(14.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		107
6	C-109	第9次	SI316A	周溝堆積土	土師器	甕	(17.8)	—	(9.6)	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、胴部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		107
7	E-016	第9次	SI316A	堆積土	須恵器	高台付坏	(14.5)	(9.6)	4.1	ロクロ調整、体部下端回転ヘラケズリ→高台貼付	ロクロ調整		107

第 123 図　SI316A 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-015	第9次	SI316A	堆積土	須恵器	蓋	—	—	(2.6)	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		107
2	E-017	第9次	SI316A	堆積土	須恵器	蓋	(17.0)	—	(1.9)	ロクロ調整	ロクロ調整		107
3	E-020	第9次	SI316A	床面直上	須恵器	蓋	(16.0)	—	(1.7)	ロクロ調整	ロクロ調整		107
4	E-012	第9次	SI316A	堆積土	須恵器	壺	—	—	(7.6)	ロクロ調整、胴部下端回転ヘラケズリ	ロクロ調整		107
5	E-013	第9次	SI316A	堆積土	須恵器	甕	—	—	(7.1)	ロクロ調整、上位櫛描波状文、下位ヘラケズリ→ヨコナデ	ロクロ調整		107

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	備考	写真図版
6	G-001	第9次	SI316A	周溝堆積土	瓦	平瓦	(9.3)	(8.3)	2.0	凸面ヘラナデ、凹面布目痕	107

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
7	N-003	第9次	SI316A	堆積土	金属製品	刀子	(3.6)	0.9	0.3	4.6	茎部	107

第 124 図　SI316A 竪穴住居跡出土遺物（2）

SI316B 竪穴住居跡（第 125 ～ 127 図）

【位置・確認】 SI316A 竪穴住居跡の掘り方調査時に検出した。西壁以外は SI316A と同一である。

【重複】 SI316A に準じる。

【規模・形態】 検出した規模は東西 702cm を測り、西壁は SI316A のそれより 140cm 内側に位置する。平面形状は方形を呈する。

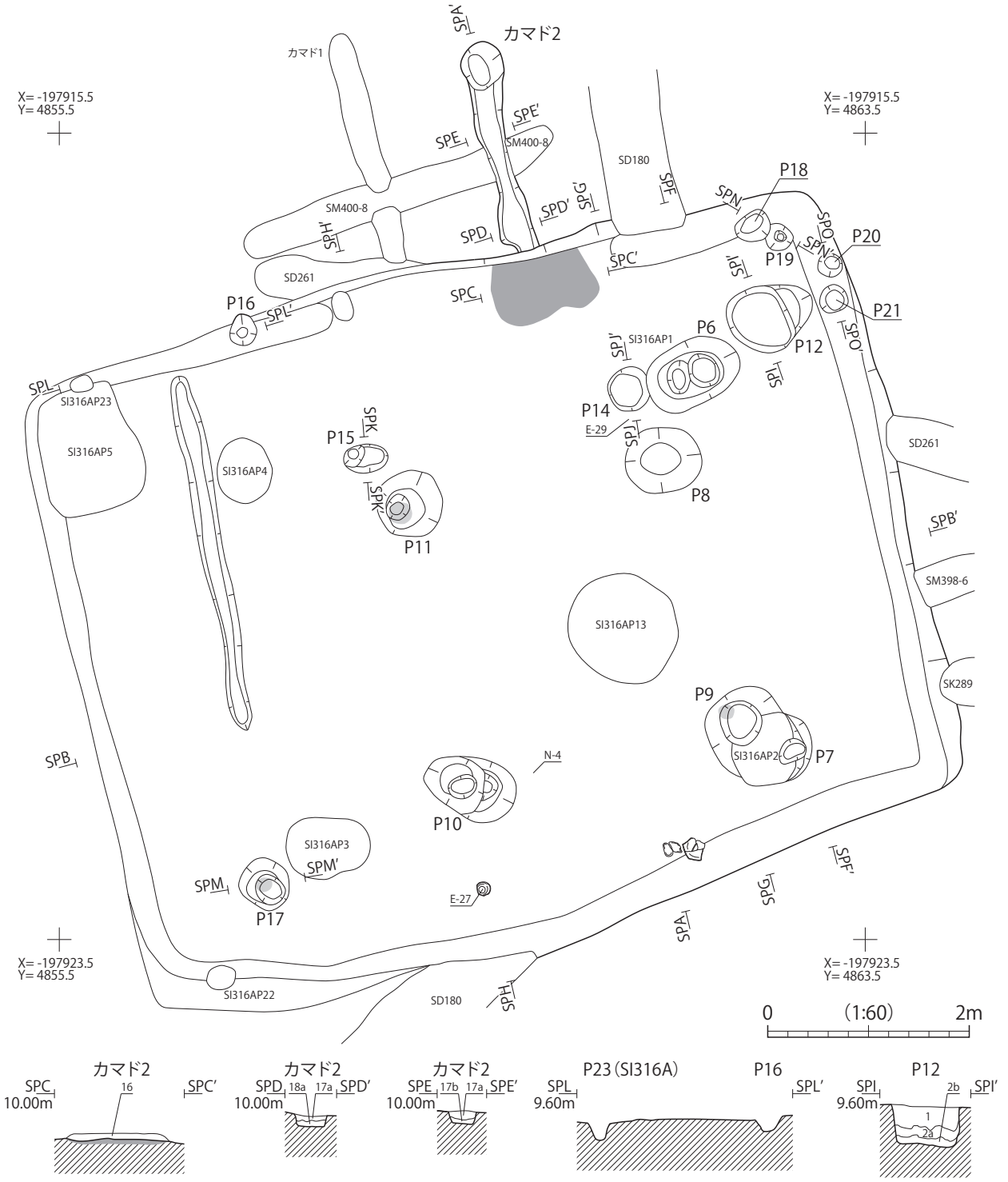
【方向】 カマド基準で N － 15° － W である。

【堆積土】 SI316A を参照。

【壁面】 西壁相当部分は周溝のみが残存し、不明である。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 14 基（P6 ～ 11・14 ～ 21）を検出した。P8 ～ 11 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。P7 は P9 と重複し、建て替えの関係にあるとみられる。また、P6 も規模や P8 との位置関係から建て

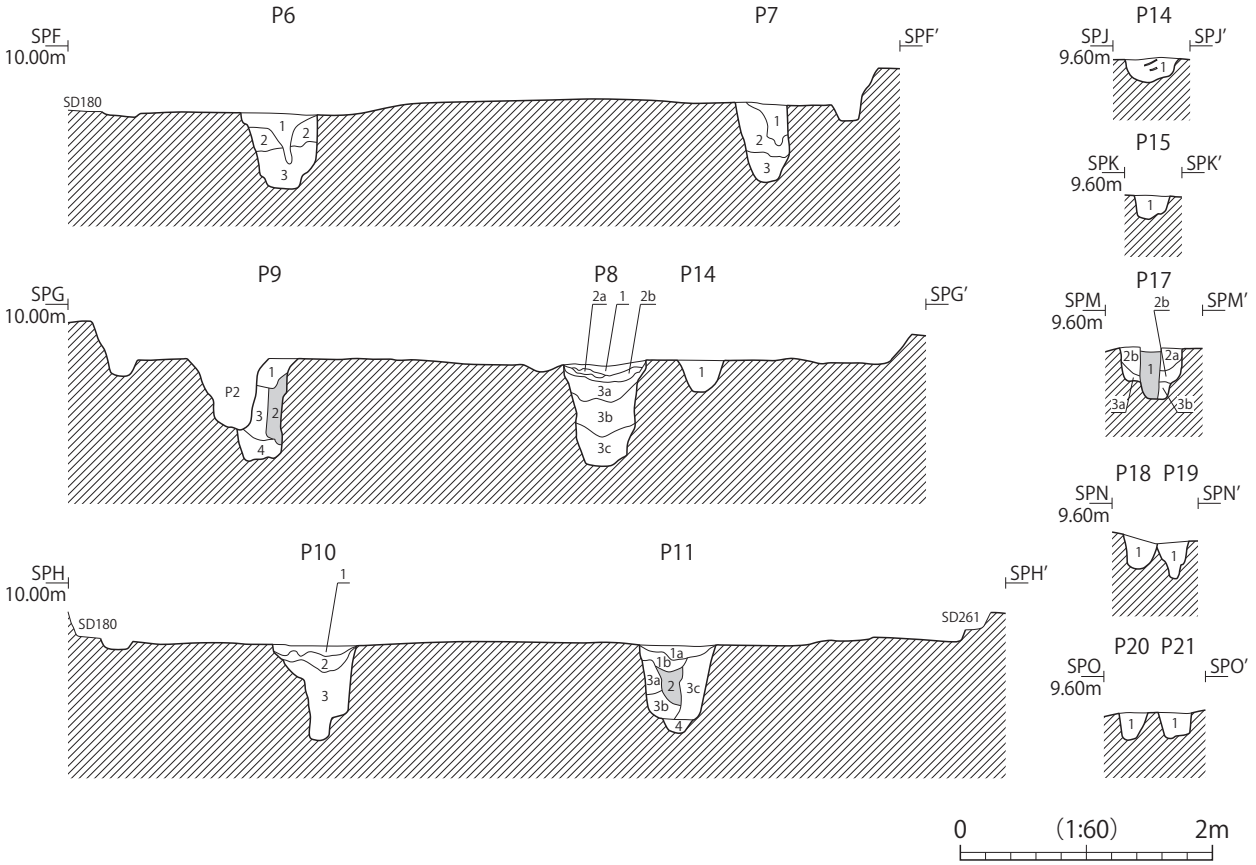


SI316B 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	楕円形	(83)×62	60	
P7	楕円形	65×(32)	66	
P8	楕円形	76×65	84	
P9	方形	78×(76)	84	柱痕跡あり。
P10	楕円形	93×60	76	
P11	円形	66×65	70	柱痕跡あり。
P12	楕円形	85×68	40	貯蔵穴か。
P14	円形	43×(39)	19	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P15	楕円形	44×29	37	
P16	楕円形	32×27	15	
P17	楕円形	50×46	65	柱痕跡あり。
P18	楕円形	35×29	26	
P19	円形	(25)×25	44	
P20	円形	25×23	22	
P21	円形	28×27	21	

第 125 図　SI316B 竪穴住居跡（2）



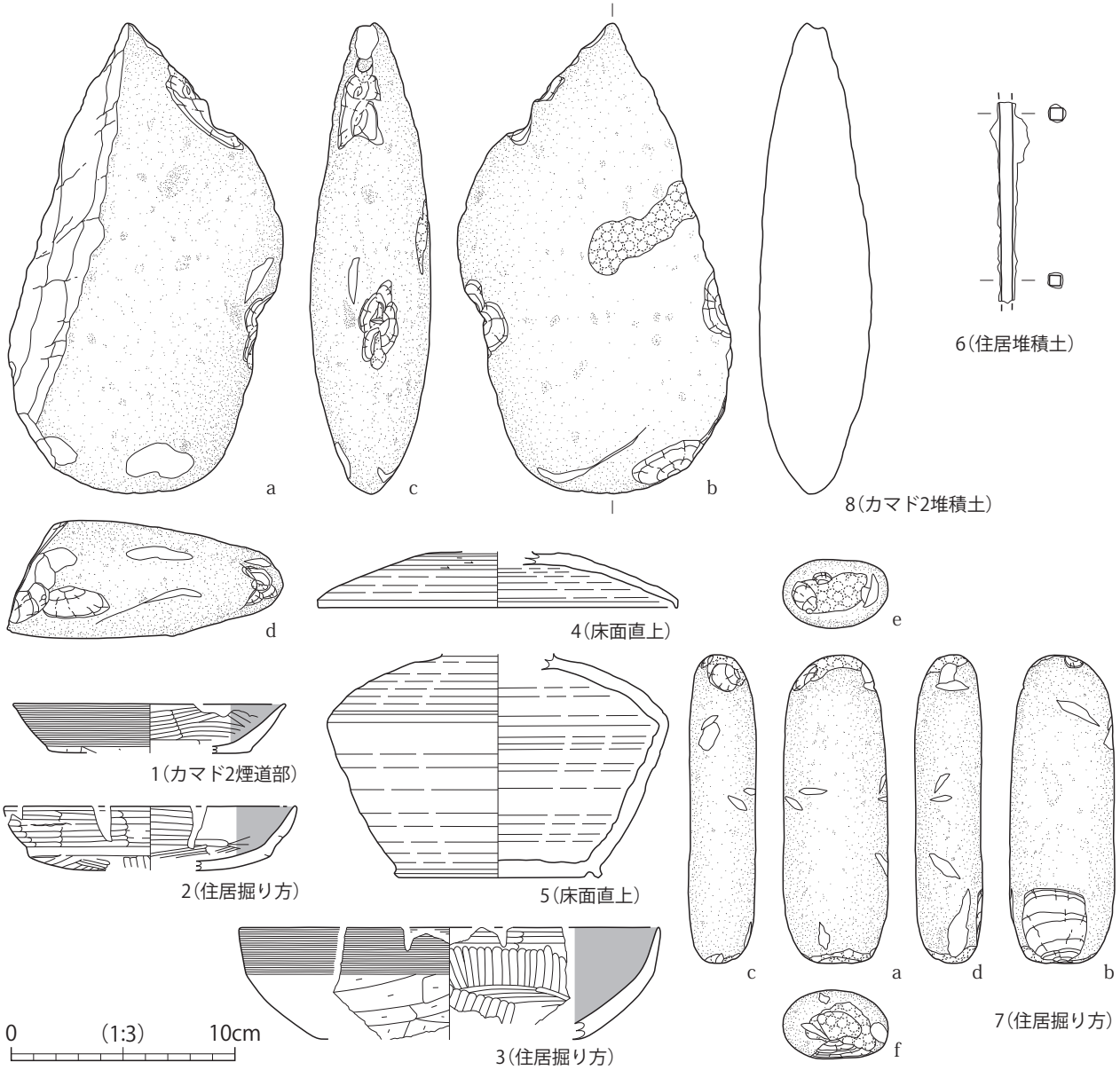
SI316B 施設堆積土註記表（1）

遺構名	層位	土色	土性	備考
P6	1	10YR6/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）・Ⅳ層土粒多量、褐灰色シルト粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）・Ⅳ層土粒密、炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）密、灰褐色シルトブロック（10㎜程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土と灰黄褐色シルトとの互層。
P8	1	10YR3/4 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（5～20㎜程度）・Ⅳ層土粒・焼土粒密に含む。
	2a	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
	2b	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。褐灰色シルト粒微量含む。
	3a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3b	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量。黒色シルトブロック（10㎜程度）・炭化物粒微量含む。
	3c	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	褐色シルト粒微量含む。
P9	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5～30㎜程度）・Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック・焼土ブロック（10㎜程度）含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）・Ⅳ層土粒少量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土粒少量含む。
P10	1	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）・Ⅳ層土粒密に含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・Ⅳ層土粒多量含む。
P11	1a	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）・Ⅳ層土粒密、灰白色粒・焼土ブロック（5～10㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。
	1b	10YR5/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）・Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）・Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）少量含む。
	3b	10YR7/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒色土粒・炭化物粒微量含む。粘性が非常に強い。
	3c	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）少量含む。
	4	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P12	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（10～30㎜程度）・Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック（10㎜程度）微量含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	Ⅳ層土粒少量含む。
	2b	10YR3/2 黒褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック（50㎜程度）多量含む。
P14	1	7.5YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（5～10㎜程度）多量、炭化物粒少量含む。
P15	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）・Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P16	—	—	—	註記なし。
P17	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量含む。※柱痕跡
	2a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。
	2b	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）密に含む。
	3a	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）多量含む。
	3b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）多量含む。

第 126 図　SI316B 竪穴住居跡（3）

SI316B 施設堆積土註記表（2）

遺構名	層位	土色	土性	備考
P18	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P19	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
P20	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P21	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-099	第9次	SI316	カマド2煙道部	土師器	坏	(12.2)	(8.0)	2.2	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		107
2	C-121	第9次	SI316	掘り方	土師器	坏	(13.0)	—	(2.9)	ヘラミガキ、輪積み痕	ヘラミガキ、黒色処理	内面剥落	107
3	C-119	第9次	SI316	掘り方	土師器	坏	(18.6)	—	(5.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		107
4	E-029	第9次	SI316	床面直上	須恵器	蓋	(16.0)	—	(2.5)	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		107
5	E-027	第9次	SI316	床面直上	須恵器	壺	—	9.0	(10.0)	ロクロ調整	ロクロ調整		107

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
6	N-004	第9次	SI316	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(9.0)	0.6	0.5	16.3	鉄鏃(長頸鏃)の頸部か	107

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
7	Kc-041	第9次	SI316B	掘り方	礫石器	敲石	13.8	4.6	2.9	191.9	凝灰岩	e･f面敲(弱)+敲打時の剥離	108
8	Kc-043	第9次	SI316B	カマド2堆積土	礫石器	台石	21.1	12.4	5.2	805.6	凝灰岩	a面左側縁剥離(打撃による分割)、b面敲(弱)、c面剥離	108

第 127 図　SI316B 竪穴住居跡出土遺物

替えであると推定される。P14・15 はそれぞれ主柱穴 P8・11 に対応する補助柱穴、P16 ～ 21 は壁柱穴と考えられる。P9・11・17 では柱痕跡が確認され、P9 で径 16cm、P11 で径 23cm、P17 で径 17cm を測る。

【周溝】 西壁部分のみが残存する。ほかの壁については、SI316A の段階でも継続利用されていたと思われる。規模は、長さ 358cm、幅 17 ～ 27cm、深さ 8 ～ 13cm を測る。

【カマド】 カマド 2 が相当する。北壁の中央から若干東寄りに配置され、燃焼部底面と煙道部が残存する。壁面に直交して付設されていたと思われる。燃焼部底面は奥行き 61cm、幅 86 ～ 103cm の被熱面として残存し、概ね平坦である。面上は顕著に焼土化している。煙道部は長さ 265cm、幅 30cm、深さ 19cm を測り、底面は平坦で煙出し部分がピット状に掘り込まれている。

【その他の施設】 土坑 P12 を検出した。北東コーナー付近に配置されており、貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は概ね平坦であるが、東壁の両コーナー部分が土坑状に窪む。深さは、2 ～ 19cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 3 点、須恵器蓋 1 点、壺 1 点、金属製品 1 点、礫石器 2 点を掲載した（第 127 図）。土師器坏のうち 1 は平底と思われ、2 が扁平気味の丸底である。3 は口径が 20cm 近い大型品である。4 の須恵器蓋は外周にカエリをもつ。5 の壺は肩が極端に張る器形で、底部には低い高台が「ハ」字状に開いてつけられている。6 の金属製品は角柱状で、鉄鏃（長頸鏃）の頸部である可能性がある。礫石器は 7 が敲石、8 が台石である。7 の e・f 面は著しく敲打されている。8 は b 面に弱い敲打痕が認められる。

【時期】 掲載した土器はほとんどが埋土中の出土遺物であるが、本竪穴住居跡の埋土はかなり薄く、床面遺物が混在すると思われる。特に 5 の須恵器壺は口縁部以外がほぼ完存している。その特徴から、本竪穴住居跡の時期は 6a 期～ 6b 期（8 世紀前葉～末葉）と考えられる。

SI317 竪穴住居跡（第 128 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北西端部の 01・03・04 グリッドに位置する。削平や撹乱の影響を受け、北西 1/3 程の床面と、北壁が失われている。

【重複】 SI268 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 421cm、東西 395cm を測る。削平のためやや歪んではいるが、平面形状は南北方向に長い長方形と推定される。

【方向】 カマド基準で N － 68° － E である。

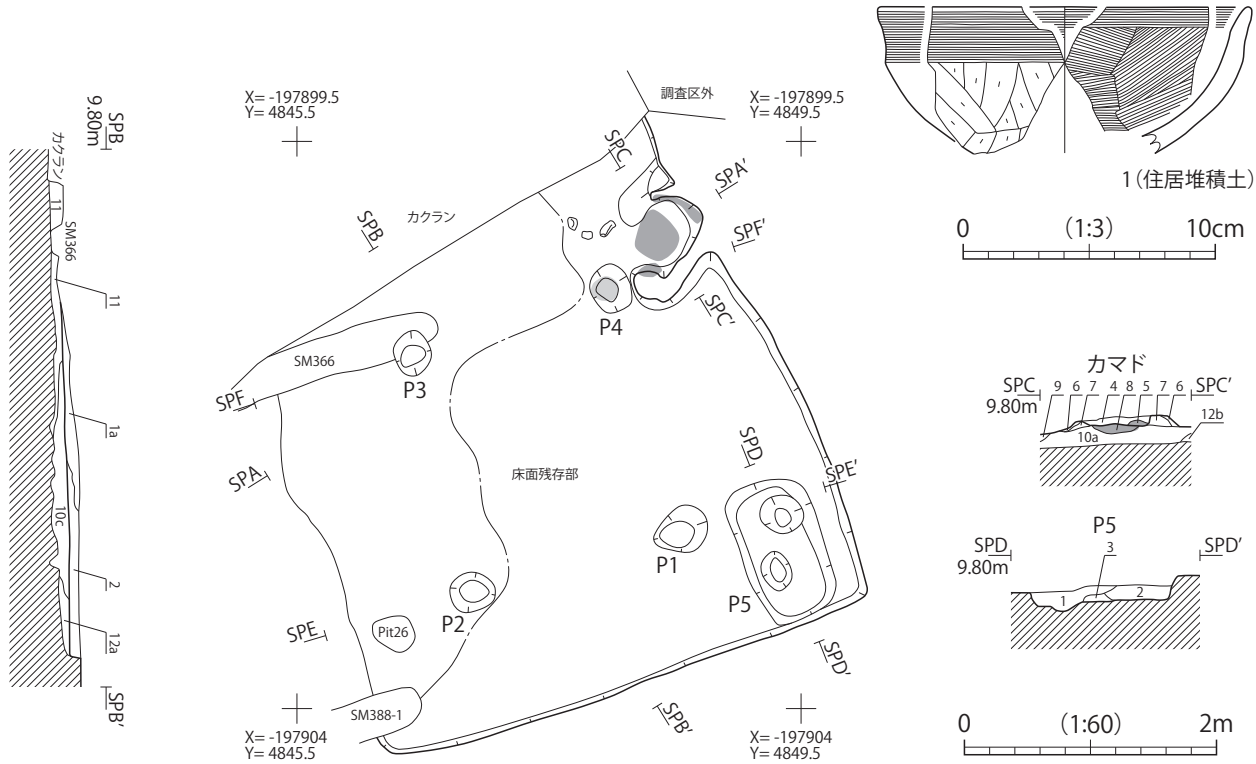
【堆積土】 大別で 12 層、細別で 16 層に分層された。全体の層を通じてグライ化が著しい。大別 1・2 層は住居堆積土で、3 ～ 5 層はカマド関連の堆積土である。6・7 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土を主体とする。8 層はカマド掘り方の埋土で、燃焼部の底面を構築する層である。全体が焼土化している。9 ～ 12 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 16cm を測る。

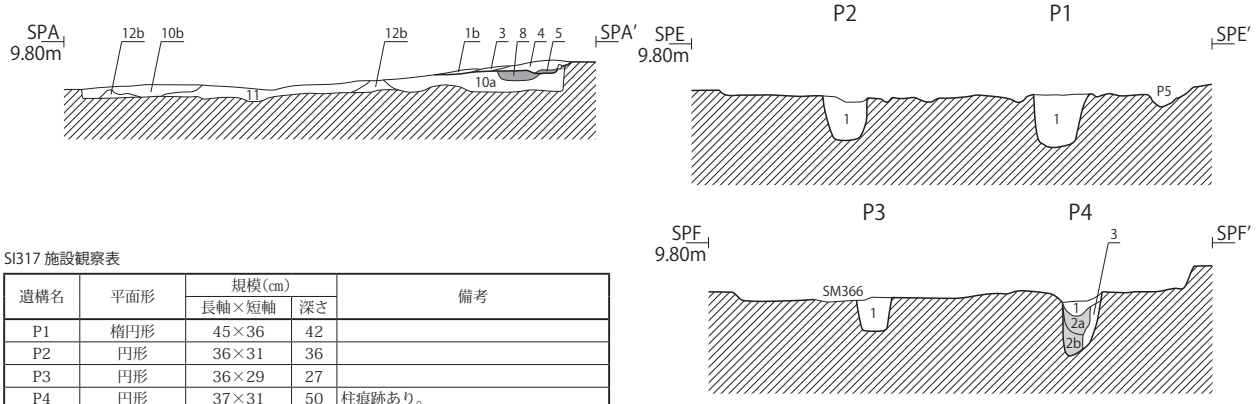
【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 掘り方から 4 基（P1 ～ 4）を検出したが、本来は床面から掘り込まれていたと考えられる。いずれも規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。本竪穴住居跡の平面形状が長方形と推定されるのに対し、方形に配置されている。P4 では柱痕跡が確認され、径 22cm を測る。

【カマド】 東壁の北寄りに位置し、壁面に直交して付設される。削平の影響を受け、北袖の先端部分と煙道部が失われている。袖の規模は、北袖が長さ 56cm、幅 20 ～ 24cm、南袖が長さ 74cm、幅 26 ～ 34cm を測り、東壁に対して「ハ」字状に開いて延びる。燃焼部は奥行き 73cm、幅 52cm、奥壁高 9cm を測り、壁内に位置する。底



※E・F セクションは掘り方の段階で計測



SI317 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	45×36	42	
P2	円形	36×31	36	
P3	円形	36×29	27	
P4	円形	37×31	50	柱痕跡あり。
P5	長方形	114×66	10	貯蔵穴か。

SI317 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	5Y6/2 灰オリーブ色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土粒少量含む。
	1b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・酸化鉄(斑状)少量含む。
	2	5Y5/1 灰色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土との互層。
カマド	3	5YR3/3 暗赤褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・焼土粒少量含む。
	4	2.5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土層。焼土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	5	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	灰層。焼土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
カマド袖	6	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。灰黄褐色シルト少量含む。
カマド掘り方	8	5YR3/3 暗赤褐色	砂質シルト	焼土が大半を占める。
住居掘り方	9	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒層。
	10a	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土粒・焼土ブロック(5㎜程度)少量、細砂部分的に含む。
	10b	5Y4/1 灰色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土(斑状)多量含む。
	10c	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。
	11	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
	12a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	酸化したⅣ層土(斑状)少量含む。
	12b	5Y5/2 灰オリーブ色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土主体。

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-123	第9次	SI317	堆積土	土師器	坏	(12.6)	—	(5.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		108

第 128 図　SI317 竪穴住居跡・出土遺物

SI317 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)部分的に集中。
P2	1	5Y4/1 灰色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。
P3	1	5Y4/1 灰色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
P4	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土ブロック(10㎜程度)密、炭化物粒微量含む。
	2a	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土(斑状)多量含む。※柱痕跡
	2b	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土密に含む。※柱痕跡
	3	2.5Y6/2 灰黄色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土主体。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。

面は概ね平坦である。被熱は強く、底面と南袖の一部、奥壁が焼土化している。

【その他の施設】 土坑 P5 を検出した。南東コーナーに配置されており、貯蔵穴と考えられる。底面には浅いピット状の掘り込みが 2 箇所認められる。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面はカマドの前方から中央部分にかけて平坦な高まりを残し、ほかは不規則に窪む。深さは、1 ～ 21cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点を掲載した（第 128 図）。口縁部は弱く外反し、口縁部と体部との境目には弱い稜をもつ。やや厚みがあり、重量感のある個体である。

【時期】 SI268 より新しいことから 4 期（7 世紀中葉～後葉）以降に位置付けられる。

SI318 竪穴住居跡（第 129 ～ 131 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 08・09・13・14 グリッドに位置する。SD180 との重複により、東西に分断された状態で検出された。

【重複】 SI319、SD274、SK319、SX34 より新しく、SD180 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 374cm、東西 427cm を測る。平面形状は南東側に広がる不整方形を呈し、南壁は若干弧を描いて張り出す。

【方向】 カマド基準で N － 37° － W である。

【堆積土】 大別で 10 層、細別で 16 層に分層された。大別 1 ～ 3 層は住居堆積土で、4 層は周溝堆積土である。5 ～ 7 層はカマド関連の堆積土で、8 ～ 10 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 19cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

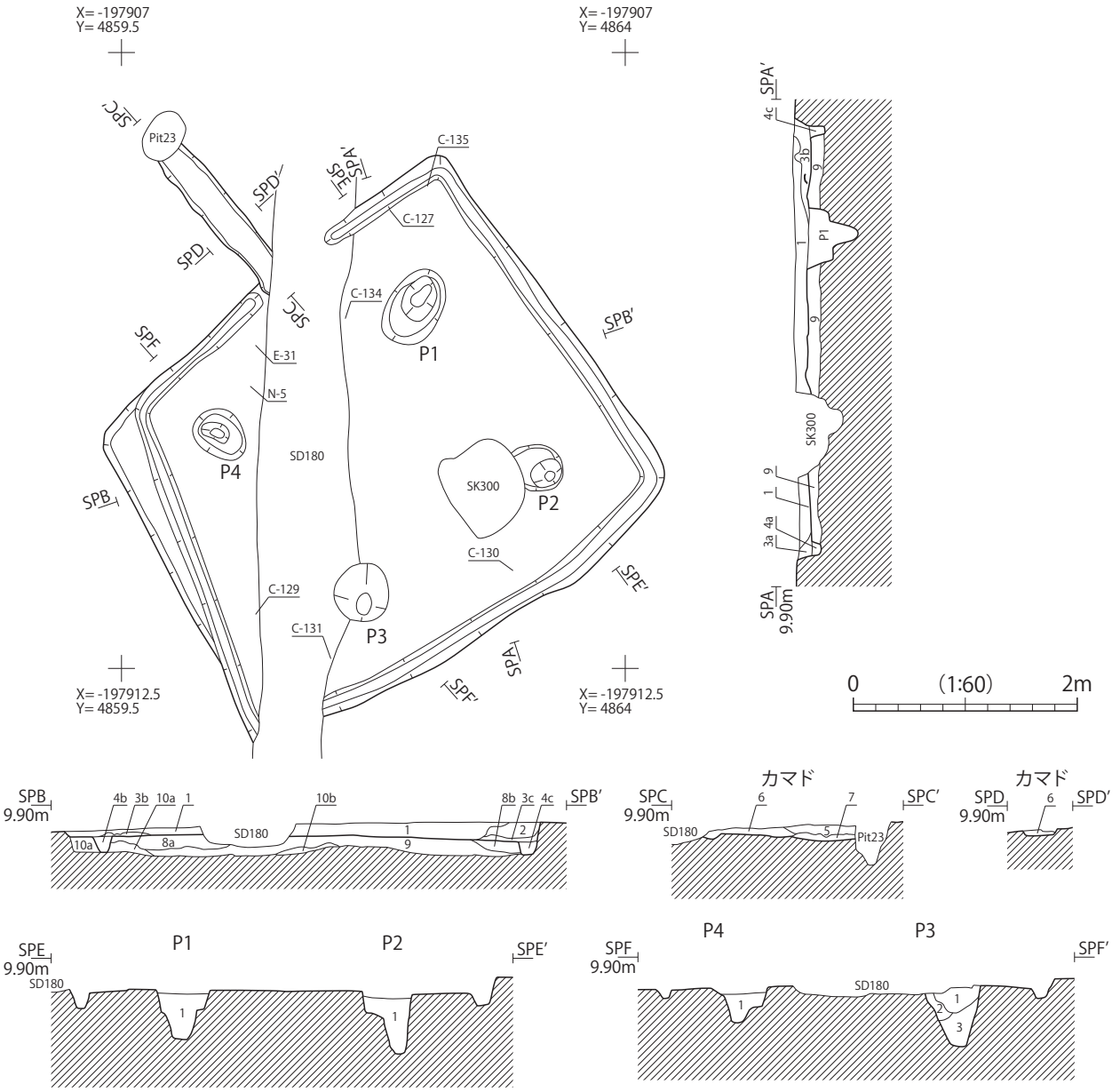
【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）を検出した。いずれも規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。ほぼ方形に配置されている。

【周溝】 壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 12 ～ 20cm、深さ 4 ～ 16cm を測る。西側ではやや内側に巡る。

【カマド】 北壁の中央に位置する。煙道部のみが残存し、煙出し部分は Pit23 によって失われている。煙道部は長さ 155cm、幅 25cm、深さ 7cm を測り、底面は煙出し方向へ緩やかに傾斜している。壁内の状況から、燃焼部底面から一段下がって繋がる構造であったと推定される。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は概ね平坦であるが、住居範囲の南北軸上と、北壁の西側に沿うようにして高まりを残す。深さは、9 ～ 22cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 5 点、鉢 1 点、高坏 1 点、甕 2 点、須恵器坏 1 点、金属製品 1 点を掲載した（第 130･131 図）。第 130 図－ 1 ～ 5 の土師器坏には、口縁部が直線的に外傾する 3・5、内湾気味に外傾する 1・2・4 があり、1 は扁平な底部をもつ。また、4 を除き口縁部と体部との境目に明瞭な稜をもつ。4・5 の底部外面に「×」字状の



SI318 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)密に含む。
	3a	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)一部に集中。
	3b	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。砂質強い。
	3c	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。砂質強い。
周溝	4a	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
	4b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)密に含む。
	4c	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
カマド	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)一部に集中。
	6	10YR2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
住居掘り方	8a	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)密に含む。
	8b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)密に含む。
	10a	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)密に含む。砂質強い。
	10b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。砂質強い。

SI318 施設観察表

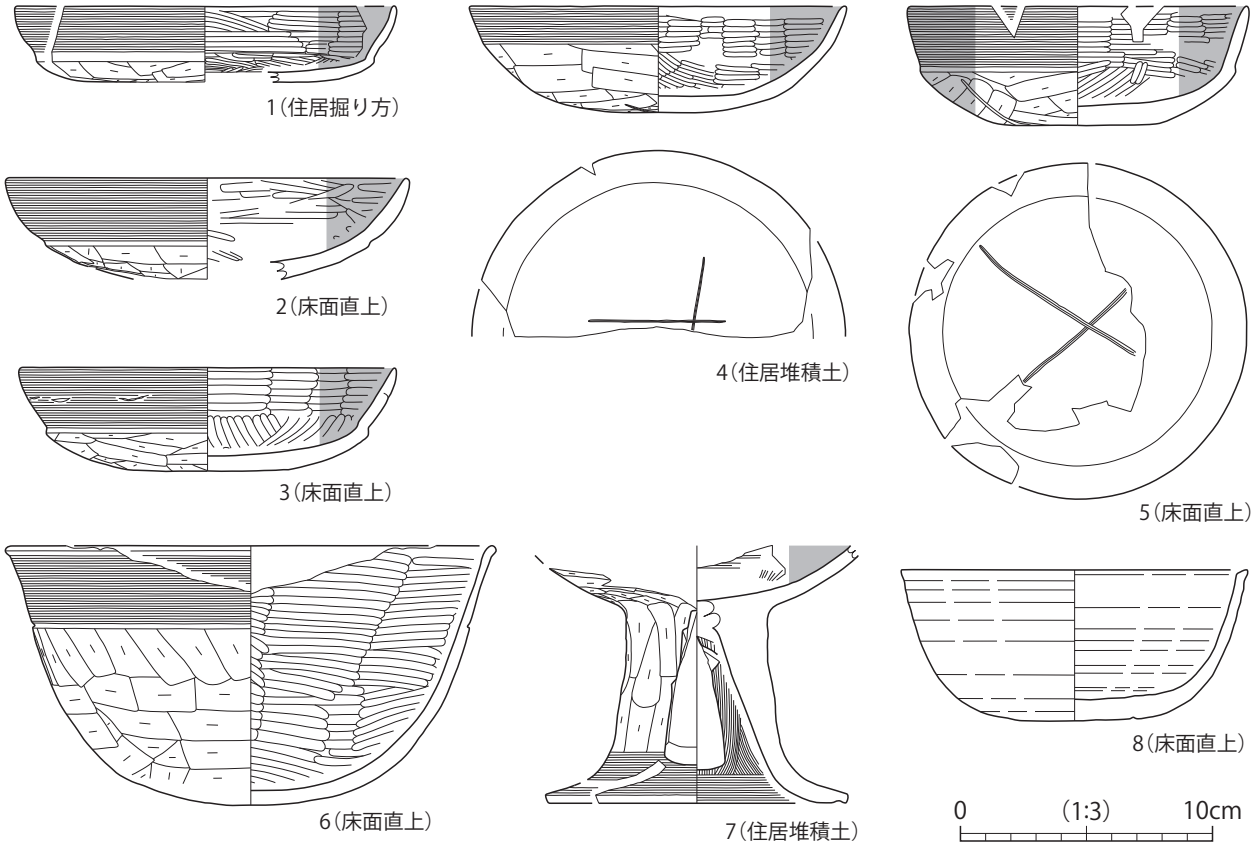
遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	深さ	備考
P1	楕円形	72×49	52	
P2	楕円形	(47)×41	54	

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	深さ	備考
P3	円形	52×(49)	55	
P4	楕円形	52×41	32	

第 129 図　SI318 竪穴住居跡

SI318 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P4	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。

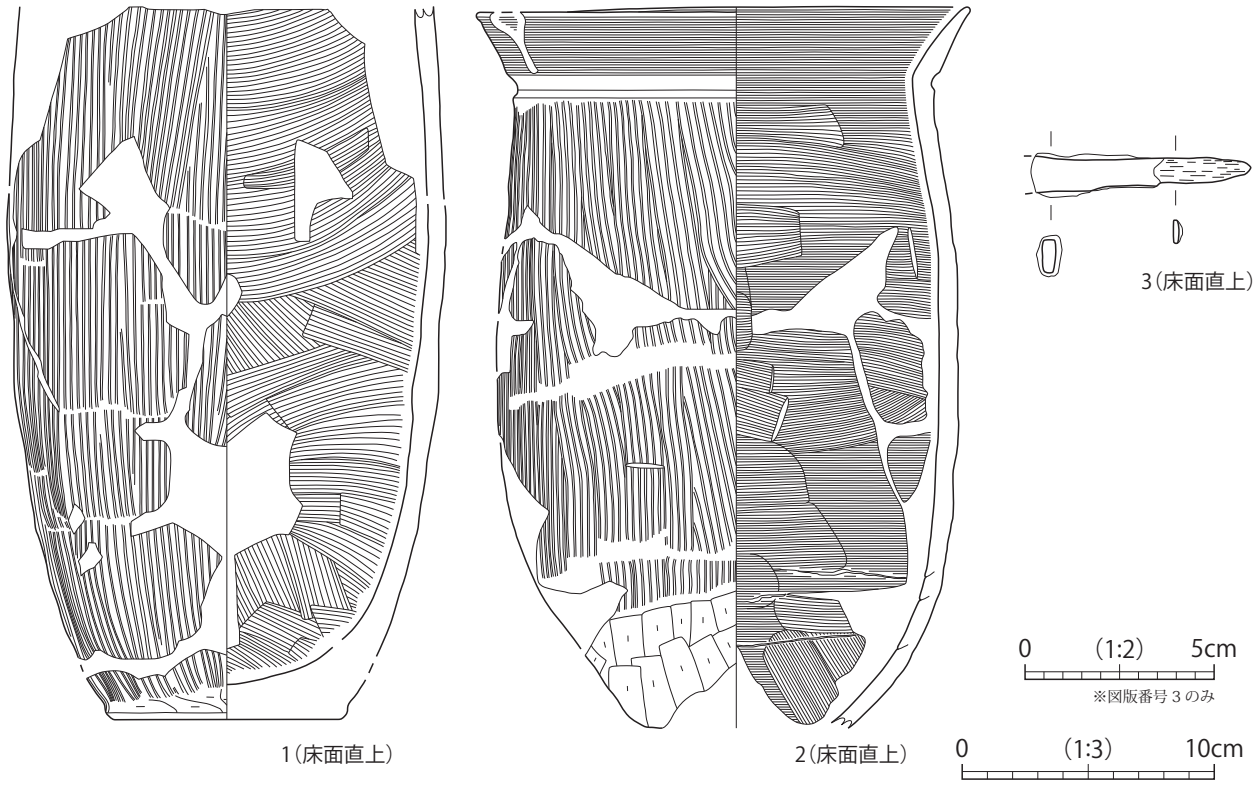


図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-131	第9次	SI318	掘り方	土師器	坏	(15.0)	—	(3.0)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		108
2	C-129	第9次	SI318	床面直上	土師器	坏	(15.8)	—	(4.0)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		108
3	C-125	第9次	SI318	床面直上	土師器	坏	(14.8)	—	4.1	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、輪積み痕	ヘラミガキ、黒色処理		108
4	C-124	第9次	SI318	堆積土	土師器	坏	14.8	—	4.2	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、底面線刻「×」	ヘラミガキ、黒色処理		108
5	C-130	第9次	SI318	床面直上	土師器	坏	(13.4)	(5.0)	4.7	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、底面線刻「×」、黒色処理	ヘラミガキ、黒色処理		108
6	C-127	第9次	SI318	床面直上	土師器	鉢	(19.2)	—	(10.3)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ		109
7	C-133	第9次	SI318	堆積土	土師器	高坏	—	(11.8)	(10.2)	坏部から脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラナデ、脚端部ヨコナデ	三角形の透孔3ヶ所	108
8	E-031	第9次	SI318	床面直上	須恵器	坏	(13.6)	6.0	6.0	ロクロ調整、底部回転ヘラ切り→ナデ	ロクロ調整		109

第 130 図　SI318 竪穴住居跡出土遺物（1）

キザミが認められる。6 の鉢は口縁部と体部との境目に稜をもち、口縁部は内湾気味に直立する。7 の高坏は脚部に三角形の透孔が 3 箇所ある。8 の須恵器坏は深みがあり、埦のような器形を呈する。第 131 図－ 1・2 の土師器甕はともに長胴甕で、口縁部に最大径をもつほぼ同一の器形と思われる。3 の金属製品は刀子の茎部で、先端部には木質が残存する。

【時期】 第 130 図－ 2・3・5・6・8、第 131 図－ 1・2 は床面上から出土し、これらの特徴から本竪穴住居跡の時期は 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-134	第9次	SI318	床面直上	土師器	甕	—	(9.0)	(28.3)	胴部ハケメ、胴部下端ヘラケズリ	ヘラナデ		108
2	C-135	第9次	SI318	床面直上	土師器	甕	(19.4)	—	(28.7)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→胴部下位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		109

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
3	N-005	第9次	SI318	床面直上	金属製品	刀子	(5.8)	0.9	0.3	4.0	茎部、木質残存	108

第 131 図　SI318 竪穴住居跡出土遺物（2）

SI319 竪穴住居跡（第 132 ～ 134 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 13・14・18・19 グリッドに位置する。SD180 との重複により東西に分断され、また他の重複遺構により北東コーナーおよび南西部分も失われている。

【重複】 SI320・332・340、SK319、Pit14・17 より新しく、SI316・318・325、SD180、SK288 より古い、

【規模・形態】 検出した規模は、南北 470cm、東西 529cm を測る。平面形状は南西側に若干広がる不整方形を呈する。

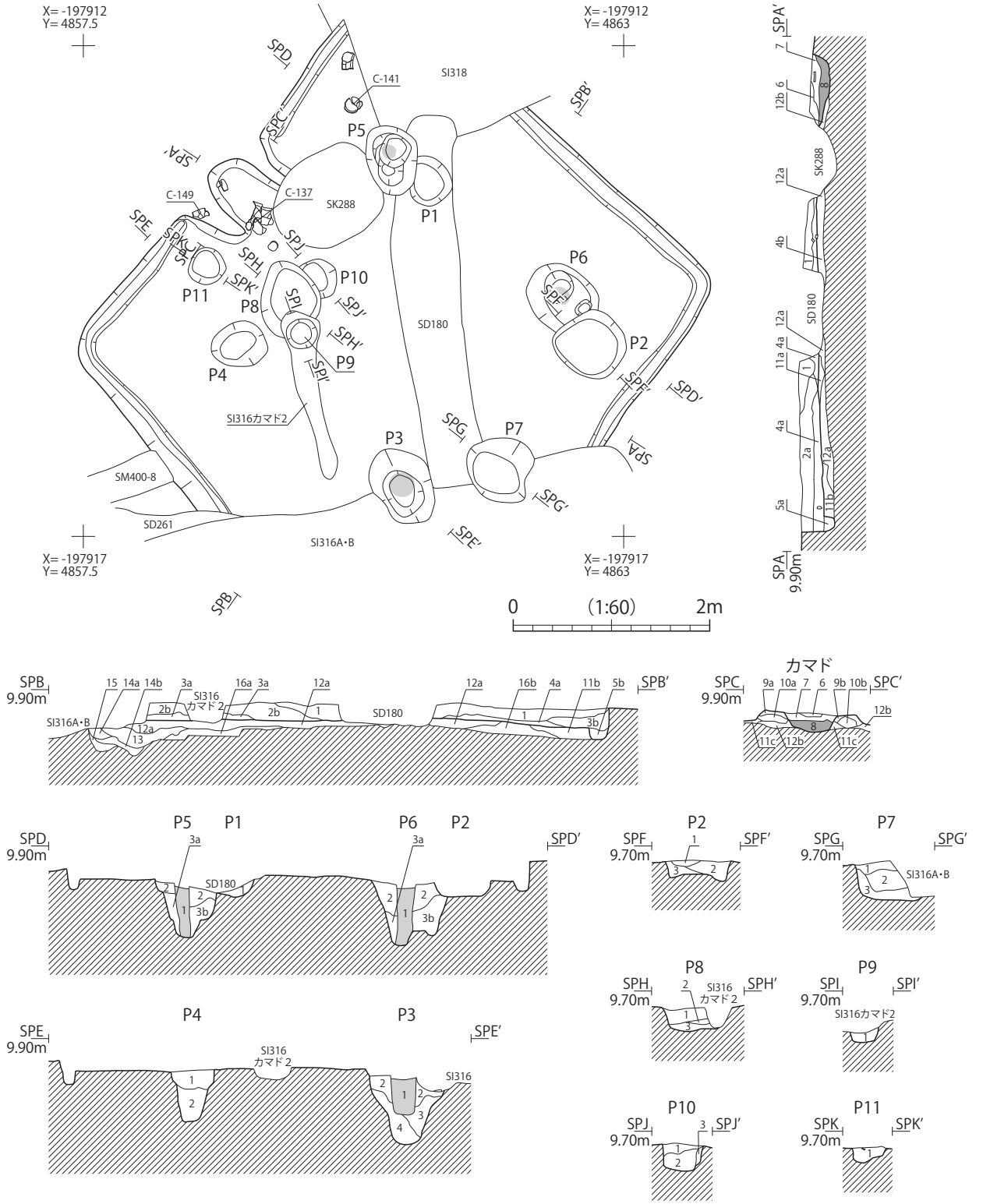
【方向】 カマド基準で N － 48° － W である。

【堆積土】 大別で 16 層、細別で 27 層に分層された。大別 1 ～ 4 層は住居堆積土で、5 層は周溝堆積土である。6 ～ 8 層はカマド関連の堆積土で、6 層は崩落した天井材と考えられる。9・10 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土が主体であるとみられる。11 ～ 16 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 全体的に直立気味に立ち上がるが、西壁は概ね直線的に外傾する。壁高は最大で 25cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 5 基(P3 ～ 6・9)を検出した。P3 ～ 6 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。P3・5・6 では柱痕跡が確認され、P3 で径 26cm、P5 で径 15cm、P6 で径 20cm を測る。P5・6 の底面には、柱痕跡とは



SI319 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	(47)×46	21	
P2	隅丸方形	68×66	20	
P3	楕円形	(81)×62	77	柱痕跡あり。
P4	円形	55×47	52	
P5	楕円形	(73)×(52)	60	柱痕跡あり。
P6	楕円形	(80)×63	67	柱痕跡あり。

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	円形	(66)×(64)	37	
P8	楕円形	(75)×64	25	
P9	円形	(31)×(30)	(15)	
P10	円形	40×(29)	27	焼土・炭化物多量(カマド関連か)
P11	円形	38×36	16	焼土・炭化物多量(カマド関連か)

第 132 図　SI319 竪穴住居跡

SI319 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2b	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	3a	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3b	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量含む。
	4a	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4b	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒多量含む。
周溝	5a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	5b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
カマド	6	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、炭化物粒多量含む。
	7	N3/0 暗灰色	シルト	焼土ブロック(5㎜程度)多量含む。炭化物粒と灰の混層。
	8	2.5YR4/2 灰赤色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒密、炭化物粒少量含む。全体にマンガン粒が点在。
カマド袖	9a	2.5YR5/2 灰赤色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒多量含む。一部にマンガン粒が点在。
	9b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土粒密、焼土粒・炭化物粒少量含む。全体にマンガン粒が点在。
	10a	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒密、炭化物粒少量含む。全体にマンガン粒が点在。
	10b	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土粒密、Ⅳ層土粒・炭化物粒少量含む。全体にマンガン粒が点在。
住居掘り方	11a	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	11b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)多量、炭化物粒微量含む。
	11c	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。全体にマンガン粒が点在。
	12a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)密、炭化物粒微量含む。
	12b	2.5YR5/2 灰赤色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。全体にマンガン粒が点在。
	13	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	14a	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。
	14b	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	15	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)密、炭化物粒微量含む。
	16a	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	16b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。

SI319 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)密に含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土密、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)多量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒少量含む。
	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。
P5	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒少量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3a	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)密に含む。
	3b	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
P6	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。
	3b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。
P8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
P9	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P10	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)密、焼土ブロック・炭化物粒少量含む。
	2	2.5YR3/2 暗赤褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒多量含む。
	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、炭化物粒微量含む。
P11	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。※風化炭化物層

別の位置にも柱材の圧痕とみられる窪みが存在し、建て替えなどが行われた可能性が考えられる。P9 は重複する SI316B のカマド煙道部先端から検出されており、煙出しの掘り込みである可能性も考えられるが、調査時の所見を優先して本竪穴住居跡の柱穴とした。

【周溝】 残存部分では、全体の壁面に沿って巡る。規模は、幅 13 ～ 19cm、深さ 6 ～ 19cm を測る。

【カマド】 北壁の中央から若干西によって位置し、壁面に直交して付設される。削平の影響を受け、煙道部は失われている。また東袖の先端も SK288 との重複により失われている。袖の規模は、東袖が残存部で長さ 56cm、幅 26 ～ 38cm、西袖が長さ 68cm、幅 26 ～ 40cm を測り、北壁に直交して延びる。燃焼部は奥行き 73cm、幅 56cm、奥壁高 16cm を測り、壁内に位置する。底面は 4cm 程皿状に窪む。被熱は弱く、底面や壁面の焼土化は

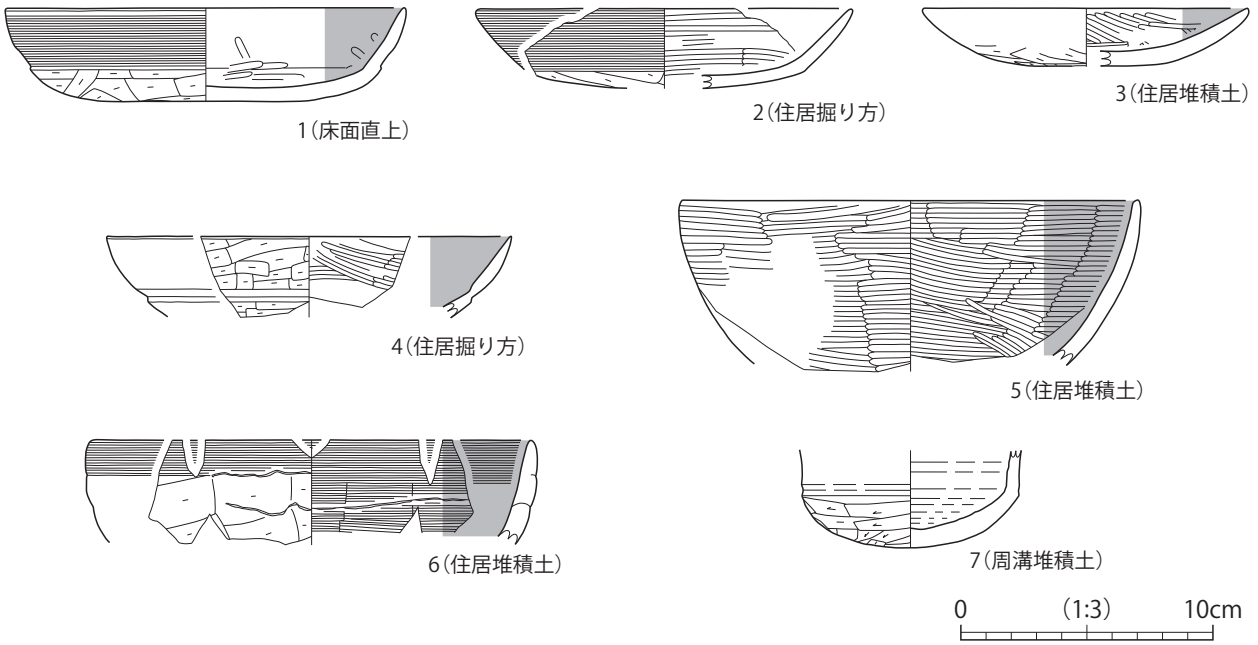
あまり進んでいない。

【その他の施設】 土坑 P2・7・8、ピット P1・10・11 を検出した。いずれも人為的に埋め戻されている。P10・11 は埋土中に多量の焼土や炭化物が含まれ、カマドとの関連が考えられる。ただし、P11 はカマドの西脇に配置されていることから、もともとは貯蔵穴として機能していた可能性が高い。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面はカマド前方から床面中央部分が帯状に高まり、土坑状もしくはピット状の窪みが散在する。深さは、12 ～ 23cm を測る。

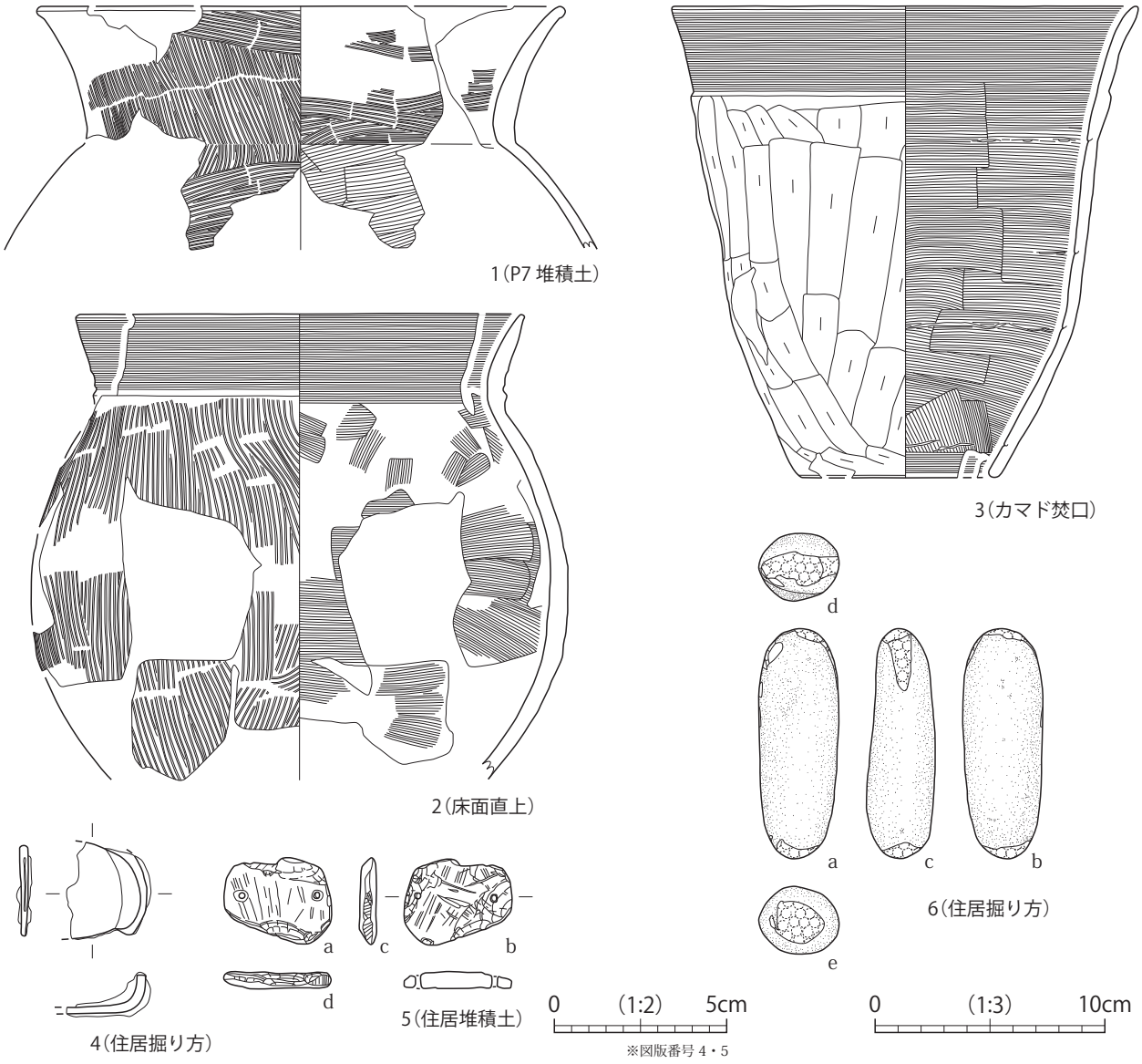
【出土遺物】 土師器坏 4 点、鉢 2 点、甕 2 点、甑 1 点、須恵器坏 1 点、金属製品 1 点、石製品 1 点、礫石器 1 点を掲載した（第 133・134 図）。第 133 図－ 1 ～ 4 の土師器坏は口縁部が直線的に外傾し、1 ～ 3 の底部はいずれも扁平である。特に 3 は見込みまでがかなり浅く、皿のような器形を呈する。4 の坏は口縁部にヘラケズリを施した、特徴的な調整にて成形される。口縁部と体部との境目には、階段状の稜が巡る。5・6 の鉢はともに体部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がり、5 は内外面にミガキを施したシャープな作りである。7 の須恵器坏は見込みまでが深い埦状の器形を呈し、体部と口縁部との境界には沈線を巡らしている。第 134 図－ 4 の金属製品は鉄製鎌の基部で、木柄への装着部は端部を折り曲げて作られている。5 の石製品は有孔円盤で、一対の貫通孔が穿たれている。6 の礫石器は敲石で、d・e 面には弱い敲打痕が認められる。

【時期】 第 133 図－ 1 は床面上から、同図－ 7 は周溝内、第 134 図－ 3 はカマド焚口から出土した。これらの特徴から、本竪穴住居跡の時期は 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-141	第9次	SI319	床面直上	土師器	坏	(15.8)	－	3.7	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		109
2	C-147	第9次	SI319	掘り方	土師器	坏	(14.3)	－	(3.2)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ		109
3	C-139	第9次	SI319	堆積土	土師器	坏	(12.8)	－	2.3	口縁部不明、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	外面剥落	109
4	C-146	第9次	SI319	掘り方	土師器	坏	16.0	－	(3.2)	ヘラケズリ、口縁部と体部の境目のみヨコナデ	ヘラミガキ、黒色処理		109
5	C-140	第9次	SI319	堆積土	土師器	鉢	18.0	－	(6.5)	ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		109
6	C-150	第9次	SI319	堆積土	土師器	鉢	(17.4)	－	(4.1)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、輪積み痕、黒色処理		109
7	E-032	第9次	SI319	周溝堆積土	須恵器	坏	－	－	(3.9)	ロクロ調整、体部から底部ヘラケズリ	ロクロ調整		109

第 133 図　SI319 竪穴住居跡出土遺物（1）



※図版番号 4・5

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-138	第9次	SI319	P7 堆積土	土師器	甕	(22.7)	—	(10.6)	ハケメ	口縁部ハケメ、胴部ヘラナデ		109
2	C-149	第9次	SI319	床面直上	土師器	甕	(19.2)	—	(20.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	内外面摩滅	109
3	C-137	第9次	SI319	カマド焚口	土師器	甑	20.1	(8.5)	20.5	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		109

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
4	N-006	第9次	SI319	掘り方	金属製品	鉄鎌	(2.4)	2.8	0.2	6.3	基部	109

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
5	Kd-005	第9次	SI319	堆積土	石製品	石製模造品（有孔円盤）	2.5	3.1	0.5	5.5	黒色片岩	a・b面線状痕、外周ケズリ整形、貫通孔2箇所、上部節理にて欠損	109
6	Kc-044	第9次	SI319	掘り方	礫石器	敲石	10.1	3.5	3.0	90.2	凝灰岩	d・e面敲（弱）	109

第 134 図　SI319 竪穴住居跡出土遺物（2）

SI320 竪穴住居跡（第 135・136 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 14・19 グリッドに位置する。重複遺構により、北西部分は壁を中心に失われている。

【重複】 SI340、SK319 より新しく、SI316A・316B・319 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 458cm、東西 488cm を測る。平面形状は北西側が広がる不整方形と推定される。

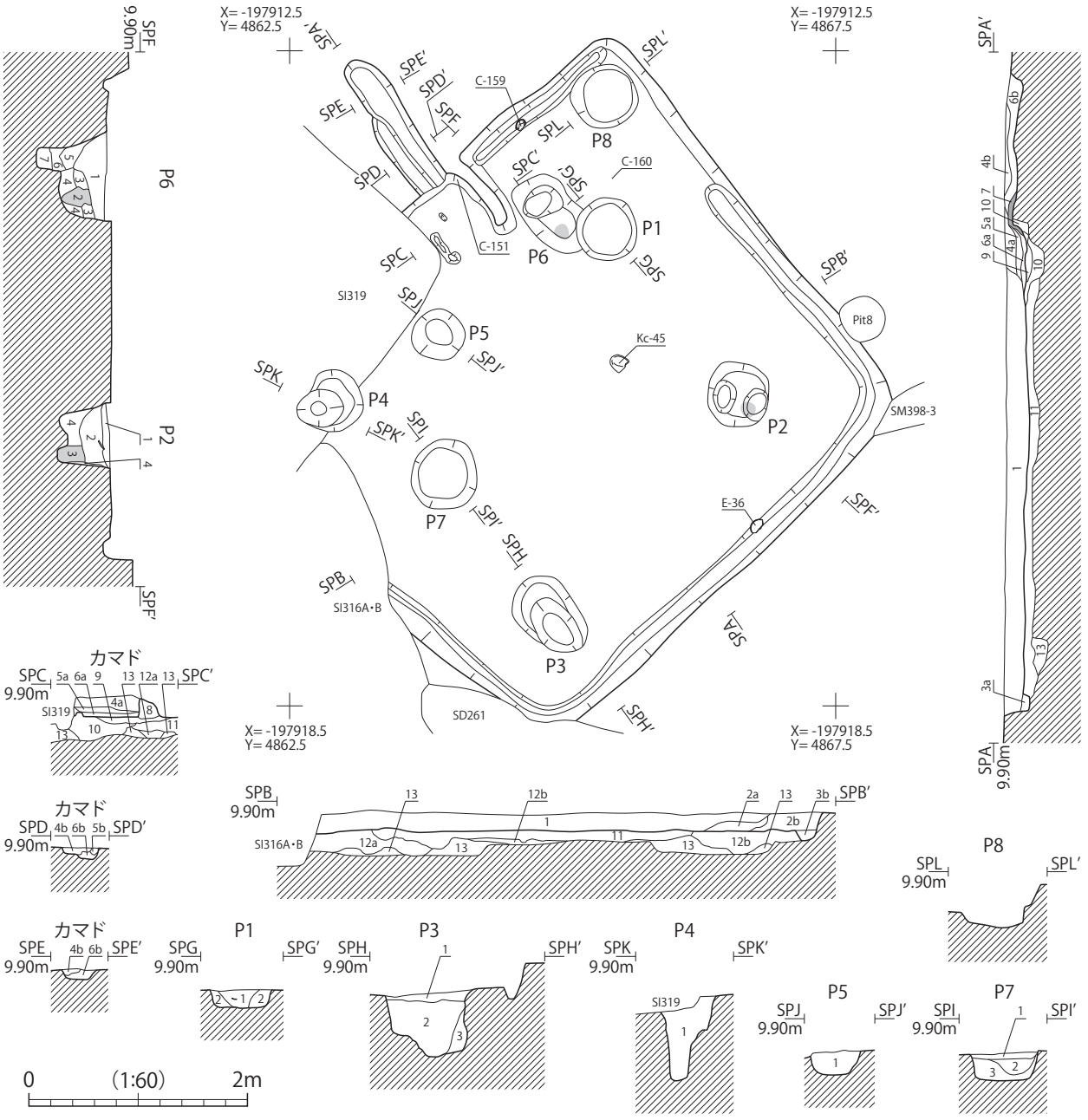
【方向】 カマド基準で N － 36° － W である。

【堆積土】 大別で 13 層、細別で 19 層に分層された。大別 1・2 層は住居堆積土で、3 層は周溝堆積土である。4 ～ 7 層はカマド関連の堆積土で、4a 層は崩落した天井材とみられる。8 層はカマド袖の構築土であるが、基本層Ⅳ層土の使用は認められない。9・10 層はカマド掘り方の埋土で、11 ～ 13 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 24cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P2 ～ 4・6）を検出した。いずれも規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。西側に広がる台形状に配置されている。P2・6 では柱痕跡が確認され、P2 で径 15cm、P6 で径 14cm を測る。P2・



第 135 図　SI320 竪穴住居跡

SI320 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2a	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
周溝	3a	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
カマド	4a	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4b	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	5a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	5b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土主体。
	6a	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒多量含む。
	6b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(10～20㎜程度)・炭化物粒多量含む。
	7	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土層。
カマド袖	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(20～30㎜程度)密に含む。
カマド掘り方	9	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒多量含む。※風化炭化物層
	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・焼土粒多量、炭化物粒少量含む。
住居掘り方	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	12a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	12b	10YR5/6 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)密に含む。
	13	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。砂質強い。

SI320 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	4	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土主体。炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土主体。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)密、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、焼土粒少量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)密、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。※柱痕跡
	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。砂質強い。
	4	10YR6/6 明黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土主体。炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
P7	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒褐色シルト粒多量含む。
P8	—	—	—	註記なし。

SI320 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	58×56	18	
P2	円形	59×56	49	柱痕跡あり。
P3	楕円形	80×52	64	
P4	不整円形	(60)×(56)	77	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	46×46	22	
P6	楕円形	81×46	67	柱痕跡あり。
P7	円形	68×62	26	
P8	円形	58×57	19	貯蔵穴か。

6 の底面には柱痕跡と別の位置に柱材の圧痕とみられる窪みが存在し、建て替えが行われたと考えられる。

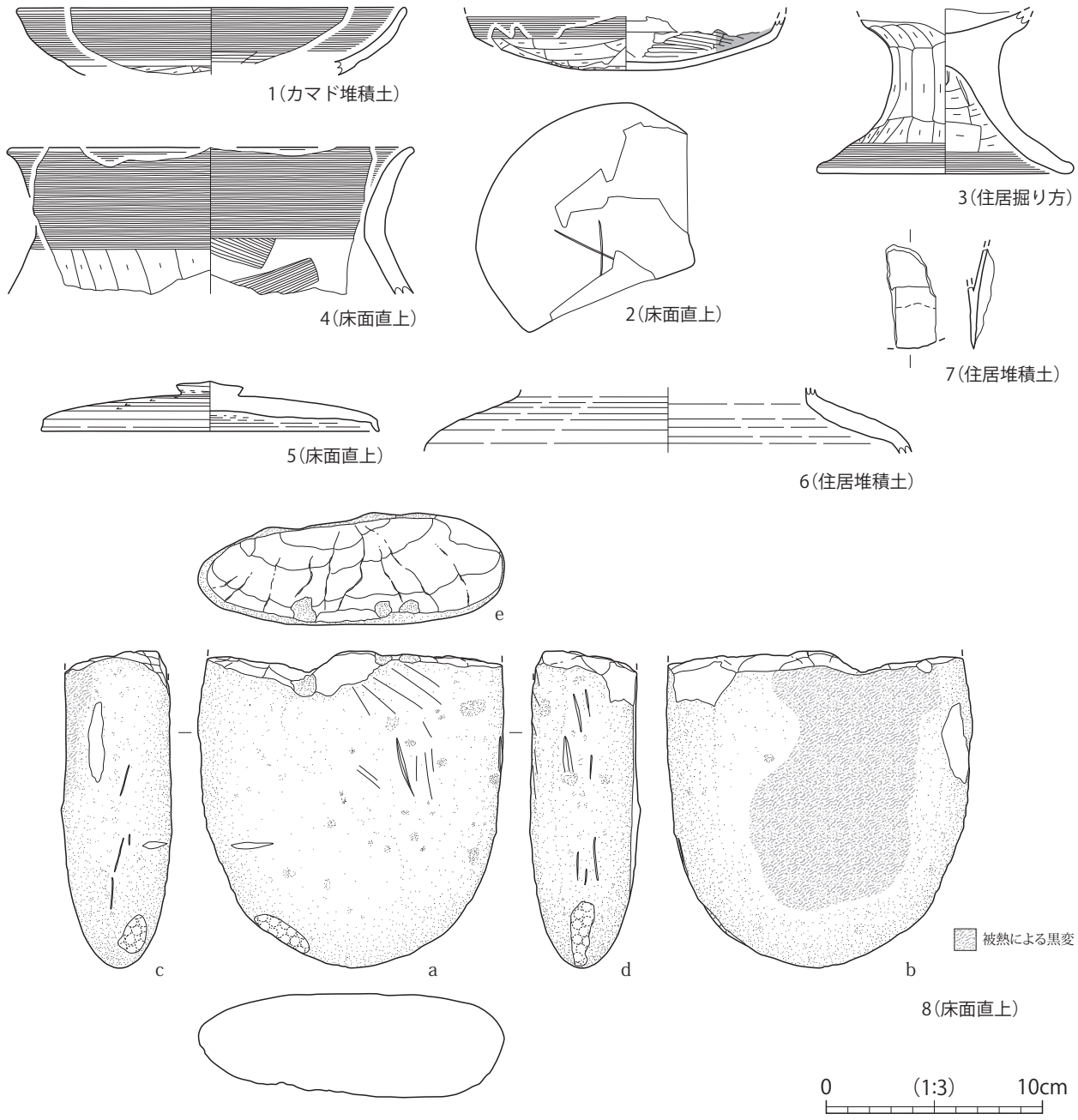
【周溝】 北東コーナーから東壁の 154cm 程が断続するが、それ以外は壁に沿って巡ると思われる。規模は、幅 13 ～ 25cm、深さ 3 ～ 11cm を測る。

【カマド】 北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。西袖のほとんどは失われている。東袖の規模は、長さ 78cm、幅 22 ～ 26cm、北壁に直交して延びる。燃焼部は奥行き 70cm、幅 55cm、奥壁高 13cm を測り、壁内に位置する。底面はやや起伏する。被熱は弱く、底面や壁面の焼土化はあまり進んでいない。

煙道部は長さ 140cm、幅 31 ～ 37cm、深さ 9 ～ 12cm を測り、底面は煙出し方向へ緩やかに下がる。西壁にはテラス状の段差が認められるが、造り替えの痕跡かどうかは明らかにできなかった。

【その他の施設】 土坑 P1・5・7・8 を検出した。P5・7 は人為的に埋め戻されている。P8 は北東コーナーに配置されており、貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は中央から南壁にかけての部分と、東壁際が高まっている。深さは、6 ～ 24cm を測る。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-151	第9次	SI320	カマド堆積土	土師器	坏	(19.8)	—	(3.1)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		110
2	C-159	第9次	SI320	床面直上	土師器	坏	(14.7)	—	(2.5)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、底面線刻「×」	ヘラミガキ、黒色処理		110
3	C-161	第9次	SI320	掘り方	土師器	高坏	—	11.4	(7.6)	体部から脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ	脚部ヘラケズリ、脚端部ヨコナデ		110
4	C-160	第9次	SI320	床面直上	土師器	甕	(18.6)	—	(6.8)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		110
5	E-036	第9次	SI320	床面直上	須恵器	蓋	(15.6)	—	2.3	ロクロ調整	ロクロ調整		110
6	E-035	第9次	SI320	堆積土	須恵器	壺	—	—	(3.0)	ロクロ調整	ロクロ調整		110

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
7	N-007	第9次	SI320	堆積土	金属製品	不明鉄製品	(4.8)	2.0	0.6	11.8		110

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
8	Kc-045	第9次	SI320	床面直上	礫石器	台石	14.7	14.3	5.0	935.9	凝灰岩	a面線状・溝状痕、c・d面線状・溝状痕+下端敲(弱)、e面剥離(打撃による分割)	110

第 136 図　SI320 竪穴住居跡出土遺物

【出土遺物】 土師器坏 2 点、高坏 1 点、甕 1 点、須恵器蓋 1 点、壺 1 点、金属製品 1 点、礫石器 2 点を掲載した（第 136 図）。第 136 図－ 2 の土師器坏は、底部外面に「×」字状のキザミが認められる。3 の高坏脚部は厚手で重量感のある作りであり、裾部はラッパ状に開く。5 の須恵器蓋は扁平な擬宝珠状のツマミをもち、カエリは端部につく。7 の金属製品は器種不明の板状鉄製品である。8 の礫石器は台石である。a ～ c 面には敲打痕のほか、線状痕や溝状痕がまばらに認められる。

【時期】 第 136 図－ 2・4・5 は床面上から、同図－ 1 はカマド内部から出土した。これらの特徴から、本竪穴住居跡の時期は 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）と考えられる。

SI321 竪穴住居跡（第 137 ～ 140 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北部の 08・13 グリッドに位置する。部分的に重複遺構による破壊を受けるが、残存状態は比較的良好である。

【重複】 SI327・328、SK318、Pit53・139・164・188 より新しく、SK290 より古い。範囲的には SB39 とも重複するが、新旧関係は明らかでない。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 500cm、東西 497cm を測る。平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマド基準で N － 13° － W である。

【堆積土】 大別で 20 層、細別で 24 層に分層された。大別 1 ～ 3 層は住居堆積土で、4 層は周溝堆積土である。5 ～ 13 層はカマド関連の堆積土で、5 層は崩落した天井材とみられる。14・15 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土が主体であると思われる。16 ～ 20 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 13cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）を検出した。いずれも規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。P1 では柱痕跡が確認され、径 15cm を測る。

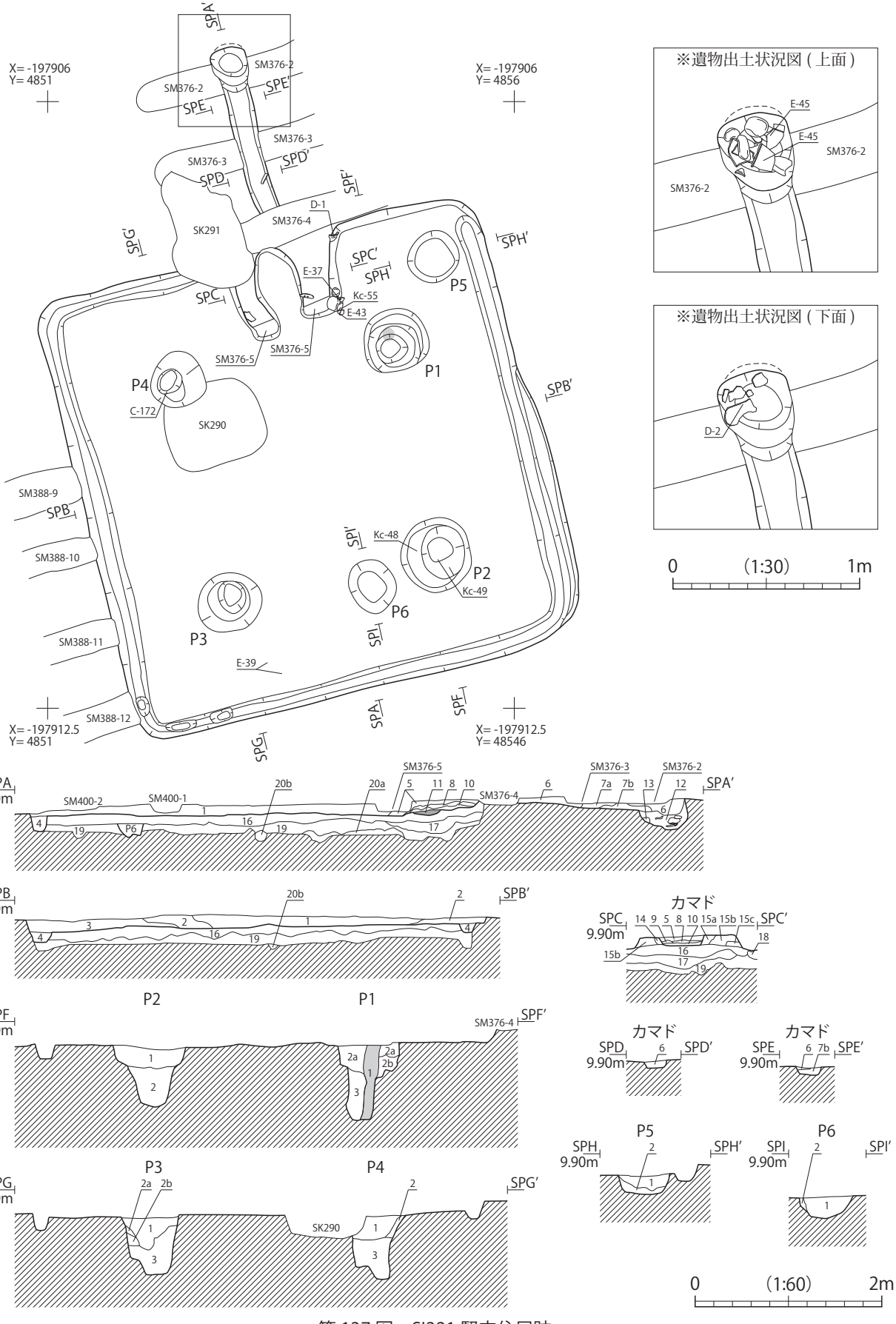
【周溝】 北東コーナーからカマドの間が断続するが、概ね全体の壁に巡る。規模は、幅 16 ～ 29cm、深さ 4 ～ 16cm を測る。

【カマド】 北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。重複遺構によって袖の先端や奥壁上部など、部分的に失われている。袖の規模は、東袖が長さ 92cm、幅 44 ～ 52cm、西袖が長さ 104cm、幅 30 ～ 32cm を測り、北壁に直交して延びる。袖材には土器の破片や礫などを埋め込み、補強材としている。東袖内からは第 256 図－ 2 の石包丁が出土した（第 2 分冊「弥生時代の遺構と遺物」参照）。燃焼部は奥行き 86cm、幅 39cm を測り、壁内に位置する。底面はやや起伏する。被熱は弱く、底面や壁面の焼土化はあまり進んでいない。煙道部は長さ 230cm、幅 38cm、深さ 32cm を測り、底面は煙出し方向へ緩やかに下がる。煙出し部分はピット状に掘り込まれ、ここからは第 139 図－ 3 の土師器甕、同図－ 10 の須恵器甕や礫が折り重なって出土した。これらの甕は煙突材や雨受けなどに転用されていたと考えられる。

【その他の施設】 土坑 P5・6 を検出した。P5 は北東コーナーに配置されており、貯蔵穴と考えられる。P6 は機能不明だが、堆積土の状況から本竪穴住居跡が使用されていた当時は開口していたと思われる。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面には土坑状もしくはピット状の窪みが多数みられる。深さは、17 ～ 26cm を測る。

【出土遺物】 土師器鉢 1 点、甕 5 点、須恵器坏 3 点、盤 1 点、壺 1 点、甕 2 点、礫石器 5 点を掲載した（第 138 ～ 140 図）。第 138 図－ 1 の土師器鉢は口縁部が外反し、体部との境目に明瞭な稜をもつ。第 139 図－ 2 ～ 4 の甕はロクロ調整されており、口縁部はかなり強く外反する。6 の須恵器坏は底部を回転ヘラ切り離し後、手持ちヘ



第 137 図　SI321 竪穴住居跡

SI321 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、褐灰色土(斑状)、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土粒微量、褐灰色土(斑状)含む。
周溝	4	10YR3/1 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
カマド	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(10㎜程度)・白色粒・焼土粒微量含む。下位若干被熱により赤化。
	6	10YR4/4 褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(10㎜程度)・白色粒微量含む。
	7a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(5㎜程度)・焼土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	7b	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	8	7.5YR4/2 灰褐色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	9	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒多量、灰少量含む。
	10	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒・灰多量、焼土ブロック(5㎜程度)少量含む。
	11	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	焼土層。Ⅳ層土粒少量含む。
	12	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒主体。Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	13	10YR7/1 灰白色	シルト	炭化物粒(斑状)少量含む。
カマド袖	14	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	白色粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	15a	10YR4/4 褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、白色粒・炭化物粒微量含む。
	15b	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	15c	10YR4/4 褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量含む。
住居掘り方	16	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	17	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
	18	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒多量、焼土粒少量含む。
	19	2.5YR5/2 灰赤色	砂質シルト	細砂主体。Ⅳ層土(斑状)少量含む。
	20a	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
	20b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。

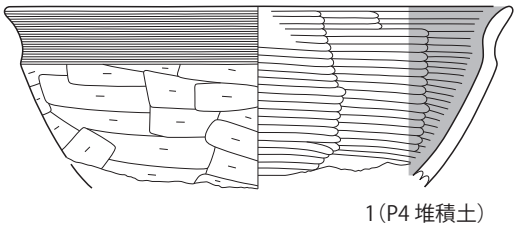
SI321 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2a	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土(斑状)、炭化物粒微量含む。
	2b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)・Ⅳ層土粒密、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/1 褐灰色	微砂	灰色土粒少量、Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・Ⅳ層土粒密、黒色土粒・炭化物粒微量含む。
	2b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒・炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土ブロック(10～30㎜程度)少量含む。下位は粘性が強い。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(10㎜程度)・炭化物粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密に含む。
P6	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	微砂	Ⅳ層土粒多量含む。

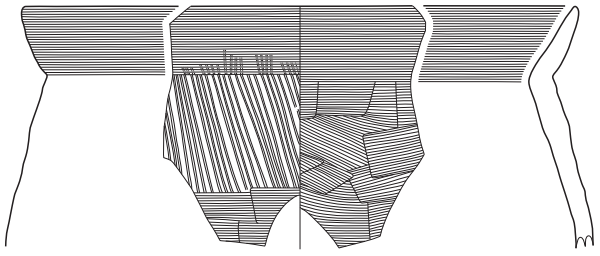
SI321 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P1	楕円形	70×66	83	柱痕跡あり。
P2	円形	79×76	66	
P3	楕円形	68×63	70	

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P4	楕円形	(60)×56	60	
P5	円形	58×52	22	貯蔵穴か。
P6	楕円形	56×49	26	



1(P4 堆積土)

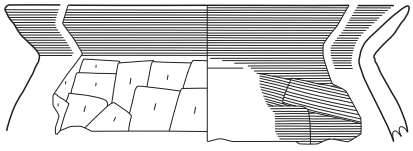


2(住居堆積土)

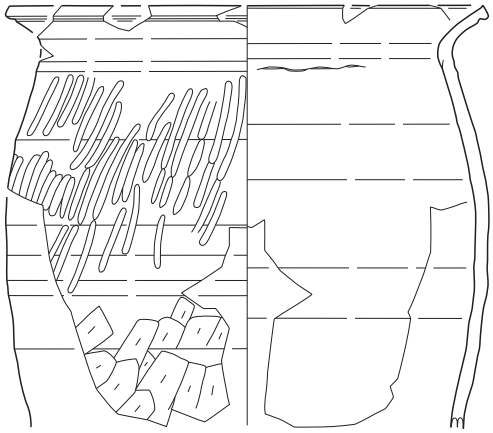
0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-172	第9次	SI321	P4 堆積土	土師器	鉢	(20.0)	—	(7.2)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		110
2	C-170	第9次	SI321	堆積土	土師器	甕	(21.8)	—	(9.5)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		110

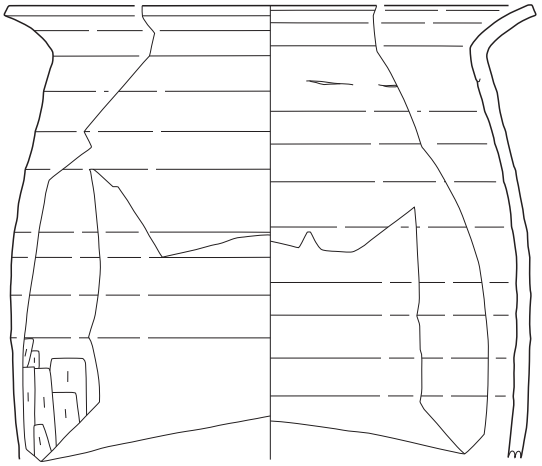
第 138 図　SI321 竪穴住居跡出土遺物（1）



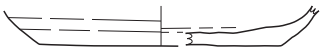
1（P2 堆積土）



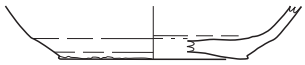
2（カマド袖内）



3（カマド煙道部）

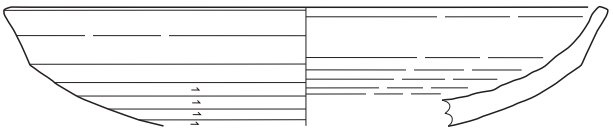


6（住居堆積土）

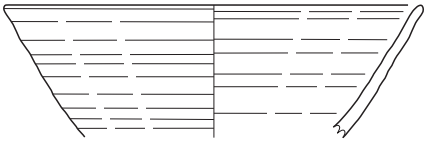


7（住居堆積土）

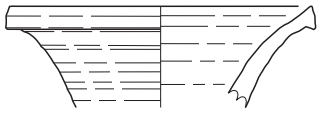
4（住居堆積土）



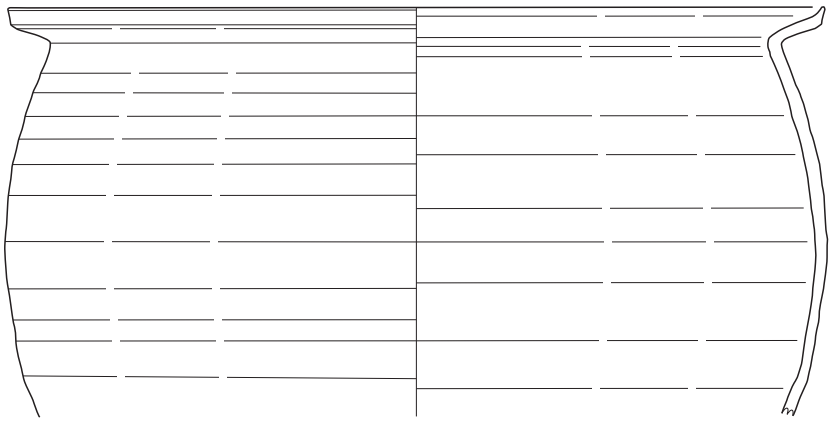
8（住居堆積土）



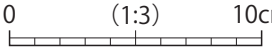
5（カマド袖内）



9（住居掘り方）

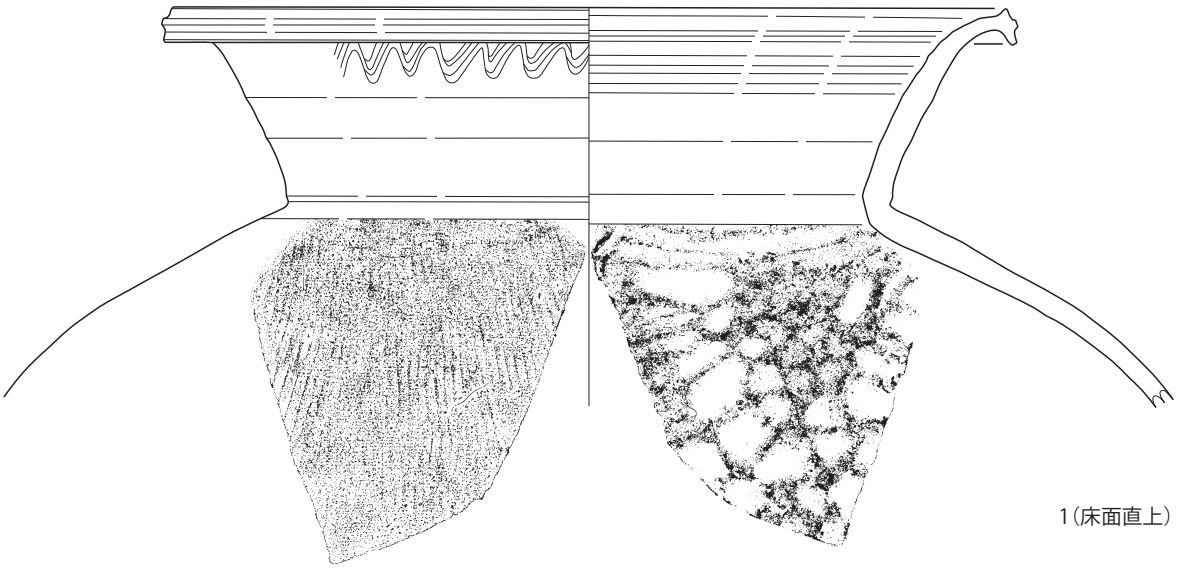


10（カマド煙道部）

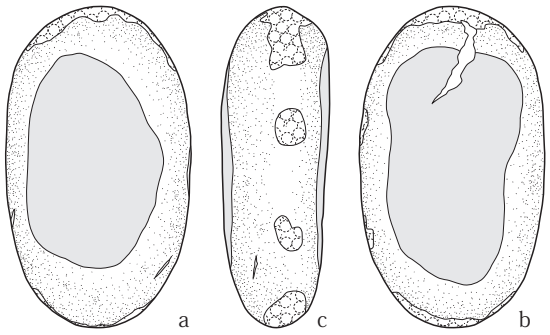


図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-171	第9次	SI321	P2 堆積土	土師器	甕	(17.9)	—	(5.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		110
2	D-001	第9次	SI321	カマド袖内	ロクロ土師器	甕	18.8	—	(16.7)	ロクロ調整→胴部上半ヘラミガキ、胴部下半ヘラケズリ、輪積み痕	ロクロ調整、輪積み痕		110
3	D-002	第9次	SI321	カマド煙道部	ロクロ土師器	甕	(20.8)	—	(18.0)	ロクロ調整、胴部下半ヘラケズリ	ロクロ調整		111
4	D-003	第9次	SI321	堆積土	ロクロ土師器	甕	(16.0)	—	(8.0)	ロクロ調整	ロクロ調整		110
5	E-043	第9次	SI321	カマド袖内	須恵器	坏	(16.5)	—	(5.3)	ロクロ調整	ロクロ調整		111
6	E-037	第9次	SI321	堆積土	須恵器	坏	—	9.6	(1.6)	ロクロ調整、底部回転ヘラ切り→ナデ	ロクロ調整		111
7	E-038	第9次	SI321	堆積土	須恵器	坏	—	(7.5)	(2.1)	ロクロ調整、底部回転糸切り	ロクロ調整		111
8	E-040	第9次	SI321	堆積土	須恵器	盤	(23.3)	—	(4.7)	ロクロ調整、体部から底部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		111
9	E-044	第9次	SI321	掘り方	須恵器	壺	(12.0)	—	(4.0)	ロクロ調整	ロクロ調整		111
10	E-045	第9次	SI321	カマド煙道部	須恵器	甕	(32.4)	—	(16.2)	ロクロ調整	ロクロ調整		111

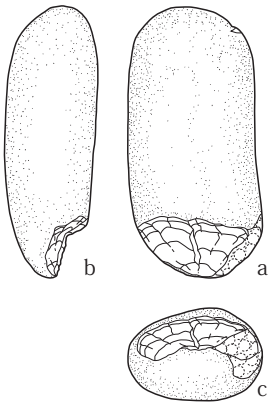
第 139 図　SI321 竪穴住居跡出土遺物（2）



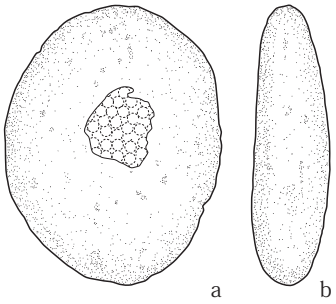
1（床面直上）



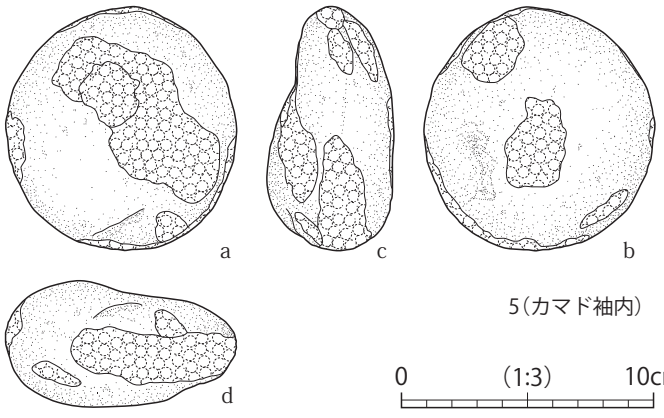
2（床面直上）



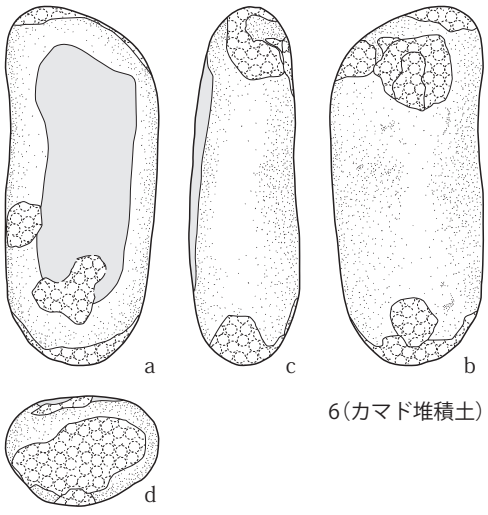
3（床面直上）



4（カマド堆積土）



5（カマド袖内）



6（カマド堆積土）

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-039	第9次	SI321	床面直上	須恵器	甕	(33.0)	—	(15.8)	ロクロ調整、口縁部櫛描波状文、胴部平行タタキ、自然釉	ロクロ調整、口縁から頸部自然釉、体部当て具痕		111

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
2	Kc-048	第9次	SI321	床面直上	礫石器	磨+敲石	12.8	7.4	4.4	484.5	安山岩	a・b面磨(弱)、c面敲(弱)	111
3	Kc-049	第9次	SI321	床面直上	礫石器	敲石	10.9	5.2	3.6	311.5	安山岩	c面敲(弱)→剥離	112
4	Kc-051	第9次	SI321	カマド堆積土	礫石器	敲石	11.0	8.6	2.9	318.1	多孔質安山岩	a面敲(弱)	112
5	Kc-055	第9次	SI321	カマド袖内	礫石器	敲石	9.7	9.1	5.1	352.9	凝灰岩	a面敲(弱)→凹1箇所、b面敲(弱)、c・d面敲(弱)	112
6	Kc-052	第9次	SI321	カマド堆積土	礫石器	磨+敲石	14.3	6.2	4.4	508.5	安山岩	a面磨(弱)→敲(弱)、b面両端敲(弱・中)、d面敲(弱)	111

第 140 図　SI321 竪穴住居跡出土遺物（3）

ラケズリを施す。これに対し 7 の坏は、底部が回転糸切り離しである。10 の甕は口縁部が 2 ～ 4 の土師器甕と同様に強く外反し、端部が受口状に立ち上がる。礫石器は第 140 図－ 2・6 が磨＋敲石、3 ～ 5 が敲石である。5 は a ～ d の各面に敲打痕が認められる。

【時期】 掲載した土器のうち、床面上やカマド袖などから出土した第 139 図－ 2・3・5・10、第 140 図－ 1 の特徴から、本竪穴住居跡の時期は 6b 期（8 世紀中葉～末葉）の中でも後半以降と考えられる。

SI322 竪穴住居跡（第 141 ～ 143 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北西部の 03・07 グリッドに位置する。中世～近世の SM388 との重複により、北壁は失われている。

【重複】 SI324・335、Pit27 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 329cm、東西 300cm を測る。平面形状は東側が広がる不整方形を呈し、壁のラインは歪みが目立つ。

【方向】 カマド基準で N － 11°－ W である。

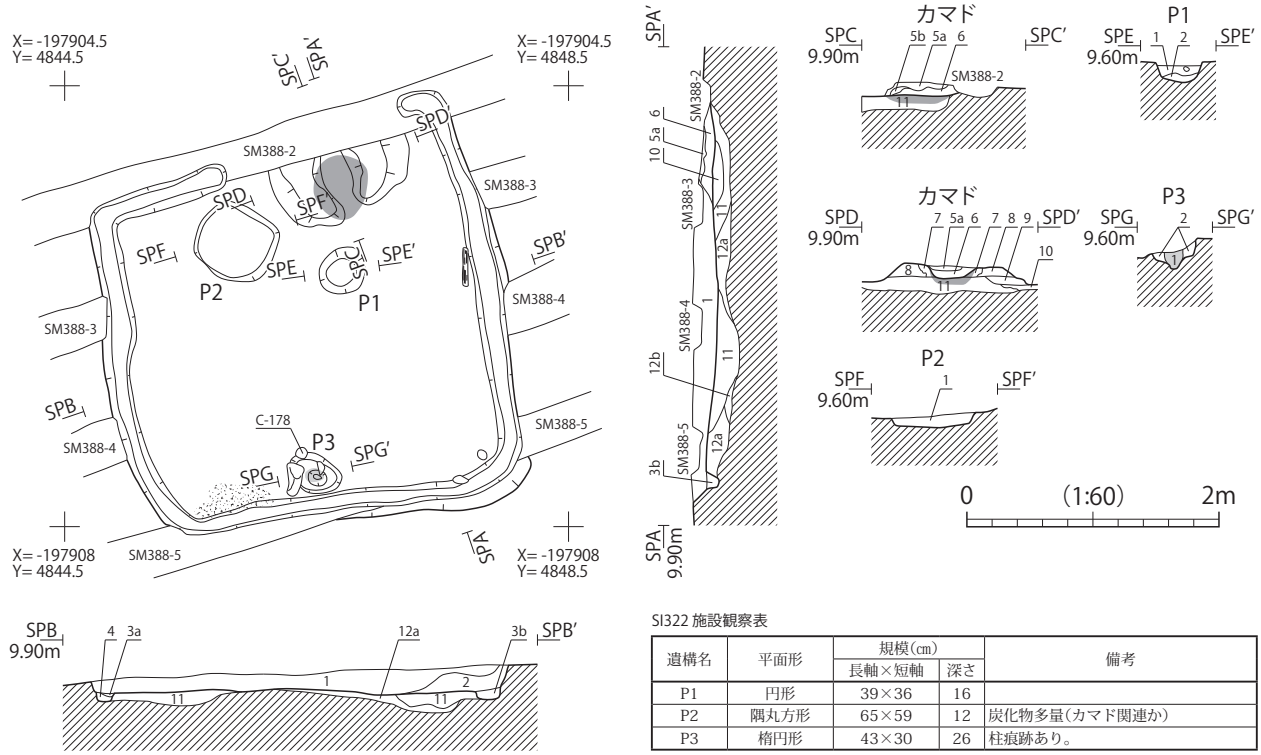
【堆積土】 大別で 12 層、細別で 15 層に分層された。大別 1・2 層は住居堆積土で、3・4 層は周溝堆積土である。5・6 層はカマド関連の堆積土で、7・8 層はカマド袖の構築土である。基本層Ⅳ層土を主体とする。9 ～ 12 層は住居掘り方の埋土である。本竪穴住居跡の堆積土は、全体的にグライ化が著しい。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 26cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 2 基（P1・3）を検出した。P1 はカマドの前方、P3 は南壁際に配置されている。P3 では柱痕跡が確認され、径 15cm を測る。

【周溝】 壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 14 ～ 24cm、深さ 3 ～ 10cm を測る。



SI322 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	39×36	16	
P2	隅丸方形	65×59	12	炭化物多量（カマド関連か）
P3	楕円形	43×30	26	柱痕跡あり。

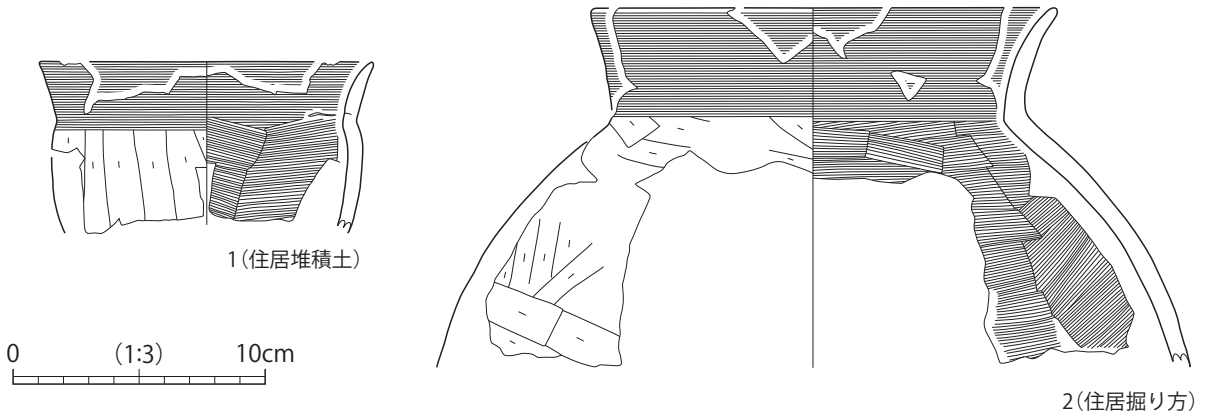
第 141 図　SI322 竪穴住居跡

SI322 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。A－A'では東2/3程が、B－B'では全体がグライ化。
	2	5Y4/1 灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。全体がグライ化。
周溝	3a	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	3b	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土主体。
	4	2.5Y6/4 にぶい黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。全体がグライ化。
カマド	5a	10YR7/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
	5b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒色土粒多量、炭化物粒微量含む。
	6	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒・灰多量、焼土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。粘性が強い。
カマド袖	7	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	焼土ブロック(10～40㎜程度)密に含む。
	8	10YR7/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
住居掘り方	9	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
	10	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、炭化物粒微量含む。
	11	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。全体がグライ化。
	12a	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・11層土粒多量含む。
	12b	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。11層土粒多量含む。

SI322 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	5GY5/1 オリーブ灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、1層土粒少量含む。
P2	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)・炭化物粒多量、焼土ブロック(5㎜程度)少量含む。
P3	1	2.5YR4/1 赤灰色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土(斑状)少量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	グライ化したⅣ層土粒少量含む。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-177	第9次	SI322	堆積土	土師器	甕	(13.0)	－	(6.8)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		112
2	C-178	第9次	SI322	掘り方	土師器	甕	(18.2)	－	(14.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	外面摩滅	112

第 142 図　SI322 竪穴住居跡出土遺物（1）

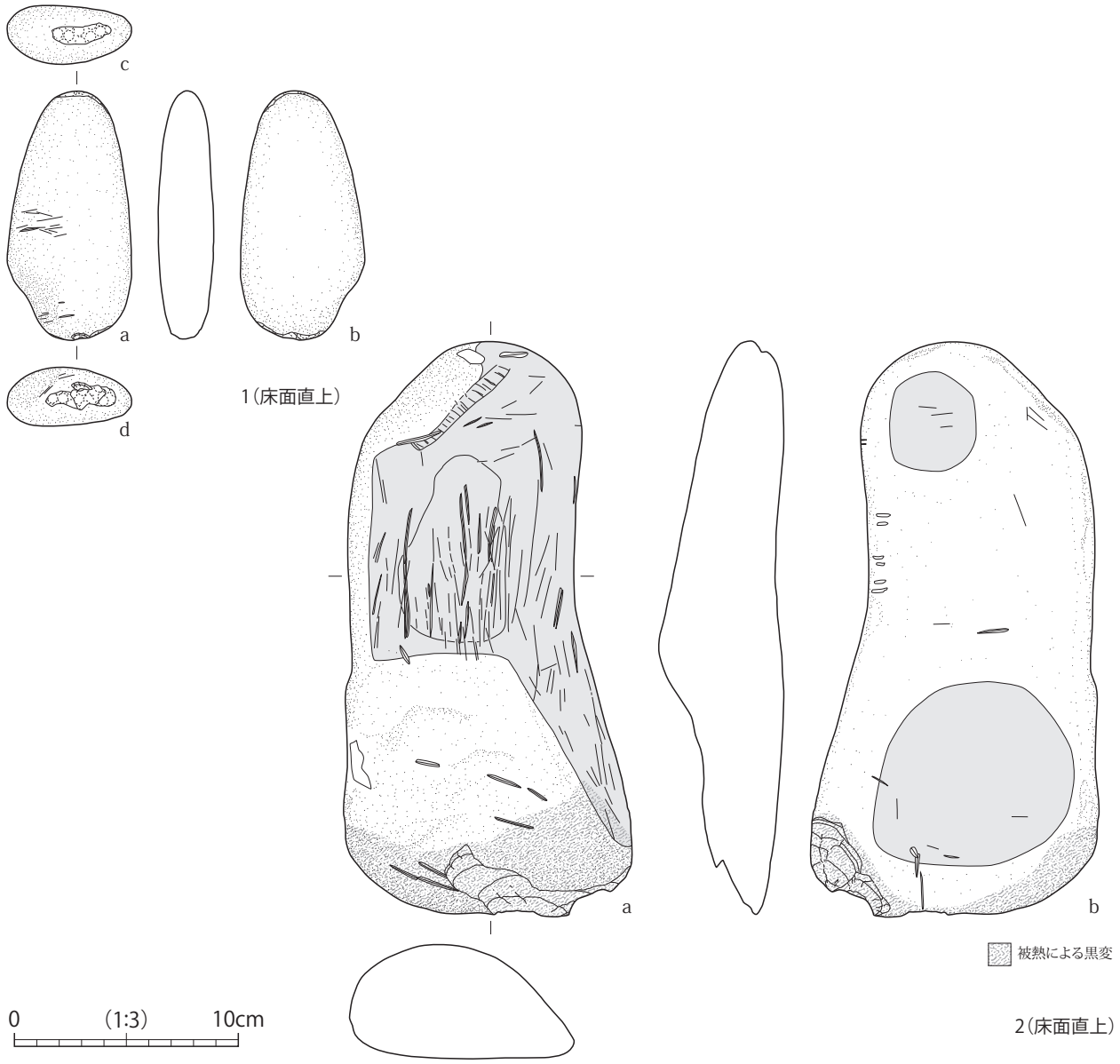
【カマド】 北壁の東寄りに位置し、壁面に直交して付設される。削平や重複遺構の影響を受け、奥壁から煙道部にかけて失われている。袖の規模は、東袖が長さ 78cm、幅 28 ～ 52cm、西袖が長さ 84cm、幅 24 ～ 42cm を測り、壁から若干内湾して延びる。燃焼部は奥行き 54cm、幅 39cm を測り、壁内に位置する。底面はやや起伏する。被熱は強く、底面の全体と壁面の前方が焼土化している。

【その他の施設】 土坑 P2 を検出した。カマドの脇に配置されている。人為的に埋め戻され、埋土中には炭化物を多量含む。カマドとの関連性が考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は起伏が激しく、中央の南寄り部分が島状に高まる。深さは、2 ～ 19cm を測る。

【出土遺物】 土師器甕 2 点、礫石器 2 点を掲載した（第 142・143 図）。第 142 図－ 1 の土師器甕は小型で口縁部に最大径をもち、胴部から底部に向かって窄まる器形である。2 の甕は球胴であると思われ、口縁部は弱く外反する。第 143 図－ 1・2 の礫石器は 1 が敲石、2 が磨石である。1 の a 面と 2 の a・b 面には線状痕や溝状痕が認められる。

【時期】 本竪穴住居跡の時期は、不明である。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層　位	種　別	器　種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石　材	備　　考	写真図版
1	Kc-056	第9次	SI322	床面直上	礫石器	敲石	11.2	5.6	2.7	221.9	安山岩	a面線状・溝状痕、c面敲(弱)、d面敲(弱・中)+敲打時の剥離	112
2	Kc-059	第9次	SI322	床面直上	礫石器	磨石	25.7	13.0	6.0	2480.0	変質玄武岩	a面磨(弱・強)→線状・溝状痕、b面磨(弱)→線状・溝状痕、下端剥離+被熱	112

第 143 図　SI322 竪穴住居跡出土遺物（2）

SI323 竪穴住居跡（第 144 図）

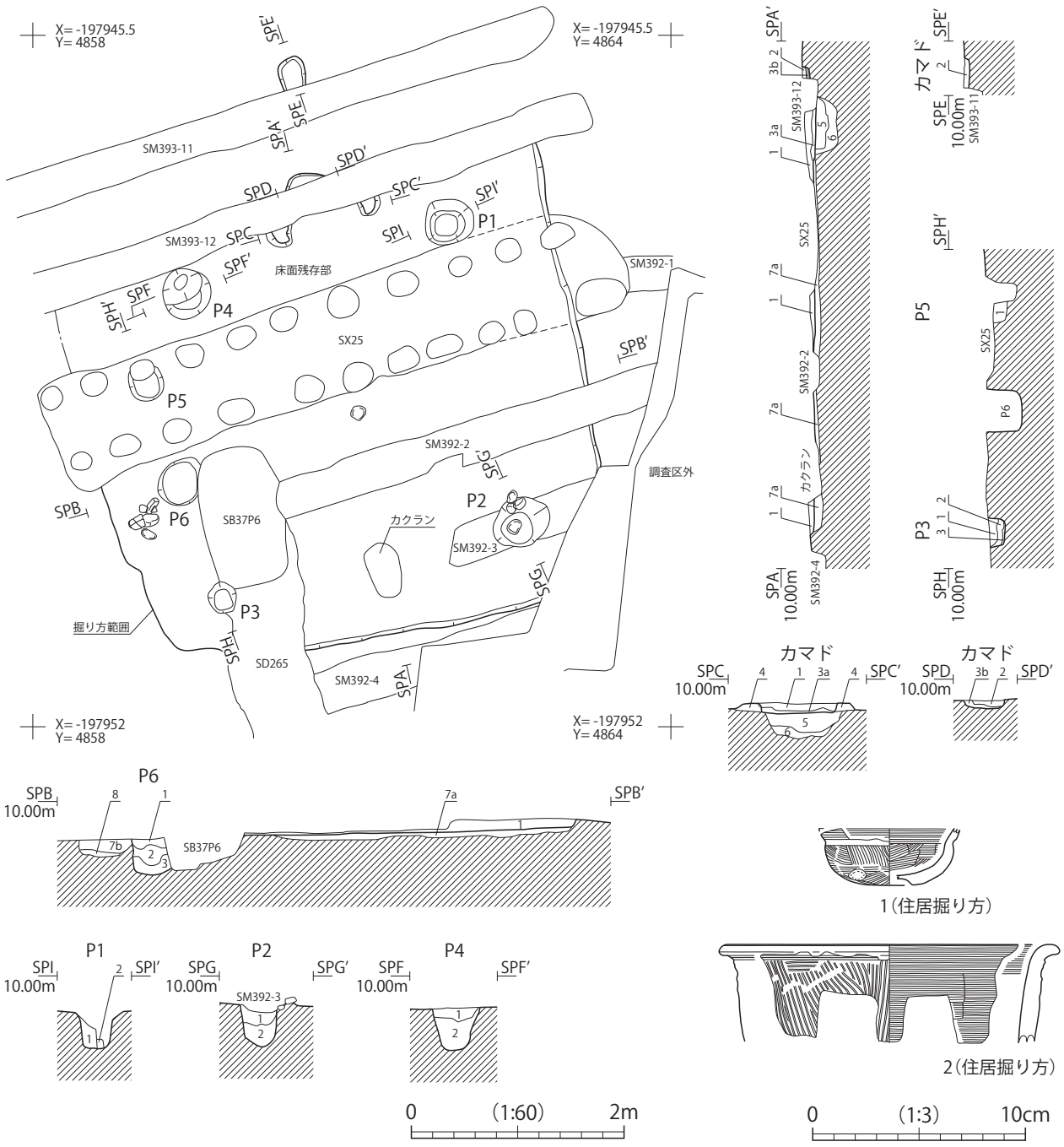
【位置・確認】 第 9 次調査区中央部西側の 44・45・48・49 グリッドに位置する。重複遺構による破壊部分が多く、西壁および北壁は失われている。

【重複】 SB37、SD265 より古く、SI326 より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 408cm、東西 480cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 カマド基準で N － 12° － W である。

【堆積土】 大別で 8 層、細別で 10 層に分層された。大別 1 層は住居堆積土で、2・3 層はカマド関連の堆積土である。4 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土を主体とする。5・6 層はカマド掘り方の埋土で、7・8 層は住居掘り方



SI323 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、黒色土粒少量含む。
カマド	2	5YR6/6 橙色	シルト	焼土ブロック(10～30㎜程度)・灰密に含む。
	3a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。
	3b	5YR5/4 にぶい赤褐色	砂質シルト	焼土層。
カマド袖	4	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
カマド掘り方	5	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。炭化物粒微量含む。
住居掘り方	7a	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒少量、部分的に焼土粒含む。
	7b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	8	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。灰色土粒少量含む。

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-179	第9次	SI323	掘り方	土師器	ミニチュア土器	—	—	(2.6)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、指オサエ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		112
2	C-182	第9次	SI323	掘り方	土師器	鉢	(15.2)	—	(4.1)	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		112

第 144 図　SI323 竪穴住居跡・出土遺物

SI323 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土粒微量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、白色粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	黒色土粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	Ⅳ層土粒微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・白色粒微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、白色粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・Ⅳ層土粒多量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。

SI323 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	48×43	36	
P2	楕円形	(56)×47	40	
P3	楕円形	30×(26)	15	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	48×46	40	
P5	隅丸方形	(32)×(21)	12	
P6	不整円形	49×(40)	34	

の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 18cm を測る。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）を検出した。いずれも規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。

【カマド】 北壁の中央やや東側に位置するが、燃焼部は SM392 との重複により分断され、煙道部は煙出し部分のみが残存する。よって袖の壁面に対する付設状況も判然としないが、残存する規模は東袖が長さ 15cm、幅 17 ～ 22cm、西袖が長さ 18cm、幅 19 ～ 25cm を測る。燃焼部は奥行き 56cm、幅 68cm、奥壁高 7cm を測り、若干壁外に張り出す。底面は概ね平坦である。被熱は弱く、底面や壁面の焼土化はあまり進んでいない。煙道部は長さ 111cm が推定され、残存する煙出し部分で幅 25cm、深さ 5cm を測る。ピット状に掘り込まれている。

【その他の施設】 土坑 P5・6 を検出した。ともに推定西壁ラインに沿うようにして配置されている。P6 は人為的に埋め戻されている。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は北東コーナーと南東コーナー部分が高まる。また、カマド部分は土坑状に窪む。深さは、3 ～ 18cm を測る。

【出土遺物】 土師器鉢 1 点、ミニチュア土器 1 点を掲載した（第 144 図）。1 のミニチュア土器は坏形の器形で口縁部と体部の境目に弱い稜をもち、口縁部で開く。また、底部は上げ底状に窪んでいる。2 の鉢は直線的に外傾する体部から口縁部で短く外反するが、口縁部の外反は、ほぼ水平になるぐらい強い。これらは、いずれも掘り方の埋土中より出土した。

【時期】 後述する 6b 期（8 世紀中葉～末葉）以降の SB37 より古く、4 期（7 世紀中葉～後葉）の SI326 より新しいことから、その中間に位置付けられる。

SI324 竪穴住居跡（第 145 ～ 147 図）

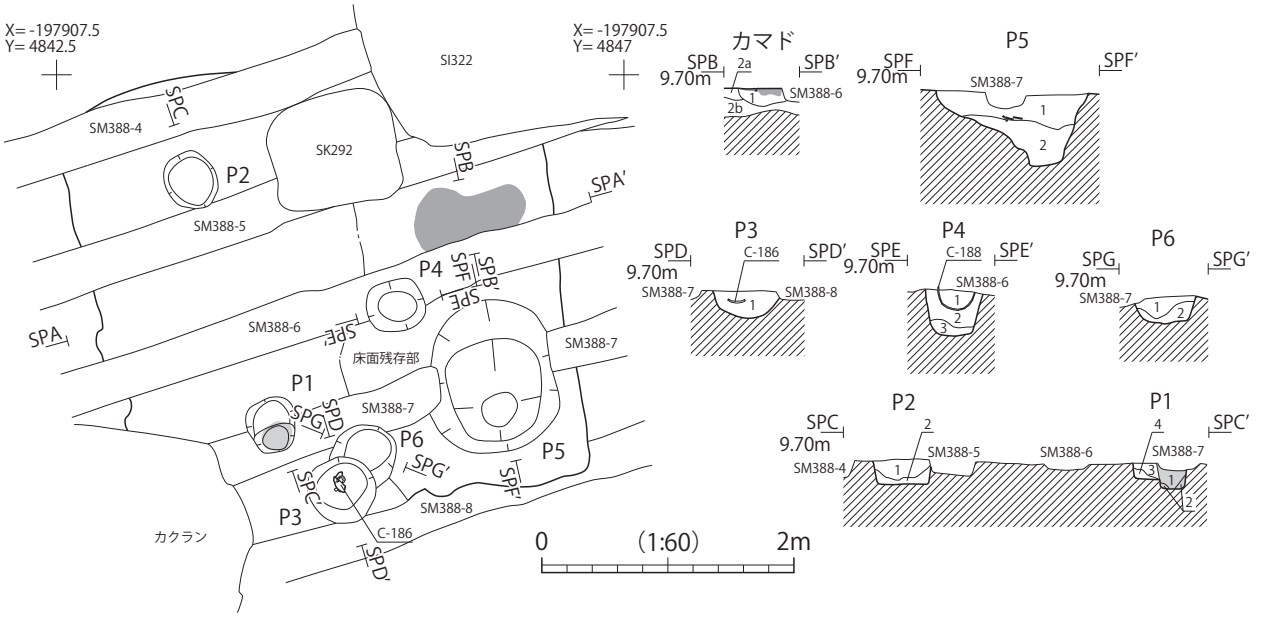
【位置・確認】 第 9 次調査区北西部の 07・12 グリッドに位置する。削平や撹乱、重複遺構の影響を受け、掘り方と床面の東半部分のみが残存する。

【重複】 SI322、SK292 と重複し、これらより古い。

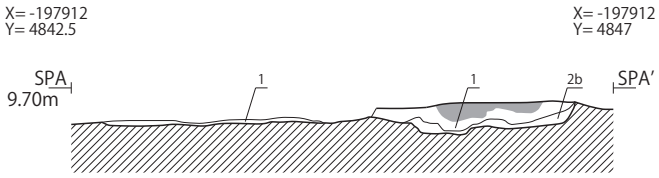
【規模・形態】 検出した規模は、南北 377cm、東西 356cm を測る。平面形状は掘り方の範囲から方形と推定される。

【方向】 カマド基準で N － 73° － E である。

【堆積土】 大別で 2 層、細別で 3 層に分層された。いずれも住居掘り方の埋土である。1 層はカマド部分で被熱し、



※本住居跡の平面プランは掘り方の残存範囲を示す



SI324 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	(44)×(38)	(20)	柱痕跡あり。
P2	円形	(47)×(40)	(18)	
P3	円形	(53)×(52)	(22)	
P4	隅丸方形	(46)×(41)	(37)	
P5	楕円形	122×(104)	65	貯蔵穴か。
P6	円形?	(51)×(43)	22	

SI324 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量含む。カマド部分被熱により赤化。
	2a	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
	2b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。

SI324 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量、黄白色シルトブロック(10㎜程度)一部集中して含む。※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)密に含む。※柱痕跡
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)密、炭化物粒(斑状)多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)密に含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・黄白色シルトブロック(10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
P4	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰白色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰白色シルトブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	2.5Y4/6 オリーブ褐色	砂質シルト	黄白色シルトブロック(5～30㎜程度)・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	黄白色シルトブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
P6	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。

第 145 図　SI324 竪穴住居跡（1）

赤化している。

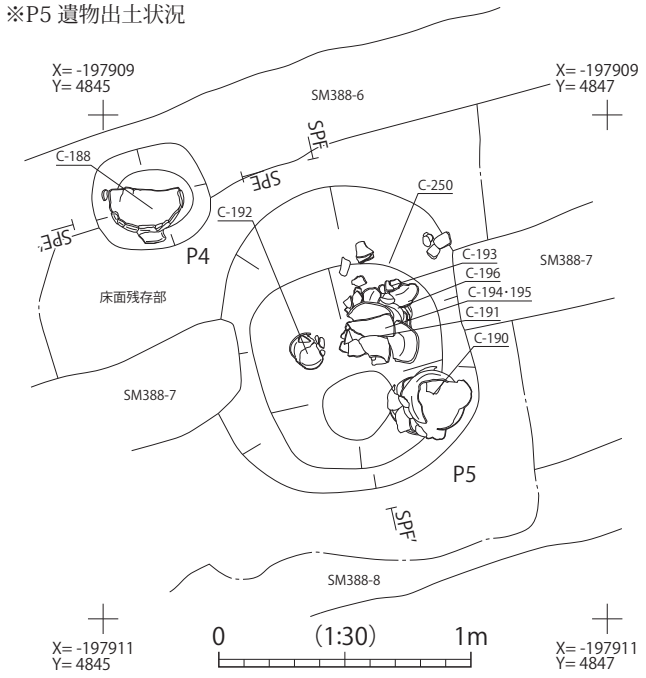
【壁面】 残存していない。

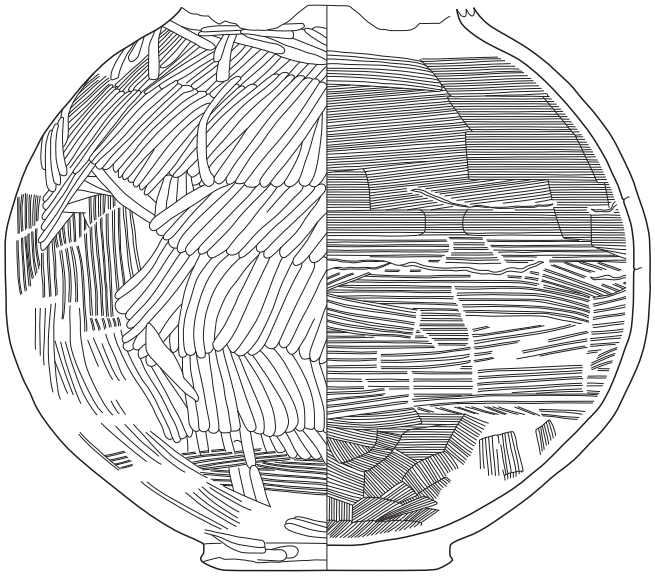
【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 2 基（P1・2）を検出した。これらは西半部分に南北に並んで検出されており、主柱穴に相当すると思われるが、これに対応するような東側の柱筋は検出されていない。P1 では柱痕跡が確認され、径 26cm を測る。

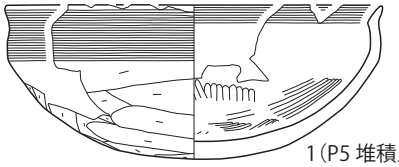
【カマド】 東壁のやや北寄りに位置するが、残存するのは燃焼部の底面のみである。焼土化した範囲で推定すると、燃焼部は奥行き 90cm、幅 45cm 内外で、やや縦長の平面形状であったとみられる。また、全体が壁内に位置して

※P5 遺物出土状況

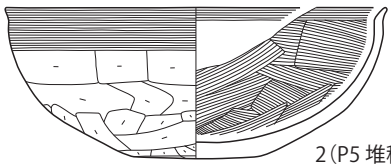




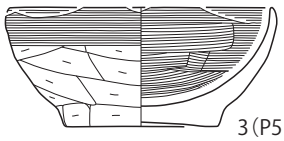
7(P5 堆積土)



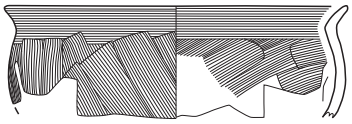
1(P5 堆積土)



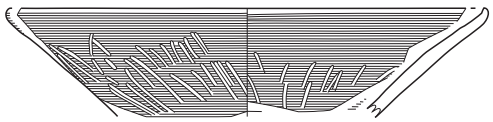
2(P5 堆積土)



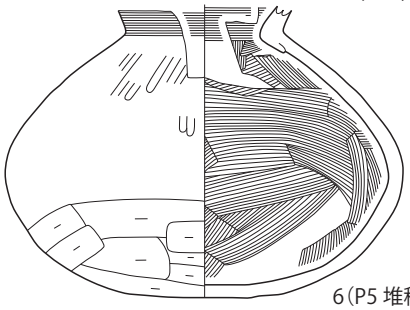
3(P5 堆積土)



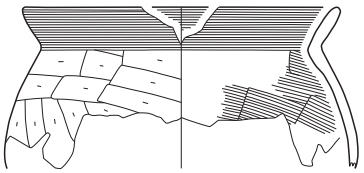
4(住居堆積土)



5(P3 堆積土)



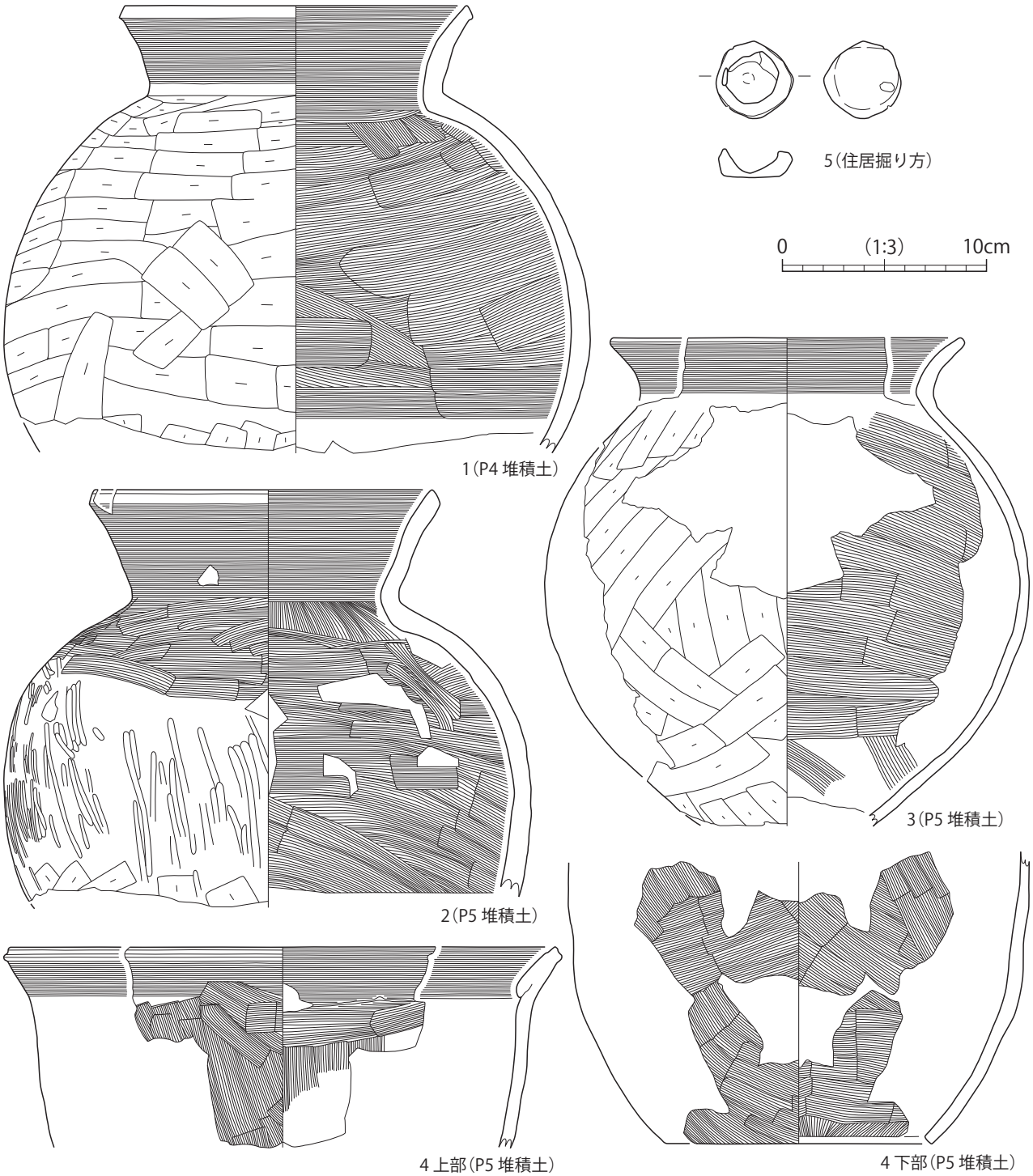
6(P5 堆積土)



8(P5 堆積土)

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-195	第9次	SI324	P5 堆積土	土師器	坏	(14.8)	—	6.1	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ		113
2	C-192	第9次	SI324	P5 堆積土	土師器	坏	15.0	—	6.0	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		113
3	C-196	第9次	SI324	P5 堆積土	土師器	坏	10.4	6.0	4.7	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		113
4	C-185	第9次	SI324	堆積土	土師器	鉢	(13.6)	—	(4.4)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		113
5	C-186	第9次	SI324	P3 堆積土	土師器	壺	18.8	—	(4.3)	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ		113
6	C-193	第9次	SI324	P5 堆積土	土師器	壺	—	—	(11.6)	頸部ヨコナデ、胴部上半ヘラミガキ、胴部下半ヘラケズリ	頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	外面摩滅	113
7	C-190	第9次	SI324	P5 堆積土	土師器	壺	—	4.6	(22.4)	ハケメ→ヘラミガキ	ハケメ→上位・下位ヘラナデ	SI323・328出土破片と接合	113
8	C-189	第9次	SI324	P5 堆積土	土師器	甕	(12.4)	—	(6.4)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		113

第 146 図　SI324 竪穴住居跡（2）・出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-188	第9次	SI324	P4 堆積土	土師器	壺	16.8	—	(21.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		113
2	C-191	第9次	SI324	P5 堆積土	土師器	壺	16.5	—	(20.5)	口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ→ヘラミガキ、胴部中から下位ヘラケズリ→ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		113
3	C-194	第9次	SI324	P5 堆積土	土師器	甕	(17.0)	—	(23.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		114
4	C-250	第9次	SI324	P5 堆積土	土師器	甑	(26.8)	(10.8)	上半(9.8) 下半(13.8)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		114

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
5	P-004	第9次	SI324	掘り方	土製品	手捏ね土製品	3.8	3.8	1.4	15.7		114

第 147 図　SI324 竪穴住居跡出土遺物（2）

いたと思われる。底面は概ね平坦である。
【その他の施設】 土坑 P3 ～ 6 を検出した。P5 は大型で深いが、カマドの脇に配置されていることから貯蔵穴と考えられる。ここからは第 146 図－ 1 ～ 3・6 ～ 8、第 147 図－ 2 ～ 4 の土師器坏、壺、甕、甑が折り重なって出土した。また、P4 からも第 147 図－ 1 の土師器壺が内部に転落した状態で出土している。
【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は中央部分から西壁にかけて島状に高まる。深さは、5 ～ 21cm を測る。
【出土遺物】 土師器坏 3 点、鉢 1 点、壺 5 点、甕 2 点、甑 1 点、土製品 1 点を掲載した（第 146・147 図）。本竪穴住居跡の遺物は、残存が良好な個体資料が多い。第 146 図－ 1 ～ 3 の土師器坏は、いずれも見込みまでが深い椀状を呈し、1・2 の口縁部は短く外反する。3 の口縁部は体部からそのまま内湾気味に直立する。4 の鉢はやや張りのある体部から、口縁部で短く外反する器形である。第 146 図－ 5 ～ 7、第 147 図－ 1・2 は土師器壺である。第 146 図－ 5 の口縁部はラッパ状に開き、端部で直立する。6 は小型の壺で、胴部は扁平な算盤玉状を呈する。7 の胴部は整った球胴で、底部は高台状に突出する。第 147 図－ 1・2 もこれと同様の胴部をもち、口縁部は弱く外反する。第 146 図－ 8、第 147 図－ 3 は土師器甕で、前者は小型、後者は大型の器形である。ともに口縁部で「く」字状に外反し、胴部はやや張りのある球胴である。第 147 図－ 4 は大型の甑である。口縁部は短く外反し、胴部から底部にかけてそのまま窄まる器形である。内面の口縁部と胴部との境目には、輪積痕が明瞭に残る。底部は単孔で、全体が穿孔されている。第 147 図－ 5 は用途不明の土製品であるが、小さな粘土塊を手捏ねで凹ませており、ミニチュア土器の未成品である可能性も残る。
【時期】 掲載した土師器の特徴から、本竪穴住居跡の時期は 1 期（5 世紀後半）と考えられる。

SI325 竪穴住居跡（第 148 ～ 150 図）
【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 18・19・23・24 グリッドに位置する。SI316A・316B と入れ子状に重複し、このため壁は大部分が失われているが、床面は全体が検出された。本竪穴住居跡の東・南・北壁の三方を拡張したのが、SI316B であると考えられる。
【重複】 SI319・331 より新しく、SI316A・316B、SD180 より古い。
【規模・形態】 検出した規模は、南北 535cm、東西 632cm を測る。平面形状は東西方向に長い長方形を呈する。
【方向】 カマド基準で N － 13° － W である。
【堆積土】 大別で 13 層、細別で 17 層に分層された。大別 1 ～ 3 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から、本竪穴住居跡は人為的に埋め戻されたと考えられる。4 層は周溝堆積土である。5 ～ 9 層はカマド関連の堆積土で、6 層は崩落した天井材とみられる。10 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土が用いられている。11・12 層はカマド掘り方の埋土で、13 層は住居掘り方の埋土である。
【壁面】 壁高は最大でも 9cm しか残存しておらず、詳細不明である。
【床面】 概ね平坦である。
【柱穴】 床面から 9 基（P1・2・4 ～ 10）を検出した。P1・6 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われ、これに対応するのが SI316B の P6・7 であると考えられる。P4・8 は西壁寄りに並んで配置されており、補助柱穴とみられる。P6・10 では柱痕跡が確認され、P6 で径 15cm、P10 で径 17cm を測る。
【周溝】 概ね全体の壁面に沿って巡るが、南西コーナー付近と南壁中央付近の 2 箇所で断続する。規模は、幅 13 ～ 26cm、深さ 3 ～ 15cm を測る。
【カマド】 北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。SI316B との重複により煙道部の前半部分は失われている。袖の規模は、東袖が長さ 68cm、幅 26 ～ 28cm、西袖が長さ 52cm、幅 26 ～ 30cm を測り、壁に対し若干「ハ」字状に開いて延びる。燃焼部は奥行き 58cm、幅 51cm、奥壁残存高 5cm を測り、壁内に位置する。底

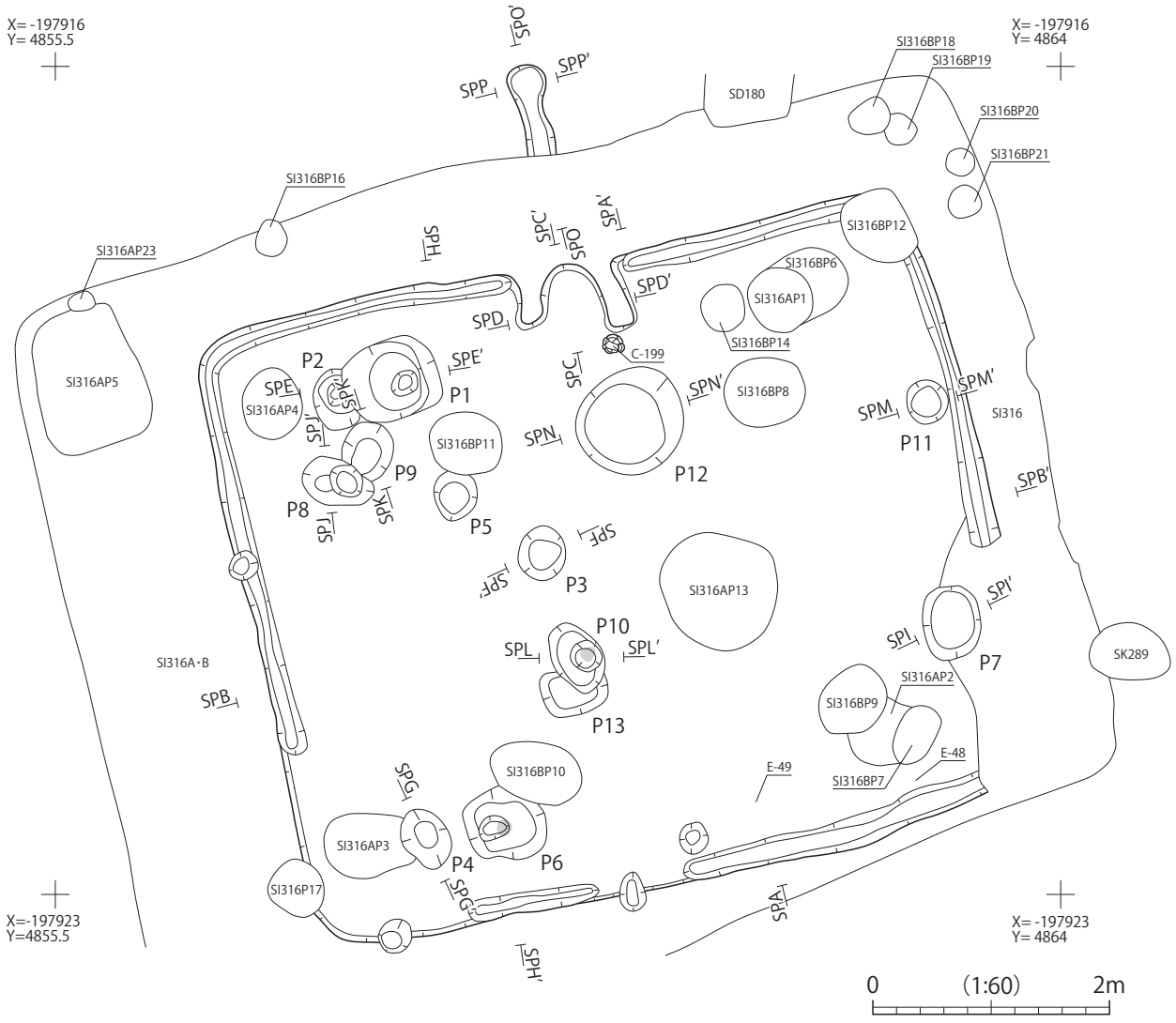
面は概ね平坦である。被熱は弱く、底面や壁面の焼土化はあまり進んでいない。煙道部は長さ 170cm 前後が推定され、残存部で幅 24cm、深さ 12 ～ 19cm を測る。底面は煙出し方向へ緩やかに下がる。

【その他の施設】 土坑 P12、ピット P3・11・13 を検出した。P3 は焼土、P11 は灰を主体に埋め戻されており、それぞれカマドとの関連が考えられる。カマドの前方に配置された P12 も、人為的に埋め戻されている。

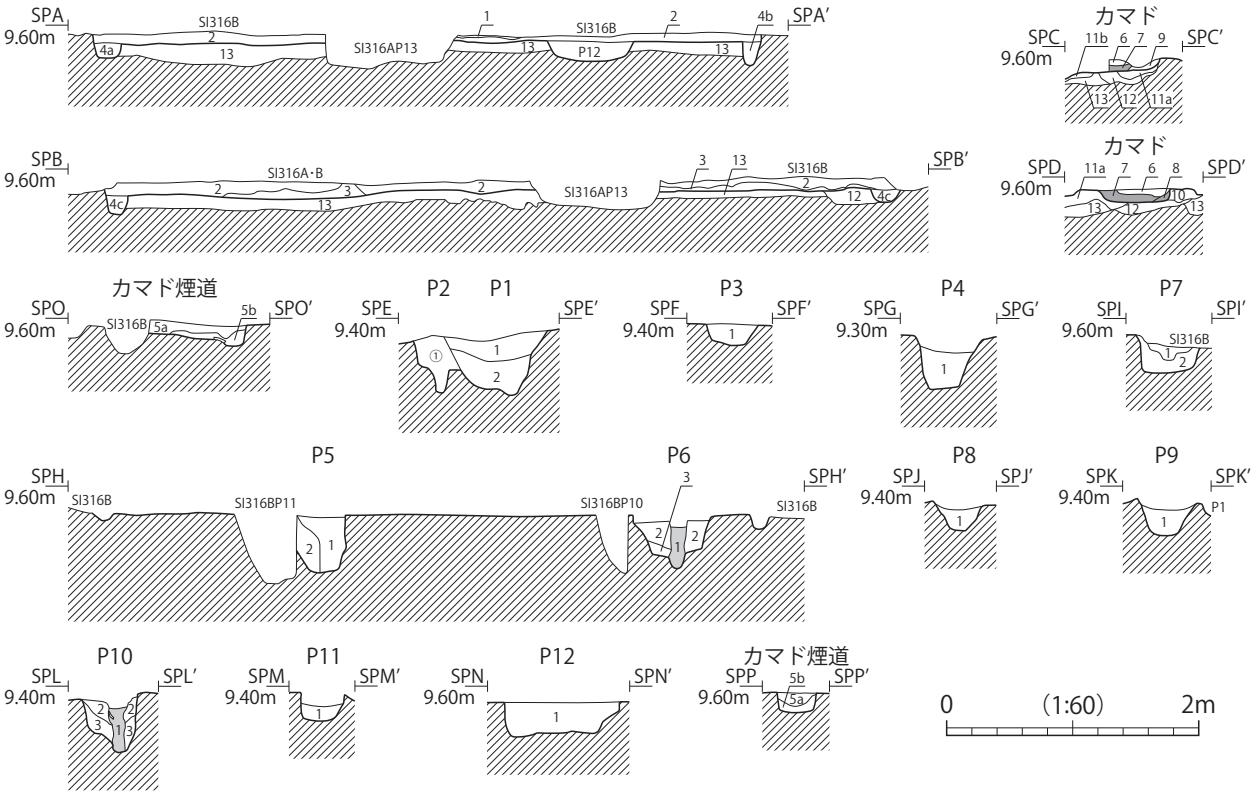
【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は東壁から南東コーナーにかけて逆「L」字状に一段下がる。また、土坑状やピット状の窪みが不規則に散在する。深さは、4 ～ 19cm を測る。底面からはカマド前方や北西コーナー付近を中心に、工具痕が並んで検出された。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、須恵器坏 1 点、蓋 1 点、円面硯 1 点、金属製品 1 点を掲載した（第 150 図）。1 の土師器坏は口縁部が内湾気味に外傾し、底部は平底に近い。2 の須恵器坏は底部を回転ヘラ切り離し後、手持ちヘラケズリを施す。3 の蓋は扁平な器形で擬宝珠形のツマミをもち、カエリをもたない。4 の円面硯は圏足円面硯の脚部である。脚部にはキザミ状の細い透孔が連続する。5 の金属製品は、用途不明の環状鉄製品である。

【時期】 第 150 図－ 1 ～ 3 はいずれも床面上から出土し、これらの特徴から本竪穴住居跡の時期は 6a 期（8 世紀前葉）と考えられる。



第 148 図　SI325 竪穴住居跡（1）



SI325 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物集中層。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。暗褐色土粒少量含む。
周溝	4a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。砂質強い。
	4c	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
カマド	5a	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒微量含む。
	5b	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒多量含む。
	6	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	Ⅳ層土・炭化物粒(ラミナ状)多量含む。
	7	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	灰層。焼土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒(斑状)少量含む。
	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土・焼土粒(斑状)多量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
カマド袖	10	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	突き固められたⅣ層土ブロック。
カマド掘り方	11a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。焼土粒・炭化物粒が一部に集中。
	11b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。砂質強い。
	12	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
住居掘り方	13	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。

SI325 施設堆積土註記表

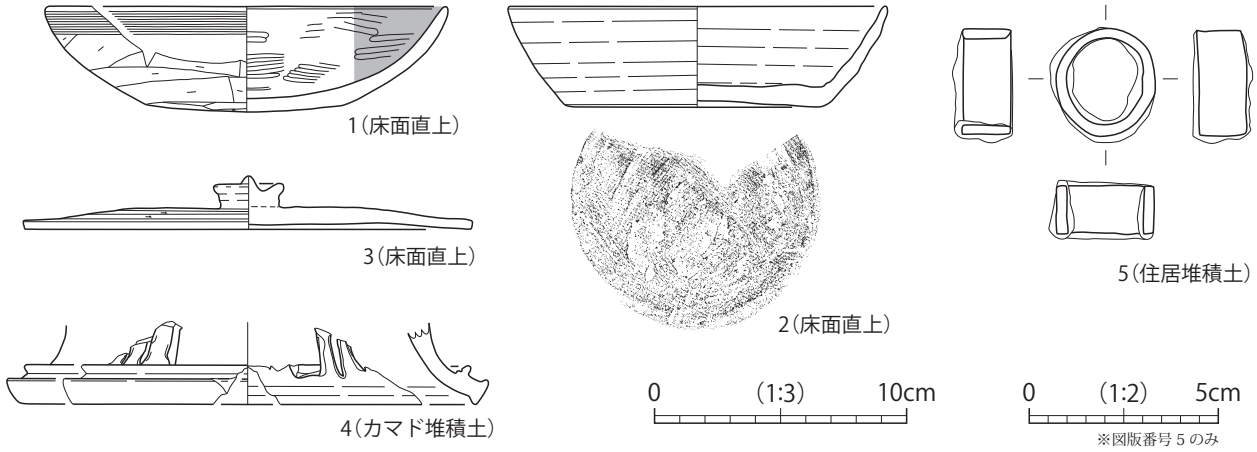
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)密、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
P2	①	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)密、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒主体。Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)・炭化物粒少量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)密に含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)密に含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。
P6	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)密に含む。
P7	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。本層と第1層との境に炭化物粒が薄く堆積。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。
P9	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)密、焼土ブロック(10～20㎜程度)少量含む。
P10	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
P11	1	5Y4/1 灰色	シルト	灰主体。Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P12	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
P13	—	—	砂質シルト	註記なし。

第 149 図　SI325 竪穴住居跡（2）

SI325 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	長方形	79 × 67	52	
P2	楕円形	52 ×（39）	45	
P3	円形	46 × 40	13	焼土主体（カマド関連か）
P4	楕円形	53 ×（39）	42	
P5	楕円形	（42）× 37	46	
P6	不整方形	67 × 65	42	柱痕跡あり。
P7	楕円形	（62）×（49）	39	

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	楕円形	61 × 41	38	
P9	楕円形	（44）× 43	34	
P10	楕円形	60 × 42	47	柱痕跡あり。
P11	円形	37 × 35	23	灰主体（カマド関連か）
P12	円形	92 × 86	27	
P13	長方形	57 × 40	27	



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-199	第9次	SI325	床面直上	土師器	坏	（15.8）	—	4.2	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	外面摩滅	114
2	E-049	第9次	SI325	床面直上	須恵器	坏	15.0	10.0	4.0	ロクロ調整、底部回転ヘラ切り→ヘラケズリ	ロクロ調整		114
3	E-048	第9次	SI325	床面直上	須恵器	蓋	（17.7）	—	（2.1）	ロクロ調整、天井部ヘラケズリ	ロクロ調整		114
4	E-047	第9次	SI325	カマド堆積土	須恵器	円面硯	—	（18.0）	（3.2）	ロクロ調整	ロクロ調整	キザミ状の細い透孔	114

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
5	N-008	第9次	SI325	堆積土	金属製品	環状鉄製品	1.2	径2.8	0.3	9.7		114

第 150 図　SI325 竪穴住居跡出土遺物

SI326 竪穴住居跡（第 151・152 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部西側の 48・49 グリッドに位置する。削平や撹乱、重複遺構の影響を受け、カマド付近の東壁と、床面以下が残存する。

【重複】 SI323、SB37、SD265 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 435cm、東西 400cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

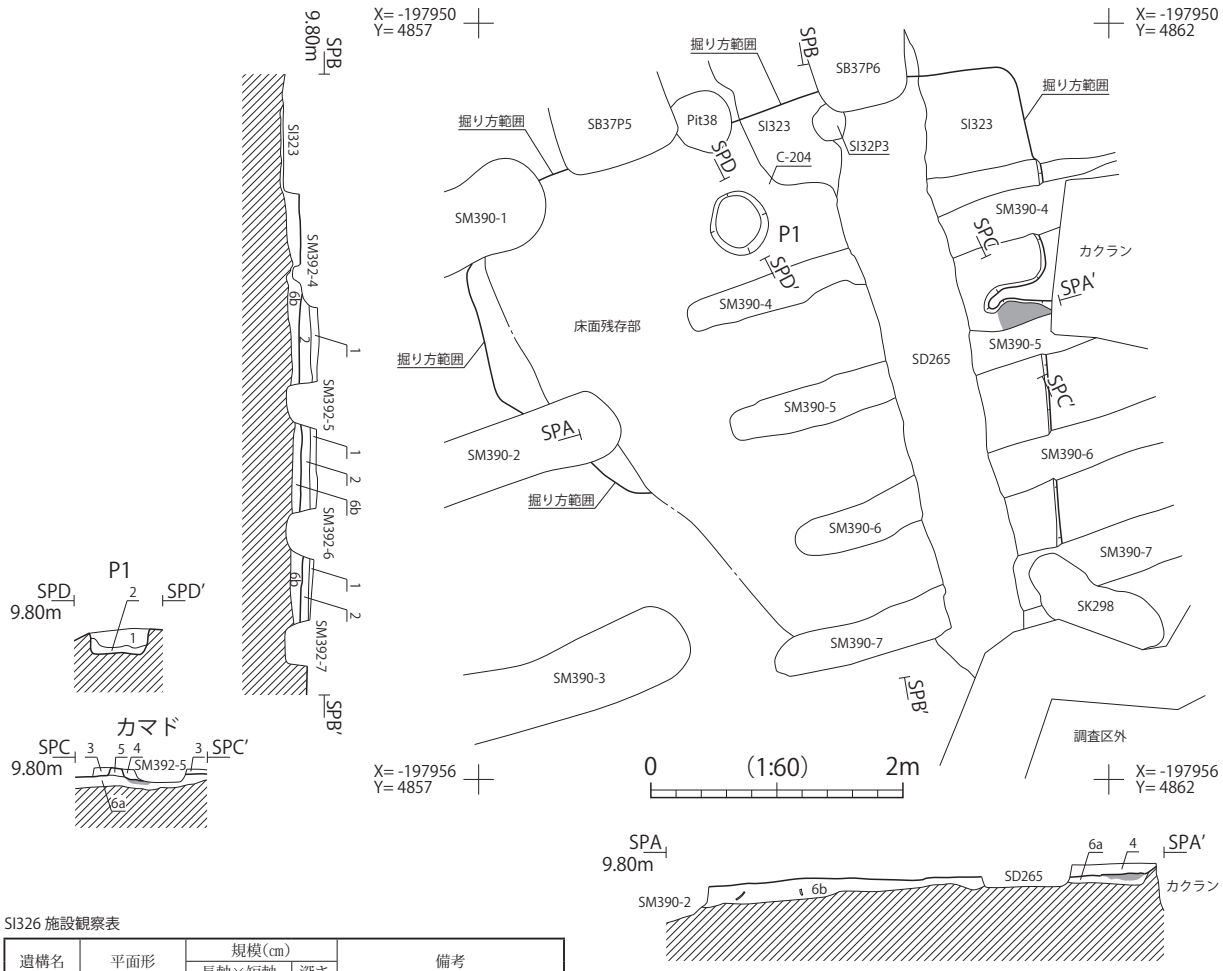
【方向】 カマド基準で N － 83° － E である。

【堆積土】 大別で 6 層、細別で 7 層に分層された。大別 1・2 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層の混入状況から、本竪穴住居跡は人為的に埋め戻されたと考えられる。3 ～ 4 層はカマド関連の堆積土で、3・4 層は崩落した天井材とみられる。5 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土を主体とする。6 層は住居掘り方の埋土である。6a 層はカマド部分が被熱のため赤化している。

【壁面】 壁高は最大でも 8cm しか残存しておらず、詳細不明である。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【カマド】 東壁に位置し、壁面に直交して付設されるが、残存するのは燃焼部の北半部分のみである。北袖の規模は長さ 54cm、幅 14 ～ 24cm を測り、東壁から若干「ハ」字状に開いて延びる。燃焼部は奥行き 42cm、残存幅 21cm を測り、若干壁外へ張り出す。底面は 4cm 程皿状に窪む。被熱は強く、底面の全体が焼土化している。



SI326 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	51×45	21	

SI326 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒少量含む。
カマド	3	10YR7/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
	4	10YR7/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。下位は被熱により赤化。
カマド袖	5	10YR7/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒色土粒少量含む。
住居掘り方	6a	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒色土粒微量含む。カマド部分被熱により赤化。
	6b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・黒色土粒多量含む。

SI326 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	7.5YR5/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土ブロック(10㎜程度)少量、黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。炭化物粒微量含む。

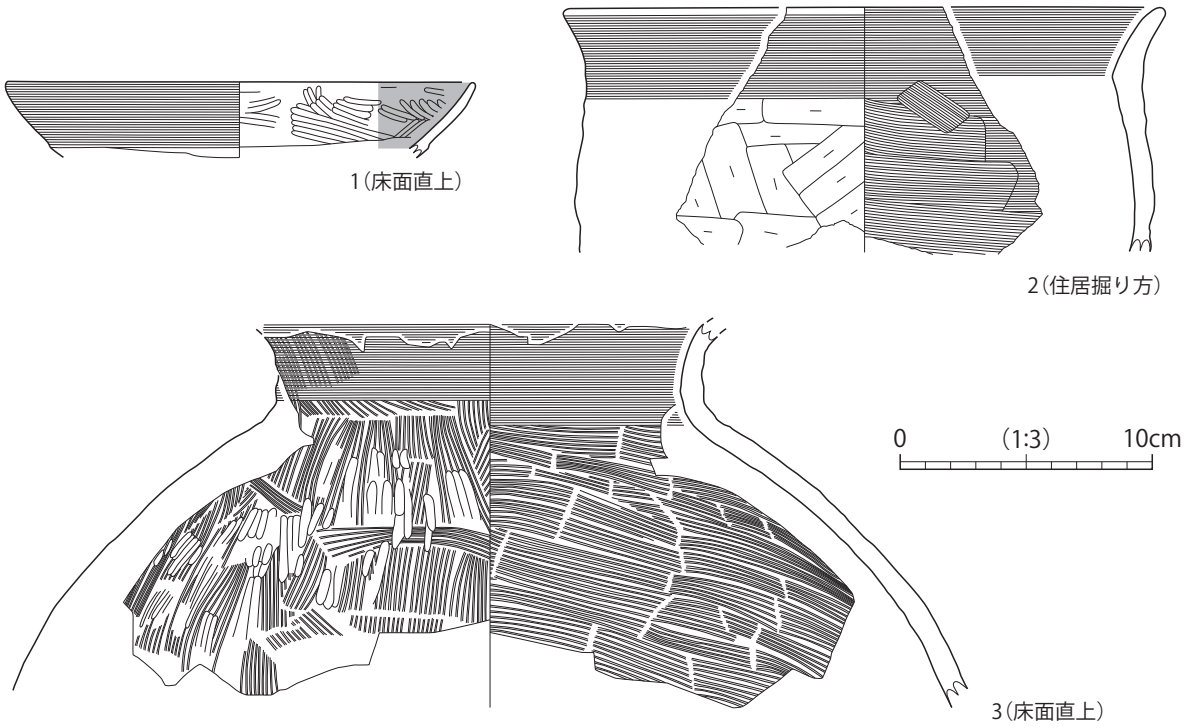
第 151 図　SI326 竪穴住居跡

【その他の施設】 土坑 P1 を検出した。北壁寄りに配置されているが、その機能は判然としない。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は北西部分が一段下がる。深さは、5 ～ 15cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、甕 1 点、壺 1 点を掲載した（第 152 図）。1 の土師器坏は、扁平な底部をもつ器形であると思われる。

【時期】 第 152 図－ 1･3 は床面上から出土し、これらの特徴から本竪穴住居跡の時期は 4 期（7 世紀中葉～後葉）と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-200	第9次	SI326	床面直上	土師器	坏	18.4	—	(3.0)	ヨコナデ	ヘラミガキ、黒色処理		114
2	C-202	第9次	SI326	掘り方	土師器	甕	(23.6)	—	(9.7)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		114
3	C-204	第9次	SI326	床面直上	土師器	壺	—	—	(15.2)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	SI327出土破片と接合	114

第 152 図　SI326 竪穴住居跡出土遺物

SI327 竪穴住居跡（第 153 ～ 155 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北西部の 07・08・12・13 グリッドに位置する。削平や重複遺構の影響を受け、南半部分は掘り方のみが残存する。

【重複】 SI321 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 476cm、東西 541cm を測る。平面形状は、掘り方の状況などから東西方向に長い長方形と推定される。

【方向】 カマド基準で N － 32° － W である。

【堆積土】 大別で 11 層、細別で 17 層に分層された。大別 1・2 層は住居堆積土で、3 ～ 6 層はカマド関連の堆積土である。このうち、4 層は崩落した天井材とみられる。7 ～ 11 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 46cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）、掘り方から 5 基（P9 ～ 13）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。P9 ～ 13 は主柱穴に付属するように配置されており、主柱穴の補強を用途とした補助柱穴と考えられる。また、柱穴番号は付さなかったが、北壁の西側と西壁には壁柱穴とみられる小規模なピットが配置されている。P2 ～ 4・9 では柱痕跡が確認され、P2 で径 17cm、P3 で径 19cm、P4 で径 14cm、P9 で径 10cm を測る。P3 の底面には柱痕跡とは異なる位置に柱材の圧痕とみられる窪みが存在し、建て替えなどが行われた可能性が考えられる。

【周溝】 北壁から西壁の壁面に沿って巡る。規模は、幅 12 ～ 23cm、深さ 5 ～ 25cm を測る。

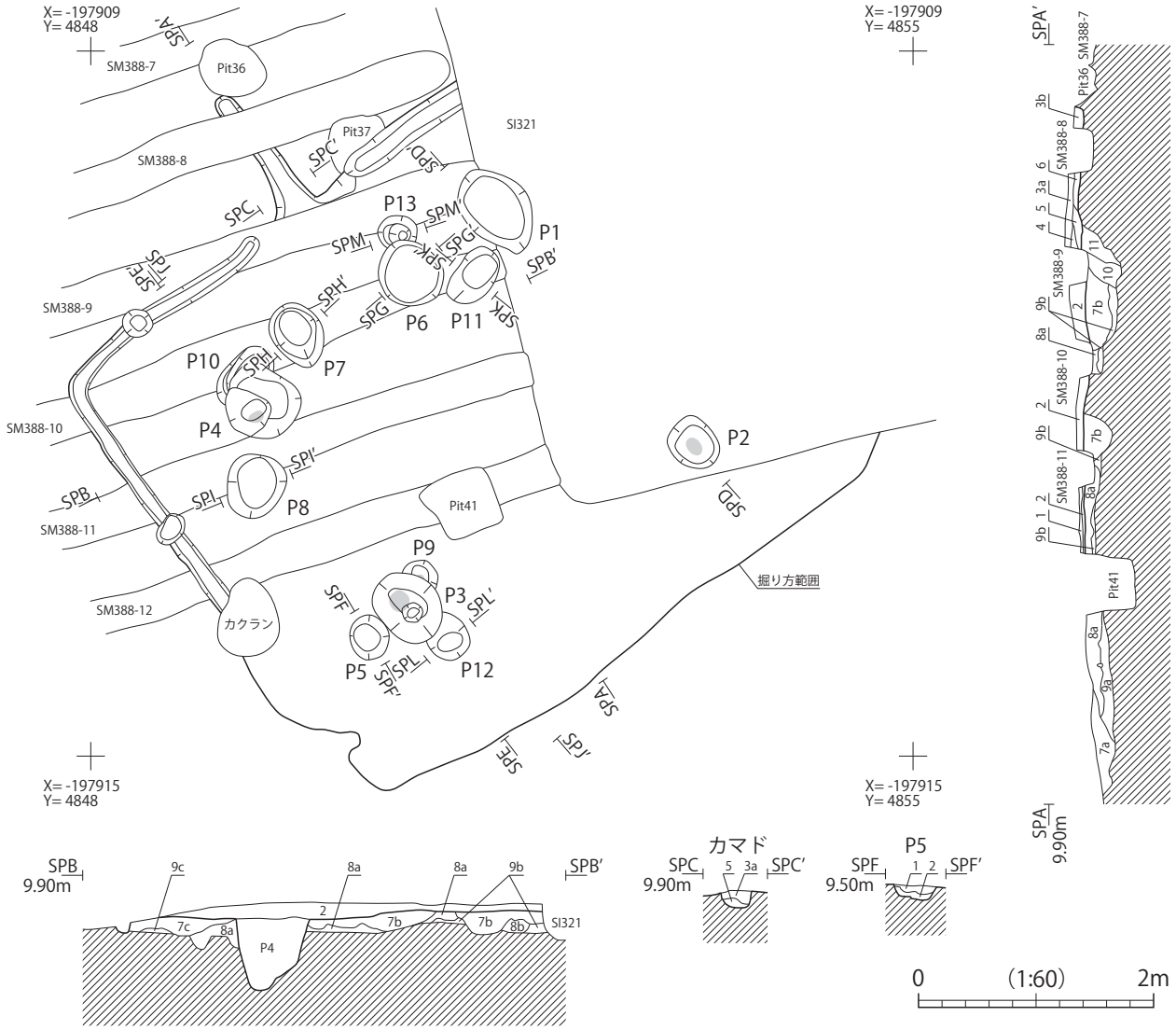
【カマド】 北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設されるが、SM388 との重複により燃焼部は失われている。煙道部は長さ 117cm、幅 19cm、深さ 8cm を測り、底面は煙出し方向に緩やかに下がる。

【その他の施設】 土坑 P6 ～ 8、ピット P5 を検出した。P5・8 は人為的に埋め戻されており、埋土中に焼土ブロックを多量含むことからカマドとの関連性が考えられる。

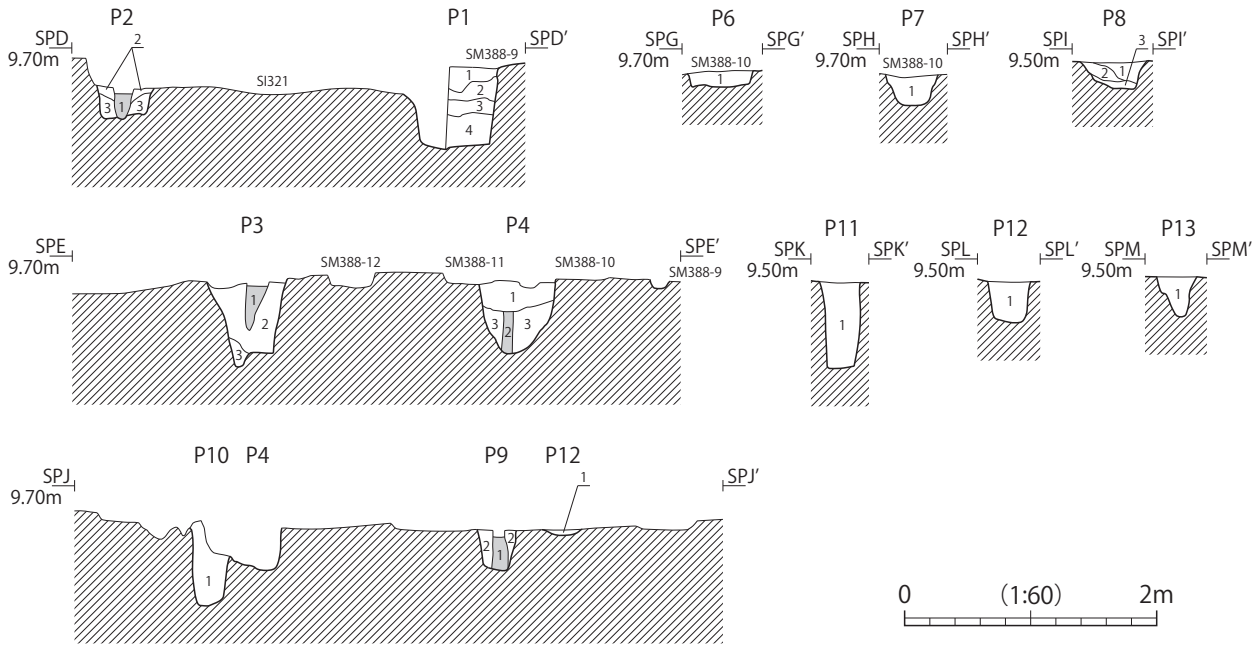
【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は中央部が島状に高まるほか、西壁際は幅広な溝状に一段下がる。カマド部分は土坑状に窪む。深さは、4 ～ 17cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、須恵器坏 1 点、金属製品 1 点を掲載した（第 155 図）。1 の土師器坏は口縁部が僅かに外反し、口縁部と体部との境目に稜をもつ。2 の須恵器坏は口縁部が弱く外反し、体部は腰がやや張る器形を呈する。底部には手持ちヘラケズリを施す。焼成があまり良くなく、色調は淡い褐色を呈する。3 の金属製品は鉄製刀子の茎部である。

【時期】 掲載した土器はいずれも掘り方から出土している。しかし時期的な上限は示すものと思われ、さらに SI321 よりも古いことと併せ、本竪穴住居跡の時期は 5 期～ 6b 期（7 世紀末葉～ 8 世紀末葉）と考えられる。



第 153 図　SI327 竪穴住居跡（1）



SI327 堆積土註記表

部位		土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド	3a	5YR4/4 にぶい赤褐色	砂質シルト	焼土粒多量、焼土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	3b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒(斑状)多量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。焼土粒・炭化物粒少量含む。
	5	2.5YR3/3 暗赤褐色	砂質シルト	焼土粒主体。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。砂質強い。
住居掘り方	7a	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	7b	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	7c	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	8a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)密、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	8b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)密に含む。
	9a	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	9b	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。砂質強い。
	9c	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック主体。
	10	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・炭化物粒少量含む。上位に焼土粒が集中。

SI327 施設堆積土註記表

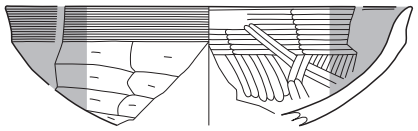
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)密、炭化物粒少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。※柱痕跡
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)密に含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)密、炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。砂質強い。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
P5	1	2.5YR5/3 にぶい赤褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック(10㎜程度)密、炭化物粒少量含む。
	2	2.5YR4/2 灰赤色	砂質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)多量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。下位に炭化物粒が薄く堆積。
P8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック(10㎜程度)多量、炭化物粒(斑状)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P9	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量含む。
P10	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P11	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
P12	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P13	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

第 154 図　SI327 竪穴住居跡（2）

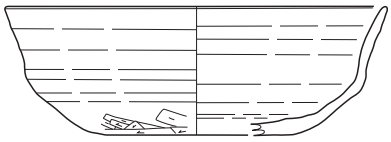
SI327 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	(79)×(55)	62	
P2	隅丸長方形	(46)×(38)	(27)	柱痕跡あり。
P3	楕円形	64×52	73	柱痕跡あり。
P4	不整円形	(68)×63	59	柱痕跡あり。
P5	円形	38×33	14	焼土ブロック多量(カマド関連か)
P6	円形	59×(53)	15	
P7	楕円形	57×(43)	26	

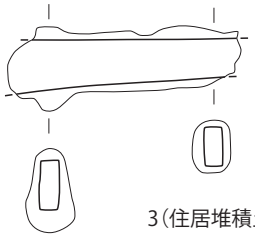
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	円形	55×49	16	焼土ブロック多量(カマド関連か)
P9	円形	32×(29)	36	柱痕跡あり。
P10	楕円形	59×32	62	
P11	楕円形	53×33	68	
P12	楕円形	(40)×35	33	
P13	円形	33×30	31	



1(住居掘り方)



2(住居掘り方)



3(住居堆積土)

0 (1:3) 10cm

0 (1:1) 3cm

※図版番号3のみ

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-206	第9次	SI327	掘り方	土師器	坏	(16.0)	—	(4.7)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、黒色処理	ヘラミガキ、黒色処理		115
2	E-050	第9次	SI327	掘り方	須恵器	坏	(15.0)	(7.0)	5.1	ロクロ調整、体部下端から底面ヘラケズリ	ロクロ調整		115

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
3	N-009	第9次	SI327	堆積土	金属製品	刀子	(2.8)	0.6	0.2	3.3	茎部	115

第 155 図　SI327 竪穴住居跡出土遺物

SI328 竪穴住居跡（第 156・157 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北部の 04・08 グリッドに位置する。床面には多数のピットが重複して掘り込まれ、南壁も SI321 との重複により失われている。

【重複】 Pit160 より新しく、SI321、SB39 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 354cm、東西 416cm を測る。平面形状は西壁側に広がる不整方形と推定される。

【方向】 カマド基準で N － 83° － E である。

【堆積土】 大別で 14 層、細別で 20 層に分層された。大別 1 ～ 4 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。5 層は周溝堆積土で、6 ～ 8 層はカマド関連の堆積土である。9 ～ 11 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土を主体とする。12 層はカマド掘り方の埋土で、13・14 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 16cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 1 基（P2）を検出した。北西コーナーに配置されており、壁柱穴と思われる。柱痕跡が確認され、径 10cm を測る。

【周溝】 残存部分では全体の壁面に沿って巡る。規模は、幅 13 ～ 22cm、深さ 7 ～ 13cm を測る。

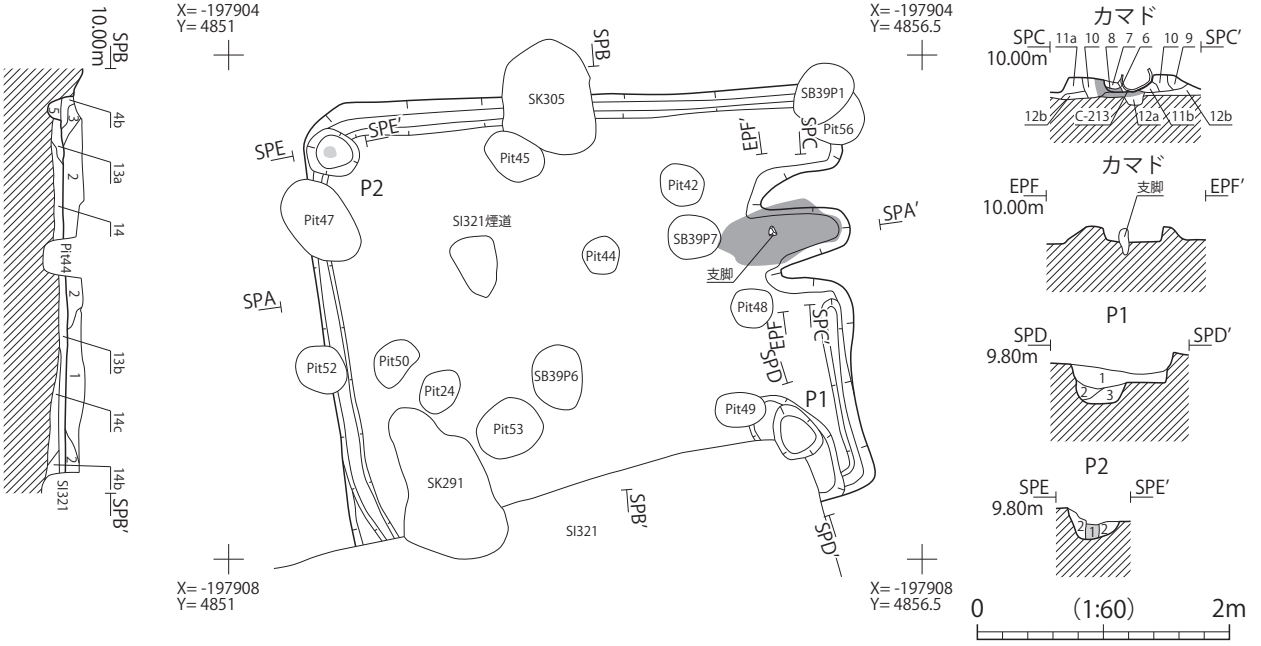
【カマド】 東壁の北寄りに位置し、壁面に直交して付設される。削平の影響を受け、煙道部は失われている。袖の規模は、北袖が長さ 76cm、幅 32 ～ 40cm、南袖が長さ 68cm、幅 22 ～ 38cm を測り、東壁に直交して延びる。燃焼部は奥行き 75cm、幅 43cm、奥壁高 15cm を測り、壁内に位置する。底面は概ね平坦である。被熱は弱く、

底面や壁面の焼土化はあまり進んでいない。

【その他の施設】 土坑 P1 を検出した。南東コーナーに配置されており、貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は概ね平坦だが南半部分が階段状に下がる。深さは、2 ～ 9cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、壺 1 点、甕 2 点を掲載した（第 157 図）。1 の土師器坏は口縁部が「く」字状に屈曲し、外反する。2 の壺は、球状の胴部から口縁部でラッパ状に開く器形である。3 の甕は口縁部に最大径をもち、胴部は底部に向かって窄まる。4 の甕はやや縦長の球胴甕で、口縁部は「く」字状に屈曲し、外反する。



SI328 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P1	不整長方形	97×(50)	32	貯蔵穴か。
P2	楕円形	42×35	14	柱痕跡あり。

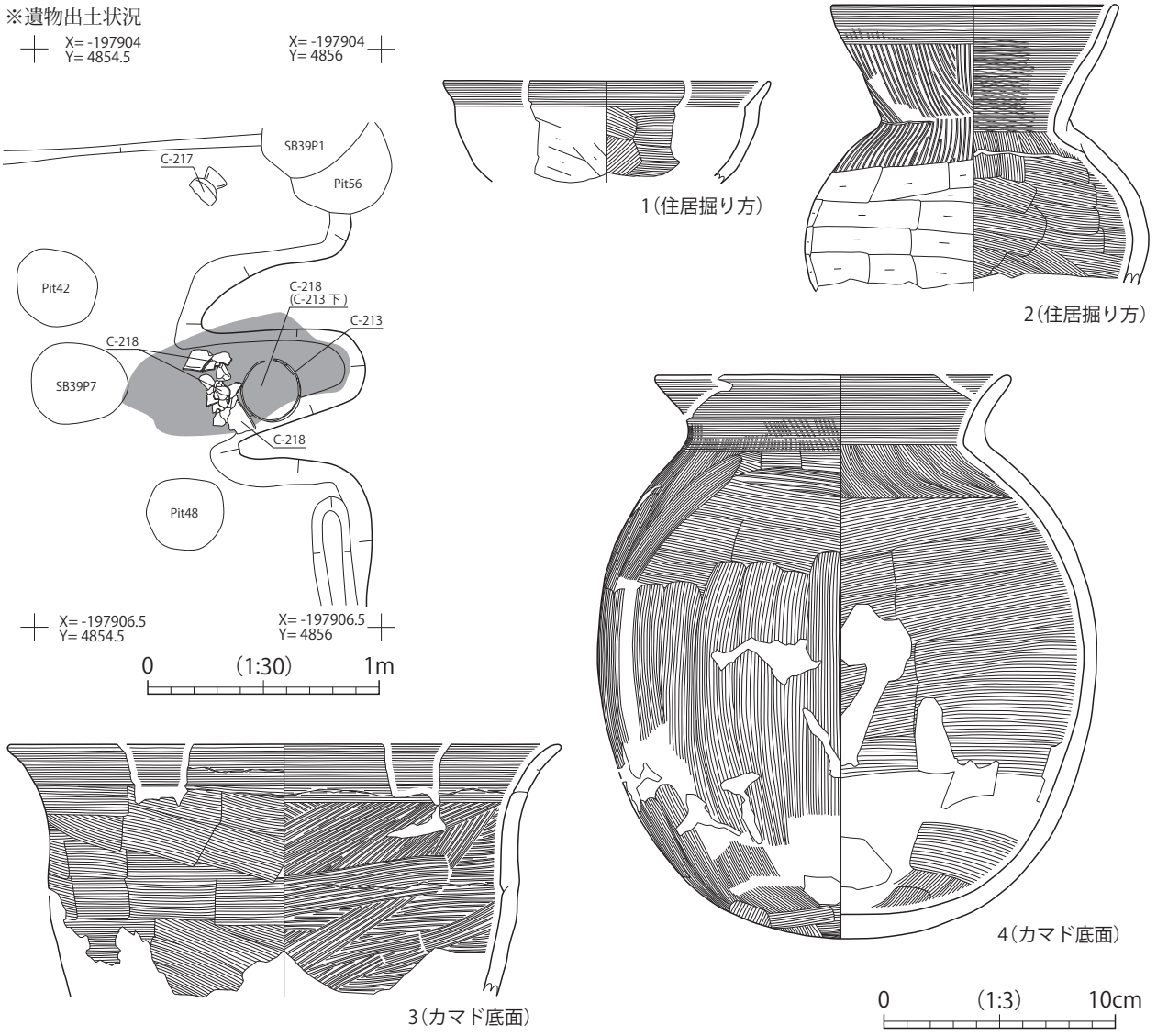
SI328 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・暗褐色シルトブロック(5～10㎜程度)密に含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・暗褐色シルトブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。砂質強い。
	4b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。
周溝	5	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。砂質強い。
カマド	6	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒少量含む。砂質強い。
	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒少量含む。
	8	2.5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	焼土層。焼土ブロック(5㎜程度)多量含む。
カマド袖	9	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土多量含む。内壁被熱により赤化。
	10	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。
	11a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	11b	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・焼土粒(ラミナ状)多量含む。
カマド掘り方	12a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。上位被熱により赤化。
	12b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)密、焼土粒・炭化物粒少量含む。上位被熱により赤化。
住居掘り方	13a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	13b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)密、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	14a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。砂質強い。
	14b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	14c	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)密に含む。

SI328 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。砂質強い。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。

第 156 図　SI328 竪穴住居跡（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-216	第9次	SI328	掘り方	土師器	坏	(14.0)	—	(4.4)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		115
2	C-217	第9次	SI328	掘り方	土師器	壺	12.2	—	12.4	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		115
3	C-218	第9次	SI328	カマド底面	土師器	甕	(23.8)	—	(10.4)	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ		115
4	C-213	第9次	SI328	カマド底面	土師器	甕	(15.2)	—	24.4	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ→ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	SI324出土破片と接合	115

第 157 図　SI328 竪穴住居跡（2）・出土遺物

【時期】 第 157 図－ 3・4 はカマド内から出土した。また、掘り方から出土した同図－ 1・2 も時期的な上限を示す遺物である。これらの特徴から、本竪穴住居跡の時期は 1 期（5 世紀後半）と考えられる。

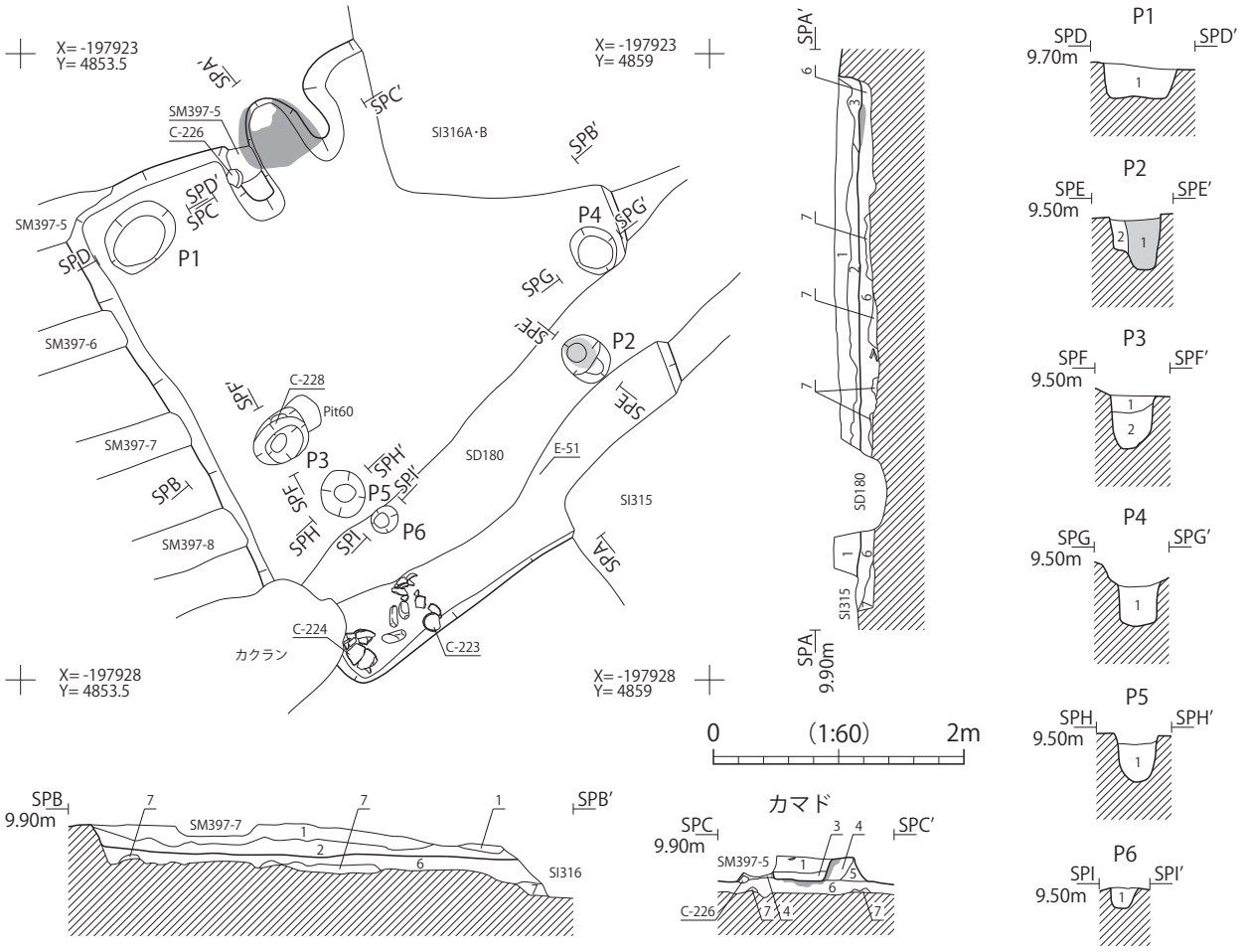
SI329 竪穴住居跡（第 158・159 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部の 23・28 グリッドに位置する。SD180 との重複により、東西に分断された状態で検出された。南東コーナーおよび北東コーナーも重複遺構によって失われている。

【重複】 SI337・338・342・343・349・352、SK320、Pit61・62・65 より新しく、SI315・316A・316B、SD180 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 441cm、東西 397cm を測る。平面形状は南西側に広がる不整方形と推定される。

【方向】 カマド基準で N － 32° － W である。



SI329 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土粒少量、白色粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・灰色土粒・炭化物粒微量含む。
カマド	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒・灰多量、炭化物粒微量含む。
カマド袖	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。内壁被熱により赤化。
	5	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
住居掘り方	6	10YR3/2 黒褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。カマド部分被熱により赤化。
	7	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5㎜程度)少量含む。

SI329 施設堆積土註記表

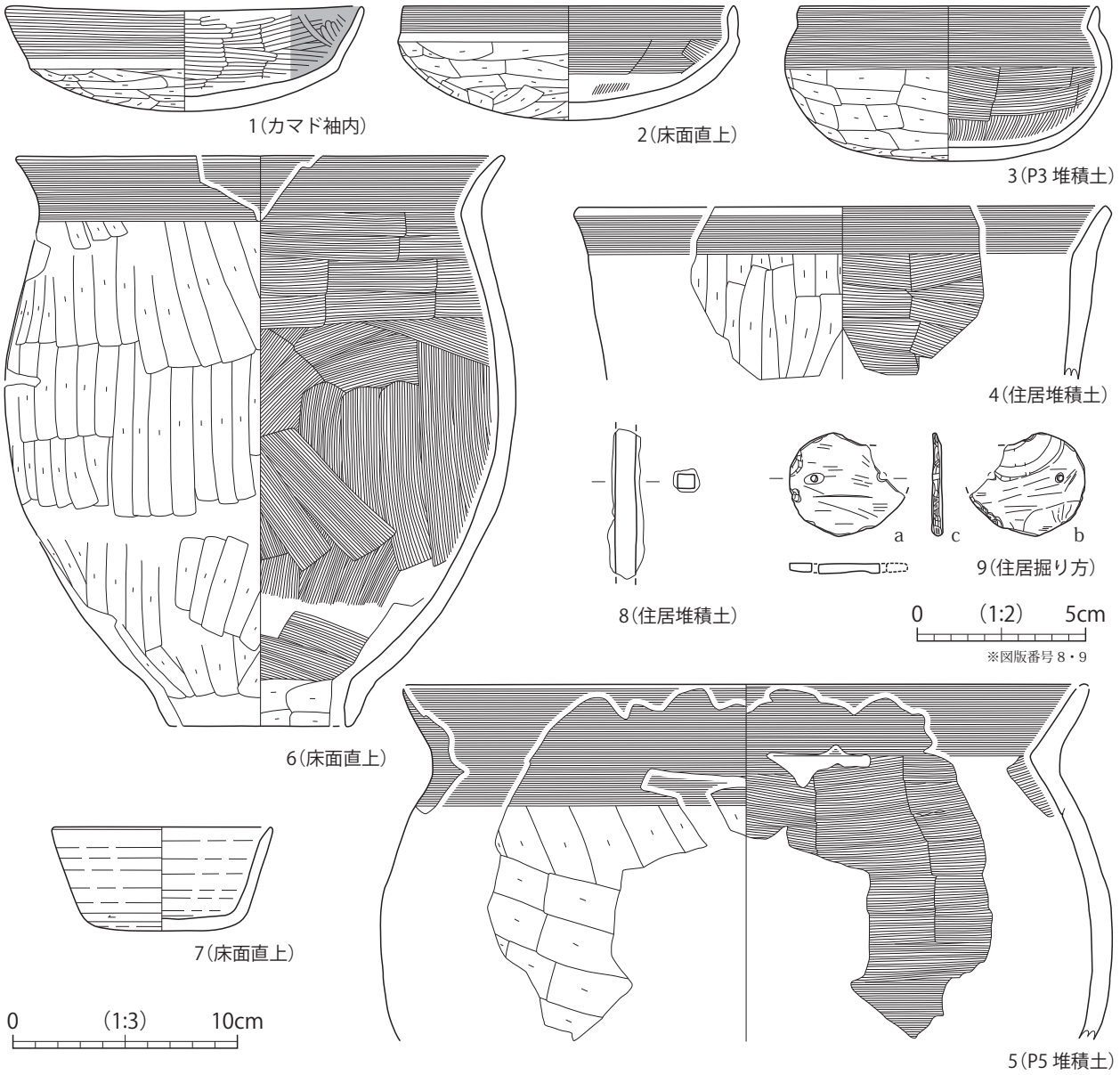
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・黒色土粒微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。※柱痕跡
	2	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P3	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒褐色土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)中量含む。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒中量含む。

SI329 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P1	楕円形	61×46	27	貯蔵穴か。
P2	楕円形	42×33	44	柱痕跡あり。
P3	楕円形	46×39	42	

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P4	楕円形	100×55	49	
P5	円形	37×36	38	
P6	円形	23×20	17	

第 158 図　SI329 竪穴住居跡



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-226	第9次	SI329	カマド袖内	土師器	坏	15.9	—	5.0	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		115
2	C-223	第9次	SI329	床面直上	土師器	坏	14.7	—	5.1	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	内外面摩滅	115
3	C-228	第9次	SI329	P3 堆積土	土師器	埦	(13.2)	—	6.9	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		115
4	C-220	第9次	SI329	堆積土	土師器	甕	(23.4)	—	(7.7)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		115
5	C-227	第9次	SI329	P5 堆積土	土師器	甕	(30.4)	—	(15.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		115
6	C-224	第9次	SI329	床面直上	土師器	甑	21.6	3.6	25.7	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、胴部下端ヘラケズリ		116
7	E-051	第9次	SI329	床面直上	須恵器	坏	9.6	6.8	4.6	ロクロ調整、体部下端ヘラケズリ、底面静止ヘラ切り→ナデ	ロクロ調整	SI320出土破片と接合	115

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
8	N-010	第9次	SI329	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(4.4)	0.5	0.4	5.1		115

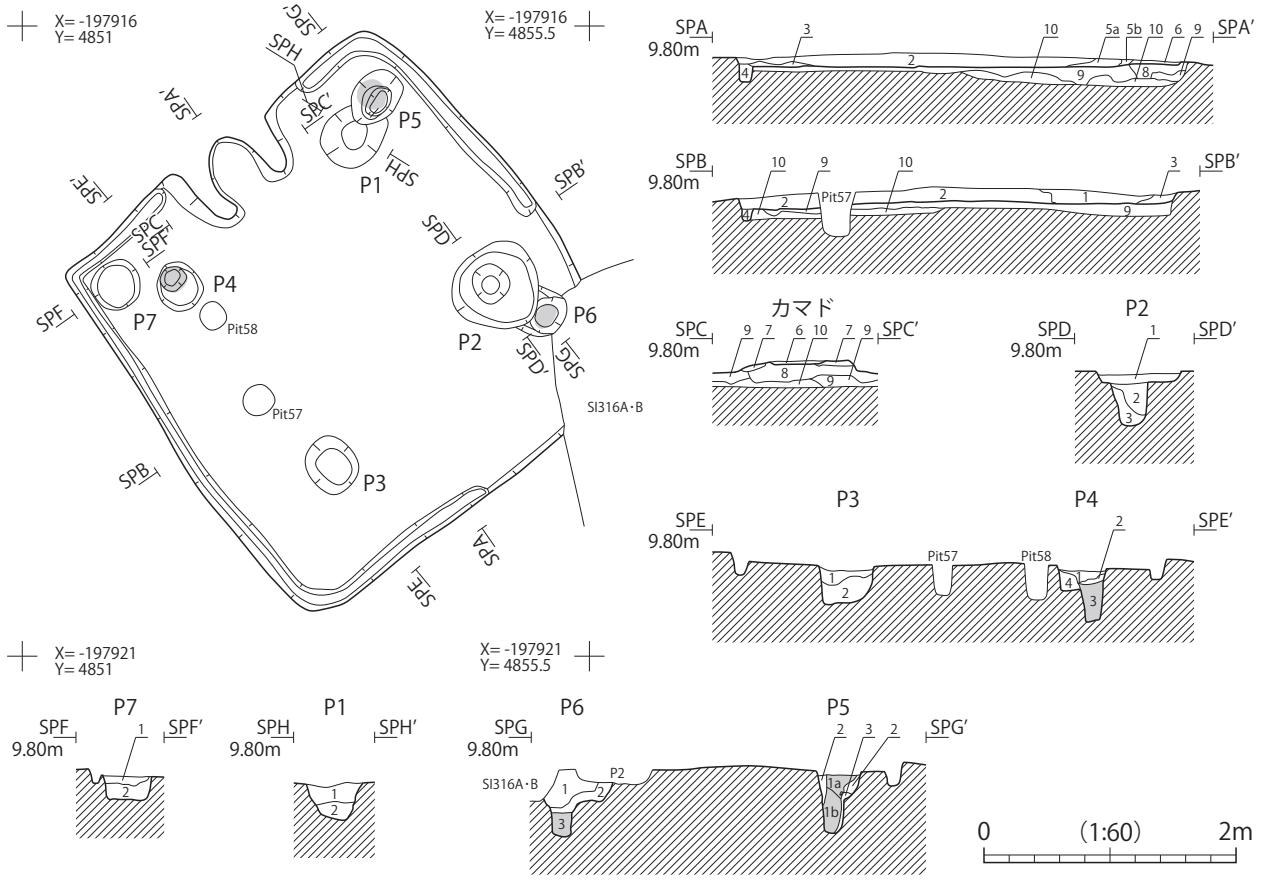
図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
9	Kd-006	第9次	SI329	掘り方	石製品	石製模造品(有孔円盤)	3.1	3.4	0.3	3.8	黒色片岩	a・b面線状痕、外周ケズリ整形、貫通孔2箇所、外周節理にて一部欠損	115

第 159 図　SI329 竪穴住居跡出土遺物

【堆積土】 7層に分層された。1・2層は住居堆積土で、3層はカマド関連の堆積土である。4・5層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土を主体とする。6・7層は住居掘り方の埋土である。
【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で23cmを測る。
【床面】 概ね平坦である。
【柱穴】 掘り方から5基（P2～6）を検出した。P2・5は規模や位置関係から主柱穴に相当する可能性があるが、これらと対応する柱穴は北側で認められなかった。P3・6はP5を挟むように配置されており、補助柱穴と考えられる。P2では柱痕跡が確認され、径29cmを測る。
【カマド】 北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。削平の影響を受け、煙道部は失われている。袖の規模は、東袖が長さ74cm、幅30～40cm、西袖が長さ88cm、幅30～32cmを測り、北壁に対して若干「ハ」字状に開いて延びる。燃焼部は奥行き68cm、幅37cm、奥壁高15cmを測り、壁内に位置する。底面は概ね平坦である。被熱は強く、底面や袖の一部が焼土化している。
【その他の施設】 土坑P1を検出した。北西コーナーに配置されており、貯蔵穴と考えられる。
【掘り方】 北壁、西壁側が掘り込まれる。底面は概ね平坦である。深さは、6～22cmを測る。
【出土遺物】 土師器坏2点、埦1点、甕2点、甑1点、須恵器坏1点、金属製品1点、石製品1点を掲載した（第159図）。土師器坏は1・2ともに口縁部と体部との境目に明瞭な稜をもつが、口縁部形態は1が直線的に外傾するのに対し2は短く内傾する。2は鬼高系の坏に分類される。3の埦は「く」字状に短く外反する口縁部をもち、体部は扁平である。4の甕は口縁部に最大径があり、胴部は底部に向かって窄まる器形と思われる。6の甑は、やや張る胴部から口縁部で「く」字状に外反し、底部は高台状に突出する。甕の底部をそのまま穿孔したような器形である。7の須恵器坏は見込みまでが深い埦状の器形を呈し、底部は回転ヘラ切り離し後、手持ちヘラケズリを施す。8の金属製品は器種不明の棒状鉄製品である。9の石製品は有孔円盤で、2箇所の貫通孔が認められる。
【時期】 床面上から出土した第159図－2・6・7、カマド袖の脇から出土した同図－1、P3・5の堆積土中から出土した3・5には時期幅があるので、今後の検討を要する。他の遺構との新旧関係からみれば、本竪穴住居跡の時期は3期（7世紀初頭～前葉）以降である。

SI330 竪穴住居跡（第160・161図）

【位置・確認】 第9次調査区北部の18・23グリッドに位置する。南東コーナー部分はSI316Aとの重複により失われている。
【重複】 SI332・334・337・349、Pit197・237より新しく、SI316Aより古い。
【規模・形態】 検出した規模は、南北353cm、東西352cmを測る。平面形状は方形を呈するが、東壁は外側に若干弧を描いて膨らんでいる。
【方向】 カマド基準でN－37°－Wである。
【堆積土】 大別で10層、細別で11層に分層された。大別1～3層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。4層は周溝堆積土、5・6層はカマド関連の堆積土である。7層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土を主体とする。8～10層は住居掘り方の埋土である。
【壁面】 壁高は最大でも11cmしか残存しておらず、詳細不明である。
【床面】 概ね平坦である。
【柱穴】 床面から4基（P1～4）、掘り方から2基（P5・6）を検出した。P1～4は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。P5・6はP1・2と重複し、それぞれが建て替えの関係にあると思われるが、規模はP1・2より一回り程小さい。P4～6では柱痕跡が確認され、P4で径23cm、P5で径25cm、P6で径19cmを測る。



SI330 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、炭化物粒・白色粒微量含む。
	3	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、暗褐色土少量含む。
周溝	4	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド	5a	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰少量含む。
	5b	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰少量、焼土粒微量含む。
	6	5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5～20㎜程度)密、焼土粒・炭化物粒・灰多量含む。
カマド袖	7	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。白色粒少量含む。
住居掘り方	8	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(10～50㎜程度)多量、黒色土粒少量含む。
	9	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒褐色土ブロック(5～10㎜程度)・暗褐色土粒少量含む。
	10	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。

SI330 施設堆積土註記表

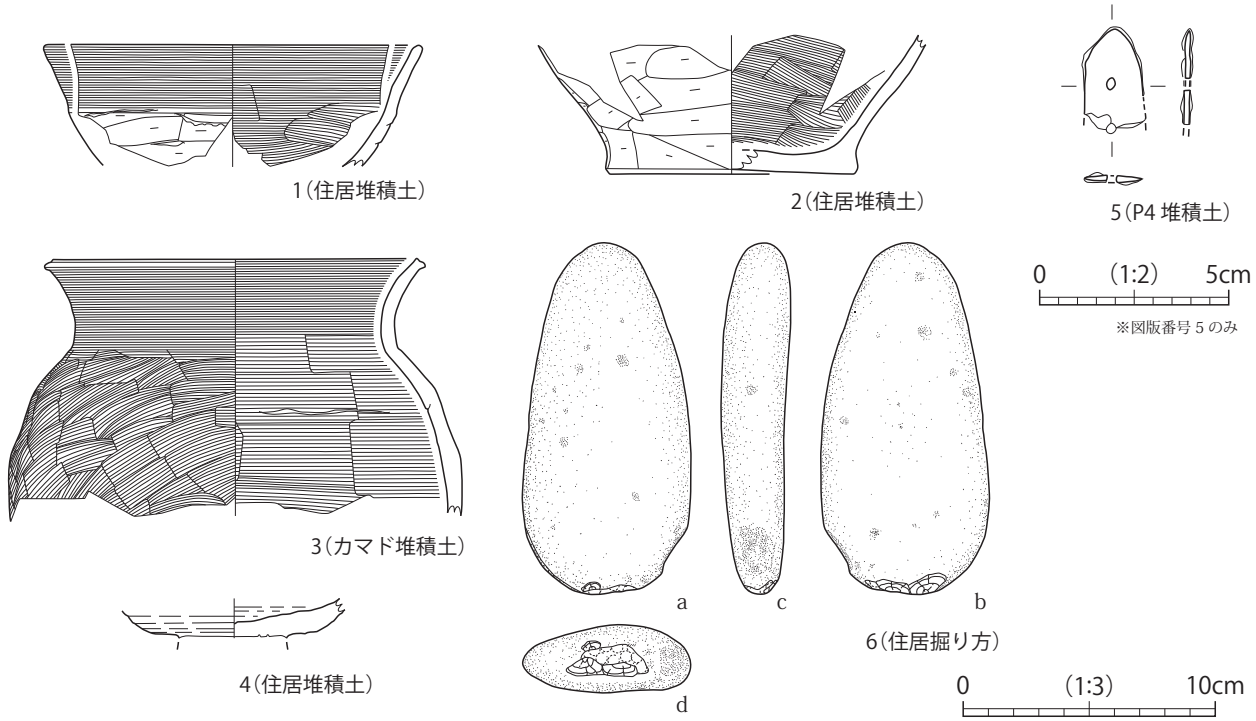
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・黒色土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(10㎜程度)少量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P4	1	10YR5/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
	3	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、黒色土粒微量含む。
P5	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	1b	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。粘性が非常に強い。※柱痕跡
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土粒多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡
P7	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰色土粒微量含む。

第 160 図　SI330 竪穴住居跡

SI330 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	56×46	29	
P2	楕円形	70×69	47	
P3	隅丸方形	45×39	32	
P4	楕円形	39×35	44	柱痕跡あり。

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	楕円形	48×35	51	柱痕跡あり。
P6	円形	58×39	54	柱痕跡あり。
P7	楕円形	40×37	18	貯蔵穴か。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-231	第9次	SI330	堆積土	土師器	坏	(14.8)	—	(4.8)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		116
2	C-232	第9次	SI330	堆積土	土師器	甕	—	(9.7)	(5.1)	ヘラケズリ	ヘラナデ		116
3	C-233	第9次	SI330	カマド堆積土	土師器	甕	(14.4)	—	(10.2)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕	SX26・27出土破片と接合	116
4	E-053	第9次	SI330	堆積土	須恵器	高坏	—	—	(1.5)	ロクロ調整	ロクロ調整、自然釉		116

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ			
5	N-011	第9次	SI330	P4堆積土	金属製品	鉄鏃	(2.7)	1.6	0.1	1.7	鏃身部、貫通孔1箇所、孔径2～3㎜	116

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
							全長	幅	厚さ				
6	Kc-060	第9次	SI330	掘り方	礫石器	敲石	14.0	6.7	2.7	386.8	安山岩	d面敲(中)+敲打時の剥離	116

第 161 図　SI330 竪穴住居跡出土遺物

【カマド】 北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。削平の影響を受け、煙道部は失われている。袖の規模は、東袖が長さ 54cm、幅 28 ～ 30cm、西袖が長さ 62cm、幅 26 ～ 40cm を測り、北壁に直交して延びる。燃焼部は奥行き 51cm、幅 35cm、奥壁残存高 6cm を測り、壁内に位置する。底面は概ね平坦である。被熱は弱く、底面や壁面の焼土化はあまり進んでいない。

【その他の施設】 土坑 P7 を検出した。北西コーナーに配置されており、貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、特に北半部分は一段下がる。深さは、4 ～ 14cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、甕 2 点、須恵器高坏 1 点、金属製品 1 点、礫石器 1 点を掲載した（第 161 図）。1 の土師器坏は口縁部と体部との境目に明瞭な稜をもち、口縁部は直線的に外傾する。4 の須恵器高坏は坏底部の破片で、外面には脚台部の剥落痕が残存する。内面には全面に自然釉が付着する。5 の金属製品は鉄鏃の鏃身部である。形状は五角形を呈し、中央に 1 箇所の貫通孔が穿たれている。6 の礫石器は敲石である。敲打痕は下端部 c 面

にのみ認められる。

【時期】 カマド内部から出土した第 161 図－ 3 は時期幅があるため、本竪穴住居跡の時期は他の遺構との新旧関係から 2b 期（6 世紀中葉～末葉）以降である。

SI331 竪穴住居跡（第 162 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 19 グリッドに位置する。重複による破壊が進み、カマドの煙道部のみが残存する。

【重複】 SI316A・316B・325 より古い。

【規模・形態】 不明である。後述する SI346 が本竪穴住居跡と同一である可能性もあるが、判然としない。

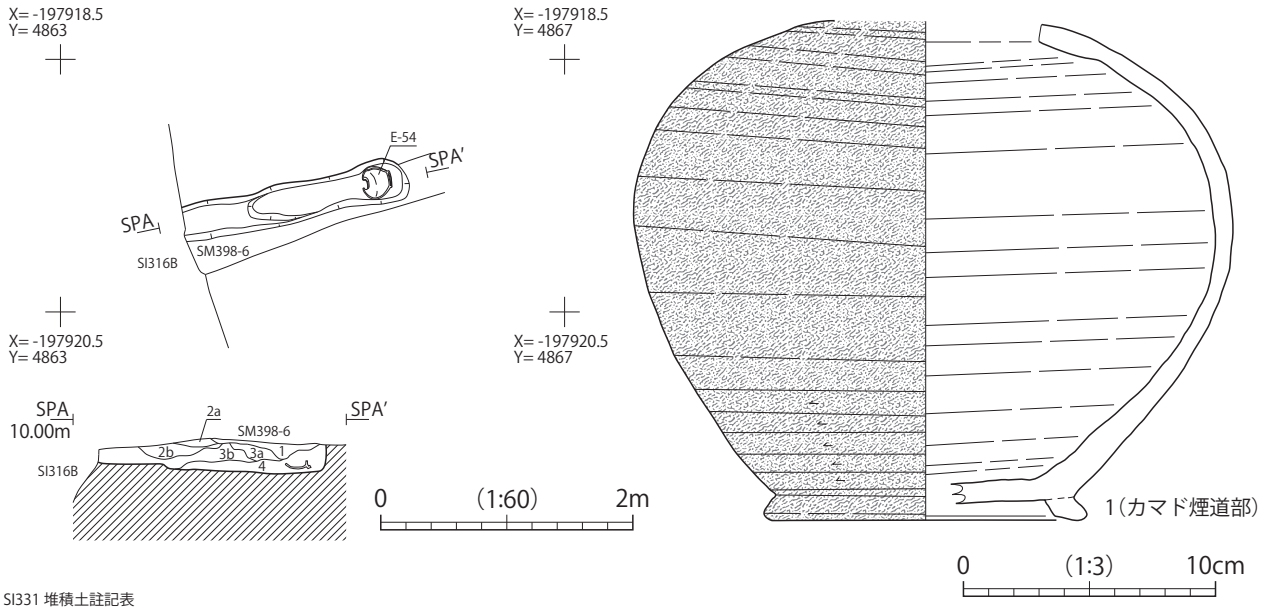
【方向】 カマド基準で N － 78° － E である。

【堆積土】 大別で 4 層、細別で 6 層に分層された。いずれもカマド煙道部の堆積土である。

【カマド】 東壁に位置する。残存する煙道部は長さ 181cm、幅 33cm、深さ 22 ～ 29cm を測り、底面は手前から 52cm の位置で 4cm 程一段下がり、そのまま煙出し方向へ緩やかに下がる。煙出し部分には第 162 図－ 1 の須恵器壺約 1/2 個体が置かれた状態で出土しており、雨水避けなどの機能が考えられる。

【出土遺物】 須恵器壺 1 点を掲載した（第 162 図）。胴部以下の個体資料で、広口壺とみられる。胴部上位に最大径をもち、底部に向かって無花果形に窄まる器形を呈する。底部には高台が貼り付けられ、高台部断面は「ハ」字状に開く。外面には全体に自然釉が付着している。

【時期】 第 162 図－ 1 の特徴から、本竪穴住居跡の時期は 4 期（7 世紀中葉～後葉）と考えられる。



SI331 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒密、炭化物粒少量含む。
	2a	10YR2/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）密に含む。下位に焼土粒が混じる。
	2b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）密に含む。
	3a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	3b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物粒多量、Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）少量含む。

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-054	第9次	SI331	カマド煙道部	須恵器	壺	－	(12.8)	(19.8)	ロクロ調整、自然釉、胴部下端ヘラケズリ、高台貼付	ロクロ調整		116

第 162 図　SI331 竪穴住居跡・出土遺物

SI332 竪穴住居跡（第 163・164 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北部の 13・18 グリッドに位置する。重複遺構による破壊部分が多く、カマドを中心とした北側部分が残存する。

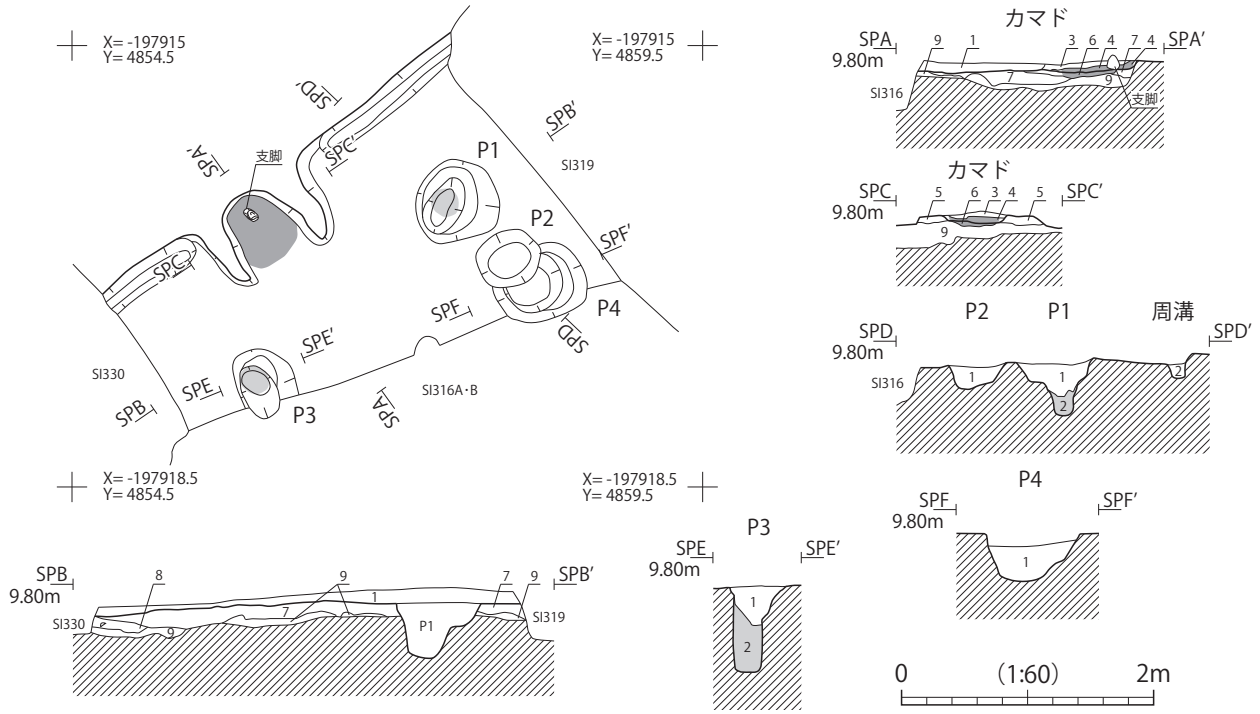
【重複】 SI334・344、SK307、Pit89 より新しく、SI316A・316B・319・330 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 234cm、東西 334cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 カマド基準で N － 36° － W である。

【堆積土】 9 層に分層された。1 層は住居堆積土で、2 層は周溝堆積土である。3・4 層はカマド関連の堆積土で、5 層はカマド袖の構築土である。5 層は基本層Ⅳ層土を主体とする。6 層はカマド掘り方の埋土で、7 ～ 9 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 壁高は最大でも 12cm しか残存しておらず、詳細不明である。



SI332 堆積土註記表

部位		土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。※D－D′セクション内に記載。
カマド	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	焼土ブロック(5㎜程度)多量含む。
	4	5YR3/4 暗赤褐色	砂質シルト	焼土層。
カマド袖	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。焼土ブロック(5㎜程度)・焼土粒微量含む。
カマド掘り方	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5㎜程度)・焼土粒多量、黒色土粒少量、炭化物粒微量含む。一部被熱により赤化。
住居掘り方	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量、暗褐色土粒少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(5㎜程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5㎜程度)少量含む。

SI332 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。※柱痕跡
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・炭化物粒中量含む。

SI332 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	深さ	備考
P1	楕円形	67×61	45	柱痕跡あり。
P2	円形	51×45	19	
P3	楕円形	(55)×46	68	柱痕跡あり。
P4	楕円形	74×(58)	38	

第 163 図　SI332 竪穴住居跡

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 2 基（P1・3）を検出した。ともに規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。北壁のラインに対し、やや南に傾くようにして配置されている。いずれも柱痕跡が確認され、P1 で径 25cm、P3 で径 24cm を測る。

【周溝】 残存する北壁では、カマド左右の壁面に沿って延びている。規模は、幅 18 ～ 23cm、深さ 9 ～ 11cm を測る。

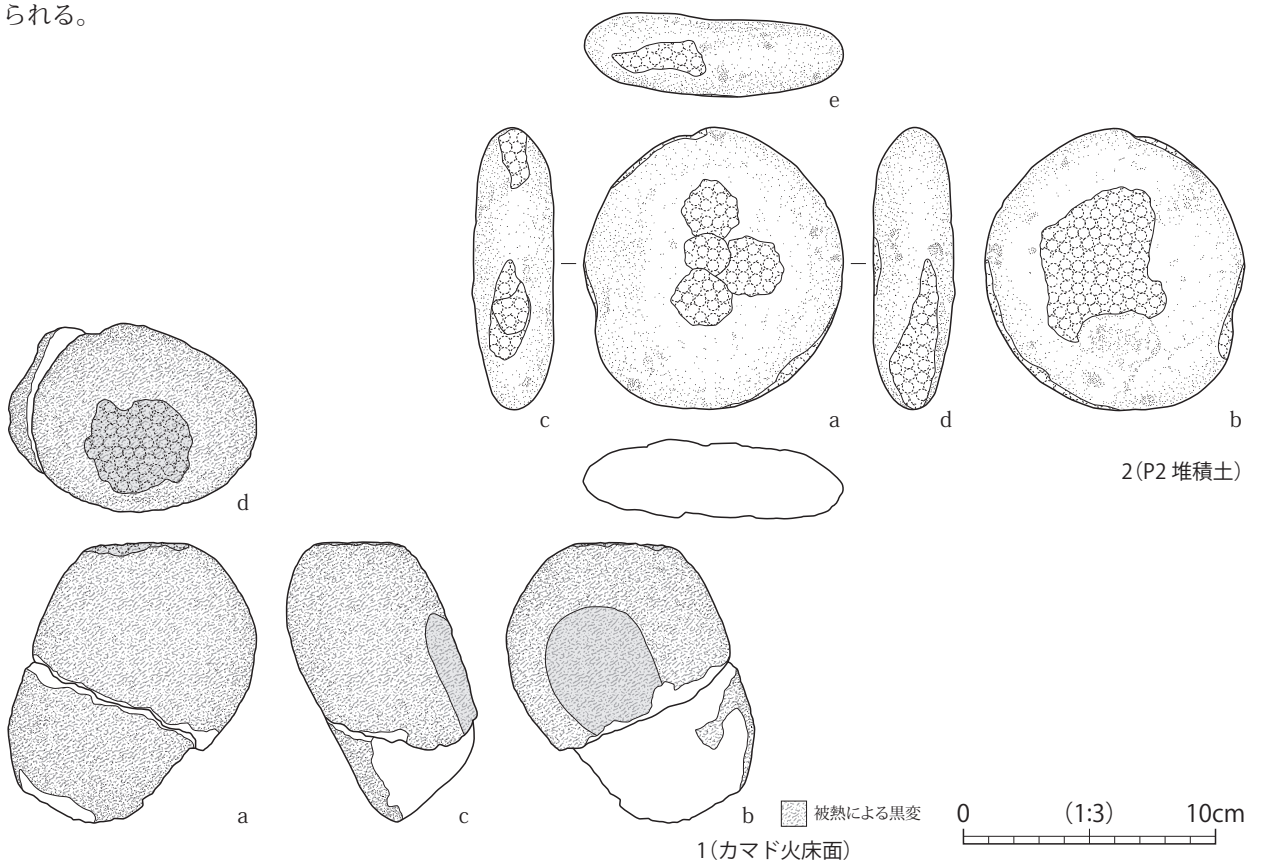
【カマド】 東壁に位置し、壁面に直交して付設される。煙道部は削平の影響を受け、失われている。袖の規模は、東袖が長さ 72cm、幅 22 ～ 40cm、西袖が長さ 64cm、幅 16 ～ 28cm を測り、北壁に対し若干「ハ」字状に開いて延びる。燃焼部は奥行き 60cm、幅 49cm、奥壁残存高 6cm を測り、壁内に位置する。底面は概ね平坦で、やや奥壁に寄った位置には第 164 図－ 1 の支脚が埋設されていた。被熱は強く、底面の全体と袖の一部が焼土化している。

【その他の施設】 土坑 P2・4 を検出した。これらは重複して検出され、ともに人為的に埋め戻されている。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面はカマドの直下が土坑状に窪む。また、南東部にも深さ 41cm の土坑状の掘り込みが存在する。深さは、10 ～ 20cm を測る。

【出土遺物】 石製品 1 点、礫石器 1 点を掲載した（第 164 図）。1 の石製品はカマド支脚である。埋設部分を打ち欠いて加工し、土器の接する b 面を平坦に加工している。2 の礫石器は敲＋凹石で a ～ e の各面が敲打され、a 面には 2 箇所の凹部が認められる。

【時期】 本竪穴住居跡の時期は、2b 期（6 世紀中葉～末葉）以降の SI330 より古いことからそれ以前に位置付けられる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層　位	種　別	器　種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石　材	備　　考	写真図版
1	Kd-012	第9次	SI332	カマド火床面	石製品	カマド支脚	11.1	9.9	6.5	409.1	凝灰岩	b面磨(弱)、d面磨(弱)→敲(弱)で平坦に加工、全体被熱	116
2	Kc-061	第9次	SI332	P2堆積土	礫石器	敲+凹石	11.2	10.3	3.2	500.0	安山岩	a面敲(弱)→凹2箇所、b～e面敲(弱・中)	117

第 164 図　SI332 竪穴住居跡出土遺物

SI333 竪穴住居跡（第 165 ～ 167 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部東側の 24・29 グリッドに位置する。東壁は調査区外にかかる。

【重複】 SI8・315・348・350・353、Pit214 より新しく、SD7、SK304・306 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 410cm、東西 523cm を測る。平面形状は東西方向に長い長方形を呈する。

【方向】 カマド基準で N － 2° － W である。

【堆積土】 大別で 16 層、細別で 17 層に分層された。大別 1 層は住居堆積土で、2 層は周溝堆積土である。3 ～ 11 層はカマド関連の堆積土で、12 ～ 14 層はカマド袖の構築土である。基本層Ⅳ層が主体であると思われる。15・16 層は住居掘り方の埋土で、16 層はカマド部分が被熱により赤化している。

【壁面】 直立気味に立ち上がる。壁高は最大で 25cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 4 基（P1・3・6・7）を検出した。P3・7 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われるが、ほかにこれらと対応する柱穴は見当たらなかった。P1・3・7 では柱痕跡が確認され、P1 で径 15cm、P3 で径 17cm、P7 で径 24cm を測る。

【周溝】 検出部では全体の壁面に沿って巡る。規模は、幅 15 ～ 33cm、深さ 15 ～ 23cm を測る。

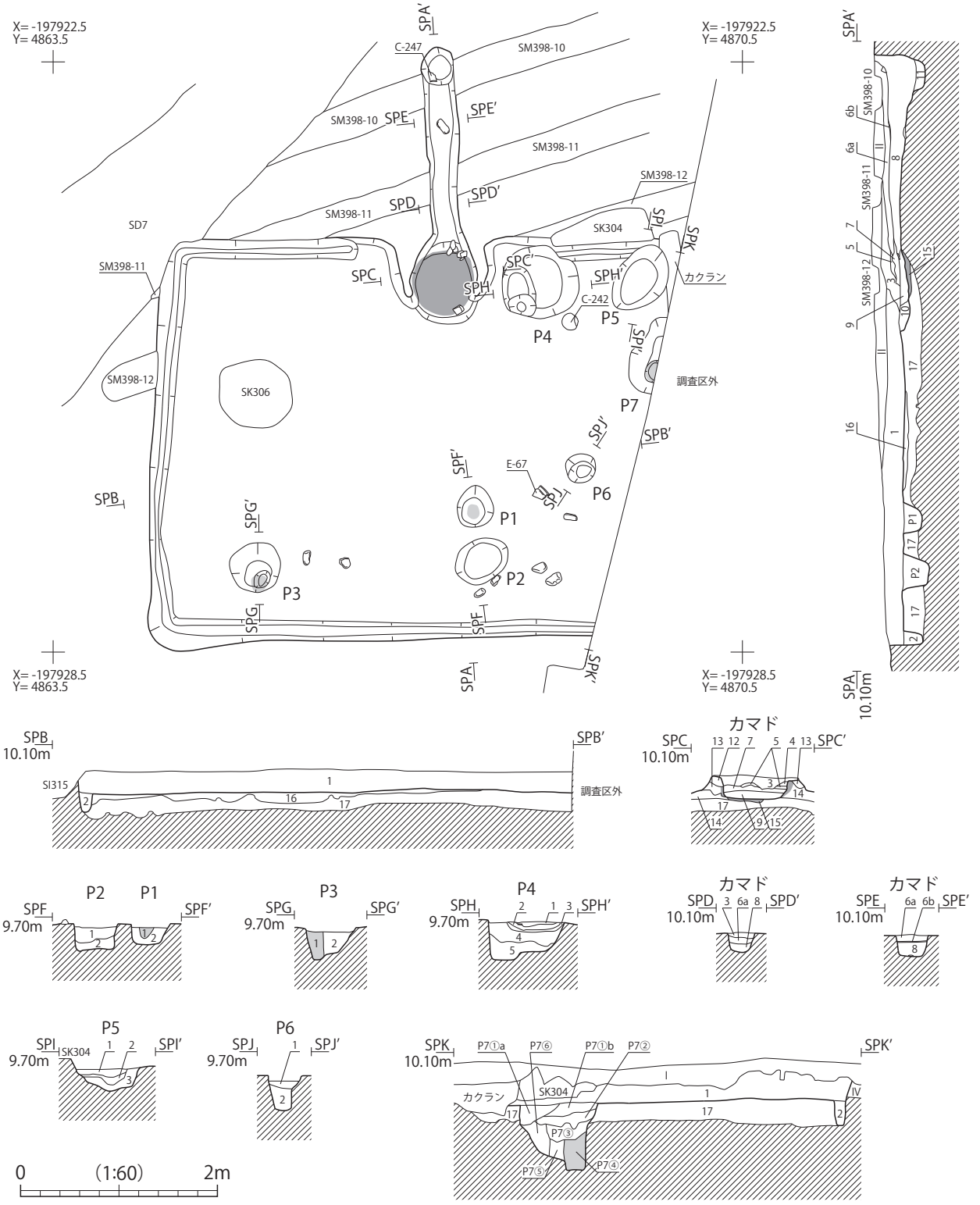
【カマド】 北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。袖の規模は、東袖が長さ 68cm、幅 16 ～ 30cm、西袖が長さ 78cm、幅 18 ～ 40cm を測り、北壁に直交して延びる。燃焼部は奥行き 83cm、幅 57cm を測り、壁内に位置する。底面は 6cm 程皿状に窪み、煙道部へそのまま平坦に繋がる。被熱は強く、底面と壁面が焼土化している。煙道部は長さ 197cm、幅 34cm、深さ 44cm を測り、底面は煙出し方向へ緩やかに下がり、煙出し部分はピット状に掘り込まれている。

【その他の施設】 土坑 P2・4・5 を検出した。P4 はカマド脇、P5 は北東コーナーに配置されており、ともに貯蔵穴と考えられる。また、P2･4 は人為的に埋め戻されており、特に P4 の埋土中には焼土が多量に含まれることから、カマドとの関連性も考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は南側 1/3 程が一段下がる。また、南西コーナーは土坑状に窪む。深さは、8 ～ 33cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、鉢 1 点、甕 2 点、須恵器高台付坏 1 点、蓋 3 点、鉢 3 点、碗 1 点、礫石器 2 点を掲載した（第 166・167 図）。第 166 図－ 1 の土師器坏は体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、底部は平底に近い。2 の鉢は口縁部と体部の境目に明瞭な稜をもち、口縁部は外反する。4 の甕は短く外反する口縁部をもち、胴部は底部に向かってそのまま窄まる器形である。第 167 図－ 1 の須恵器高台付坏の高台はかなり低く、内縁は底部とともに回転ヘラケズリ調整されている。2 ～ 4 の蓋はいずれも端部にカエリがつき、2 のみに残存するツマミはボタン状を呈する。5 ～ 7 は鉢であるが、法量や器形がそれぞれ異なる。5 は中型の鉢で、器形は円筒状を呈する。6 は大型の鉢で口縁部は強く外反し、内面はロクロ調整だが外面は平行タタキ調整されている。7 は小型の鉢でコップにも似た器形を呈し、口縁部には 1 条の沈線を巡らせている。8 は樽形碗の胴部破片である。一対の沈線による縦位区画の内部に、複線波状文を巡らせている。下方には貫通孔の一部が認められる。9･10 の礫石器は、9 が敲＋凹石、10 が磨石である。9 は a・b 面に敲打痕が認められるほか、a 面には溝状痕が「×」字状に刻まれている。

【時期】 第 166 図－ 1、第 167 図－ 6 は床面上から、第 167 図－ 3･4･7 は周溝内から出土した。これらの特徴から、本竪穴住居跡の時期は 6b 期（8 世紀中葉～末葉）と考えられる。



SI333 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	43×37	20	柱痕跡あり。
P2	楕円形	58×43	28	
P3	円形	53×50	32	柱痕跡あり。
P4	楕円形	78×74	63	貯蔵穴か。焼土多量(カマド関連か)

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	楕円形	75×50	22	貯蔵穴か。
P6	円形	30×29	35	
P7	楕円形	79×(29)	67	柱痕跡あり。

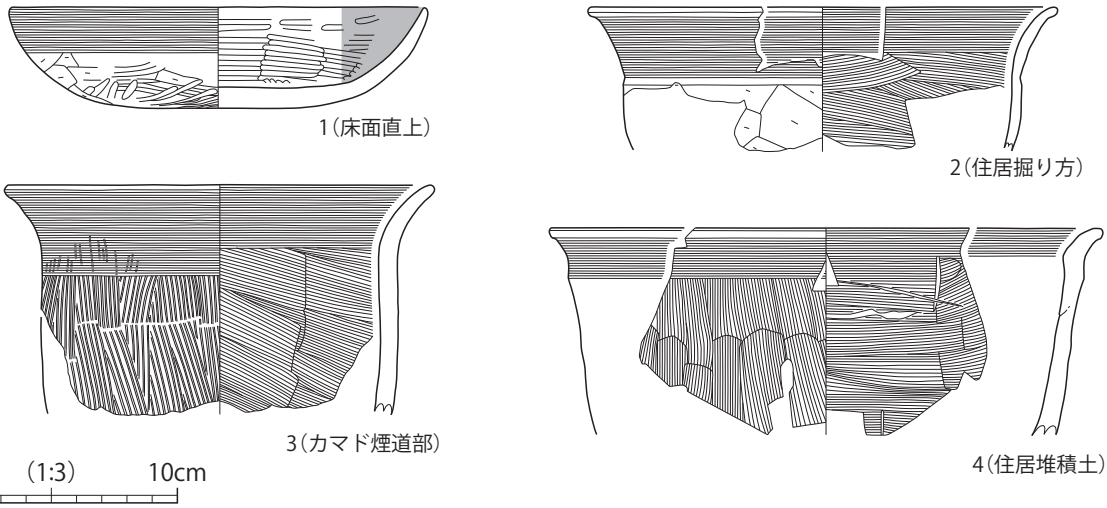
第 165 図　SI333 竪穴住居跡

SI333 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、Ⅳ層土ブロック・暗褐色シルトブロック（10㎜程度）少量含む。
周溝	2	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、黒色土ブロック（5㎜程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド	3	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	微砂	焼土粒多量、Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。
	6a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	焼土粒少量、Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	6b	5YR4/3 にぶい赤褐色	微砂	焼土粒。被熱により赤化。
	7	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック（5～10㎜程度）・焼土粒多量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。部分的に赤化。
	9	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック（5～10㎜程度）・焼土粒・灰多量、Ⅳ層土粒少量含む。下位の一部は被熱により赤化。
	10	10YR3/3 暗褐色	微砂	焼土粒・炭化物粒少量含む。
	11	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
カマド袖	12	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	炭化物粒少量含む。
	13	5YR4/3 にぶい赤褐色	砂質シルト	焼土ブロック（5㎜程度）・焼土粒多量、灰少量、炭化物粒微量含む。
	14	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物粒少量、Ⅳ層土粒微量含む。
住居掘り方	15	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）・Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック（5㎜程度）少量含む。カマド部分被熱により赤化。

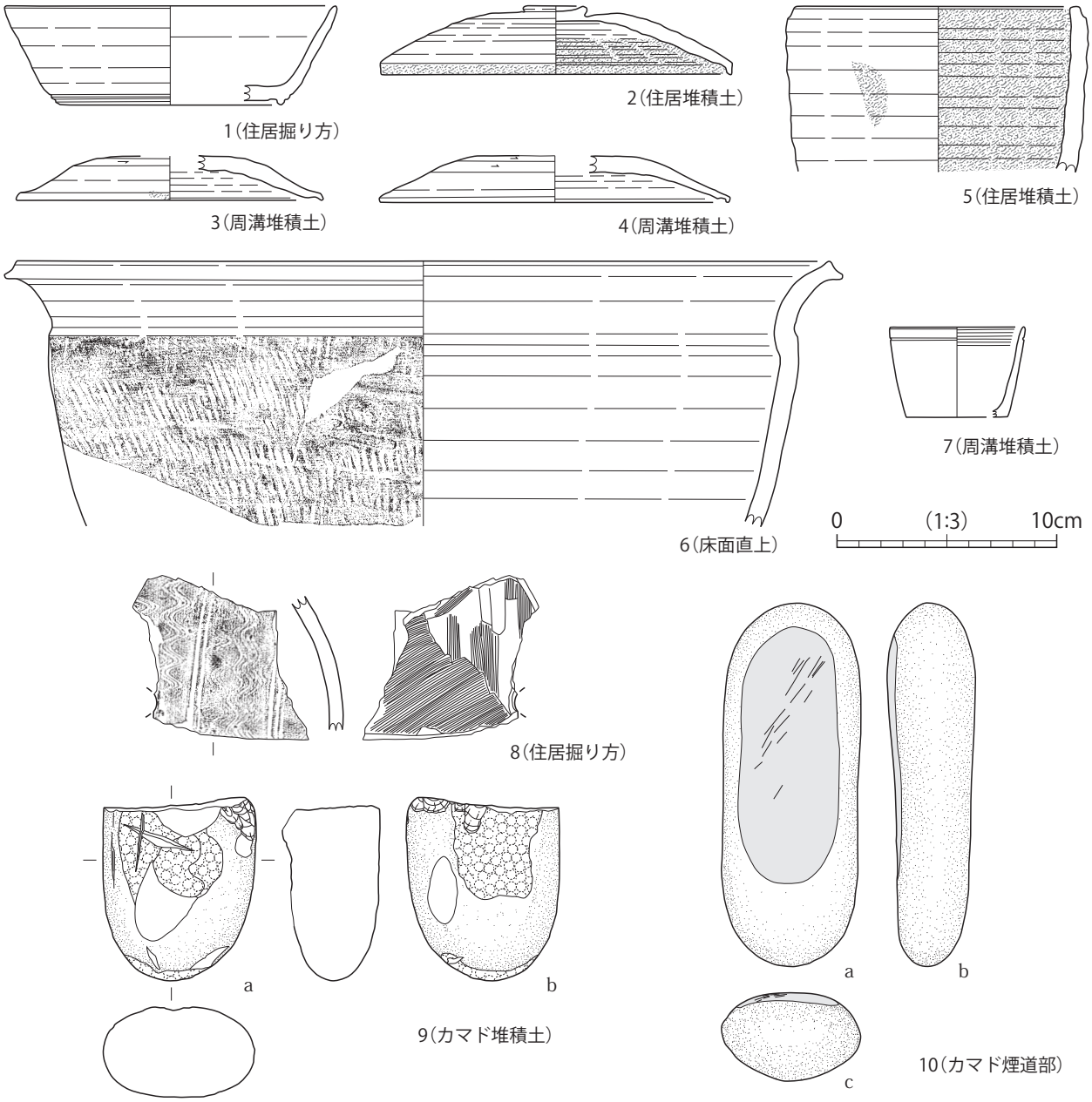
SI333 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、暗褐色土粒微量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	細砂	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック（5㎜程度）微量含む。
P3	1	10YR5/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック（5㎜程度）微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	焼土ブロック（5㎜程度）・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	焼土粒多量、焼土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。
	3	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、灰褐色土粒少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	黒色土ブロック（5㎜程度）少量含む。
P5	1	10YR4/4 褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
P7	①a	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・炭化物粒少量含む。
	①b	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	②	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。
	③	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30㎜程度）多量、炭化物粒微量含む。
	④	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	⑤	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量含む。
	⑥	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm） 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-242	第9次	SI333	床面直上	土師器	坏	16.4	—	4.0	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		117
2	C-239	第9次	SI333	掘り方	土師器	鉢	（18.4）	—	（5.7）	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		117
3	C-247	第9次	SI333	カマド煙道部	土師器	甕	（16.8）	—	（9.1）	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		117
4	C-236	第9次	SI333	堆積土	土師器	甕	（21.8）	—	（8.2）	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		117

第 166 図　SI333 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-066	第9次	SI333	掘り方	須恵器	高台付坏	(15.0)	(10.0)	4.5	ロクロ調整、底面高台貼付	ロクロ調整	SI310出土破片と接合	117
2	E-056	第9次	SI333	堆積土	須恵器	蓋	15.8	—	3.1	ロクロ調整、口縁部端部自然釉	ロクロ調整、口縁部自然釉		117
3	E-062	第9次	SI333	周溝堆積土	須恵器	蓋	(13.8)	—	(2.0)	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ、口縁端部自然釉	ロクロ調整		117
4	E-061	第9次	SI333	周溝堆積土	須恵器	蓋	(15.8)	—	(2.1)	ロクロ調整、天井部ヘラケズリ	ロクロ調整		117
5	E-058	第9次	SI333	堆積土	須恵器	鉢	12.8	—	(7.5)	ロクロ調整、一部自然釉	ロクロ調整、自然釉		117
6	E-067	第9次	SI333	床面直上	須恵器	鉢	(37.0)	—	(12.0)	口縁部ロクロ調整、体部平行タタキ	ロクロ調整		117
7	E-063	第9次	SI333	周溝堆積土	須恵器	鉢	(6.0)	(4.6)	4.1	ナデ、底面回転ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ナデ		117
8	E-065	第9次	SI333	掘り方	須恵器	甕	—	—	(7.5)	櫛描波状文、沈線	ヘラナデ	樽型甕・胴部貫通孔	117

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
9	Kc-063	第9次	SI333	カマド堆積土	礫石器	敲+凹石	8.4	7.0	4.4	294.3	凝灰岩	a面敲(弱)→凹1箇所→溝状痕、b面敲(弱)→上端剥離	117
10	Kc-064	第9次	SI333	カマド煙道部	礫石器	磨石	16.5	6.4	4.1	654.7	安山岩	a面磨(弱)+線状痕	117

第 167 図　SI333 竪穴住居跡出土遺物（2）

SI334 竪穴住居跡（第 168 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北部の 18 グリッドに位置する。重複遺構により、大部分が失われている。

【重複】 SI344、Pit89 より新しく、SI330・332 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 260cm、東西 400cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 カマド基準で N － 45° － E である。

【堆積土】 4 層に分層された。1 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から人為的に埋め戻された可能性が考えられる。2 層は周溝堆積土である。3 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土は使用されていない。4 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 壁高は最大でも 11cm が残存するのみで、詳細不明である。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【周溝】 東壁の一部分と北壁の壁面に沿って巡る。規模は、幅 11 ～ 16cm、深さ 5 ～ 14cm を測る。

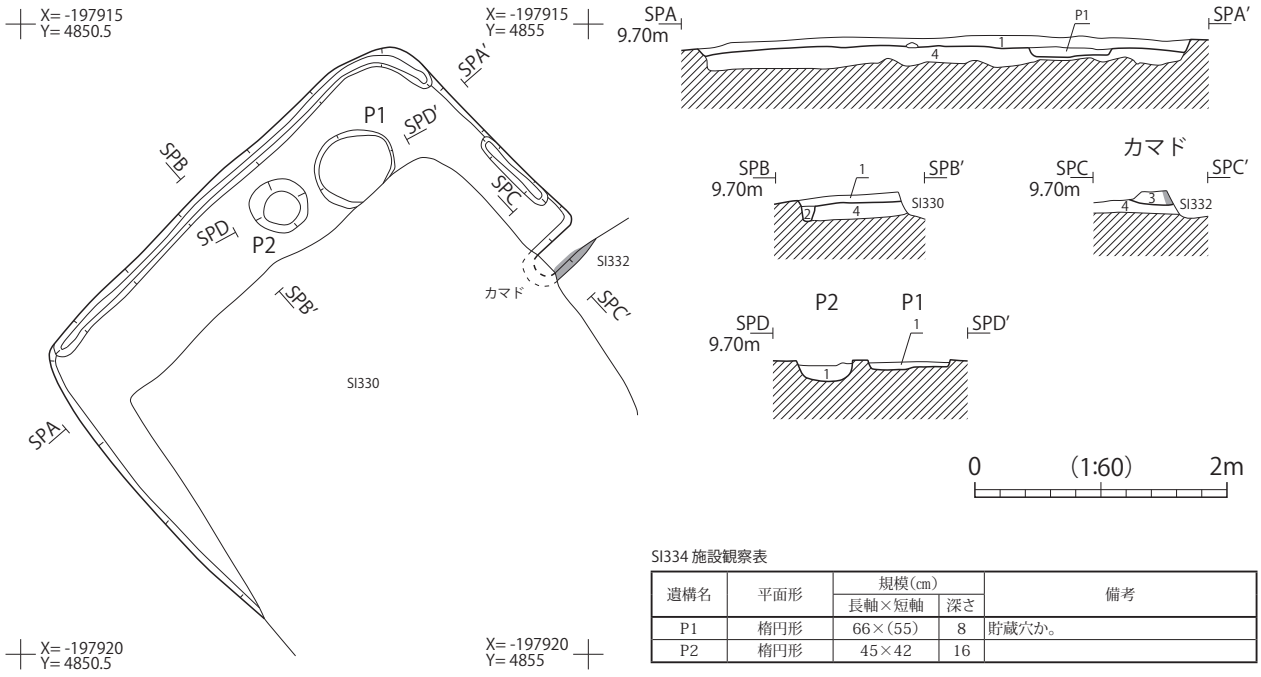
【カマド】 東壁に位置し、壁面に直交して付設されるが、残存するのは北袖のみである。北袖の規模は、残存値で長さ 41cm、幅 25 ～ 27cm を測る。焚口部分は失われている。被熱は強く、内壁が焼土化している。

【その他の施設】 土坑 P1・2 を検出した。ともに人為的に埋め戻されている。P1 は貯蔵穴の可能性もある。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は概ね平坦である。深さは、5 ～ 15cm を測る。

【出土遺物】 堆積土中から土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できる遺物はなかった。

【時期】 本竪穴住居跡の時期は、不明である。



SI334 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	66×(55)	8	貯蔵穴か。
P2	楕円形	45×42	16	

SI334 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量、暗褐色シルトブロック（10㎜程度）少量含む。
周溝	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量含む。
カマド袖	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色シルト微量含む。
住居掘り方	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量、黒褐色シルトブロック（10㎜程度）少量含む。

SI334 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量、焼土ブロック（10㎜程度）・炭化物粒少量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～30㎜程度）多量、焼土ブロック（20㎜程度）・炭化物粒少量含む。

第 168 図　SI334 竪穴住居跡

SI335 竪穴住居跡（第 169・170 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北西端部の 03・07 グリッドに位置する。削平の影響を受け、掘り方のみが残存する。西側部分は調査区外にかかる。

【重複】 SI322 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 597cm、東西 524cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 東壁基準で N － 25° － W である。

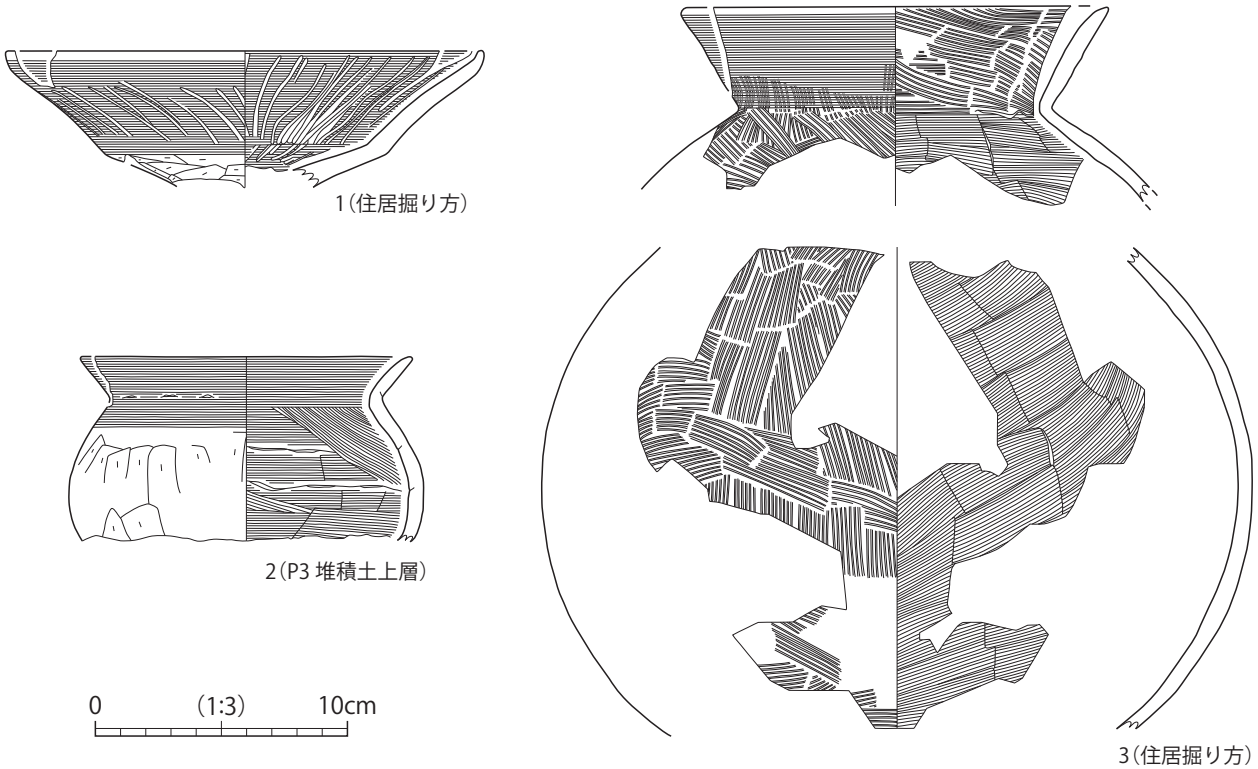
【堆積土】 大別で 5 層、細別で 7 層に分層された。いずれも住居掘り方の埋土である。

【壁面】【床面】 残存していない。

【柱穴】 床面から 9 基(P1 ～ 4・6 ～ 10)を検出した。P2・4・6 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。また、この柱筋の内側に重複する P7 ～ 9 は、P2・4・6 と建て替えの関係にあると考えられる。P1・3・10 は補助柱穴とみられるが、中でも P3 は大型のしっかりとした掘り込みをもち、底面には扁平礫の根石が設置される。P2 ～ 4・8 では柱痕跡が確認され、P2 で径 11cm、P3 で径 18cm、P4 で径 19cm、P8 で径 23cm を測る。

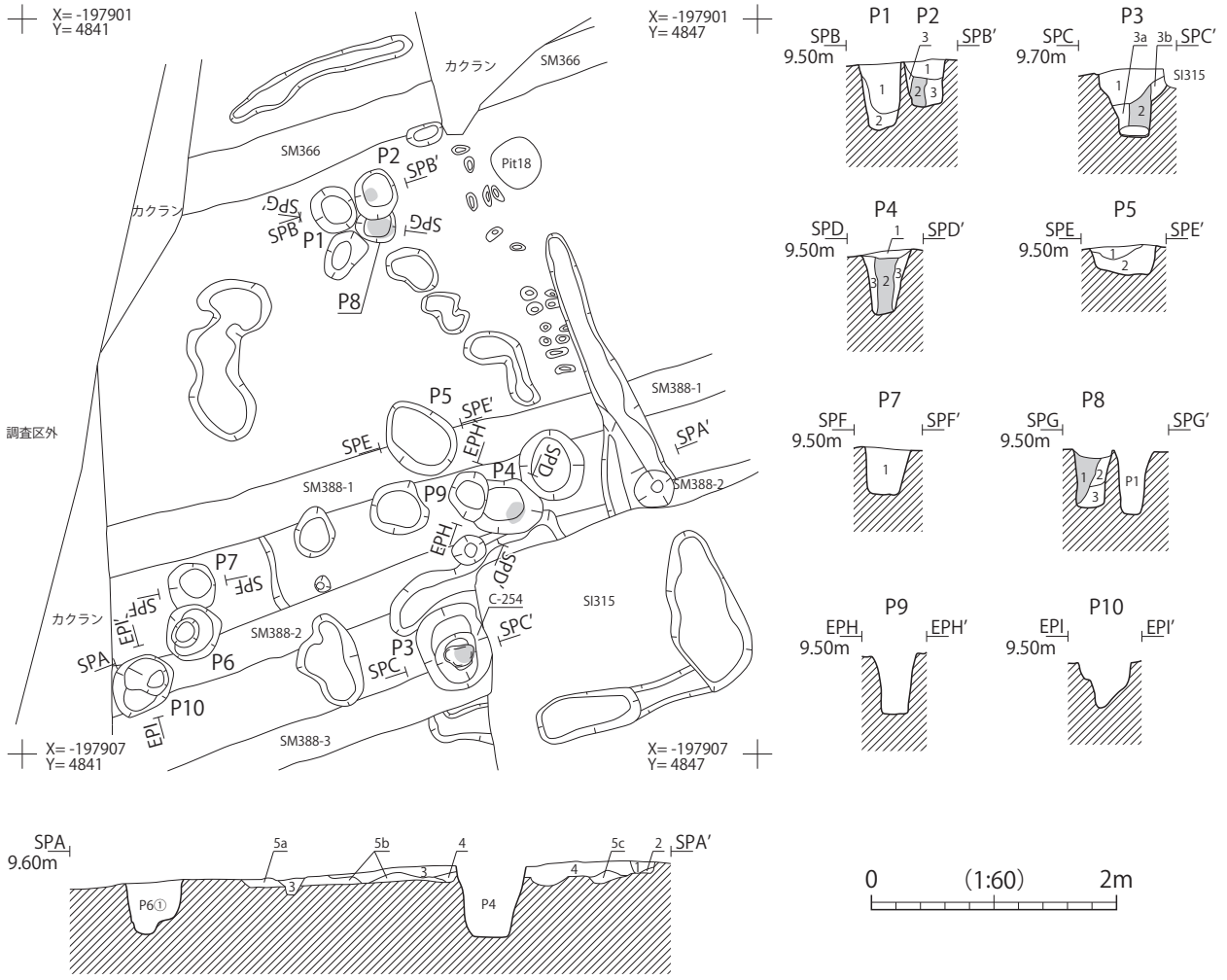
【周溝】 掘り方の底面に溝状の掘り込みが認められることから、壁面に沿って巡っていたと推定される。掘り方で検出された溝の規模は、幅 14 ～ 33cm、深さ 1 ～ 5cm を測る。

【その他の施設】 土坑 P5 を検出した。人為的に埋め戻されており、埋土中に焼土が多量に含まれることから、カマド等の施設との関連性が考えられる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-253	第9次	SI335	掘り方	土師器	高坏	(18.8)	－	(5.4)	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、坏底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、坏底部ヘラナデ→ヘラミガキ		117
2	C-254	第9次	SI335	P3堆積土上層	土師器	甕	(13.0)	－	(7.3)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		117
3	C-251	第9次	SI335	掘り方	土師器	甕	(16.6)	－	(7.9) (19.1)	口縁部ハケメ→ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ハケメ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		118

第 169 図　SI335 竪穴住居跡出土遺物



SI335 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)密、焼土粒多量、炭化物粒微量含む。
	5a	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	5b	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、炭化物粒微量含む。
	5c	10YR6/6 明黄褐色	シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)密、炭化物粒微量含む。

SI335 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)密、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3a	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒微量含む。
	3b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、黒色シルトブロック(5～30㎜程度)少量含む。※柱痕跡
	3	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)密に含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・焼土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒多量含む。
P6	①	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒少量含む。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・黒褐色シルトブロック(5㎜程度)密に含む。※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。壁際にⅣ層土が集中。
	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。砂質強い。
P9	—	—	—	註記なし。
P10	—	—	—	註記なし。

第 170 図　SI335 竪穴住居跡

SI335 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	39×35	55	
P2	円形	40×34	39	柱痕跡あり。
P3	隅丸長方形	69×(57)	56	柱痕跡あり。
P4	不整楕円形	(52)×44	54	柱痕跡あり。
P5	楕円形	67×50	24	焼土多量(カマド関連か)

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	円形	48×45	45	
P7	円形	42×41	39	
P8	不整円形	33×(29)	48	柱痕跡あり。
P9	不整円形	38×31	49	
P10	楕円形	54×46	43	

【掘り方】 削平のため、全体の状況は明らかでない。底面には土坑状やピット状の窪みが不規則に散在し、推定される東壁付近の北側からは工具痕が並んで検出された。本竪穴住居跡の掘り方の深さは、0 ～ 17cm を測る。

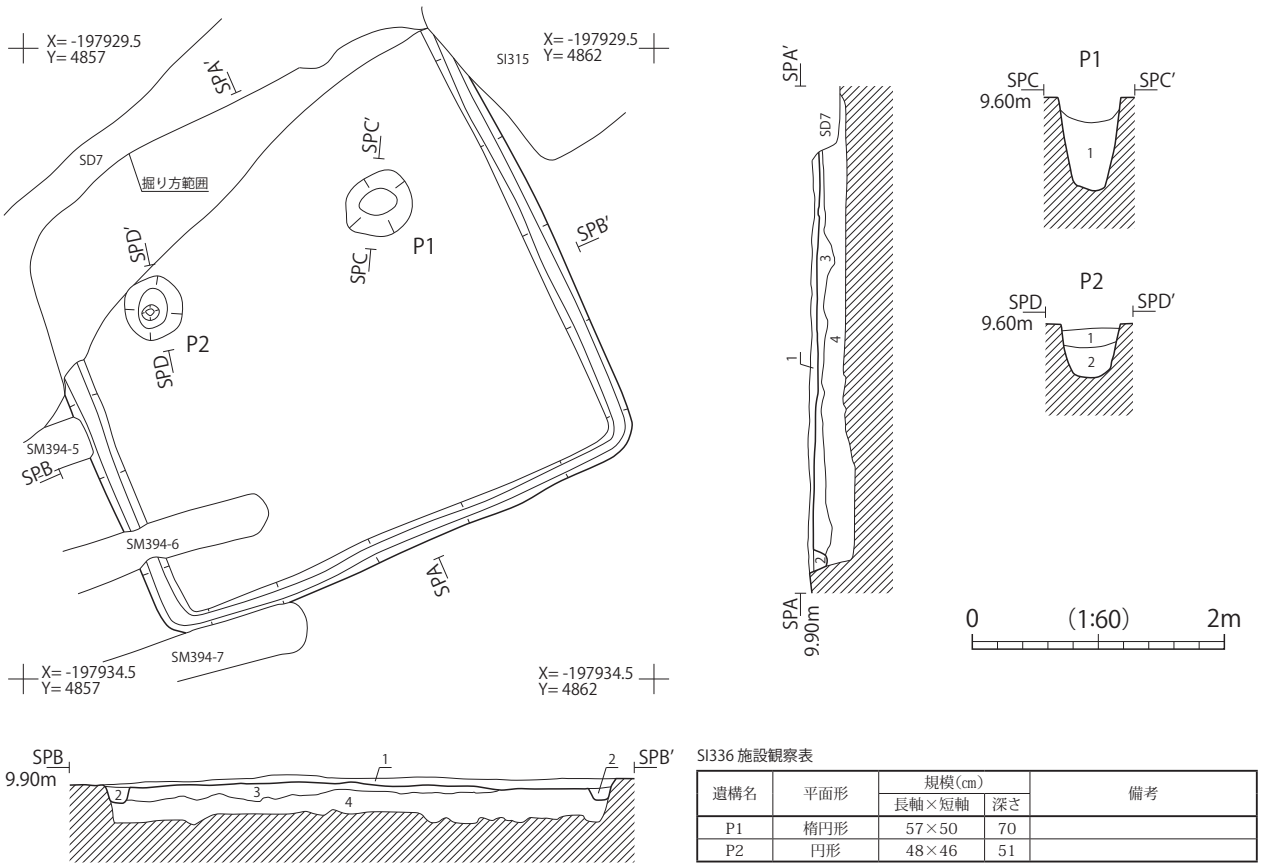
【出土遺物】 土師器高坏 1 点、甕 2 点を掲載した（第 169 図）。1 の高坏は坏部の破片で、口縁部はラッパ状に外反して開く。外面にはヨコナデ後、放射状のヘラミガキが施される。2 の甕は小型の球胴甕で、口縁部は「く」字状に外反する。

【時期】 第 169 図－ 2 は P3 内部から、ほかは掘り方埋土中から出土した。これらの特徴から本竪穴住居跡の時期は 2 期（6 世紀代）以前の可能性があるが、確定できなかった。

SI336 竪穴住居跡（第 171 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部西側の 28・29・32・33 グリッドに位置する。SD7 との重複により、北壁は失われている。

【重複】 SI341、Pit125 より新しく、SI315、SD7 より古い。



SI336 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	57×50	70	
P2	円形	48×46	51	

第 171 図　SI336 竪穴住居跡

SI336 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(5～20㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
住居掘り方	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量含む。

S336 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・炭化物粒多量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)密、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 370cm、東西 410cm を測る。平面形状は方形を呈する。SD7 に破壊された部分は、掘り方の状況から規模および形状を捉えた。

【方向】 南壁基準で N － 25° － W である。

【堆積土】 4 層に分層された。1 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。2 層は周溝堆積土、3・4 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 壁高は最大でも 6cm しか残存しておらず、詳細不明である。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 掘り方から 2 基（P1・2）を検出した。本来は床面から掘り込まれていたと考えられる。ともに規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われるが、南側には対応する柱穴が認められなかった。

【周溝】 残存部分では、全体の壁面に沿って巡る。規模は、幅 15 ～ 25cm、深さ 7 ～ 13cm を測る。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は概ね平坦であるが、南東部が一段下がる。深さは、20 ～ 31cm を測り、厚く埋土されている。

【出土遺物】 堆積土中などから土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 SI315 より古いことから、4 期（7 世紀中葉～後葉）以前に位置付けられる。

SI337 竪穴住居跡（第 172 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部の 18・23 グリッドに位置する。重複遺構により大半が失われ、北壁を失った北西部分のみが残存する。

【重複】 SI349 より新しく、SI316A・316B・329・330 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 344cm、東西 172cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 西壁基準で N － 38° － W である。

【堆積土】 3 層に分層された。1 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。2 層は周溝堆積土、3 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 壁高は最大でも 13cm しか残存しておらず、詳細不明である。

【床面】 残存部では、概ね平坦である。

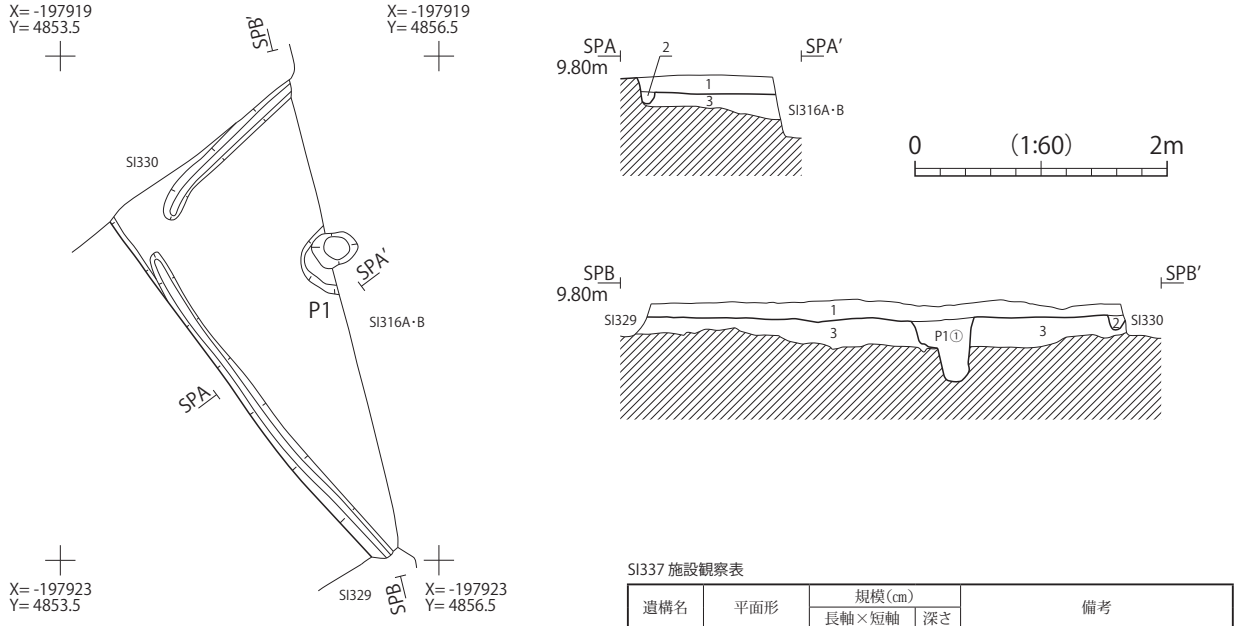
【柱穴】 床面から 1 基（P1）を検出した。規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。

【周溝】 西壁と北壁の壁面に沿って巡るが、コーナー部分で 25cm 程断続する。規模は、幅 12 ～ 17cm、深さ 8 ～ 13cm を測る。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、西壁際が幅 60cm 前後のテラス状に高まる。深さは、8 ～ 26cm を測る。

【出土遺物】 堆積土中から土師器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 2b 期（6 世紀中葉～末葉）の SI349 よりも新しいことから、それ以降に位置付けられる。



SI337 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	—	(48)×(29)	57	

SI337 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
周溝	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
住居掘り方	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量、焼土粒微量含む。

S337 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒中量、炭化物粒微量含む。

第 172 図　SI337 竪穴住居跡

SI338 竪穴住居跡（第 173 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部の 28・32 グリッドに位置する。撹乱や重複遺構により、西壁を除く三方の壁が失われている。

【重複】 SI343、Pit61・62 より新しく、SI315・329、SD7 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 316cm、東西 307cm を測る。平面形状は長方形基調と推定される。

【方向】 西壁基準で N － 38° － W である。

【堆積土】 3 層に分層された。1・2 層は住居堆積土で、3 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 15cm を測る。

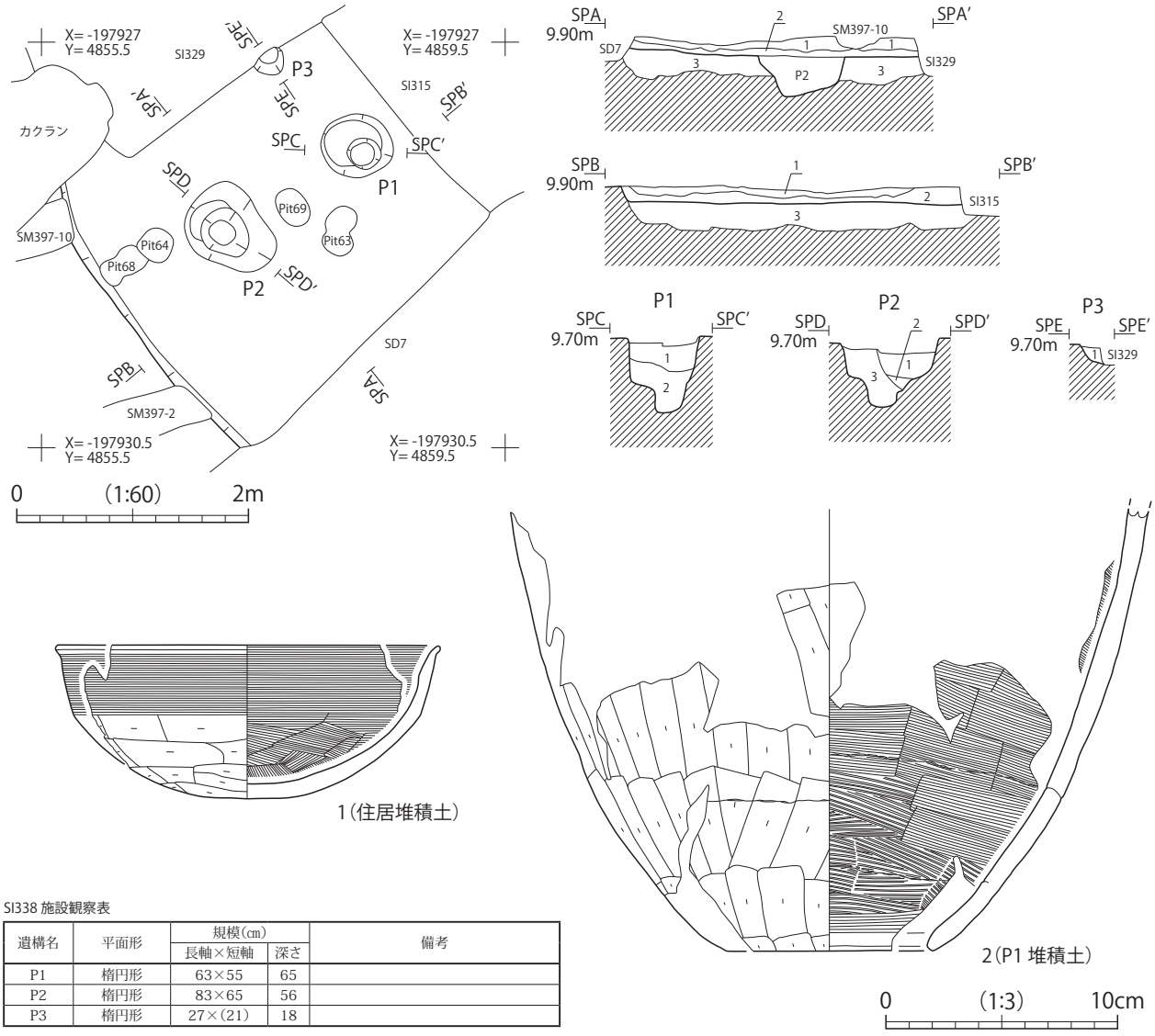
【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 3 基（P1 ～ 3）を検出した。P1・2 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われるが、ほかにこれらと対応する柱穴は見当たらなかった。ともに底面には柱材の圧痕とみられる窪みが認められる。P3 は小型で浅く、柱穴ではない可能性も残る。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は概ね平坦である。深さは、16 ～ 25cm を測り、厚く埋土されている。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、甑 1 点を掲載した（第 173 図）。1 の土師器坏は見込みまでが深い椀状を呈する。2 の甑は単孔で、底部全体を穿孔している。

【時期】 本竪穴住居跡の時期は、不明である。



SI338 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	63×55	65	
P2	楕円形	83×65	56	
P3	楕円形	27×(21)	18	

SI338 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。
住居掘り方	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(10～50㎜程度)多量含む。

S338 施設堆積土註記表

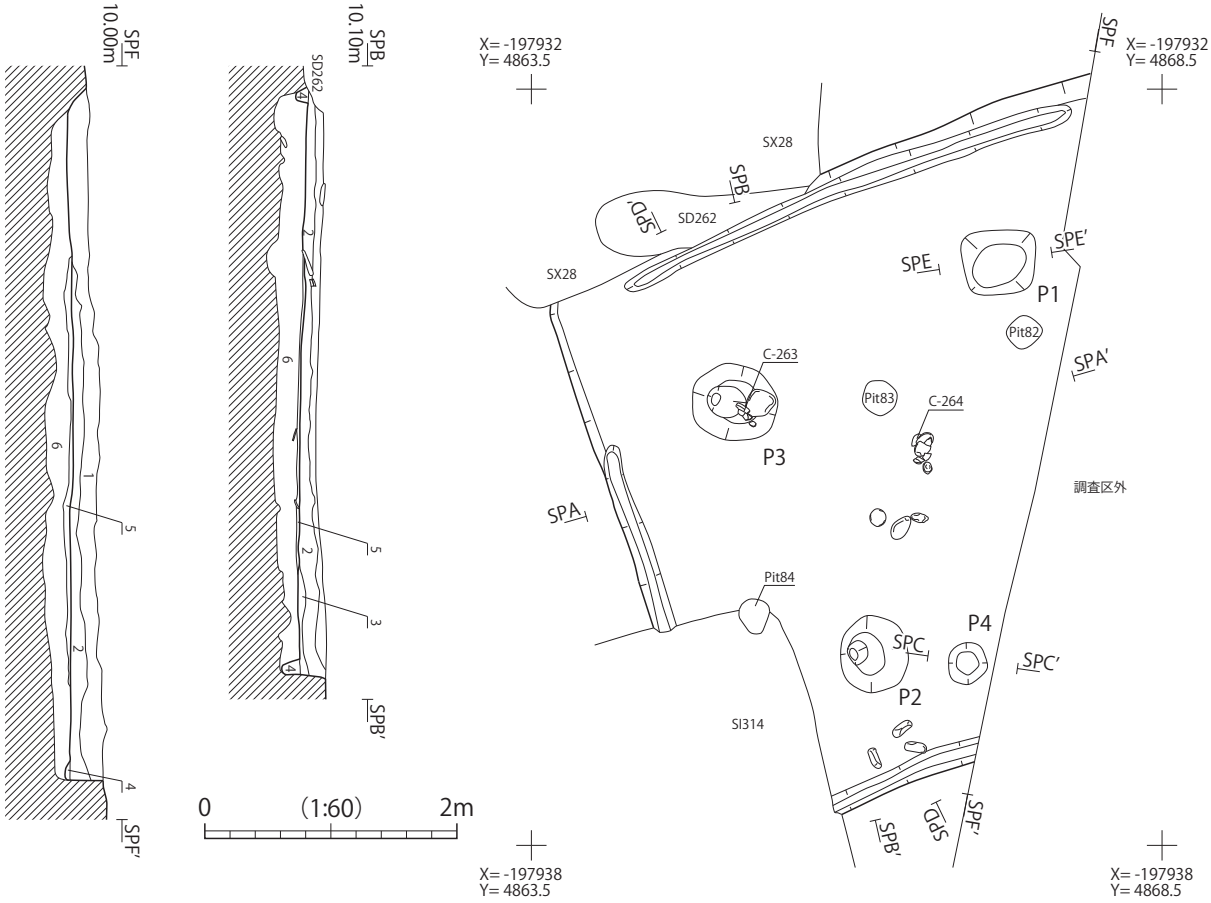
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。
P3	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-255	第9次	SI338	堆積土	土師器	坏	(16.4)	—	6.6	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		118
2	C-256	第9次	SI338	P1 堆積土	土師器	甕	—	(9.0)	(19.0)	ヘラケズリ、輪積み痕	ハケメ→ヘラナデ、輪積み痕		118

第 173 図　SI338 竪穴住居跡・出土遺物

SI339 竪穴住居跡（第 174 ～ 176 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 33・37 グリッドに位置する。南東部分は調査区外にかかり、北壁の東側および南西コーナー部分が SX28、SI314 との重複により失われている。



SI339 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	方形	56×51	40	
P2	楕円形	60×54	64	
P3	楕円形	69×60	67	
P4	円形	33×28	22	

SI339 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(5～10㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土粒微量含む。
周溝	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、黒色土粒微量含む。
住居掘り方	5	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	暗褐色シルト(斑状)含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、暗褐色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。

SI339 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	細砂	Ⅳ層土粒・黒色土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。

第 174 図　SI339 竪穴住居跡

【重複】 SI345、Pit182 より新しく、SI314、Pit84、SX28 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 485cm、東西 483cm を測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】 西壁基準で N － 18° － W である。

【堆積土】 6 層に分層された。1 ～ 3 層は住居堆積土、4 層は周溝堆積土、5・6 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がるが、南壁は直立気味である。壁高は最大で 21cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

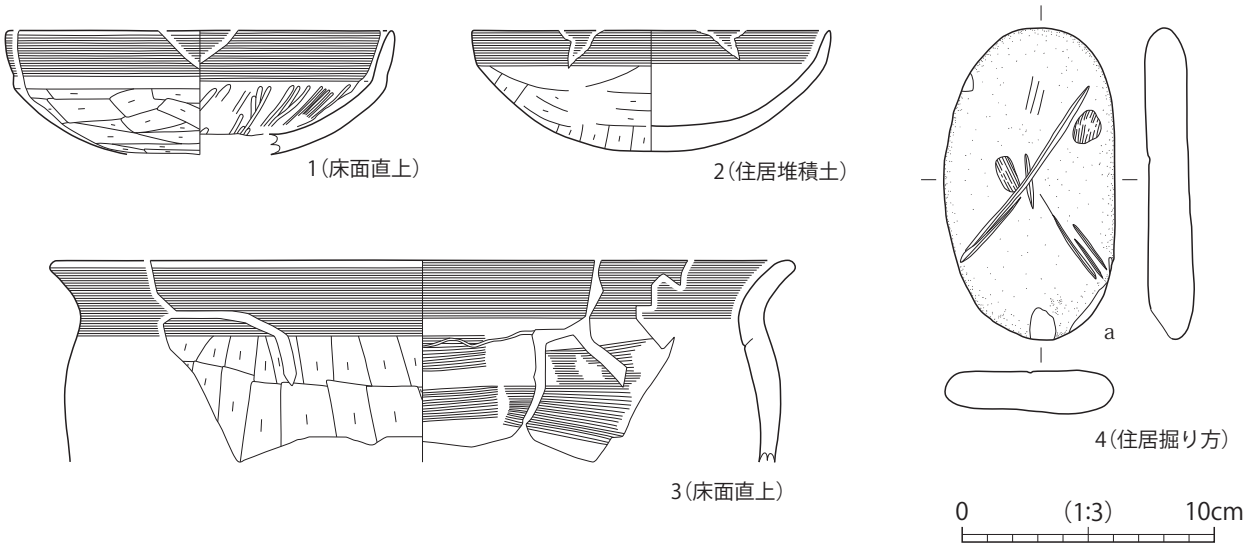
【柱穴】 床面から 4 基（P1 ～ 4）を検出した。P1 ～ 3 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。P3 の埋土上層からは、根石とみられる扁平な礫が出土した。

【周溝】 検出範囲内では概ね全体の壁面に沿って巡るが、北東コーナー付近で 160cm 程断続する。規模は、幅 11 ～ 20cm、深さ 4 ～ 15cm を測る。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は概ね平坦である。深さは、12 ～ 26cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 2 点、甕 1 点、礫石器 3 点を掲載した（第 175・176 図）。第 175 図－ 1・2 の土師器坏はともに直立気味の口縁部をもち、1 は口縁部と体部との境目に強い稜を巡らす。また、内面には放射状のミガキが施される。礫石器は第 175 図－ 4 が磨石、第 176 図－ 1 が凹石、第 176 図－ 2 が台石である。第 175 図－ 4 の a 面には線状痕や太めの溝状痕が認められる。第 176 図－ 2 の a・b 面にも線状痕が認められる。

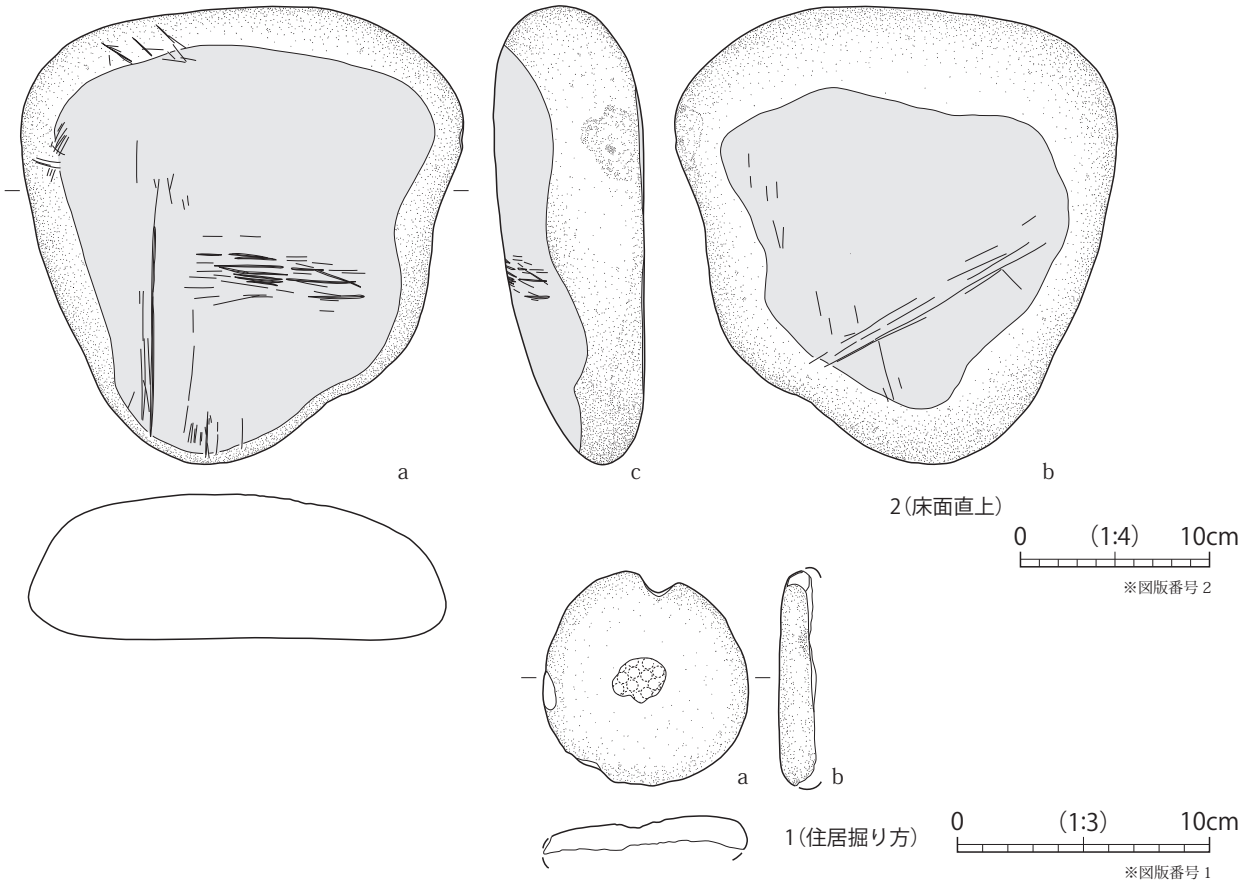
【時期】 第 175 図－ 1・3 は床面上から出土した。これらの特徴から、本竪穴住居跡の時期は 2a 期（6 世紀初頭～前葉）と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-264	第9次	SI339	床面直上	土師器	坏	(15.2)	－	(4.9)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ		118
2	C-261	第9次	SI339	堆積土	土師器	坏	(14.2)	－	4.8	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ	内外面摩滅	118
3	C-263	第9次	SI339	床面直上	土師器	甕	(29.2)	－	(8.0)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	内面摩滅	118

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
4	Kc-067	第9次	SI339	掘り方	礫石器	磨石	12.4	6.8	1.7	137.8	凝灰岩	a面ケズリ→線状・溝状痕	118

第 175 図　SI339 竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層 位	種 別	器 種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石 材	備 考	写真図版
1	Kc-066	第9次	SI339	掘り方	礫石器	凹石	8.8	8.2	(1.1)	60.7	凝灰岩	a面凹1箇所、裏面欠損	118
2	Kc-065	第9次	SI339	床面直上	礫石器	台石	24.5	23.5	7.9	6555.0	安山岩	a･b面磨(ともに弱)+線状痕	118

第 176 図　SI339 竪穴住居跡出土遺物（2）

SI340 竪穴住居跡（第 177・178 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 14・19 グリッドに位置する。重複遺構による破壊部分が多く、西壁のほか床面も大きく失われている。

【重複】 SK319 より新しく、SI310・316・319・320、SD263 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 627cm、東西 639cm を測る。平面形状は方形と推定される。

【方向】 カマド基準で N － 23° － W である。

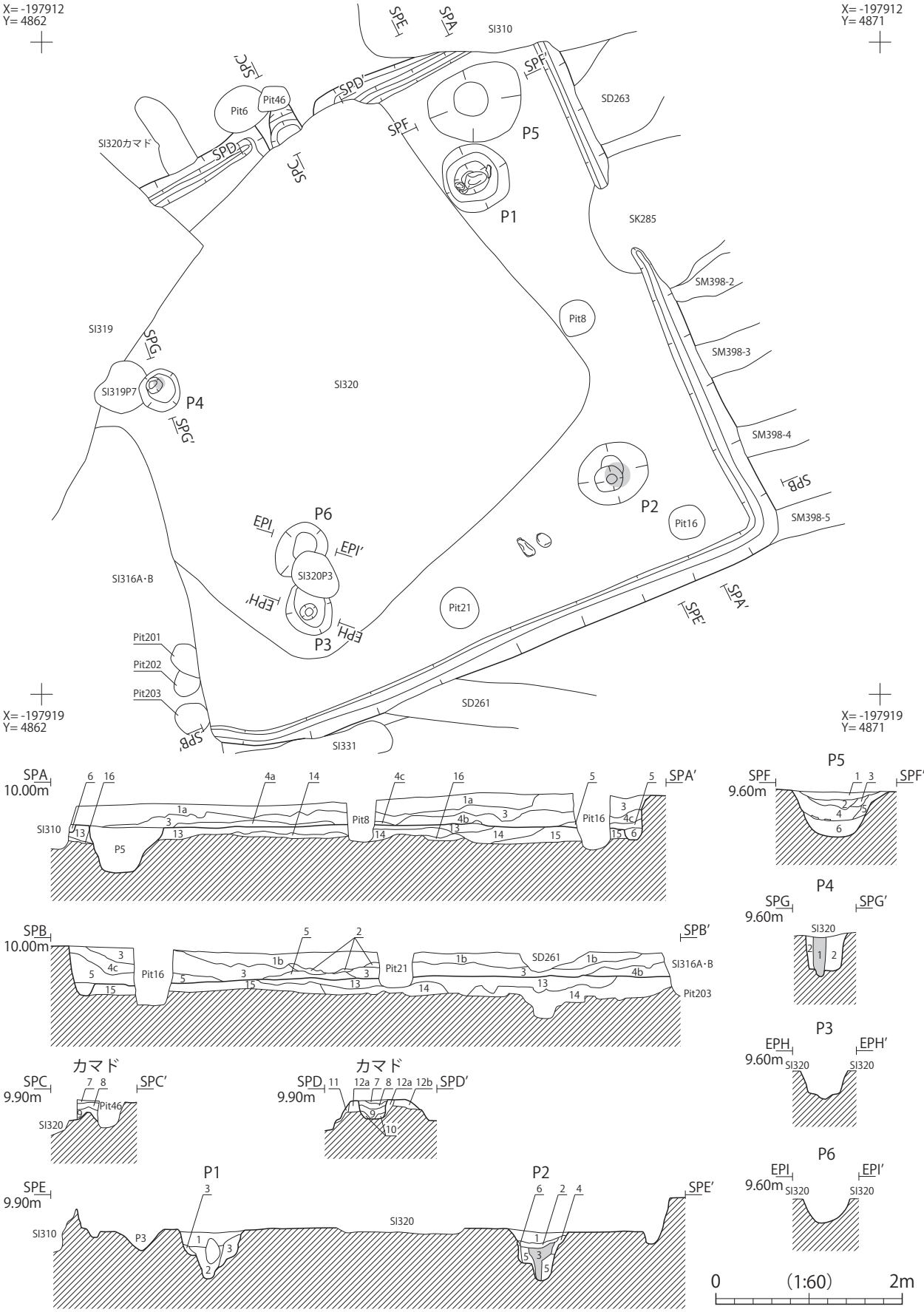
【堆積土】 大別で 16 層､細別で 20 層に分層された。大別 1 ～ 5 層は住居堆積土で､基本層Ⅳ層土の混入状況から、本竪穴住居跡は人為的に埋め戻されたと考えられる。6 層は周溝堆積土である。7 ～ 10 層はカマド関連の堆積土で、7・8 層は崩落した天井材とみられる。11・12 層はカマド袖の構築土で、基本層Ⅳ層土を主体とする。13 ～ 16 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 39cm を測る。

【床面】 SI320 との重複により大半が失われ、詳細不明であるが、残存部分では概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 5 基（P1 ～ 4・6）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われるが、P4 は若干南西にずれて配置されている。P1 の内部からは、根石とみられる礫が出土している。P2・4 では柱痕跡が確認され、P2 で径 28cm、P4 で径 14cm を測る。

【周溝】 残存する三方の壁では、壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 14 ～ 27cm、深さ 5 ～ 14cm を測る。



第 177 図　SI340 竪穴住居跡

SI340 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)密、黒色シルトブロック(10～40㎜程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量、白色粘土部分的に含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)密に含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4a	10YR6/6 明黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)密に含む。
	4b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	4c	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・黒色シルトブロック(10㎜程度)少量含む。
周溝	6	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。
カマド	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒密、焼土粒・炭化物粒多量含む。
	9	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物粒密、Ⅳ層土粒・焼土粒多量含む。
	10	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。焼土粒多量含む。
カマド袖	11	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量含む。
	12a	5YR5/3 にぶい赤褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。被熱により赤化。
	12b	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
住居掘り方	13	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)密、炭化物粒微量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量含む。砂質強い。

SI340 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	黒色土ブロック(5～30㎜程度)多量、Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	黒色土ブロック(5㎜程度)少量、Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	黒色土ブロック(5㎜程度)多量、Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5㎜程度)少量含む。※柱痕跡
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・黒色土粒微量含む。
	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量、褐色土粒少量含む。
	6	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
P3	—	—	—	註記なし。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。
P5	1	10YR2/1 黒色	微砂	黒色土粒密、褐色土粒多量、焼土ブロック(5㎜程度)・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。炭化物粒・焼土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/4 褐色	微砂	焼土粒多量、Ⅳ層土粒・黒色土ブロック・焼土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。
	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土主体。黒色土粒少量含む。
	6	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	黒色土粒微量含む。
P6	—	—	—	註記なし。

SI340 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	73×72	53	
P2	楕円形	78×65	64	柱痕跡あり。
P3	楕円形	(59)×(50)	(31)	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	(45)×(43)	(47)	柱痕跡あり。
P5	不整楕円形	104×81	52	貯蔵穴か。
P6	楕円形	(64)×(47)	(36)	

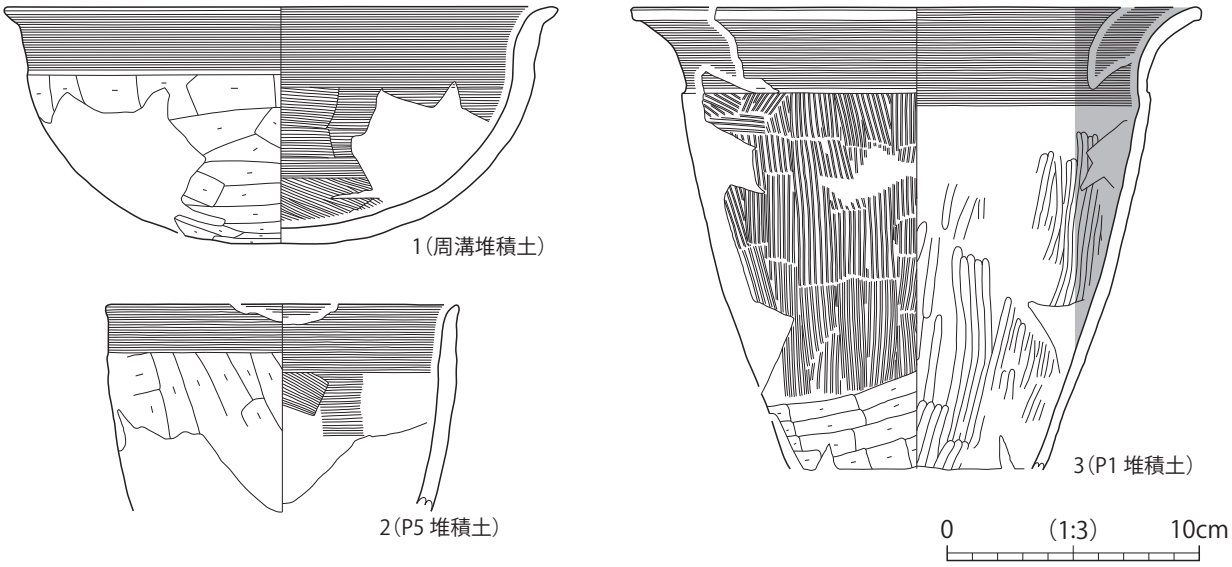
【カマド】 北壁の中央に位置し、壁面に直交して付設される。削平や重複遺構の影響を受け、煙道部および燃焼部の前方 1/2 程が失われている。残存する袖の規模は、東袖が長さ 20cm、幅 43cm、西袖が長さ 32cm、幅 21 ～ 27cm を測り、壁面に直交して延びる。燃焼部は奥行き 38cm、幅 35cm、奥壁高 7cm が残存し、壁内に位置する。底面の状況は不明である。被熱は弱く、底面や壁面の焼土化はあまり進んでいない。

【その他の施設】 土坑 P5 を検出した。北東コーナーに配置されており、貯蔵穴と考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、特に南壁から東西両コーナーにかけてが「コ」字状に、北東コーナーが土坑状に一段下がる。深さは、4 ～ 29cm を測る。

【出土遺物】 土師器鉢 2 点、甕 1 点を掲載した（第 178 図）。1 の鉢は坏と同様の器形を呈し、口縁端部が極端に外反する。2 の鉢は直線的に外傾する体部からそのまま口縁部へと至り、端部で短く外反する。3 の甕は口縁部と胴部の境目に明瞭な稜をもち、口縁部は強く外反する。胴部は直線的に外傾し、そのまま窄まって底部へと至る器形である。

【時期】 掲載した遺物はいずれも床面施設から出土しており、特に周溝内部から出土した第178図－1の特徴から、本竪穴住居跡の時期は 3 期（7 世紀初頭～前葉）と考えられる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-265	第9次	SI340	周溝堆積土	土師器	鉢	(21.8)	—	9.4	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	SI288出土破片と接合	119
2	C-266	第9次	SI340	P5堆積土	土師器	鉢	(13.8)	—	8.2	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		119
3	C-267	第9次	SI340	P1堆積土	土師器	甕	(22.4)	—	(18.3)	口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケメ、胴部下半ハケメ→ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ、黒色処理		119

第 178 図　SI340 竪穴住居跡出土遺物

SI341 竪穴住居跡（第 179 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 29・33 グリッドに位置する。重複遺構によりほとんどが破壊され、東壁付近の僅かな範囲が残存する。柱穴・周溝・カマドなどの床面施設は全く検出されなかったが、掘り方を伴うことから「竪穴住居跡」とした。

【重複】 SI315・336 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 161cm、東西 36cm を測る。平面形状は不明である。

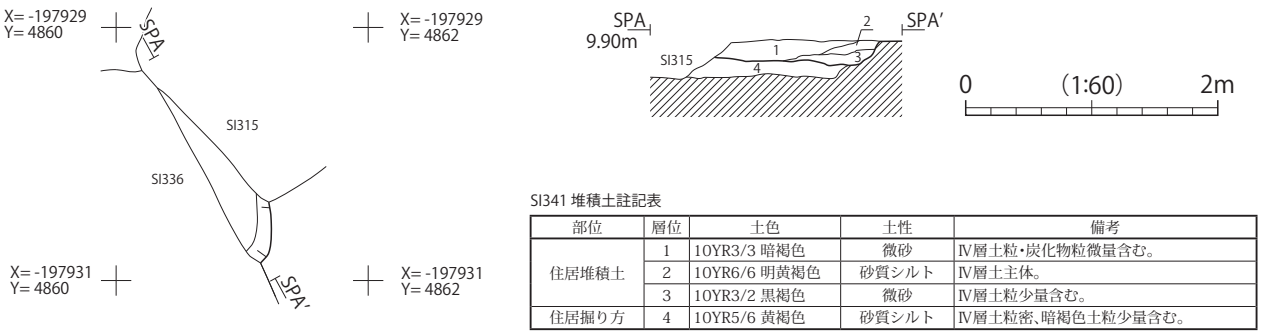
【方向】 壁面の残存が少なく、不明である。

【堆積土】 4 層に分層された。1 ～ 3 層は住居堆積土で、4 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 若干内湾気味に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 18cm を測る。

【床面】 残存部分がほとんどなく、詳細不明である。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は概ね平坦である。壁際には幅 3 ～ 9cm 程のテラス状の段差を伴う。深さは、10 ～ 16cm を測る。



SI341 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
	3	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量含む。
住居掘り方	4	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、暗褐色土粒少量含む。

第 179 図　SI341 竪穴住居跡

【出土遺物】 堆積土中から土師器破片が僅かに出土したのみで、図化できるものはなかった。

【時期】 SI315 より古いことから、4 期（7 世紀中葉～後葉）以前に位置付けられる。

SI342 竪穴住居跡（第 180 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部の 23・28 グリッドに位置する。SI341 同様、重複遺構のためほとんどが破壊され、西壁の一部が残存する。掘り方を伴うことから、「竪穴住居跡」とした。

【重複】 SI352 より新しく、SI329、Pit65 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 226cm、東西 26cm を測る。平面形状は不明である。

【方向】 西壁基準で N － 59° － E である。

【堆積土】 2 層に分層された。1 層は住居堆積土で、2 層は住居掘り方の埋土である。

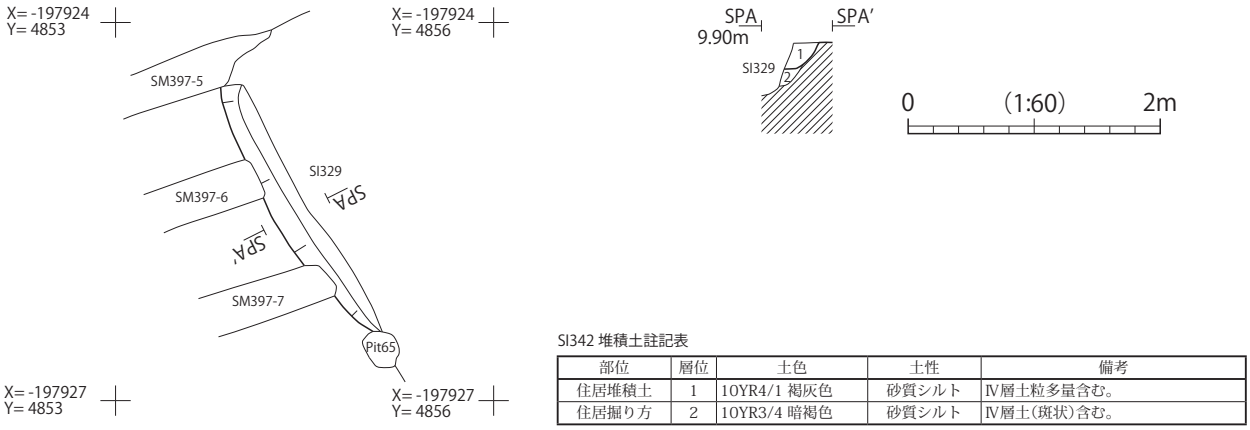
【壁面】 内湾気味に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 21cm を測る。

【床面】 残存部分がほとんどなく、詳細不明である。

【掘り方】 詳細については不明である。深さは、12 ～ 14cm を測る。

【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

【時期】 3 期（7 世紀初頭～前葉）以降の SI329 より古いことから、それ以前に位置付けられる。



SI342 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
住居掘り方	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）含む。

第 180 図　SI342 竪穴住居跡

SI343 竪穴住居跡（第 181 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 23・24・28・29 グリッドに位置する。壁は全て失われ、床面の一部が SI315・316A・316B・329・338・346・353 の間に島状となって残存する。床面施設も一切認められなかったが、掘り方を伴うことから「竪穴住居跡」とした。

【重複】 SI315・316A・316B・329・338・346・353、SD180、SK320 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 245cm、東西 480cm を測る。平面形状は不明である。

【方向】 壁は全く残存しておらず、不明である。

【堆積土】 3 層に分層された。1・2 層は住居堆積土で、3 層は住居掘り方の埋土である。

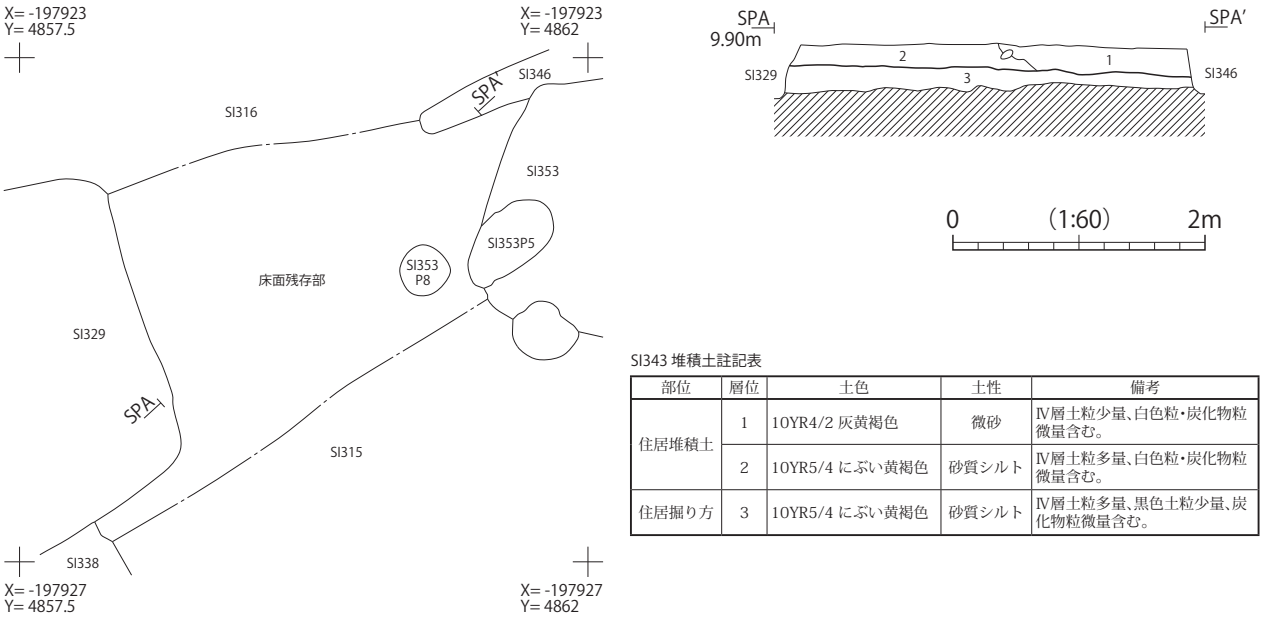
【壁面】 残存していない。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面には土坑状の掘り込みが 3 箇所認められる。深さは、9 ～ 13cm を測る。

【出土遺物】 堆積土中や掘り方の内部から土師器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 SI353 より古いことから 4 期（7 世紀中葉～後葉）以前に位置付けられる。



SI343 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、白色粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、白色粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒少量、炭化物粒微量含む。

第 181 図　SI343 竪穴住居跡

SI344 竪穴住居跡（第 182 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北部の 13・18 グリッドに位置する。削平や重複遺構の影響により、ごく一部分の床面以下が残存する。

【重複】 SK307 より新しく、SI332・334 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 152cm、東西 193cm を測る。平面形状は不明である。

【方向】 壁は全く残存しておらず、不明である。

【堆積土】 大別で 2 層、細別で 3 層に分層された。いずれも住居掘り方の埋土である。

【壁面】 残存していない。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 1 基（P1）、掘り方から 1 基（P2）を検出した。P1 は主柱穴に相当すると思われ、相応の規模を有している。P2 は掘り方埋土下から検出され、別遺構の可能性も考えられる。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は西側へ緩やかに傾斜する。深さは、11 ～ 23cm を測る。

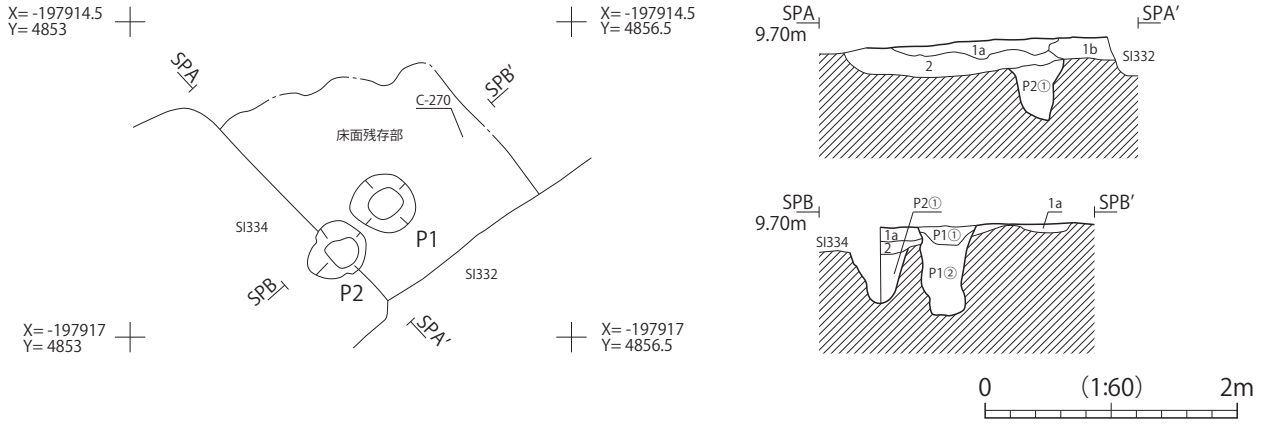
【出土遺物】 土師器壺 1 点を掲載した（第 182 図）。頸部が一周して残存し、床面に置かれた状態で出土している。階段状に口縁部へ向かって立ち上がる形状を呈する。

【時期】 本竪穴住居跡の時期は、不明である。

SI345 竪穴住居跡（第 183 図）

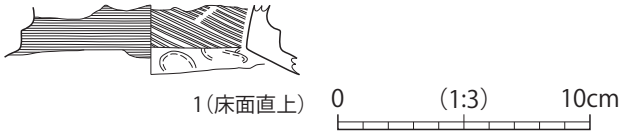
【位置・確認】 第 9 次調査区中央部西側の 33 グリッドに位置する。東側部分は調査区外にかかり、南側部分は SI339 との重複により大半が失われている。北西コーナー付近が残存する。床面施設は検出されなかったが、掘り方を伴うことから「竪穴住居跡」とした。

【重複】 Pit215・222 より新しく、SI339 より古い。



SI344 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	52×47	71	
P2	不整形	50×44	67	掘り方底面で検出(別遺構の可能性)



SI344 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	1b	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。

SI344 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
	②	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。
P2	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-270	第9次	SI344	床面直上	土師器	壺	―	―	(2.8)	ヨコナデ	ハケメ、指オサエ		119

第 182 図　SI344 竪穴住居跡・出土遺物

【規模・形態】 検出した規模は、南北 108cm、東西 215cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 西壁基準で N － 20° － W である。

【堆積土】 2 層に分層された。1 層は住居堆積土で、2 層は住居掘り方の埋土である。

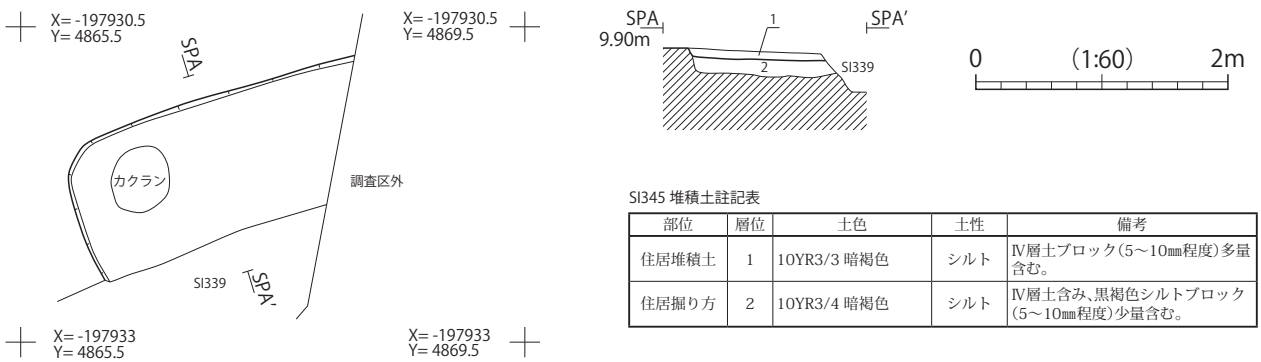
【壁面】 壁高は最大でも 8cm しか残存しておらず、詳細不明である。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は概ね平坦である。深さは、8 ～ 18cm を測る。

【出土遺物】 堆積土中や掘り方内部から土師器破片が僅かに出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 SI339 より古いことから、2a 期（6 世紀初頭～前葉）以前に位置付けられる。



SI345 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。
住居掘り方	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土含み、黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。

第 183 図　SI345 竪穴住居跡

SI346 竪穴住居跡（第 184 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 24 グリッドに位置する。SI316A・316B との重複により大部分が失われ、南壁から東西両コーナー付近にかけてが残存する。

【重複】 SI343・348・350・353 より新しく、SI315・316A・316B、SD180 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 112cm、東西 409cm を測る。平面形状は方形基調と推定される。

【方向】 南壁基準で N － 79° － E である。

【堆積土】 4 層に分層された。1 層は住居堆積土、2 層は周溝堆積土、3・4 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 南壁は直立気味に立ち上がるが、東壁は内湾気味に外傾する。壁高は最大で 25cm を測る。

【床面】 残存部分がほとんどなく、詳細不明である。

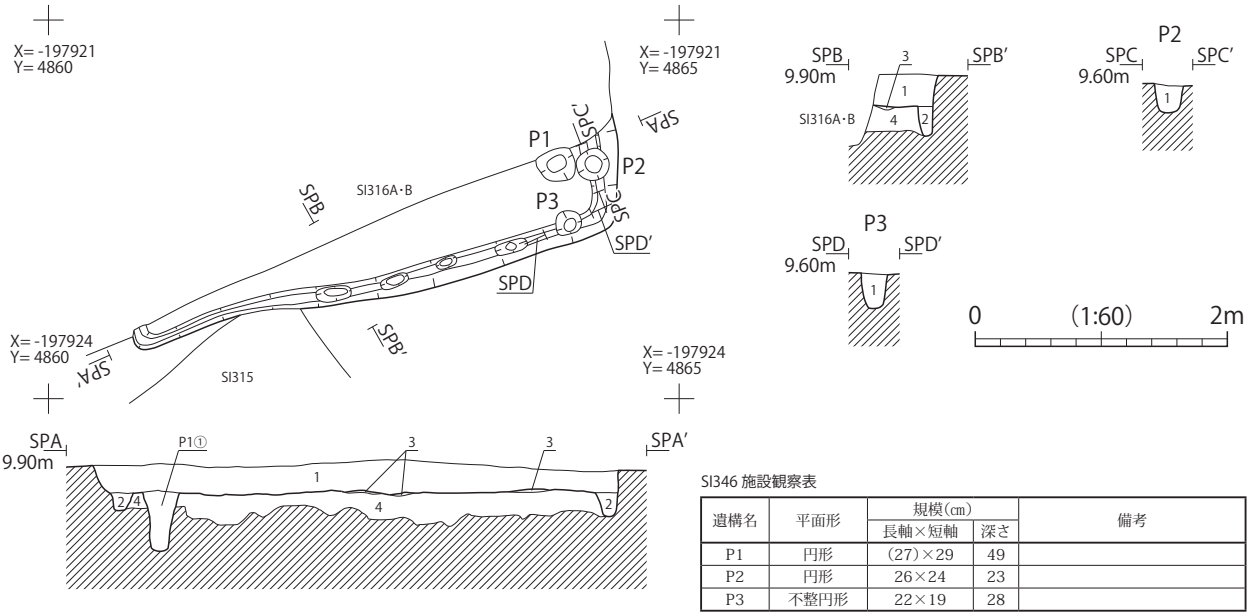
【柱穴】 床面から 3 基（P1 ～ 3）を検出した。P2・3 は壁柱穴と思われる。

【周溝】 残存する壁面の全体に沿って巡る。規模は、幅 10 ～ 21cm、深さ 6 ～ 23cm を測る。底面には深さ 5cm 程の窪みが連続して並ぶ。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は南壁際沿いが帯状に高まるほか、土坑状・ピット状の窪みが 2 箇所認められる。深さは、8 ～ 24cm を測る。

【出土遺物】 堆積土中や床面施設から土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 他の遺構との新旧関係では、4 期（7 世紀中葉～後葉）の中に位置付けられる。



SI346 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	備考
P1	円形	(27)×29	49	
P2	円形	26×24	23	
P3	不整円形	22×19	28	

SI346 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝	2	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
	4	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

SI346 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量、Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。

第 184 図　SI346 竪穴住居跡

SI347 竪穴住居跡（第 185 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部西側の 41 グリッドに位置する。重複遺構による破壊部分が多く、南壁付近のごく一部分が残存する。東側部分は調査区外にかかる。

【重複】 SI313・314、SD266 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 96cm、東西 106cm を測る。平面形状は不明である。

【方向】 壁の残存が少なく、不明である。

【堆積土】 6 層に分層された。1 ～ 3 層は住居堆積土で、4 ～ 6 層は住居掘り方の埋土である。

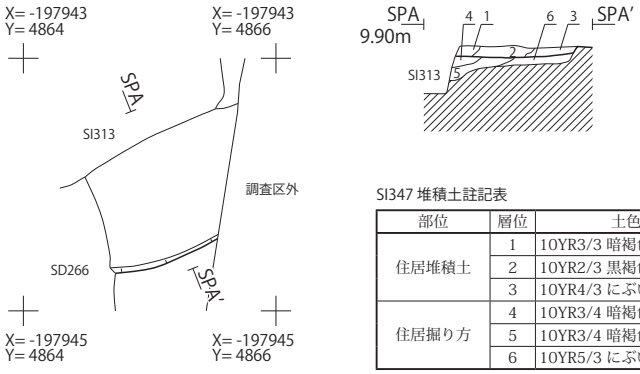
【壁面】 壁高は最大でも 12cm しか残存しておらず、詳細不明である。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は概ね平坦だが、北西部が土坑状に窪む。深さは、14 ～ 16cm を測る。

【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

【時期】 SI314 より古いことから、2b 期（6 世紀中葉～末葉）以前に位置付けられる。



SI347 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
	2	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量､Ⅳ層土ブロック(5～15㎜程度)少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
住居掘り方	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(20㎜程度)微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(20㎜程度)･Ⅳ層土粒微量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(20㎜程度)少量含む。

第 185 図　SI347 竪穴住居跡

SI348 竪穴住居跡（第 186 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 24・29 グリッドに位置する。SI333、SD7 との重複により南壁および北壁は失われている。

【重複】 SI350・353 より新しく、SI8・315・316A・316B・333・346、SD7、SK306 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 520cm、東西 454cm を測る。平面形状は方形基調と推定されるが、北壁が広がる形状であったと思われる。

【方向】 カマド基準で N － 32° － W である。

【堆積土】 6 層に分層された。1・2 層は住居堆積土で、2 層は焼土・炭化物を多量に含み、カマド前方の掻き出しと考えられる。3・4 層はカマド関連の堆積土である。5 層はカマド掘り方の埋土で、煙道部の壁・底面の構築材である。5 層は層の全体が被熱している。6 層は住居掘り方の埋土である。

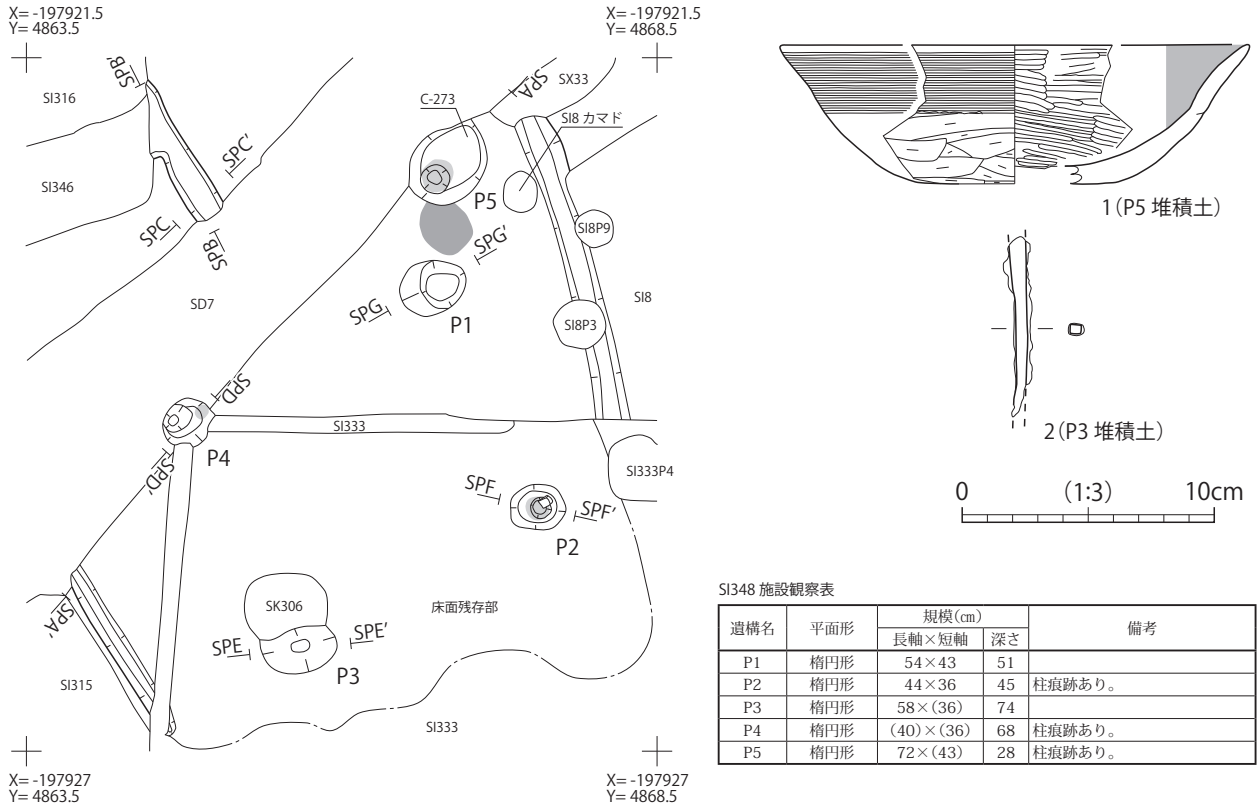
【壁面】 直立気味に立ち上がる。壁高は最大で 23cm を測る。

【床面】 概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 5 基（P1 ～ 5）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。P2・4・5 では柱痕跡が確認され、P2 で径 19cm、P4 で径 12cm、P5 で径 28cm を測る。P5 は推定北東コーナー付近に配置されていることから当初は貯蔵穴と思われたが、柱痕跡が確認されたため補助柱穴と捉えた。

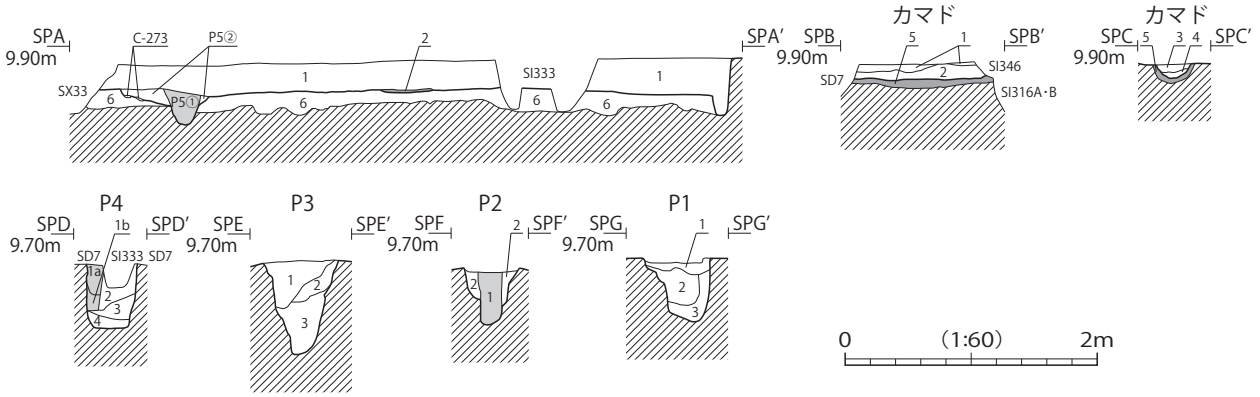
【周溝】 残存する東壁および西壁の、壁面全体に沿って巡る。規模は、幅 13 ～ 25cm、深さ 9 ～ 16cm を測る。

【カマド】 残存するのは煙道部のみであるが、北壁の中央に位置していたと推定される。その煙道部も前方と煙出し部分が失われ、長さ 134cm、幅 27cm、深さ 10 ～ 12cm が残存する。底面は概ね平坦である。



SI348 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	54×43	51	
P2	楕円形	44×36	45	柱痕跡あり。
P3	楕円形	58×(36)	74	
P4	楕円形	(40)×(36)	68	柱痕跡あり。
P5	楕円形	72×(43)	28	柱痕跡あり。



SI348 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	炭化物粒密、焼土粒多量含む。
カマド	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒少量、焼土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒多量、Ⅳ層土粒微量含む。
カマド掘り方	5	2.5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	被熱により赤化。上位に炭化物粒が集中。
住居掘り方	6	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-273	第9次	SI348	P5 堆積土	土師器	坏	(18.6)	—	(5.5)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ、輪積み痕	ヘラミガキ、黒色処理		119

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
2	N-012	第9次	SI348	P3堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(7.2)	0.4	0.4	5.4	鉄鏃の茎部か	119

第 186 図　SI348 竪穴住居跡・出土遺物

SI348 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土ブロック(10㎜程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20m程度)密、黒色土ブロック(10㎜程度)少量含む。
P4	1a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	1b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)微量含む。※柱痕跡
	2	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒密、褐色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	3	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量含む。
P5	①	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	②	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、炭化物粒微量含む。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は概ね平坦である。深さは、15 ～ 22cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、金属製品 1 点を掲載した（第 186 図）。1 の土師器坏は体部が外傾して開き、口縁部で弱く外反する。2 の金属製品は器種不明の棒状鉄製品であるが、下部に向かって角錐状に窄まることから、鉄鏃の茎部である可能性も考えられる。

【時期】 他の遺構との新旧関係では、4 期（7 世紀中葉～後葉）の SI8・315 と SI353 の中間に位置付けられる。

SI349 竪穴住居跡（第 187 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部の 23 グリッドに位置する。重複遺構による破壊部分が多く、北西部分のみが残存する。

【重複】 SI352 より新しく、SI329・330・337、SD273 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 356cm、東西 214cm を測る。平面形状は長方形基調と推定される。

【方向】 西壁基準で N － 45° － E である。

【堆積土】 4 層に分層された。1・2 層は住居堆積土、3 層は周溝堆積土、4 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 15cm を測る。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 3 基(P1 ～ 3)を検出した。いずれも規模的に小さく、配置としても主柱穴のたぐいとは考え難い。

【周溝】 西壁の壁面に沿って延びるが、北西コーナー付近で断続する。規模は、幅 18 ～ 20cm、深さ 12 ～ 16cm を測る。

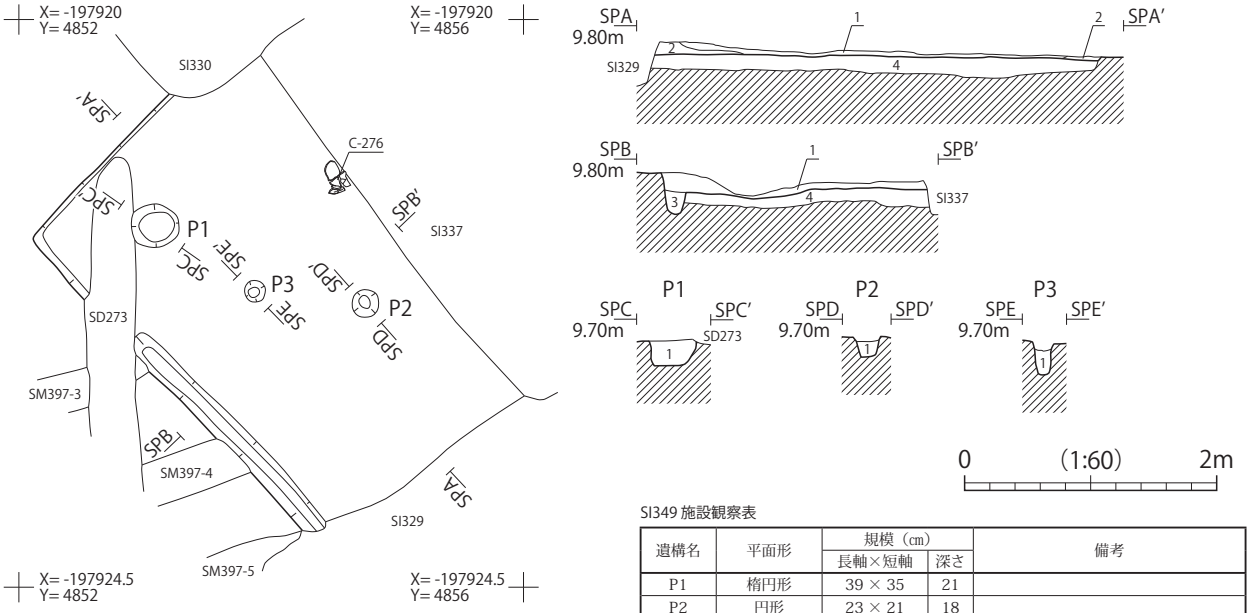
【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は概ね平坦であるが、土坑状の窪みが 3 箇所認められる。深さは、8 ～ 16cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、鉢 2 点を掲載した（第 187 図）。1 の土師器坏は口縁部が短く内傾する。2・3 の鉢は坏に似た器形をもち、ともに口縁部は内傾して端部で外反する。

【時期】 第 187 図－ 3 は床面上から出土しており、その特徴から、本竪穴住居跡の時期は 2b 期（6 世紀中葉～末葉）と考えられる。

SI350 竪穴住居跡（第 188 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 29 グリッドに位置する。重複遺構による破壊部分がほとんどで、僅かな範囲の床面しか残存していない。柱穴・周溝・カマド等の床面施設も全く検出されなかったが、掘り方を伴うことから「竪穴住居跡」とした。



SI349 施設観察表

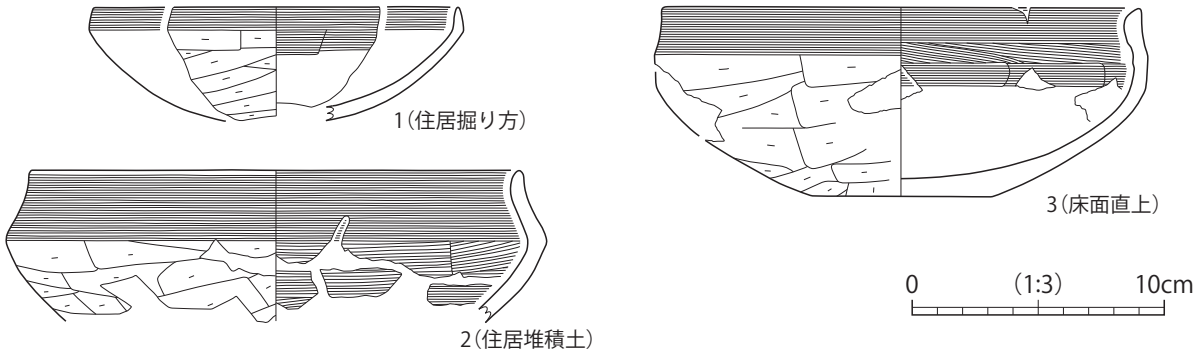
遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	39 × 35	21	
P2	円形	23 × 21	18	
P3	円形	18 × 17	26	

SI349 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・黒褐色シルトブロック（10～30㎜程度）多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
周溝	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）含む。
住居掘り方	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・黒褐色シルトブロック（5～10㎜程度）少量含む。

SI349 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）微量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土粒微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量含む。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
1	C-277	第9次	SI349	掘り方	土師器	坏	(14.4)	—	4.5	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	内面摩滅	119
2	C-275	第9次	SI349	堆積土	土師器	鉢	(19.4)	—	(6.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		119
3	C-276	第9次	SI349	床面直上	土師器	鉢	(18.9)	(7.0)	(7.5)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		119

第 187 図　SI349 竪穴住居跡・出土遺物

【重複】 SI315・333・346・348・353、SD7 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 232cm、東西 121cm を測る。平面形状は、掘り方の状況から方形基調と推定される。

【方向】 掘り方の推定西壁ラインを基準にすると、N － 7° － W となる。

【堆積土】 5 層に分層された。1・2 層は住居堆積土で、3 ～ 5 層は住居掘り方の埋土である。

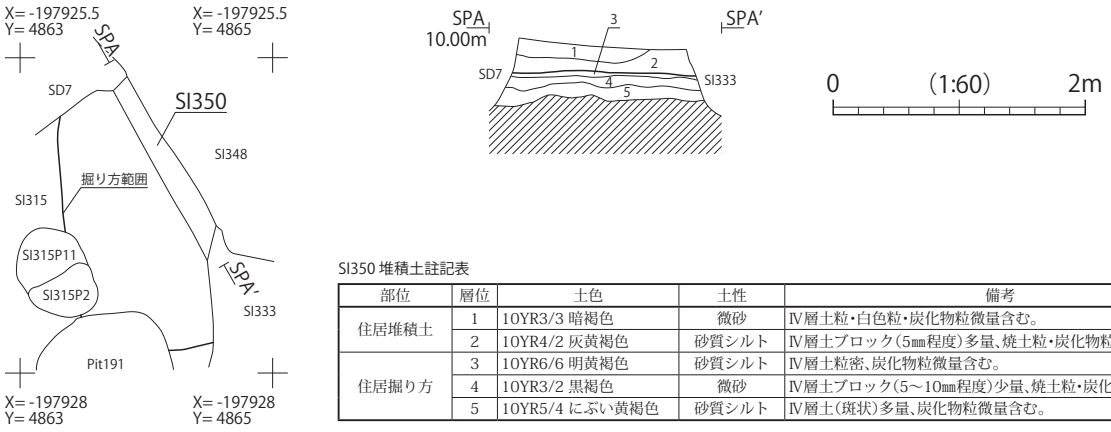
【壁面】 残存していない。

【床面】 残存部分がほとんどなく、詳細不明である。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面は東側部分が島状に高まる。深さは、12 ～ 22cm を測る。

【出土遺物】 堆積土中や掘り方内部から土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 他の遺構との新旧関係では、4 期（7 世紀中葉～後葉）以前に位置付けられる。



SI350 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・白色粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方	3	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）多量、炭化物粒微量含む。

第 188 図　SI350 竪穴住居跡

SI351 竪穴住居跡（第 189 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 09 グリッドに位置する。重複遺構による破壊部分がほとんどで、南壁および北壁、床面の僅かな範囲が残存する。

【重複】 SX34 より新しく、SI310、SD205 より古い。

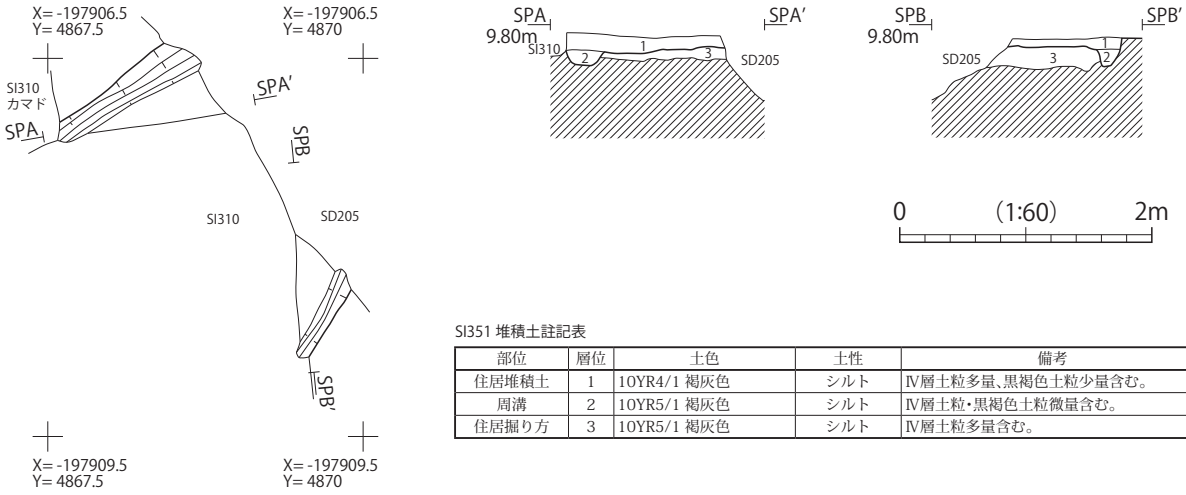
【規模・形態】 検出した規模は、南北 255cm、東西 131cm を測る。平面形状は方形基調と推定されるが、西壁が広がる形状であったと考えられる。

【方向】 北壁基準で N － 38° － E である。

【堆積土】 3 層に分層された。1 層は住居堆積土で、2 層は周溝堆積土である。3 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 14cm を測る。

【床面】 残存部分がほとんどなく、詳細不明である。



SI351 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量、黒褐色土粒少量含む。
周溝	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色土粒微量含む。
住居掘り方	3	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。

第 189 図　SI351 竪穴住居跡

【周溝】 北壁と南壁の壁面に沿って延びる。規模は、幅 12 ～ 30cm、深さ 10 ～ 13cm を測る。

【掘り方】 全体が掘り込まれ、底面にはピット状の窪みが多数認められる。深さは、3 ～ 13cm を測る。

【出土遺物】 遺物は出土しなかった。

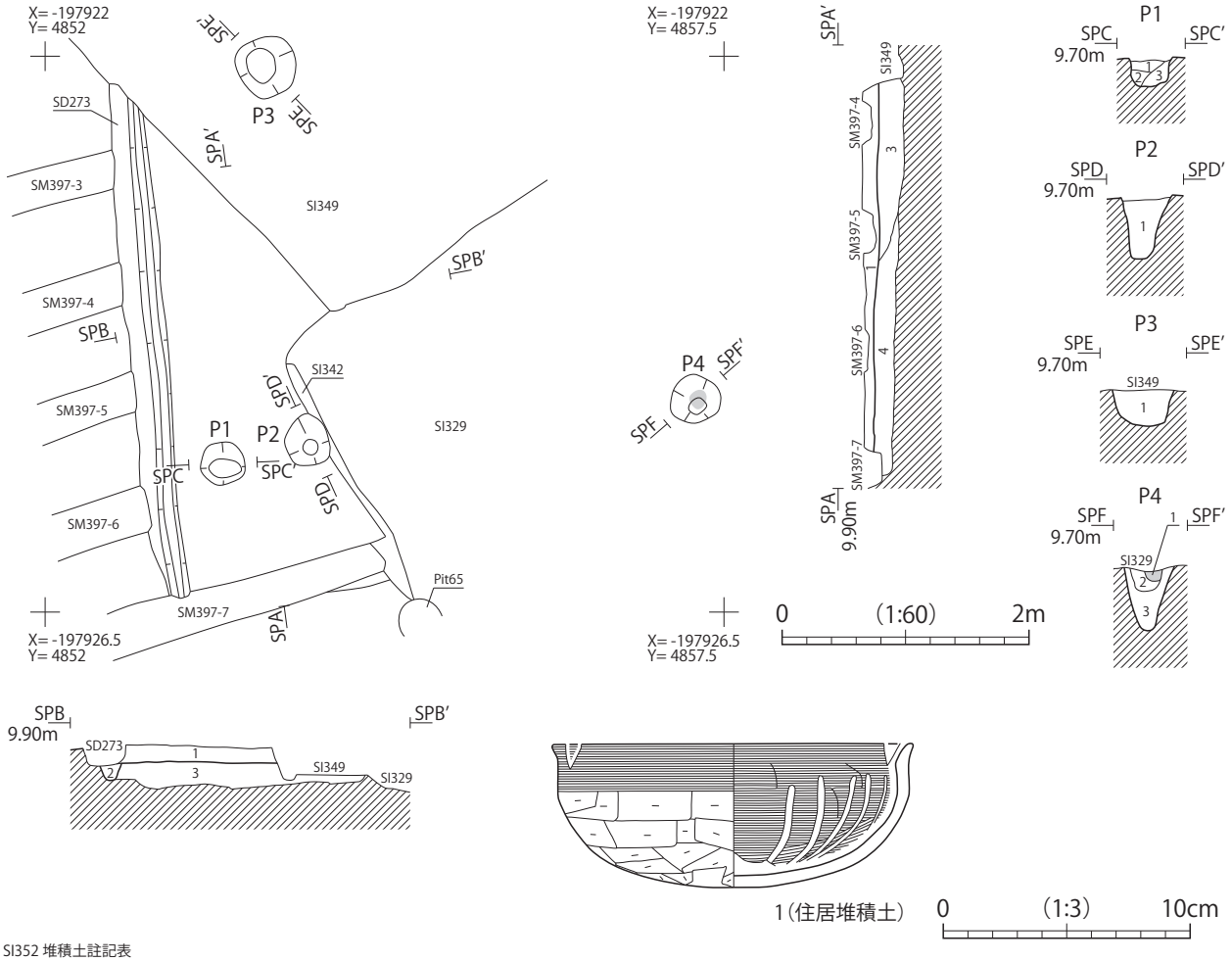
【時期】 SI310 より古いことから、5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）以前と考えられる。

SI352 竪穴住居跡（第 190 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区中央部の 23・28 グリッドに位置する。重複遺構による破壊部分が多く、西壁付近のみが残存する。

【重複】 SI329・342・349、SD273 より古い。

【規模・形態】 検出した規模は、南北 412cm、東西 158cm を測る。後述する主柱穴の配置状況から、本来は 5 m級の規模を有していたと考えられる。平面形状は方形基調と推定されるが、やはり主柱穴の配置状況から東西に



SI352 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量、黒褐色土粒少量含む。
周溝	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色土粒多量含む。
住居掘り方	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色土粒多量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、黒褐色土粒微量含む。

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-279	第9次	SI352	堆積土	土師器	坏	(14.6)	—	5.8	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→ヘラミガキ		119

第 190 図　SI352 竪穴住居跡・出土遺物

SI352 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色土粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色土粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色土粒少量含む。
P3	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量、黒褐色土粒少量含む。
P4	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(15㎜程度)中量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。

SI352 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	35×34	24	
P2	楕円形	42×(34)	55	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	円形	(48)×(48)	(31)	
P4	円形	(39)×(39)	(56)	柱痕跡あり。

長い長方形であった可能性が考えられる。

【方向】 西壁基準で N － 5° － W である。

【堆積土】 4 層に分層された。1 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。2 層は周溝堆積土、3・4 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 唯一残存する西壁も、SD273 との重複により上部のほとんどが失われている。このため詳細は不明だが、高さは最大で 16cm が復元できる。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。

【柱穴】 床面から 2 基（P1・2）が検出されたほか、重複する SI329・349 の掘り方から 2 基（P3・4）を検出した。P2 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。柱間は東西方向がやや長い。P4 では柱痕跡が確認され、径 16cm を測る。

【周溝】 西壁の壁面全体に沿って延びる。規模は、幅 11 ～ 17cm、深さ 11 ～ 14cm を測る。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面にはピット状の窪みが散在し、北側は土坑状に大きく窪む。深さは、12 ～ 18cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点を掲載した（第 190 図）。見込みまでが深い椀状を呈し、口縁部は直立した後に端部で外反する。

【時期】 本竪穴住居跡の時期は、不明である。

SI353 竪穴住居跡（第 191 図）

【位置・確認】 第 9 次調査区北東部の 24・29 グリッドに位置する。重複遺構による破壊部分が多いが、範囲的には全体が検出された。

【重複】 SI343・350、SK321、Pit224 より新しく、SI8・315・316・333・346・348、SD7、SK306、SX33 より古い。

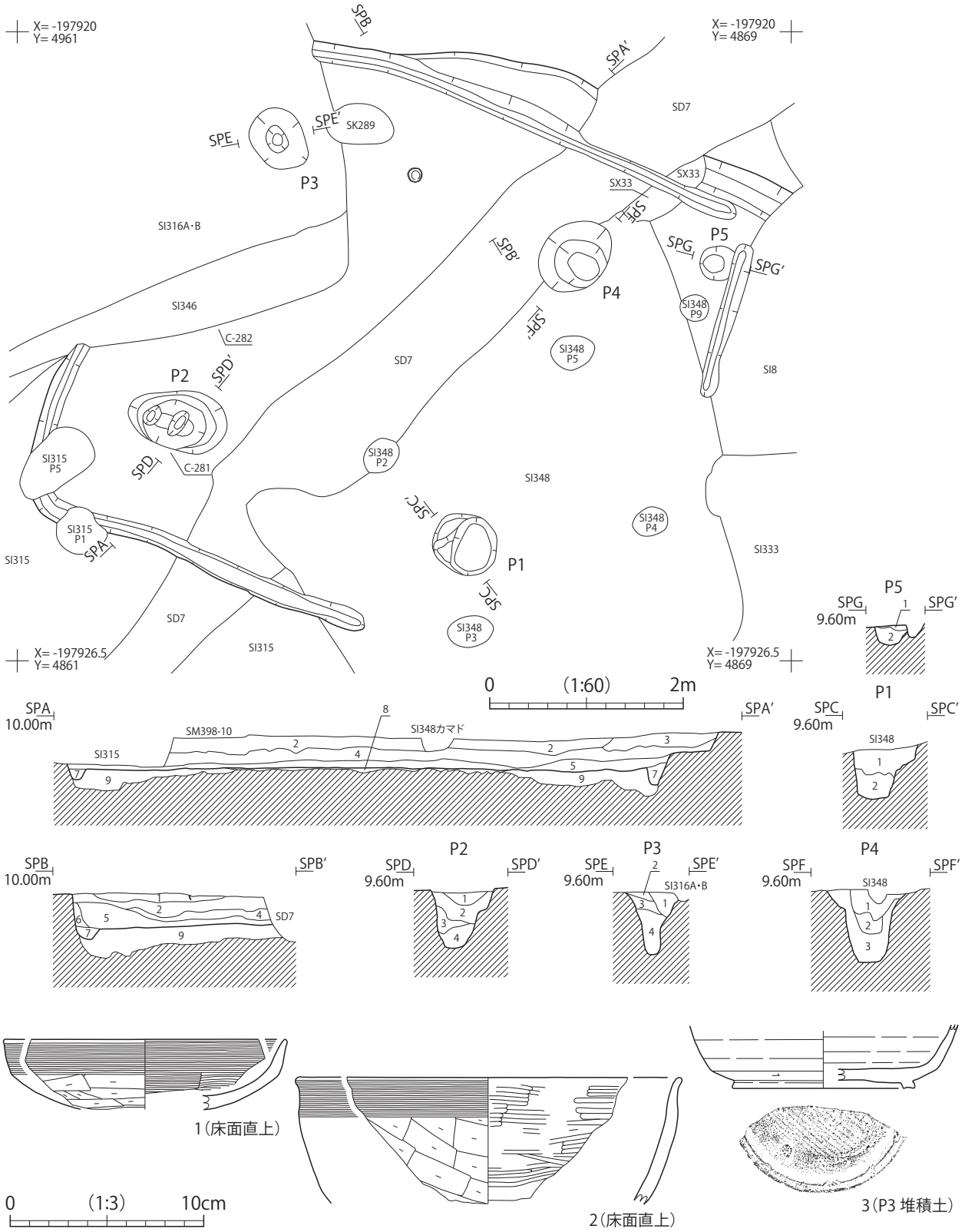
【規模・形態】 検出した規模は、南北 625cm、東西 650cm を測る。平面形状は東辺が歪む方形を呈する。

【方向】 西壁基準で N － 23° － E である。

【堆積土】 9 層に分層された。1 ～ 6 層は住居堆積土で、基本層Ⅳ層土の混入状況から、本竪穴住居跡は人為的に埋め戻されたと考えられる。7 層は周溝堆積土、8・9 層は住居掘り方の埋土である。

【壁面】 概ね直線的に外傾して立ち上がる。壁高は最大で 40cm を測る。東壁には幅 15 ～ 39cm 前後の、テラス状の段差が認められる。

【床面】 残存部分では、概ね平坦である。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-281	第9次	SI353	床面直上	土師器	坏	(14.5)	—	(3.6)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		119
2	C-282	第9次	SI353	床面直上	土師器	鉢	(19.8)	—	(6.6)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ		119
3	E-069	第9次	SI353	P3 堆積土	須恵器	高台付坏	—	(9.4)	(3.3)	ロクロ調整、体部下端回転ヘラケズリ、底面静止糸切り→回転ヘラケズリ→高台貼付	ロクロ調整		119

第 191 図　SI353 竪穴住居跡・出土遺物

SI353 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・白色粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、黒褐色土粒少量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、黒褐色土粒微量含む。
	6	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。
周溝	7	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量、黒色土ブロック(5㎜程度)少量含む。

SI353 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量、黒色土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)・灰色土粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	黄白色シルトブロック(10㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	黄白色シルトブロック(5㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	黄白色シルトブロック(5㎜程度)多量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。
P4	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、黒色土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P5	1	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土粒密、焼土ブロック(5～10㎜程度)少量、Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)・黒色土ブロック(10㎜程度)少量含む。

SI353 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	(70)×(61)	57	
P2	楕円形	103×63	73	
P3	楕円形	(68)×(54)	66	

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	楕円形	(83)×(67)	76	
P5	円形	37×(34)	20	

【柱穴】 床面から 5 基（P1 ～ 5）を検出した。P1 ～ 4 は規模や位置関係から主柱穴に相当すると思われる。P2 の底面には柱材の圧痕とみられる窪みが 2 箇所認められる。

【周溝】 全体の壁面に沿って巡っていたと推定されるが、北東コーナー付近で 30cm 程断続する。規模は、幅 14 ～ 26cm、深さ 8 ～ 26cm を測る。

【掘り方】 全体が掘り込まれる。底面は中央部分が島状に高まり、各壁際には土坑状・ピット状の窪みが不規則に認められる。深さは、6 ～ 38cm を測る。

【出土遺物】 土師器坏 1 点、鉢 1 点、須恵器高台付坏 1 点を掲載した（第 191 図）。1 の土師器坏は口縁部が直線的に外傾する。2 の鉢は、やや内湾する体部から口縁部で直立する。口縁端部は、弱く外反する。3 の須恵器高台付坏はやや腰が張る器形で、高台部の断面は潰れた「ハ」字状を呈する。底部は静止糸切り離し後、高台部を貼り付けている。

【時期】 第 191 図－ 1･2 は床面上から出土し、これらの特徴から本竪穴住居跡の時期は 4 期（7 世紀中葉～後葉）と考えられる。

(2) 掘立柱建物跡

3 棟が検出された。いずれも第 9 次調査区に位置する。調査区中央部の南東寄りに SB37・38 の 2 棟が並び、北端部付近に SB39 が単独で位置する。重複関係では全て竪穴住居跡より新しい建物跡であるが、堆積土の状況や出土遺物などから古墳時代～古代の遺構に位置付けた。ただし、詳細な時期については不明である。

なお、SB39 については当初単独ピットとして調査し、途中で遺構名を変更した。

SB37 掘立柱建物跡（第 192・193 図）

第 9 次調査区中央部のやや南寄り、44・45・48・49 グリッドに位置する。6 基の柱穴で構成され、小溝状遺構群や SX27 との重複により部分的に柱穴の上部が失われているが、残存状況は比較的良い。当該期遺構との重複関係は、SI323・326、SD265、Pit38 より新しい。

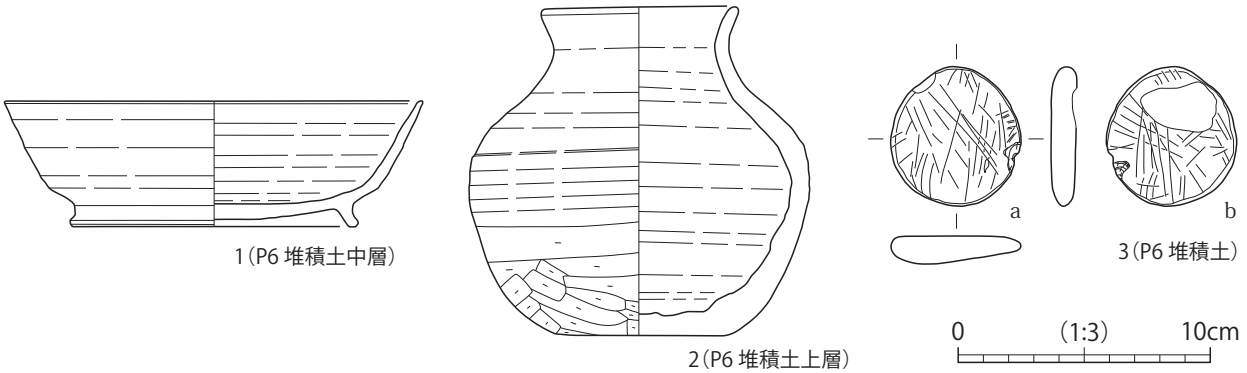
桁行（東西）2 間、梁行（南北）1 間の側柱建物である。規模は柱穴の芯々で算出し、桁行総長は南側で 375cm、北側で 445cm、梁行総長は東側で 330cm、西側で 385cm を測る。平面形状は不整方形を呈し、棟方向は桁部の北側柱列で N － 79° － E を測る。

梁行の柱間寸法は、南側柱列が東から 190 － 180cm、北側柱列が東から 215 － 230cm を測る。

全体的に大型でしっかりとした柱穴で構成される。柱穴の平面形状は、P1・2・5・6 が長方形、P3 が楕円形、P4 が不整円形を呈する。規模は長軸 76 ～ 131cm、短軸 71 ～ 46cm を測る。深さは 27 ～ 83cm で P1 が極端に深く、底面標高では P1 を除く 5 基が 9.10 ～ 9.20 m前後と、概ね揃う。P5 では柱痕跡が確認され、径 33cm を測る。

SB37 観察表

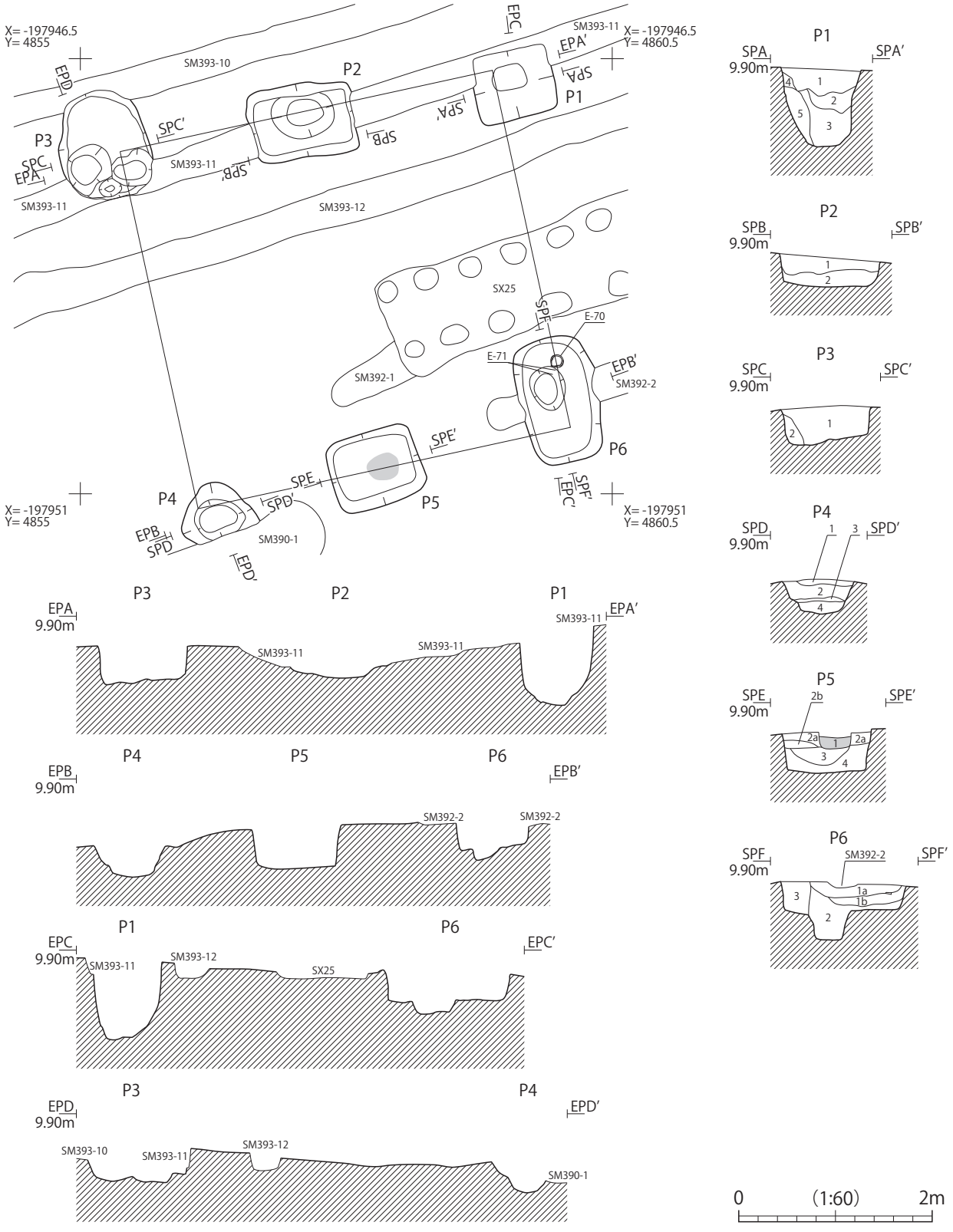
遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	長方形	(84)×71	83	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。	SM390・392・393より古い。
				2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密に含む。	
				3	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック・黒色土ブロック(10㎜程度)微量含む。	
				4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密に、黒色土粒微量含む。	
				5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)・褐灰色土粒多量含む。	
P2	長方形	(109)×79	37	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(20㎜程度)多量、黒色土ブロック少量含む。	SM390・392・393より古い。
				2	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量、黒色土粒少量含む。	
P3	楕円形	(113)×93	38	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土・黒色土ブロック(5～30㎜程度)多量含む。	SM390・392・393より古い。
				2	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。	
P4	不整円形	76×(57)	27	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、白色粒微量含む。	SM390・392・393より古い。
				2	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	Ⅳ層土粒少量、黒色土粒微量含む。	
				3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体。	
				4	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒微量含む。	
P5	長方形	93×78	46	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物少量含む。※柱痕跡	SI326・Pit38より新しい。
				2a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。	
				2b	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	Ⅳ層土粒多量含む。	
				3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・黒色土粒少量含む。	
				4	10YR4/2 灰黄褐色	細砂	Ⅳ層土粒微量含む。	
P6	長方形	131×84	46	1a	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	SM390・392・393より古く、SI323・326・SD265より新しい。
				1b	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
				2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
				3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)・Ⅳ層土粒多量含む。	



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-071	第9次	SB37	P6堆積土中層	須恵器	高台付坏	(16.5)	10.9	5.0	ロクロ調整、底面ヘラケズリ→高台貼付	ロクロ調整		119
2	E-070	第9次	SB37	P6堆積土上層	須恵器	壺	(7.7)	6.8	13.0	ロクロ調整、胴部下半ヘラケズリ、底面ヘラケズリ→ナデ?	ロクロ調整		119

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	法量(cm) 幅	法量(cm) 厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
3	Kc-028	第9次	SB37	P6 堆積土	礫石器	磨石	5.6	5.2	1.1	26.2	凝灰岩	a・b面磨(a面強、b面弱)+線状痕→外周一部剥離	119

第 192 図　SB37 掘立柱建物跡出土遺物



第 193 図　SB37 掘立柱建物跡

P3・6 の底面には柱材の圧痕と思われる窪みがあり、P6 では 3 箇所認められたことから建て替えが行われたと考えられる。

遺物は P6 から出土した須恵器高台付坏 1 点、壺 1 点、礫石器 1 点を掲載した（第 192 図）。1 の須恵器高台付

坏はやや腰が張る器形で、高台部の断面は「ハ」字状を呈する。底部は回転ヘラケズリで切り離し痕を消し、高台部を貼り付けている。2 の壺は口縁部が徳利状に窄まり、胴部下位から底部にかけて手持ちヘラケズリを施している。3 の礫石器は石錘の未製品と思われ、a・b 面には磨痕のほか、細かい線状痕が多数認められる。

第 192 図－ 1･2 は堆積土中の出土遺物であるが、本掘立柱建物跡の上限を示すと思われる。これらの特徴から、本掘立柱建物跡の時期は 6b 期（8 世紀中葉～末葉）以降に位置付けられる。

SB38 掘立柱建物跡（第 194 図）

第 9 次調査区中央部のやや南寄り、44・45・48・49 グリッドに位置する。SB37 の北側に近接し、6 基の柱穴で構成される。小溝状遺構群との重複により部分的に柱穴の上部が失われているが、残存状況は比較的良い。当該期遺構との重複関係は、SI312・314、SA1、Pit176 より新しい。

桁行（東西）2 間、梁行（南北）1 間の側柱建物である。規模は柱穴の芯々で算出し、桁行総長は南側・北側ともに 405cm、梁行総長は東側・西側ともに 265cm を測る。平面形状は東西方向の長方形を呈し、棟方向は桁部の北側柱列で N － 72° － E を測る。

梁行の柱間寸法は、南側柱列が東から 190 － 215cm、北側柱列が東から 195 － 210cm を測る。

全体的に大型でしっかりとした柱穴で構成される。柱穴の平面形状は、P1・2・5・6 が長方形、P3 が方形、P4 が楕円形を呈する。規模は長軸 84 ～ 103cm、短軸 63 ～ 84cm を測る。深さは 32 ～ 70cm と P5 が極端に浅いが、底面標高では P5 を除く 5 基が 9.10 ～ 9.20 m前後と、概ね揃う。P1 ～ 3・5 では柱痕跡が確認され、P1 で径 21cm、P2 で径 16cm、P3 で径 28cm、P5 で径 19cm を測る。P6 の埋土中層には 6 点の棒状礫が詰められ、柱の固定材と思われる。P2 の底面には柱痕跡とは位置的に整合しない窪みが存在し、建て替えが行われたと考えられる。

遺物は P1 ～ 4 から土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

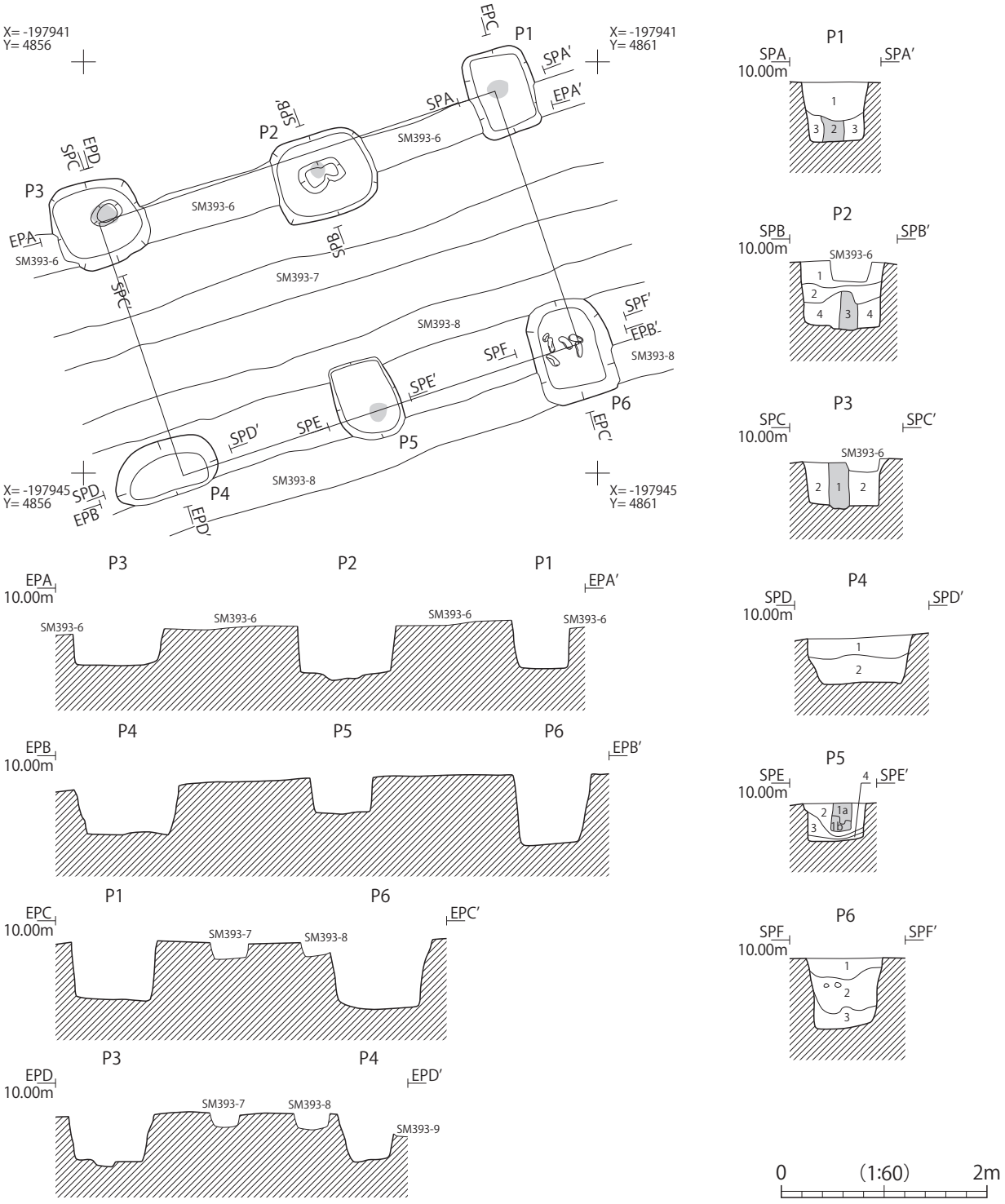
本掘立柱建物跡は位置関係や柱穴形状に SB37 との関連性が強く窺え、これと平行する 6b 期（8 世紀中葉～末葉）以降に位置付けておきたい。

SB38 観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	長方形	84×66	57	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック･黒色土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。	SM393より古く､SI314･SA6より新しい。
				2	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)少量含む。※柱痕跡	
				3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量､黒色土粒微量含む。	
P2	長方形	100×82	67	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量､炭化物微量含む。	SM393より古く､SI312より新しい。
				2	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒･炭化物微量含む。	
				3	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量含む。※柱痕跡	
				4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量､焼土粒･炭化物微量含む。	
P3	方形	88×84	49	1	10YR3/4 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒･焼土粒･炭化物微量含む。※柱痕跡	SM393より古く､SI312より新しい。
				2	10YR3/4 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。	
P4	楕円形	103×(56)	50	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック･黒色土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。	SM393より古く､SI312より新しい。
				2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック･黒色土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。	
P5	長方形	(79)×63	32	1a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	焼土粒･炭化物微量含む。※柱痕跡	SM393より古く、P176･SI312より新しい。
				1b	N6/0 灰色	シルト	Ⅳ層土との互層。※柱痕跡	
				2	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量含む。	
				3	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒･炭化物微量含む。	
				4	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体､炭化物微量含む。	
P6	長方形	(101)×78	70	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～30㎜程度)多量､炭化物微量含む。	SM393より古く､SI314より新しい。
				2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色土ブロック(10～30㎜程度)少量､炭化物微量含む。	
				3	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体､灰褐色土粒微量含む。	

SB39 掘立柱建物跡（第 195 図）

第 9 次調査区北端部付近の 04・08 グリッドに位置する。7 基の柱穴で構成されるが、SI321 重複部にも 1 基が存在した可能性がある。当該期遺構との重複関係は、SI328、SK328、Pit56 より新しい。範囲的には SI321 とも重複するが、新旧関係は明らかにできなかった。



第 194 図　SB38 掘立柱建物跡

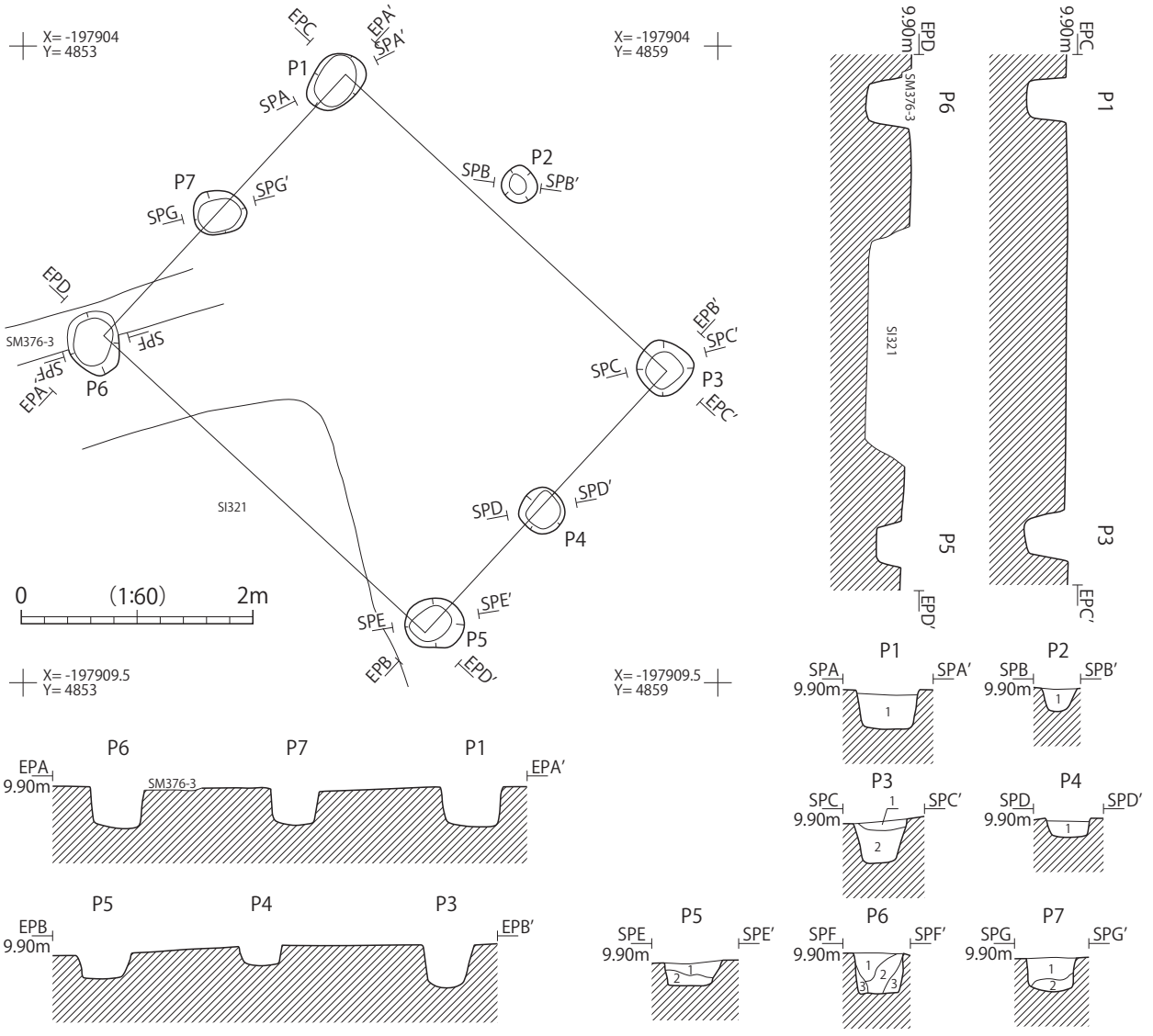
現状では桁行（南北）2 間、梁行（東西）2 間の側柱建物である。P2 はほかの柱穴より一回り小型で、柱筋の外側へ若干ずれることから、棟持柱と考えた。このため P1 ～ 3 の列を梁側としている。規模は柱穴の芯々で算出し、桁行総長は南側で 300cm、北側で 310cm、梁行総長は 380cm を測る。平面形状は南北方向の長方形を呈すが、桁部がさらに西側へと延びる可能性が高い。棟方向は桁部の北側柱列で N － 43° － E を測る。

梁行の柱間寸法は、南側柱列が東から 160 － 140cm、北側柱列が 155cm 等間を測る。梁行の柱間寸法は南から 200 － 180cm を測る。

全体的に小型の柱穴で構成される。柱穴の平面形状は、いずれも円形もしくは楕円形である。規模は長軸 32 ～ 56cm、短軸 31 ～ 45cm を測る。深さは 17 ～ 34cm と P4 がやや浅いが、底面標高では P4 を除く桁部の 5 基が 9.40 ～ 9.50 m前後と、概ね揃う。柱痕跡は認められなかった。

遺物は P1 ～ 3・6・7 から土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

本掘立柱建物跡は、SI328 より新しいことから 1 期（5 世紀後半）以降に位置付けられる。



SB39 観察表

遺構名	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P1	楕円形	54×40	34	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・焼土微量含む。	SI328・P56より新しい。
P2	円形	32×31	20	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量、炭化物微量含む。	
P3	円形	45×45	27	1	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒少量、炭化物微量含む。	
				2	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒微量含む。	
P4	円形	39×38	17	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、黒色土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。	
P5	楕円形	51×42	22	1	10YR5/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、黒色土ブロック(5㎜程度)・炭化物微量含む。	SK328より新しい。
				2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密に含む。	
P6	楕円形	56×45	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物少量含む。	SM376より古く、SI328より新しい。
				2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)少量、炭化物微量含む。	
				3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。砂質強い。	
P7	楕円形	45×38	32	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物少量含む。	SI328より新しい。
				2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。砂質強い。	

第 195 図　SB39 掘立柱建物跡

（3）材木列跡

SA6 材木列跡（第 196 図）

第 9 次調査区中央部の 22・27・28・32・36・40・41・45 グリッドに位置する。調査区を東西に分断するような状況で検出された。南側は調査区外に延び、北側は削平のため次第に浅くなり消失する。当該期遺構との重複関係は SI314、Pit151・175 より新しく、SB38、SD7 より古い。高位面の縁辺に立地し、低位面（河川跡）のラインに沿うようにして構築されている。

溝状の掘り方内に、柱材の埋設とみられるピットを 46 箇所確認した。方位は N － 35° － W を指向し、概ね直線的に延びる。規模は、検出長 34.10 m、幅 32 ～ 83cm、深さ 5 ～ 19cm を測るが、中央付近の 6.43 m程の範囲は削平のため消失している。

堆積土は大別で 3 層、細別で 4 層に分層される。注目されるのが 1 層で、層相から自然堆積と思われる。掘り方埋土を切るようにして堆積しており、本材木列跡の解体行為が行われたことを示唆している。

遺物は土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

本材木列跡の時期は 6b 期（8 世紀中葉～末葉）以降の SB38 より古く、3 期（7 世紀初頭～前葉）の SI314 よ新しいことから、その中間に位置付けられる。また、長町駅東遺跡第 3・4 次調査（仙台市教委 2007・2009）で検出された材木列跡との構造的な共通点や方向性の一致などから、これと一対で構築されたと考えられる。

（4）溝跡（第 197 ～ 204 図）

古墳時代～古代の溝跡は、17 条が検出された。規模や方向性は様々であり、その機能も明らかにし得ない溝跡がほとんどである。ただ SD347 は SB38 と方向性が一致し、一定の距離を保つなど、両者の関連性が窺われる。時期的にはほとんどの溝跡が竪穴住居跡よりも新しく、SD7・180 の上層には十和田 a テフラ（To-a・推定 915 年降下）とみられる灰白色火山灰が堆積しており、比較的下るものと推定される。

SD6 溝跡（第 197・199・200 図）

第 6 次調査区東端部の 04・06 グリッドに位置する。北西－南東方向の溝跡で、僅かな範囲を検出したに過ぎず、両側端部はともに調査区外へと延びる。南側部分は第 1・2 次調査で検出された。当該期遺構との重複関係は、SI277 より古い。第 1・2 次調査では SI4 とも重複し、これより新しいことが判明している。

方位は、N － 23° － W を指向する。規模は、検出長 1.78 m、上幅 89 ～ 93cm、下幅 31 ～ 39cm、深さ 33 ～ 43cm を測る。検出長は第 1・2 次調査部分を含むと、21.3 mに及び、概ね直線的に延びる。断面形状は、ややいびつな逆台形を呈する。底面は南側方向へと緩やかに傾斜することが、第 1・2 次調査で報告されている。

堆積土は 3 層に分層された。いずれの層も自然堆積とみられる。

遺物は金属製品 1 点を掲載した（第 200 図－ 1）。鉄鏃の茎部で、残存する関は棘関である。そのほか堆積土中から土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

本溝跡は 6a 期（8 世紀前葉）の可能性がある SI277 より古く、4 期（7 世紀中葉～後葉）の SI4 より新しいことから、その中間に位置付けられる。

SD7 溝跡（第 197・199・200 図）

第 9 次調査区東部～中央部の 19・20・24・25・28・29・32・36 グリッドに位置する。北東－南西方向の溝跡で、南側端部は 36 グリッド内で止まり、北側は調査区外へと延びる。北側部分は第 1・2 次調査で検出された。

当該期の遺構との重複関係は、SI8・315・333・336・338・348・350・353、SA6、Pit67・85、SX30 より新しい。第 1・2 次調査では SI7 とも重複し、これより新しいことが判明している。

方位は、N － 25 ～ 53° － E を指向する。規模は、検出長 24.7 m、上幅 72 ～ 139cm、下幅 34 ～ 109cm、深さ 15 ～ 51cm を測り、若干弓なりに東側へと湾曲する。検出長は第 1・2 次調査部分を含むと、49.1 mに及び、同調査区では概ね直線的に延びる。断面形状は、逆台形もしくは箱形を呈する。底面の傾斜は認められない。

堆積土は大別で 3 層、細別で 5 層に分層された。いずれの層も自然堆積とみられ、1b 層は灰白色火山灰（十和田 a テフラか）関連の層である。

遺物は須恵器坏 1 点、高台付坏 1 点、蓋 2 点、鉢 1 点を掲載した（第 200 図－ 2 ～ 6）。そのほか、土師器破片が多量出土している。2 の須恵器坏は、底部を回転ヘラ切り離し後、手持ちヘラケズリで調整している。3 の高台付坏は、底部を回転ヘラケズリで切り離し痕を消し、高台部を貼り付けている。高台部は低く、ほぼ直立する。4・5 の蓋は、4 が内側に、5 が縁辺にそれぞれカエリがつく。6 の鉢は把手部分で、ユビナデや粗いヘラケズリで成形され、体部内面には貼り付け時のユビオサエが顕著に残存する。

本溝跡は SI315 より新しいことから、4 期（7 世紀中葉～後葉）以降に位置付けられる。堆積土の灰白色火山灰が十和田 a テフラだとすれば、その下限が 9 世紀前葉ということになる。

SD180 溝跡（第 197・199 ～ 201 図）

第 6 次調査区の 01・03・05・07 グリッドと、第 9 次調査区の 05・09・14・19・23・24・28 グリッドに南北にまたがって位置する。南北方向の溝跡で、南側端部は 28 グリッド内で止まり、北側は調査区外へと延びる。当該期の遺構との重複関係は、SI275・278・284・288・289・316A・316B・318・319・325・329、SD182・191・205、SK240・241・288・302、Pit45・47 より新しい。

方位は、N － 2° － W を指向する。規模は、検出長 15.86 m、上幅 69 ～ 148cm、下幅 38 ～ 74cm、深さ 16 ～ 46cm を測る。概ね直線的に延び、南側端部付近は「く」字状に西側へと屈曲する。この屈曲部分の手前の壁は、東へ 123cm 程突出している。断面形状は、逆台形もしくは箱形を呈する。底面の傾斜は認められない。

堆積土は大別で 4 層、細別で 11 層に分層された。いずれの層も自然堆積とみられ、2c 層は灰白色火山灰（十和田 a テフラか）関連の層である。

遺物は土師器坏 2 点、甕 1 点、ミニチュア土器 1 点、須恵器高坏 1 点、礫石器 3 点を掲載した（第 200 図－ 7 ～ 12・第 201 図－ 1・2）。土師器坏は、7 が直線的に外傾、8 が直立する口縁部をそれぞれもつ。7 の口縁部と体部の境目には、強い稜が認められる。9 の甕は小型で肩がやや張る器形である。10 のミニチュア土器は鉢状の器形で、外面がユビナデ、内面がヘラナデで仕上げられている。11 の須恵器高坏の坏部は見込みまでが深い椀状の器形で、口縁部は弱く外反する。口縁部と体部との境目には細い突帯を 2 条巡らす。底部外面には脚台部の剥落痕が残り、4 つの透孔をもつ形態であったことが窺われる。12 および第 201 図－ 1・2 の礫石器はいずれも敲石であるが、第 201 図－ 1・2 は磨石の機能も併せもち、ともに磨痕が認められる。

本溝跡は SI275 より新しいことから 6a 期（8 世紀前葉）以降に位置付けられ、下限が 9 世紀前葉となる可能性が考えられる。

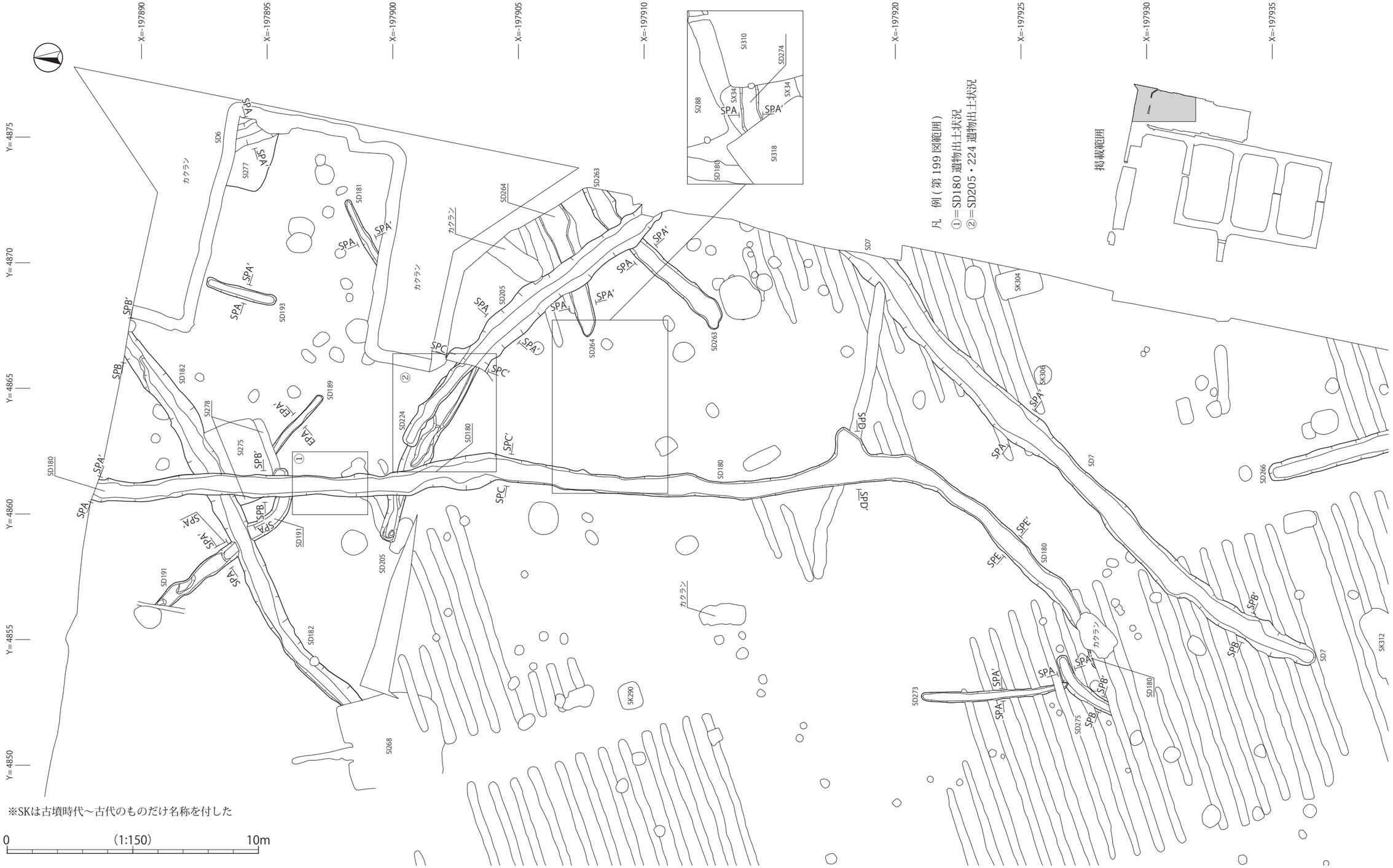
SD181 溝跡（第 197・199 図）

第 6 次調査区南東部の 06 グリッドに位置する。北東－南西方向の溝跡で、南側は撹乱のため失われ、北側端部は 06 グリッド内で止まる。当該期の遺構との重複関係は、SI279・287 より新しい。

第 196 図　SA6 材木列跡

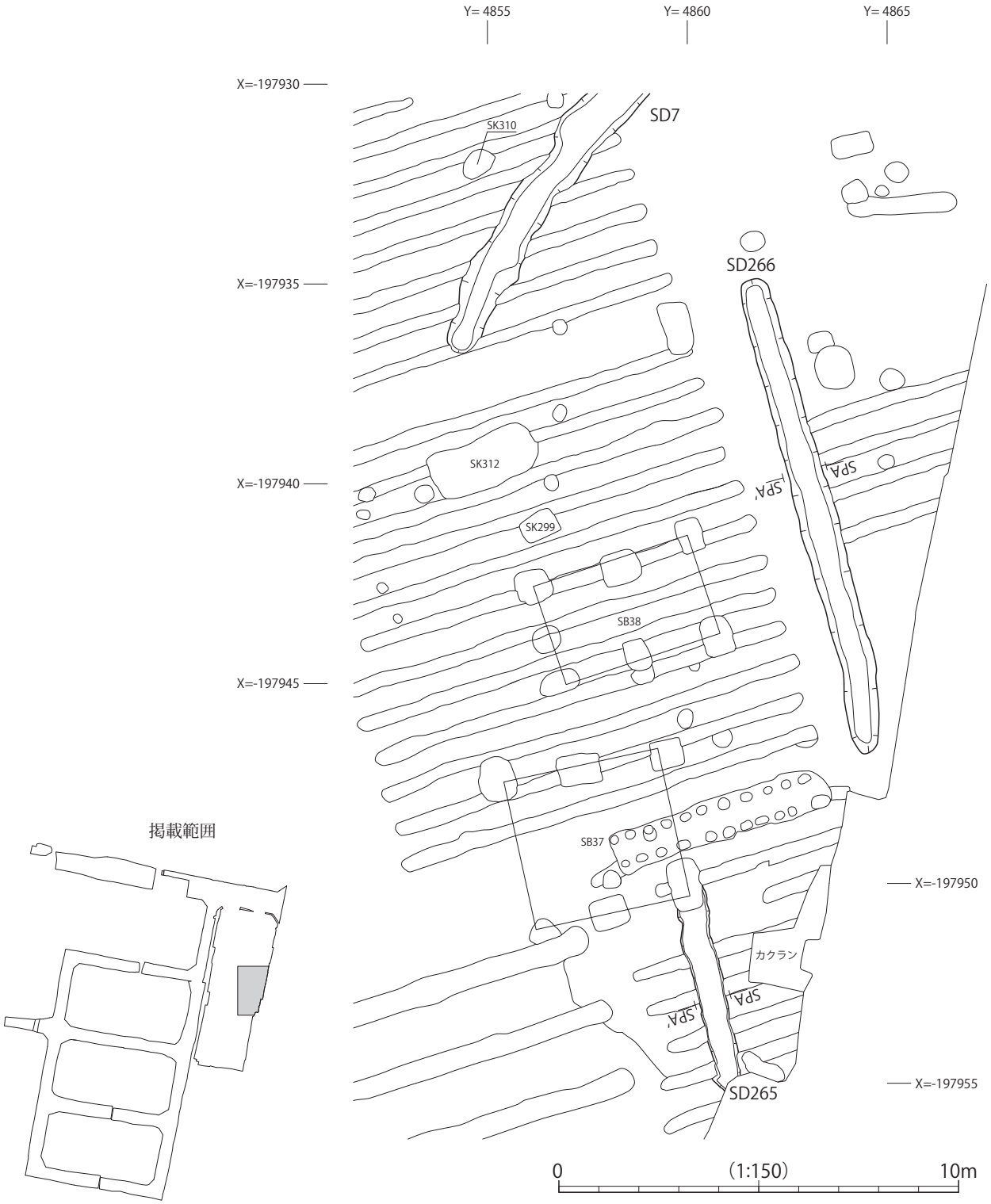
SA6 材木列跡 観察表

遺構名	グリッド	方向	規模(cm) 全長	上端幅	下端幅	深さ	層位	土色	土性	備考
SA6	22・27 28・32 36・40 41・45	N-36°-W	3410	32～83	24～68	5～19	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒を多量、黒色土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
							3a	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。
							3b	10YR5/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒・黒色土ブロック(5㎜程度)微量含む。



※SKは古墳時代～古代のものだけ名称を付した

第 197 図　溝跡（古墳時代～古代）（1）



第 198 図　溝跡（古墳時代～古代）（2）

方位は、N － 62° － E を指向する。規模は、検出長 2.82 m、上幅 28 ～ 39cm、下幅 14 ～ 20cm、深さ 11 ～ 28cm を測り、概ね直線的に延びる。断面形状は逆台形を呈し、底面の傾斜は認められない。

堆積土は３層に分層された。2・3層は基本層Ⅳ層土が主体であると思われ、1層におけるⅣ層土の混入状況からも、本溝跡は人為的に埋め戻されたと考えられる。

遺物は堆積土中から土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

本溝跡の時期は、不明である。

SD182 溝跡（第 197・199・202 図）

第 5 次調査区の 23 グリッドと、第 6 次調査区の 01・03・20・23 グリッドに東西にまたがって位置する。北東－南西方向の溝跡で、南側端部は SI268 との重複により失われ、北側は調査区外へと延びる。当該期の遺構との重複関係は SI267・278・283、SD191、Pit46 より新しく、SI268・275、SD180 より古い。

方位は、N － 44 ～ 66° － E を指向する。規模は、検出長 18.16 m、上幅 84 ～ 117cm、下幅 27 ～ 60cm、深さ 24 ～ 48cm を測り、僅かに蛇行を繰り返して延びる。断面形状は逆台形を呈し、底面の傾斜は認められない。

堆積土は大別で 4 層、細別で 7 層に分層された。いずれの層も自然堆積とみられる。

遺物は土師器坏 1 点を掲載した（第 202 図）。そのほか堆積土中から須恵器破片も少量出土している。第 202 図－ 1 の土師器坏は小型の坏で、口縁部は下位から「く」字状に屈曲して外傾する。口縁部と体部との境目には明瞭な稜をもつ。

本溝跡は 4 期（7 世紀中葉～後葉）の SI268 より古く、2b 期（6 世紀中葉～末葉）の SI283 より新しいことから、その中間に位置付けられる

SD189 溝跡（第 197・199 図）

第 6 次調査区中央部の 05 グリッドに位置する。北西－南東方向の溝跡で、南側端部は 05 グリッド内で止まり、北側は SI278 との重複により失われている。当該期の遺構との重複関係は SI284・290、SK234 より新しく、SI278 より古い。

方位は、N － 49° － W を指向する。規模は、検出長 2.95 m、上幅 29 ～ 32cm、下幅 17 ～ 26cm、深さ 7 ～ 17cm を測り、概ね直線的に延びる。断面形状は箱形を呈し、底面の傾斜は認められない。

堆積土は単層で、分層されなかった。自然堆積とみられる。

遺物は土師器・須恵器破片が僅かに出土したが、図化できるものはなかった。

本溝跡は 2 期～ 6a 期（6 世紀代～ 8 世紀前葉）の SI278 より古く、2b 期（6 世紀中葉～末葉）以前の SI284 より新しいことから、その中間に位置付けられる。

SD191 溝跡（第 197・199 図）

第 6 次調査区西部の 05・20・23 グリッドに位置する。北西－南東方向の溝跡で、南側端部は 05 グリッド内で止まり、北側端部は中世～近世の SK225 との重複によって失われている。当該期の遺構との重複関係は SI284・285、SK240 より新しく、SI278、SD180・182 より古い。

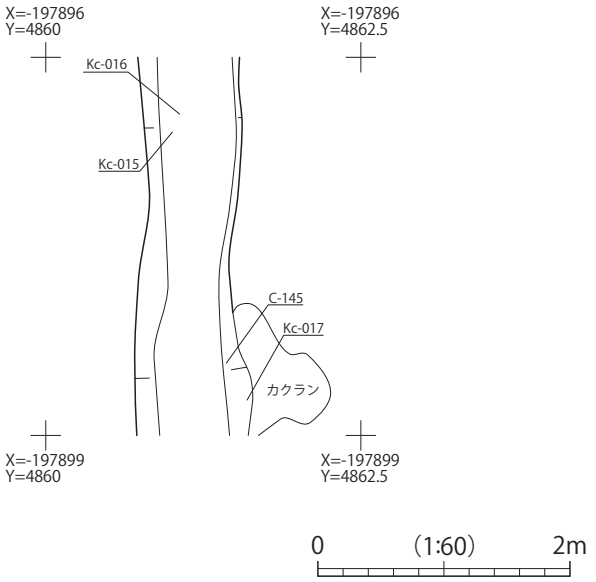
方位は、N － 46 ～ 89° － W を指向する。規模は、検出長 7.92 m、上幅 49 ～ 73cm、下幅 33 ～ 56cm、深さ 11 ～ 28cm を測る。概ね直線的に延び、南側端部付近は「く」字状に東側へと屈曲する。断面形状は逆台形を呈し、底面の傾斜は認められない。

堆積土は 3 層に分層された。いずれの層も自然堆積とみられる。

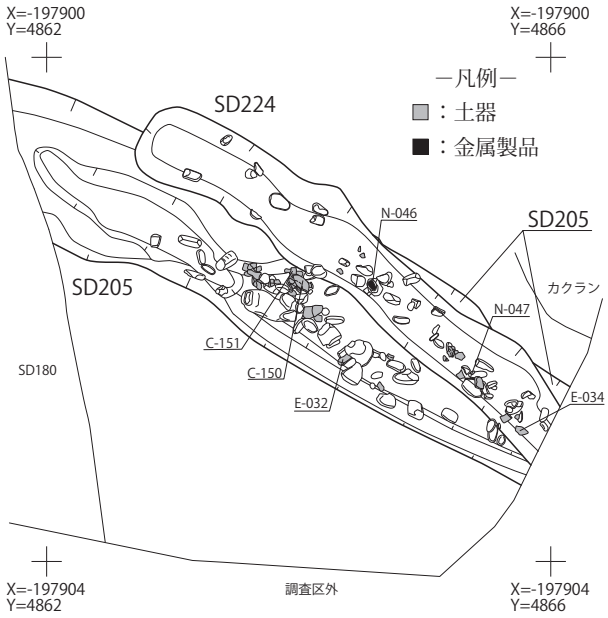
遺物は土師器破片が僅かに出土したが、図化できるものはなかった。

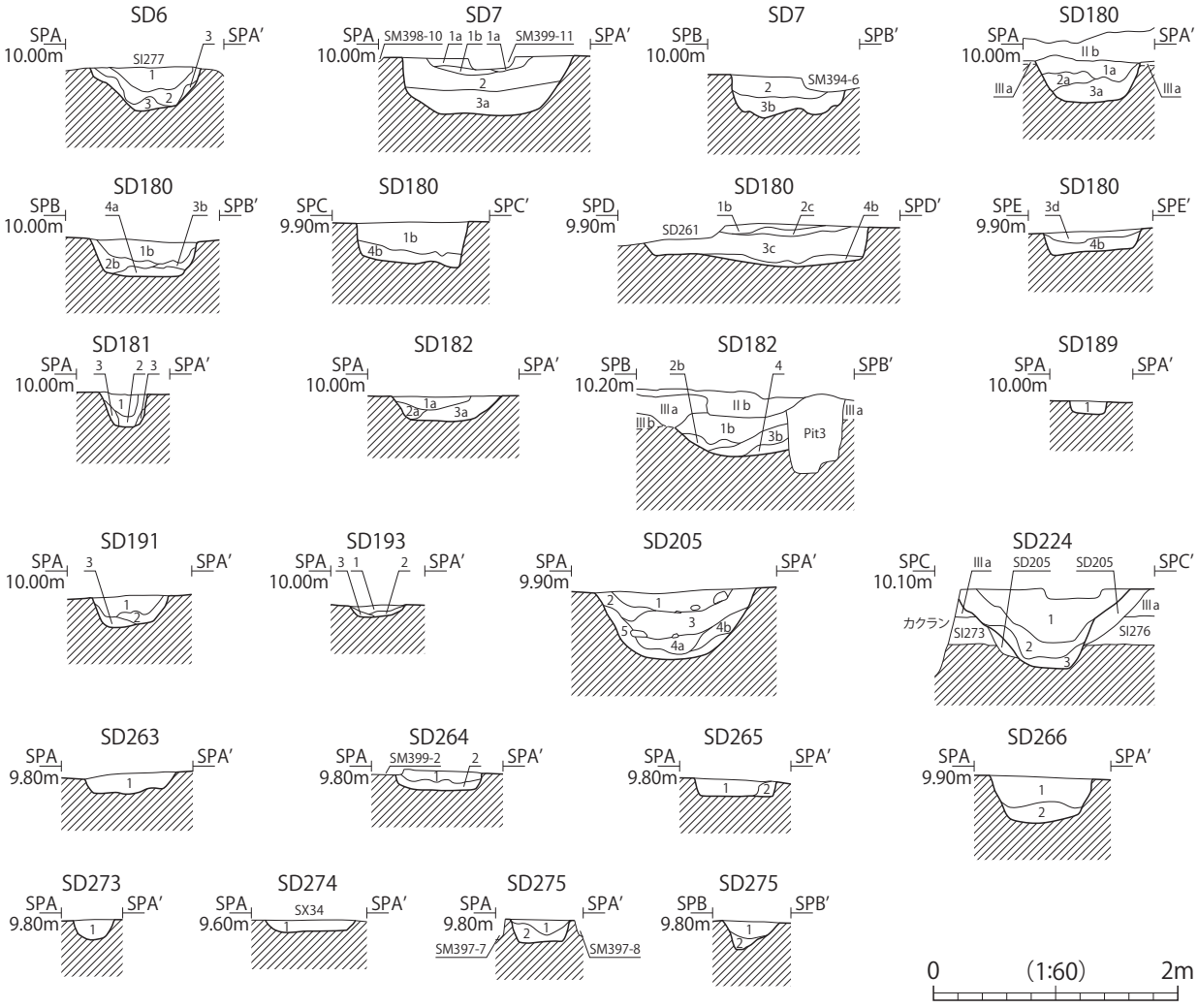
本溝跡は 2 期～ 6a 期（6 世紀代～ 8 世紀前葉）以前の SI278 より古く、2b 期（6 世紀中葉～末葉）以前の SI284 より新しいことから、その中間に位置付けられる。

※SD180遺物出土状況

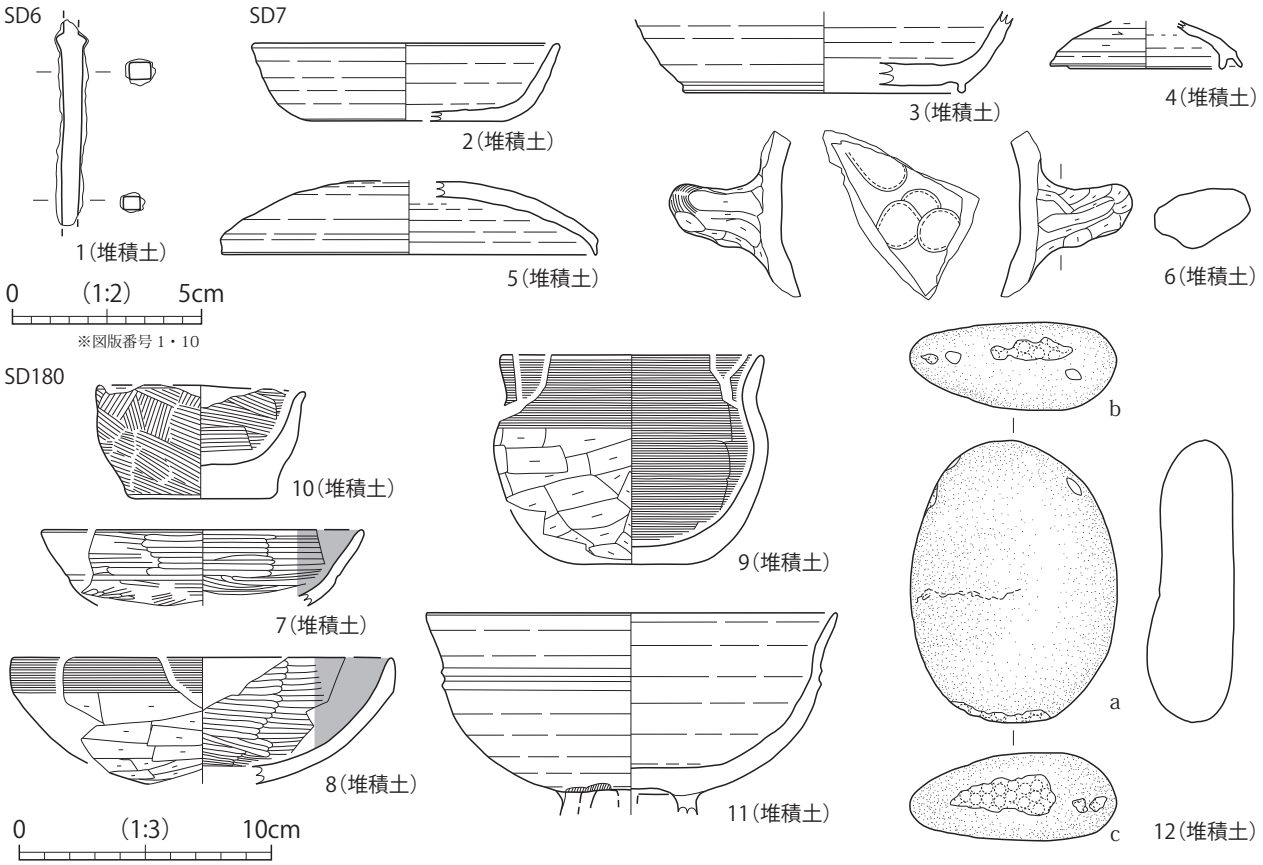


※SD205・224遺物出土状況





第 199 図　溝跡（古墳時代～古代）（3）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
1	N-043	第6次	SD6	堆積土	金属製品	鉄鏃	(5.4)	5.5	0.4	4.8	茎部、棘関残存	120

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
2	E-077	第9次	SD7	堆積土	須恵器	坏	(12.0)	(7.6)	3.1	ロクロ調整、底面回転ヘラ切り→ヘラケズリ	ロクロ調整		120
3	E-078	第9次	SD7	堆積土	須恵器	高台付坏	—	(11.0)	(3.2)	ロクロ調整、底面回転ヘラケズリ→高台貼付	ロクロ調整		120
4	E-079	第9次	SD7	堆積土	須恵器	蓋	(7.6)	—	(1.9)	ロクロ調整、天井部回転ヘラケズリ	ロクロ調整		120
5	E-081	第9次	SD7	堆積土	須恵器	蓋	(14.8)	—	(2.9)	ロクロ調整	ロクロ調整		120
6	E-074	第9次	SD7	堆積土	須恵器	鉢	—	—	(6.6)	ヘラケズリ	指オサエ	把手	120
7	C-295	第9次	SD180	堆積土	土師器	坏	(12.6)	—	(3.0)	ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		120
8	C-144	第6次	SD180	堆積土	土師器	坏	(15.0)	—	(5.0)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		120
9	C-296	第9次	SD180	堆積土	土師器	甕	(10.2)	(6.0)	8.3	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		120
10	C-145	第6次	SD180	堆積土	土師器	ミニチュア土器	5.4	3.7	3.0	ユビナデ	ヘラナデ		120
11	E-083	第9次	SD180	堆積土	須恵器	高坏	(16.2)	—	(8.0)	ロクロ調整、脚貼付部ヘラナデ	ロクロ調整	透孔4ヶ所	120

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
12	Kc-015	第6次	SD180	堆積土	礫石器	敲石	11.2	8.2	3.5	440.8	安山岩	b•c面敲(弱)	120

第 200 図　SD6・7 溝跡出土遺物・SD180 溝跡出土遺物（1）

SD193 溝跡（第 197・199 図）

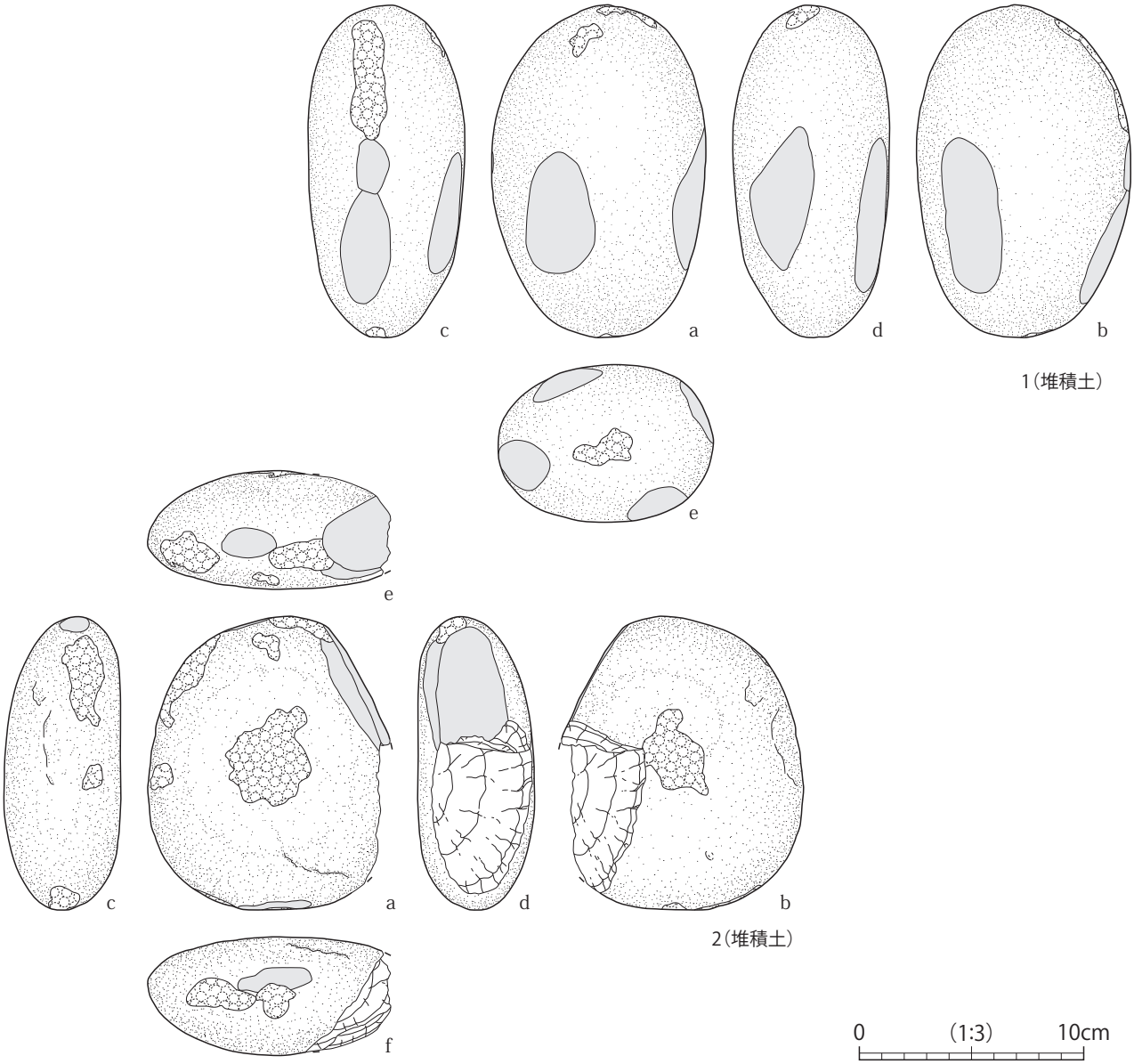
第 6 次調査区中央部の 03・05 グリッドに位置する。南北方向の溝跡で、全体が検出された。当該期の遺構との重複関係は、SI283・289 より新しい。

方位は、N － 15° － E を指向する。規模は、検出長 2.85 m、上幅 37 ～ 44cm、下幅 22 ～ 31cm、深さ 11 ～ 14cm を測り、概ね直線的に延びている。断面形状は逆台形を呈し、底面の傾斜は認められない。

堆積土は 3 層に分層された。いずれの層も自然堆積とみられる。

遺物は土師器・須恵器破片が僅かに出土したが、図化できるものはなかった。

本溝跡は、SI283 より新しいことから 2b 期（6 世紀中葉～末葉）以降に位置付けられる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層　位	種　別	器　種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石　材	備　考	写真図版
1	Kc-017	第6次	SD180	堆積土	礫石器	磨+敲石	14.9	9.6	7.0	1445.0	安山岩	a･b･d面磨(弱)、c面磨(弱)→敲(弱)、e面敲(弱)	120
2	Kc-016	第6次	SD180	堆積土	礫石器	磨+敲石	13.1	(10.8)	5.2	1051.6	安山岩	a･c面敲(弱)、b面敲(弱)→剥離、d面磨(弱)→剥離、e面敲(弱)→磨(弱)、f面磨(弱)→敲(弱)	120

第 201 図　SD180 溝跡出土遺物（2）

SD205 溝跡（第 197・199・202・203 図）

第 6 次調査区の 05・07・23・23b グリッドと、第 9 次調査区の 05・09・10・15 グリッドに東西にまたがって位置する。北西－南東方向の溝跡で、南側は調査区外へと延び、北側端部は 23・23b グリッド内で止まる。当該期の遺構との重複関係は SI273・276・288・310・351、SD263・264、SK317、Pit217・218、SX29 より新しく、SD180・244 より古い。

方位は、N － 40° － W を指向する。規模は、検出長 17.71 m、上幅 56 ～ 132cm、下幅 33 ～ 65cm、深さ 33 ～ 53cm を測り、若干弓なりに南側へと湾曲して延びる。断面形状は第 9 次調査区内では大半部分がＵ字形を呈すが、第 6 次調査区では逆台形に近い形状を呈し、東側 1/2 程の底面が階段状に掘り込まれている。全体的に底面の傾斜は認められない。

堆積土は大別で 5 層、細別で 6 層に分層された。大半の層が自然堆積とみられるが、1 層は炭化物や礫、土器などを多量に含み、人為的な投げ込みが推定される。

第 199 図に示したように、本溝跡からは堆積土上層から多量の遺物が出土している。土師器坏 3 点、器台 1 点、高坏 1 点、壺 1 点、甕 3 点、須恵器蓋 1 点、甕 2 点、金属製品 3 点、土製品 2 点、礫石器 3 点を掲載した（第 202 図－ 2 ～ 13、第 203 図－ 1 ～ 8）。第 202 図－ 2 ～ 4 の土師器坏の口縁部形態は 2・3 が直線的、4 が内湾気味に外傾する。いずれも口縁部と体部との境目に強い稜をもつ。5 の器台は短脚と思われ、中心に貫通孔が穿たれている。6 の高坏も短脚で、脚台部の断面は「ハ」字状に直線的に開く。7 の壺は短頸壺と思われ、胴部は球状に張る。10 の甕は短く外傾する口縁部が特徴的である。11 の須恵器蓋は端部にカエリが付き、逆皿状の扁平な器形を呈する。第 203 図－ 1 ～ 3 の金属製品はいずれも器種不明であるが、2 の銅製品については SI265 から類似する遺物が出土している（第 57 図－ 4）。4・5 の土製品はともに土錘であり、4 は円筒状の大型製品である。6 ～ 8 の礫石器は敲石で、いずれにも溝状痕が認められる。

本溝跡は、SI288 より新しいことから 2b 期（6 世紀中葉～末葉）以降に位置付けられる。また、第 1・2 次調査区内の本溝跡の延長上には SD11 が位置しており、同一の溝跡である可能性も考えられる。

SD224 溝跡（第 197・199・204 図）

第 6 次調査区南端部の 07 グリッドに位置する。北西－南東方向の溝跡で、南側端部は第 9 次調査区まで延びる可能性もあるが、同調査区では検出されていない。北側端部は 07 グリッド内で止まる。当該期の遺構との重複関係は、SI273・276・288、SD205 より新しい。

方位は、N － 52°－ W を指向する。規模は、検出長 4.07 m、上幅 46 ～ 70cm、下幅 25 ～ 41cm、深さ 38 ～ 45cm を測り、若干弓なりに南側へと湾曲して延びる。断面形状は逆台形を呈し、底面の傾斜は認められない。

堆積土は 3 層に分層された。堆積土の大半を占める 1 層は、褐灰色シルトブロックの混入状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。この層位からは、礫や土器などが多量出土した。

第 199 図に示したように、本溝跡からも SD205 同様に堆積土上層から多量の遺物が出土した。須恵器坏 1 点、甕 1 点、金属製品 2 点を掲載した（第 204 図－ 1 ～ 4）。1 の須恵器坏は直線的に外傾する体部をもち、底部は回転ヘラ切り離し後、手持ちヘラケズリを施している。3・4 の金属製品はいずれも器種不明である。

本溝跡は、SI288 より新しいことから 2b 期（6 世紀中葉～末葉）以降に位置付けられる。ただし SD205 よりは下り、同溝跡との重複状況から、掘り直しの関係にある可能性が考えられる。

SD263 溝跡（第 197・199 図）

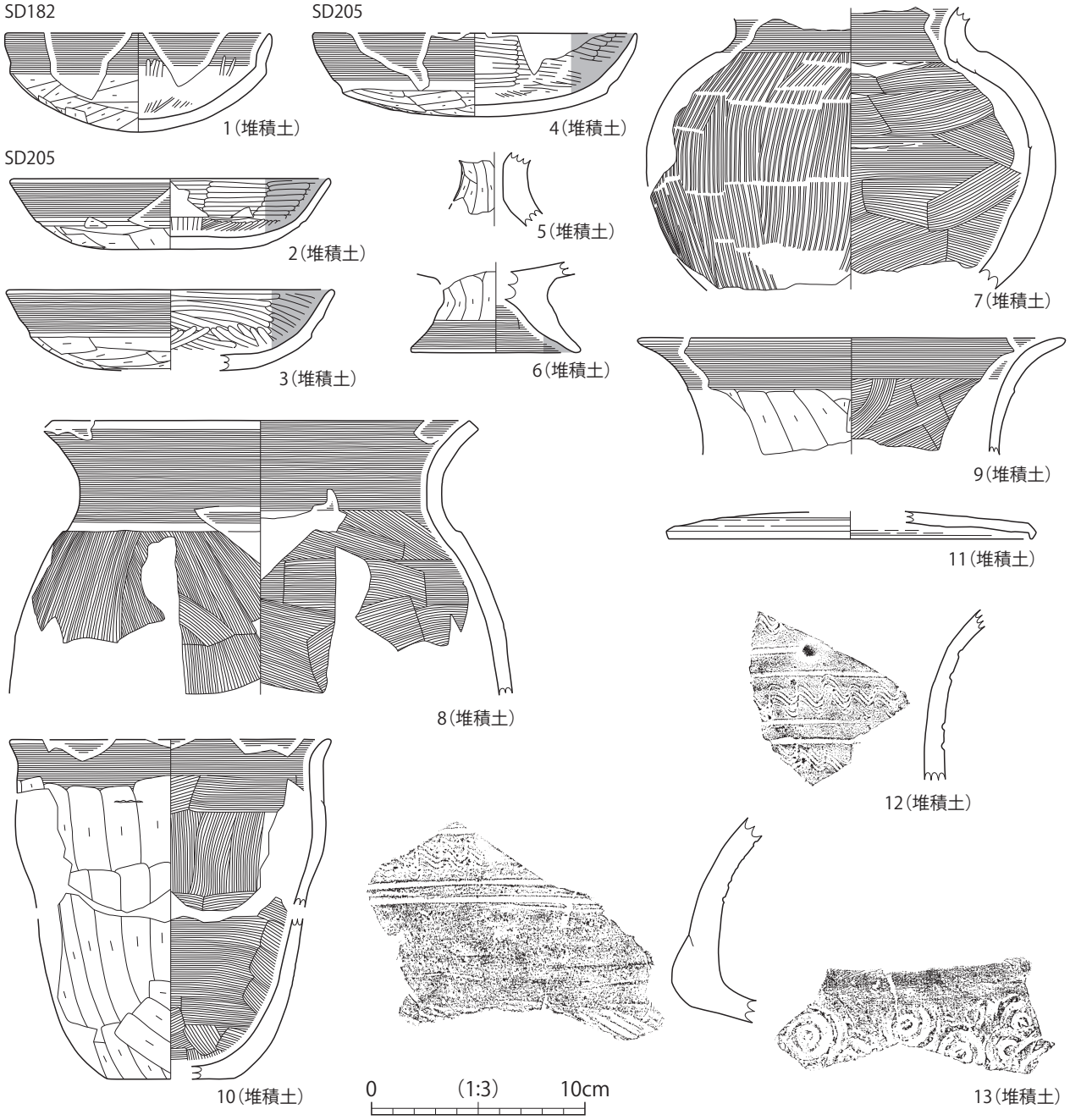
第 9 次調査区北東端部の 09・10・14・15 グリッドに位置する。北東－南西方向の溝跡で、南側端部は 14 グリッド内で止まり、北側は調査区外へと延びる。当該期の遺構との重複関係は SI310・340、SK323・317、Pit219 より新しく、SD7 より古い。

方位は、N － 43 ～ 66°－ E を指向する。規模は、検出長 7.53 m、上幅 72 ～ 101cm、下幅 54 ～ 77cm、深さ 8 ～ 19cm を測る。14 グリッド内では概ね直線的に延びるが、10 グリッド内で若干東側へと屈曲する。断面形状は逆台形を呈し、底面は北側方向へと緩やかに傾斜する。

堆積土は単層で、分層されない。基本層Ⅳ層土の混入状況から、人為的に埋め戻されたと考えられる。

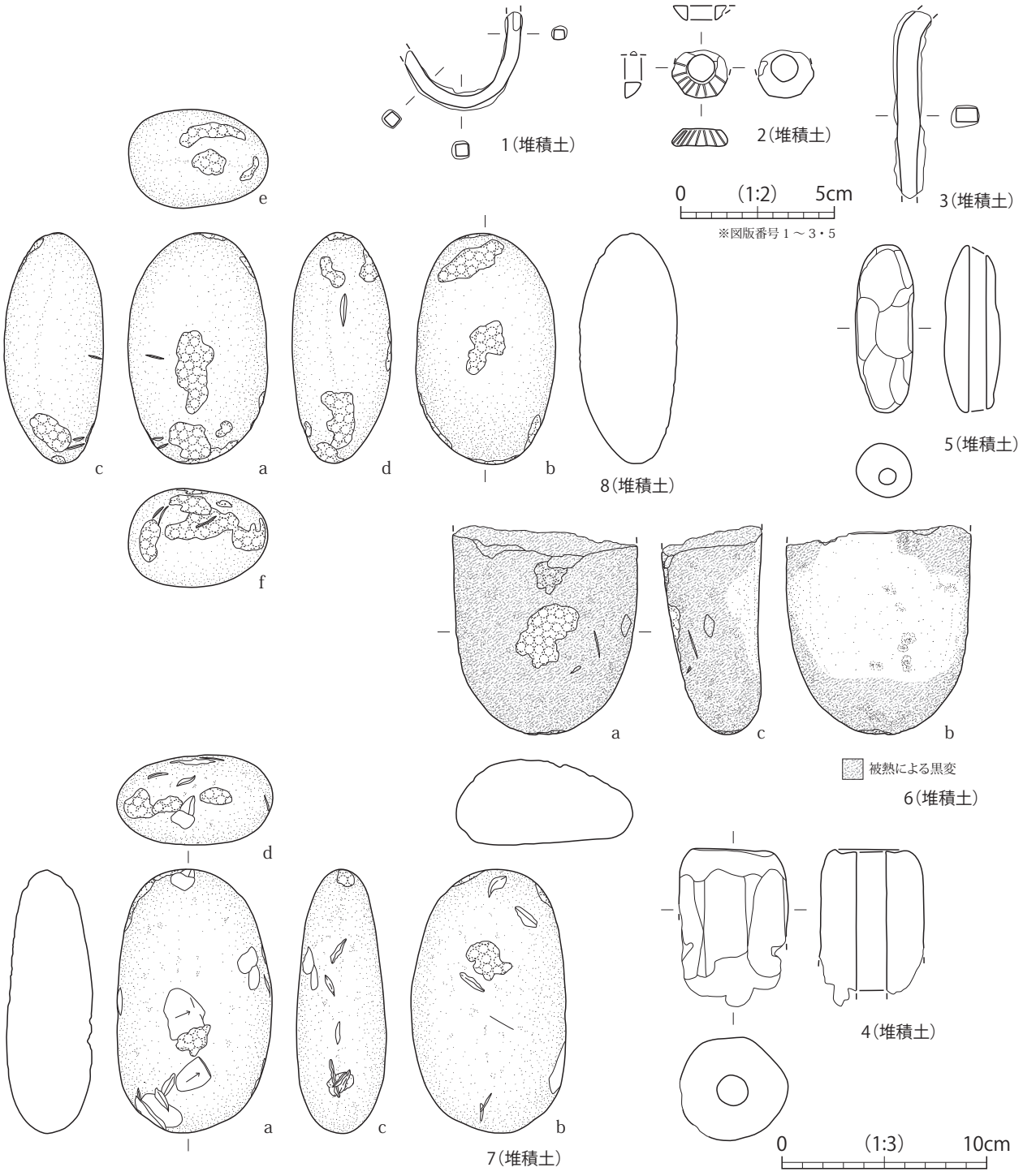
遺物は堆積土中から土師器破片が僅かに出土したが、図化できるものはなかった。

本溝跡は、SI310 より新しいことから 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）以降に位置付けられる。また、第 1・2 次調査区内の本溝跡の延長上には SD8 が位置しており、同一の溝跡である可能性も考えられる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-146	第6次	SD182	堆積土	土師器	坏	(12.2)	—	4.6	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ	内面摩滅	121
2	C-301	第9次	SD205	堆積土	土師器	坏	(14.8)	7.0	3.3	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		121
3	C-307	第9次	SD205	堆積土	土師器	坏	(15.2)	—	(3.8)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		121
4	C-298	第9次	SD205	堆積土	土師器	坏	(15.0)	—	3.9	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		121
5	C-153	第6次	SD205	堆積土	土師器	器台	—	—	(3.5)	ヘラケズリ	観察不可		121
6	C-303	第9次	SD205	堆積土	土師器	高坏	—	(7.8)	(4.2)	脚部ヘラケズリ、端部ヨコナデ	脚部ヘラナデ、脚端部ヨコナデ、黒色処理		121
7	C-150	第6次	SD205	堆積土	土師器	壺	—	—	13.2	頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		121
8	C-151	第6次	SD205	堆積土	土師器	甕	(19.4)	—	(12.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		121
9	C-300	第9次	SD205	堆積土	土師器	甕	(19.5)	—	(5.5)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		121
10	C-299	第9次	SD205	堆積土	土師器	甕	(14.8)	—	(15.9)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、輪積み痕	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		121
11	E-088	第9次	SD205	堆積土	須恵器	蓋	(17.0)	—	(1.1)	ロクロ調整、天井部ヘラケズリ	ロクロ調整		121
12	E-030	第6次	SD205	堆積土	須恵器	甕	—	—	(7.2)	ロクロ調整、平行沈線、櫛描波状文	ロクロ調整		121
13	E-032	第6次	SD205	堆積土	須恵器	甕	—	—	(7.7)	ロクロ調整、頸部平行沈線、櫛描波状文、胴部平行タタキ	ロクロ調整、胴部同心円文		121

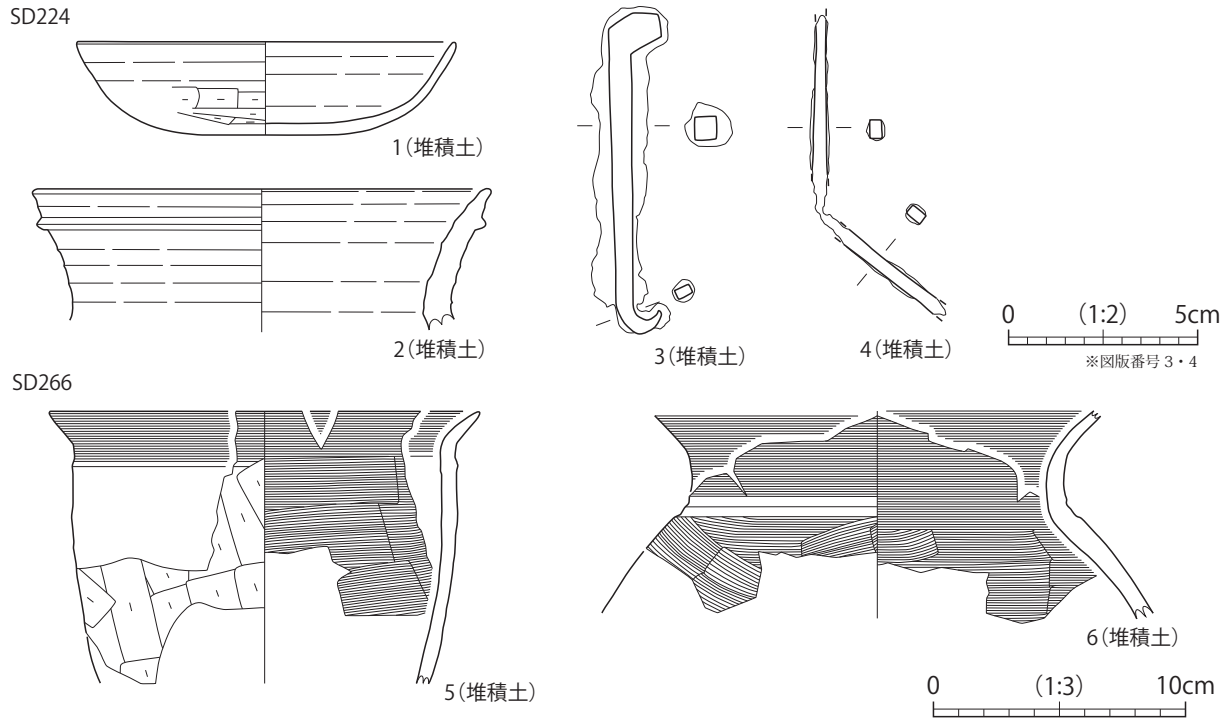
第 202 図　SD182 溝跡出土遺物・SD205 溝跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
1	N-015	第9次	SD205	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(7.0)	0.4	0.5	4.7		121
2	N-016	第9次	SD205	堆積土	金属製品	環状銅製品	0.5	径(1.8)	—	2.7	孔径8㎜、SI265に類似遺物	121
3	N-017	第9次	SD205	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(6.1)	0.7	0.4	16.5		121
4	P-008	第9次	SD205	堆積土	土製品	土錘	(7.7)	径5.3	—	213.3	ナデ、面取り、孔径15㎜	121
5	P-007	第9次	SD205	堆積土	土製品	土錘	5.5	径1.9	—	17.3	ナデ、孔径5㎜	121

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
6	Kc-031	第9次	SD205	堆積土	礫石器	敲石	10.2	9.0	4.9	369.5	凝灰岩	a面敲(弱)+溝状痕→被熱→敲(弱)、上部欠損→被熱	121
7	Kc-030	第9次	SD205	堆積土	礫石器	敲石	12.9	7.6	4.3	526.4	安山岩	a面ケズリ→敲(弱)+溝状痕、b面敲(弱)+線状・溝状痕、c・d面敲(弱)→溝状痕	122
8	Kc-029	第9次	SD205	堆積土	礫石器	敲石	11.3	6.8	4.8	540.0	安山岩	a・d面敲(弱)+溝状痕、b・e面敲(弱)、f面敲(弱)→溝状痕	122

第 203 図　SD205 溝跡出土遺物（2）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-034	第6次	SD224	堆積土	須恵器	坏	(14.9)	9.5	3.7	ロクロ調整、体部下端ヘラケズリ、底面回転ヘラ切り→ナデ	ロクロ調整		122
2	E-035	第6次	SD224	堆積土	須恵器	甕	(18.0)	—	(5.7)	ロクロ調整	ロクロ調整		122
5	C-310	第9次	SD266	堆積土	土師器	甕	(17.0)	—	(10.8)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		122
6	C-311	第9次	SD266	堆積土	土師器	甕	—	—	(8.2)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		122

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
3	N-046	第6次	SD224	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(8.6)	0.9	0.6	24.0	釘か	122
4	N-047	第6次	SD224	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	(7.9)	0.3	0.5	5.9		122

第 204 図　SD224・266 溝跡出土遺物

SD264 溝跡（第 197・199 図）

第 9 次調査区北東端部の 09・10 グリッドに位置する。東西方向の溝跡で、東側は調査区外へと延び、西側端部は 09 グリッド内で止まる。当該期の遺構との重複関係は SI310、SK315、SX29 より新しく、SD205 より古い。

方位は、N － 67 ～ 75° － E を指向する。規模は、検出長 5.34 m、上幅 65 ～ 111cm、下幅 56 ～ 106cm、深さ 10 ～ 16cm を測り、概ね直線的に延びる。断面形状は箱形を呈し、底面の傾斜は認められない。

堆積土は 2 層に分層された。いずれの層も自然堆積とみられる。

遺物は出土しなかった。

本溝跡は、SI310 より新しいことから 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）以降に位置付けられる。また、第 1・2 次調査区内には若干位置はずれるが同一方向の SD8 が検出されており、本溝跡もしくは前述の SD263 が同一の溝跡となる可能性も考えられる。

SD265 溝跡（第 198・199 図）

第 9 次調査区中央部東寄りの 48・49 グリッドに位置する。南北方向の溝跡で、南側は調査区外へと延び、北側端部は SB37 との重複で失われている。当該期の遺構との重複関係は SI323・326 より新しく、SB37 より古い。

方位は、N － 13° － W を指向する。規模は、検出長 5.05 m、上幅 66 ～ 75cm、下幅 47 ～ 67cm、深さ 13 ～ 21cm を測り、概ね直線的に延びる。断面形状は箱形を呈し、底面の傾斜は認められない。

堆積土は 2 層に分層された。いずれの層も自然堆積とみられる。

遺物は堆積土中から土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

本溝跡は 6b 期（8 世紀中葉～末葉）以降の SB37 より古く、4 期（7 世紀中葉～後葉）を上限とする SI323 より新しいことから、その中間に位置付けられる。

SD266 溝跡（第 198・199・204 図）

第 9 次調査区中央部東寄りの 33・37・41・45 グリッドに位置する。南北方向の溝跡で、全体が検出された。当該期の遺構との重複関係は、SI313・314・347 より新しい。

方位は、N － 15° － W を指向する。規模は、検出長 12.32 m、上幅 85 ～ 97cm、下幅 42 ～ 61cm、深さ 30 ～ 47cm を測る。概ね直線的に延びるが、南側端部付近は僅かに南側へと屈曲する。断面形状は逆台形を呈し、底面の傾斜は認められない。底面の中央付近には 30cm 大の扁平礫が 4 点並び、北端部からは円礫や棒状礫が 7 点まとまった状態で出土したが、それぞれの性格については明らかにできなかった。

堆積土は 2 層に分層された。いずれの層も自然堆積とみられる。

遺物は、土師器甕 2 点を掲載した（第 204 図－ 5・6）。5 の甕は口縁部に最大径をもち、胴部は底部に向かってそのまま窄まる器形を呈する。6 の甕は胴部がやや張る器形と思われる。これらはともに、口縁部と胴部との境目に段を有する。

本溝跡は、SI313・314 より新しいことから 2b 期（6 世紀中葉～末葉）以降に位置付けられる。また、本溝跡の西側には SB37・38 が位置し、東側の第 1・2 次調査区内にも SB1・2 が位置している。本溝跡はこれらの掘立柱建物跡と近い方向性を示し、それぞれの関連性が考えられる、

SD273 溝跡（第 197・199 図）

第 9 次調査区中央部の 23・28 グリッドに位置する。南北方向の溝跡で、全体が検出された。当該期の遺構との重複関係は、SI349・352、SD275 より新しい。

方位は、N － 3° － W を指向する。規模は、検出長 5.91 m、上幅 29 ～ 43cm、下幅 13 ～ 32cm、深さ 5 ～ 20cm を測り、概ね直線的に延びる。断面形状は「U」字形を呈し、底面の傾斜は認められない。

堆積土は単層で、分層されない。自然堆積とみられる。

遺物は堆積土中から須恵器破片が僅かに出土したが、図化できるものはなかった。

本溝跡は、SI349 より新しいことから 2b 期（6 世紀中葉～末葉）以降に位置付けられる。

SD274 溝跡（第 197・199 図）

第 9 次調査区北部の 09 グリッドに位置する。東西方向の溝跡である。当該期の遺構との重複関係は、SI310・318、SX34 より古い。このため両側と上部が失われている。

方位は、N － 86° － E を指向する。規模は、検出長 1.83 m、上幅 70 ～ 82cm、下幅 54 ～ 69cm、深さ 13 ～ 18cm を測り、概ね直線的に延びる。断面形状は逆台形を呈し、底面の傾斜は認められない。

堆積土は単層で、分層されない。自然堆積とみられる。

遺物は出土しなかった。

本溝跡は、SI310 より古いことから 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）以前に位置付けられる。ただし後述する SX34 よりも古いことから、SI310 とはやや時期差を有すものと考えられる。

SD275 溝跡（第 197・199 図）

第 9 次調査区中央部の 28 グリッドに位置する。北東－南西方向の溝跡で、ほぼ全体が検出されたが、南側端部は中世～近世の SM397 との重複で失われている。当該期遺構との重複関係は、SD273 より古い。

方位は、N － 29 ～ 72° － E を指向する。規模は、検出長 3.52 m、上幅 46 ～ 52cm、下幅 25 ～ 36cm、深さ 13 ～ 26cm を測り、弓なりに東側へと湾曲して延びる。断面形状は逆台形もしくは「V」字形を呈し、底面の傾斜は認められない。

堆積土は 2 層に分層された。いずれの層も自然堆積とみられる。

遺物は堆積土中から土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

本溝跡については、重複遺構との新旧関係から時期を判断することができず、不明である。

溝跡（古墳時代～古代）観察表

遺構名	グリッド	方向	規模(cm)				層位	土色	土性	備考
			全長	上端幅	下端幅	深さ				
SD6	04・06	N-23°-W	2130	89～93	31～39	33～43	1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量、礫含む。
							2	10YR3/1 黒褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロック(10～20㎜程度)・小礫含む。
							3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
SD7	19・20 24・25 28・29 32・36	N-25～ 53°-E	2470	72～ 139	34～ 109	15～51	1a	10YR3/2 黒褐色	微砂	灰白色火山灰多量含む。
							1b	10YR8/1 灰白色	シルト	灰白色火山灰集中層。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・白色土粒・黒色土粒微量含む。
							3a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
							3b	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	Ⅳ層土ブロック(10～50㎜程度)多量、黒色土粒微量含む。
SD180	01・03 05・07	N-2°-W	1586	69～ 148	38～74	16～46	1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	にぶい黄橙色シルトブロック(5～10㎜程度)含む。
							1b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)少量含む。
							2a	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	褐灰色・黒褐色シルト(斑状)少量含む。
							2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)多量含む。
							2c	10YR8/1 灰白色	シルト	灰白色火山灰集中層。
							3a	10YR6/3 にぶい黄橙色	細砂	黒褐色シルトブロック(5～20㎜程度)微量含む。
							3b	10YR4/1 褐灰色	粗砂	黒褐色シルトブロック(10㎜程度)少量、炭化物粒微量含む。
							3c	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、黒色土粒微量含む。
							3d	10YR3/4 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、黒色土粒・焼土粒微量含む。
							4a	10YR5/2 灰黄褐色	粗砂	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)微量含む。
							4b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、黒色土ブロック(10㎜程度)少量含む。
SD181	06	N-62°-E	282	28～39	14～20	11～28	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)・焼土微量含む。
							2	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)少量含む。
							3	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10㎜程度)微量含む。
SD182	23(5次) 01・03 20・23 (6次)	N-44～ 66°-E	1816	84～ 117	27～60	24～48	1a	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	酸化鉄少量、Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)微量含む。
							1b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	黄白色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。植生痕多数入る。
							2a	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)少量、酸化鉄微量含む。
							2b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黄白色シルトブロック(5～10㎜程度)含み、炭化物粒少量含む。
							3a	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	黒褐色シルトブロック(10～20㎜程度)微量含む。一部グライ化。
							3b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黄白色シルトブロック(5～20㎜程度)・炭化物粒少量含む。
							4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	黄白色シルトブロック(5～30㎜程度)含み、炭化物粒少量含む。
SD189	05	N-49°-W	295	29～32	17～26	7～17	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。
SD191	05・20 23	N-46～ 89°-W	東辺 620 南辺 172	49～73	33～56	11～28	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	褐色シルト(斑状)含み、白色粒少量、炭化物粒微量含む。
							2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰色シルト(斑状)・細砂含み、酸化鉄少量含む。
							3	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	細砂多量、黄白色シルト(斑状)・酸化鉄少量含む。
SD193	03・05	N-15°-E	285	37～44	22～31	11～14	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物微量含む。
							2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	灰褐色シルト(斑状)含む。
							3	10YR2/1 黒色	シルト	暗褐色シルト(斑状)含む。
SD205	05・07 23・23b (6次) 05・09 10・15 (9次)	N-40°-W	1771	56～ 132	33～65	33～53	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	炭化物粒多量、焼土粒少量含む。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒・黒色シルト粒微量含む。
							3	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
							4a	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
							4b	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
							5	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。※全層で10cm前後の礫含む。
SD224	07	N-52°-W	407	46～70	25～41	38～45	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(10～30㎜程度)多量、酸化鉄少量含む。
							2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
							3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SD263	09・10 14・15	N-43～ 66°-E	753	72～ 101	54～77	8～19	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。
SD264	09・10	N-67～ 75°-W	534	65～ 111	56～ 106	10～16	1	10YR4/4 褐色	微砂	Ⅳ層土粒微量含む。
							2	10YR5/4 にぶい黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒密、黒色土粒・炭化物粒微量含む。
SD265	48・49	N-13°-W	505	66～75	47～67	13～21	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。
							2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、灰色土粒多量含む。
SD266	33・37 41・45	N-15°-W	1232	85～97	42～61	30～47	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
							2	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
SD273	23・28	N-3°-W	591	29～43	13～32	5～20	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色土(斑状)含む。
SD274	09	N-86°-E	183	70～82	54～69	13～18	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。
SD275	28	N-29～ 72°-E	352	46～52	25～36	13～26	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒含む。
							2	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	黒褐色土粒少量含む。

(5) 土坑（第 205・206 図）

古墳時代～古代の土坑は、22 基が検出された。時代の比定については、竪穴住居跡や溝跡などとの新旧関係や、堆積土の特徴が指標となっている。

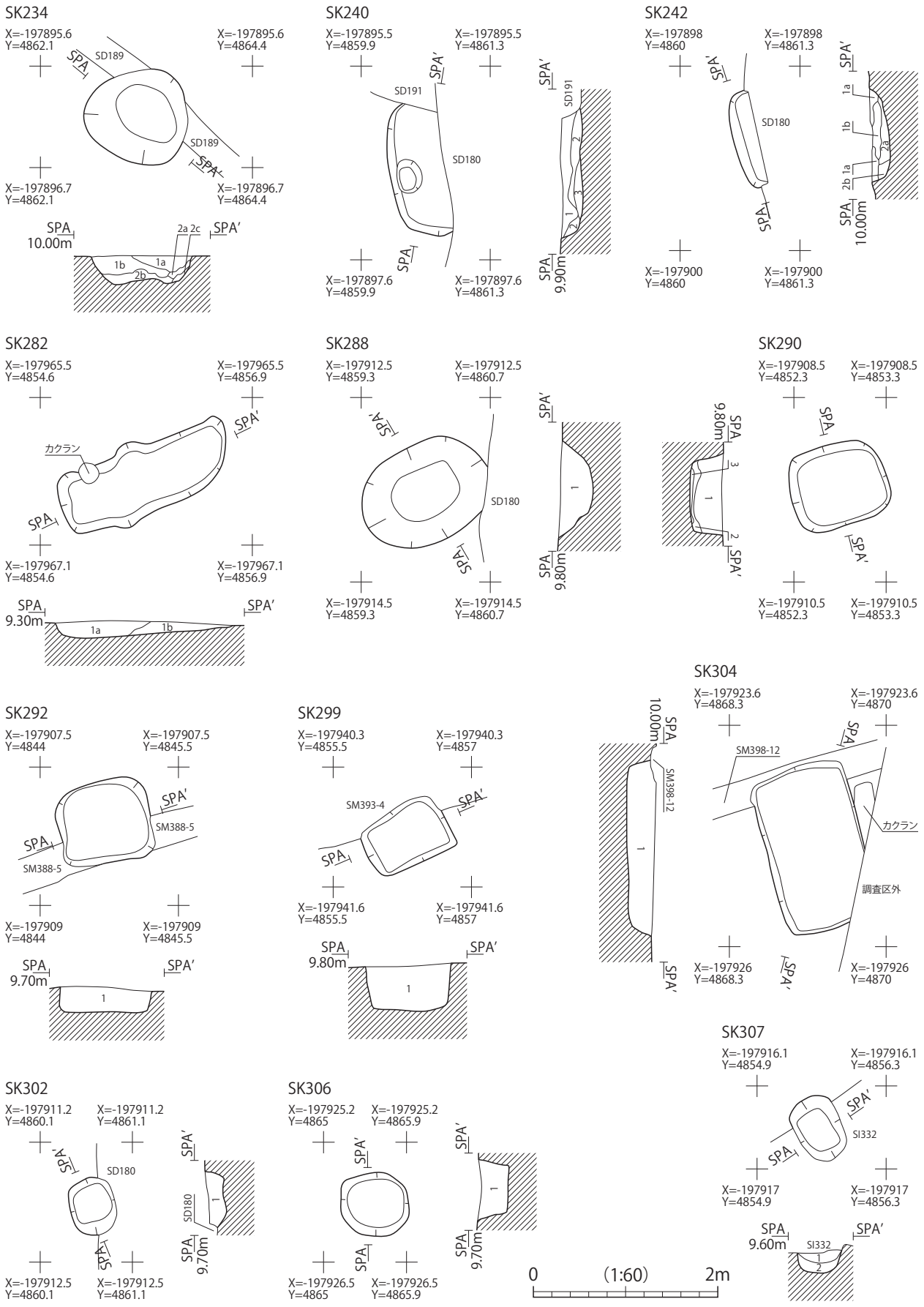
当該期の土坑の分布をみると、特定の集中域は認められずに高位面のほぼ全域に点在している。重複関係では竪穴住居跡群に対して新・旧の両者が認められ、5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）の SI320 堆積土を掘り込む SK290 や、2 期（6 世紀中頃）の SI353 に壊される SK321 など、これらの土坑どうしにはある程度の時間幅が存在すると考えられる。形状や規模も様々で、機能はいくつかの土坑で異なると思われるが、全体の 2/3 に相当する 14 基が人為的に埋め戻されてるという特徴が認められる（SK234・240・242・282・290・292・299・302・304・306・311・312・320・323）。これらには竪穴住居跡群より新しい土坑が半数を占め、確実に竪穴住居群より古い土坑は 2 基（SK312・320）に限定されることから、集落廃絶後に掘削された一連の土坑であると考えられる。

遺物は SK228・315・318・319・323 を除く 16 基から出土した。土師器破片が主体である。SK288・290・292・299・304・312 からは須恵器破片も少量出土したが、いずれも図化できる遺物はなかった。

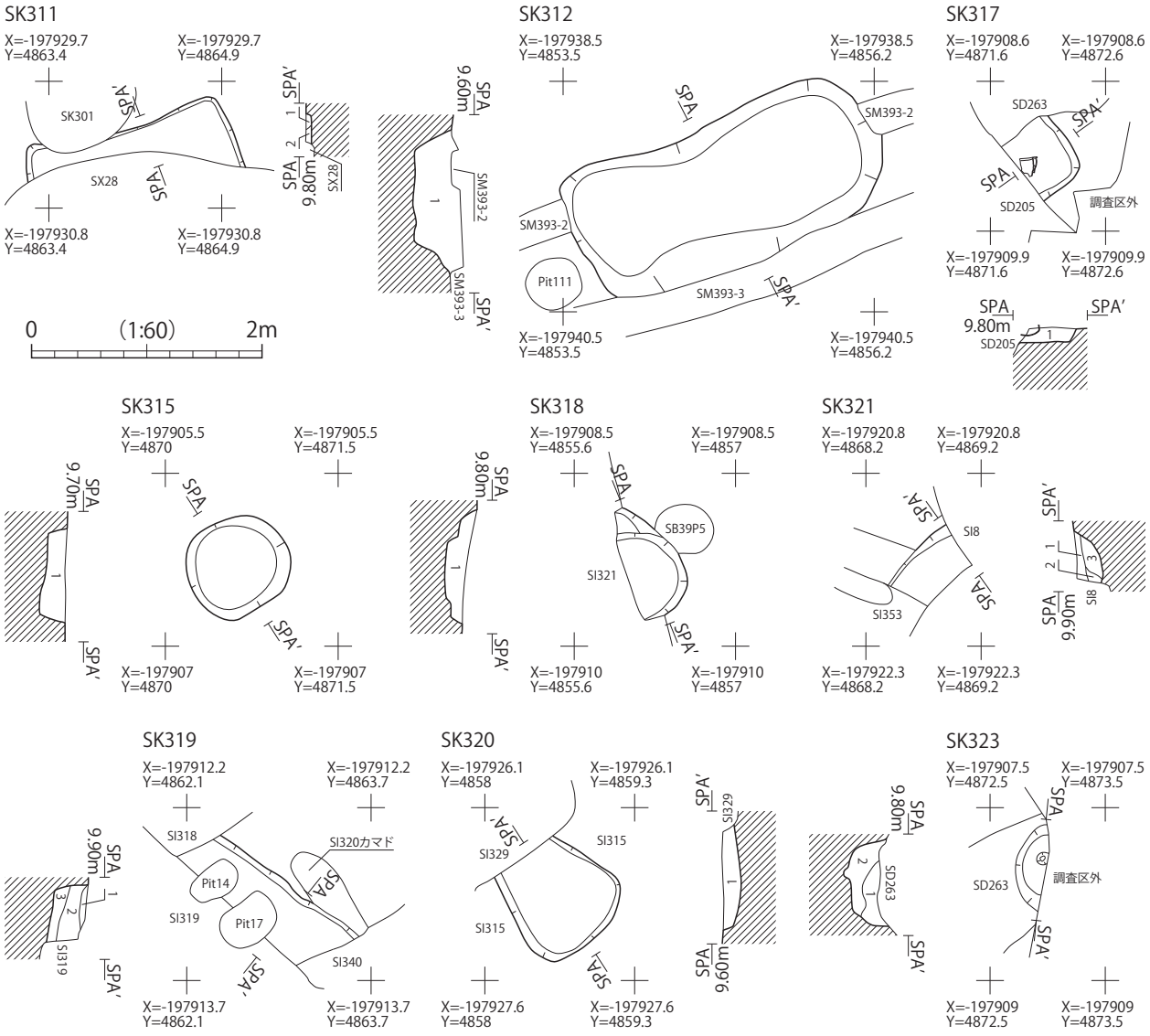
各土坑の詳細については、観察表を参照されたい。

土坑（古墳時代～古代）観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK228	22	楕円形	(120)×(95)	12	-	-	-	断面図なし。	SI268より古い。
SK234	05	不整円形	113×104	34	1a	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土(斑状)多量含む。	SD189より古く、SI283・284より新しい。
					1b	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土(斑状)含む。一部グライ化。	
					2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルト(斑状)含む。	
					2b	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒色シルトブロック(5㎜程度)少量含む。	
					2c	10YR2/3 黒褐色	シルト	暗褐色シルト(斑状)含む。	
SK240	05	方形?	(149)×(59)	38	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)含み、炭化物粒少量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)含み、細砂多量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)含み、細砂多量含む。	
SK242	05	隅丸長方形?	105×(26)	25	1a	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒微量含む。	
					1b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)含み、炭化物粒少量含む。	
					2a	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)含み、炭化物粒少量含む。	
					2b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰色シルト(斑状)含む。	
SK282	58	不整方形	193×72	19	1a	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
					1b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
SK288	13・14	楕円形	145×106	35	1	10YR4/1 褐灰色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・黒色シルト粒微量含む。	SI319、SD180より新しい。
SK290	08	隅丸方形	106×89	34	1	10YR2/1 黒色	微砂	黒色シルトブロック(10～20㎜程度)密、Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)少量含む。	SI321より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)少量含む。	
					3	N6/0 灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
SK292	07	隅丸方形	100×89	29	1	10YR3/1 黒褐色	微砂	黒色シルト・Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)密に含む。	SI324より新しい。
SK299	40	方形	92×65	48	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～50㎜程度)・黒色シルトブロック(5～20㎜程度)多量含む。	SI312より新しい。
SK302	14	方形	68×66	19	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。	SD180より古く、SI318・319より新しい。
SK304	24・29	方形	179×104	39	1	10YR2/1 黒色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・Ⅳ層土斑状に多量含む。	SI8・333より新しい。
SK306	29	不整円形	73×69	28	1	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)多量、黒色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。	SI333・348・353より新しい。
SK307	18	方形	70×53	22	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。	SI332より古く、SI344、Pit89より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
SK311	29・33	方形	178×(52)	5	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土粒多量含む。	SX28より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)・Ⅳ層土粒多量含む。	
SK312	36・40	隅丸方形	272×145	41	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・黒褐色シルトブロック(5㎜程度)多量含む。	SI312より古い。
SK315	10	不整円形	89×82	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒微量含む。	SX29より新しい。
SK317	10	方形	(61)×(48)	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルト粒微量含む。	SD205・263より古い。
SK318	08	楕円形?	(92)×(43)	18	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒少量含む。	SI321、SB39より古い。
SK319	14	不明	(148)×(48)	29	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒多量含む。	SI318～320・340より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	
SK320	28	不整形	(91)×83	15	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～30㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。	SI315・329より古く、SI343より新しい。
SK321	24	不明	(62)×－	22	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、白色粒・炭化物粒微量含む。	SI8・353より古く、Pit224より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒少量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色シルトブロック(5㎜程度)少量含む。	
SK323	10	円形?	(76)×(26)	[31]	1	10YR7/2 にぶい黄橙色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。	SD263より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒密、炭化物粒多量含む。	



第 205 図　土坑（古墳時代～古代）（1）



第 206 図　土坑（古墳時代～古代）（2）

(6) ピット（第 207 図）

第 6 次調査で 4 基、第 9 次調査で 50 基が検出された。当該期の土坑同様、その時代比定は竪穴住居跡や溝跡などとの新旧関係を主な指標とした。また中世～近世のピットと同じく、番号は調査次ごとに Pit1 から付した。

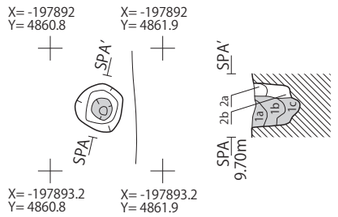
これらのピットは大半が径 20 ～ 50cm 内外の規模で、平面形状は円形基調がほとんどである。柱痕跡が確認されたピットは僅かで、第 6 次調査区の Pit47、第 9 次調査区の Pit14・139・229・151 の 5 基のみである。しかし第 6 次調査区の Pit48、第 9 次調査区の Pit53・56・217・218・224・237 のように、底面に柱材の圧痕とみられる窪みが認められるピットも少数存在し、Pit224 では 3 箇所の窪みが確認されている。なお、Pit151 は長軸が 80cm を超える平面長方形の掘り方をもち、柱痕跡も径 36cm を測るしっかりとしたものであった。

遺物は、大半のピットから土師器・須恵器破片などが少量出土したが、図化できたのは Pit191 の礫石器 1 点だけである（第 207 図－ 1）。敲石で、各面には深い溝状痕やケズリの痕跡が認められる。

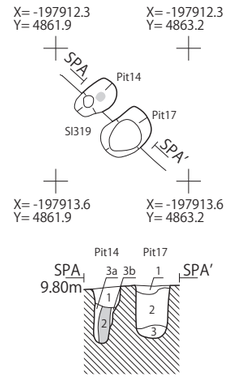
これらのピットの詳細な時期は不明である。また、当該期のピットは本書で中世～近世としたピットにも混在する可能性が考えられるが、確実なのはここに掲載した 54 基だけである。

各ピットの詳細については、観察表を参照されたい。

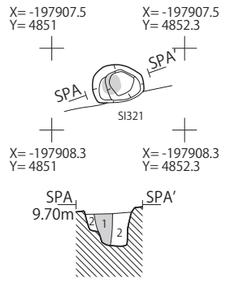
第6次調査
Pit47



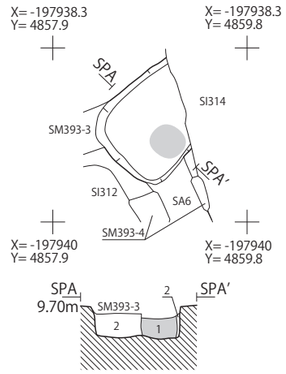
第9次調査
Pit14・Pit17

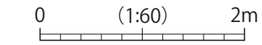


Pit139

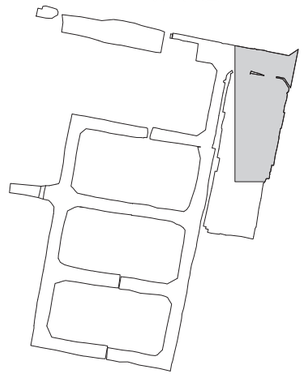


Pit151

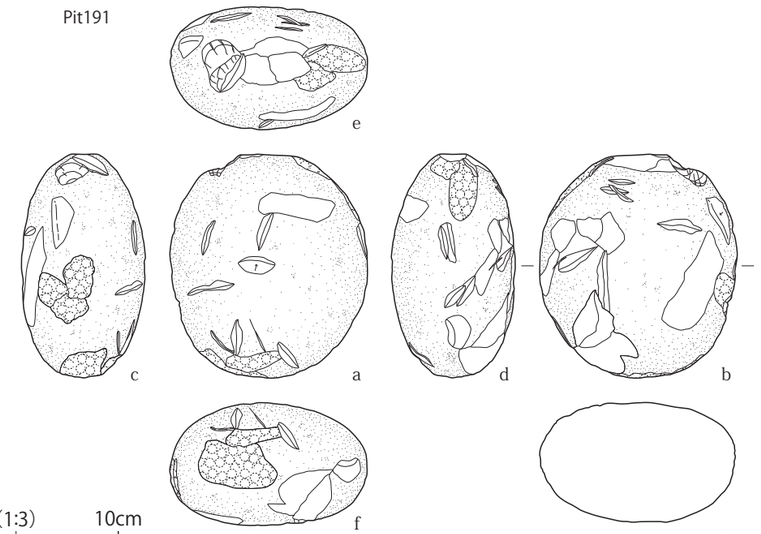




掲載範囲

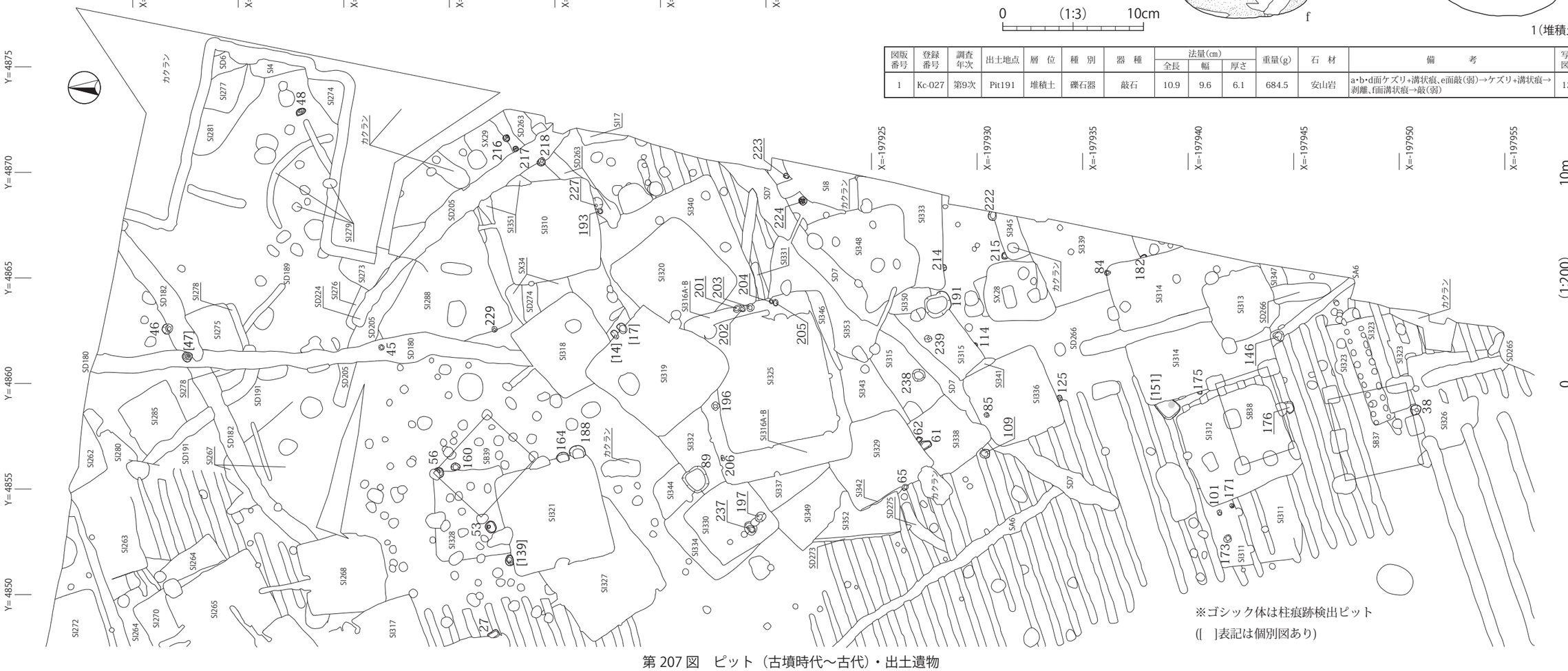


Pit191



1（堆積土）

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
1	Kc-027	第9次	Pit191	堆積土	礫石器	敲石	10.9	9.6	6.1	684.5	安山岩	a・b・d面ケズリ+溝状痕、e面敲(弱)→ケズリ+溝状痕→剥離、f面溝状痕→敲(弱)	122



※ゴシック体は柱痕跡検出ピット
([ ]表記は個別図あり)

第 207 図　ピット（古墳時代～古代）・出土遺物

第6次調査 ピット（古墳時代～古代） 観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit45	07	円形	26×25	26	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）・酸化鉄少量含む。	SD180より古い。
Pit46	03	円形	51×47	61	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）少量含む。	SD182より古い。
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）微量、白色粒少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色シルトブロック（10～20㎜程度）少量含む。	
Pit47	03	円形	46×44	51	1a	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物粒微量、酸化鉄少量含む。※柱痕跡	SD180より古い。
					1b	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	黄白色シルトブロック（10㎜程度）少量含む。※柱痕跡	
					1c	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）少量含む。※柱痕跡	
					2a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック（10～20㎜程度）少量含む。	
					2b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）・炭化物粒少量含む。	
Pit48	06	楕円形	48×29	53	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）少量、炭化物粒微量含む。	SI287より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック（5～10㎜程度）含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック（5～10㎜程度）微量含む。	
					4	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）微量含む。	

第9次調査 ピット（古墳時代～古代） 観察表（1）

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
Pit14	14	楕円形	（44）×28	54	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。	SI319より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）少量含む。※柱痕跡	
					3a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					3b	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	
Pit17	14	楕円形	52×37	51	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	SI319より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	
Pit27	07	楕円形	48×32	14	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。	SI322より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量含む。	
Pit38	48	楕円形	49×45	46	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SB37より古く、SI326より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	
					3	2.5YR5/2 灰赤色	細砂	Ⅳ層土が主体。黒色シルト粒少量含む。	
Pit53	08	円形	55×47	31	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒微量含む。	SI321より古く、SI328より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土（斑状）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）少量含む。	
Pit56	04	円形	47×（25）	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）多量含む。	SB39より古く、SI328より新しい。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック主体。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土（斑状）多量含む。	
Pit61	28	楕円形	（38）×39	13	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	SI329より古く、SI338より新しい。
Pit62	28	楕円形	25×（15）	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	SI329より古く、SI338より新しい。
Pit65	28	楕円形	32×25	34	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	白色粒少量含む。	SI329より古く、SI342より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒含む。	
Pit67	28	楕円形	45×（30）	16	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5㎜程度）・Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。	SI338より新しく、SD7より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色シルト粒少量含む。	
Pit84	37	楕円形	28×25	20	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI314より古く、SI339より新しい。
Pit85	32	楕円形	24×22	20	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	SD7より古く、SI338より新しい。
Pit89	18	方形	114×108	24	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質シルト	下面に酸化鉄が付着。	SI332・334、SK307より古い。
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
Pit101	40	楕円形	26×20	33	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルト微量含む。	SI311より古い。
Pit114	29・33	不明	（21）×（7）	24	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）多量含む。	SI315より古い。
Pit125	32	楕円形	29×20	16	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。	SI336より古い。
Pit139	08	楕円形	50×37	36	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。※柱痕跡	SI321より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit146	41	楕円形	49×47	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。	SA6より古い。
Pit151	36	方形	（82）×88	23	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。※柱痕跡	SI312・314、SA6より古い。
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit160	08	楕円形	43×34	18	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒多量含む。	SI328より古い。
Pit164	13	楕円形	63×（42）	21	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。	SI321より古い。
Pit171	40	円形	22×20	17	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	SI311より古い。
Pit172	40	楕円形	34×30	19	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒含む。	SI311より古い。
Pit173	40	楕円形	38×36	20	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10㎜程度）含む。	SI311より古い。
Pit175	40	不明	（24）×（12）	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SI311・314、SA6より古い。
Pit176	40・44	隅丸方形	55×（34）	34	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	SB38より古い。
Pit182	37	不明	（27）×（11）	8	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20㎜程度）多量含む。	SI314・339より古い。
Pit188	13	楕円形	72×（60）	21	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒少量含む。	SI321より古い。
Pit191	29	楕円形	139×109	42	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SI315より古く、SI350より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit193	14	円形	27×26	17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルト粒少量含む。	SD263より古く、Pit227より新しい。
Pit196	18	方形	35×34	36	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（20㎜程度）多量含む。	SI316より古い。
Pit197	18・23	楕円形	52×44	45	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20㎜程度）多量含む。	SI330より古い。
Pit201	19	楕円形	42×28	21	—	—	—	註記なし。	SI316より古く、SI340より新しい。
Pit202	19	楕円形	（25）×26	16	—	—	—	註記なし。	SI316より古く、SI340より新しい。

第 9 次調査 ピット（古墳時代～古代）観察表（2）

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
Pit203	19	楕円形	36×34	34	—	—	—	註記なし。	SI316より古く、SI340より新しい。
Pit204	24	楕円形	21×17	15	—	—	—	註記なし。	SI316より古い。
Pit205	24	楕円形	31×23	17	—	—	—	註記なし。	SI316より古い。
Pit206	18	楕円形	27×15	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SI316より古い。
Pit214	29	不明	29×(14)	30	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	黒色シルトブロック(5～10㎜程度)少量含む。	SI333より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit215	33	楕円形	32×(24)	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。	SI345より古い。
					2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・Ⅳ層土粒多量含む。	
Pit217	10	円形	(26)×24	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	黒褐色シルト粒微量含む。	SD205より古い。
Pit218	10	楕円形	(40)×(35)	21	—	—	—	註記なし。	SD205・263より古い。
Pit222	33	楕円形	(39)×(37)	24	1	10YR4/2 灰黄褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。	SI345より古い。
Pit223	24	楕円形	26×22	31	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量含む。	SI8より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	黒色シルトブロック(5㎜程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit224	24	円形	37×36	27	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)少量含む。	SI8・353、SK321より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色シルト粒微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
Pit227	14	円形	(54)×(40)	27	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20㎜程度)・炭化物粒少量含む。	SI310、SD263、Pit193より古い。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量、炭化物粒粒微量含む。砂質強い。	
Pit229	09	楕円形	28×25	28	1a	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	白色粘土ブロック(5㎜程度)少量含む。※柱痕跡	SI288より古い。
					1b	10YR6/1 褐灰色	シルト	白色粘土ブロック(5～20㎜程度)多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	白色粘土ブロック(5～10㎜程度)・炭化物粒粒多量含む。	
Pit237	18	楕円形	66×(55)	35	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。	SI330より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。	
Pit238	29	円形	59×59	38	1	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)多量、炭化物粒少量含む。	SI315より古い。
					2	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10㎜程度)・炭化物粒少量含む。	
					3	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック(10～20㎜程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					4	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土(斑状)少量含む。	
Pit239	29	円形	33×33	13	1	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土(ラミナ状)多量含む。	SI315より古い。
					2	2.5Y5/2 暗灰黄色	細砂	Ⅳ層土(ラミナ状)少量含む。	

(7) 性格不明遺構

第 9 次調査で 4 基が検出された。それぞれ形態は竪穴遺構・土坑・溝跡に近いが、典型的な遺構形態とは言い難く、性格不明遺構に分類した。遺物は SX28・33 から土師器・礫石器が少量出土したのみで、SX29・34 からは出土していない。このため、詳細な時期は明らかにできなかった。

SX28 性格不明遺構（第 208 図）

第 9 次調査区東部の 33 グリッドに位置する。当該期の遺構との重複関係は、SI339、SK311 より新しい。

浅い竪穴状の遺構である。平面形状は西側に広がる隅丸の台形状を呈するが、各壁のラインは歪みが著しい。規模は、南北 309cm、東西 281cm、深さ 9cm を測る。底面は概ね平坦だが、東側部分が 6cm 程下がる。

堆積土は単層で、分層されない。基本層Ⅳ層土の混入状況から、人為的に埋め戻された可能性が考えられる。

遺物は、礫石器 1 点を掲載した（第 208 図）。そのほか、堆積土中から土師器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。第 208 図－ 1 は敲石で、a ～ e 面の各面には敲打痕が認められる。

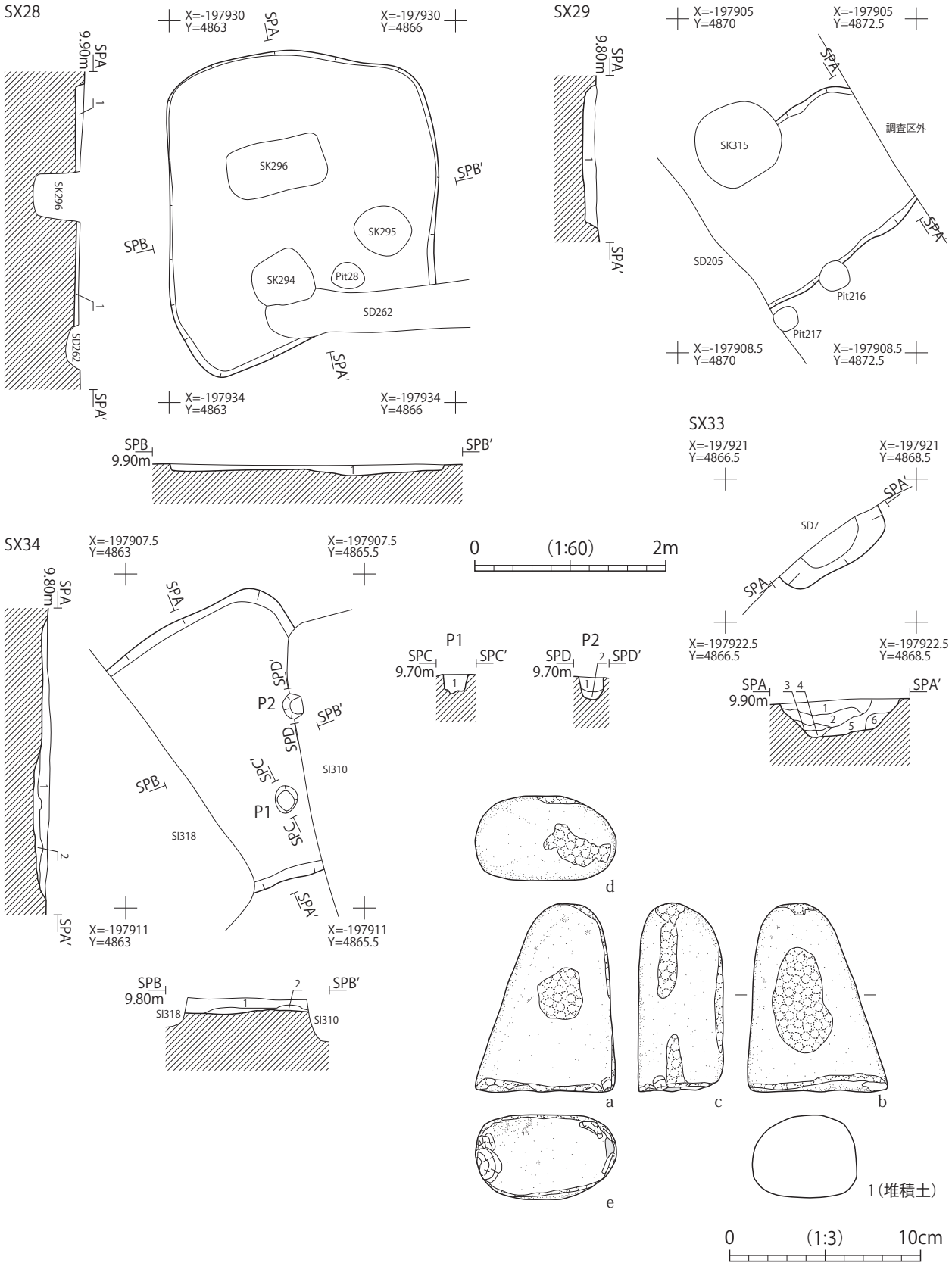
本性格不明遺構の時期は、SI339 より新しいことから 2a 期（6 世紀初頭～前葉）以降に位置付けられる。

SX29 性格不明遺構（第 208 図）

第 9 次調査区北東端部の 10 グリッドに位置する。当該期の遺構との重複関係は、SD205・264、SK315、Pit216 より古い。

浅く掘り込まれ、概ね東西方向に長軸を置く。東側は調査区外に延びる。西側は SD205 との重複により失われ、平面形状は不明である。規模は、南北 161cm、東西 201cm、深さ 13cm を測る。底面は概ね平坦である。

堆積土は単層で、分層されなかった。基本層Ⅳ層土が主体であると思われ、本性格不明遺構は人為的に埋め戻された可能性が考えられる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
1	Kc-072	第9次	SX28	堆積土	礫石器	敲石	9.8	7.5	4.4	482.2	安山岩	a～d面敲(弱)、e面外周磨(強)+敲(弱)→剥離	122

第 208 図　性格不明遺構（古墳時代～古代）・SX28 出土遺物

性格不明遺構（古墳時代～古代）観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SX28	33	不整方形	309×281	9	1	10YR3/2 黒褐色	微砂	Ⅳ層土粒多量､炭化物･焼土粒微量含む。	SI339､SK311より新しい。
SX29	10	不明	201×161	13	1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黒褐色土粒多量､炭化物微量含む。	SK315､SD205･264､Pit216より古い。
SX33	24	隅丸方形	122×37	37	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量､炭化物微量含む。	SD7より古く、SI348･353より新しい。
					2	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体｡褐色土(斑状)含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10㎜程度)･Ⅳ層土粒微量含む。	
					4	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量､黒色土粒微量含む。	
					5	10YR3/3 暗褐色	微砂	Ⅳ層土粒少量､黒色土粒微量含む。	
					6	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土主体｡黒色土ブロック(5㎜程度)少量含む。	
SX34	09･14	隅丸方形	299×(183)	16	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量､炭化物微量含む。	SI310･318より古く、SD274より新しい。
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色土粒少量含む。	
	P1	円形	30×24	20	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
	P2	円形?	28×21	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色土粒少量含む。	

遺物は出土しなかった。

本性格不明遺構の時期は、不明である。

SX33 性格不明遺構（第 208 図）

第 9 次調査区北東部の 24 グリッドに位置する。当該期の遺構との重複関係は SI348・353 より新しく、SD7 より古い。

しっかりとした掘り込みをもつ、土坑状の遺構である。北半部分は SD7 との重複により失われているが、隅丸の方形を基調とした平面形状と推定される。規模は、南北 37cm、東西 122cm、深さ 37cm を測る。断面形状は逆台形を呈する。

堆積土は 6 層に分層された。基本層Ⅳ層土の混入状況から、人為的に埋め戻されたと考えられる。特に上層部分は、基本層Ⅳ層土を主体に埋土されている。

遺物は埋土中から土師器破片が僅かに出土したが、図化できるものはなかった。

本性格不明遺構の時期は、SI348 より新しいことから 2b 期（6 世紀中葉～末葉）以降に位置付けられる。形態としては土坑として扱うべきだが、他の土坑と埋土状況が異なることから、性格不明遺構とした。

SX34 性格不明遺構（第 208 図）

第 9 次調査区北東部の 09・14 グリッドに位置する。当該期の遺構との重複関係は SD274 より新しく、SI310・318 より古い。このため東壁と西半部分が失われている。

浅い竪穴状の遺構である。平面形状は方形基調と思われるが、残存する南壁と北壁の方向性の不一致から、SX28 に類似した台形状の平面であったと推定される。規模は、南北 299cm、東西 183cm、深さ 16cm を測る。底面は概ね平坦だが、南側が 8cm 程下がる。底面には小規模なピットが 2 基掘り込まれ、柱穴の可能性もあるが、柱痕跡などは確認されなかった。

堆積土は 2 層に分層された。いずれの層も自然堆積とみられる。

遺物は出土しなかった。

本性格不明遺構の時期は、SI318 より古いことから 5 期（7 世紀末葉～ 8 世紀初頭）以前に位置付けられる。既述の通り SX28 と形態がよく似ており、同様の機能を持った遺構であると考えられる。

(8) 河川跡・低位面トレンチ（第 209 ～ 211 図）

第 5･6･8 次調査では、遺構検出面（基本層Ⅳ層）を浸食するかたちで延びる、河川跡が検出された。第 4 章「基本層序」でも述べたが、本書報告範囲ではこの河川跡を境界として東側が高位面、西側が低位面という極端な地形の変化が認められる。このことから河川跡について、形成過程や時期を把握するためのトレンチ調査を実施することとした。トレンチは、第 5 次調査で 3 箇所、第 6 次調査で 1 箇所、第 8 次調査で 1 箇所を設定した。

また各次調査では、遺構調査終了後に遺構検出面下の状況を把握するためのトレンチ調査を実施した。特に第 7 次調査区ではこの調査により、遺構検出面直下に河川堆積物が広い範囲で堆積していることが確認された。

以下、これらのトレンチ調査の成果について、河川跡および低位面の状況について報告する。各トレンチ名称は、調査時のそれに従った。なお、高位面のトレンチ調査については弥生時代の遺物包含層との関係上、第 2 分冊第 5 章第 3 節「弥生時代の遺構と遺物」で報告する。

河川跡トレンチ

第 5 次調査の「A ～ C トレンチ」、第 6 次調査の「トレンチ 1」、第 8 次調査の「河川跡トレンチ」が該当する。河川跡は検出長約 115 m、幅 23 ～ 25 m前後を測り、北西～南東方向に延びている。A トレンチでは東岸部分、トレンチ C およびトレンチ 1 では西岸部分それぞれの立ち上がりが検出された。川底までの深さは 0.9 ～ 1.3 m 前後を測り、底面は南東方向へと緩やかに傾斜している。堆積土は、粘土および粘土質シルトが主体である。

遺物は器種不明土製品 1 点、金属製品 1 点を掲載した（第 211 図－ 1・2）。第 211 図－ 1 は厚みをもち、表裏面の 2 次被熱や胎土中に植物片の混入が認められることなどから、「焼台」の可能性が考えられる。2 は鉄鍋の耳部破片で、上部には貫通孔が 1 箇所穿たれている。これらはともに河川跡の平面精査時に出土している。そのほか土師器・須恵器破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

この河川跡の直下には、さらに古い段階の河川跡が認められた。1 m程の厚さで黒色系・灰色系のシルトが縞状に互層を成し、その直下には砂層が認められた。また、シルト互層の下位には灰白色火山灰が薄く堆積しており、分析の結果、十和田 a テフラ（To-a･推定 915 年降下）の可能性が指摘されている（第 6 章「自然科学分析」参照）。このことから河川跡は古代以前の段階から存在し、変流による湿地化が繰り返されていたと考えられる。

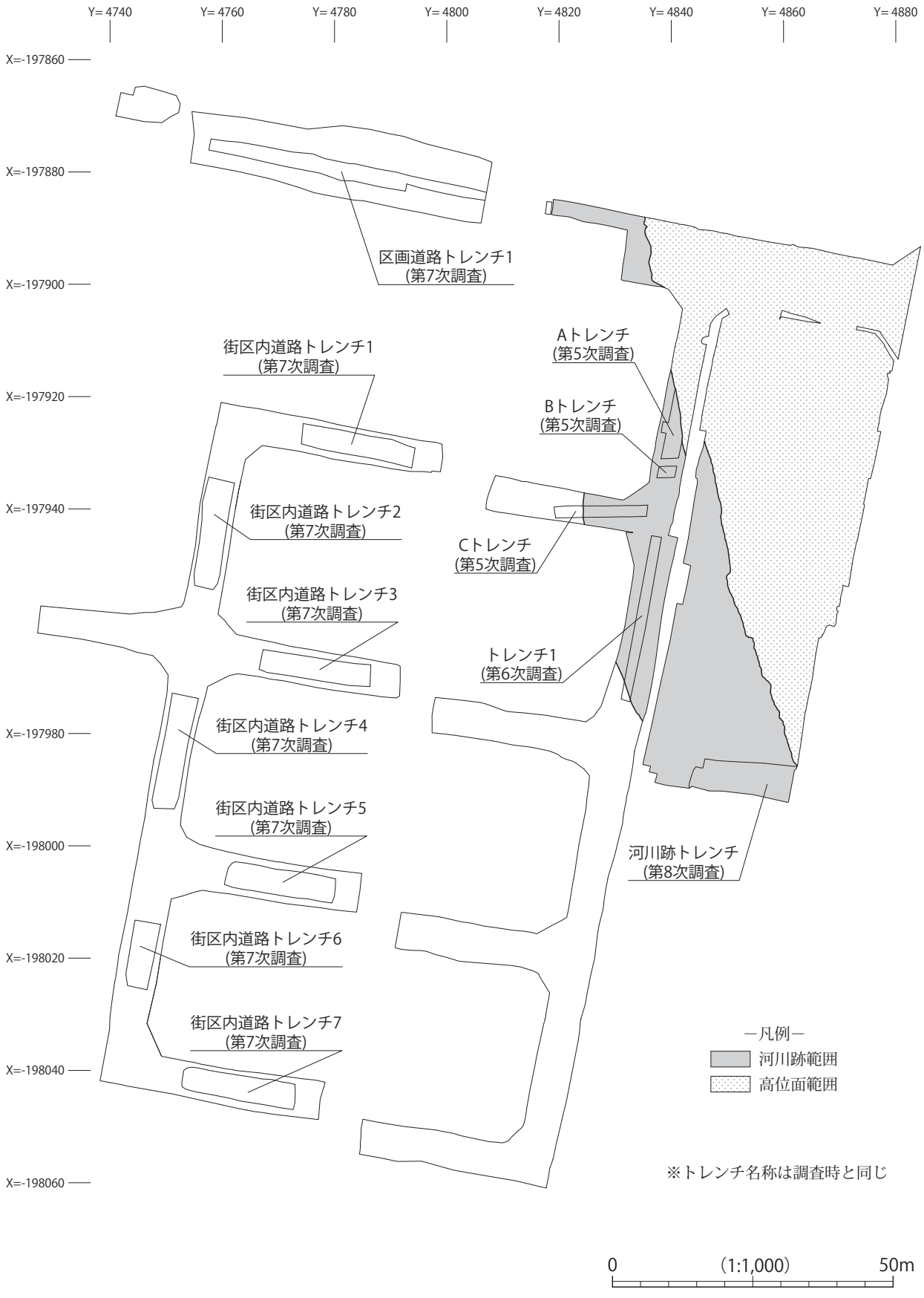
第 7 次調査トレンチ

北側の「区画道路部分トレンチ 1」については第 4 章「基本層序」で取り上げたため、ここでは南側の「街区内道路部分」の各トレンチについて触れる。

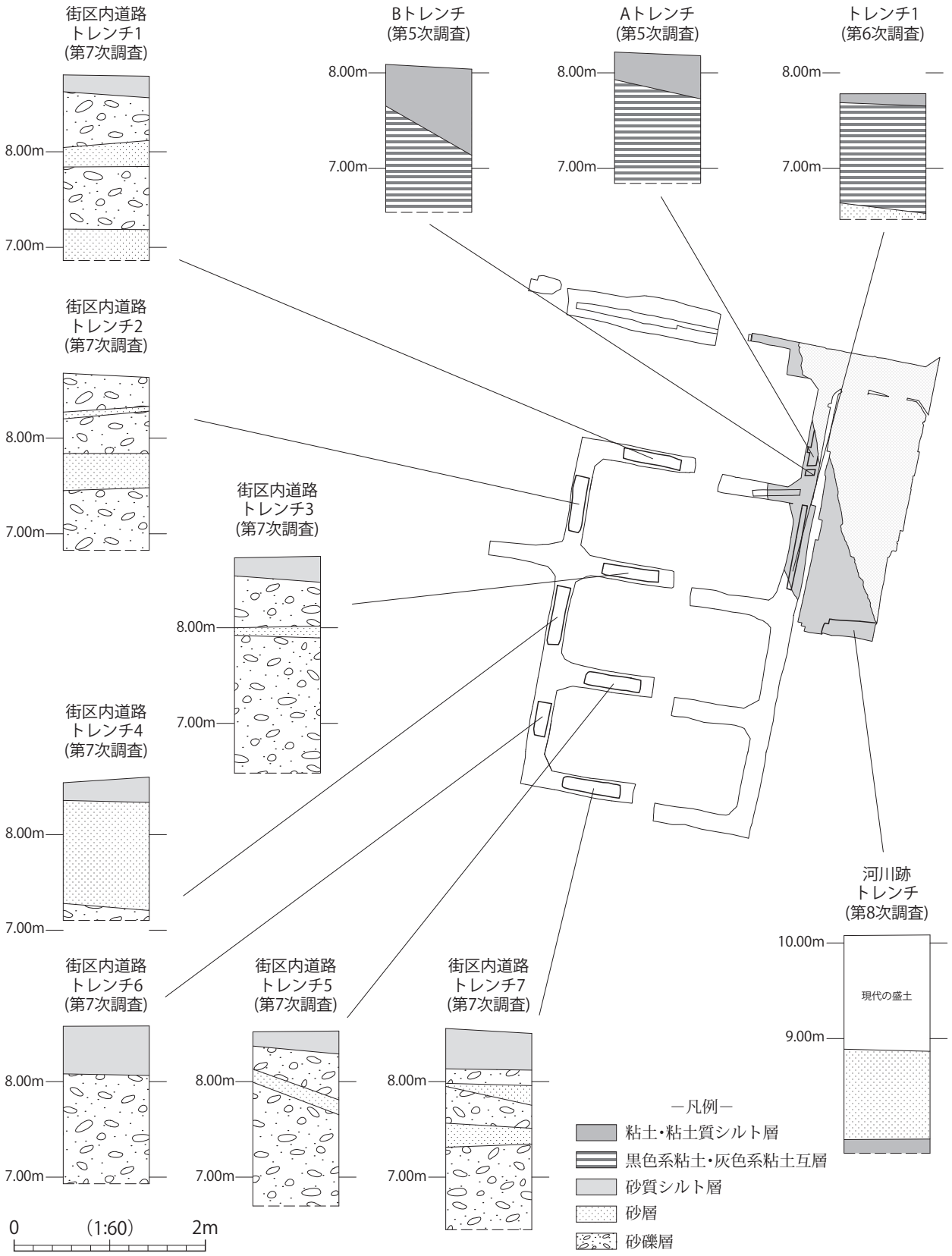
トレンチは、1 ～ 6 の 6 箇所を設定した。全体を 1 m前後の深さで掘削し、さらに中央部分を 80cm 前後掘り下げた。トレンチ 1 ～ 3・5 ～ 7 では基本層Ⅳ層直下が砂礫層となっており、特にトレンチ 2 では部分的にこの砂礫層がⅣ層上面にまで露呈しているのが認められた。トレンチ 4 では、Ⅳ層と砂礫層の間に厚い砂層が認められた。

また、図化には至らなかったが、トレンチ 3 とトレンチ 5 の西側で深さ 4 m程の深掘りを実施した（トレンチ 8･9）。北側のトレンチ 8 では砂礫層が 1.5 m程の厚さで堆積しており、その直下から暗灰色・灰色の粘土・粘土質シルト層が検出された。下部の確認はできなかったが、厚さは少なくとも 2 mを超える層である。トレンチ 9 では確認されておらず、厚さ 3 m以上の砂礫層となっていた。

遺物は木製品 1 点を掲載した（第 211 図－ 3）。器種は皿であり、1/2 程が残存する。内面の口縁部～体部には黒漆、底部には赤漆を塗布している。外面は全体が黒漆である。区画道路部分のトレンチ 1 から出土したものであるが、表土直下からの出土であるため、本来の帰属層位は判然としない。また、同じ層位から木片 1 点、曲物 1 点が出土したが、腐食のため図化できなかった。街区内道路部分のトレンチ 1 ～ 7 からは、遺物は出土しなかった。

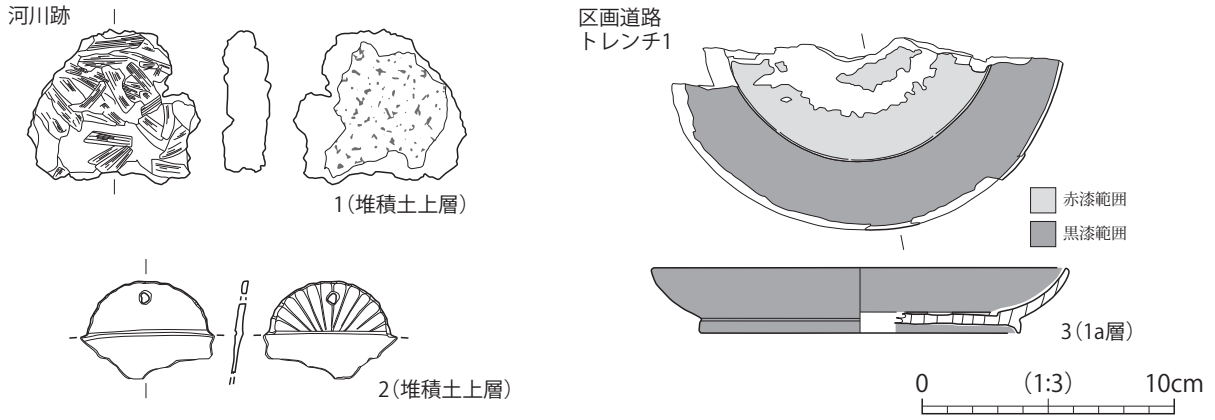


第 209 図　河川跡・低位面トレンチ配置図



※C トレンチ (第 5 次) および区画道路トレンチ 1(第 7 次) のセクションは、基本土層との対比のため第 5・7 図に掲載した。

第 210 図　河川跡・低位面トレンチ層序柱状模式図



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
1	P-005	第5次	河川跡	堆積土上層	土製品	焼台か	(61.5)	(6.3)	1.9	61.2	植物片混入、融解物付着	122
2	N-007	第5次	河川跡	堆積土上層	金属製品	鉄鍋の耳	(3.9)	(5.3)	2.5	18.2	貫通孔1箇所、孔径3～4㎜	122

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	法量(cm) 口径	底径	器高	備考	写真図版
3	L-002	第7次	区画道路	表土直下	皿	(16.6)	(12.6)	2.6	内面底部赤漆、他全面黒漆	122

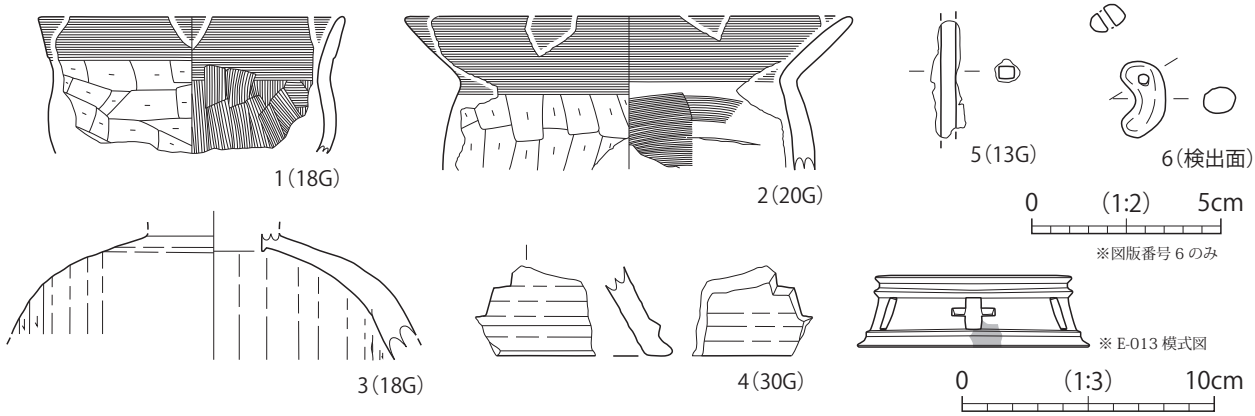
第 211 図　河川跡・低位面トレンチ出土遺物

(9) 遺構外出土遺物

表土除去や遺構検出作業時、撹乱などから出土した帰属遺構不明の遺物についてここで取り上げる。各次調査でグリッド番号が重複する点などを踏まえ、調査次ごとに記載する。これらの遺物はいずれも高位面上からの出土であり、第 7 次調査では出土しなかった。なお、遺物挿図および観察表では、「グリッド」を「G」と略した。

第 5 次調査出土遺物（第 212 図）

土師器鉢 1 点、甕 1 点、須恵器壺 1 点、円面硯 1 点、金属製品 1 点、土製品 1 点を掲載した。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-064	第5次	18G	検出面	土師器	鉢	(12.0)	—	(5.4)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		123
2	C-071	第5次	20G	検出面	土師器	甕	(17.6)	—	(6.1)	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、輪積み痕		123
3	E-011	第5次	18G	検出面	須恵器	壺	—	—	(4.0)	ロクロ調整、ヘラケズリ	ロクロ調整、ヘラケズリ、輪積み痕		123
4	E-013	第5次	30G	検出面	須恵器	円面硯	—	—	(3.6)	ロクロ調整	ロクロ調整	「十」字状の透孔	123

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
5	N-008	第5次	13G	検出面	金属製品	棒状鉄製品	(4.6)	0.6	0.6	7.7		123
6	P-004	第5次		検出面	土製品	勾玉	2.0	0.8	0.7	1.6	ナデ、孔径2㎜	123

第 212 図　遺構外出土遺物（第 5 次調査）

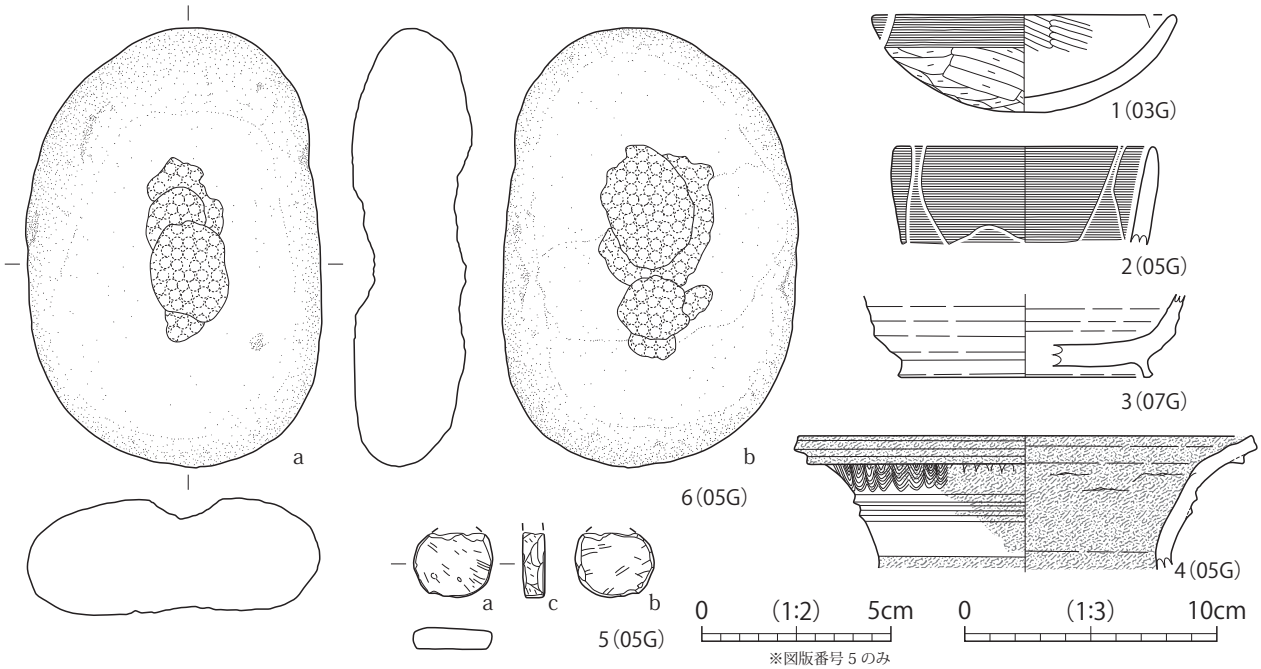
1 の土師器鉢は体部に深みがあり、口縁部が直線的に外傾するなど、甕のような器形を呈する。2 の甕は口縁部が「く」字状に大きく開き、直線的に外傾する。3 の須恵器壺はフラスコ形長頸瓶の胴部である。胴部外面には回転ヘラケズリが施されている。4 の円面硯は圏足円面硯の脚部破片である。透孔は 1 箇所が残存し、「十」字状を呈する透孔の一部であると思われる。5 の金属製品は器種不明の棒状鉄製品である。6 は土製勾玉である。

これらのうち、おおよその出土位置が判明しているものは 13 グリッド出土の 5、18 グリッド出土の 1・3、20 グリッド出土の 2、30 グリッド出土の 4 の 5 点である。13 グリッドには SI266・272 が、20 グリッドには SI264・265 がそれぞれ位置しており、これらとの関連性も考えられる。

第 6 次調査出土遺物（第 213 図）

土師器坏 1 点、鉢 1 点、須恵器高台付坏 1 点、甕 1 点、石製品 1 点、礫石器 1 点を掲載した。1 の土師器坏はやや厚みがあり、口縁部は直線的に外傾する。2 の鉢は口縁部から体部にかけての傾きが少なく、円筒状の器形を呈する。3 の須恵器高台付坏の高台部は断面形状が「ハ」字状を呈し、端部が若干外反する。底部は回転ヘラケズリで切り離し痕を完全に消した後、高台部を貼り付けている。4 の甕は口縁端部に顎を、中位に突帯を巡らせている。5 の石製品は用途不明の円盤状石製品である。6 は凹石である。a･b 面にそれぞれ 2 箇所の凹部が認められる。

掲載した土師器・須恵器は 03・05・07 グリッドの、竪穴住居跡が最も密集する場所から出土している。



※図版番号 5 のみ

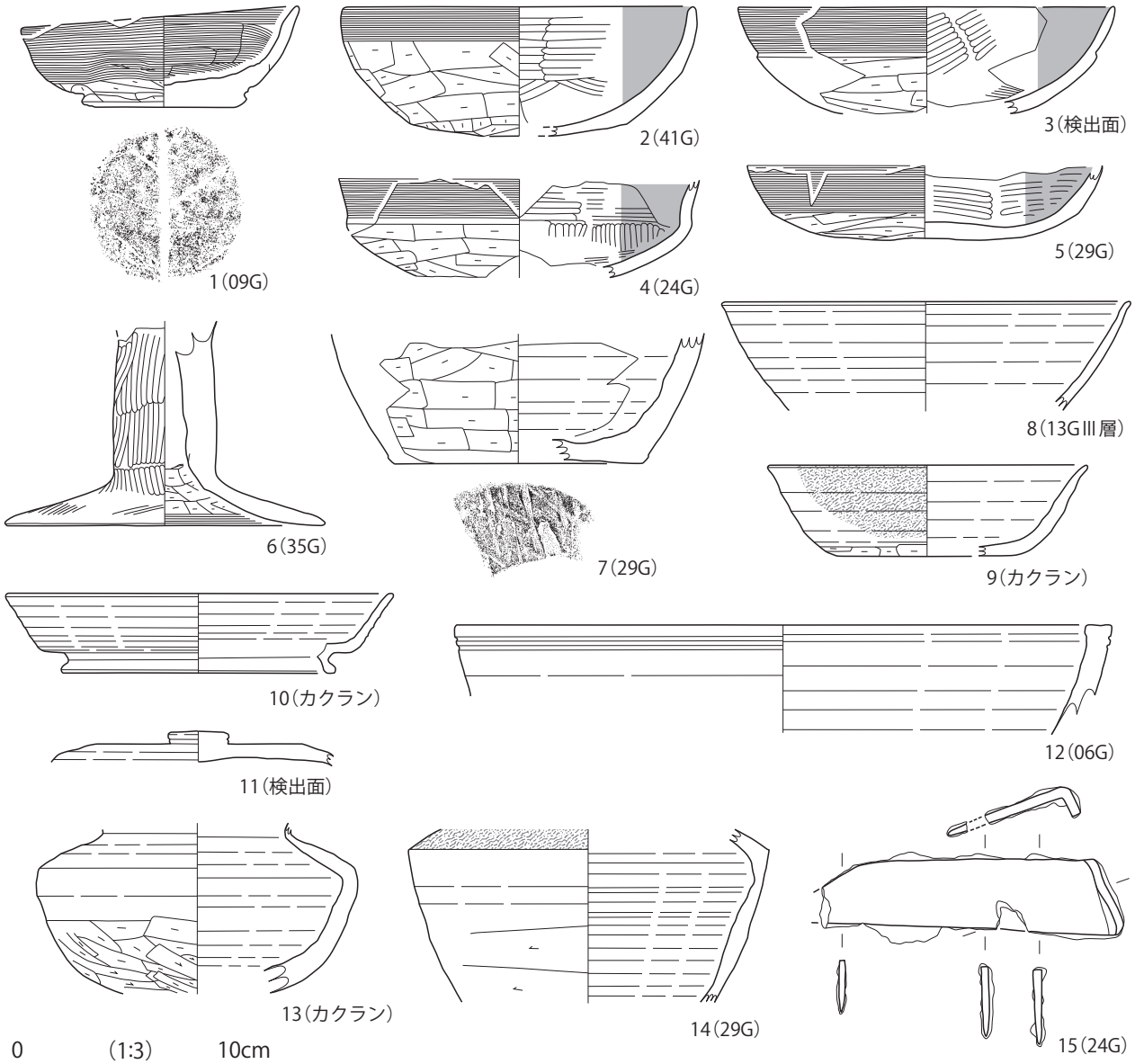
図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-169	第6次	03G	検出面	土師器	坏	(11.8)	—	3.9	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ		123
2	C-165	第6次	05G	検出面	土師器	鉢	(10.2)	—	(3.9)	ヨコナデ	ヨコナデ		123
3	E-039	第6次	07G	検出面	須恵器	高台付坏	—	9.8	(3.2)	ロクロ調整、底面回転ヘラ切り→ナデ→高台貼付	ロクロ調整		123
4	E-037	第6次	05G	検出面	須恵器	甕	(18.0)	—	(5.1)	ロクロ調整、平行突帯、櫛描波状文	ロクロ調整		123

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
5	Kd-001	第6次	05G	検出面	石製品	円盤状石製品	(1.7)	2.1	0.6	2.1	凝灰岩	a･b面線状痕、外周ケズリ整形、上端欠損	123
6	Kc-026	第6次	05G	検出面	礫石器	凹石	17.5	11.7	4.7	908.8	凝灰岩	a･b面凹(各2箇所)	123

第 213 図　遺構外出土遺物（第 6 次調査）

第 9 次調査出土遺物（第 214 ～ 216 図）

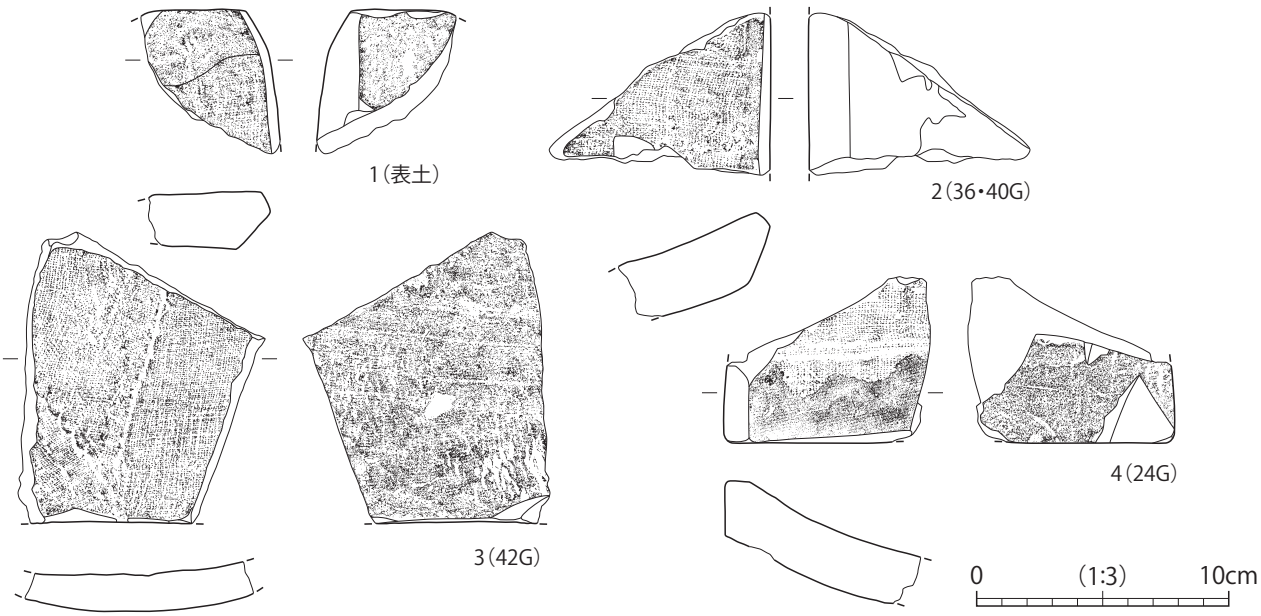
土師器坏 5 点、高坏 1 点、甕 1 点、須恵器坏 2 点、高台付坏 1 点、鉢 1 点、蓋 1 点、壺 2 点、金属製品 1 点、



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-340	第9次	09G	検出面	土師器	坏	12.1	6.1	4.5	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、輪積み痕、底部木葉痕	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ		123
2	C-371	第9次	41G	検出面	土師器	坏	15.4	(3.6)	(5.7)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		123
3	C-338	第9次	—	検出面	土師器	坏	(16.6)	—	(4.8)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		123
4	C-372	第9次	24G	検出面	土師器	坏	—	—	(4.3)	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		123
5	C-358	第9次	29G	検出面	土師器	坏	—	(8.0)	(3.2)	口縁部ヨコナデ、体～底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		123
6	C-366	第9次	35G	検出面	土師器	高坏	—	14.0	(9.0)	ハケメ→ヘラミガキ	脚部ヘラケズリ、輪積み痕、端部ヨコナデ		123
7	D-004	第9次	29G	検出面	ロクロ土師器	甕	—	(11.0)	(5.7)	ロクロ調整→ヘラケズリ	ロクロ調整		123
8	E-107	第9次	13G	Ⅲ層	須恵器	坏	(18.0)	—	(4.8)	ロクロ調整	ロクロ調整		123
9	E-095	第9次	カクラン	—	須恵器	坏	(14.0)	(8.0)	4.0	ロクロ調整、自然釉、体部下端ヘラケズリ、底面回転ヘラ切り→ヘラケズリ	ロクロ調整、自然釉		123
10	E-093	第9次	カクラン	—	須恵器	高台付坏	(17.0)	(12.0)	3.5	ロクロ調整、底面高台貼付	ロクロ調整		123
11	E-100	第9次	検出面	検出面	須恵器	蓋	—	—	(1.5)	ロクロ調整	ロクロ調整		123
12	E-113	第9次	06G	検出面	須恵器	鉢	(29.0)	—	(4.8)	ロクロ調整	ロクロ調整		123
13	E-096	第9次	カクラン	—	須恵器	壺	—	—	(7.5)	ロクロ調整、胴部下半ヘラケズリ	ロクロ調整		123
14	E-108	第9次	29G	検出面	須恵器	壺	—	—	(7.7)	ロクロ調整、肩部自然釉、胴部下半回転ヘラケズリ	ロクロ調整		123

図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	備考	写真図版
15	N-019	第9次	24G	検出面	金属製品	鉄鎌	(13.4)	3.2	0.4	77.1	直刃鎌	123

第 214 図　遺構外出土遺物（第 9 次調査）（1）



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層　位	種　別	器　種	法量（cm）			備　考	写真図版
							全長	幅	厚さ		
1	G-002	第9次	—	表土	瓦	平瓦	（5.8）	（4.9）	2.3	凸面ヘラケズリ、凹面布目痕、ヘラナデ、側面ヘラケズリ	124
2	G-003	第9次	36・40G	検出面	瓦	平瓦	（6.5）	（8.9）	2.5	凸面ユビナデ、凹面布目痕、ヘラナデ、側面ヘラケズリ	124
3	G-004	第9次	42G	検出面	瓦	平瓦	（11.5）	（9.5）	1.5	凸面縄タタキ→ヘラナデ、凹面布目痕、端面ヘラケズリ	124
4	G-005	第9次	24G	検出面	瓦	平瓦	（6.6）	（8.2）	2.3	凸面ユビナデ、凹面布目痕、ヘラナデ、端面・側面ヘラケズリ	124

第 215 図　遺構外出土遺物（第 9 次調査）（2）

平瓦 4 点、石製品 1 点、礫石器 4 点を掲載した。土師器・須恵器、金属製品は第 214 図、平瓦は第 215 図、石製品・礫石器は第 216 図にそれぞれ示した。

第 214 図－ 1 ～ 5 は、土師器坏である。1 は厚手の重量感のある作りで、器形は歪みが目立つ。底部は突出し、その外面には木葉痕が認められる。甕の底部を製作途中で坏に転用したような作りである。2 は体部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がり、口縁部で直立する。3 は体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する器形である。口縁部と体部との境目には強い稜をもつ。4 の口縁部は端部を欠損するが弱く外反し、口縁部と体部との境目には強い稜をもつ。5 は平底に近い扁平な器形であると思われ、これも口縁部と体部との境目に稜が認められる。6 は高坏の脚部である。長脚で、円筒状の細く締まった脚部から、裾部で強くラッパ状に外反する。7 はロクロを使用した甕の底部である。厚みがあり、内面には階段状にロクロ調整の痕跡が残存する。底部外面には手持ちヘラケズリ調整を施している。

須恵器は 8・9 が坏である。8 は体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、口縁端部で短く外反する。9 も同様の特徴をもつが、8 の方が大型で見込までが深い。9 の底部は回転ヘラ切り離し後、手持ちヘラケズリ調整を施している。10 は高台付坏である。「盤」状の扁平な器形で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。高台部の断面は「ハ」字状を呈する。11 は蓋で、ボタン状のツマミをもつ。12 は鉢で、口縁部外面に 2 条の沈線を巡らせている。口縁端部の形状は内面がやや突出し、上面が平坦に仕上げられている。13・14 は壺である。13 は胴部の肩が強く張り出す扁平な器形で、小型の短頸壺と思われる。胴部中位以下の外面には、手持ちヘラケズリを施している。14 の壺は、中型の広口壺と思われる。やはり肩が強く張り出すが、13 に比べシャープな器形である。胴部中位以下の外面には、回転ヘラケズリを施している。また、肩部には自然釉の付着が認められる。

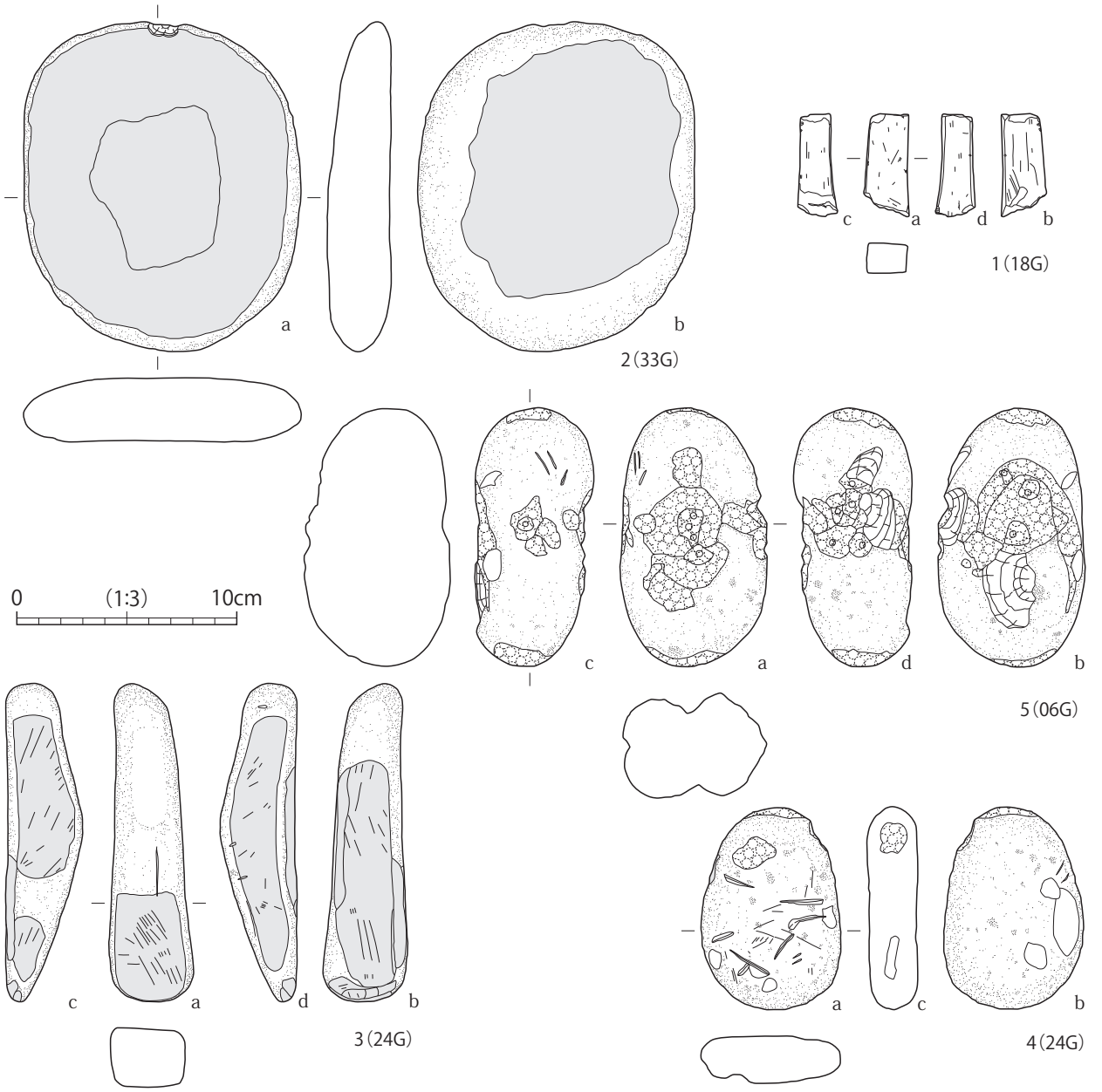
15 の金属製品は、鉄製の鎌である。直刃鎌であり、木柄の装着部分は折り曲げによって仕上げられている。

第 215 図－ 1 ～ 4 の平瓦は、いずれも破片資料である。焼成は悪く、酸化焔に近い。それぞれの凹面には布目痕が認められる。凸面の調整は 1 がヘラケズリ、2・4 がユビナデ 3 が縄目タタキ後、ヘラナデを施している。瓦

当面は３・４に残存しており、ともに刀子様の鋭利な刃物で面取りされている。また、側面が残存する１・２・４についても同様の工具で側面の面取りが施されている。面取りは２回行われており、このため断面形状は「へ」字状を呈する。

第 216 図－１の石製品は砥石である。上下面を欠損しているが、ほかは砥面としての使用が認められる。礫石器は２が磨＋台石、３～５が磨石もしくは敲石・凹石である。３・４の使用面には線状痕や溝状痕が認められる。

掲載した遺物について、判明している出土グリッドは、06･09･13･24･29･40 ～ 42 グリッドである。42 グリッドを除けば竪穴住居跡群と範囲的に重複する。本来はこれらに帰属する遺物であったと考えられる。



図版番号	登録番号	調査年次	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 全長	幅	厚さ	重量(g)	石材	備考	写真図版
1	Kd-008	第9次	18G	検出面	石製品	砥石	(4.7)	2.1	1.8	22.4	凝灰岩	砥面4面(a～d面)、上下両端欠損	124
2	Kc-084	第9次	33G	検出面	礫石器	磨+台石	15.0	12.6	2.9	931.1	安山岩	a･b面磨(a面弱･強、b面弱)	124
3	Kc-083	第9次	24G	検出面	礫石器	磨石	14.5	3.8	3.4	269.9	安山岩	a～d面磨(強)+線状･溝状痕	124
4	Kc-082	第9次	24G	検出面	礫石器	磨+敲石	9.2	6.3	2.3	101.9	凝灰岩	a面敲(弱)+線状･溝状痕、b面ケズリ+溝状痕、上端敲(弱)	124
5	Kc-081	第9次	06G	検出面	礫石器	敲+凹石	11.8	6.6	5.4	296.4	凝灰岩	a～d面敲(中･弱)→凹(a･b面2、c面1、d面3箇所)、上下両端敲(弱)	124

第 216 図　遺構外出土遺物（第９次調査）(3)

仙台市文化財調査報告書第421集
長町駅東遺跡第5・6・7・9次調査
－仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅸ－
［第1分冊］
2014年3月
発　行　　仙台市教育委員会
〒980-0811　宮城県仙台市青葉区一番町
4丁目1番25号　東二番丁仮庁舎
TEL022-214-8899（文化財課）
印　刷　　株式会社　仙台紙工印刷
〒983-0036　宮城県仙台市宮城野区苦竹３丁目1-14
TEL022-231-2245